茨城県教育財団文化財調査報告II

竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書2

——外八代遺跡——

昭和55年3月

財団法人　茨城県教育財団

序

財団法人茨城県教育財団では，昭和52年度より埋蔵文化財発掘調査事業を実施しており，本年度で3年を経過しようとしています。本書は昭和52年度より昭和53年度にわたって実施した竜ケ崎ニュータウン内の外八代遺跡の発掘調査結果を集録したものであります。

郷土の原始・古代の文化を究明するにあたり資するものがあろうかと考えます。その意味からも，本書がより多くの方々に御活用いただけるよう希望いたします。

なお，この事業推進にあたり，茨城県教育委員会・竜ケ崎市教育委員会・宅地開発公団をはじめ関係機関の御協力と御指導にたいし，厚くお礼申し上げます。

昭和55年3月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　竹　内　藤　男

例　言

1　本書は宅地開発公団と財団法人茨城県教育財団との業務委託契約に基づいて，昭和52年度から昭和53年度にわたり実施した竜ケ崎市八代町に所在する外八代遺跡の発掘調査報告書である。

2　昭和52年度の発掘調査は，財団法人茨城県教育財団竜ケ崎事務所調査員山本貴之・川井正一が担当し，昭和53年度の発掘調査は，財団法人茨城県教育財団主任調査員青木義夫・調査員桜井二郎・嘱託調査員橋本勉が担当し，茨城県教育委員会・宅地開発公団竜ケ崎事務所・竜ケ崎市教育委員会の諸機関をはじめ地元協力員の協力を得た。

3　本書での遺構は次のとおり，記号をもって表示することにした。
ＳＩ――住居址・ＳＢ――掘立柱建築址・ＳＡ――柵列・ＳＤ――溝状遺構・ＳＨ――堀状遺構・ＳＫ――土壙・ＳＸ――その他の遺構

4　土層解説および土器の色調については『標準土色帳』（農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。

5　出土遺物の整理は，桜井二郎・渡辺和子が担当した。

6　本書の執筆に関しては，遺構と遺物の石製品・鉄製品を桜井二郎が担当し，遺物の土器については渡辺和子が担当し編集した。別編として青山学院大学講師伊禮正雄氏の寄稿を賜わった。

7　別編　中世城郭としての外八代遺跡については，筆者の意向により歴史仮名遣いを用いた。

8　遺構の測量は，中央航業株式会社による航空測量を実施した。

9　前述の御指導・御協力を賜わった各位・諸機関に対し，文末ではあるが感謝の意を表したい。

外八代遺跡調査報告

目　次

序

例　言

目　次

挿図目次

図版目次

第１章　調査に至る経過 …… 1

第２章　遺跡の立地と環境 …… 2

1　地理的環境 …… 2

2　歴史的環境 …… 2

第３章　調査の経過 …… 5

第４章　遺構・遺物 …… 11

1　住居址（SI） …… 11

2　土壙（SK） …… 194

3　溝（SD） …… 263

4　堀（SH） …… 271

5　掘立柱建築址群（SB） …… 289

6　柵列群（SA） …… 313

7　その他（SX） …… 315

8　金属製品・煙管・古銭 …… 321

9　石製品 …… 327

10　その他の遺物 …… 333

(1) 縄文式土器 …… 333
(2) 弥生式土器 …… 333
(3) 古墳時代 …… 339

第5章 まとめ …… 344

(1) 中世城郭遺構について …… 344
(2) 土壙について …… 349
(3) 住居址・土器について …… 350

別 編

中世城郭としての外八代遺跡　伊禮 正雄 …… 356

挿　図　目　次

第 1 図　遺跡位置図 …… 4
第 2 図　外八代遺跡全体図 …… 6
第 3 図　外八代遺跡調査区全体図 …… 8
第 4 図　外八代遺跡遺構配置図 …… 10
第 5 図　ＳＩ001 実測図 …… 11
第 6 図　ＳＩ001 出土遺物 …… 12
第 7 図　ＳＩ002 実測図 …… 13
第 8 図　ＳＩ002 出土遺物 …… 14
第 9 図　ＳＩ003 実測図 …… 15
第 10 図　ＳＩ003 出土遺物 …… 16
第 11 図　ＳＩ004 実測図 …… 17
第 12 図　ＳＩ004 出土遺物 …… 18
第 13 図　ＳＩ005 実測図 …… 19
第 14 図　ＳＩ005 出土遺物 …… 20
第 15 図　ＳＩ006 実測図 …… 21
第 16 図　ＳＩ006 出土遺物 …… 21
第 17 図　ＳＩ007・010 実測図 …… 23
第 18 図　ＳＩ010 カマド実測図 …… 24
第 19 図　ＳＩ007 出土遺物 …… 25
第 20 図　ＳＩ010 出土遺物 …… 27
第 21 図　ＳＩ008 カマド実測図 …… 28
第 22 図　ＳＩ008・022 実測図 …… 29
第 23 図　ＳＩ008 出土遺物 …… 30
第 24 図　ＳＩ022 出土遺物 …… 30
第 25 図　ＳＩ009 カマド実測図 …… 31
第 26 図　ＳＩ009 実測図 …… 32
第 27 図　ＳＩ009 出土遺物 …… 32
第 28 図　ＳＩ011 カマド実測図 …… 33
第 29 図　ＳＩ011・012 実測図 …… 34
第 30 図　ＳＩ011 出土遺物 …… 35
第 31 図　ＳＩ014・015 実測図 …… 37
第 32 図　ＳＩ015 出土遺物 …… 38
第 33 図　ＳＩ016 カマド実測図 …… 39
第 34 図　ＳＩ016 実測図 …… 39
第 35 図　ＳＩ016 出土遺物 …… 39
第 36 図　ＳＩ017 実測図 …… 41
第 37 図　ＳＩ018 実測図 …… 40
第 38 図　ＳＩ019 実測図 …… 43
第 39 図　ＳＩ019 カマド実測図 …… 44
第 40 図　ＳＩ020 カマド実測図 …… 44
第 41 図　ＳＩ020 実測図 …… 45
第 42 図　ＳＩ020 出土遺物 …… 46
第 43 図　ＳＩ021 カマド実測図 …… 47
第 44 図　ＳＩ021 実測図 …… 48
第 45 図　ＳＩ021 出土遺物 …… 49
第 46 図　ＳＩ023 実測図 …… 50
第 47 図　ＳＩ024・026 実測図 …… 53
第 48 図　ＳＩ024 カマド実測図 …… 54
第 49 図　ＳＩ026 カマド実測図 …… 54
第 50 図　ＳＩ026 出土遺物 …… 55
第 51 図　ＳＩ025 カマド実測図 …… 56
第 52 図　ＳＩ025 実測図 …… 57
第 53 図　ＳＩ027 カマド実測図 …… 58
第 54 図　ＳＩ027 実測図 …… 59
第 55 図　ＳＩ028 実測図 …… 61
第 56 図　ＳＩ029 出土遺物 …… 62
第 57 図　ＳＩ029 カマド実測図 …… 62
第 58 図　ＳＩ029 ～ 034 実測図 …… 63
第 59 図　ＳＩ031 カマド実測図 …… 65
第 60 図　ＳＩ033 カマド実測図 …… 65
第 61 図　ＳＩ030 出土遺物 …… 66
第 62 図　ＳＩ033 出土遺物 …… 68
第 63 図　ＳＩ034 出土遺物 …… 68
第 64 図　ＳＩ037 出土遺物 …… 70
第 65 図　ＳＩ037 カマド実測図 …… 70
第 66 図　ＳＩ037・039 実測図 …… 71
第 67 図　ＳＩ039 カマド実測図 …… 73
第 68 図　ＳＩ039 出土遺物 …… 74
第 69 図　ＳＩ039 出土遺物 …… 75
第 70 図　ＳＩ038 実測図 …… 77
第 71 図　ＳＩ038 カマド(Ａ)実測図 …… 79
第 72 図　ＳＩ038 カマド(Ｂ)実測図 …… 80
第 73 図　ＳＩ038 出土遺物 …… 81
第 74 図　ＳＩ040 実測図 …… 82
第 75 図　ＳＩ041 実測図 …… 84
第 76 図　ＳＩ041 カマド実測図 …… 85
第 77 図　ＳＩ041 出土遺物 …… 85
第 78 図　ＳＩ042 実測図 …… 86

第 79 図　ＳＩ 045 出土遺物 …… 87
第 80 図　ＳＩ 044・045 実測図 …… 88
第 81 図　ＳＩ 046 カマド実測図 …… 89
第 82 図　ＳＩ 046 実測図 …… 90
第 83 図　ＳＩ 047 カマド実測図 …… 91
第 84 図　ＳＩ 047 実測図 …… 92
第 85 図　ＳＩ 047 出土遺物 …… 93
第 86 図　ＳＩ 048 実測図 …… 94
第 87 図　ＳＩ 048 カマド実測図 …… 95
第 88 図　ＳＩ 048 出土遺物 …… 95
第 89 図　ＳＩ 049 カマド実測図 …… 96
第 90 図　ＳＩ 049 実測図 …… 97
第 91 図　ＳＩ 049 出土遺物 …… 98
第 92 図　ＳＩ 050・080 実測図 …… 99
第 93 図　ＳＩ 050・080 カマド(Ａ)実測図 …… 100
第 94 図　ＳＩ 050 出土遺物 …… 100
第 95 図　ＳＩ 050・080 カマド(Ｂ)実測図 …… 101
第 96 図　ＳＩ 080 出土遺物 …… 102
第 97 図　ＳＩ 051 実測図 …… 103
第 98 図　ＳＩ 051 カマド実測図 …… 104
第 99 図　ＳＩ 052 実測図 …… 105
第 100 図　ＳＩ 052 カマド実測図 …… 106
第 101 図　ＳＩ 052 出土遺物 …… 107
第 102 図　ＳＩ 054 実測図 …… 109
第 103 図　ＳＩ 054 出土遺物 …… 111
第 104 図　ＳＩ 054 出土遺物 …… 112
第 105 図　ＳＩ 055 カマド実測図 …… 113
第 106 図　ＳＩ 055 実測図 …… 114
第 107 図　ＳＩ 055 出土遺物 …… 115
第 108 図　ＳＩ 056 実測図 …… 116
第 109 図　ＳＩ 056 出土遺物 …… 117
第 110 図　ＳＩ 058 実測図 …… 119
第 111 図　ＳＩ 058 出土遺物 …… 120
第 112 図　ＳＩ 059 実測図 …… 121
第 113 図　ＳＩ 059 カマド実測図 …… 122
第 114 図　ＳＩ 059 出土遺物 …… 122
第 115 図　ＳＩ 060 カマド実測図 …… 123
第 116 図　ＳＩ 060(Ａ)実測図 …… 124
第 117 図　ＳＩ 060(Ｂ)実測図 …… 125
第 118 図　ＳＩ 060 出土遺物 …… 126
第 119 図　ＳＩ 060 出土遺物 …… 127
第 120 図　ＳＩ 061 カマド実測図 …… 129
第 121 図　ＳＩ 061 実測図 …… 130
第 122 図　ＳＩ 061 出土遺物 …… 131
第 123 図　ＳＩ 062 カマド実測図 …… 132
第 124 図　ＳＩ 062 実測図 …… 133
第 125 図　ＳＩ 062 出土遺物 …… 134
第 126 図　ＳＩ 063 実測図 …… 136
第 127 図　ＳＩ 063 カマド実測図 …… 137
第 128 図　ＳＩ 063 出土遺物 …… 137
第 129 図　ＳＩ 064 実測図 …… 139
第 130 図　ＳＩ 064 カマド実測図 …… 140
第 131 図　ＳＩ 064 出土遺物 …… 141
第 132 図　ＳＩ 065 実測図 …… 142
第 133 図　ＳＩ 065 カマド実測図 …… 143
第 134 図　ＳＩ 065 出土遺物 …… 143
第 135 図　ＳＩ 066 実測図 …… 144
第 136 図　ＳＩ 066 カマド実測図 …… 145
第 137 図　ＳＩ 066 出土遺物 …… 145
第 138 図　ＳＩ 067 カマド実測図 …… 146
第 139 図　ＳＩ 067 実測図 …… 147
第 140 図　ＳＩ 067 出土遺物 …… 148
第 141 図　ＳＩ 067 出土遺物 …… 149
第 142 図　ＳＩ 067 出土遺物 …… 150
第 143 図　ＳＩ 067 出土遺物 …… 151
第 144 図　ＳＩ 068 カマド実測図 …… 152
第 145 図　ＳＩ 068 実測図 …… 153
第 146 図　ＳＩ 068 出土遺物 …… 154
第 147 図　ＳＩ 069 実測図 …… 156
第 148 図　ＳＩ 069 カマド実測図 …… 157
第 149 図　ＳＩ 070 実測図 …… 158
第 150 図　ＳＩ 070 カマド実測図 …… 159
第 151 図　ＳＩ 070 出土遺物 …… 159
第 152 図　ＳＩ 071 カマド実測図 …… 160
第 153 図　ＳＩ 071 実測図 …… 162
第 154 図　ＳＩ 071 出土遺物 …… 163
第 155 図　ＳＩ 072 実測図 …… 164
第 156 図　ＳＩ 072 カマド実測図 …… 165
第 157 図　ＳＩ 072 出土遺物 …… 166
第 158 図　ＳＩ 073 実測図 …… 167
第 159 図　ＳＩ 073 カマド実測図 …… 168
第 160 図　ＳＩ 073 出土遺物 …… 169
第 161 図　ＳＩ 074・075 実測図 …… 170
第 162 図　ＳＩ 074 カマド実測図 …… 171
第 163 図　ＳＩ 075 カマド実測図 …… 171
第 164 図　ＳＩ 074・075 出土遺物 …… 172
第 165 図　ＳＩ 074・075 出土遺物 …… 173
第 166 図　ＳＩ 076 実測図 …… 175

第167図　ＳＩ076出土遺物……176
第168図　ＳＩ077実測図……178
第169図　ＳＩ077出土遺物……179
第170図　ＳＩ078実測図……180
第171図　ＳＩ078出土遺物……181
第172図　ＳＩ079実測図……182
第173図　ＳＩ081カマド実測図……183
第174図　ＳＩ081実測図……184
第175図　ＳＩ081出土遺物……185
第176図　ＳＩ082出土遺物……186
第177図　ＳＩ082実測図……187
第178図　ＳＩ082カマド実測図……188
第179図　ＳＩ083実測図……189
第180図　ＳＩ083出土遺物……190
第181図　ＳＩ085実測図……191
第182図　ＳＩ085カマド実測図……192
第183図　ＳＩ085出土遺物……192
第184図　ＳＫ001実測図……194
第185図　ＳＫ053出土遺物……207
第186図　ＳＫ154出土遺物……208
第187図　ＳＫ実測図(１)……217
第188図　ＳＫ実測図(２)……218
第189図　ＳＫ実測図(３)……219
第190図　ＳＫ実測図(４)……220
第191図　ＳＫ実測図(５)……221
第192図　ＳＫ実測図(６)……222
第193図　ＳＫ実測図(７)……223
第194図　ＳＫ実測図(８)……224
第195図　ＳＫ実測図(９)……225
第196図　ＳＫ実測図(10)……226
第197図　ＳＫ実測図(11)……227
第198図　ＳＫ実測図(12)……228
第199図　ＳＫ実測図(13)……229
第200図　ＳＫ実測図(14)……230
第201図　ＳＫ実測図(15)……231
第202図　ＳＫ実測図(16)……232
第203図　ＳＫ実測図(17)……233
第204図　ＳＫ実測図(18)……234
第205図　ＳＫ実測図(19)……235
第206図　ＳＫ実測図(20)……236
第207図　ＳＫ実測図(21)……237
第208図　ＳＫ実測図(22)……238
第209図　ＳＫ実測図(23)……239
第210図　ＳＫ実測図(24)……240
第211図　ＳＫ実測図(25)……241
第212図　ＳＫ実測図(26)……242
第213図　ＳＫ実測図(27)……243
第214図　ＳＫ実測図(28)……244
第215図　ＳＫ実測図(29)……245
第216図　ＳＫ実測図(30)……246
第217図　ＳＫ実測図(31)……247
第218図　ＳＫ実測図(32)……253
第219図　ＳＫ実測図(33)……254
第220図　ＳＫ実測図(34)……248
第221図　ＳＫ実測図(35)……249
第222図　ＳＫ実測図(36)……250
第223図　ＳＫ実測図(37)……251
第224図　ＳＤ001・002実測図……264
第225図　ＳＤ002出土遺物……265
第226図　ＳＤ004実測図……267
第227図　ＳＤ007実測図……268
第228図　ＳＤ005実測図……269
第229図　ＳＤ009実測図……270
第230図　ＳＨ01出土遺物……272
第231図　ＳＨ01出土遺物……272
第232図　ＳＨ01実測図……273
第233図　ＳＨ01土層断面図(１)……275
第234図　ＳＨ01土層断面図(２)……277
第235図　ＳＨ01断面図(３)……278
第236図　ＳＨ01断面図(４)……279
第237図　ＳＨ02出土遺物……280
第238図　ＳＨ02土層断面図(１)……281
第239図　ＳＨ02断面図(２)……283
第240図　ＳＨ02断面図(３)……284
第241図　ＳＨ03土層断面図(１)……285
第242図　ＳＨ03土層断面図(２)……286
第243図　ＳＨ03土層断面図(３)……286
第244図　ＳＨ03実測図……287
第245図　ＳＨ03断面図(４)……288
第246図　ＳＢ001実測図……290
第247図　ＳＢ002実測図……292
第248図　ＳＢ003実測図……293
第249図　ＳＢ004・005実測図……295
第250図　ＳＢ006実測図……297
第251図　ＳＢ006出土遺物……297
第252図　ＳＢ007実測図……299
第253図　ＳＢ008実測図……300
第254図　ＳＢ009実測図……302

第255図　SB010実測図 …… 303
第256図　SB011実測図 …… 304
第257図　SB012実測図 …… 306
第258図　SB013実測図 …… 307
第259図　SB014実測図 …… 309
第260図　SB015実測図 …… 310
第261図　SB配置図 …… 312
第262図　東端斜面柵列群 …… 314
第263図　SX001実測図 …… 316
第264図　SX001出土遺物 …… 317
第265図　SX001出土遺物 …… 318
第266図　SX001出土遺物 …… 319
第267図　金属製品(1) …… 322
第268図　金属製品(2) …… 323
第269図　煙　管 …… 325
第270図　古銭拓影図 …… 326
第271図　石製品(1) …… 328
第272図　石製品(2) …… 329
第273図　石製品(3) …… 330
第274図　石製品(4) …… 331
第275図　縄文式土器 …… 334
第276図　弥生式土器(1) …… 336
第277図　弥生式土器(2) …… 337
第278図　弥生式土器(3) …… 338
第279図　弥生式土器(4) …… 339
第280図　土師器(五領期) …… 340
第281図　土師器(和泉期) …… 342
第282図　土師器・須恵器(鬼高期) …… 343
第283図　土師器・須恵器・灰釉陶器
　(国分期) …… 343
第284図　西側傾斜面・土塁状遺構 …… 346
第285図　西傾斜面土層断面図 …… 347

(表　目　次)

第1表　土壙(SK)一覧表 …… 255
第2表　掘立柱建築址遺構一覧表 …… 311
第3表　古銭一覧表 …… 326
第4表　石製品(砥石)一覧表 …… 332
第5表　土器類観察表 …… 367

(付　　図)

付図1　外八代遺跡航空写真測量図
付図2　外八代遺跡(城館跡)航空写真測量図
付図3　外八代遺跡遺構断面図
付図4　SH02実測図

図 版 目 次

PL 1 外八代遺跡 393
PL 2 外八代遺跡 393
PL 3 西部地区（第1突端部） 394
PL 4 西部地区（第2突端部） 394
PL 5 東部地区（第1次調査） 395
PL 6 東部地区南側（第1次調査） 395
PL 7 D8区 396
PL 8 D7区発掘風景 396
PL 9 東部地区小調査区（南側より） 397
PL 10 東部地区西側 397
PL 11 外八代遺跡（東部地区） 398
PL 12 SI001 398
PL 13 SI002 遺物出土状態 399
PL 14 SI002 399
PL 15 SI003 400
PL 16 SI004 400
PL 17 SI005 401
PL 18 SI006 401
PL 19 SI007・010 土層断面 402
PL 20 SI007・010 402
PL 21 SI008・022 403
PL 22 SI009 403
PL 23 SI010 404
PL 24 SI010 カマド遺物出土状態 404
PL 25 SI011 405
PL 26 SI014・015 405
PL 27 SI016 406
PL 28 SI017 406
PL 29 SI018 407
PL 30 SI019 407
PL 31 SI020 408
PL 32 SI021 408
PL 33 SI023 409
PL 34 SI025 410
PL 35 SI026・024 遺物出土状態 410
PL 36 SI027 411
PL 37 SI028 411
PL 38 SI029～031 412
PL 39 SI029～034 412
PL 40 SI033 413
PL 41 SI033 遺物出土状態 413
PL 42 SI037 遺物出土状態 414
PL 43 SI037 カマド 414
PL 44 SI038 遺物出土状態 415
PL 45 SI038 415
PL 46 SI038 カマド遺物出土状態 416
PL 47 SI038 カマド掘り方 416
PL 48 SI039 遺物出土状態 417
PL 49 SI039 417
PL 50 SI040 418
PL 51 SI041 418
PL 52 SI042 419
PL 53 SI044 419
PL 54 SI045（北側より） 420
PL 55 SI045（南側より） 420
PL 56 SI046 421
PL 57 SI047 遺物出土状態 421
PL 58 SI048 422
PL 59 SI048 カマド遺物出土状態 422
PL 60 SI049 遺物出土状態 423
PL 61 SI050・080 423
PL 62 SI051 424
PL 63 SI052 遺物出土状態 424
PL 64 SI052 遺物出土状態 425
PL 65 SI052 425
PL 66 SI054 426
PL 67 SI054 遺物出土状態 426
PL 68 SI055 遺物出土状態 427
PL 69 SI056 遺物出土状態 427
PL 70 SI056 遺物出土状態 428
PL 71 SI059 遺物出土状態 428
PL 72 SI060 遺物出土状態 429
PL 73 SI060 429
PL 74 SI061 430
PL 75 SI061 カマド 430
PL 76 SI062 431
PL 77 SI062 カマド 431
PL 78 SI063 432

PL 79 SI 063 遺物出土状態 …… 432
PL 80 SI 064 遺物出土状態 …… 433
PL 81 SI 064 遺物出土状態 …… 433
PL 82 SI 065 …… 434
PL 83 SI 066 …… 434
PL 84 SI 067 遺物出土状態 …… 435
PL 85 SI 067・069 …… 435
PL 86 SI 068 遺物出土状態 …… 436
PL 87 SI 068 …… 436
PL 88 SI 069 遺物出土状態 …… 437
PL 89 SI 070 …… 437
PL 90 SI 071 …… 438
PL 91 SI 071 カマド …… 438
PL 92 SI 072 …… 439
PL 93 SI 072 遺物出土状態 …… 439
PL 94 SI 073・072 …… 440
PL 95 SI 073 遺物出土状態 …… 440
PL 96 SI 074・075 遺物出土状態 …… 441
PL 97 SI 074・075 …… 441
PL 98 SI 076 …… 442
PL 99 SI 077 遺物出土状態 …… 442
PL 100 SI 081 …… 443
PL 101 SI 081 カマド断面 …… 443
PL 102 SI 082 土層断面 …… 444
PL 103 SI 082 …… 444
PL 104 SI 083 …… 445
PL 105 SI 083・SD 001・002 …… 445
PL 106 SI 084 …… 446
PL 107 SI 085 …… 446
PL 108 SK 001 遺物出土状態 …… 447
PL 109 SK 001 …… 447
PL 110 SK 004 …… 448
PL 111 SK 005 …… 448
PL 112 SK 006 …… 449
PL 113 SK 007 土層断面 …… 449
PL 114 SK 010 …… 450
PL 115 SK 011 …… 450
PL 116 SK 012 遺物出土状態 …… 451
PL 117 SK 012 ～ 014 …… 451
PL 118 SK 017 …… 452
PL 119 SK 020 ～ 023 …… 452
PL 120 SK 025 …… 453
PL 121 北端に位置する土壙群 …… 453
PL 122 SK 047 …… 454
PL 123 SK 043・045 …… 454
PL 124 SK 050 土層断面 …… 455
PL 125 SK 050 …… 455
PL 126 SK 051 …… 456
PL 127 SK 052 …… 456
PL 128 SK 053 …… 457
PL 129 SK 053 遺物出土状態 …… 457
PL 130 SK 054 …… 458
PL 131 SK 055 …… 458
PL 132 SK 056 …… 459
PL 133 SK 057 …… 459
PL 134 SK 060 …… 460
PL 135 SK 061 …… 460
PL 136 SK 063 …… 461
PL 137 SK 077 …… 461
PL 138 SK 078 …… 462
PL 139 SK 121 …… 462
PL 140 SK 117 …… 463
PL 141 SK 122 …… 463
PL 142 SK 175 ～ 181 …… 464
PL 143 SK 175 ～ 181 …… 464
PL 144 SK 182 …… 465
PL 145 SK 183 …… 465
PL 146 SK 244 …… 466
PL 147 SK 254 獣骨出土状態 …… 466
PL 148 SK 245・246 …… 467
PL 149 SK 249 …… 467
PL 150 SK 251・253 …… 468
PL 151 SK 255・258 …… 469
PL 152 SK 259・247 …… 470
PL 153 SK 260 …… 470
PL 154 SK 259 獣骨出土状態 …… 471
PL 155 SK 259 獣骨出土状態 …… 471
PL 156 地下式土壙群 …… 472
PL 157 SD 001・004（西側より） …… 473
PL 158 SD 001・002（東南より） 002 遺物 473
PL 159 SD 001・002 …… 474
PL 160 SD 004 …… 474
PL 161 SD 007 …… 474
PL 162 SD 009 …… 474
PL 163 SD 008 遺物出土状態 …… 475
PL 164 SD 008 …… 475
PL 165 SH 01 発掘風景 …… 476
PL 166 SH 01 土層断面 …… 476

PL 167　主郭（桝形部南側より）……477
PL 168　SH 01（西南コーナー中段）……477
PL 169　桝形部（東南コーナー側溝）……478
PL 170　SH 01 出桝形部……478
PL 171　SH 01 堀底辺部……479
PL 172　SH 01 遺物出土状態……479
PL 173　SH 01 東側橋脚部……480
PL 174　SH 01 西側土塁状遺構……480
PL 175　SH 02（北側より）……481
PL 176　SH 02（北側より）……482
PL 177　SH 02 遺物出土状態……482
PL 178　SH 02 土層断面……483
PL 179　SH 02 南方部……483
PL 180　SH 03 土層断面……484
PL 181　SH 03（3区）土層断面……484
PL 182　SH 03……485
PL 183　SH 03……485
PL 184　SH 03……486
PL 185　SH 03……486
PL 186　東側掘立柱建築址群……487
PL 187　SB 001……487
PL 188　SB 002・003……487
PL 189　SB 004・005……487
PL 190　SB 006……488
PL 191　SB 006・007……488
PL 192　SB 008……489
PL 193　SB 009……489
PL 194　SB 011……490
PL 195　SB 010……490
PL 196　SB 012……491
PL 197　SB 013……491
PL 198　SB 014……492
PL 199　SB 015……492
PL 200　掘立柱建築址群……493
PL 201　D 7区平場……493
PL 202　G 7区（東側より）……494
PL 203　SX 001 遺物出土状態……494
PL 204　東端斜面柵列……495
PL 205　主郭部西側……496
PL 206　主郭部西側……496
PL 207　土塁状遺構……497
PL 208　主郭部西側（西南より）……497
PL 209　外八代遺跡……498
PL 210　外八代遺跡（昭和52年度）①……499
PL 211　外八代遺跡（昭和52年度）②……499
PL 212　外八代遺跡（昭和53年度）③……500
PL 213　外八代遺跡（昭和53年度）④……500
PL 214　屋代A遺跡……501
PL 215　屋代遺跡……501
PL 216　長峰城……502
PL 217　牛久城……502
PL 218　登城山城……503
PL 219　要害山城……503
PL 220　SI 001 出土遺物（縮尺不同）……504
PL 221　SI 003 出土遺物……504
PL 222　SI 004 出土遺物（縮尺不同）……504
PL 223　SI 010 出土遺物（縮尺不同）……505
PL 224　SI 020 出土遺物（縮尺不同）……505
PL 225　SI 005 出土遺物……506
PL 226　SI 015 出土遺物……506
PL 227　SI 007 出土遺物……507
PL 228　SI 026 出土遺物（縮尺不同）……508
PL 229　SI 037 出土遺物……508
PL 230　SI 038 出土遺物……509
PL 231　SI 039 出土遺物（縮尺不同）……509
PL 232　SI 045 出土遺物（縮尺不同）……509
PL 233　SI 052 出土遺物（縮尺不同）……510
PL 234　SI 054 出土遺物（縮尺不同）……510
PL 235　SI 055 出土遺物……511
PL 236　SI 056 出土遺物（縮尺不同）……511
PL 237　SI 062 出土遺物（縮尺不同）……511
PL 238　SI 060 出土遺物（縮尺不同）……512
PL 239　SI 064 出土遺物（縮尺不同）……513
PL 240　SI 067 出土遺物（縮尺不同）……514
PL 241　SI 068 出土遺物（縮尺不同）……515
PL 242　SI 070 出土遺物（縮尺不同）……516
PL 243　SI 072 出土遺物（縮尺不同）……516
PL 244　SI 073 出土遺物（縮尺不同）……516
PL 245　SI 074 出土遺物（縮尺不同）……517
PL 246　SI 078 出土遺物……517
PL 247　SI 077 出土遺物（縮尺不同）……518
PL 248　SI 082 出土遺物（縮尺不同）……518
PL 249　SI 083 出土遺物（縮尺不同）……519
PL 250　SI 085 出土遺物（縮尺不同）……519
PL 251　F 8c 1　出土内耳土鍋……520
PL 252　SH 03 出土遺物……520
PL 253　SH 01 出土遺物……520
PL 254　SH 02 出土遺物……520

PL255　SD002 出土遺物 …… 521
PL256　SX001 出土遺物 …… 521
PL257　SH01 出土遺物 …… 521
PL258　SD008 出土遺物 …… 521
PL259　SX001 出土遺物（縮尺不同） …… 522
PL260　SX001 出土遺物（A－表・B－裏） …… 523
PL261　SX001 出土遺物 …… 524
PL262　SX001 出土遺物 …… 525
PL263　G7c9 出土遺物 …… 525
PL264　E8a6 出土遺物 …… 525
PL265　鉄製品（1） …… 526
PL266　鉄製品・煙管（2） …… 527
PL267　外八代遺跡出土古銭（A－表・B－裏） 528
PL268　石製品（砥石）（1） …… 529
PL269　石製品（砥石）（2） …… 530

第１章　調査に至る経過

竜ケ崎ニュータウン建設の計画は，昭和46年１月に「竜ケ崎牛久都市計画事業」として市街地開発事業に関する都市計画が決定された。

茨城県教育委員会はすでに昭和45年に首都圏整備計画地域に含まれた当地区の埋蔵文化財の分布調査を実施し，これらの調査によって遺跡の所在を確認し，文化財保護上必要な資料（註１）をえ，これらに基づき当時日本住宅公団と長峰城跡・別所貝塚・屋代城等文化財の保存について必要な措置を講ずる協議を重ねた。

昭和51年４月１日竜ケ崎ニュータウン開発事業については，日本住宅公団から引継ぎが行なわれ，宅地開発公団が当該事業を実施することとなり，埋蔵文化財包蔵地の現況については，月日も経過し従来の状況の変化が著しいため，茨城県教育委員会は再度の分布調査を実施した。

これに基づき，北竜台地区８遺跡・龍ケ岡地区14遺跡について協議した結果，一部保存となったが19遺跡については現状保存が困難なので記録保存の措置を講ずることとなった。

茨城県教育委員会は県内各地の開発事業の進展に伴い埋蔵文化財発掘調査の需要の増加により，昭和52年４月より，財団法人茨城県教育財団本部の中に調査課を新設してこれに対応することにした。茨城県教育財団は茨城県教育委員会の指導により「北竜台及び龍ケ岡土地区画整理事業の施行に係る埋蔵文化財発掘調査」の「業務委託契約」を宅地開発公団と締結した。

これらの事業を進めるにあたり竜ケ崎市古城3130番地に竜ケ崎事業所を設置し，発掘調査員４名を配置し松葉遺跡と外八代遺跡の発掘調査を実施することとなった。

なお外八代遺跡は多数の遺構等を検出したため茨城県教育委員会・宅地開発公団と協議を重ね昭和53年度も引き続き発掘調査を実施することとなった。

註１　『茨城県における開発区域遺跡分布調査報告（１）―石岡市・竜ケ崎市・北相馬郡守谷町―』
茨城県教育委員会　昭和46年３月

第2章　遺跡の立地と環境

1．　地理的環境

竜ケ崎市は茨城県の南部，霞ケ浦の南西に続く稲敷台地上の南端部に位置する標高10～30mほどの台地と利根川・小貝川とその支流によって形成された沖積地とから成り，竜ケ崎市街地は水田とほぼ同じ標高4ｍほどの沖積地上にある。市街地の南西方には猿島台地の先端部をなす奥山台地があるのみで10kmほどにわたる沖積低地が開け,その中を流れる小貝川が竜ケ崎市街地をさけるように南下し利根川と合流し，さらに南の千葉県木下周辺の台地に続いている。地質は成田層下層の砂礫層を基盤とし，台地は凝灰質粘土層および関東ローム層が覆っており，谷部は軟弱な粘土および腐蝕土の堆積がみられる。

外八代遺跡は前述の龍ケ岡地区の南端部の八代町新屋敷2,856番地に位置し，標高20mほどの平坦な台地上で，東に伸びる稲敷台地の南端部はいずれも南東から北西へと樹枝状の支谷が侵入している。外八代遺跡の所在するこの八代台地は幅400～500ｍと広く，西方500ｍほどで屋代城遺跡に続き，八代町の集落はこの台地の南辺部に沿って形成されている。

調査対象区域は27,000m^{2}ほどの面積を有し，地目は畑地で標高平均24ｍほどである。北側には樹枝状に小支谷が入り込み，地区全体は鷲が翼を開いたような形をなし，東側を東部地区，中央先端部を第1突端部，さらに西側を第2突端部と仮称する。沖積地の水田面までの比高は12ｍを測る。

2．　歴史的環境

竜ケ崎ニュータウン内の埋蔵文化財調査対象遺跡は，昭和52年4月現在で龍ケ岡地区15遺跡，北竜台地区7遺跡である。しかし，北竜台地区において工事用道路建設等によって新たに遺跡が発見され，昭和52年度に茨城県教育委員会により新遺跡の確認調査が実施され,沖餅遺跡・赤松遺跡等7ケ所が対象遺跡として昭和53年度から新たに加わり，沖餅遺跡・赤松遺跡の調査が実施された。さらに昭和54年度には，大羽谷津遺跡・廻り地Ａ遺跡・打越Ａ遺跡・打越Ｃ遺跡・ウツブタ遺跡・中根台塚群・廻り地Ｂ遺跡の調査が実施された。

龍ケ岡地区の調査は，昭和52年度～昭和53年度まで外八代遺跡の調査が実施され,昭和54年度からは前清水遺跡（Ｒ13）塚下遺跡（Ｒ14）屋代城遺跡のＡ地区（Ｒ6Ａ）の調査が実施され，前清水遺跡からは溝状遺構，その内側に掘立柱遺構が確認され，地下式土壙等が検出され，中

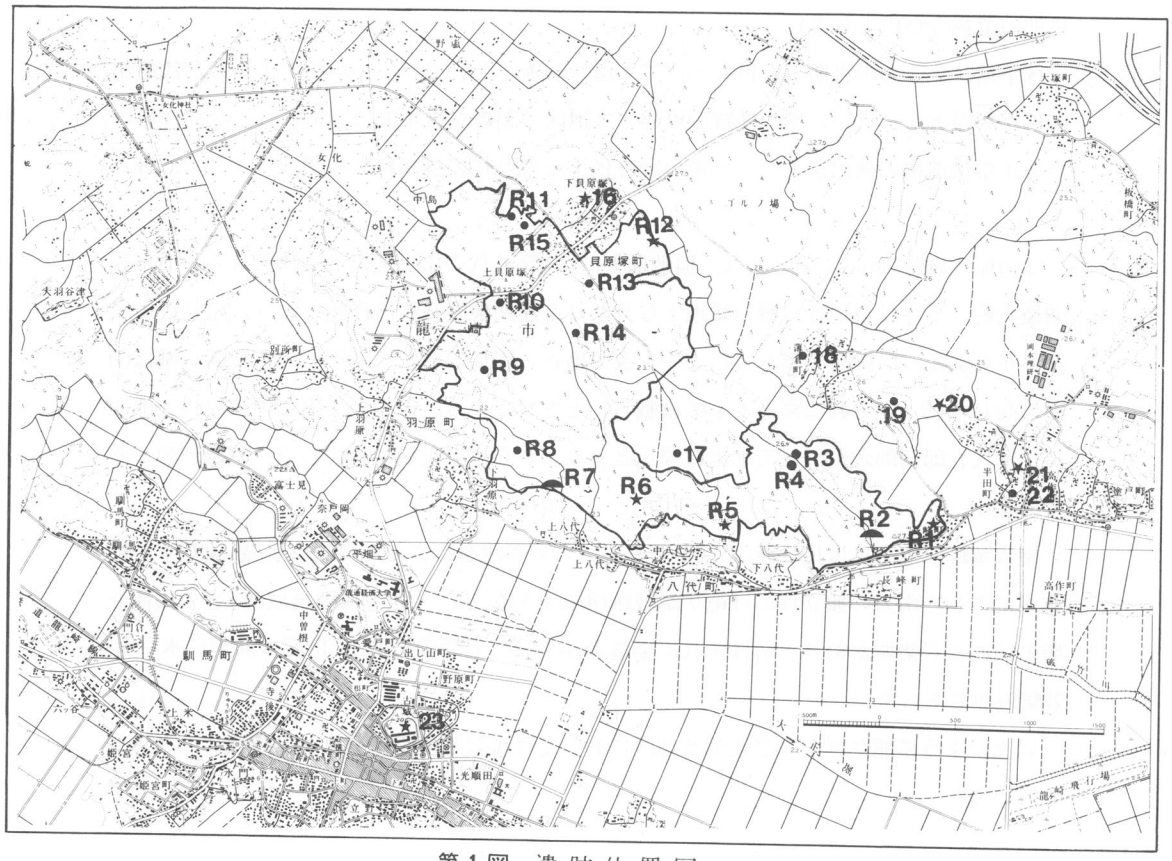
世期の遺物等が出土している。

塚下遺跡からも中世期～近世にかけての遺物が確認されている。かねてより外八代遺跡との関係が問題となっていた屋代城跡の東側・A地区の調査が後半末に実施され，草刈作業中に新たに土塁状遺構の検出をみた。今後の調査により外八代の城館跡との関連がかなり把握されるであろう。

この屋代城跡(R 6)に関しては，稲敷郡史に「大字八代の中央桂昌寺の傍に在る小丘にして其面積大約三千坪なり現今，概ね耕地となりたれど建武中興八代信経此におり，足利氏に属し興国2年高師冬，信経を先導して信太庄を改め亀谷・馴馬の諸城を陥り」とあり，馴馬城は南北朝期に高井城(R 14)と共に宮方として奮戦したとされている。その後文亀年中に屋代三郎四郎治時，屋代五郎四郎政国□いて地處に據るとあり，さらに天正期に八代右京の記録がのこるのみである。

屋代城跡の東方には長峰城(R 1)が在り，さらに谷津をはさんで東側に登城山館跡・要害城跡が位置し，南方の独立丘には竜ケ崎城跡(現在竜ケ崎二高)・西方に馴馬城跡・さらに西北の若柴の宿内に若柴城があり，宿はずれに金竜寺がある。若柴の宿は17世紀の前半に水戸街道の若柴の宿であった。

以上のように龍ケ岡および北竜台地区においてはかなり多くの遺跡が各時代にわたって点在している。



第1図　遺跡位置図

竜ケ崎ニュータウン(龍ケ岡地区)内遺跡および周辺の遺跡

番号	遺跡名	種類	備考	番号	遺跡名	種類	備考
R 1	長峰城跡	★		R 13	前清水遺跡	●	昭54年度調査
R 2	長峰古墳群	▲		R 14	塚下遺跡	●	昭54年度調査
R 3	十三塚塚群	●		R 15	町田遺跡	●	
R 4	尾坪台遺跡	●		16	貝原塚遺跡	★	
R 5	外八代遺跡	●★	昭52～53年度調査	17	向井原遺跡	●	
R 6	屋代遺跡	★	昭54年度調査～	18	西平遺跡	●	
R 7	稲荷塚古墳群	▲		19	馬込稲荷遺跡	●	
R 8	南三島遺跡	●		20	要畠山遺跡	★	
R 9	ダンゴ塚	●		21	半田遺跡	●	
R 10	町田塚群	●		22	登城山館跡	★	
R 11	かがみ塚	●		23	竜ケ崎城跡	★	
R 12	高井城下城跡	★					

(●集落跡　▲古墳群　★城館跡)

第３章　調査の経過

昭和52年４月に茨城県教育財団本部に調査課が新設され，すでに埋蔵文化財が開発区域内に確認されている竜ケ崎ニュータウン地内の調査方法等の検討を重ね北竜台地区内の松葉遺跡（R 21），龍ケ岡地区内の外八代遺跡の（R 5）の発掘調査の鍬入式を７月22日に茨城県教育委員会，竜ケ崎市教育委員会，宅地開発公団をはじめとし，地元協力員等の参加を得て挙行した。以下昭和54年３月まで実施された発掘調査の経過について段階的に記述する。

昭和52年７月～８月

発掘調査対象区内の草刈作業を実施し，地区設定は宅地開発公団基準点№377を任意点とし磁北に沿ってＸ軸（東西）Ｙ軸（南北）を40ｍ四方の大調査区に分割し，さらにその大調査区内を100分割し，北から南へＡ・Ｂ・Ｃ……西より東へ１・２・３……とし，このように分割した小調査区を「Ａ1ａ1」・「Ｂ1ｃ3」のように表記し，大調査区32地区を設定する。

この設定後調査区域内における遺構・遺物の分布状況を把握するための第１段階の調査を実施する。

９　月

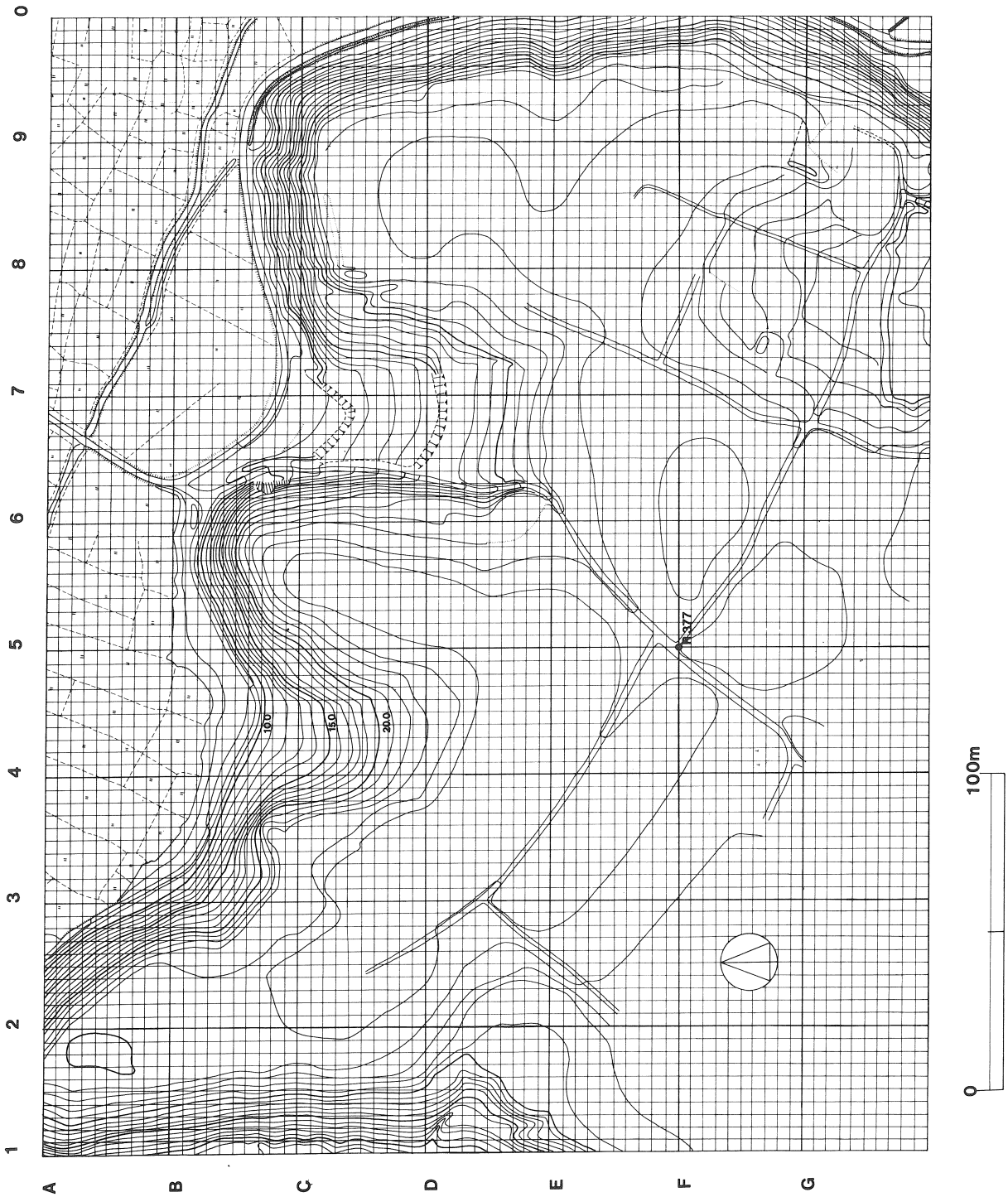
第１段階の調査により，ほとんどの小調査区域より何らかの遺構，またはその一部が検出された。特に，Ｄ８・Ｄ９地区からは，幅約10m，深さ４ｍという大規模な大溝の検出により，城館跡に伴う遺構と想定してあわせて調査を進行する。

10　月

第１段階の調査の進行によりほぼ全域に遺構の分布がみられ，さらに調査区域が東西に伸びていることが排土処理に大きな問題となる。これらの問題を合わせて検討し東部地区・Ｃ８・Ｃ９・Ｄ７・Ｄ８・Ｄ９・Ｅ８・Ｅ９・Ｆ８・Ｆ９・Ｇ７・Ｇ８区内の調査を実施し，とりあえずほぼ中央部に位置するＥ６地区を臨時の排土置場とし，土ノウを造り排土の流出を防止する土どめを実施する。以後東部地区の北側Ｃ８・Ｃ９区より南下しさらに西方する方針で調査を進めることにし，その結果土壙状遺構・住居地状遺構等の検出をみる。

11月～12月

調査対象区は，Ｃ８・Ｄ８・Ｄ７・Ｄ９・Ｅ８・Ｅ９地区に移り大規模な溝状遺構は西北から東南に走る出桝形状の堀の形態を呈することが除々に解明される。さらに多数の遺構等を検出することができた。年末年始に入るため，遺跡内の安全対策および発掘器材の整備を行ない現地作業を中断する。



第 2 図　外八代遺跡全体図

53年1月

年末年始の中断期間に現地も霜等のため荒れる。引続きＤ７区の調査を実施するが，当地区は傾斜地でありローム面までかなり深く発掘作業は非常に困難をきたしたが，斜面下位の部分を北より西南に走る堀状遺構の落込みを確認することができた。

2　月

Ｄ７区調査に引続き，Ｅ７・Ｅ８・Ｅ９区内の一部を調査する。その結果，西北より南東に走る堀状遺構の様態をほぼ確認することができ，さらに堀以北に住居址状遺構33軒，他に土壙状遺構等を検出することができた。

3　月

室内作業に移り，遺物図面等の整理を実施する。

昭和53年4月～5月

前年度の調査に引き続き東部地区(南東部)Ｅ９・Ｆ９区より西方する方針で調査を進めてきたがＥ６区内に盛土していた排土もほぼ限界に近くなり，その対策をかねて，東部地区南側の一段低いＧ７・Ｇ８区および西部地区突端部Ｂ２・Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３区を再考慮して調査を実施したが，Ｇ７・Ｇ８区より陶磁器等が多数検出され，また，西部地区突端部Ｂ２・Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３区における遺溝の分布は少ないと想定されたが，東部地区より排土を運搬するにはあまりにも距離がありすぎるための現状にとどまざるをえない。

6　月

さらに西部地区やや南方の調査Ｂ２・Ｃ２・Ｃ３・Ｃ４・Ｃ５・Ｄ４・Ｄ５・Ｅ４・Ｅ5区を実施し，Ｃ１区～Ｂ２区にかけて幅約１ｍ・深さ0.２～0.４ｍの溝状遺構・D4～Ｄ５区にかけて幅２～４ｍ深さ0.２～0.４ｍの溝状遺構を確認し，さらにＦ８区からＦ７区にかけて西北へ南東に向う溝状遺構を検出する。

7　月

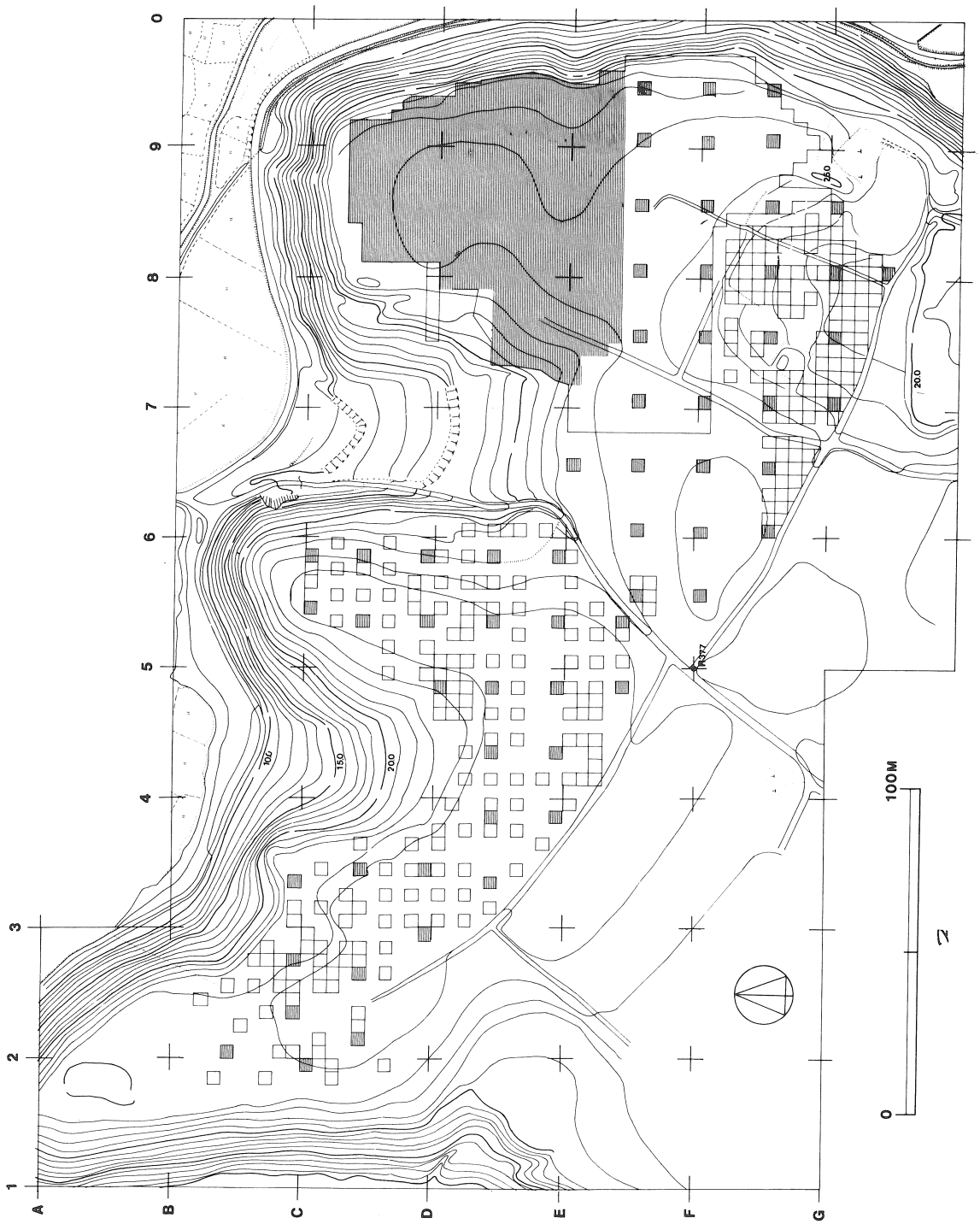
城館跡の調査と並行して，すでに確認されている東部地区内の遺構調査を実施し，その結果北向に並ぶ４棟の掘立柱建築遺構(ＳＢ)・さらにその東傾斜面に柵列状遺構(ＳＡ)を検出することができた。

8　月

東部地区Ｃ８・Ｃ９・Ｄ８・Ｄ９区内のベルトを除去し，確認面まで表土を排土しプランの再確認を実施したが，異常乾燥により確認・作業等もあまり進展をみない状況である。

9　月

暑さも除々にやわらぎ，ベルト除去した地区のプランの確認を終了させ，航空写真撮影を実施する。



第3図　外八代遺跡調査区全体図

10　月

Ｄ７・Ｄ８・Ｄ９・Ｅ８・Ｅ９区にわたり検出された堀状遺構をＳＨ０１と仮称する。この堀以北の住居遺構数は40軒前後と想定し，堀以南の住居遺構番号をＳＩ040から仮称して南側の調査も進める。その結果一部分の重複する遺構を残し，ＳＩ052号まで調査を実施する。掘立柱建築遺構はＳＢ015まで想定されるがＳＢ010～015に関しては多数の土壙群が集中しその確認を困難としている。ＳＨ01はその後の調査によりＤ7ｅ8において北方向へほぼ直角に曲がる様態を呈することが確認された。

11　月

さらに南側のＥ８・Ｅ９・Ｆ９区の表土排土を行い，新しい遺構の検出に努めた結果，ほぼ全面に住居遺構等が検出され，かなりの重複がみられる。Ｅ７・Ｅ８区から検出されたＳＤ001はＦ８区に伸びることが確認され，さらにその南側に接してＳＤ002が検出される。新たな遺構の検出作業はＳＩ074・ＳＫ220号まで確認し，重複し一部未調査の住居遺構を含むＳＩ062号までの調査を実施できたが霜等による影響で作業能率を著しく低下をよぎなくされた。

12　月

Ｅ７・Ｅ８・Ｅ９区内に検出された遺構，ＳＩ078・ＳＫ237号までの調査を実施し，測量・写真撮影後その遺物のほとんどを取り上げる。ＳＨ01の調査は東端部(Ｆ９区)の一部分を残しほぼ完掘することができ桝形部(南東コーナー部)斜面中段に，宝篋印塔の塔身部を検出，さらに東側橋脚部付近より瓦質火舎(底部片)を検出する。またかねてより懸案であったＥ６区の盛土も宅地開発公団により処理された。年もおしせまった12月19日に東部地区周辺の航空測量を実施し，一部の補足調査を行ない年末年始に入る。

昭和54年1月

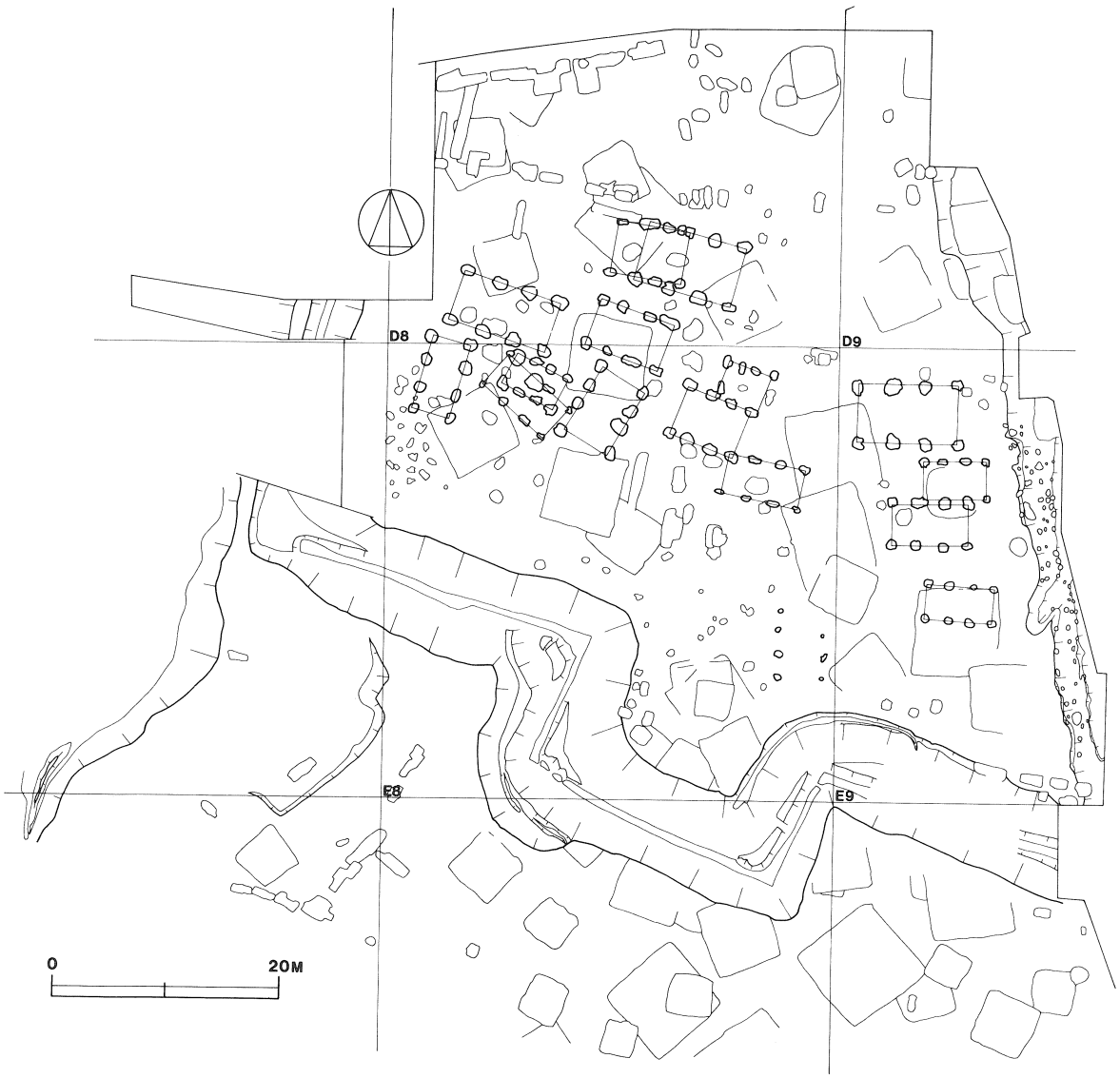
1月10日より現地作業を再開し，盛土を除去したＥ６区の調査に入る。さらに新たに検出された遺構ＳＩ085・ＳＫ250号までの調査を実施する。Ｅ７区内のＳＤ001の南西部に数基の地下式壙を確認した。さらにＥ６区の調査の進展により南北に走る堀状遺構ＳＨ02を検出し，その断面形状はＷ字型状の畝状堀を呈し北へ向うにしたがい西側に張り出す鍵型状を示めすことが確認される。

2　月

ＳＨ01を完掘し，桝形部の両側に橋脚と思われる，張出し及び平場を検出する。Ｄ７区斜面下に検出されたＳＨ03の調査を実施するとともにＳＤ002・ＳＤ004・ＳＤ009完掘。ＳＨ02は南方に伸びると予想されたがＦ６ａ０にて立上がり，さらに南側の拡張を実施したが検出されず，南側の防備に若干の疑問点を残す。

3　月

SH03・SD・SK・SI・etcの遺構調査を完了させ，航空写真撮影を実施する。なお東部地区に残された住居遺構のカマド計測等の記録調査を実施し遺物を全て収納する。現場倉庫の発掘器材，倉庫等を撤収させ，昭和52年度から53年度にわたる外八代遺跡の発掘調査は終止符をうつ。



第4図　外八代遺跡遺構配置図

第４章　遺構・遺物

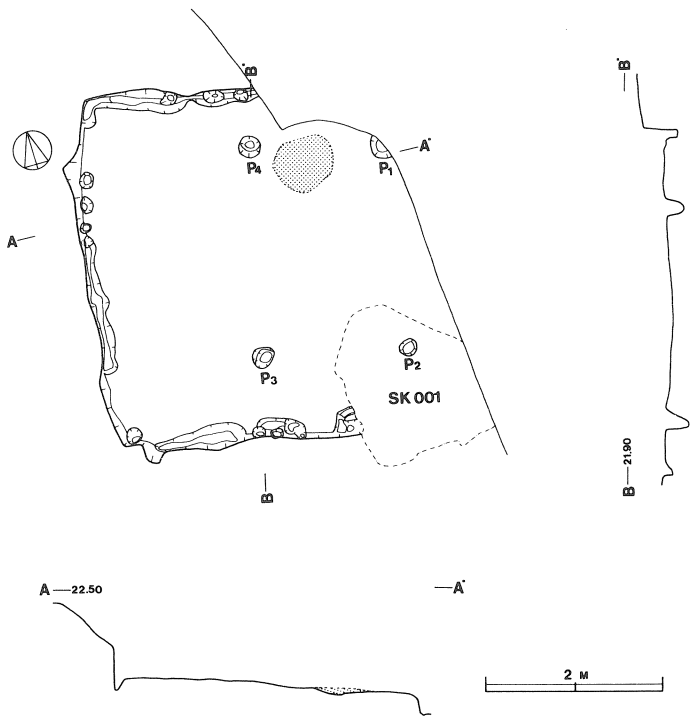
１．住居址（ＳＩ）

ＳＩ００１（第５図）　本住居址は，Ｅ９ｅ７・ｆ７に確認され，調査地区の東端部斜面に検出され，ＳＫ００１に東南部を切られている。

主軸方向はＮ－14°－Ｅで，長径4.1m・短径3.95mほどの方形状の平面形を示すと考えられるが東北コーナー部と東壁は急傾斜面に接するため調査を実施することができなかった。

遺構は表土下第Ⅳ層面に検出され，壁高は西壁が約50cm内外で北壁30cm・南壁20cmほどである。床はロームであり，ほぼ平坦をなし，硬質の床面を呈している。

炉址はやや北壁よりに位置し，長径70cm・短径56cmほどの楕円形の平面形を呈し，皿状に8cmほど掘られている。内部は焼土が充満し炉床は硬く焼けている。



第５図　ＳＩ００１　実測図

ピットはP_1～P_4と壁側構内に12個ほど検出しP_1～P_4はやや東よりであるが主柱穴と考えられ，直径はそれほど大きなものではなく，深さは20～27cmほどである。壁側溝は西壁と西南コーナー部で一部切れているがほぼ全周すると考えられ，部分的に壁側穴を有するがそれほど深いものではない。

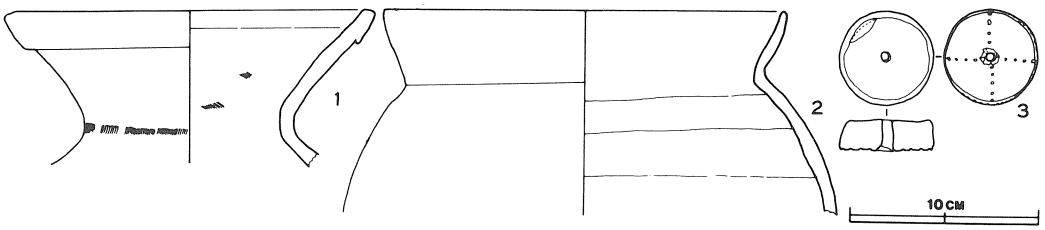
遺物は西側床面に甕形土器・壺形土器等が出土している。

出土遺物(第6図)　出土した土師器は，図示した壺，甕のほかにハケ目調整した甕の小片，ていねいにヘラミガキした高杯の小片がある。

1の壺は，住居址のほぼ中央に口縁部を下にして置かれていたもので，ハケ目調整のあとでいねいなヘラミガキを行なっている。

2の甕は住居址の南端で出土しており，やはり口縁が下になっていた。頸部が鋭く「く」の字状に屈曲し，胴部の器面を内外ともにヘラ調整しており，内側には輪積みの痕が伺える。

その他の遺物では覆土中から土製紡錘車が1点みつかっており，側面下端に一周，底面は十字形に列点がある。



第6図　ＳＩ001　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	不　明			主柱穴	P_3	26	23	27	主柱穴
P_2	20	19		主柱穴	P_4	25	24	8	主柱穴

SI 002(第7図)　本住居址は調査区東側のＤ9ｈ4・ｈ5・ｉ4・ｉ5に確認され，西北コーナー部にＳＩ004が切り合いＳＨ01の北側に位置している。

主軸方向はＮ－25°－Ｗで，長径6.35ｍ・短径6.27ｍ・面積39.81㎡ほどの方形状の平面形を呈している。

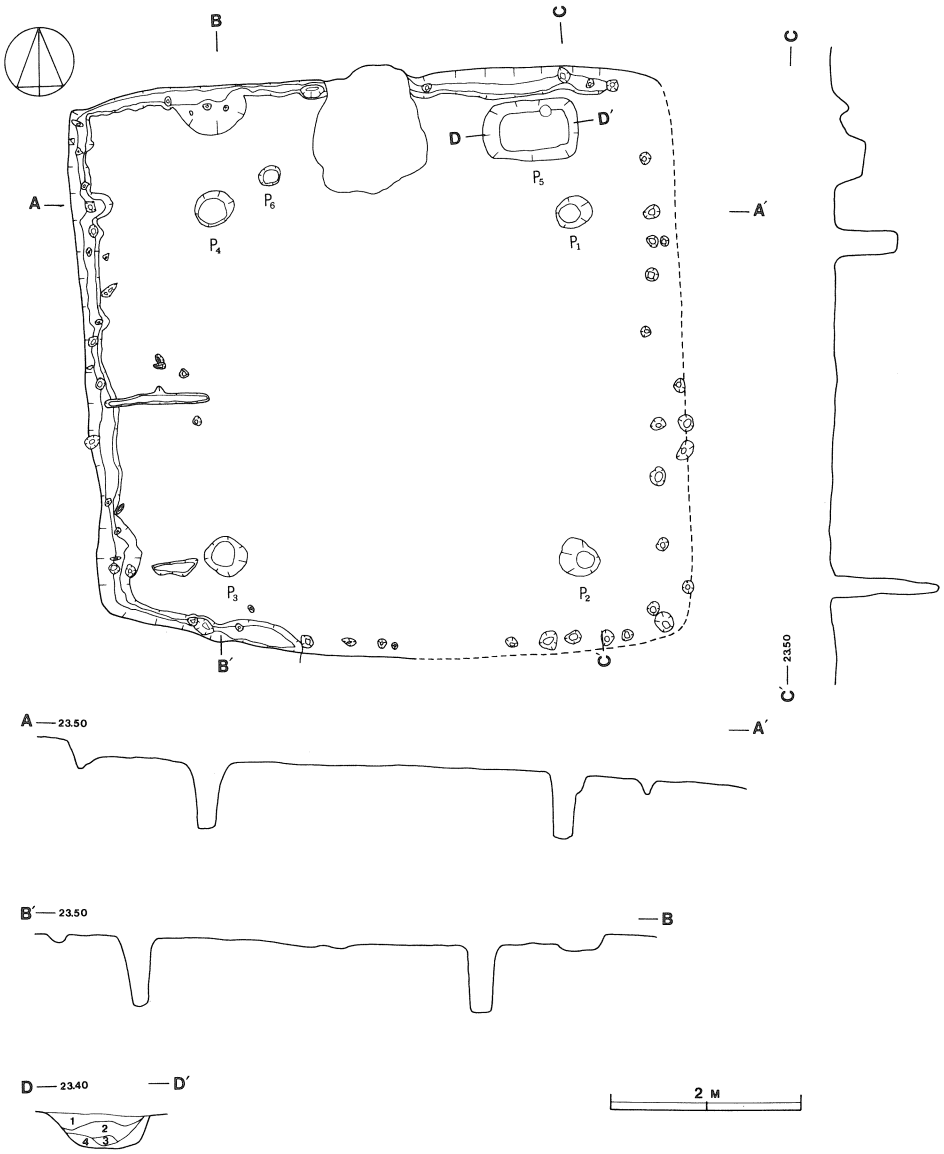
遺構は表土下第2層より検出されているが，旧表土層が極浅く，壁高は10～15cmで東壁および南壁の一部は確認できない程である。床はロームであり東側にやや傾斜するがほぼ平坦をなし硬質の床面を呈し，西壁側溝のほぼ中央より東に長径1.1ｍ・短径0.11mほどの溝状のものが走っている。

壁側溝は北壁より西壁・南壁の西南コーナー部まで検出し壁側穴が不定間隔で検出された。

ピットは6個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられ，P_5は貯蔵穴である。

覆土は極薄い土層で焼土・炭化物を多数含み，床面からも多数の炭化材と焼土を検出し火災をうけていると考えられる。

カマドは北壁のほぼ中央部にあり，Ｎ－1°－Ｗで，長径1.34ｍ・短径1.11ｍほどの不定楕



S I 002　貯蔵穴土層解説

1. Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　　ローム粒子・焼土粒子・木炭粒子含む
2. Hue 7.5YR 3/2　黒　褐　色　　ローム小ブロック・焼土粒子・木炭粒子含む
3. Hue 2.5YR 3/4　暗赤褐色　　焼土ブロック含む
4. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　　ローム小ブロック・木炭粒子含む

第7図　S I 002　実測図

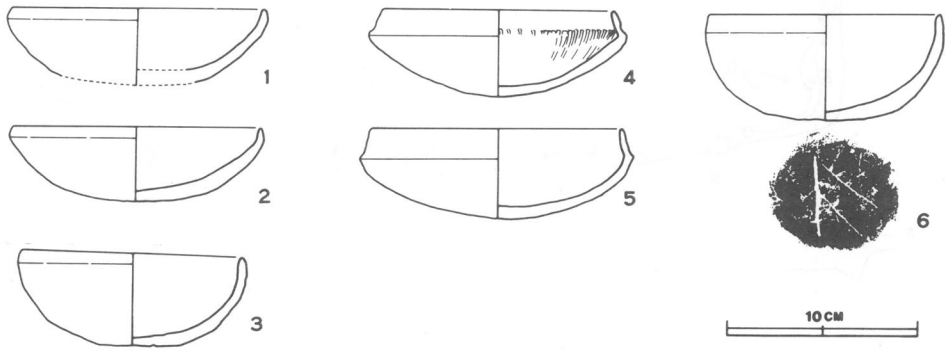
円形状を呈しているが，二次的な削平を受け極薄く焼土・粘土が観察されるのみである。カマドの東側に長径 96cm ・短径 62cm ・深さ 35cmほどの貯蔵穴 P_5 が位置し，壁ぎわに杯が検出された。

遺物はカマドの西南側床面に杯等出土している。

出土遺物(第8図)　遺物の量は少なく，土師器の甕・杯などがある。甕は胴部の小片で，完形に近いのは杯と椀だけである。

椀は，ちょうど球を半分に割ったような形で，底部をヘラケズリ調整しているが，木の葉の圧痕が伺えるものもある(6)。

杯は，口縁部が素縁でやや内傾して立ち上がる形と，口縁部と底部の境に明瞭な稜をもち，口縁が内傾して立ち上がる形の2種がある。後者の杯の内面には放射状のヘラミガキが認められる(4)。



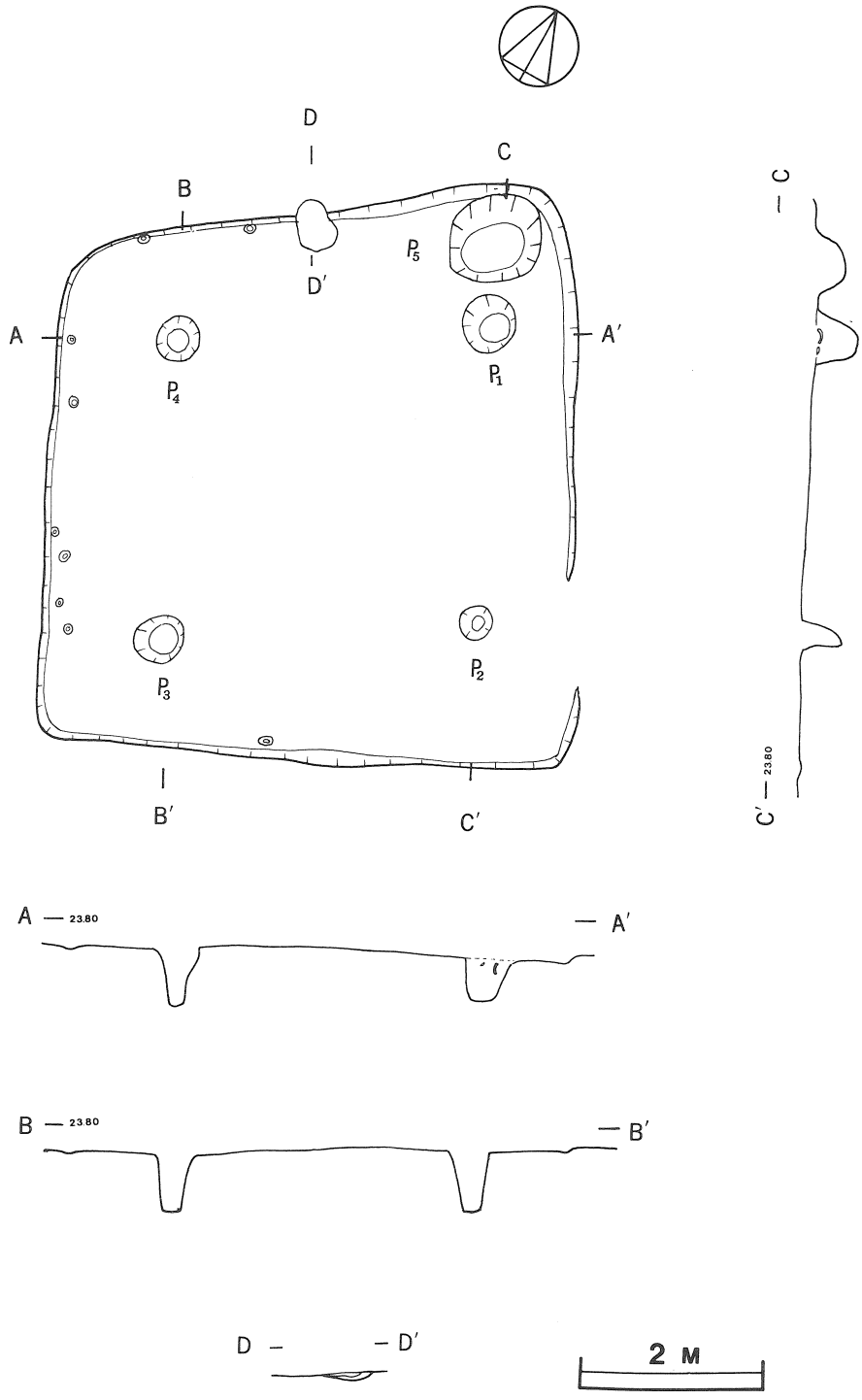
第8図　ＳＩ002　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	38	31	68	主柱穴	P_4	37	35	69	主柱穴
P_2	39	30	114	主柱穴	P_5	98	62	35	貯蔵穴
P_3	43	36	72	主柱穴	P_6	20	19		

ＳＩ 003(第9図)　本住居址は，調査区東側のＤ９ｉ１・ｉ２・ｊ１・ｊ２に確認され，斜面上にあるＳＩ 018の西側に位置している。

主軸方向はＮ－26.5°－Ｗで長径 5.97ｍ 短径 5.8ｍ・面積 34.62m^2ほどで東北コーナー部が北側にはりだす方形状の平面プランを呈している。

遺構は表土下第2層面より検出され，壁高はわずかに 10cm 内外でゆるやかに立ちあがり，東北コーナー部と東南コーナー部がややはりだし，東壁の一部は確認されない程である。



第9図　ＳＩ003　実測図

カマドは，北壁や西よりにあり主軸方向はＮ－42°－Ｗで長径 56cm・短径 38cmほどの不定楕円形状を呈し，北壁をわずかに掘り込み，若干の焼土が遺存するのみである。

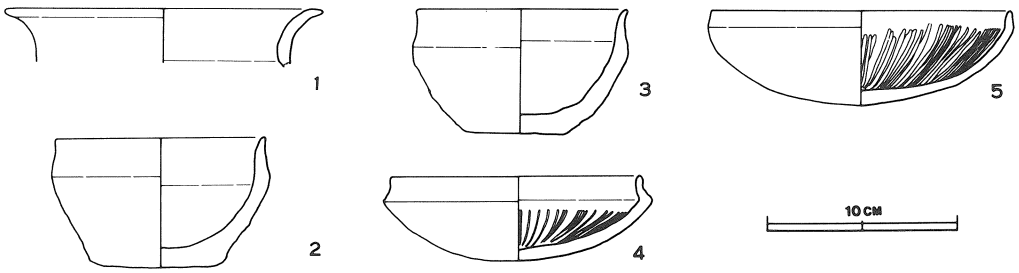
ピットは５個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられ，P_5は貯蔵穴である。ほかに西壁ぎわに壁側穴が観察される。

遺物はP_1直上に杯・甕が出土しているが，覆土が極浅いためほとんど遺存していない。

中世期に築城された主郭部桝形のほぼ主軸方向に位置し二次的な削平を受けていると想定される。

出土遺物(第10図)　遺物は，土師器の甕・杯がある。

１の甕は小型で口縁端部が平坦にひらく。２・３の杯は鉢に近い形で，体部から底部にかけてヘラケズリ調整しているが器壁は肉厚である。４は外稜をもち口縁部が内傾して立ち上がる形で，内面には放射状のヘラミガキが施されている。５は４ほど明瞭な稜はなく，口縁部が垂直に立ち上がり，やはり内面に放射状のヘラミガキがみられる。



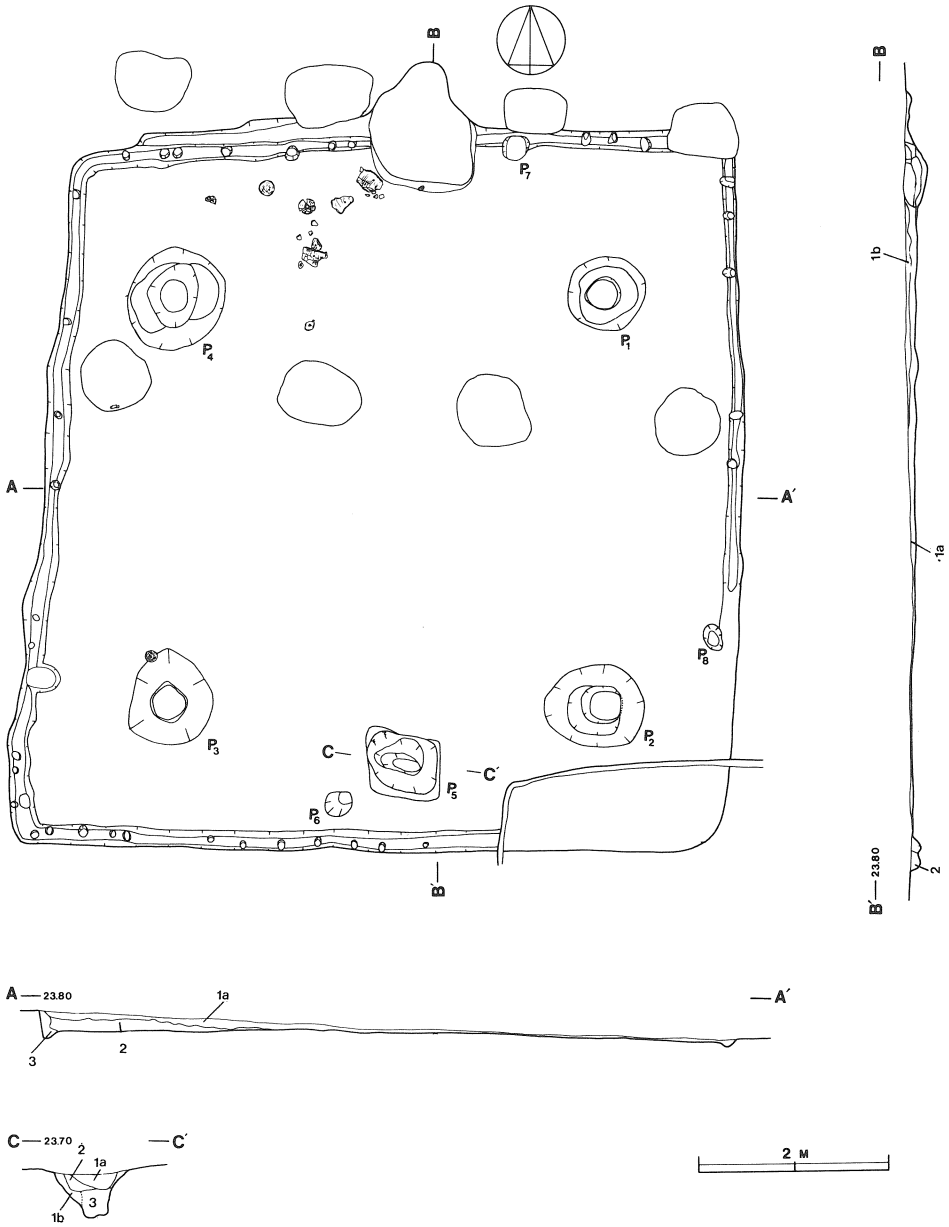
第10図　ＳＩ003　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	61	60	50	主柱穴	P_4	50	46	66	主柱穴
P_2	39	36	25	主柱穴	P_5	100	93	15	貯蔵穴
P_3	56	52	65	主柱穴					

ＳＩ004(第11図)　本住居址は，Ｄ９ｆ２・ｆ３・ｆ４・ｇ２・ｇ３・ｇ４・ｈ２・ｈ３にわたり確認され，東側柵列の傾斜面上やや西よりに位置し，ＳＩ002と切り合い関係を持ち，中央部より北側にかけてＳＢ001が位置する。

主軸はＮ－2.1°－Ｗで，長径 7.59ｍ・短径 7.22ｍ・面積 54.79m^2ほどで西南コーナー部がやや張りだす方形状の平面プランを呈している。

遺構は表土下第２層より検出され，壁高は西壁は 22cm・北壁は 13cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがり，南壁は９cm，東壁は４cmほどでゆるやかに立ちあがり，東南コーナー部はほ



S I 004　土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(中)・ローム小ブロック(少)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少)・ローム小ブロック(少)・焼土粒子(少)
2.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(多)・ロームブロック(多)
3.		Hue 10YR 4/4	褐　色	ローム粒子(中)

第11図　S I 004　実測図

とんど確認できないほどであるが，ＳＩ 002 の西北コーナー部に貼床状の様態が若干ではあるが確認された。

床は，ほぼ平坦をなし，堅く，西北より東南にかけてゆるい傾斜を示している。壁側溝は，東南コーナー部を除き幅 20cm内外でほぼ全周し深さは西壁，北壁がやや深く 10cm内外であるが他溝はごく浅く壁側穴を有している。

カマドは北壁中央部やや東よりにあり，主軸方向はＮ－0°で長径 110cm ・短径 89cm ほどで北壁ぎわの床を 8cm ・北壁を約 50cmほど掘込み焼土と砂質粘土と若干のカーボンを含むが住居址全体が削平を受けていると思われ，ごくわずかに遺存しているのみである。

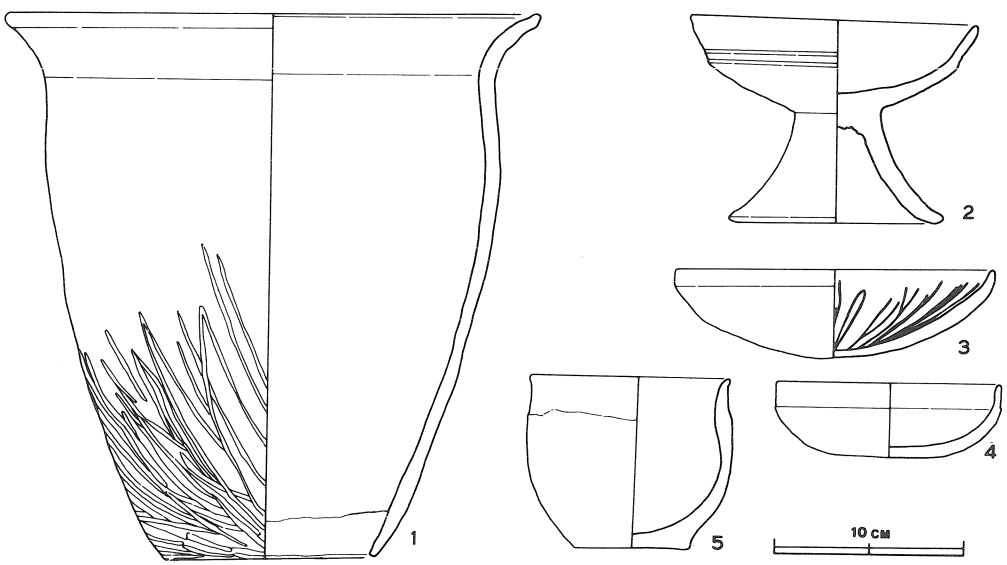
ピットは８個検出され，P_1～P_4 は主柱穴と考えられ，ピット中段まで擂鉢状に掘られ，さらにほぼ垂直ぎみに落ちる様態を呈している。P_5 は南壁ぎわほぼ中央に位置し不定長方形状を示し貯蔵穴とも考えられるが入口の何らかの施設とも考えられ不明である。全域から焼土および炭化材等が検出され，火災にあったと考えられる。

出土遺物(第 12 図)　土師器の甕 (大型，小片)・甑・高杯・杯・椀がある。

１の甑は，口縁部の内側に沈線がめぐり頸部から胴部にかけてゆるやかに屈曲する。胴部下半の外面には，斜め方向のヘラミガキが施されている。

２の高杯は完形で出土したもので，杯部の外稜上部に二圏の沈線がめぐっている。本遺跡の鬼高期の住居址からは，この時期に比定される高杯の出土例は少なく，さらにこの形の高杯は１点であり貴重な資料と言えよう。

杯は，素縁でやや外傾して立ち上がる口縁部をもち，内面に放射状のヘラミガキを有するも



第 12 図　ＳＩ 004　出土遺物

の(3)と，やや小型で外稜・垂直立ち上がり口縁のもの(4)とがある。4の杯の底部内面は，ヘラケズリのあとていねいにみがいている。5の椀は鉢に近い形で，この器形はSI002とSI004でしか検出していない。

1から3はカマドの西南部に接して，4はカマドの西側，5はP_3の北側からそれぞれ出土した。

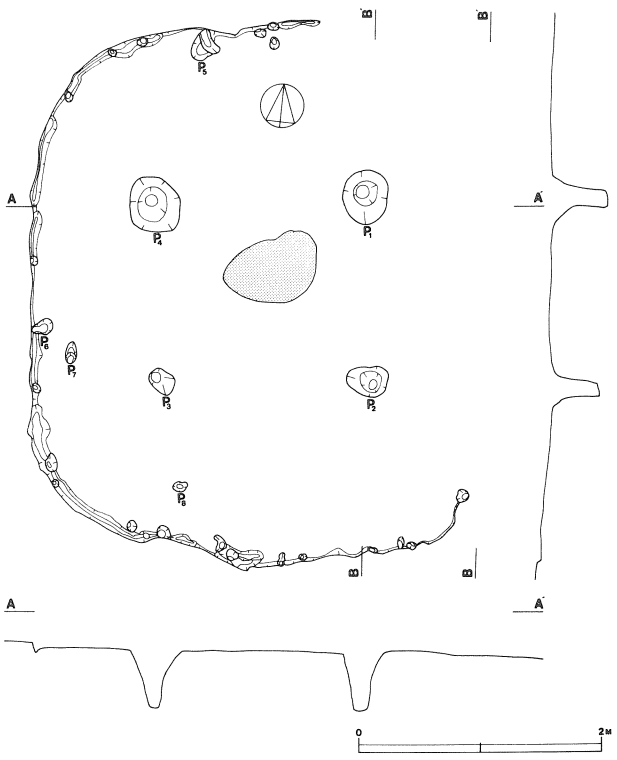
ピット番号	長径cm	短径cm	深径cm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	73	67	74	主柱穴	P_5	65	63	43	
P_2	85	80	76	主柱穴	P_6	20	15	10	
P_3	93	89	69	主柱穴	P_7	15	14	3	
P_4	85	85	59	主柱穴	P_8	27	20		

SI 005（第13図）　本住居址は，D9c3・d3・d4区に確認され，東側の掘立柱建築址SB 002・003の柱穴の掘り方が中央やや南に切りあっている。

主軸方向はN－7°—Wで，長径4.45 m・短径4.04・面積17.97 m^2 ほどの隅丸方形状の平面形を呈している。

遺構は二次的削平を受けており，極浅い黒色土でプランが確認されたもので，壁高は西壁が5cmほどで立ちあがるが東北コーナーから南壁にかけてはほとんど確認できない。西壁ぎわには部分的に壁側溝が確認され，壁側穴が不定間隔で検出された。床面は堅いロームであり，炉はわずかに床面を皿状に掘り窪めている。

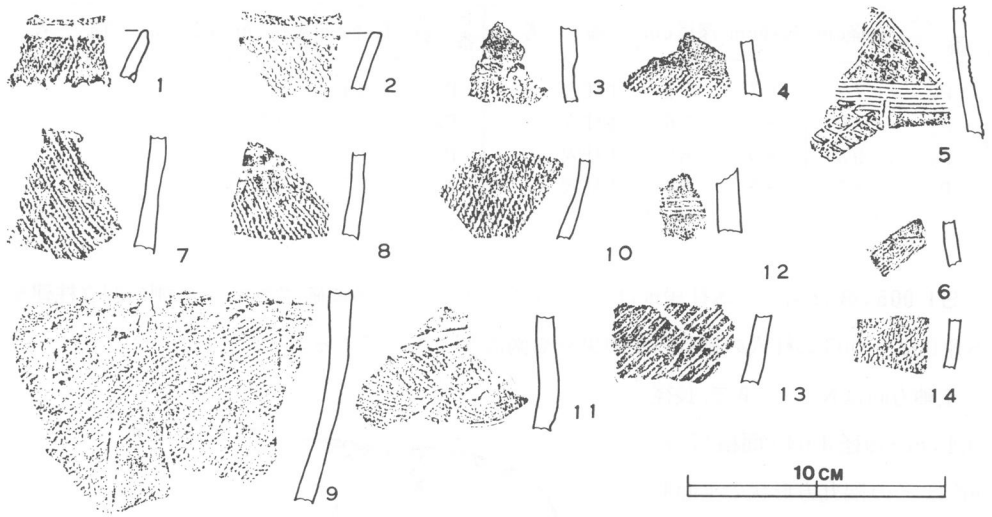
ピットは8個ほど確認され，ほぼ中央部に位置するP_1～P_4が主柱穴と考えられ，他はさほど深いものではない。



第13図　SI 005　実測図

出土遺物（第14図） 弥生式土器の壺の小片が壁周辺から少量土出している。

1・2は口縁部で，外面と端部に縄文の押捺がみられ，2の下部にはヘラ状工具による刺突が施されている。3～6は頸部で，3・4・6は無文帯があり，以下は縄文が施されている。5は6本を単位とした櫛状工具による山形文が配され，以下にはヘラ状工具による格子が描かれている。他は付加条の縄文を施した胴部の小片である。



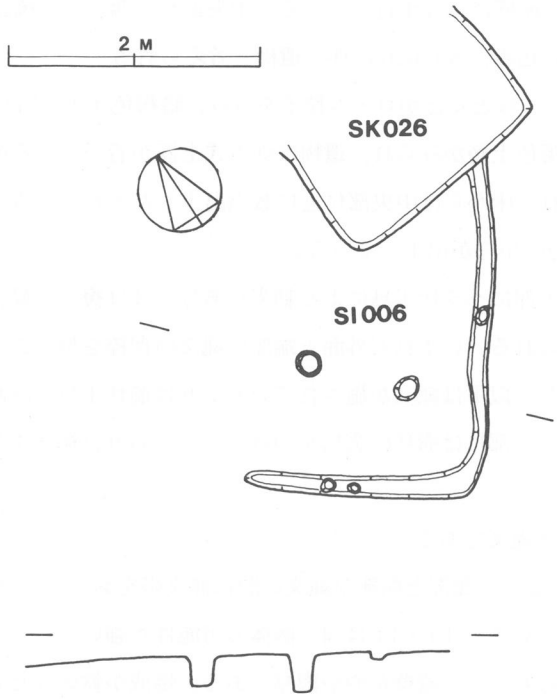
第14図 ＳＩ005 出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	46	44	48	主柱穴	P_5	22	17	6	
P_2	28	26	39	主柱穴	P_6	18	13		
P_3	24	21	47	主柱穴	P_7	18	9		
P_4	46	35	47	主柱穴	P_8	12	8		

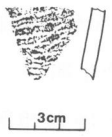
SI 006（第15図） 本住居址は東部地区の北端Ｃ８ｅ３・ｅ４・ｆ３・ｆ４に確認され，SK026に切られている。

遺構はかなりの削平を受けておりプラシを確認することはできないが東南コーナー部に5cmほど壁側溝がクランク状に検出され，3ケ所に壁側穴がみられ，P_1・P_2のピットが主柱穴と考えられるかどうかは疑問である。床はそれほど堅いものではなく，北側にゆるい傾斜を示している。

出土遺物（第16図） 遺物はほとんどなく，付加条の縄文を回転方向をかえて施した弥生式土器の小片を検出したのみである。



第15図　ＳＩ 006　実測図



第16図　ＳＩ006　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	25	24	40		P_2	30	26	32	

ＳＩ 007（第17図）　本住居址は東部地区の北端Ｃ８ｄ９・ｄ０・ｅ９・ｅ０・ｆ９・ｆ０に確認され，ＳＩ 010が北壁を切り込んで位置し，表土より遺構確認面までやや深く東部地区北側に在る住居跡の中では比較的遺存状態が良好である。

主軸方向はＮ－26°－Ｅで短径6.1ｍ・長径はＳＩ 010に切られ不明確であるが６ｍほどと想定され，やや隅丸状形状の平面形態を呈すると考えられる。

遺構は表土下第３層から掘りこみ確認され，壁高は西壁が70cm・東壁が73cm・南壁67cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがるが東壁コーナー部はややゆるい傾斜を呈している。西壁から南壁のコーナー部まで壁側溝が深さ10cm内外で半周している。床面はほぼ平坦で堅いロームであり，炉址はＳＩ 010により確認できない。

ピットは19個検出され，P_1～P_4はやや長楕円形状を呈しているが主柱穴と想定される。他のピットはそれほど大きなものではないが，P_8～P_{10}は南壁コーナーにP_{12}～P_{15}は西壁コー

ナーにほぼ同じような位置・形態をなし南壁にほぼ平行している。中央部やや西よりに確認された長方形状の土壙は本遺構の床を掘り込み，ＳＩ 010に伴う遺構と考えられる。

住居址内覆土は自然堆積の状態を示し，ほとんどがローム粒子を含み，暗褐色土層が70～90cmほどの厚さに堆積し，壁ぎわに褐色土層がみられ，遺物は弥生式土器が若干であるがほとんど東壁ぎわに浮いた状態で検出され，床からは中央部付近に数点出土したのみである。

出土遺物(第19図)　弥生式土器の壺の小片が出土している。

口縁部は3点を数える。1は，口縁下部にヘラ状工具による刺突があり，2は複合口縁，3は端部が平坦で下部に瘤状の突起がみられる。いずれも外面と端部に縄文の押捺を施している。

5から9は頸部で，5は無文帯を有し，以下は縄文が施されている。6は櫛状工具で区画したあとヘラ状工具でジグザグ状を描き，下部には瘤状の突起をつける。7から9は櫛状工具による施文の下部に縄文を施している。

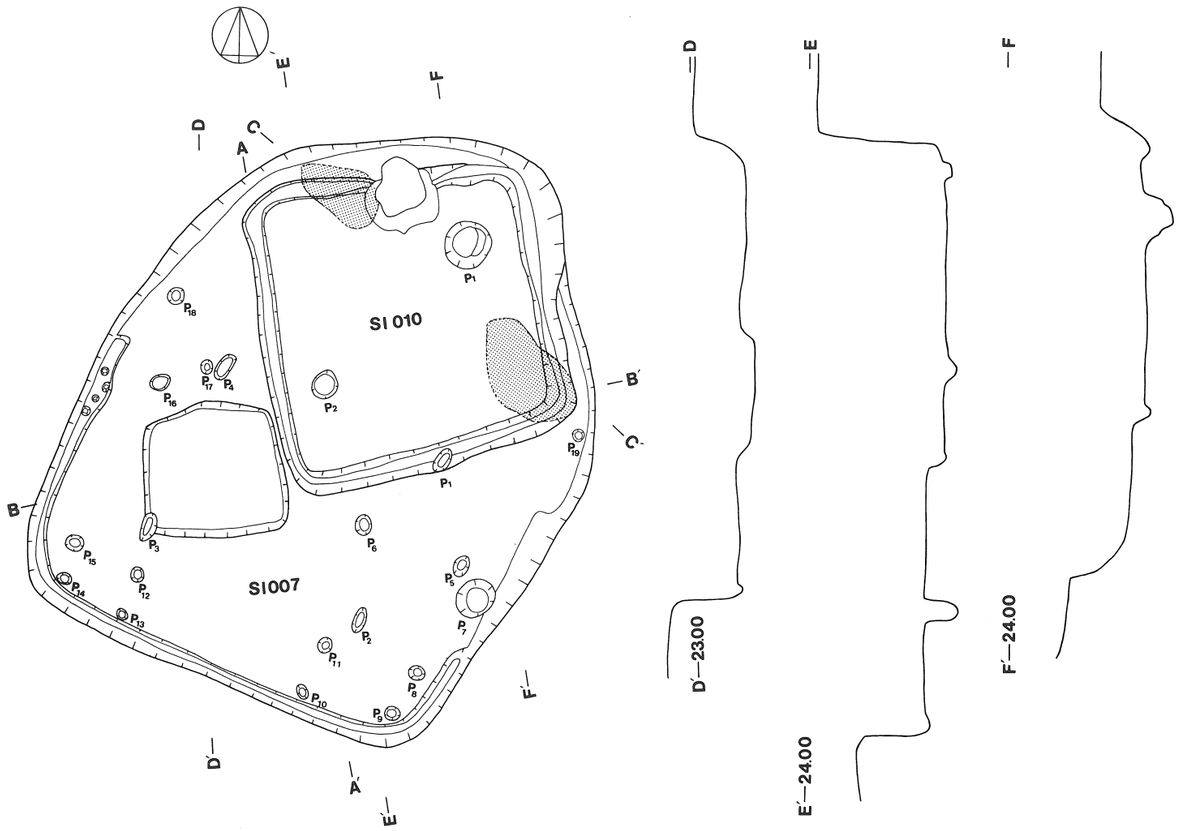
4は肩部で上部に刺突があり，以下は縄文である。

10は，頸部から胴部にかけて残っており，頸部と胴部の縄文の間に無文帯をおく。11は胴部中位から下半部で，羽状効果を出している。10・11は同一個体の可能性が強い。

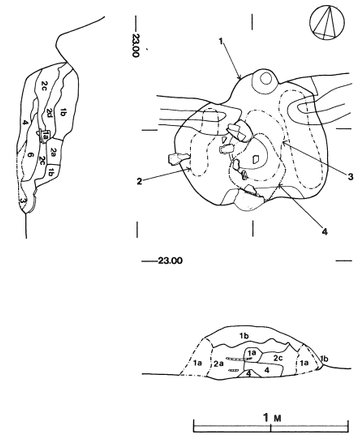
13・14・15は頸部から胴部に至るもので，器壁がやや肉厚である。焼成が軟弱なための文様がわかりにくいが，頸部にヘラ状工具による区画がされ，無文の部分と交互にヘラ状工具による格子文でうめられている。その下は，6本単位の櫛状工具による界線が一周し，以下は無文帯をおいて縄文が施されている。

その他の胴部片は，軸や原体の太さの異なった付加条の縄文を施した小片である。24・25・26は底部で，外面に木の葉の圧痕がみられる。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	32	12	52	主柱穴	P_{11}	22	16	26.1	
P_2	34	15	42.8	主柱穴	P_{12}	20	16	31.2	
P_3	38	18	43.4	主柱穴	P_{13}	16	12	25.4	
P_4	36	18	53.2	主柱穴	P_{14}	17	16	25.6	
P_5	29	19	30		P_{15}	22	20	30.5	
P_6	26	21	10		P_{16}	27	21	12	
P_7	47	42	17.5		P_{17}	18	12	13	
P_8	20	20	25.2		P_{18}	23	20	37.5	
P_9	18	18	13.8		P_{19}	17	16	14	
P_{10}	20	13	27.2						



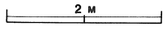
第 17 図　ＳＩ 007・010　実測図



第 18 図　ＳＩ 010　カマド実測図

ＳＩ 010 カマド土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	砂質粘土 (多) かたくしまっている
	b	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	砂質粘土 (多) かたくしまっている
2.	a	Hue 5YR 3/4	暗赤褐色	焼土ブロック (少)・木炭粒子 (少)・砂質粘土 (中)
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	焼土ブロック (少)・砂質粘土 (中)・焼土粒子 (小)
	c	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	焼土ブロック (中)・砂質粘土 (少) 焼土粒子 (中)・木炭粒子 (少)
	d	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	焼土粒子 (少)・砂質粘土 (多)
3.		Hue 7.5YR 6/4	にぶい橙色	灰層・焼土ブロック (少)・木炭 (少)
3.		Hue 2.5YR 3/4	暗赤褐色	焼土層
4.		Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック (中)・焼土粒子 (少)

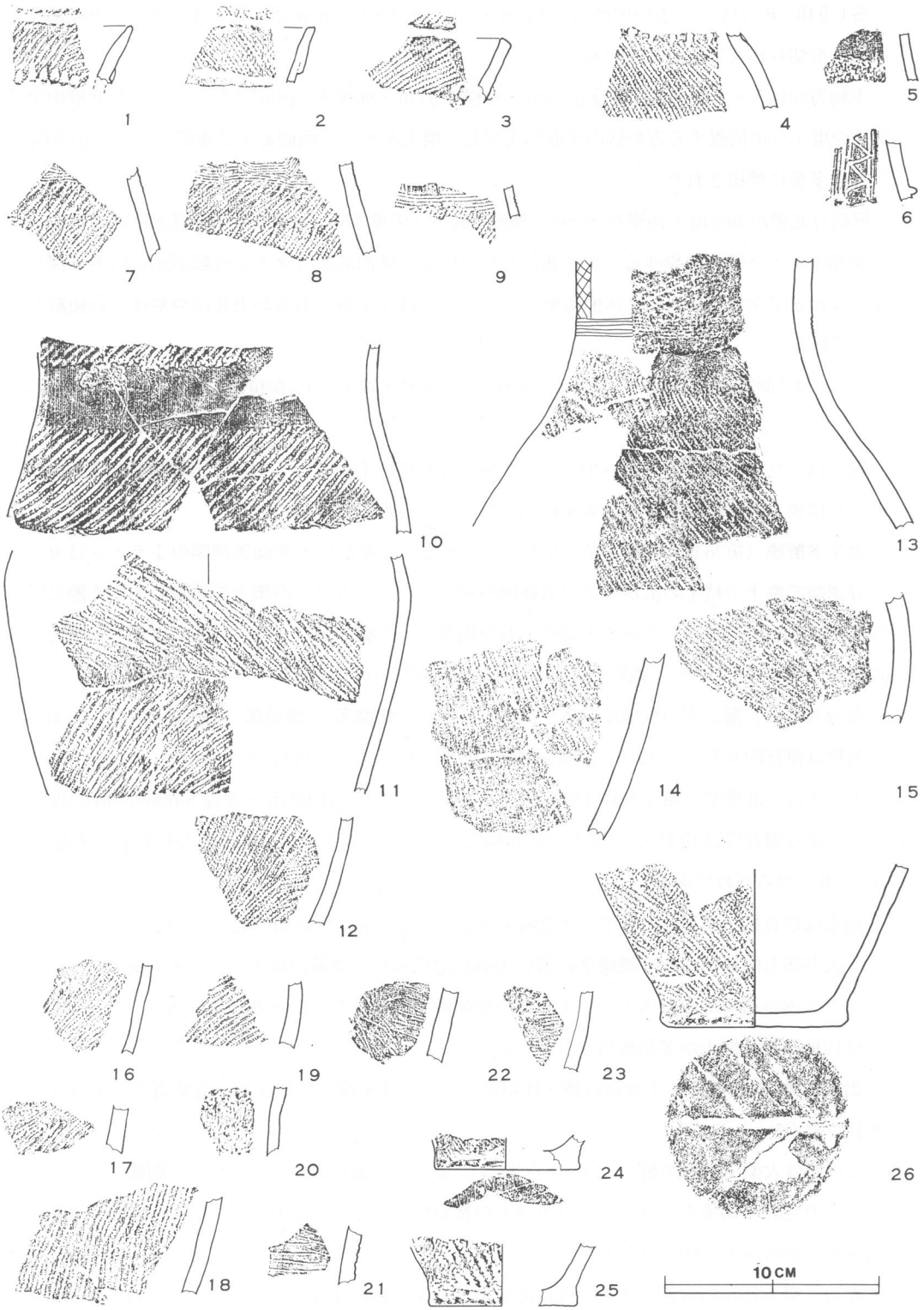


ＳＩ 007　010　土層解説

1.	a	Hue.7.5YR 3/2	黒褐色	ローム粒子 (少)
	b	Hue.7.5YR 3/2	黒褐色	焼土 (中)
2.	a	Hue.7.5YR 3/3	暗褐色	ローム小ブロック (極少)・ローム粒子 (少)・褐色軟質ブロック (少)・若干ボソボソで軟質
	b	Hue.7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子 (少)・ローム小ブロック (少)
	c	Hue.7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子 (極少)
	d	Hue.7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子 (少)・褐色軟質ブロック (少)
3.		R 3/4	暗褐色	焼土 (中)
4.	a	Hue.7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子 (多)・褐色軟質ブロック (中)・焼土粒子 (中)
	b	Hue.7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子 (極少)
	c	Hue.7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子 (多)・焼土 (中)
5.	a	Hue.7.5YR 4/4	褐　色	
	b	Hue.7.5YR 4/4	褐　色	暗褐色軟質ブロック (中)
6.		Hue 7.5YR 2/2	黒褐色	ローム小ブロック (多)

焼土　土層解説

1.	Hue 7.5YR 3/2	黒　褐　色	炭化物・焼土 (少)・砂質粘土 (少)・ローム粒子
2.	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	炭化物 (1層より少) 砂質粘土・ローム粒子・ロームブロック (少)
3.	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	炭化物わずか，ローム粒子・ローム粒・ロームブロック (少)
4.	Hue 10 R 3/2	暗赤褐色	炭化物・焼土・ローム粒子が混入
5.	Hue 10 R 2/2	極暗赤褐色	炭化物・焼土粒・粒子ごくわずかのローム粒子 白っぽい木の粉状のもの混入



第19図　ＳＩ007　出土遺物

SI 010（第17図）　本住居址はC8d9・d0・e9・e0に確認され，SI 007の中央部から北壁を切り込んで位置している。

主軸方向はN－12°－Wで長径3.91m・短径3.91m・面積15.28m²ほどでカマドが北壁中央部やや東よりに位置する方形状の平面形を呈し，焼土がカマド西側および東南コーナーから西よりに多量に検出された。

壁高は北壁が66cm・西壁が86cm・南壁83cm・東壁75cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがる東北コーナー壁がややゆるく東に張りだしている。壁側溝がカマドから幅20cm内外，深さ10cmほどで全周している。床面は堅いロームで，ほぼ平坦であるが東北にややゆるい傾斜を示している。

ピットは2個で東北コーナーよりにP_1があり，ほぼ対角線上にP_2が位置し主柱穴と考えられる。

覆土は，ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土が65～90cmほど堆積し，床および壁ぎわに焼土粒子が検出され，火災にあったものと考えられる。

カマド解説（第18図）　竈はカタカナでカマドとして表わし，平面実測図の1ラインはカマド確認面で焼土や粘土の広がっている範囲を示している。カマドの覆土を除去していく際に明らかに袖部の原形を残していると認められる場合は一点破線（2ライン）で表示し，灰の範囲は二点破線（3ライン）で示し，純然たる焼土の範囲が確認された場合は（4ライン）で表示した。

部分名称は，掘り方の状態に主体をおき「焚口部」「燃焼部」「煙道部」と区別したが，これらの名称は便宜的なものであって各部を明確に区部し得るものではない。

カマドは，北壁やや東よりに主軸方向N－13.5°－Wで長径98cm・短径94cm・面積0.92m²ほどであり遺存度は良好で，壁を35cm幅で20cmほど掘り込み，煙道部とし火床は床面より6cm低くなるだけである。

袖部は砂質粘土で造られ，53cm間隔をあけて，北壁より住居側へ約90～120cmほど突出し，天井部も同層から成り燃焼部に薄い灰層が認められ，多量の焼土・カーボンを含む。

カマド内の遺物は少量出土し，天井部の補強に用いられたものと考えられる。

住居址内から焼土が多量検出されている。

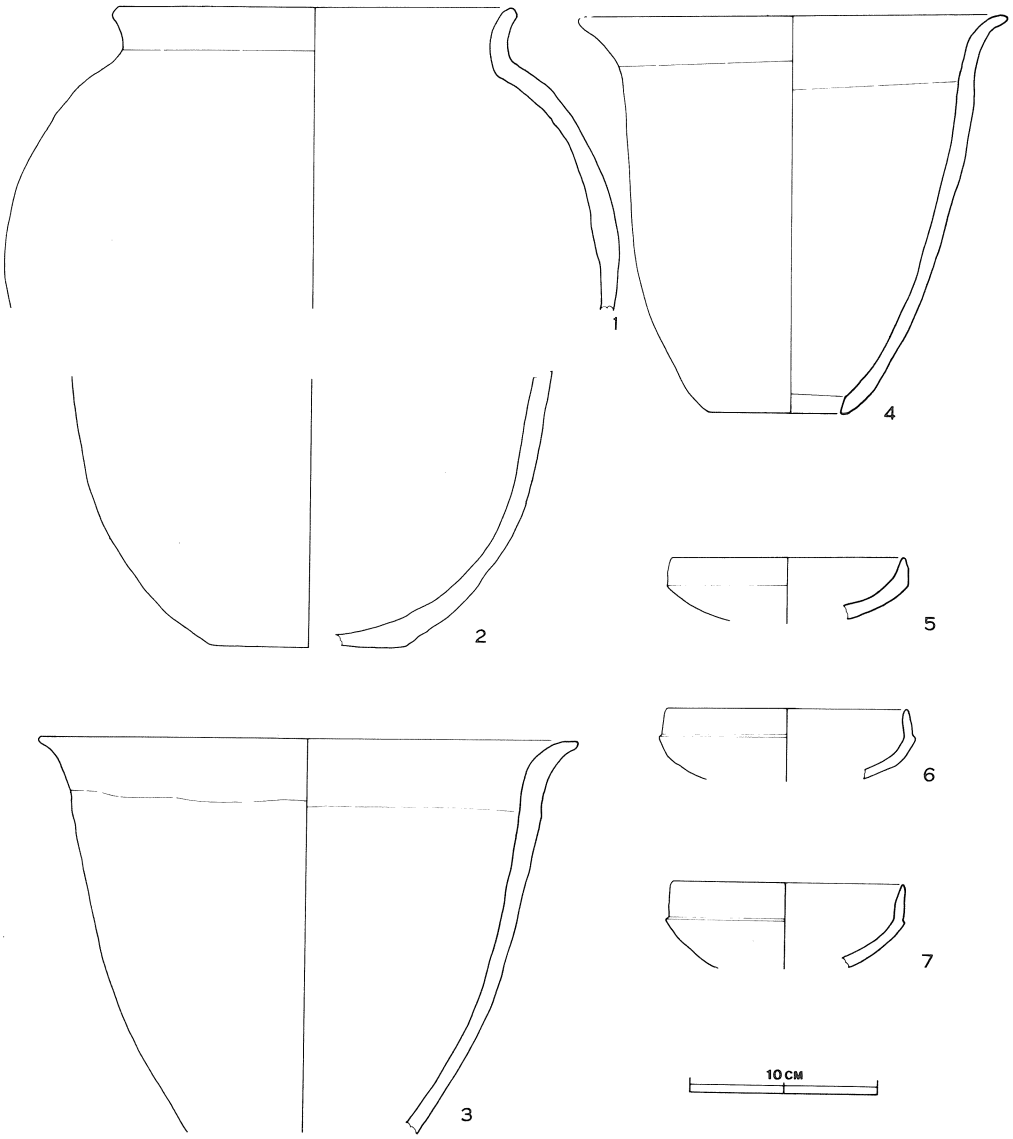
出土遺物（第20図）　土師器の甕・杯があり，2・4を除いて住居址の南壁寄りに集中して検出された。

1の甕は大型で口縁が短く，外へひらかない。また，底部もやや下ぶくれで，胴部から下半がどっしりとした印象をうける。2はカマドの焚口にかぶさっていたもので，同一個体と思われる土器片がカマドの中に散乱していた。

甑は，最大径が口縁部にあり，底辺部へかけてV字状にすぼまる形で，本住居址で多く見ら

れる形である(3・4)。4はカマドの西袖脇から出土した。

杯は5のようには外稜が明瞭でなく，内面をヘラミガキしているものと，ヨコナデしただけのものがみられた。



第20図　ＳＩ010　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	64	58	96	主柱穴	P_2	38	31	45	主柱穴

ＳＩ 008（第 22 図）　本住居址は東部地区西端Ｃ８ｆ２・ｆ３・ｇ２・ｇ３・に確認され，ＳＩ 002 を大部切り込んで位置し，西側は長方形状のＳＫ 036 によって切られている。

主軸方向はＮ－6.5°－Ｗで，長径 4.7ｍ・短径 4.53ｍ・面積 21.29m² ほどで東南壁がやや南に張りだした方形状の平面形を呈している。

壁高は東壁が 36cm・北壁が 24cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがり南壁は 34cm ほどである。西壁はＳＫ 036 により切られ確認できない。

床はほぼ平坦で堅いロームであり，南側中央部にＳＫ 069 ・ＳＫ 070 が切り込んでいる。壁側溝は 36 cm内外の幅でカマドと土壙によって切られる部分を除き全周すると想定される。

ピットは４個確認され P_1～P_4 は主柱穴と考えられる。

覆土は，褐色土層からなり，床中央から西北部はかなり撹乱をうけ削平されている。

カマドは(第 21 図)ほぼ北壁の中央部に位置し，主軸方向はＮ－0.5°－Ｅで，長径 135cm ・短径 98cmほどで，北壁を約 60cmの幅で 50cmほど掘り込み，ゆるい傾斜の煙道部となる。火床は不定形で床を 10cmほど掘り窪めて造られており，袖部の両側は撹乱によりかなり破壊されているが白色粘土からなり，東袖はやや砂質の粘土で構築されている(62cmほどの 間隔を有している)燃焼部に支脚とわずかな土器片が検出された。

遺物は P_1 付近に土製支脚が検出され，カマド付近に甕と杯等検出された。

出土遺物(第 23 図)　土師器の大型甕・甑・杯などがある。

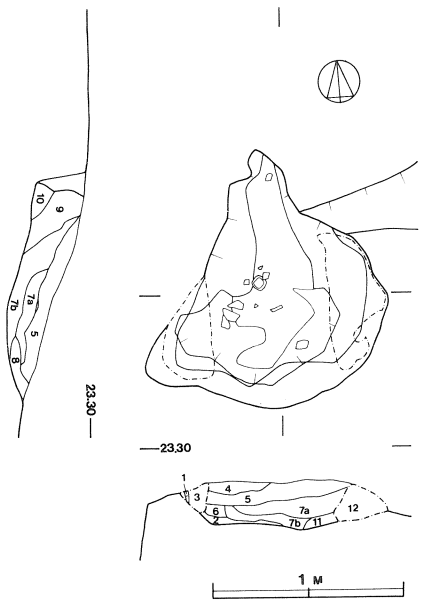
１の甕はカマド付近から出土しており，口縁部は平坦で頸部からゆるやかにひらく。甑は小片のため掲載を省いた。

２の杯もカマドの東袖付近から出土しており，内面をていねいに調整している。

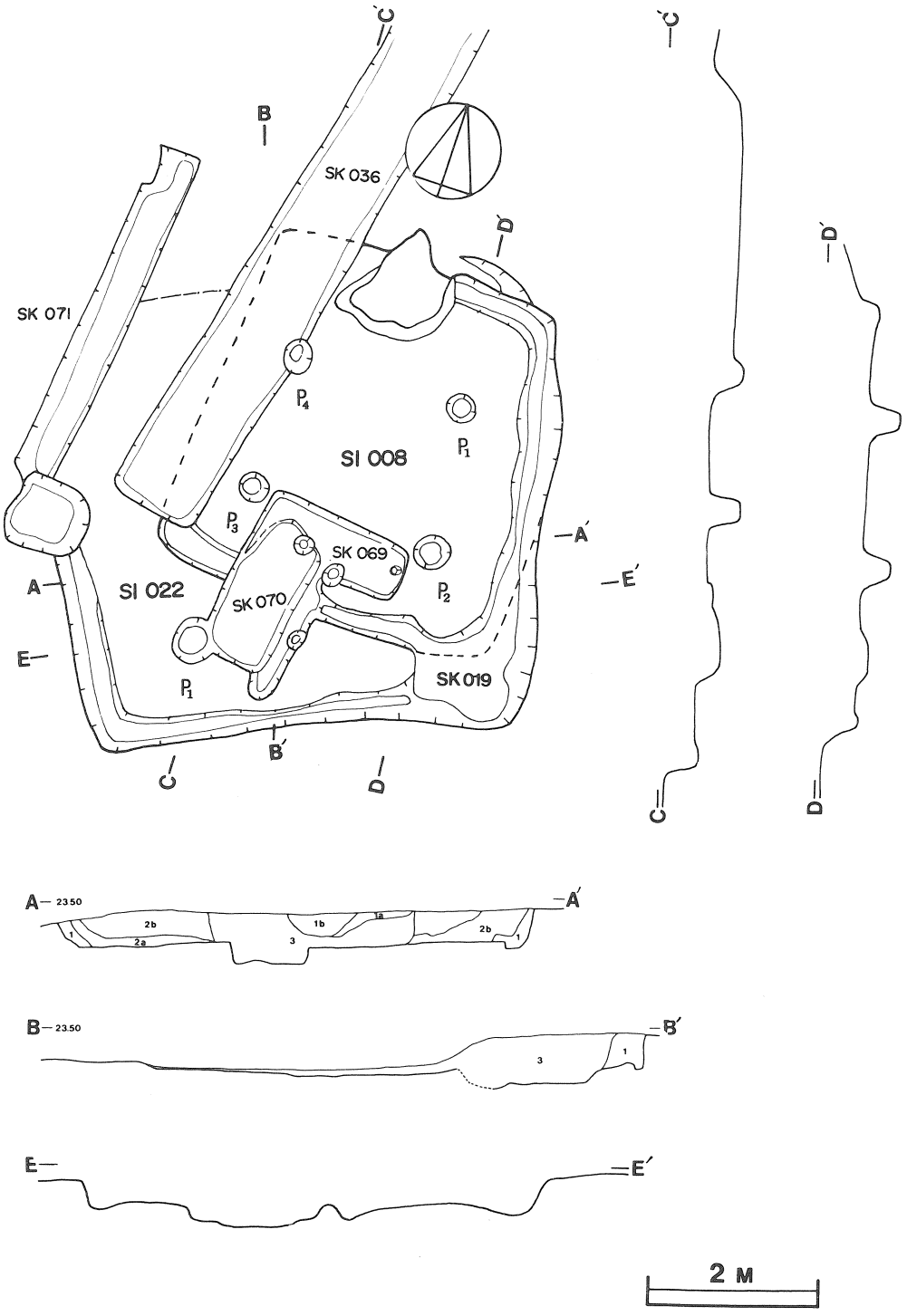
その他の遺物では，土製支脚が２点あった。

ＳＩ 008 土層解説

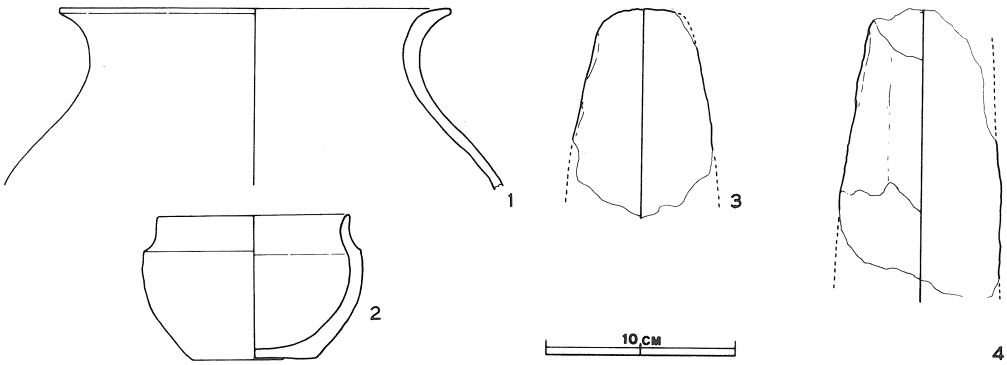
1.	Hue 7.5ＹＲ	5／6 明　褐　色	砂質(微)
2.	Hue 7.5ＹＲ	5／6 明　褐　色	ローム小ブロック・焼土(少)
3.	Hue 7.5ＹＲ	6／3 にぶい 橙 色	白色粘土(多)・焼土(微)
4.	Hue 7.5ＹＲ	4／3	
	褐　色	焼土の小ブロック(中)・炭化物(少)・粘土(中)	
5.	Hue 2.5ＹＲ	3／2	
	暗 赤 褐 色	黒色の粒(多)・粘土(少)・焼土の粒(多)	
6.	Hue 2.5ＹＲ	4／4	
	にぶい赤褐　色	焼土の小ブロック(微)・焼土粒子(微)・粘土(微)	
7.	a　Hue 2.5ＹＲ	3／4	
	暗 赤 褐 色	焼土の小ブロック(微)・焼土の粒(多)	
	b　Hue 2.5ＹＲ	3／4	
	暗 赤 褐 色	焼土の小ブロック(中)・焼土の粒(多)	
11.	Hue 2.5ＹＲ	3／4	
	暗 赤 褐 色	炭化物(微)・砂質(微)・焼けたローム小ブロック(多)	
12.	Hue 7.5ＹＲ	4／5	
	にぶい褐色	砂質粘土(多)・ロームの粒(微)	



第 21 図　ＳＩ 008　カマド実測図



第22図　ＳＩ008・022　実測図



第23図　ＳＩ008　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	38	32	36	主柱穴	P_3	37	36	38	主柱穴
P_2	40	40	34	主柱穴	P_4	32	28	39	主柱穴

ＳＩ022（第22図）　本住居址はＳＩ008と重複し同地区より確認され，東南コーナーはＳＫ019によって切られ，北側をＳＫ036・ＳＫ071の長方形状の土壙によって切られ，櫓台部分と想定される土塁状遺構に接して位置している。

主軸方向はＮ－20.5°—Ｗで正確な規模は把握できないが東西が5.52m の方形状の遺構と想定される。

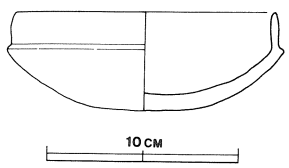
壁高は26～78cmほどであるが南側以外は不明確である。壁側溝は西南壁ぎわより南壁にかけて確認された。

ピットはわずかに長軸40cm・深さ63cmほどのP_1が確認され，ＳＫ070・ＳＫ069内にもピット状のものが検出されたが本遺構に伴うかは不明である。

覆土は南側で暗褐色土が30～40 cmほど堆積し，北側は確認できないほど削平されている。

遺物は（第24図）ＳＩ036の壁ぎわに杯が検出されたが本住居に伴うものかどうか不明である。

炉は検出されず，カマドもＳＩ008とＳＫ036により検出されない。



第24図　ＳＩ022　出土遺物

SI 009（第26図）　本住居址は東部地区西端のC8h2・h3・h4・i2・i3・i4に確認され，南にSB 012が接し，北壁をSK 017が切り込んでいる。

カマドは北壁の中央部に設けられ，住居址の主軸方向はN－19.5°－Wで，長径4.88m・短径4.65m・面積22.69m^{2}で方形状の平面形を呈している。

壁高は20～28cmほどで，カマドから西壁に幅20cm，深さ11cm内外の壁側溝があり，南壁測溝は撹乱をうけ不明確である。床はほぼ平坦で堅いロームであり，東南コーナーのSK 158（SB 012－P_6）が切り込んでいる。

ピットは6個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられるがP_2は段差を持ち，P_4はやや大きい。P_5～P_6は壁側穴的なものと考えられる。

覆土は，ほとんどがローム粒子・小ブロックを含む暗褐色・褐色土層からなる。

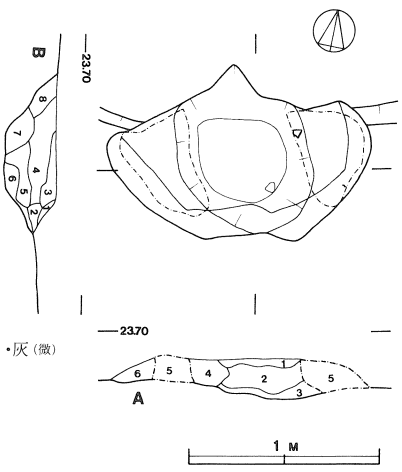
カマド（第25図）は北壁の中央部にN－5.5°－Wで，長径135cm・短径90cmほどで，北壁を50cmほどの幅で25cmほど掘り込み煙道部としている。火床は長径70cm・短径60cmほどの楕円形状に約14cmほど床を掘り窪めてある。袖部は黒色土混じりの砂質粘土層で，北壁よりやや東南向きに構築され，燃焼部15cmほどでわずかの土器片が検出され，天井部はわずかに5cmほど残存し，ほとんど削平されていると考えられる。さらに焚口の南方床に焼土が検出されている。

遺物は南壁側溝よりに甕片・覆土中より須恵器の杯が出土している。

出土遺物（第27図）　土師器の甕・杯，須恵器の杯がある。

1は口径23.4cmを測る大型甕で，口縁が短く屈曲して内側が凹面になり，外側で段をつくる。杯は外稜・内傾立ち上がり口縁の小片がある。

2の須恵器の杯は，ミズビキ成形のあと回転ヘラケズリ調整を行なっている。

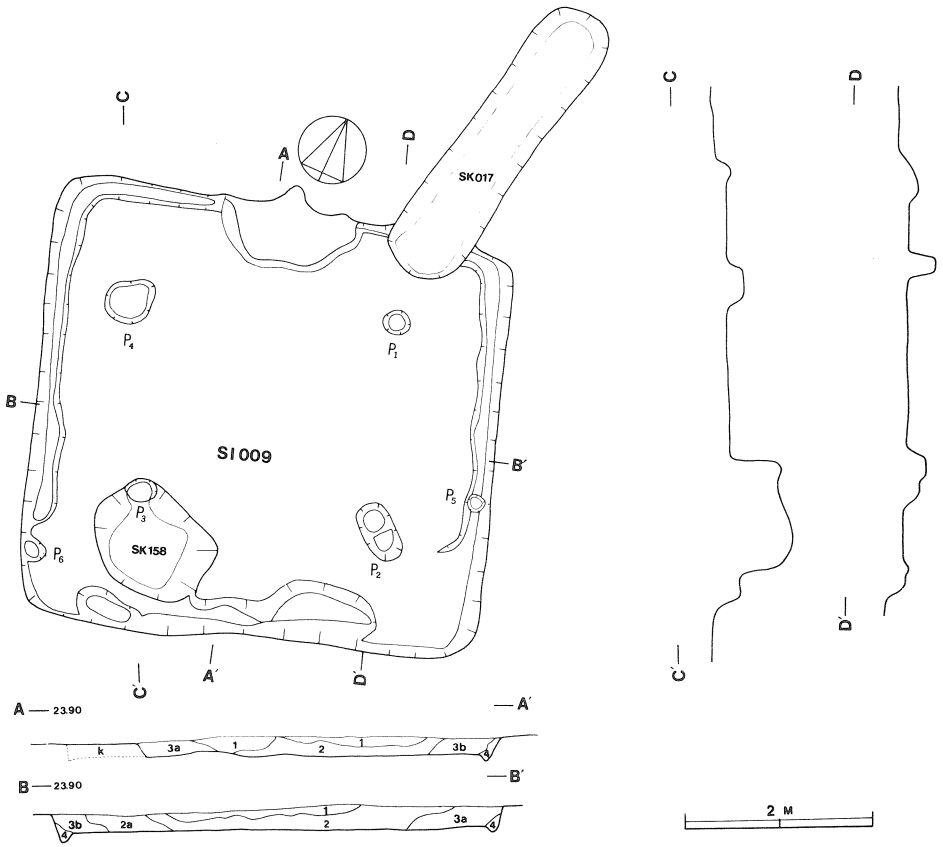


SI 009　カマド土層解説

A 1. Hue 2.5YR 4/3　にぶい赤褐色　砂質粘土(少) 黒色土(少) 木炭灰(微) やけたロームの粒(微)
2. Hue 2.5YR 3/3　暗赤褐色　砂質粘土(中) 焼けたロームの粒(中)
3. Hue 2.5YR 4/6　赤褐色　ロームの焼けた粒(少) ロームの焼けたブロック(少)
4. Hue 2.5YR 4/3　にぶい赤褐色　砂質粘土(多) やけたロームの粒(微)
5. Hue 7.5YR 7/3　にぶい橙色　砂質粘土(多)
6. Hue 7.5YR 6/3　にぶい褐色　砂質粘土(多) ローム土(少)

B 1. Hue 7.5YR 4/4　褐色　砂(微)・焼土の粒(微)・黒色土(微)
2. Hue 2.5YR 2/2　極暗赤褐色　木炭片(微)・ロームほぼ焼けた粒(微)・灰(微)
3. Hue 2.5YR 3/3　暗赤褐色　白い色の砂(小)・焼けたローム粒(微)
4. Hue 2.5YR 4/6　赤褐色　白い色の砂(微)
5. Hue 2.5YR 3/4　暗赤褐色　焼けた土のかたまり(微)
6. Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　炭化物(微)・焼土粒(微)
7. Hue 2.5YR 3/2　暗赤褐色　砂質(少)・焼土粒(少)・炭化物(微)
8. Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　砂質(中)・焼土粒(微)・炭化物(微)

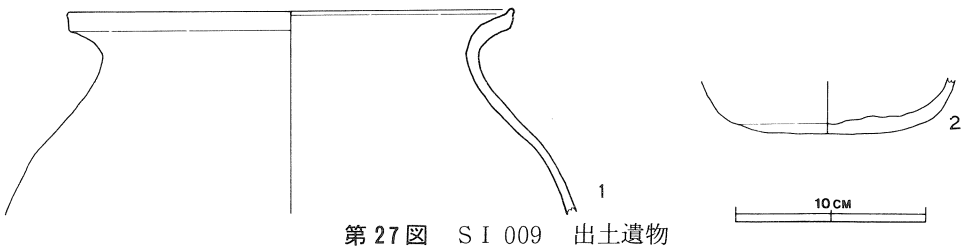
第25図　SI009　カマド実測図



S I 009 土層解説

1.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(中)
2.	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	軟質褐色ブロック(少)・ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)
3. a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少)
b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームブロック(少)・軟質褐色ブロック(少)
4.	Hue 7.5YR 3/3	褐　色	ロームブロック(少)

第26図　S I 009　実測図



第27図　S I 009　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	26	26	29	主柱穴	P_4	43	41	17	主柱穴
P_2	65	34	18	主柱穴	P_5	18	17	18	
P_3	34	26	53	主柱穴	P_6	30	23	6	

ＳＩ 011（第 29 図）　本住居址は東部地区の東北斜面Ｃ９ｇ３・ｇ４・ｈ３・ｈ４に確認され，ＳＩ 012 を切って位置し東側は調査区域外で急崖となっている。

主軸方向はＮ－7.5°－Ｗであるが東壁の追求が不可能であり，現況での長径は 4.63cm ・短径 4.62m ・面積 21.39m^2 である。傾斜地であり表土からの深さは西壁ぎわで 1.８ｍを測る。南壁は約 80cm ほどである。西壁は床面よりほぼ垂直に立ちあがり中段で約 30° の角度で傾斜している。

床はロームをかなり掘り込み，堅くほぼ平坦であるがやや南に傾斜を示している。壁側溝の西壁は幅 40cm 内外で 18cm ほどの深さを有し，西南コーナー付近で狭くなり南壁で 20ｃｍほどになり立ちあがる。

ピットは３個ほど確認されているが，西側に並んで検出された P_1～P_3 は主柱穴と考えられ，P_2 は補助的な柱穴と考えられる，東側については未調査で確認できない。

カマドは北壁の東よりに位置し，ＳＩ 012 の床を約 90cm ほど掘り込んで構築され，主軸方向はＮ－7.5°－Ｅで，長径100cmで，短径は東壁によって確認できないが現況で 70cmである。焚口部を西南方向に向け，袖部は残存せずわずかに天井部と考えられる砂質粘土層が潰れた状況で検出される燃焼部に多数の土器が検出され，天井部付近からも多数出土しておりあたかも廃棄されたような状況である。遺物は燃焼部東よりから支脚・北よりに甕片が検出された。

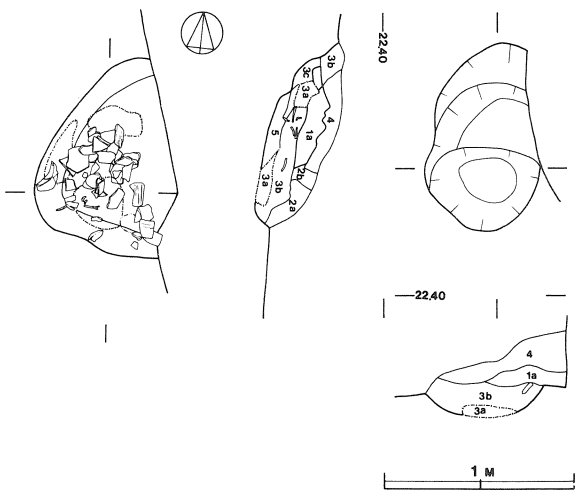
覆土は，第１・２層が褐色土の表土であり，第３層がやや堅いにぶい褐色土，第８層が黒色土が入り込み，第６層は明褐色のローム層が流れ込んでいる。

床面付近からの遺物はほとんど検出されなかった。

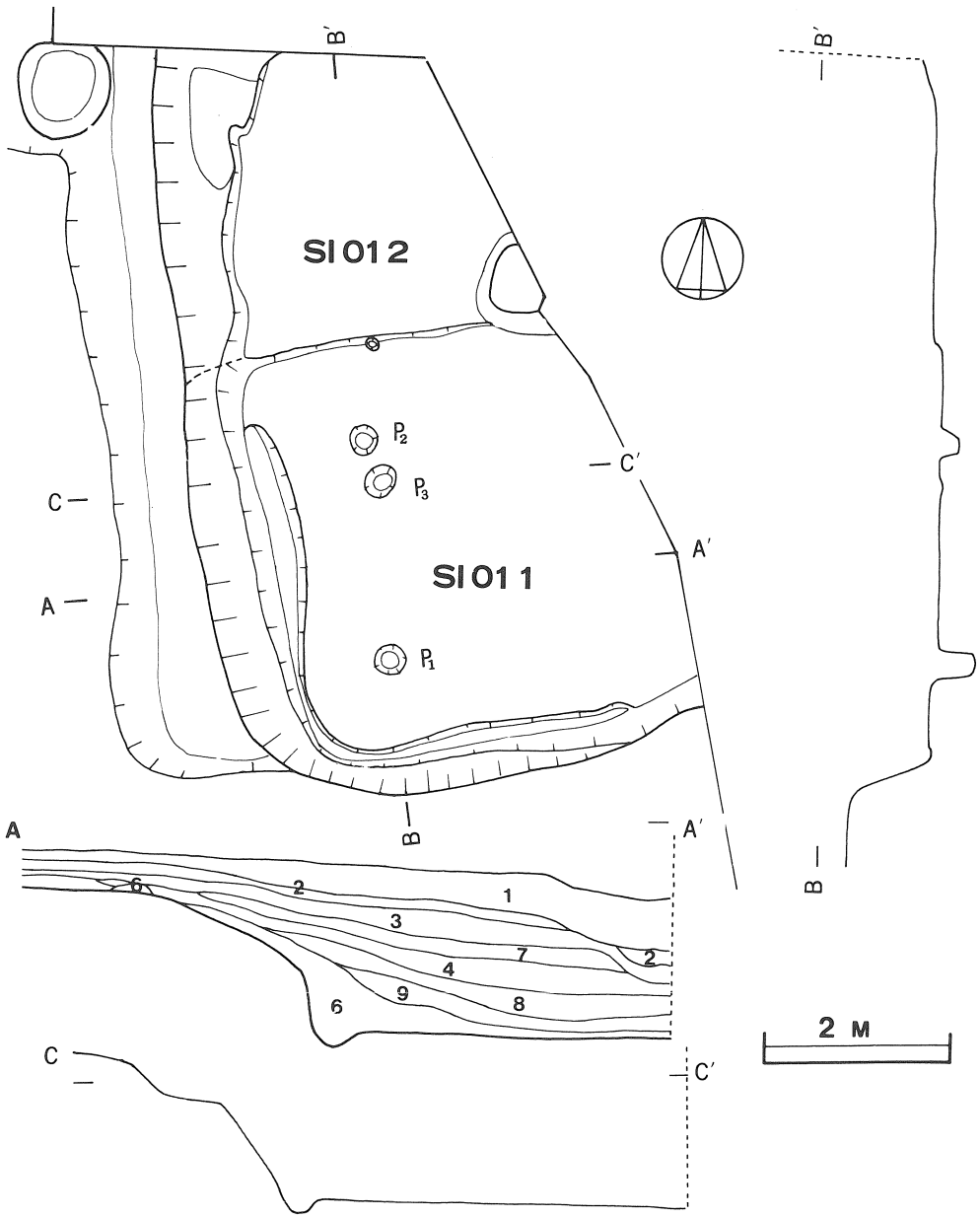
出土遺物（第 30 図）　土師器の甕がカマド中から出土している。

１は大型甕の口縁部，２は底部である。２は外面をタテにヘラケズり調整しており，この種の長胴と考えられる大型甕の出土例は，本遺跡では少ない。３はやや小型で，頸部外側にヨコナデによる凹面がめぐる。４の甕も小型で，口縁部内側が凹面をなす。４は第１次調査で検出したものである。

その他の遺物では，土製の支脚が出土している。（５）



第 28 図　ＳＩ 011　カマド実測図



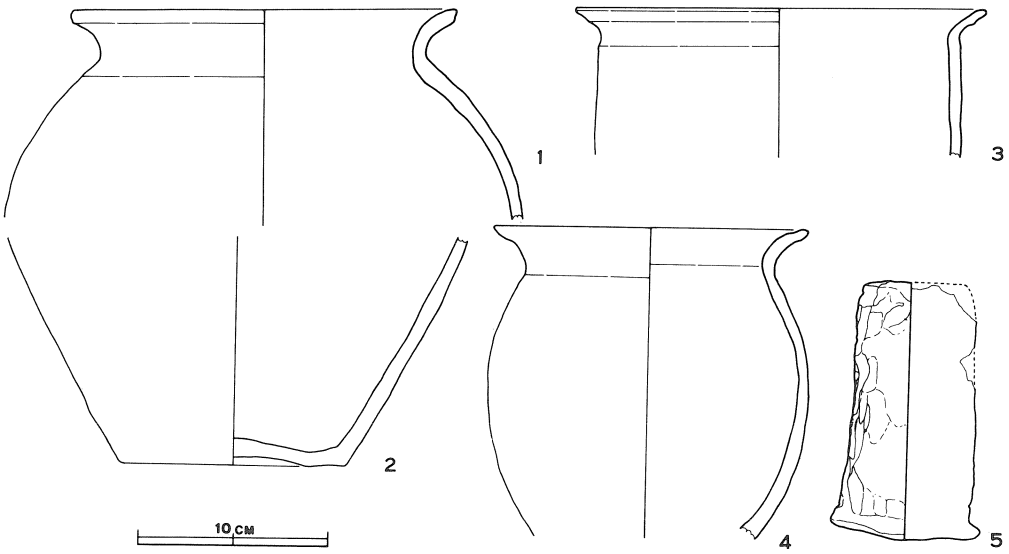
S I 011 土層解説

1. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 表土
2. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 表土
3. Hue 7.5YR 5/4 にぶい褐色 ローム粒子含
4. Hue 7.5YR 4/3 褐 色 ローム粒子含
5. Hue 7.5YR 5/6 明 褐 色 ローム小ブロック含
6. Hue 7.5YR 5/8 明 褐 色 ロームブロック含
7. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ローム粒子含
8. Hue 7.5YR 2/2 黒 褐 色 ローム粒子含
9. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色 ローム粒子含

S I 011 カマド土層解説

1. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 砂質粘土(中)・ローム粒子(中)含
2. a Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 焼土粒子(少)含
   b Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 焼土ブロック(極少)含
3. a Hue 2.5YR 4/6 赤 褐 色 焼土粒子(少)含
   b Hue 5YR 3/4 暗赤褐色 焼土層
   c Hue 5YR 3/4 暗赤褐色 焼土ブロック(少)含
   焼小ブロック(少)・焼土粒子(中)含
   焼土ブロック(少)・粒子(中)含
   ロームブロック(少)含
   焼小ブロック(少)含
4. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ローム粒子(中)含
5. Hue 7.5YR 4/3 褐 色 ローム粒子(少)・焼土粒子(少)含

第29図 S I 011・012 実測図



第30図　ＳＩ011　出土遺物

ＳＩ012（第29図）　本住居址はＣ９ｇ３・ｇ４に確認され，ＳＩ011にそのほとんどを切られ，さらに調査区域外に伸びるので平面形および規模等の把握は困難である。

床はほぼ平坦でＳＩ011と10cmの比高をもち，壁はゆるやかに傾斜を示している。

遺物はほとんど検出されなかった。

ＳＩ013　本遺構はＣ９ｄ２・ｅ２に確認され，東部地区の東北端部に位置している。当初はＳＫ002・003として不定形の土壙状の遺構としてとらえ，調査後住居址状遺構としたが，住居としては不規則であり，遺物もほとんで検出されず，床もかなりの凹凸がみられる。壁高は南側で70cmほどであるが西側は20cmほどの段差を有している。

覆土は表土下第２層より撹乱を受けている。なお，中世城館跡の主郭部の東北(艮)の方向に位置し鬼門でもあり，城館跡に伴う何らかの遺構としての可能性も考えられる。

ＳＩ014（第31図）　本住居址はＣ８ｆ６・ｇ５・ｇ６・ｇ７・ｈ５・ｈ６・ｈ７・ｉ５・ｉ６に確認され，ＳＩ015が北側に重複し，中央から南にかけてＳＢ007・ＳＢ006が重複し，さらにＳＫ015・ＳＫ064～067までの土壙が切っており，かなり重複関係がみられる。

主軸方向はＮ－48°－Ｗで，長径7.96ｍ・短径6.96ｍ・面積55.40㎡ほどの長方形状の平面形を呈している。

壁高は約10cm内外で浅く，壁側溝が東南コーナー付近を除きほぼ全周する形で幅23cm 内外で深さは8cmほど確認されるのみである。

覆土は暗褐色土の第１層のみでありかなりの撹乱を受けている。

床は，北壁をＳＫ064～067までの土壙により切られ，ＳＫ066からわずかな焼土を検出し，

おそらくカマドを破壊していると想定される。さらにSK 015が北壁ぎわより東南の中央部にかけて4.55mほど床を切り込んでいる。床面はほぼ平坦をなしやや南に傾斜を示している。

ピットは6個確認され，P_1～P_3までは主柱穴と考えられる。P_4はSB 006－P_5と考えられ，さらに中央よりのSK 015に接する土壙の輪郭はSB 006－P_5である。実測図のSBについては輪郭のみにとどめることにしたが断面図がかかる場合には下場をも記入することにした。P_6はSB 007－P_5と考えられる。さらに東南にSB 006－P_7が位置し，西南コーナーにSB 006－P_4・P_3が位置している。P_5はSI 015に伴う柱穴と想定される。

遺物は，覆土が極浅いためほとんど検出することができない。

SI 015（第31図）　本住居址はC8f5・f6・g5・g6に確認され，SI 014に切られ，東部地区の北側に位置している。

主軸方向はN－24°－Wで，長径5.29m・短径4.89m・面積25.86m^{2}ほどで西北コーナーがやや隅丸状を示す方形の平面形を呈している。

壁高は12cmほどであるが南壁はSI 014に切られている。壁側溝が西南コーナー付近を除き，幅20～30cm内外，深さ10cmほどで一周している。

炉址は，中央部よりやや北側に長径82cm・短径78cmほどの楕円形状を呈し，床を深さ5cmほど皿状に掘り窪め，炉床は堅く，内部にはわずかではあるが焼土が充満していた。

床はほぼ平坦をなすロームであり，西南部をSK 064～067によって大部分を破壊されている。なお北壁ぎわおよびその両側と東南側に焼土が検出され，火災にあったと考えられる。

ピットは，P_1とP_5が考えられるが，P_5は主柱穴と考えられる。

出土遺物（第32図）　土器は，弥生式土器の壺の小片が少量出土している。

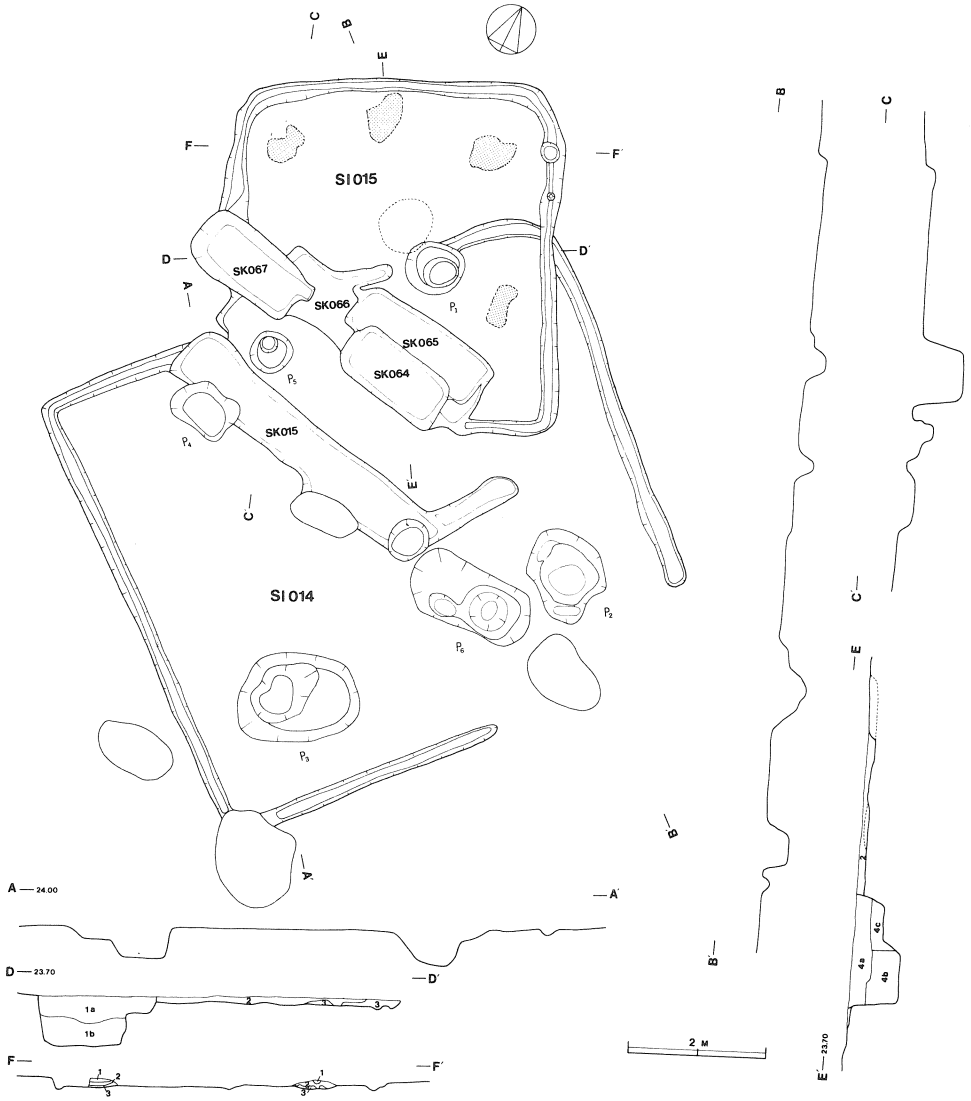
器形は，頸部がゆるやかに内側に弧をえがく類で，文様からいくつかに分類できる。

1は，やや器壁が厚く，外側に粘土紐を貼りつけて，ヘラ状工具により刻み目を入れており，端部には縄文の押捺がみられる。2は複合口縁をなし，複合部と端部に縄文を施す。3は口縁部の下にヘラ状工具による刺突があり，端物には縄文の押捺がみられる。

3・5・6・9・10・17は同一個体と考えられる。頸部は無文帯を配し，胴部には斜行縄文を施し，底部外面には木の葉の圧痕を残している。

頸部は，4本を単位とした櫛状工具で区画しているほか，波状の櫛描文をもつもの(7)S字状結節文をもつもの(8)などがある。胴部片には，原体の異なった付加条縄文がみられた。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	67	67	29	主柱穴	P_4	84	67	30	主柱穴
P_2	110	89	28	〃	P_5	55	41	43	SI015主柱穴
P_3	158	111	34	〃	P_6	188	85	43	SH007－P_5



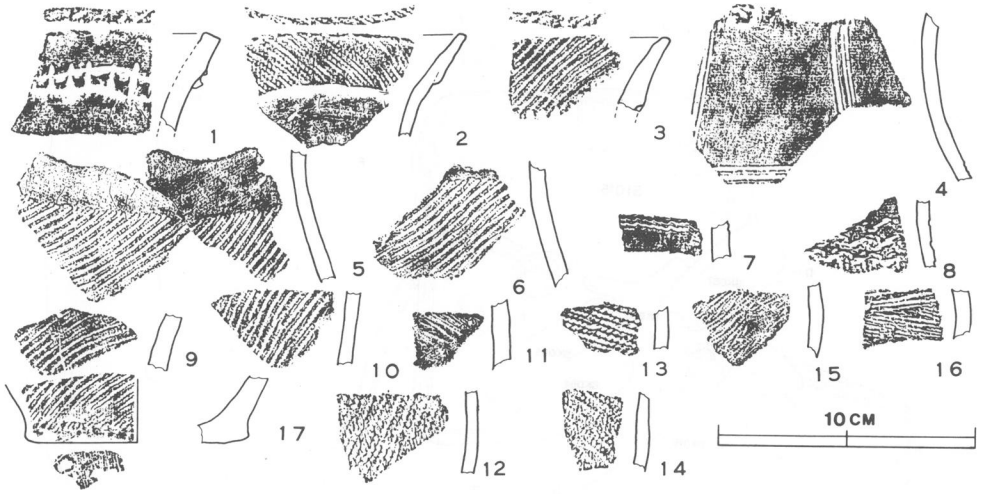
SＩ 015 土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ごくわずかの焼土・ロームブロック・ロームの粒(多)
	b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームブロック・ロームの粒(少)
2.		Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ロームブロック・ロームの粒(わずか) 焼土(ごくわずか)
3.		Hue 7.5YR 4/4	褐　色	
4.	a	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームの粒(少)・炭化物焼土(ごくわずか)
	b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームブロック・ローム粒(多)
	c	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	a・bの中間くらいにロームブロック・ローム粒

焼土土層解説Ｆ－Ｆ′

1.	Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ローム粒子(少)・焼土のかたまり(少)
2.	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	焼土のかたまり(多)
3.	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	焼土(少)

第31図　ＳＩ014・015　実測図



第32図　ＳＩ015　出土遺物

ＳＩ016（第34図）　本住居址は東部地区の東端斜面Ｃ９ｉ４・ｊ４・ｊ５に確認され，ＳＩ011・ＳＩ018の東南に位置し，東壁は調査区域外にある。

主軸方向はＮ－11°－Ｗで，長径3.59ｍほどで短径は東壁の追求が困難なため現況では1.86ｍ，面積6.67ｍ^{2}ほどである。

カマドは北壁に位置し区域外に接している。南北に長い長方形状の平面形と考えられる。

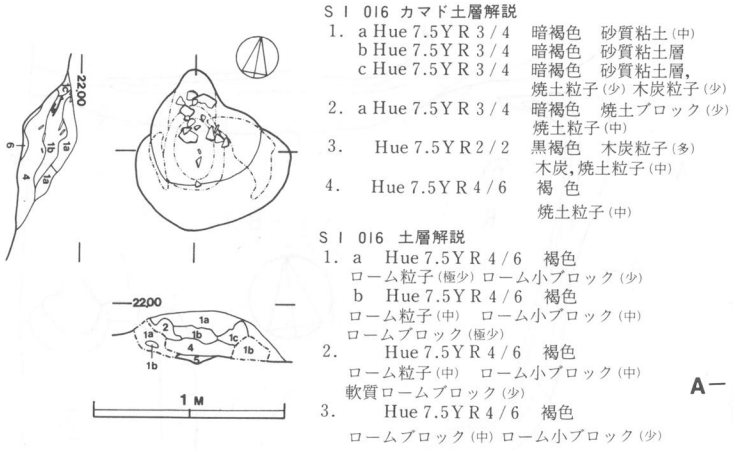
壁高は，西壁88cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがり傾斜面に接している。

床は，ほぼ平坦なロームであり，P_1・P_2が確認されカマドとほぼ同一直線上に位置し主柱穴と考えられる。

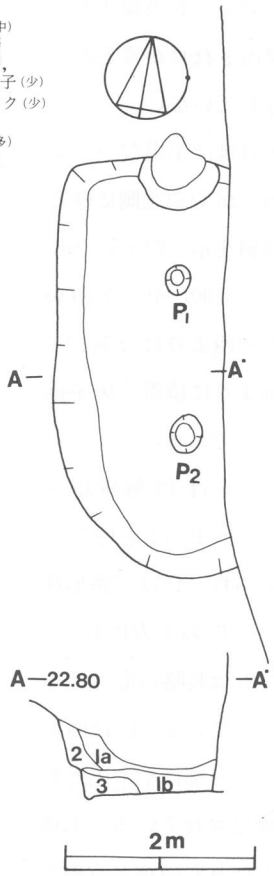
カマド（第33図）は，北壁に位置し，主軸方向はＮ－16°－Ｗで，長径84cm・短径76cmほどを測り，北壁を幅50cm，約45°の角度で31cmほど掘り込み煙道部としている。袖部は良く遺存し，黒色土まじりの砂質粘土で築かれ，36cmほどの間隔を有し，焚口部は東南に開いている。天井部も砂質粘土からなり，わずかな土器が検出され天井部の補強に使われていたと考えられる。

出土遺物（第35図）　土師器の甕，須恵器の杯・皿が出土している。

１は大型甕の胴部で，胴部外面にあらいヘラミガキを有し，下部にはススの付着が認められる。２は須恵器の比較的広い大皿で，この種類の皿はＳＩ039からも出土している。３は須恵器の杯でミズビキ成形によっている。１・３はカマド付近から，２は覆土中から出土した。



第33図 ＳＩ016　カマド実測図

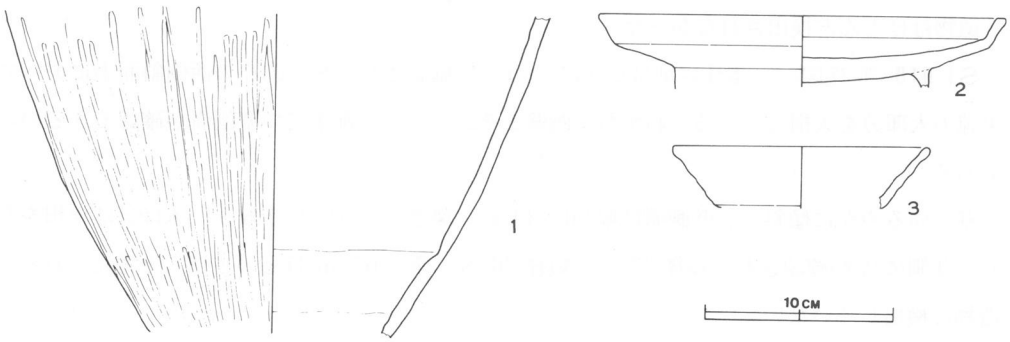


第34図 ＳＩ016　実測図

ＳＩ017（第36図）　本住居址はＣ８ｉ８・ｉ９・ｊ８・ｊ９に確認され，かなり削平をうけ西側にはＳＢ007が接しＳＩ003が東側に位置している。

主軸方向はＮ－29°－Ｗで，長径5.84ｍ・短径5.82ｍ・面積30.83ｍ^{2}ほどで北コーナー部がやや張りだす方形状の平面形を呈している。

壁はほとんど残存せず，深さ6cmほどの壁側溝が南側と西側の一部に幅10～20cmほどの幅で確認され，北側は20～42cmの幅を有してやや北側に張りだす。東側はほとんど確認できない状況である。北側中央よりカマドの一

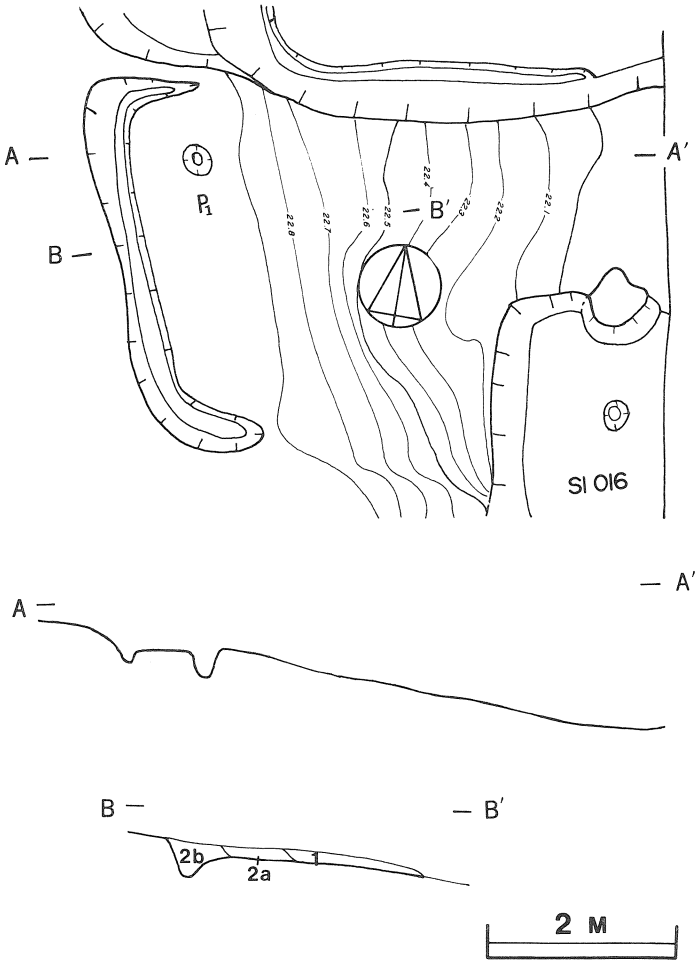


第35図 ＳＩ016　出土遺物

部と考えられる焼土が若干検出されたがほとんど残存していない。

床はほぼ平坦なロームであるがやや北側にゆるい傾斜を示している。SK165（SK007—P_1）が中央部やや西よりに，SK191が南よりに位置し床を掘り込んでいる。

ピットは10個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられ，P_9は三角形状を呈しP_2の南方にあり，P_6・P_8は長隋円形でP_3をはさんでいる。P_7は西南コーナー部にやや出た形で検出されている。本遺構も伴うものかどうかは疑問である。



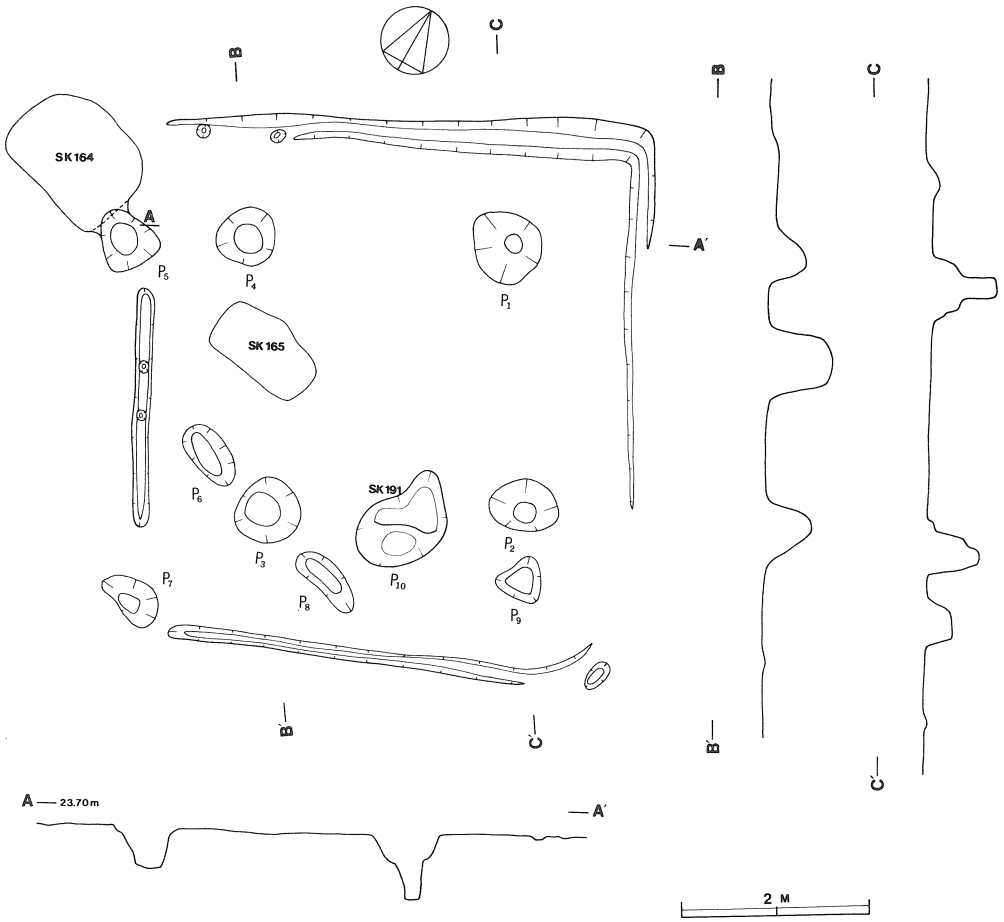
第37図　ＳＩ018　実測図

覆土はほとんどなかったが第1層の暗褐色土層からわずかな焼土・炭化物を含むことから火災にあったと考えられる。

遺物はほとんど検出されなかった。

SI 018（第37図）　本住居址はＣ９ｈ３・ｉ３に確認され，ＳＩ016の西側斜面上にあって東諒の大部分を欠損している。わずかに西壁とそのコーナー部までの壁側溝が確認できるのみである。

壁はゆるやかに傾斜し，壁側溝は幅20～30cm・深さ10cmほどである。床はほぼ平坦をなし，北側にP_1が確認され，長径27cm・短径26cm・深さ65cmほどの主柱穴と考えられる。遺物は検出していない。



第36図　ＳＩ017　実測図

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	61	60	52	主柱穴	P_6	70	33	30	
P_2	62	45	53	主柱穴	P_7	49	33	47	
P_3	60	53	49	主柱穴	P_8	78	24	31	
P_4	66	53	36	主柱穴	P_9	49	35	47	
P_5	62	54	66		P_{10}	70	46	44	

SI 019（第38図）　本住居址はC8j5・j6・D8a5・a6・b5・b6に確認され，北壁がSI 035に接し，SB 014・SB 015が重複し，SB 011が西南コーナーに接し，ほぼ同形態をなすSI 021の南側に位置している。

カマドが北壁のほぼ中央部に位置し主軸方向はN－9.2°－Eで，長径6.81m・短径6.74m・面積45.89m^{2}ほどで西北コーナーがやや隅丸な方形状の平面形を呈している。

壁高は，北壁ぎわがやや深いだけで他は浅く5～14cmほどである。壁側溝はカマドをのぞきほぼ全周しているが，東壁南でやや不明確となる。

床はロームでほぼ平坦をなしているが重複する遺構により多数の穴があけられた状況である。

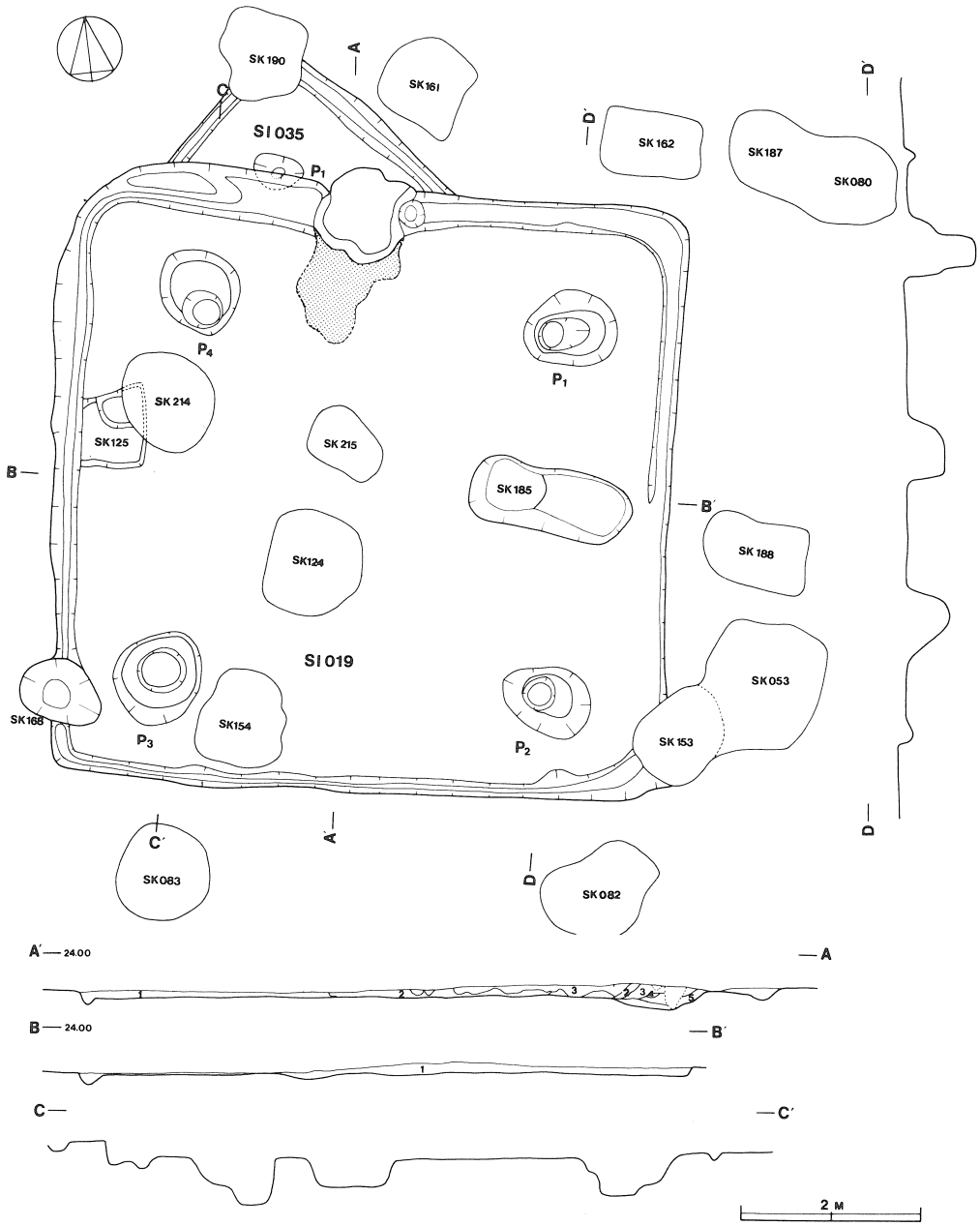
ピットは4個確認され主柱穴と考えられる。SK 125は不明な土壙であるが，他の何らかの遺構である。SK 214・SK 215・SK 185・SK 188・SK 190・SK 161・SK080はSB 015の柱穴跡であり，南側のSK 124・SK 153・SK 154・はSB 014の柱穴跡である。さらに西壁南側を切るSK 168はSB 011の柱穴跡である。

カマドは北壁のやや西よりに位置し，北壁を80cmの幅で22cmほどの掘り込み，SI 035の床をけずって築かれていた。住居全体が削平を受けているためカマドも遺存が悪く，黒色土混じりの砂質粘土によって構築されていると考えられる。袖部は残存していないが，燃焼部には多量の純焼土が検出された。なおカマド東側にはピット状の掘り込みが検出された。

覆土は5～12cmほどでロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土からなり西側が極薄い。

出土遺物は少量で土師器の大型甕の胴部や素縁でやや外傾して立ちあがる口縁をもつ杯の小片がみられた。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	82	67	47	主柱穴	P_3	95	82	37	主柱穴
P_2	76	65	79	主柱穴	P_4	82	76	41	主柱穴



S I 019 土層解説

1. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 はっきりしたロームブロック含
2. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 1より多くのロームブロック粒を含
3. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 ほとんどローム含まない黒色土
4. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームの粒・粒子を含み少量の粘土も混入

S I 019 カマド土層断面

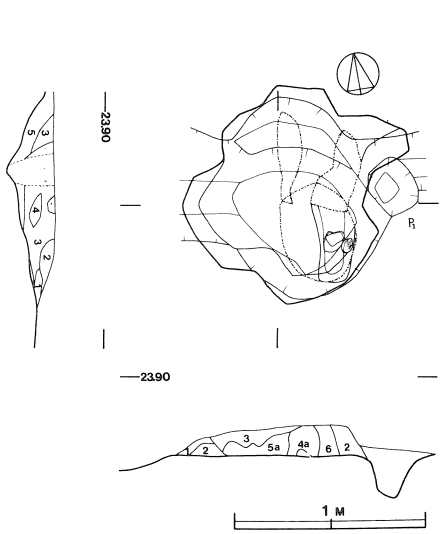
2. Hue 2.5YR 3/2 暗赤褐色 焼土(微)・砂(少)
3. Hue 2.5YR 4/6 赤 褐 色 砂質粘土(微)
4. Hue 2.5YR 4/6 赤 褐 色 砂質粘土(微)
5. Hue 2.5YR 3/3 暗 褐 色 砂質粘土(微)・黒色土(少)

第38図 S I 019 実測図

SI 020 (第41図)　本住居址はD8a3・b1・b2・b3・c2・c3に確認され，カマドをSB 013により切られ，東壁の一部もSB 010によって破壊されて西方は西柵列に接して位置している。

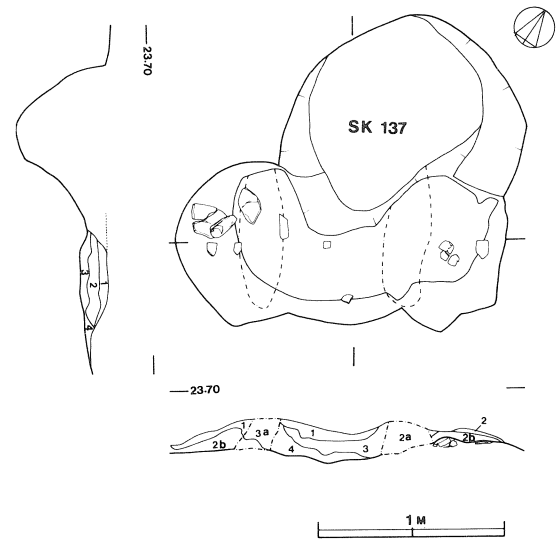
主軸方向はN－26.5°－Wで，長径6.31m・短径6.22m・面積39.24m² ほどの方形状の平面形を呈している。北壁の中央やや西よりにカマドが位置し，カマドを除き壁側溝が30～40cm幅で深さ10cm内外で全周し，東南コーナーがやや張り出す。壁は17～21cm ほどを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅いローム でほぼ平坦をなしている。

ピットは4個確認され，P_1～P_4 は主柱穴と考えられる。P_3 はSK 139によって切られている。



SI 019　カマド土層解説
1.　Hue 2.5YR 2/2　極暗赤褐色
　　ローム小ブロック(微) 熟土(微)
2.　Hue 2.5YR 3/2　暗赤褐色　焼土(微) 砂(少)
3.　Hue 2.5YR 4/6　赤　褐　色　砂質粘土(微)
4.　Hue 2.5YR 4/6　赤　褐　色
　　砂質の焼土のかたまり
a　Hue 2.5YR 3/3　暗　褐　色　砂質粘土(微)
　　黒色土(少)
　　3/3　暗　褐　色　砂質粘土(微)
　　黒色土(少)
a　Hue 2.5YR 2/4　極赤暗褐色
5.　Hue 2.5YR　ロームブロック(少)
　　焼土ブロック含む
6. Hue　ローム，ハードロック黒色土含む

第39図　SI 019　カマド実測図



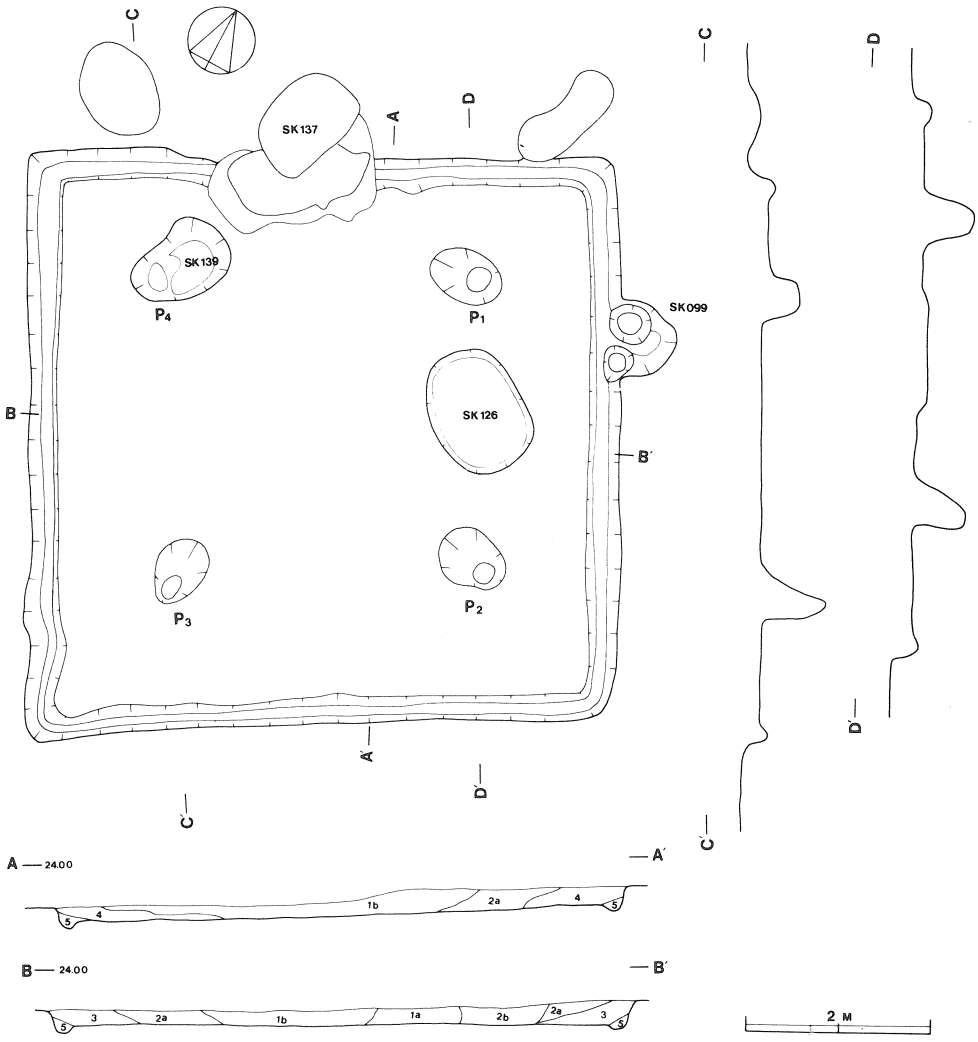
SI 20　カマド土層解説
1. Hue 7.5YR 3/3　暗褐色
　炭化物(多) 焼けたロームの粒(微)
2. Hue 7.5YR 2/3　極暗赤褐色
　a　砂質　焼土ブロック，やわいロームブロック(少)
　b　砂質　ロームブロック(少) 焼土小ブロック
　　砂質粘土(微) ロームの焼けた粒(中) 炭水化物(少) 黒色土(少)
3. Hue 2.5YR 4/6　赤褐色
　焼けたロームの粒子(多) 焼けたローム小ブロック(中)
4. Hue 2.5YR 2/2　極暗赤褐色
　炭化物(少) ロームの焼けた粒(少)

第40図　SI 020　カマド実測図

東壁よりのSK 126は床を10cmほど掘り窪め，本住居には伴わない新しい撹乱と想定される。

覆土は16～25cmほどで，ロームブロック・粒子を含む黒色土・暗褐色土より成る。

遺物は，床面にはほとんど検出されず溝側に若干出土し，カマドの西袖脇に甕・杯・支脚等が出土している。



S I 020　土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(中)・軟質ロームブロック(少)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少)・軟質ロームブロック(中)
2.	a	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	ローム小ブロック(中)
	b	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	ローム小ブロック(中)・ローム粒子
3.		Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(中)・軟質ロームブロック(少)
4.		Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(中)・ローム小ブロック(多)
5.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(少)

第41図　S I 020　実測図

カマド(第40図)は北壁のほぼ中央に位置し，主軸方向はＮ－21°—Ｗで，長径1.76ｍ・短径はＳＫ137によって切られているため現況で0.7ｍを測る。袖部は黒色土混じの砂質粘土で築かれ，53cmほどの間隔をあけ，西袖脇から支脚が検出され，天井部は欠損している。火床は楕円形状で6cmほど掘り窪めている。

出土遺物（第42図）　土師器の甕・杯・鉢がある。

1の甕は小型で，口縁から胴部にかけて屈曲がほとんどない。

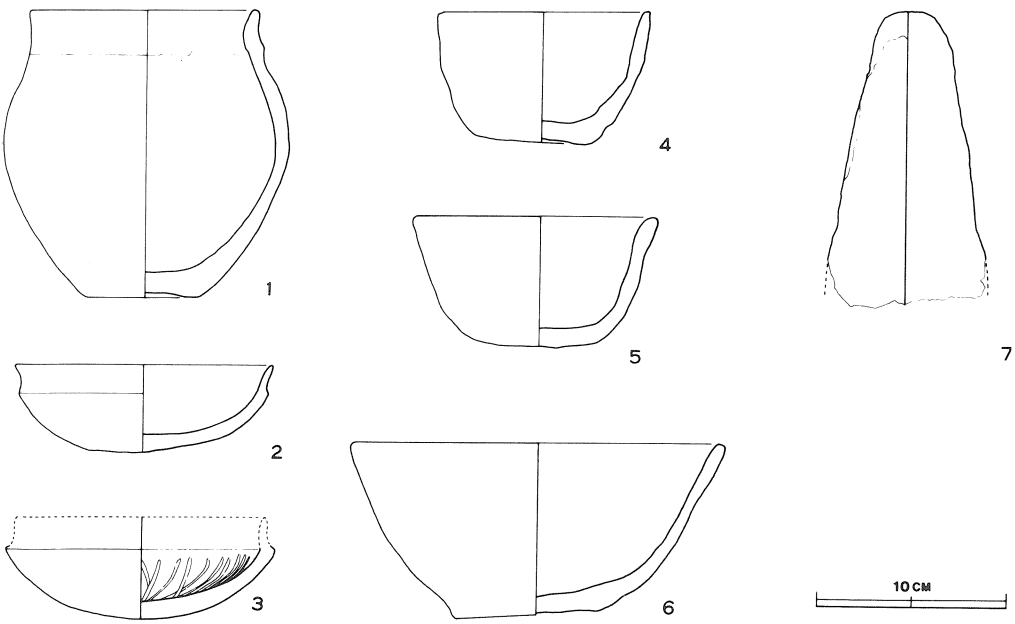
2・3は外稜をもつ杯である。2はやや外傾して立ち上がる口縁で，内面をヨコナデしたあとヘラミガキを施している。3は口縁を欠損しているため不明であるが，底部内面に放射状のヘラミガキ(暗文)を施している。4・5の杯は底部がやや安定しており，器壁が肉厚である。

6の鉢は，底部から口縁部へかけて大きく外側へひらく形で，4・5の杯と手法が似ている。

その他の遺物としては，土製支脚がカマドの西袖脇から出土している。

1・3はカマド付近，2はカマド，4・6は支脚の西隣り，5は西壁側溝からそれぞれ出土した。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	78	47	54	主柱穴	P_3	62	40	71	主柱穴
P_2	58	52	47	主柱穴	P_4	49	35	41	主柱穴



第42図　ＳＩ020　出土遺物

SI 021（第44図）　本住居跡はＤ８ｃ４・ｃ５・ｃ６・ｄ４・ｄ５・ｄ６・ｅ５に確認され，北壁カマドの東側をＳＫ 186（SB014－P_4）が切り，さらに東にＳＫ 042が北壁を切り，東南コーナーをＳＩ 027切って位置している。

カマドは北壁のほぼ中央に位置し，住居の主軸方向はＮ－12.8°—Ｅで長径 6.61ｍ・短径 6.39ｍ・面積 42.23m^2ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は７～11cmほどでほぼ垂直に立ちあがり，壁側溝がカマドを除き全周し，南側はやや幅をもちゆるやかであり，それほど深いものではない。

床はほぼ平坦をなす堅いロームである。

覆土は５～10cm内外の暗褐色・褐色土層からなる。

ピットは６個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられ，P_5は東北コーナーに位置する貯蔵穴と考えられる。P_6は南壁ぎわに位置し，何らかの施設と考えられるが不明である。

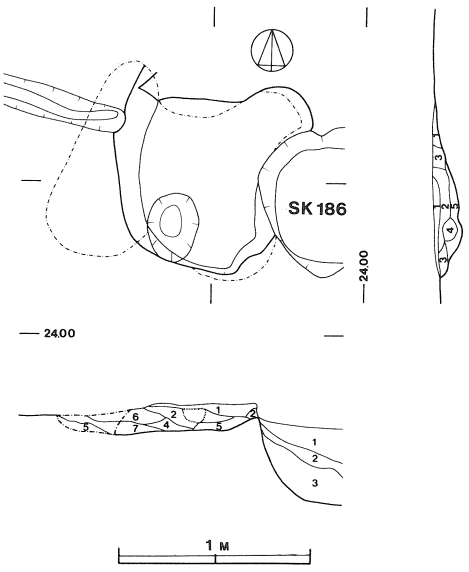
遺物は，P_1とP_2の中間床面に完形の杯が４個一括して出土し，東北コーナーの貯蔵穴内より杯が壁ぎわに検出されている。

カマド（第43図）は北壁の中央に位置し，主軸方向Ｎ－10°—Ｅを向き，長径 95cm・短径 88cmほどで東側はＳＫ 186によって壊されている。削平を受けていると考えられ，煙道部・天井部は検出されずわずかに東袖部が崩壊した状態で確認された。焚口部の床面に小ピットが検出されている。

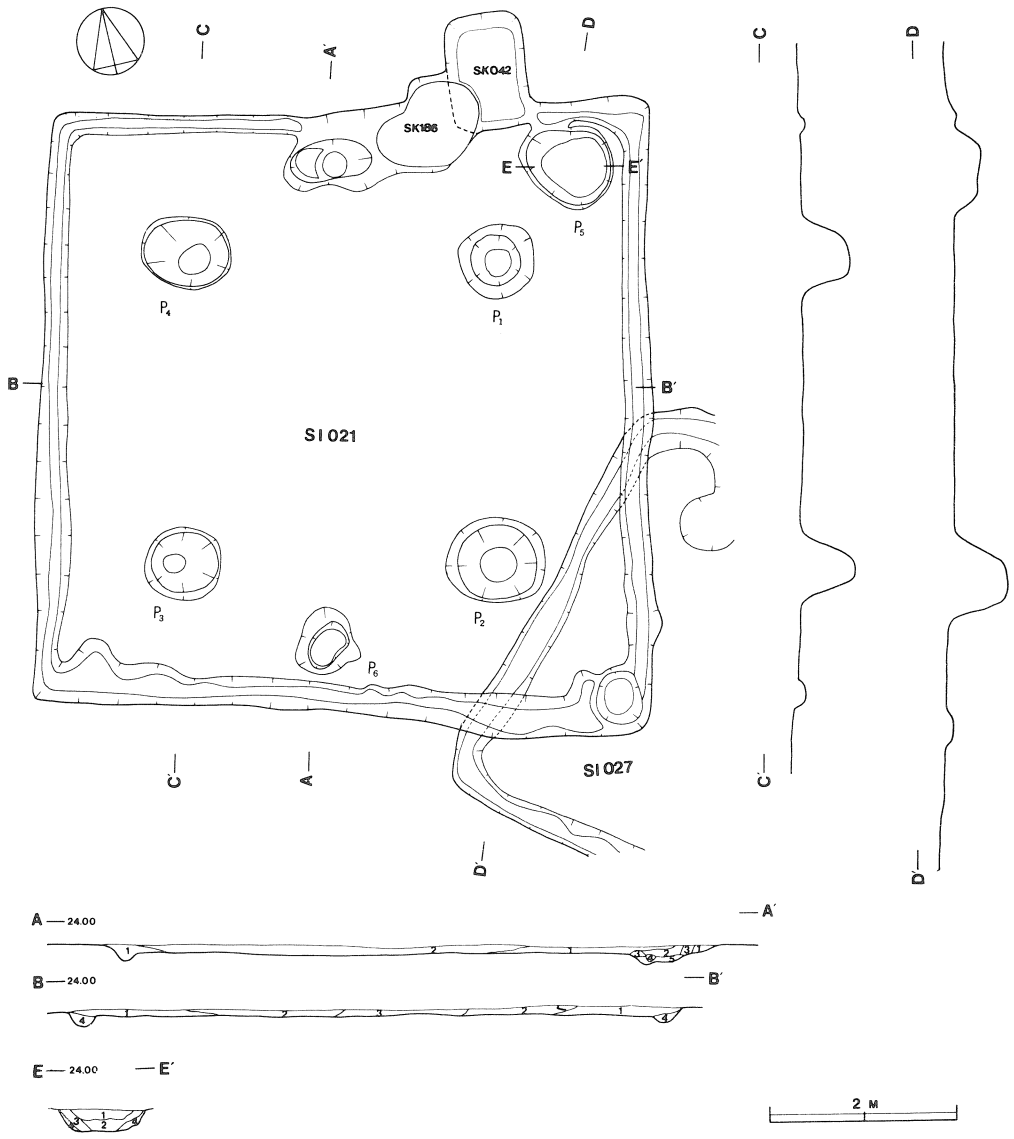
出土遺物（第45図）　土器は，土師器の甕・甑・杯がある。

１の甕は，やや小型で小片のため全体の形はわかりにくい。

本住居址からは杯が多量に出土しており，主なものは２～11に示した。大きく分けて外稜を持つ形と素縁の形に分けられる。外稜をもつ杯（２～７，９，10）は口縁の立ち上がり状況や，外稜・法量なども一定せず，中には10のように，底部内面に放射状ヘラミガキ（暗文）がわずかながら伺えるものである。素縁口縁の杯は，外へひらくもの（８），内傾するもの（11）とがあり，後者の底部外面は，ヘラケズリ調整のあとミガキを行なっているようである。なお４と８の底部外面には，木の葉



第43図　ＳＩ021　カマド実測図



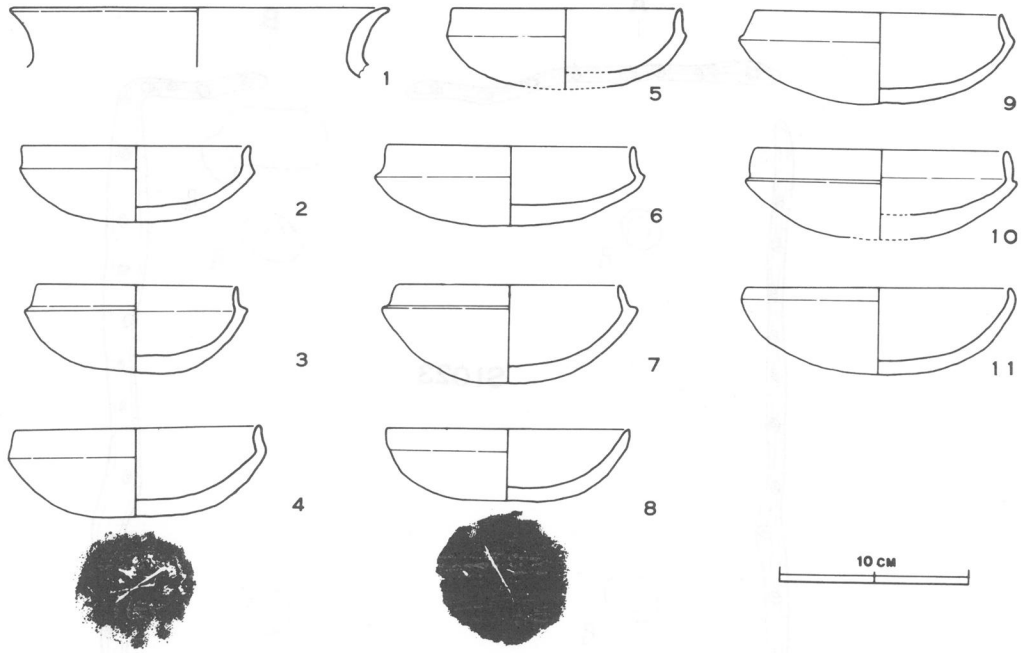
S I 021 土層解説
1. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム粒子(中)・軟質ロームブロック(少)含む
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム粒子(少)・ロームブロック(極少)含む
3. Hue 7.5YR 4/3 褐 色 ロームブロック(中)含む
4. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム粒子(少)含む

S I 021 カマド土層解説
1. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 焼土粒子含む
2. Hue 10 R 4/8 赤 色 焼土ブロック含む
3. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 焼土粒子若干含む
4. Hue 5YR 3/6 暗赤色 焼土粒子・ローム粒子若干含む
5. Hue 7.5YR 5/8 明褐色 ハードローム 含む

S I 021 貯蔵穴・土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 焼土小ブロックローム粒子含む
2. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム小ブロック含む
3. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色 ロームブロック若干含む
4. Hue 10YR 4/6 褐 色

第44図 S I 021 実測図

の圧痕が残っている。2，6，7，9は，住居址のP_1とP_2の中間から出土したもので，とくに2と9は重ねられていた。3と11は住居址東南部，4は西南部，8は貯蔵穴(P_5)からそれぞれ出土した。



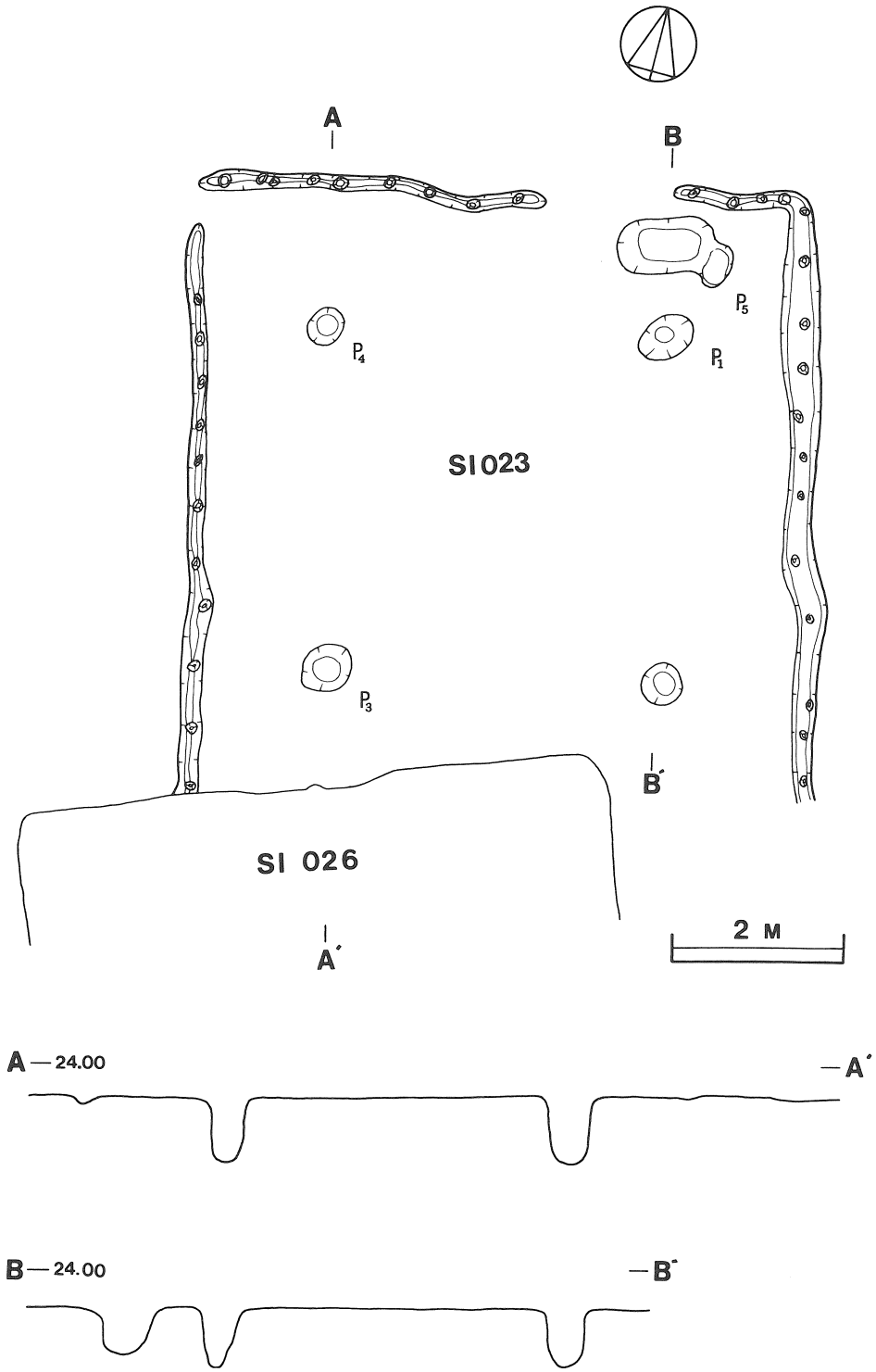
第45図　ＳＩ 021　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	83	81		主柱穴	P_4	83	70	50	主柱穴
P_2	87	75	60	主柱穴	P_5	91	71	25	貯蔵穴
P_3	69	68	58	主柱穴	P_6	70	50	17	

SI 023（第46図）　本住居址はＤ８ｂ９・ｂ０・ｃ９・ｃ０・ｄ０・Ｄ９ｂ１・ｃ１・ｃ２に確認された。ＳＩ 026と重複し，ＳＢ 009が西壁に接し，ＳＢ 005が東壁に接して位置している。主軸方向はＮ－14°－Ｗで長径7.36ｍ・短径7.21ｍ・面積53.06m^2ほどの長方形状の平面形を呈している。

壁は削平を受けわずかに側溝が確認できるのみである。壁側穴はほぼ等間隔でそれほど深くない。床面は，ほぼ平坦で堅いロームである。北壁に若干ではあるがカマドと考えられる焼土が検出されたが削平をうけ確認は困難である。

ピットは５個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられ，P_5は貯蔵穴と考えられる。



第46図　ＳＩ 023　実測図

遺物は，ほとんど検出できなかった。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	78	38	70	主柱穴	P_4	38	33	75	主柱穴
P_2	48	46	67	主柱穴	P_5	124	67	53	貯蔵穴
P_3	54	43	78	主柱穴					

SI 024（第47図）　本住居址はD8e0・f0・D9e1・f1・g1に確認され，北側にSI 026が接し，南側にSI 025が位置している。

主軸方向は，N－19.5°－Eで，長径4.86m・短径4.75m・面積23.08m²ほどの方形状の平面形を呈している。

壁は，南側がやや浅く15cm～25cmほどでほぼ垂直に立ちあがる。壁側溝はカマドと東北コーナーを除いて一周している。

床面は，ほぼ平坦でやや南側に傾斜を示す堅いロームである。

ピットは4個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられる。西壁上にかかるピットはSI 026の主柱穴と考えられる。

カマドは北壁のほぼ中央部に位置し，主軸方向はN－30°－Eで，長径1.25m・短径1.08mほどであるが，崩壊が激しく，部分的に砂質粘土の袖部が検出できるのみである。天井部に若干の土器が検出された。煙道部もあまり明確ではないが幅60cmで15cmほど北壁を掘り込んでいる。火床は長径75cm・短径62cmの楕円形状を呈し，床を5cmほど掘り窪めている。

覆土は，ほとんどがローム粒子を含む暗褐色土と黒褐色土からなり，わずかの炭化物を含む。

遺物はほとんど検出されなかった。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	66	60	44	主柱穴	P_3	52	44	55	主柱穴
P_2	77	72	39	主柱穴	P_4	61	54	30	主柱穴

SI 026（第47図）　本住居址はD8d9・d0・e0・f0・D9d1・e1に確認され，SI 023の南側を切り，SI 024に南側を切られている。西北コーナーにはSB 009が接して位置している。

主軸方向は，N－17.5°－Wで，長径7.8m・短径6.8m・面積53.04m²ほどで長方形状の平面形が想定される。床は，ほぼ平坦をなす堅いロームであり，SI 024の床面との差は10cm

ほどである。

壁は，4～10cmほどで西壁はほとんど検出されない程削平を受けている。壁側溝は南側をのぞいて一周している。P_1側に長方形状の土壙SK 123が掘り込み，ピットは，P_1～P_4まで確認され主柱穴と考えられる。P_4の北側に位置する掘り込みはSB 009－P_1である。

カマド(第49図)はN－27°—Wで，長径91cm・短径90cmほどであるが大部分を削平され深さ3～10cmほど残存するのみで，部分的に西袖部とわずかの焼土が検出されるのみである。カマドは北壁に側溝を構築してから造られ，北壁を20cm幅で20cmほで掘り込み，火床は長径50cm程の楕円形状を示し，床を2cmほど掘り窪めている。

遺物は，覆土が浅いためあまり残存していないが西南壁付近に甕・甑・鉢・杯等が床面から検出された。

出土遺物（第50図） 土師器の甕・甑・（高杯）・杯・鉢などがある。

1は，胴部にある最大径に比べて口縁が広く胴部はやや長い形を呈しており，胴部内外ともにハケ目調整を行っている。色調は，かなり赤味をおびた橙色で，この種の甕は，本遺跡では他に類をみない。

2は，やや小型の甕で，最大径が肩部にある。口縁部がかなりいびつで，底部外面には木の葉の圧痕がみられる。

3・4は大型の甕である。3のように，頸部がゆるやかに屈曲する甕は，他の住居址からも多く検出している。4の底部外面には木の葉の圧痕がみられる。

5の甑は小片のため口径は明らかでない。口縁端部は平らで沈線がめぐり，胴部内外にタテ方向のヘラミガキがみられる。

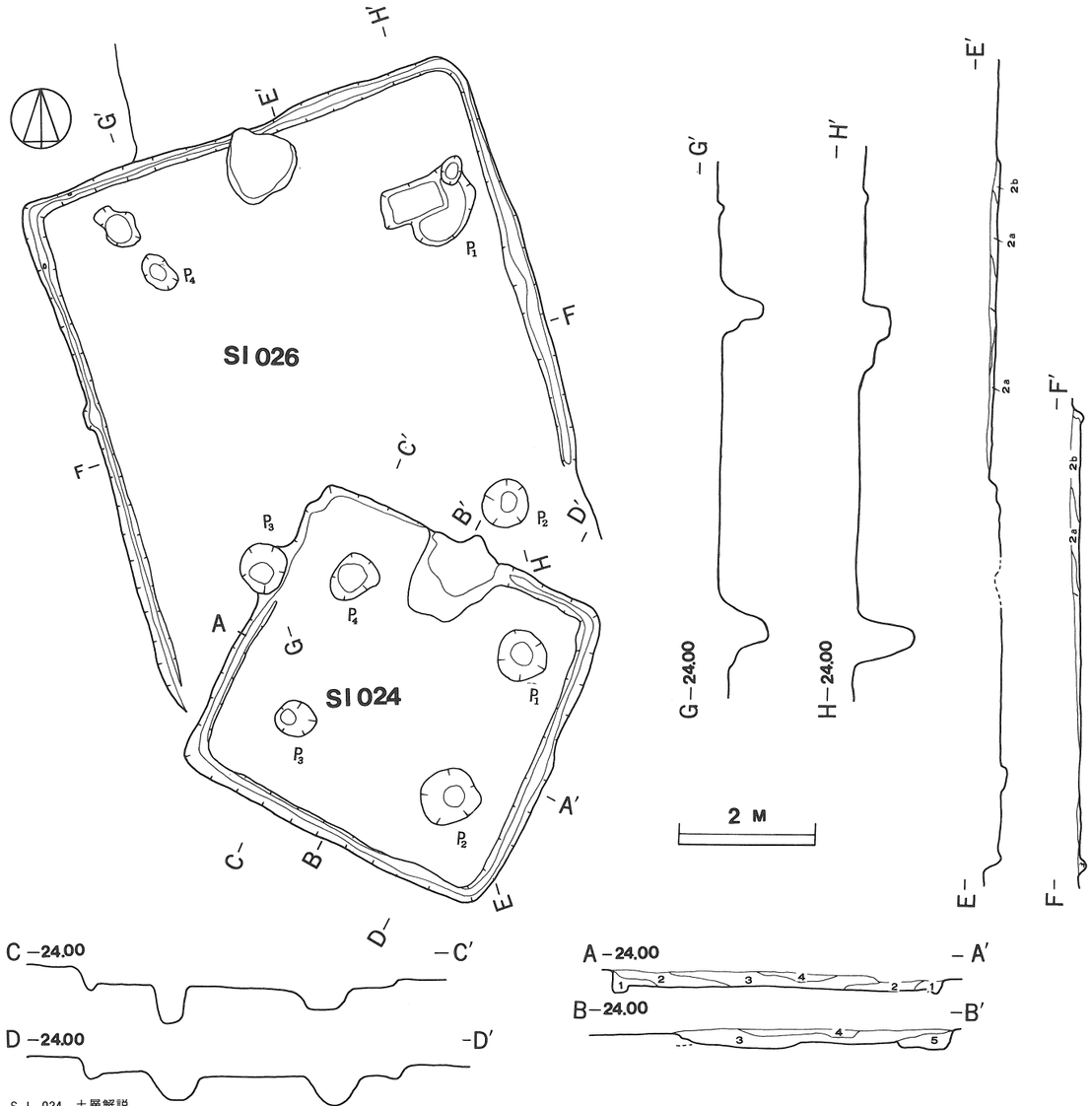
6の高杯は底辺部で，内側にハケ目調整がみられる。

7の椀は，折り返し口縁で器壁がうすく，底部は半球形を呈すると思われる。

杯は8・9のように，口径の差はあるが外稜をもつ形で，10の鉢も共通した手法によっている。

これらの土器は，かなり溯る土師器も混じっており，1・6・7は覆土の混入と考えられる。2は住居址の中央部西南寄り，3・9は中央部，5・10は西南部，4・6は西南寄り，8は中央西寄りから出土した。その他の遺物では土製支脚が出土した。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	41	25	55	主柱穴	P_3	68	55	74	主柱穴
P_2	74	68	84	主柱穴	P_4	67	48	62	主柱穴



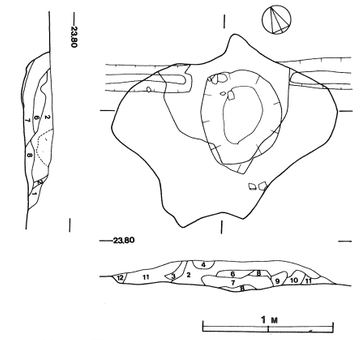
S I 024 土層解説

1.	Hue 7.5Y R 3/3	暗褐色	ロームの粒・粒子(多)・炭化物ごくわずか
2.	Hue 7.5Y R 3/3	暗褐色	ロームブロック・ローム粒,粒子(多)・灰化物・焼土の粒わずか
3.	Hue 7.5Y R 3/2	黒褐色	ロームブロック(少)・ロームの粒・粒(多) 1,2よりやわらかい
4.	Hue 7.5Y R 3/2	黒褐色	ローム粒,粒子含み3よりやわらかい
5.	Hue 7.5Y R 3/3	暗褐色	ローム粒(少)・粒子含みやわらかい

S I 026 土層解説

1.	Hue 7.5Y R 3/3	暗褐色	ロームブロック(極少)・ローム粒子(少)
2. a	Hue 7.5Y R 3/4	暗色	ロームブロック(少)・ローユ小ブロック(中)・ローム粒子(少)
b	Hue 7.5Y R 3/4	暗色	ローム粒子(少)・ローム小ブロック(極小)
3.	Hue 7.5Y R 4/3	褐色	ローム粒子(少)

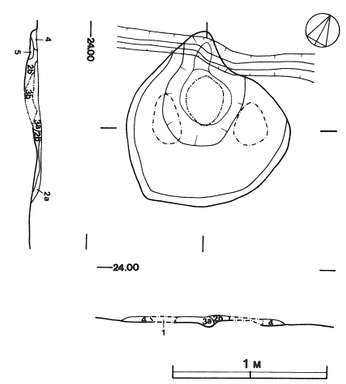
第47図 S I 024・026 実測図



第48図 S I 024 カマド実測図

S I 024 カマド・土層解説

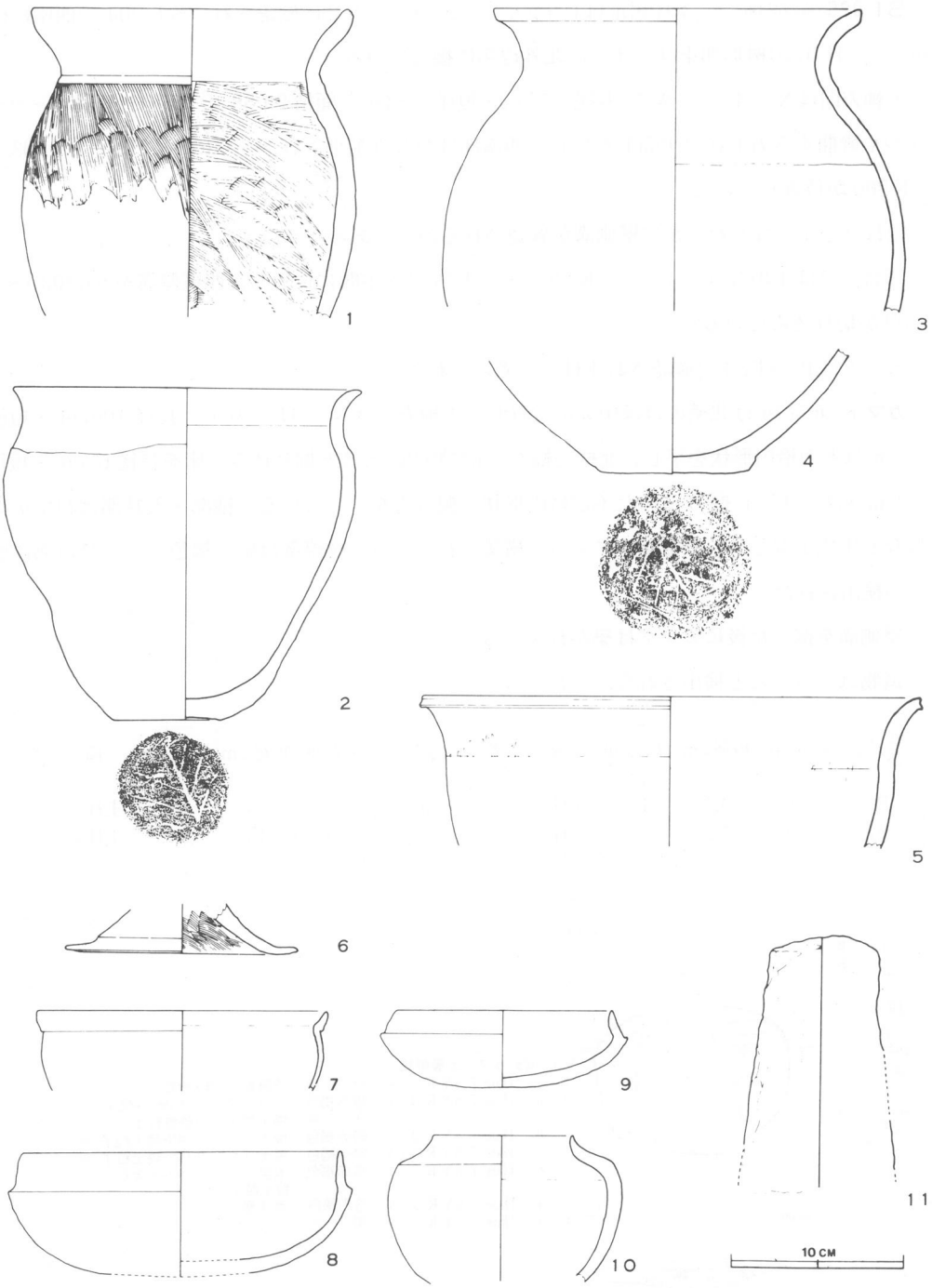
1.	Hue 2.5Y R 3/3	暗赤褐色	焼土(中)・黒色土(中)・砂質(微)
2.	Hue 2.5Y R 4/6	赤褐色	砂質(外)・焼土(多)
3.	Hue 2.5Y R 4/3	にぶい赤褐色	砂質(多)・焼土(多)
4.	Hue 2.5Y R 3/2	黒褐色	黒色土
5.	Hue 2.5Y R 5/6	明褐色	砂質(多)・ローム粒子(少)・カーボン
6.	Hue 2.5Y R 4/4	にぶい赤褐色	砂質(多)・カーボン(微)・焼土(多)
7.	Hue 2.5Y R 3/3	暗赤褐色	砂質(微)・カーボン(微)・ローム
8.	Hue 2.5Y R 4/6	赤褐色	灰(微)
9.	Hue 2.5Y R 4/3	にぶい赤褐色	焼土(中)・焼土・ロームブロック(中)
10.	Hue 7.5Y R 7/6	橙色	砂質粘土
11.	Hue 7.5Y R 4/3	褐色	焼土(微)・砂質(小)
12.	Hue 7.5Y R 5/6	明色	砂質(多)・ローム粒子(少)・カーボン(微)



第49図 S I 026 カマド実測図

S I 026 カマド土層解説

1.	Hue 7.5Y R 4/4	褐色	砂質粘土(中)・ローム粒子(少)
2. a	Hue 7.5Y R 4/4	褐色	砂質粘土(中)・焼土粒子(中)
b	Hue 7.5Y R 4/4	褐色	焼土粒子(少)
3. a	Hue 5Y R 3/6	暗赤褐色	焼金ブロック(多)・焼土粒子(多)
b	Hue 2.5Y R 4/8	赤褐色	焼土層
4.	Hue 7.5Y R 3/5	褐色	ローム小ブロック(少)・黒褐色 軟質ブロック(少) (攪乱層)
5.	Hue 7.5Y R 4/6	褐色	ロームブロック(中)



第 50 図　ＳＩ 026　出土遺物

SI 025（第52図）　本住居址はD9g1・g2・h1・h2に確認され，SI 004の西南に位置し，SH 01の桝形部東コーナーの北外辺部に接している。

主軸方向はN－42.5°—Wで，長径5.55m・短径5.33m・面積29.58m² ほどで，東南コーナーがやや彎曲する方形状の平面形を呈し，西南部はかなり削平され，さらにSK 202・SK 203・SK 209が位置している。

壁はほとんどなくわずかに壁側溝が確認されるのみである。

床は，ほぼ平坦なロームで，SK 202がP_3とP_4ほぼ中間に位置し，西壁側溝をSK203・SK 209が切り込んでいる。

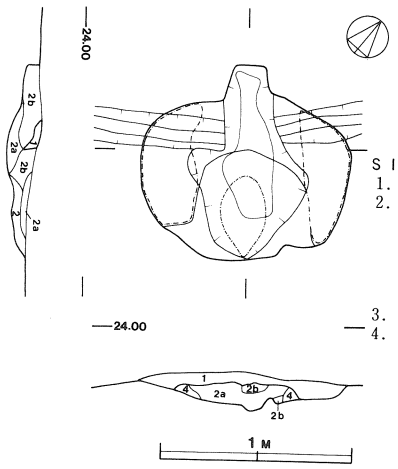
ピットはP_1～P_4また確認され主柱穴と考えられる。

カマド（第51図）は北壁のほぼ中央に位置し，主軸方向はN－41°—Wで，長径100cm・短径86cmほどの楕円形状を呈し，北壁を幅60cmで約30cmほど掘り込み，床を長径60cm・短径50cm・深さ15cm掘り窪めた不定楕円形状の掘り方を呈している。袖部・天井部はわずかに残存し黒色土混じりの砂質粘土によって構築されている。燃焼部は暗赤褐色土で，焚口部に焼土が検出された。

壁側溝を掘った後にカマドは築かれている。

遺物は，ほとんど検出されなかった。

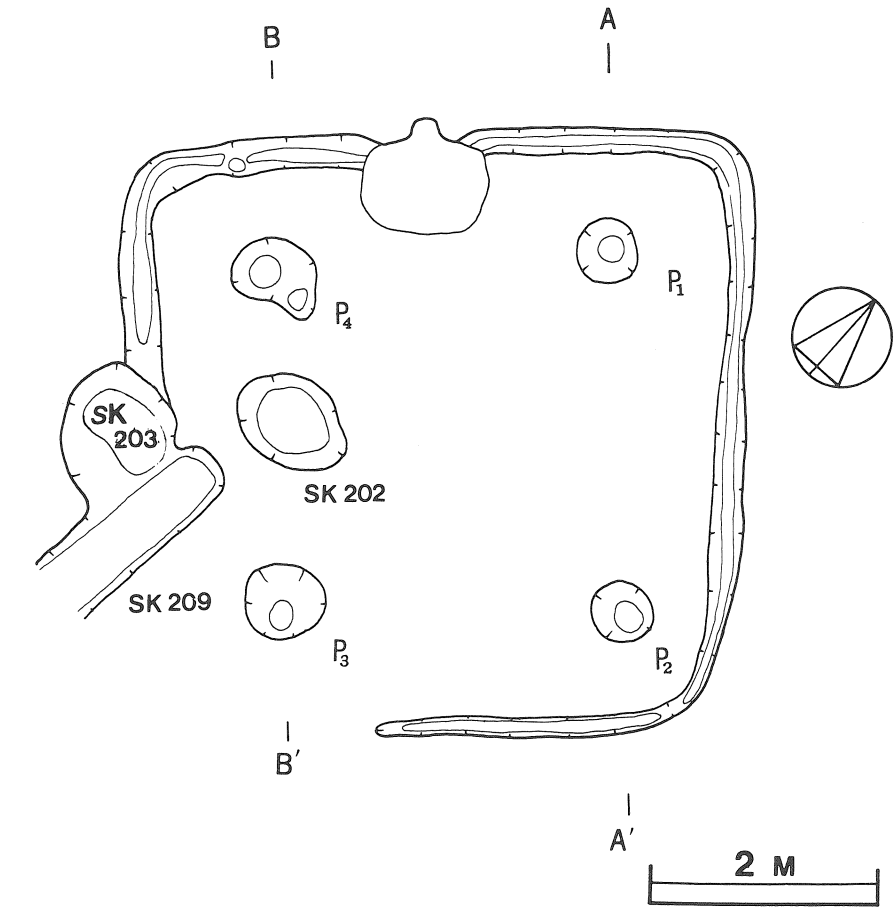
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	46	44	40	主柱穴	P_3	61	57	36	主柱穴
P_2	54	52	32	主柱穴	P_4	68	47	39	主柱穴

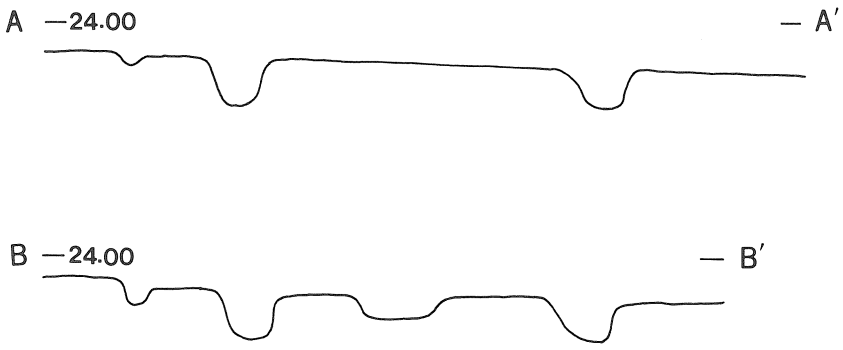


SI 025 カマド土層解説

1.		Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	砂質粘土（層）・砂粒（少）
2.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗赤褐色	ロームブロック（極少）・焼土ブロック（少）
			赤色	焼土粒子（少）・砂質粒土（少）
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗赤褐色	焼土ブロック（中）・焼土粒子（多）
	c	Hue 7.5YR 3/4	暗赤褐色	焼土ブロック（少）・焼土粒子（多）
	d	Hue 7.5YR 3/4	暗赤褐色	木炭ブロック（少）・木炭粒子（少）
				粒土粒子（中）
3.	a	Hue 2.5YR 3/6	暗赤褐色	焼土層
4.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐色	ロームブロック（中）

第51図　SI025　カマド実測図





第52図　ＳＩ025　実測図

SI 027（第54図）　本住居址はD8d5・d6・d7・e5・e6・e7に確認され，SI 021の東南コーナーを切り，北壁にSK 044・SK 045・SK043が接して位置している。

主軸方向は，N－41°—Eで，長径5.57m・短径4.87m・面積27.12m²ほどの長方形状の平面形を呈しているが，東南側がやや軟弱である。

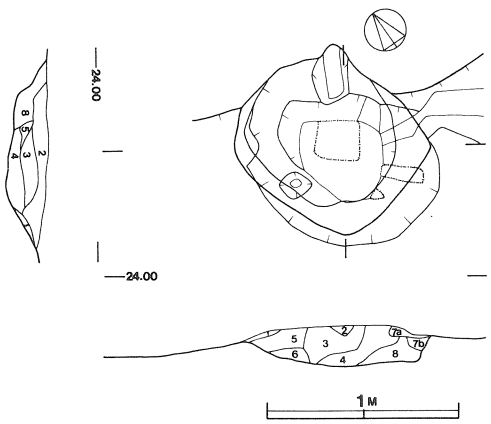
壁はほとんどなく，壁側溝は北壁カマドの東北に幅40cm・深さ10cmほどでSK045に続く。東壁はなく南壁の中央から西壁にかけて，幅28cm～36cm・深さ9cmほどSK 044 に至るまで続く。

床は，ほぼ平坦なロームで，ピットはP_1～P_4まで確認され主柱穴と考えられる。P_1はメガネ状をなし，P_3はSI 021の東南コーナー部に位置している。

カマド（第53図）は，北壁のほぼ中央に位置し，N－35°—Eで，長径102cm・短径89cmほどの楕円形状を呈し70cm幅で北壁を20cmほど掘り込み，火床は長径90cm・短径68cm・深さ16cmほど掘り窪めて構築されている。火床の西よりにピット状のものがみられる。袖部，天井部はほとんど残存していない。

遺物はかなり削平を受け，ほとんど検出されなかった。

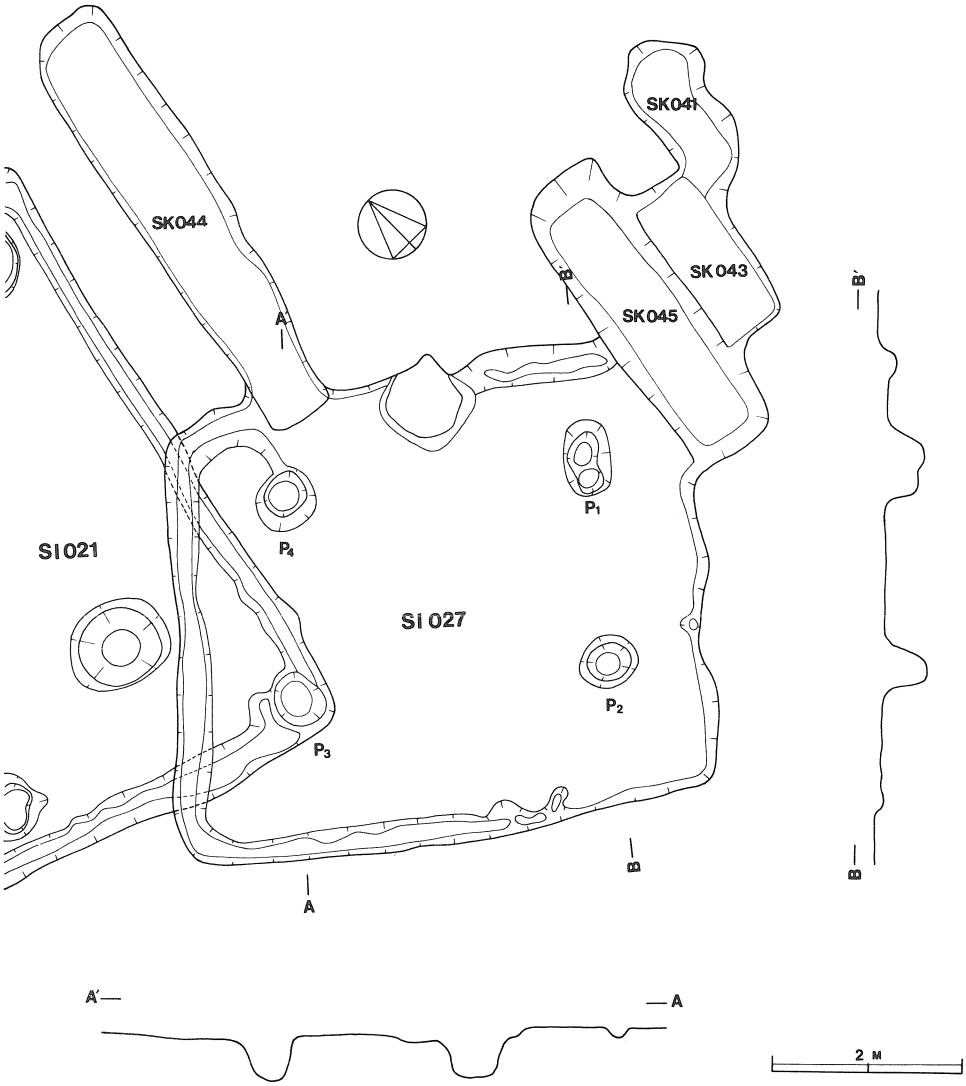
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	80	43	40	主柱穴	P_3	70	46	54	主柱穴
P_2	51	42	46	主柱穴	P_4	55	57	50	主柱穴



SI 027 カマド土層解説

1.	Hue 7.5YR 3/3	暗　褐　色	焼土の粒(微)・砂質(微)・ローム小ブロック(微)
2.	Hue 2.5YR 4/3	にぶい赤褐色	焼土(中)・砂質(微)・ローム土(少)
3.	Hue 2.5YR 4/6	赤　褐　色	燃焼土(多)・砂質(微)
4.	Hue 2.5YR 3/3	暗 赤 褐 色	焼土(少)・ロームの小ブロック(少)
5.	Hue 2.5YR 3/3	暗 赤 褐 色	焼土の粒・小ブロック(中)・砂質(少)・ローム土(中)
6.	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロックのかたまり
7. a	Hue 7.5YR 5/6	にぶい褐色	粘土(多)・焼土の粒(少)
b	Hue 7.5YR 5/6	にぶい褐色	焼土の粒(少)・粘土(多)・砂質(微)・ローム粒(少)
8.	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム土・ローム小ブロック(中)

第53図　SI027　カマド実測図



第54図　ＳＩ027　実測図

SI 028（第55図）　本住居址はD8f7・f8・f9・g8に確認され，SI 031の北側に位置し，SK 192が南コーナーに，SK 198・SK 199が南側溝を切り，SK 200が南よりに位置している。わずかに壁側溝が南側にクランク状に幅20～25cm・深さ18cmほど確認されるのみで，住居址のプラン・主軸方向等は不明である。

ピットはP_1～P_4まで確認され，主柱穴と考えられるがP_1は若干の疑問がのこる。SK192～SK 201までほぼ一直線上に並んだ状態を呈している。

遺物は削平を受け，ほとんで検出できなかった。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	23	17	10	主柱穴	P_3	38	38	44	主柱穴
P_2	45	24	35	主柱穴	P_4	37	36	43	主柱穴

SI 029（第58図）　本住居址はD8h7・h8・i7・i8に確認され，桝形部の内側ほぼ中央部に位置し，SI 030・SI 031の住居上に重複している。

主軸方向は，N－8.4°－Eで，長径3.13m・短径3.12m・面積9.76m^2ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は21cmほどでほぼ垂直に立ちあがり，東西の壁はややゆるやかである。

床はほぼ平坦で堅いロームであり，壁側溝がカマドの西側より東壁まで一周し，南側がやや幅をもつ。深さは8cm内外である。

ピットは2個確認され，P_1は東南に位置し，P_2は南壁面に位置している。

カマド(第57図)は北壁のほぼ中央で主軸方向はN－9°－Wで西南部が大部分破壊され，長径98cm・短径90cmほどである。袖部は東側が良く残存し，ローム粒子混じりの砂質粘土によって構築され，掘り方はSI 030の覆土を約65cmの幅で40cm程掘り込んでいる。火床は長径90cm・短径50cm・深さ14cmほど床を掘り窪め，東側に長径34cm・短径28cmほどのピットがある。

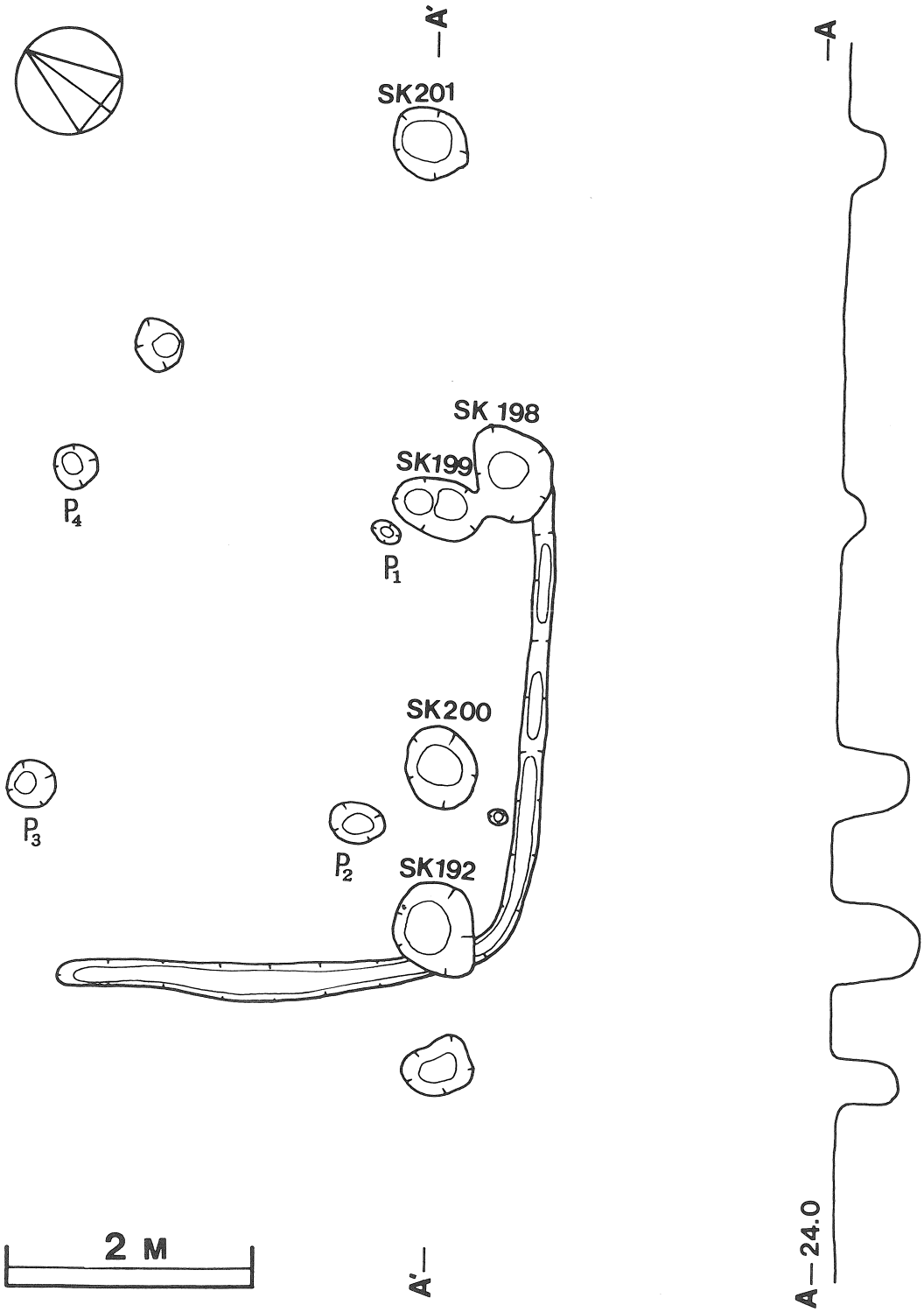
覆土は16～22cmほどで上層は焼土を若干含む黒褐色土で下層はロームブロックを含む暗褐色土である。

遺物は少量検出している。

出土遺物（第56図）　土師器の甕・内黒土師器の杯が出土している。

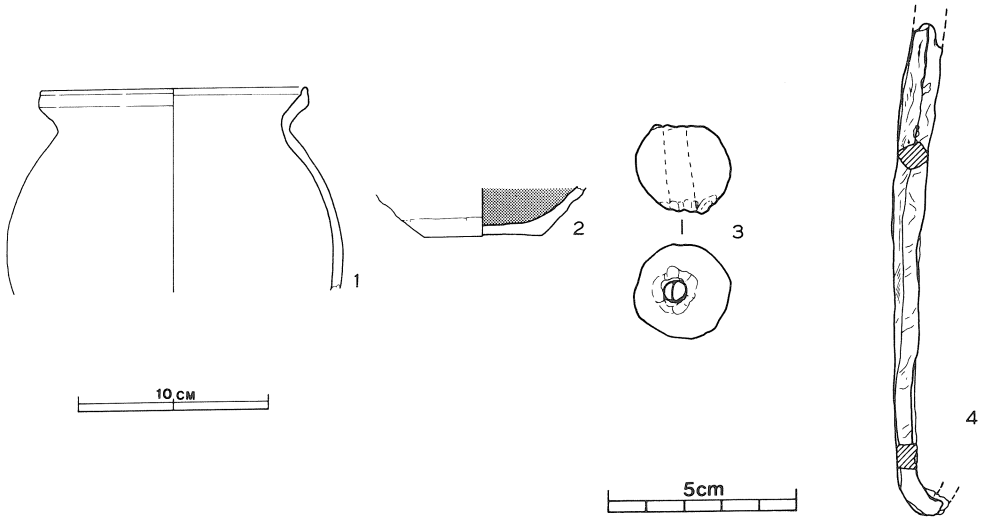
1の甕は小型で，口縁部内側に沈線が入る。2の杯は，ミズビキ成形のあと，体部下端と底部の外面をヘラケズリ調整している。

その外の遺物としては，鉄製品・土玉が出土している。



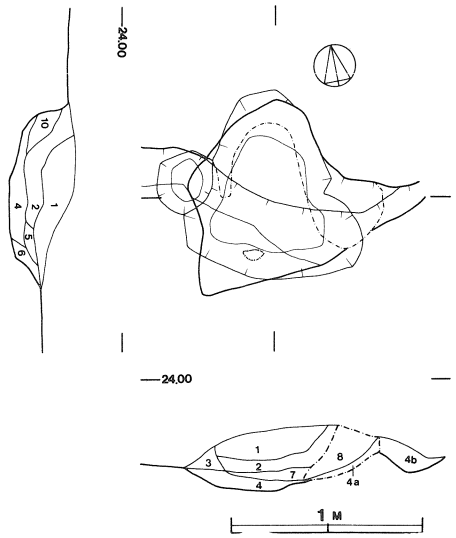
第55図　ＳＩ028　実測図

鉄製品　4は覆土中より出土した棒状の鉄製品で，現在長径13cm・幅0.5～0.6ｃｍを測り，基部は折曲があり，上部先端は欠損しねじれ，断面は方形ないし長方形状を呈する。不明鉄器である。



第56図　ＳＩ029　出土遺物

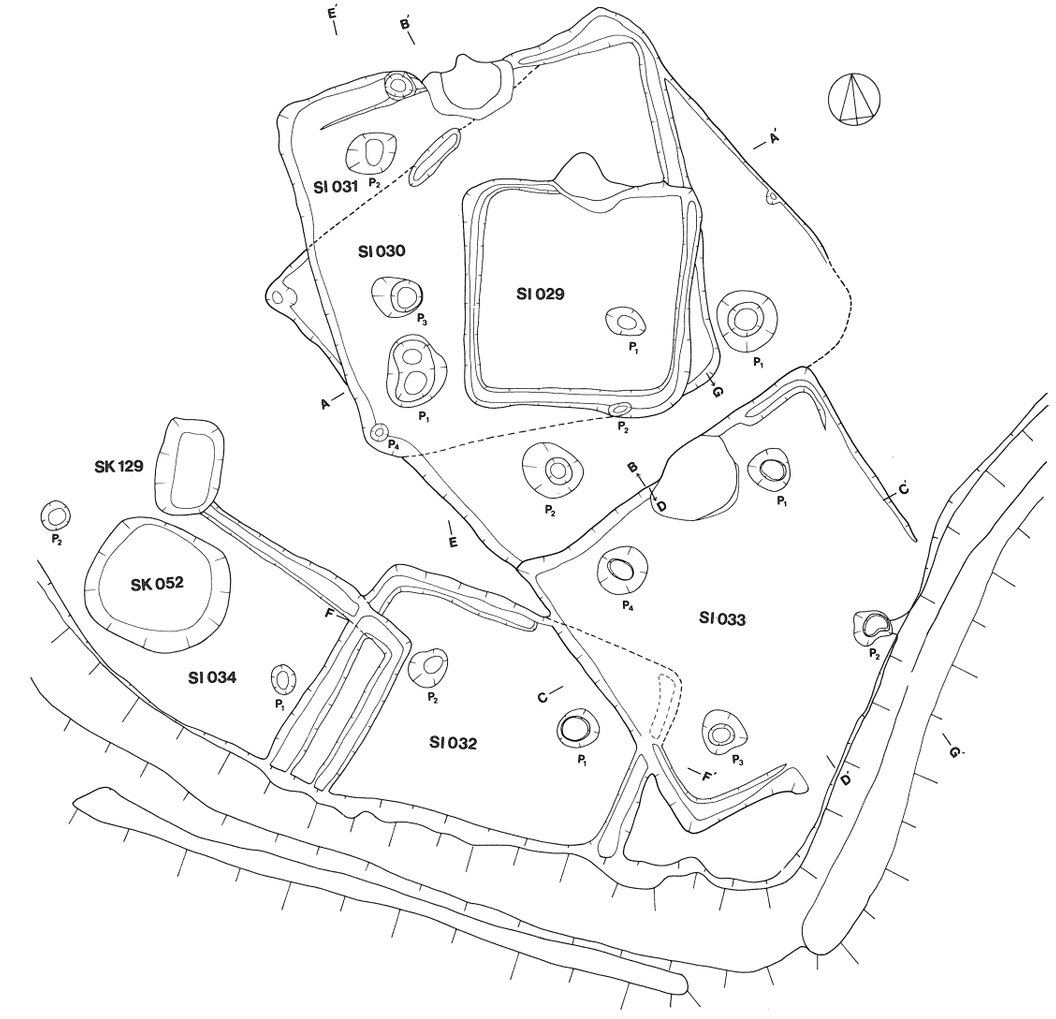
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	46	35	44	主柱穴	P_2	32	16	20	



ＳＩ 029 カマド土層解説

1. Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　焼土粒子(少)含
2. Hue 5YR 3/3　暗赤褐色　焼土多含
3. Hue 7.5YR 4/4　褐色　焼土多含
4. Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ロームブロック含
5. Hue 7.5YR 2/2　黒褐色　ローム・焼土粒子(少)含
6. Hue 7.5YR 4/4　褐色　焼土粒子(少)含
7. Hue 7.5YR 4/4　褐色　砂質粘土・焼土粒子含
8. Hue 7.5YR 4/4　暗褐色　砂質粘土・ローム粒子
9. Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　焼土粒子(少)含
10. Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子(少)含

第57図　ＳＩ029　カマド実測図



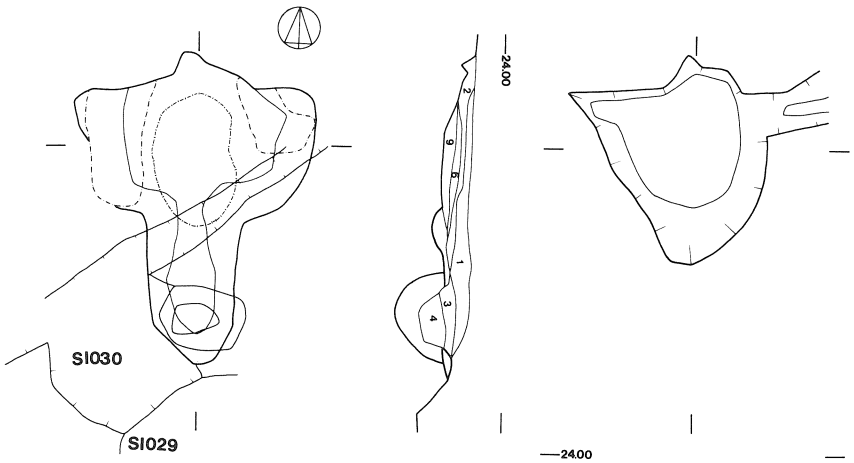
SＩ 029・ SＩ 030・SＩ 031 土層解説

1.	Hue 7.5YR	2/2	黒褐色	焼土(少)
2.	Hue 7.5YR	3/1	黒褐色	ローム粒子
3.	Hue 7.5YR	3/3	暗褐色	ローム小ブロック(少)
4.	Hue 7.5YR	3/2	黒褐色	
5.	Hue 7.5YR	3/4	暗褐色	ローム粒子
6.	Hue 7.5YR	3/4	暗褐色	ローム小ブロック
7.	Hue 7.5YR	4/4	褐　色	ローム
8.	Hue 7.5YR	3/4	暗褐色	焼土粒子(多)
a	Hue 7.5YR	3/4	暗褐色	焼土粒子
b	Hue 7.5YR	3/4	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子

SＩ 033 土層解説

1.	Hue 7.5YR	3/3	暗褐色	ローム粒(普)・一部に砂質粘土
2.	Hue 7.5YR	2/2	黒褐色	ローム粒(少)・焼土わずかに含む
3.	Hue 7.5YR	4/4	褐　色	ロームブロック(多)
4.	Hue 7.5YR	5/6	明褐色	ローム粒子(多) かたい
5.	Hue 7.5YR	2/1	黒　色	わずかにローム粒子がかたまって入ってい
6.	Hue 7.5YR	5/6	明褐色	ロームブロック(多)
7.	Hue 7.5YR	5/6	黒褐色	ロームブロック(少)
8.	Hue 7.5YR	5/6	黒褐色	ロームブロック(多) わずかに有機土

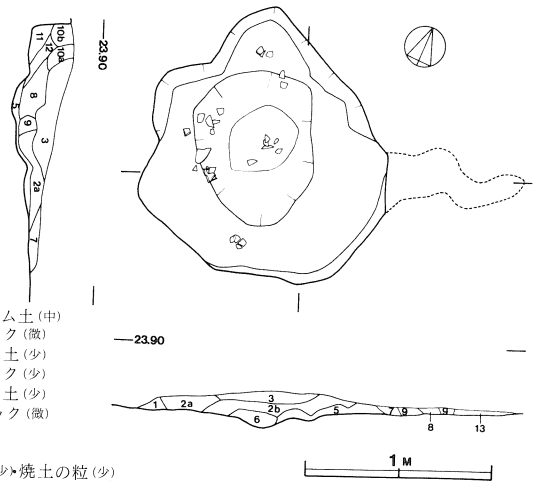
第58図　ＳＩ 029～034　実測図



S I 031 カマド土層解説

1. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ローム・焼土粒子少含
2. Hue 5YR 3/6 暗赤褐色 焼土粒子(多)含
3. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム粒子含
4. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色
5. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 砂質粘土・焼土粒子含
6. Hue 2.5YR 4/8 赤 褐 色 焼土
7. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 砂質粘土・焼土粒子(少)含
8. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ロームブロック含
9. Hue 2.5YR 4/8 赤 褐 色 ロームが焼土化したもの,この層の上囲が床囲

第59図　S I 031　カマド実測図



S I 033 カマド土層解説

1. Hue 7.5YR 6/4 にぶい橙色 砂黄土(多)・ローム土(中) ローム小ブロック(微)
2. a Hue 7.5YR 3/3 暗 赤 褐 色 焼土(微)・ローム土(少) ローム少ブロック(少)
   b Hue 2.5YR 3/3 暗 赤 褐 色 焼土(少)・ローム土(少) ローム小ブロック(微)
3. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 黒色土(微)
4. Hue 2.5YR 4/3 にぶい褐褐色 純焼土
5. Hue 2.5YR 4/3 にぶい赤褐色 ローム土粒子(少)・焼土の粒(少)
6. Hue 2.5YR 4/6 赤 褐 色 燐焼土(多)
7. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 焼土(微)・黒色土(微)・粘土(少)・ローム土(微)
8. Hue 7.5YR 4/3 褐 色 焼土(微)・黒色土(中)・砂(少)・ローム粒子
9. Hue 7.5YR 5/6 明 褐 色 ロームブロックのかたまり
10. a Hue 7.5YR 5/4 にぶい褐色 ローム土(多)・黒色土(微) もろい
    b Hue 7.5YR 5/4 しまったかたいローム土含
11. Hue 2.5YR 2/3 極 暗 褐 色 焼土粒(中)・炭化物(微)・ローム土(中)含
12. Hue 7.5YR 5/6 明 褐 色 ロームブロック・かたい
13. Hue 2.5YR 5/4 にぶい褐色 ローム土

第60図　S I 033　カマド実測図

ＳＩ 030（第58図）　本住居址はＤ８ｇ８・ｈ７・ｈ８・ｈ９・ｉ７・ｉ８・ｉ９に確認され，桝形部のほぼ中央に位置し，ＳＩ031・ＳＩ029が住居上に重複し，南側にＳＩ033が接して位置している。

主軸方向はＮ－33.5°－Ｗで，幅20cm・深さ5cmほどでほぼ一周する壁側溝から規模を把握し，長径6.3ｍ・短径5.65ｍ・面積35.59m^2のやや長方形の平面形を呈している。

壁は，東壁でわずかに5cmほど残存するのみである。

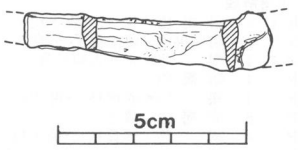
カマドはＳＩ031の構築により破壊されているが，掘り方部がわずかに残存している。

ピットは３個確認され，P_1～P_3は主柱穴と考えられるが，東北部からは確認されていない。

覆土は，極浅い暗褐色土で焼土粒子を含み，火災にあったと考えられる。

遺物はほとんど検出することができなかった。その他の遺物として刀子が出土している。

鉄製品（第61図）　刃部の大部分を欠損する刀子で現在長6.5cm，刃部幅0.8cm，背部は刃部と関部との境に明瞭な段を有するものであり，関部の幅1.3cm，厚み0.3～0.4cmで，基部は欠損しているが幅0.9cm，厚さ0.3～0.4cmほどである。



第61図　ＳＩ030　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	77	73	22	主柱穴	P_3	60	50	33	主柱穴
P_2	77	62	34	主柱穴					

ＳＩ 031（第58図）　本住居址はＤ８ｇ７・ｇ８・ｈ７・ｈ８・ｉ７・ｉ８に確認され，ＳＩ030を切り，東南部はＳＩ029が位置している。

主軸方向はＮ－7.5°－Ｗで，長径5.3ｍ・短径5.14ｍ・面積27.24m^2ほどの方形状の平面形を呈している。

壁は北壁で10cm内外であるが，他は重複し不明確である。

床は，西側がやや軟弱ではあるが，北側はかなりハードなロームである。

ピットは，遺構が重複して複雑化しているが，P_1・P_2は主柱穴と考えられ，P_3はSI030の主柱穴であり，P_4はＳＩ031に伴うものか，ＳＩ030の壁側穴か不明である。

覆土は，ローム小ブロックを含む暗褐色土層である。

カマド(第59図)は北側に位置し，当初はＳＩ030とＳＩ031の二つに分かれると想定していたが，ＳＩ030のカマドはＳＩ031によって壊され，ＳＩ031の焼土の流れ込みと考えられる。

主軸方向はN－2.4°－Wで，長径110cm・短径80cmほどを測り，削平を受けてあまり残存せず，天井部は欠損し，袖部が北壁より30～60cmほど床に突出し，両袖部間は60cmを有し，燃焼部の底辺からは焼土が多量に検出された。掘方は長径90cm，短径84cm，深さ6cmほどの不定楕円形状に掘り窪めている。

遺物はほとんど検出されなかった。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	98	80	59 36	主柱穴	P_2 P_4	68 24	55 22	47 10	主柱穴

SI 032（第58図）　本住居址はD8i7・i8・j7・j8に確認され，SI033・SI034が重複し，桝形部の先端でSH01に接して位置している。

主軸方向はN－34°－Eで，長径4.81m・短径3.21m・面積15.44m²を測るがSH01によって南側をカットされているため，平面形状は不明である。

壁は削平によってほとんど残存せず，北壁のカマドの壁側溝が幅36cm～48cm・深さ6cmで続いている。

床はほぼ平坦をなし，堅いロームで，主柱穴P_1・P_2が北側に検出された。

遺物はほとんど遺存せず，重複関係も不明である。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	51	50	66	主柱穴	P_2	54	43	47	主柱穴

SI 033（第58図）　本住居址はD8i8・i9・j8・j9に確認され，桝形部の東南コーナーに位置し，SI030・SI032と重複している。

主軸方向はN－27°－Wで，長径4.91m・短径4.44m・面積21.80m²ほどの方形状の平面形を呈し，東側から特に多くの焼土および炭化物を検出した。

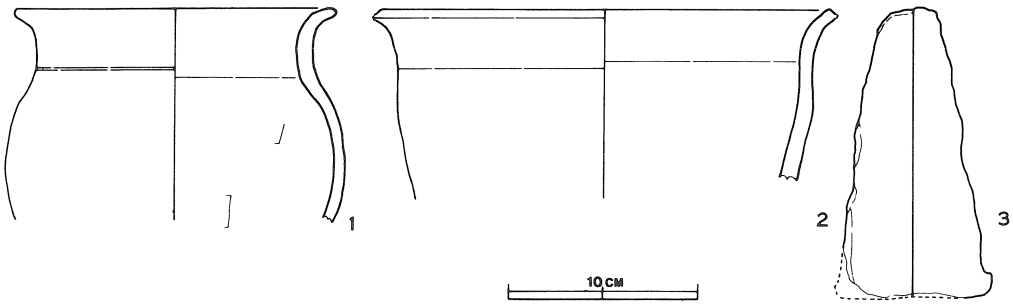
壁高は，西壁で18cm，北壁で14cmを測りやや垂直ぎみに立ちあがり，東壁より南に向かうにしたがいほとんど検出できなくなり，東南コーナーをSH01によってカットされている。

床は，ほぼ平坦をなす堅いロームで，主柱穴と考えられるピット・P_1～P_4がほぼ対角線上にある。にある。

覆土は，焼土および炭化物を含む黒褐色土が11cmほど堆積しており火災をうけていると考えられる。

カマド(第60図)は，北壁の中央やや東よりに位置し，主軸方向はＮ－20°－Ｗで，長径131cm・短径57cmほどの不定形でかなり崩壊し焼土が東側に流れ込んでいる。袖部・天井部はほとんど確認できない。掘り込みは，北側を120cmの幅で60cmほど掘り込み，床を長径70cm・短径62cmほどの楕円形状に８cmほど掘り窪めて構築されている。遺物は煙道部にかけて少数の土器片が出土しており，補強に使用されていたと考えられる。

遺物(第62図)は，カマドの西側に支脚と甕片が出土し，床面より甑が検出されたのみである。



第62図　ＳＩ033　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	54	47	63	主柱穴	P_3	56	47	68	主柱穴
P_2	44	44	62	主柱穴	P_4	59	59	60	主柱穴

ＳＩ034(第58図)　本住居址はＤ８ｉ６・ｉ７・ｊ７に確認され，桝形部の西南コーナーに位置し，西側にはＳＫ193～ＳＫ197の土壙群がほぼ一直線上に並び，ＳＩ034の西よりに楕円形状のＳＫ052に多量の焼土が検出され，北壁には方形状のＳＫ129がやや深く切り込んでいる。

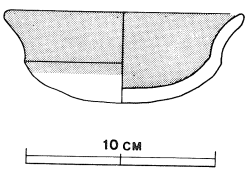
住居址の規模は，ＳＨ01によって大部分がカットされ，ＳＫ052に多量の焼土が検出され，カマドを破壊していると考えられる。現状での主軸方向はＮ－37°－Ｅで，長径3.51m・短径2.78m・面積9.75m^2ほどを測る。

壁はほとんど削平され，わずかに側溝が確認されるのみである。

床はほぼ平坦をなす堅いロームで，P_1は長径37cm・短径30cm・深さ34cmほどの主柱穴と考えられる。

遺物はほとんど検出されなかった。

出土遺物　復元できるのは杯(第63図)だけである。外稜をもち，口縁が大きく外側へひらく形で，内面と口縁部外面まで朱彩が施されている。



第63図　ＳＩ034　出土遺物

SI 037（第66図）　本住居址はＥ８区のほぼ中央部Ｅ８ｄ６・ｄ７・ｄ８・ｅ６・ｅ７・ｅ８・ｆ６・ｆ７に確認され，ＳＩ039・ＳＩ061が重複し，ＳＩ039が東コーナーを切り込み，ＳＩ061が西南壁のほぼ中央を切り込んで位置している。さらに東南に大型のＳＩ067・東方に大型のＳＩ054が接近して位置している。

主軸方向はＮ－41°－Ｗを向き，長径7.54ｍ・短径7.3ｍ・面積55.04 m^2ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は26cm内外でほぼ水直に立ち上がる。壁側溝はカマドを除き幅24～30cm・深さ6cm程で全周し，北壁には壁側穴は有している。

床はほぼ平坦なロームで，コーナー部に焼土および炭化物が検出された。

ピットは５個確認され，P_1～P_3は主柱穴と考えられ，東北部の主柱穴はＳＩ039が構築され不明である。P_4は東南壁側溝に接し楕円形状を呈しそれほど深いものではない。P_5は西南壁付近に確認されそれほど深いものではない。さらに西南の溝南よりに，幅40cm・長さ128cm・深さ11cmほどの溝状掘り込みが確認された。

カマド（第65図）は西北壁の中央部に位置し，主軸方向はＮ－41°－Ｗを向き，長径121cm・短径118cm・面積1.427m^2ほどの長方形状の平面形を呈し，壁ぎわおよび西南側は撹乱を受けている。袖部は西北壁より90～100cmほど突出し35～65cmの間隔を有し砂質粘土で構築されている。

天井部は残存せず，燃焼部に少数の土師片が出土している。

掘り方は西北壁を14cmの幅で8cmほど掘り込み約23°の角度を有する煙道部で，火床は壁ぎわより床面にかけて長径73cm・短径56cm楕円形状に10cmほど掘り窪めている。

覆土は，30cmほどで，ローム粒子・小ブロックを含む暗褐色土で少量の焼土・炭化物を含み，また床面にも焼土が検出され火災にあったと想定される。

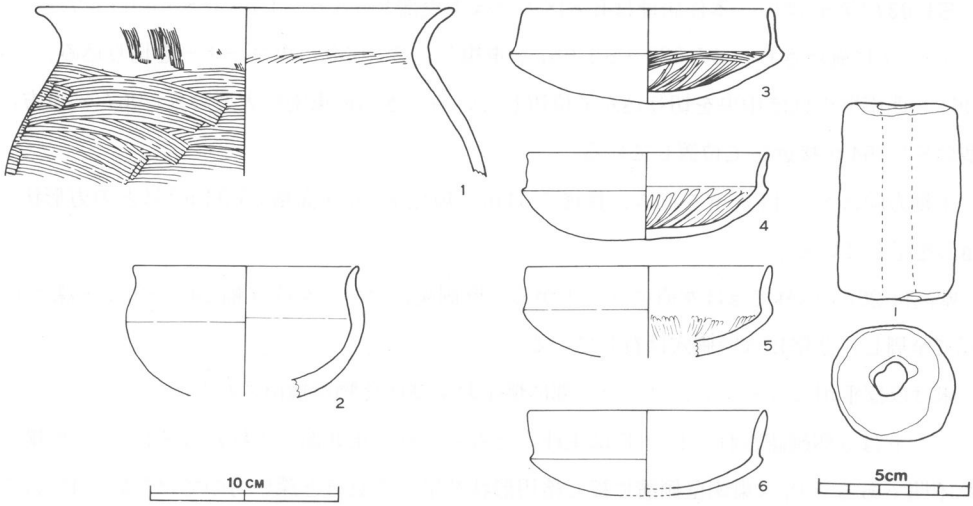
遺物は，カマドの西側に多数の杯が出土し，床面からも多数の遺物が出土している。

出土遺物（第64図）　本住居址は，SI061とSI039によって壊されているため，出土した量のわりに良好な資料は少ない。土器は甕・杯があるが，良好な遺物は杯だけである。

１はハケ目調整のある甕・２は口縁部内外に朱彩のある椀であるが１は小片である。

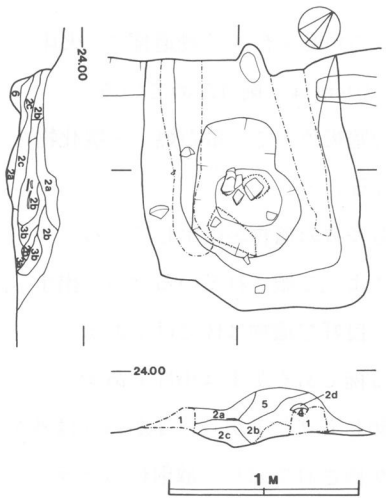
３から６は外稜をもつ杯で，口縁がやや長く，３は内傾して立ち上がり，４から６は外傾して立ち上がる。いづれの場合も，ていねいにヘラミガキが施されており，放射状のヘラミガキ（暗文）も伺える。

その他の遺物では，管状土錘が数点出土しているが，完形は図示した１点のみであった。



第64図　ＳＩ037　出土遺物

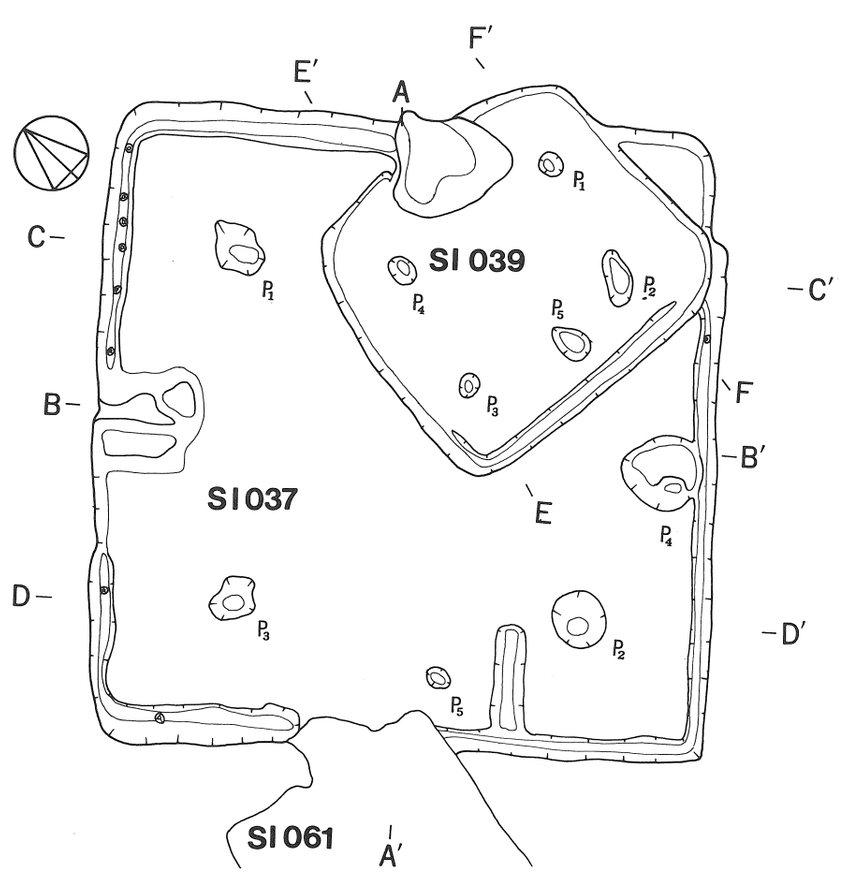
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	60	54	57	主柱穴	P_4	86	71	27	
P_2	59	55	53	主柱穴	P_5	32	27	5.3	
P_3	47	37	55	主柱穴					



ＳＩ 037 カマド土層解説

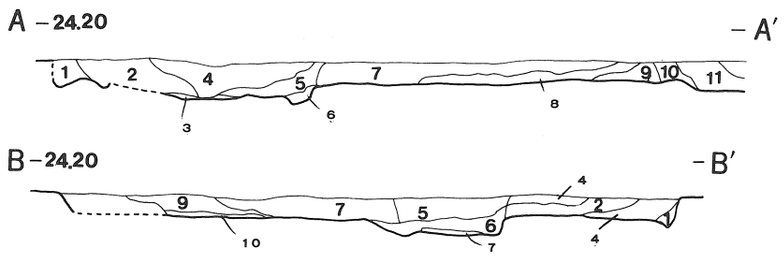
1.		Hue 7.5YR褐　色	砂質粘土層
2.	a	Hue 7.5YR暗褐色	焼土小ブロック(少)・焼土粒子(少) 砂質粘土(少)
	b	Hue 7.5YR暗褐色	焼土小ブロック(中)・焼土粒子(中)
	c	Hue 7.5YR暗褐色	焼土粒子(少)・焼土小ブロック(中) ローム粒子(中)
	d	Hue 7.5YR暗褐色	焼土粒子(少)
3.	a	Hue 7.5YR暗赤褐色	焼土ブロック(多)・焼土粒子(多)
	b	Hue 7.5YR暗赤褐色	焼土ブロック(少)・焼土粒子(多)
4.		Hue 7.5YR赤褐　色	焼土ブロック
5.		Hue 7.5YR褐　色	焼土ブロック(大)・砂質粘土(少) 含みハード
6.		Hue 7.5YR　褐　色	焼土ブロック(中)・砂質粘土(中) 含みナード

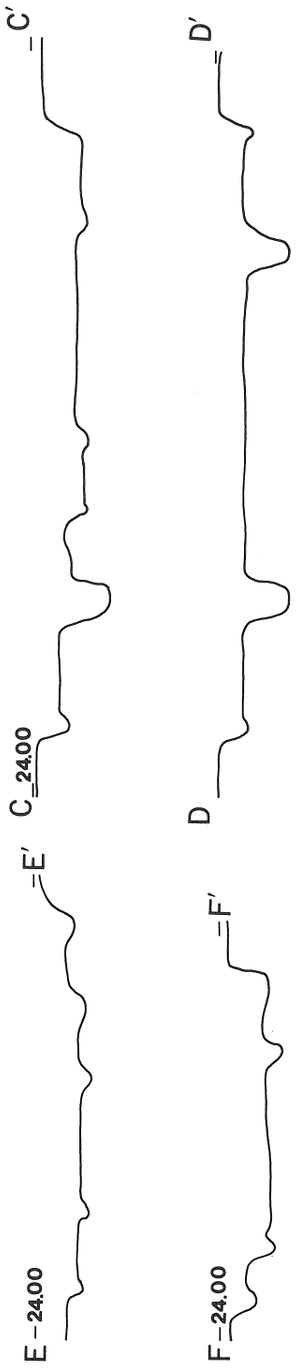
第65図　ＳＩ037　カマド実測図



S I 037·039 土層解説

1.	Hue 7.5Y R 4/4	褐 色	ロームブロック(少)・焼土(少)
2.	Hue 7.5Y R 4/4	褐 色	焼土1より多い,砂質粘土・木炭片
3.	Hue 7.5Y R 5/8	明褐色	ロームブロック(多)
4.	Hue 7.5Y R 2/2	黒褐色	ローム粒子・ロームの粒(少)
5.	Hue 7.5Y R 2/2	黒褐色	ローム粒子・ローム粒・4層より(少)
6.	Hue 7.5Y R 4/6	褐 色	ロームブロック・ローム粒(多) もろい
7.	Hue 7.5Y R 3/4	暗褐色	ローム粒子・ロームの粒
8.	Hue 7.5Y R 3/4	暗褐色	ローム粒子・ロームの粒(多)
9.	Hue 7.5Y R 4/4	褐 色	ロームの粒(多)・ロームブロック(少)
10.	Hue 7.5Y R 2/2	黒褐色	ローム粒子(ごく少量)
11.	Hue 7.5Y R 2/1	黒 色	ロームブロック・ロームの粒(少)・砂質粘土(ごく少量)





第66図 ＳＩ037・039 実測図

ＳＩ 039（第 66 図）　本住居址はＥ８ｄ７・ｄ８・ｅ７・ｅ８に確認され，ＳＩ 037 の東側コーナーを切り込んで位置し，ほぼ同方向を向くＳＩ 061・SI 064 が接近して位置する。

主軸方向はＮ－8°－Ｅを向き，長径 3.87ｍ・短径 3.58ｍ・面積 13.85 m^2 ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は 52～58cm程でほぼ垂直に立ち上がり，南壁に幅 22～30cm・深さ 6～12cm の壁側溝を有し，床は堅いロームでほぼ平坦をなしている。

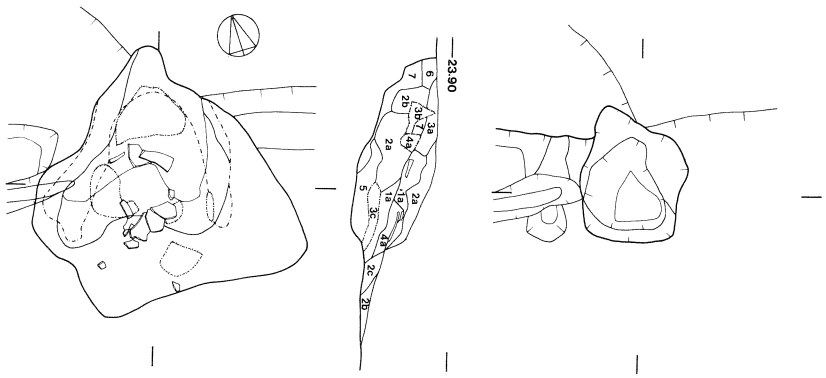
ピットは５個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられ，P_2とP_3のほぼ中間南壁よりにP_5が位置している。

カマド（第 67 図）は北壁のほぼ中央にあり，ＳＩ 037 の東北壁を切り込けで設けられており，主軸方向はＮ－18°－Ｅで，長径 130cm・短径 120cm で遺存度は比較的良好で，袖部は砂質粘土で造られ，40～60cmの間隔を有し「ハ」の字に開口する。天井部は崩れて不明であるが，第１ａ層・第３ａ層には砂質粘土あるいは砂質粘土を含む層で，天井部を示すものと思われる。

燃焼部～煙道部は，第２ａ・２ｂ・３ｃ層と考えられ，第５層は灰である。少数の土師片が天井部付近に出土しており補強に使用されていたと考えられる。

掘り方は，床を長径 48cm・短径 34cmの不定形に５～10cmほど掘り窪め，北壁を30cm幅で 15cmほど掘り込み，西袖部に長径 22cm・短径 20cmのピットが認められる。

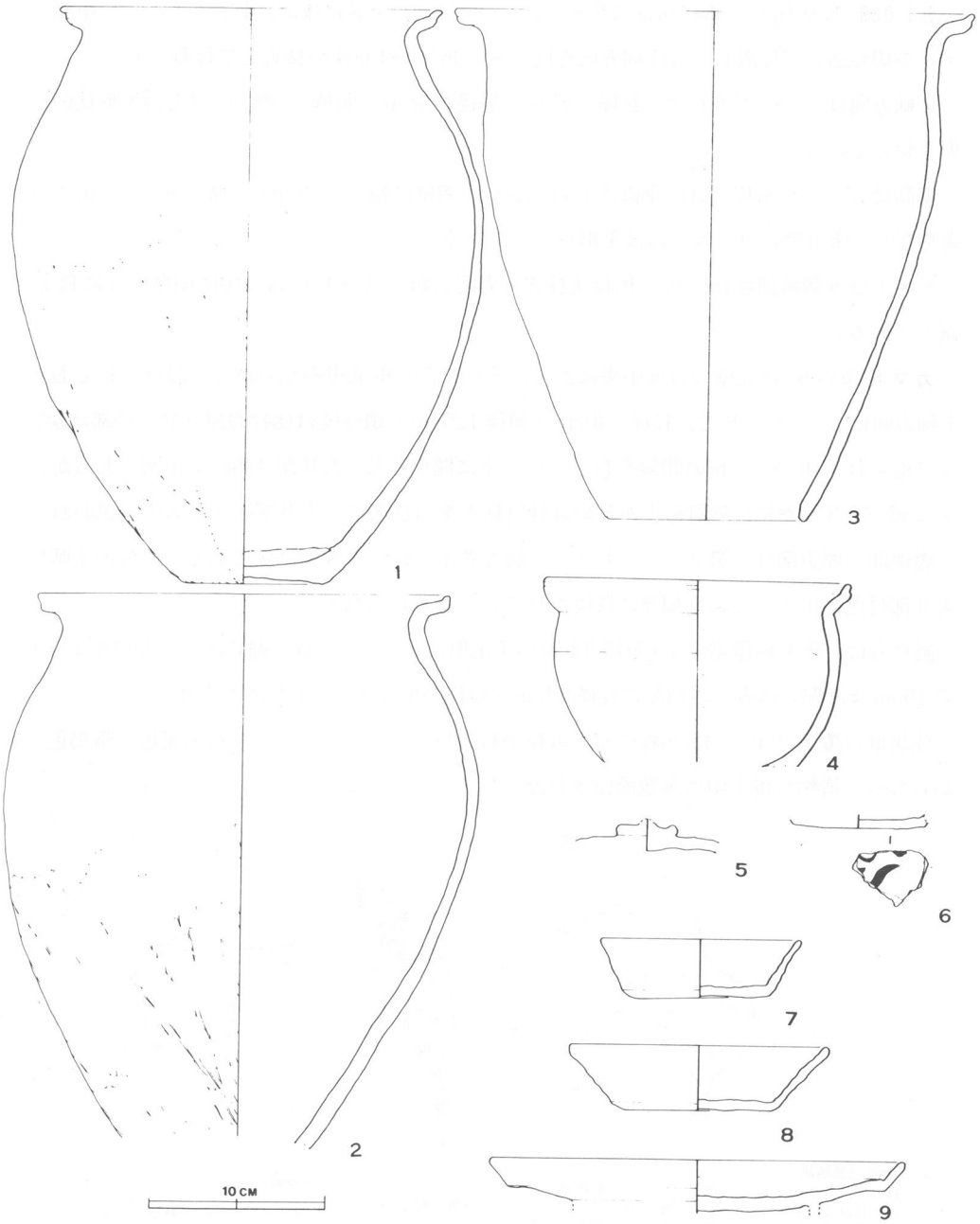
住居址の覆土は 40～43cm程のローム粒子およびロームブロックを含む黒褐色・暗褐色土層からなり，遺物は覆土中に多数検出された。



ＳＩ 039 土層解説

1.	Hue 7.5YR	4/4	褐色	砂質粘土（少）
2. a	Hue 7.5YR	3/4	暗褐色	ロームブロック（少）・焼土粒子（少）
b	Hue 7.5YR	3/4	暗褐色	焼土ブロック（少）
c	Hue 7.5YR	3/4	暗褐色	焼土ブロック（中）・木炭粒子（中）
3. a	Hue 5 YR	3/4	暗赤褐色	焼土ブロック（中）砂質粘土（中）
b	Hue 5 YR	3/4	暗赤褐色	焼土ブロック（少）木炭粒子（少）
c	Hue 5 YR	3/4	暗赤褐色	焼土ブロック，カーボン・ロームブロック含む
4. a	Hue 2.5YR	3/6	暗赤褐色	純焼土ブロック・ロームブロック含む
5.	Hue 10YR	3/4	暗褐色	ロームブロック（大）焼土ブロック，燃焼床のためハード
6.	Hue 10YR	5/8	黄褐色	ローム
7.	Hue 7.5YR	3/4	暗褐色	ロームブロック（大）多く含む小穴状

第 67 図　ＳＩ 039　カマド実測図

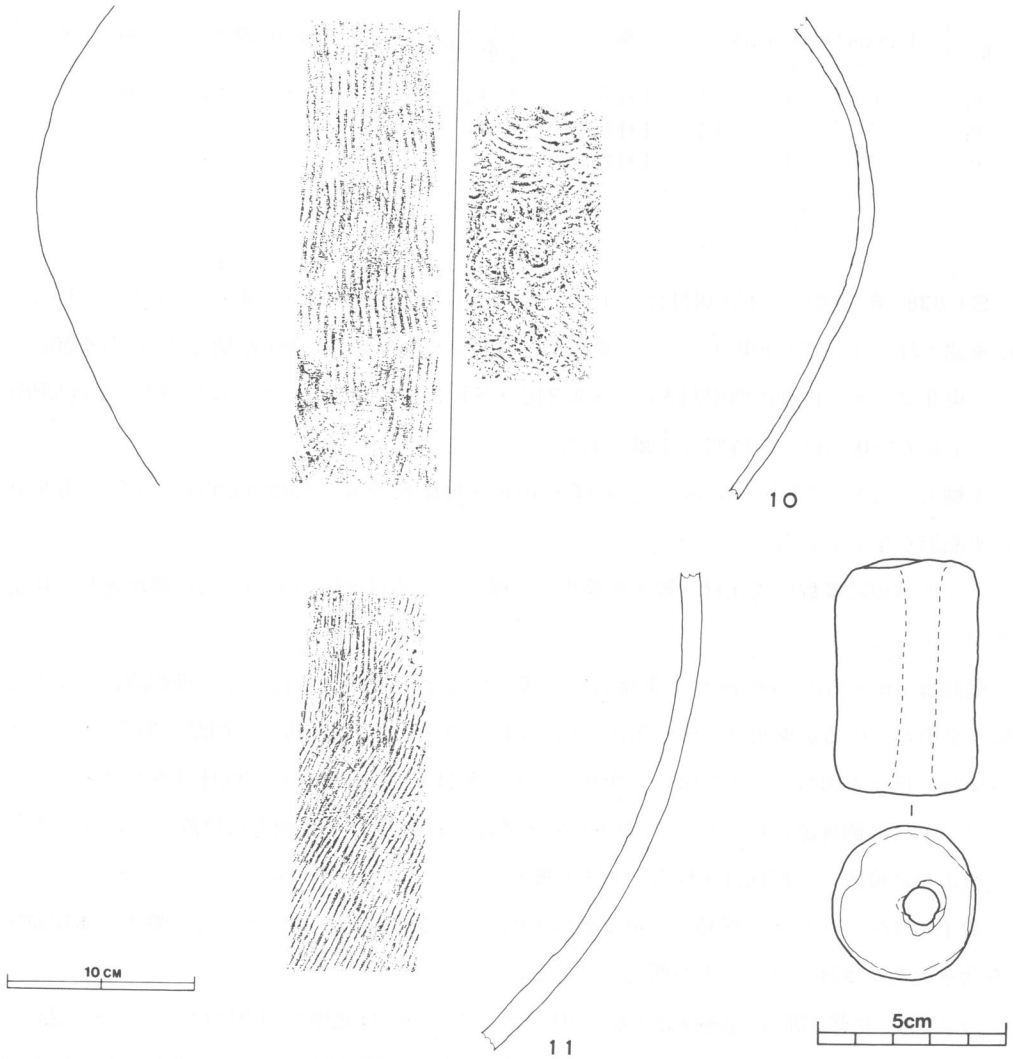


第68図　ＳＩ039　出土遺物

主な遺物は，カマド付近から住居の中央部にかけて土器が集中していた。

出土遺物（第68図・第69図）　土師器の甕・甑・須恵器の杯・蓋・甕などがある。

甕は大型と小型に分けられる。大型の甕は，１・２のように口縁部が短く屈曲し，胴部の中位以上にあらいヘラミガキを行なっている。大型の甕は，最大径が口縁にあり，口縁部が屈曲す



第69図　ＳＩ039　出土遺物

るため内側に沈線がめぐっている。胴部は球形を割ったような形を呈する(4)。

甑(3)は，やはり口縁部が屈曲するもので，甕との共通点が伺える。

須恵器の蓋は扁平な擬宝珠状のつまみをもつもので，天井部のみである。(5)・10・11は大型の甕で，10は比較的器壁がうすく，外面に平行叩き痕，内面に同心円文の痕を残す。11は肉厚で，外面に平行叩き痕，内面は同心円文を消している。

1と2はカマド付近から住居址の中央部にかけて，3は東部中央，10は東南部，11はカマドから出土した。

その他の遺物では管状土錘が出土した。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	26	21	21	主柱穴	P_4	32	23	14	主柱穴
P_2	27	26	14	主柱穴	P_5	43	27	19	
P_3	22	21	11	主柱穴					

SI 038（第70図）　本住居址はE9i2・i3・j1・j2・j3・j4・F9a2・a3・a4に確認され，SI 070が東コーナーに重複し，西北コーナーをSI 081が切り込み，SK 266a・bが東北コーナー付近に西南向きに，SK 216・SK 217が東南コーナーに位置し，ほぼ同形態をなす長方形状の新しい時期の土壙である。

主軸方向はN－29.2°－Wを向き，長径8.16m・短径8.08m・面積65.93m^2ほどの方形状の平面形を呈している。

カマド周辺に多数の炭化材・焼土を検出し，壁ぎわからほぼ床の中心方向に焼け落ちた状況を呈している。

壁高は36～53cmを測り，東壁はやや浅いがほぼ垂直に立ちあがる。壁側溝はカマドを除き全周しているが東南コーナー部はSI 070およびSK 217が重複し不明瞭である。

床は，ほぼ平坦なロームで堅く，西北コーナー部はSI 081の住居の貼床状を呈する。

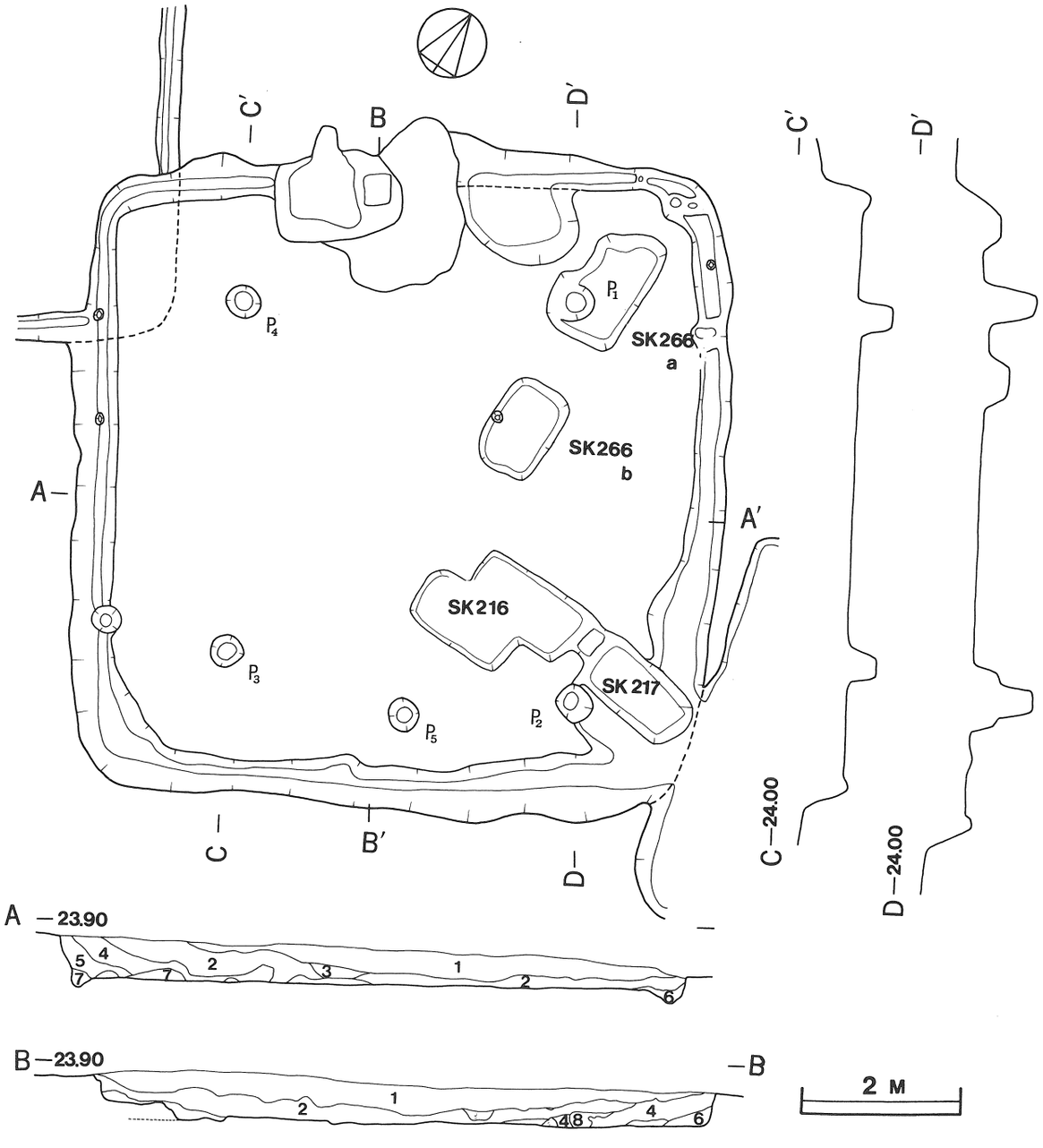
ピットは5個確認され，P_1～P_4が主柱穴と考えられ，P_2はやや南方に位置している。P_5は南壁よりに位置し，形状は主柱穴とあまり変わらないが，やや浅いものである。

覆土は32～60cmほど堆積し，第1層が黒色土で，第2層以下はほとんどが焼土・木炭粒子を含み火災を受けていることが明らかである。

カマドは，北壁に新旧2基を確認する。旧カマド（第72図）は北壁の中央に位置し，N－34°－Wを向き，掘り方は北壁を幅100cmで65cmほど38°の角度で掘り込み，煙道部としていると考えられ，火床は長径160cm・短径112cmほど不定長方形状に約18cmほど掘り窪めている。廃棄後，床の掘方部は貼床されている。

新カマド（第71図）は北壁の西よりに築かれ，主軸方向はN－31°－Wを向き，長径147cm・短径102cmの長方形状の平面形を示している。天井部付近は崩壊あるいは削平を受けている。袖部は20cmの高さを有し，北壁より76cmほど床面に突出し，60cmの間隔でほぼ平行している。燃焼部の火床はロームを貼った後に袖部を構築し，焚口部に焼土が充満し，東袖部から燃焼部にかけて小型の手捏ね土器のほぼ完型が4個出土している。西袖部の脇に長径60cm・短径40cmほどで長方形状の棚状を呈する平場があり，甕が横転して出土している。

掘り方は北壁を45cmの幅で40cmほど掘り込み，約41°の角度を有し煙道部としている。



S I 038 土層解説

1. Hue 7.5YR 2/2 黒 褐 色
2. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少含む
3. Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色 ローム粒子・木炭粒子を含む
4. Hue 7.5YR 3/3 暗 褐 色 ローム粒子含む
5. Hue 7.5YR 3/3 暗 褐 色 焼土粒子を含む
6. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ロームブロック含む
7. Hue 5YR 3/4 暗赤褐色 焼土含む
8. Hue 7.5YR 3/1 黒 褐 色 木炭多く含む

第70図 S I 038 実測図

火床は床を長径80cm・短径78cmの不定形状に100cmほど掘り窪め，東側に長径28cm・短径11cmの楕円形状のP_1，長径20cm・短径8cmほどの楕円形状のP_2が確認された。

遺物は多数出土している。

出土遺物（第73図）　出土した遺物量は多量で，SI067・SI060・SI039につぐ量である。

土器は，土師器の甕・杯・手捏ね土器・須恵器の甕がある。

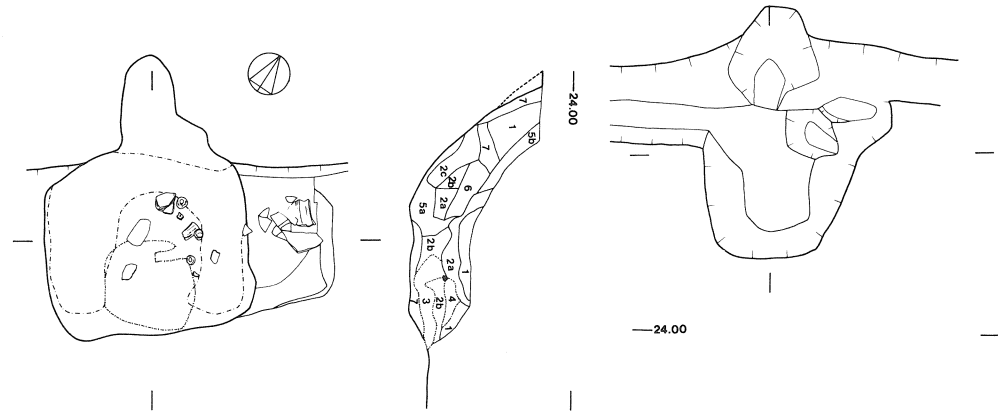
甕は，大型と小型の二種に分かれ，1のように口径20cm弱の甕は2点を数える。2.3は大型で2は口縁部が「く」の字を呈し，3はやや長胴で最大径が中位より上にあり，あらいヘラミガキが施されている。

4から9は杯で，4のように器高がやや高く椀に近い形，5・6・9のように外稜をもつ形，7・8のように素縁の口縁をもつものにわけられる。杯は小片で良好な資料とはいえない。

10から14は手捏ね土器で，ユビオサエの痕がみられ，12・13は粘土の輪積み痕が顕著に残っている。

15は須恵器の大型甕の口縁部である。端部を折り返しているため肉厚になっており，口縁部外面には櫛描きによる波状文が伺える。

11から13はカマドの中から，1・6・10はカマドの東側，3はカマド付近，8はカマドの西側，2は住居址の中央北部から出土した。



SI 038 カマド土層解説

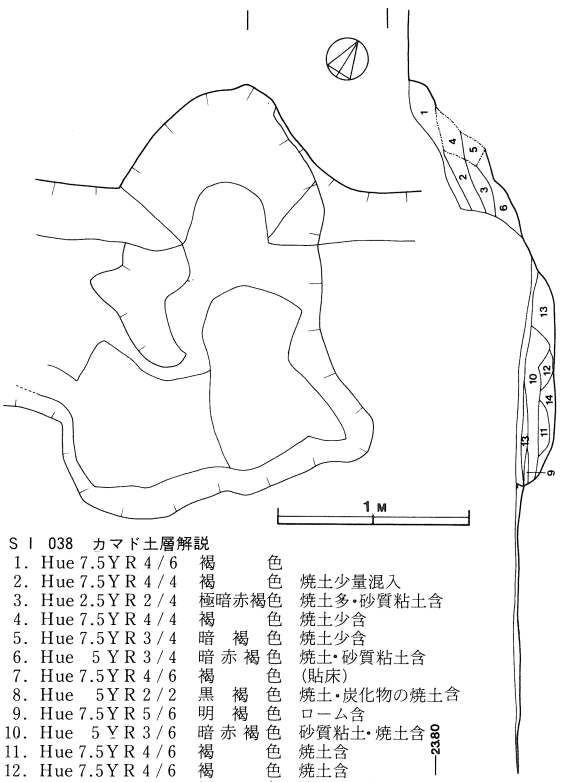
1.		Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック若干含む
2.	a	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	焼土粒子カーボン(少)・砂質粒子含む
	b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	焼土ブロック小・ローム粒子・砂質粒子(少)含む
3.		Hue 2.5YR 4/8	赤褐色	焼土ブロック粒子多く含む
4.		Hue 7.5YR 3/6	暗赤色	純焼土ブロック(大)・砂質粒子含む
5.	a	Hue 10YR 4/4	褐色	白色粘土粒子・砂質・ローム粒子を含む袖部
	b	Hue 10YR 4/3	にぶい黄褐色	
6.	a	Hue 2.5YR 5/4	黄褐色	砂質・粘土粒子含み・燃焼されハード(少)含む
	b	Hue 2.5YR 5/4	黄褐色	ロームブロック(大)焼土粒子含む
7.		Hue 2.5YR 4/4	オリーブ褐色	焼土粒子ロームブロック含む
8.		Hue 10YR 5/8	黄褐色	ローム含む

第71図　SI 038　カマドA実測図

その他の遺物では土製の支脚があるが風化がはげしく原形をとどめていない。

16から20は国分期の土器で覆土の混入であろう。

16は土師器の小型甕で，頸部から大きく口縁部が外へひらき，頸部外側にはヨコナデによる凹面がある。17は小型の杯でミズビキ成形によっている。18は内黒土師器の高台にある杯で，ミズビキ成形のあと底部を回転ヘラケズリし，高台をつけてから回転ナデ調整を行なっている。このような高台をもつ杯は本遺跡では非常に少ない。19・20は須恵器の杯で，19はミズビキ成形のあと体部下端と底部外面をヘラケズリ調整しており，20の底部は糸切りである。



ＳＩ 038　カマド土層解説
1. Hue 7.5YR 4/6　褐　色
2. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　焼土少量混入
3. Hue 2.5YR 2/4　極暗赤褐色　焼土多・砂質粘土含
4. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　焼土少含
5. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　焼土少含
6. Hue　5YR 3/4　暗赤褐色　焼土・砂質粘土含
7. Hue 7.5YR 4/6　褐　色　(貼床)
8. Hue　5YR 2/2　黒　褐　色　焼土・炭化物の焼土含
9. Hue 7.5YR 5/6　明　褐　色　ローム含
10. Hue　5YR 3/6　暗赤褐色　砂質粘土・焼土含
11. Hue 7.5YR 4/6　褐　色　焼土含
12. Hue 7.5YR 4/6　褐　色　焼土含
13. Hue 7.5YR 4/6　褐　色　焼土微量含
14. Hue 7.5YR 4/6　褐　色　焼土微量含

第72図　ＳＩ038　カマドＢ実測図

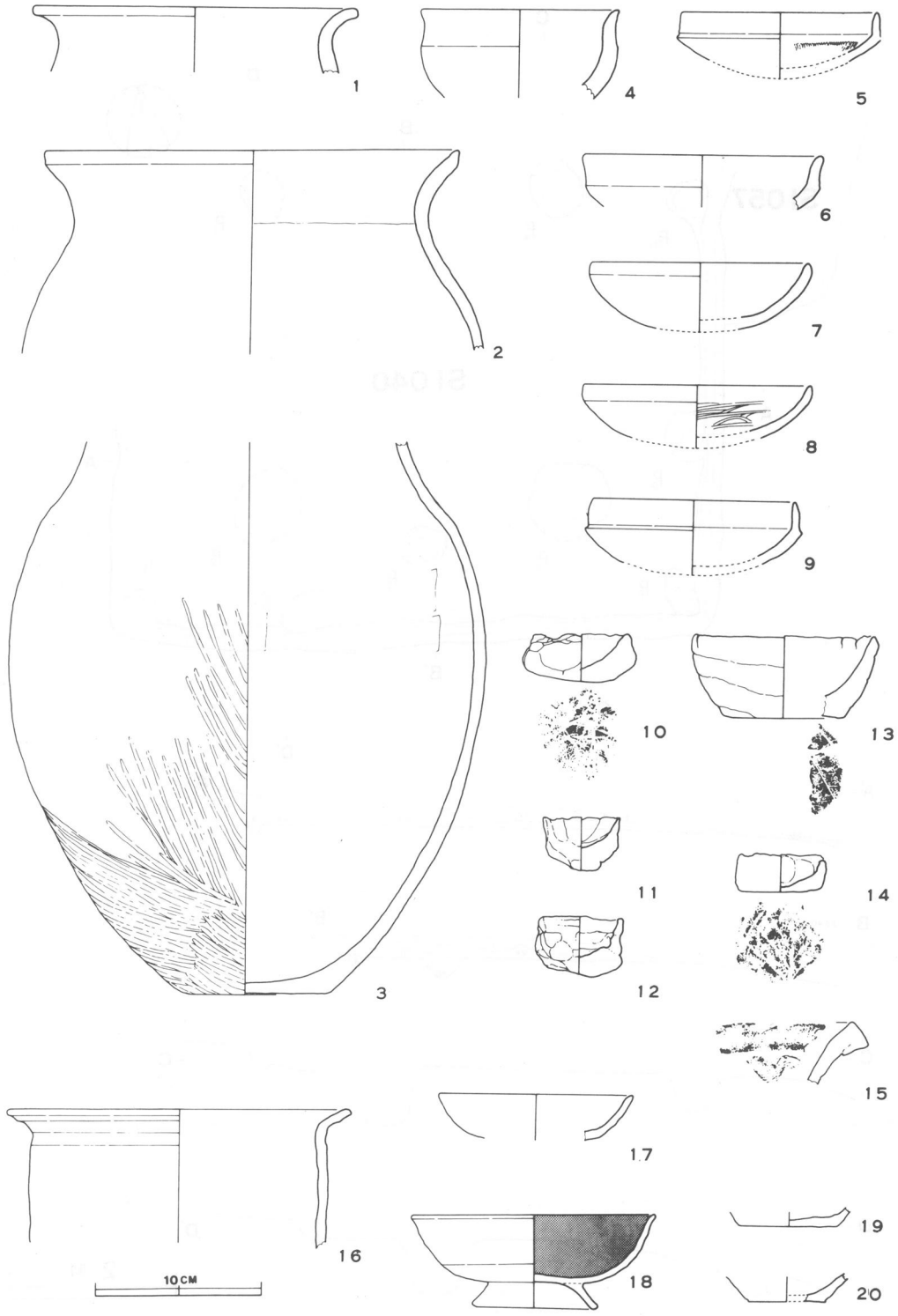
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	48	40	78	主柱穴	P_4	36	36	43	主柱穴
P_2	41	36	68	主柱穴	P_5	32	29	(33)	
P_3	36	30	36	主柱穴					

ＳＩ 040（第74図）　本住居址はＥ９ｂ３・ｃ３・ｃ４・ｃ５に確認され，ＳＩ057の大部分を切り込み，ＳＨ01によって北側半分を切られて，南側には小型のＳＩ055が接して位置している。

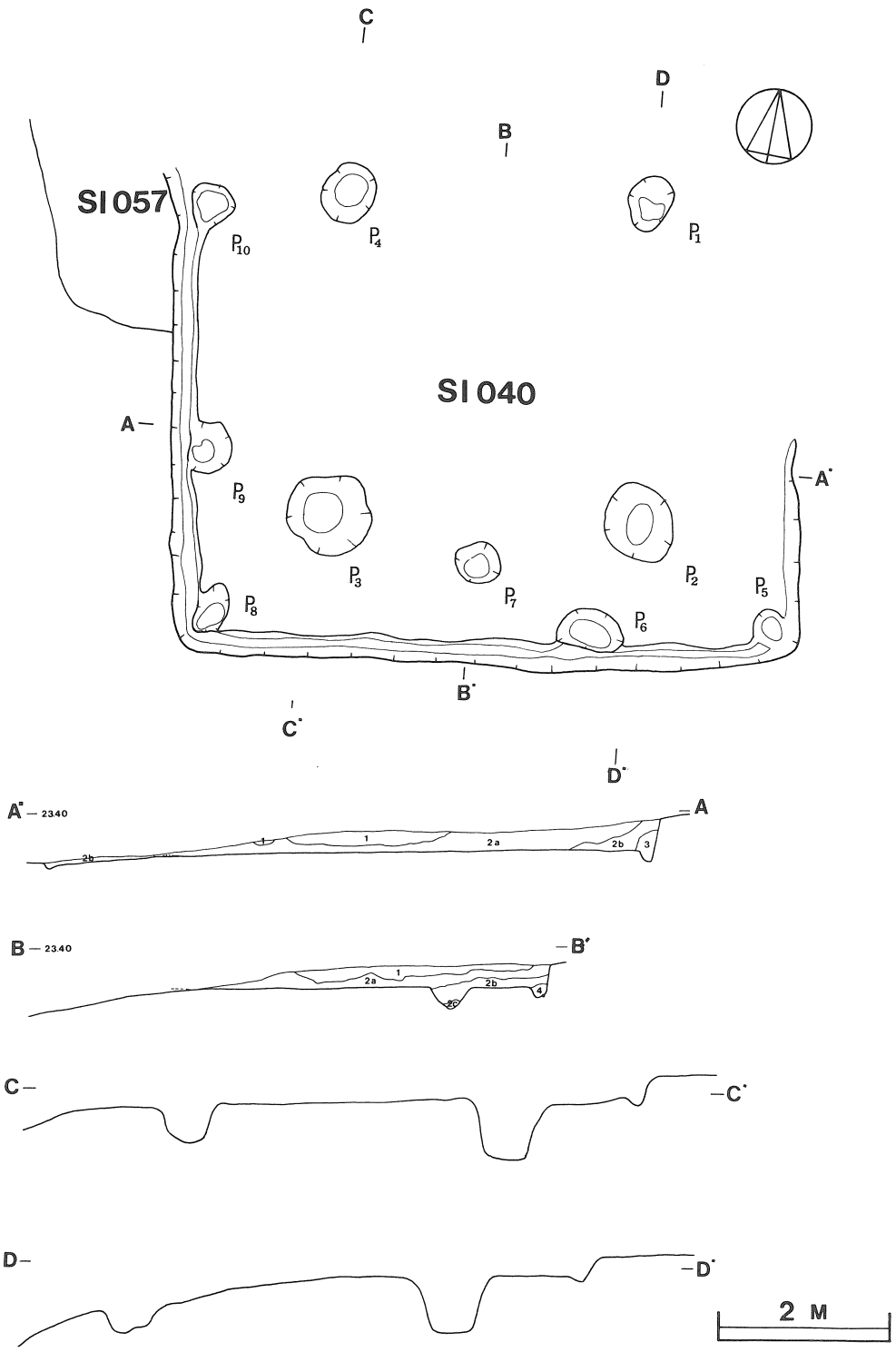
主軸方向はＮ－9.5°－Ｗで，現状の壁が確認される範囲の長径は7.33ｍ・短径5.34ｍ・面積39.14m^2で，長方形状の平面形を呈していると想定される。

壁高は，西徒が34cm・南壁が28cmを測るが他壁は削平されている。

床は，ほぼ平坦をなし，堅いロームである。



第73図　ＳＩ038　出土遺物



第74図　ＳＩ040　実測図

SI 040 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック(中)・ローム粒子(中)・軟質ロームブロック(少)
2. a Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中)・焼土粒子(極少)
b Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム粒子(中)
c Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム粒子(少)
3. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ロームブロック(少)
4. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームブロック(多)

ピットは10個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられる。P_7はP_2とP_3の中間やや南よりに位置しP_5は東南コーナーに，P_8は西南コーナーの壁側溝に接して位置している。P_6・P_9・P_{10}も壁側溝にそって確認されている。

炉あるいはカマドは確認されていない。

覆土に，北壁がほとんど削平されているが，ローム小ブロック混じりの暗褐色土からなり，第2a層に極少の焼土粒子が検出されている。

遺物はほとんで検出されていない。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	56	40	27	主柱穴	P_6	67	41		
P_2	72	69	67	主柱穴	P_7	46	39	15	
P_3	86	84	68	主柱穴	P_8	30	50	32	
P_4	66	53	42	主柱穴	P_9	50	34	32	
P_5	42	28	33		P_{10}	47	41	14	

SI 041(第75図)　本住居址はE8c8・c9・d8・d9に確認され，SI 044の東側を切込み，SH01によって東北コーナーとカマドの一部を切られている。

主軸方向はN－20.5°—Wを向き，長径6.34m・短径6.03m・面積38.23m²の方形状の平面形を呈している。

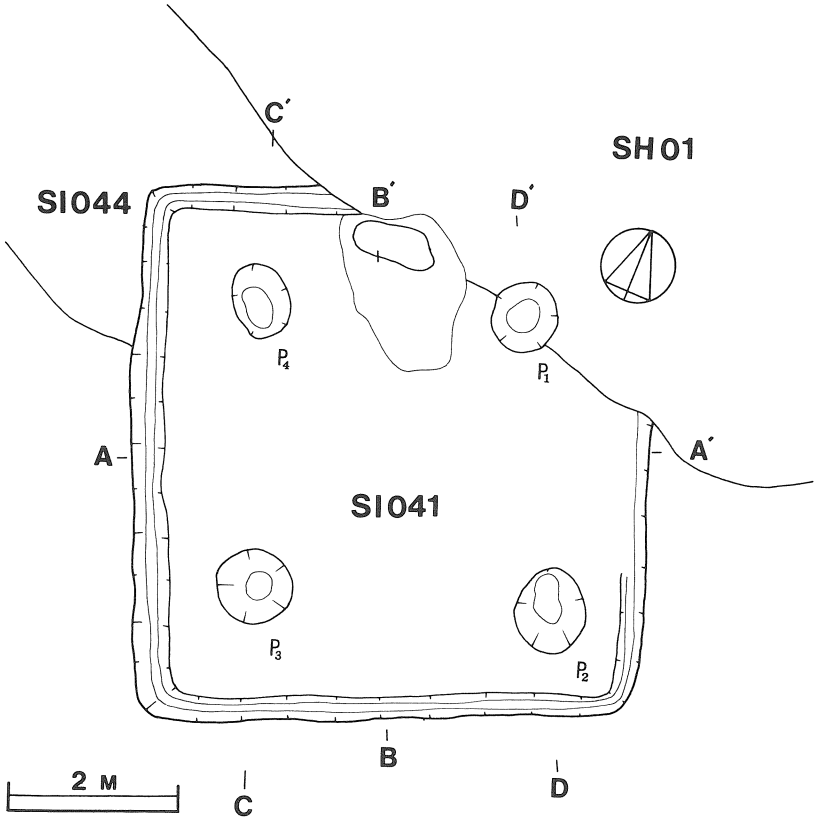
壁高は34cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがり，壁側溝はカマドを除き一周している。

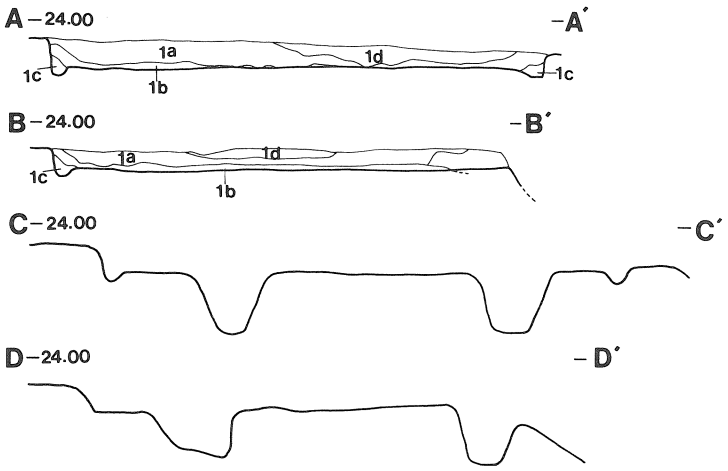
床は，ほぼ平坦なロームで堅い。ピットはP_1～P_4の4個が確認され主柱穴と考えられる。

覆土は21～34cmでローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土で第1a層に極少の焼土粒子が検出されている。

カマド(第76図)は，かなり崩壊し焼土等も東南に流出している。主軸方向は北壁のほぼ中央部にN－21°—Wに向け築かれ，長径112cm・短径94cmほどでわずかに西袖部が一部分残存を示す砂質粘土が確認できる。燃焼部はわずかの焼土を留める。掘り方は長径118cm・短径82cmほどの楕円形状に床面を14cm掘り窪めている。煙道部はSH01によって切断されている。

遺物は少数である。





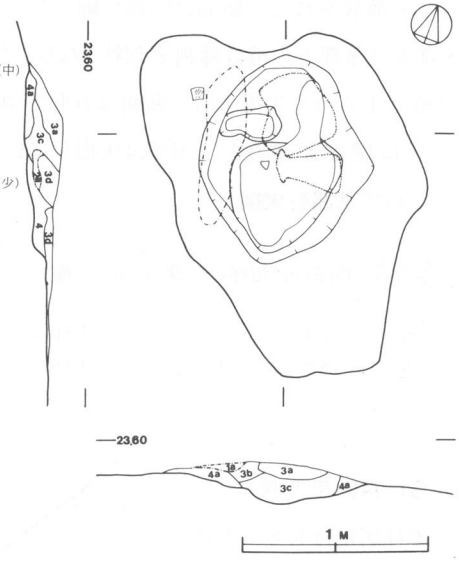
S I 041 土層解説

1. a Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中)
   b Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム粒子(少)
   c Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム小ブロック(少)・軟質ロームブロック(少)・ローム粒子(少)
   d Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム粒子(少)・焼土粒子(極少)

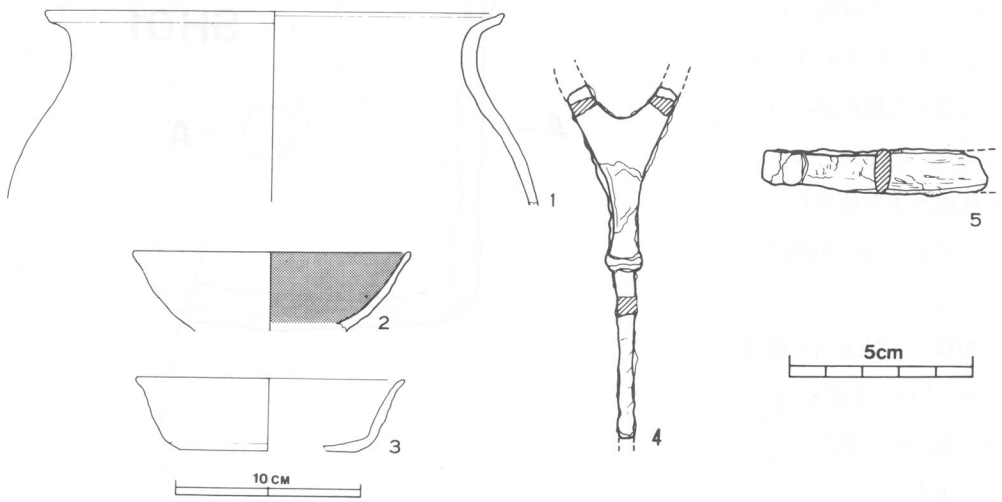
第75図 S I 041 実測図

S I 041　土層解説

1.	a Hue 7.5YR	5/4	にぶい褐色	砂質粘土層
2.	a Hue 2.5YR	4/8	赤　褐　色	焼土層
3.	a Hue　5YR	3/6	暗　褐　色	焼土ブロック(少)・焼土粒子(中) 木炭粒子(少)
	b Hue　5YR	3/6	暗　褐　色	砂質粘土(少)・焼土粒子(中)
	c Hue　5YR	3/6	暗　褐　色	焼土小ブロック(少) 焼土粒子(中) ロームブロック(少)
	d Hue　5YR	3/6	暗　褐　色	焼土ブロック(少) 焼土粒子(少) 木炭粒子(少)
4.	Hue 7.5YR	3/4	暗　褐　色	ロームブロック(少) ローム粒子(中)・木炭粒子(少)



第76図　S I 041　カマド実測図



第77図　S I 041　出土遺物

出土遺物(第77図)　土師器の甕，内黒土師器の杯，須恵器の杯がある。

甕は，口縁部が短く大きくひらき，端部内側が凹画をなす(1)。2はI038の所で掲載した杯のようなタイプであろうか。須恵器の杯は，底部径が比較的大きく，ミズビキ成形のあと，底部外面を回転ヘラケズリ調整している。この他，南壁の中央部で，須恵器の大型の皿の底部かと考えられる平坦な底部を検出しているが形態は不明である。1の甕は，住居址の東南コーナーから出土した。

鉄製品　4は鏃矢形式の鉄鏃で先端部を欠損している。現在9.6cm・刃部1cmほどの遺

存する雁股をなし，断面は内側が細くなり刃がつけられているかどうかは不明である。雁股の刃部より茎部との境は棘刺突起状となり大きく張りだしている。茎部は先端に移行するにしたがって細く4.7cmで欠損する。断面は方形で中央部分では1辺0.5cmを測る。

5は関部が遺在し，刃部は欠損している刀子で，現在長は6.1cm・幅11cm・厚さ0.3～0.4cmで基部を欠損している。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	74	65	72	主柱穴	P_3	77	73	71	主柱穴
P_2	88	70	57	主柱穴	P_4	73	51	72	主柱穴

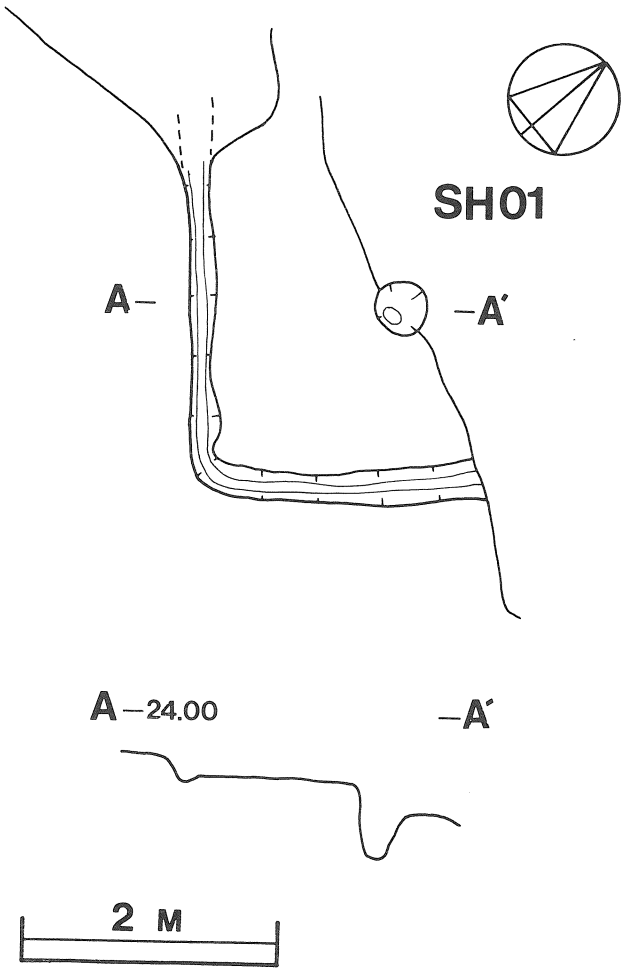
SI 042（第78図）

本住居址はE8b5に確認され，大部分をSH01によって破壊されている。さらにSH01の南外辺部から橋脚部に向かう何らかの通路として，本住居址上を使用していたと考えられる斜面に位置する。

規模，主軸方向を確認することは不可能であり，床も極一部が残存するのみである。

主柱穴と考えられるP_1がSH01の斜面上に位置する。壁は8～12cmでゆるい立ちあがりを示す。

遺物は出土していない。覆土もわずかな暗褐色土の浅いものである。



第78図 SI 042 実測図

SI 043　本住居址はＥ８ｃ４・ｃ５・ｄ４・ｄ５に確認され，ＳＩ042の南方に位置している。

遺構確認面においてわずかに数cmの焼土・炭化物を含む暗褐色土を確認できるのみで，壁は確認できない程削平を受けている。東南壁に検出された焼土はカマドと想定していたが，調査後，焼土がわずかに残存するのみでカマドとしての確証は得られなかった。

床のほぼ中央に焼土，炭化物を少量検出する。住居の規模は前述のように確認することが難しく，長径3.76m・短径3.46m・面積13.00m^{2}で西南コーナーがやや張り出す方形状の平面形を示すと考えられる。

遺物はほとんど検出することができない。焼土・炭化物の散在が多く火災にあっていると考えられる。

SI 044（第80図）　本住居址はＥ８ｃ７・ｃ８に確認され，東壁がＳＩ045と重複し，西壁をＳＩ041に切られ北側をSH01によって大部分切られている。

規模等は不明でわずかに南壁が10cmほど遺存しゆるやかに立ちあがり，床面の西南コーナーにやや方形状のP_2と楕円形状のP_1が在るのみで，ＳＩ045と重複関係は不明である。

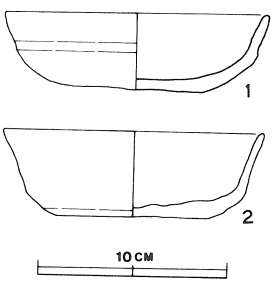
遺物はほとんど検出されなかった。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	65	34	7.5		P_2	56	48	2.6	

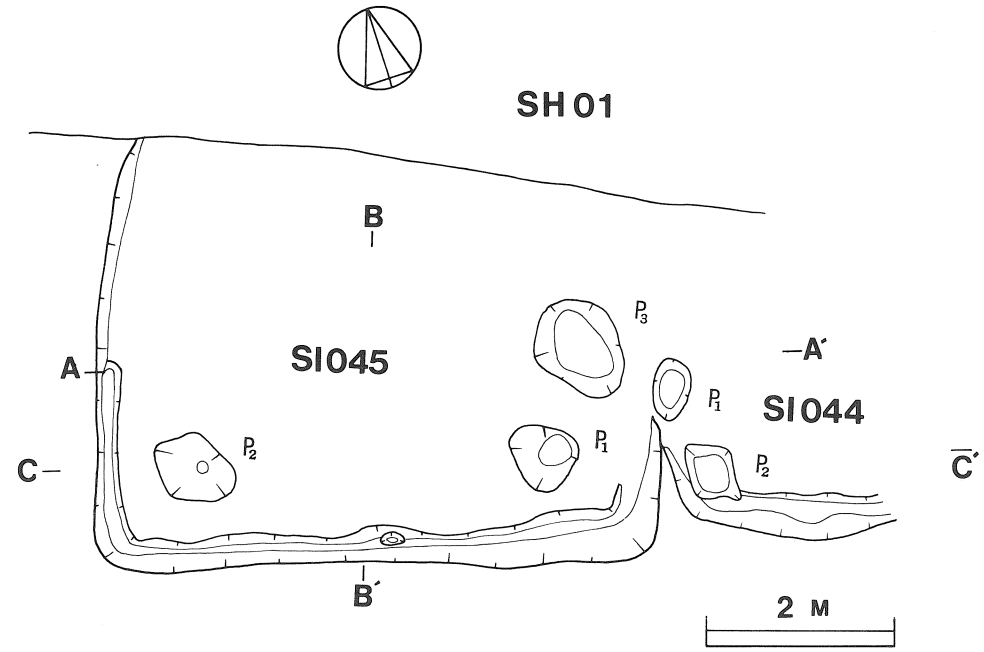
SI 045（第80図）　本住居址はＳＩ044の西側Ｅ８ｂ６・ｃ６・ｃ７に確認され，北側の大部分をSH01によって削られている。

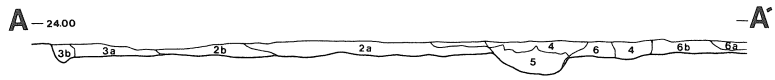
南壁に壁側溝をわずかに留め，壁高は1$\frac{1}{2}$cmほどで，垂直に立ちあがる。北壁に向かうにしたがい削平を受けている。

床はほぼ平坦をなすロームで，やや西に傾斜を示している。



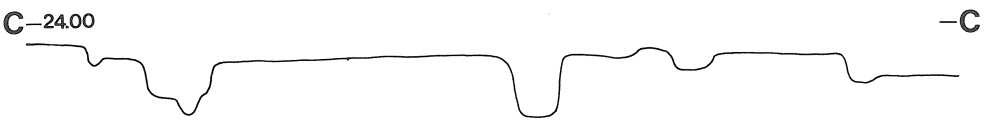
第79図　ＳＩ045　出土遺物





S I 44·044 土層解説

1.		Hue 7.5YR 3/4	褐 色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)
2.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐 色	ロームブロック(中)・ローム小ブロック(中)・ローム粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐 色	ローム小ブロック(中)・黒色ブロック(少)
3.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐 色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 4/3	褐 色	ローム小ブロック(少)・黒色ブロック(少)
4.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)
5.		Hue 7.5YR 2/3	暗褐色	軟質ロームブロック(少)
6.	a	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム小ブロック(極少)
	b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームブロック(少)・ローム粒子(少)



第80図 S I 044・045 実測図

ピットは3個確認され，P_1・P_2は主柱穴と考えられる。P_3は撹乱的な土壙状のものである。

覆土は，第1層が暗褐色土で第2層が褐色土である。

出土遺物　遺物は少量で，1は土師器の杯で外稜をもち口縁部は外にひらく。2は須恵器の杯で，ミズビキ成形のあと，底部外面を回転ヘラケズリ調整している。

1は南壁側溝内から，2は1のすぐ東隣りから出土している。

SI041，SI044，SI045の出土土器は，いづれも国分期に比定さえる。ただし，すぐ南のSI039の土器群とはまた異なる様相を示している。この3住居址は，SH01によって大部分破壊されているため，これらの土器がどの住居址の遺物であるのか判別できない状態である。

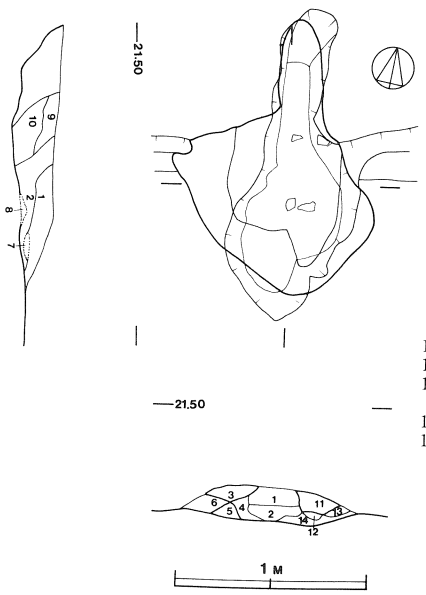
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	76	59	64	主柱穴	P_3	103	70	28	
P_2	74	64	55	主柱穴					

SI 046（第82図）　本住居址はE9b5・b6・c5・c6に確認され，東部地区の南東傾斜面に検出され，北西にSI 047・南西にSI 049・SI 050が位置している。

主軸方向はN－11°－Wを向き，長径3.6m・短径3.37mの方形状の平面形を呈している。

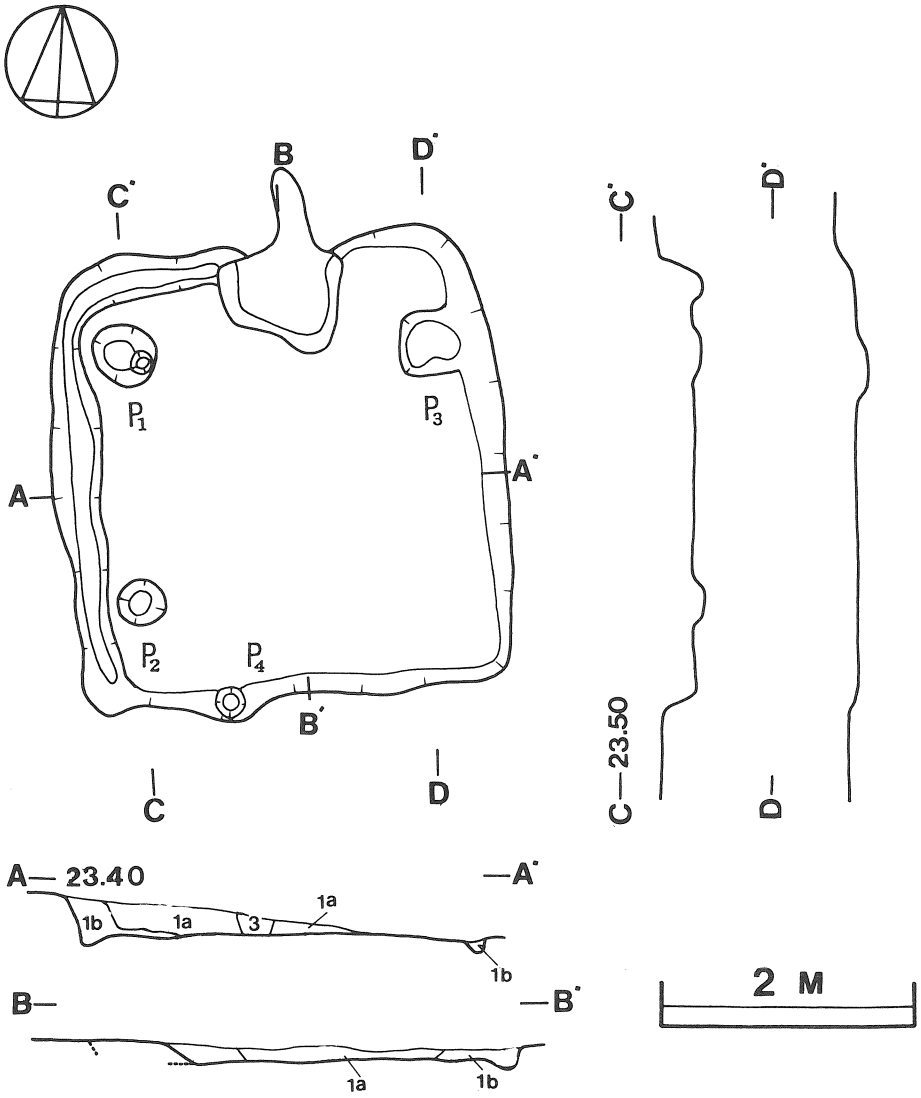
東斜面に所在し，西壁は28cmでゆるやかに立ちあがり，北壁は中央にカマドを設け東に向かうにしたがいほとんど消滅し，また南壁も同様である。壁側溝はカマドを除きほぼ全周するが西側溝は幅を持ちゆるやかである。東側溝はわずかに確認されるに留まる。

床は，ほぼ平坦をなすロームであり，主柱穴と考



SI 46　カマド土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子含
2. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　粘土小ブロック含
3. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　白色粘土粒子(多)含
4. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　粘土粒子少量
5. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ロームブロック(多)含
6. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　白色粘土(多)含
7. Hue　5YR 3/6　暗赤褐色　焼土
8. Hue　5YR 3/6　暗赤褐色　焼土
9. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　砂質粘土・ロームブロック・焼土含
10. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土含
11. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　砂質粘土・焼土粒子含
12. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　砂質粘土・焼土によって権成され10YRの面と5YRの両面を有する
13. Hue 2.5YR 4/3　オリーブ褐色　白色砂質粘土
14. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ロームブロック

第81図　SI046　カマド実測図



S I 046　土層解説

1. a　Hue 10YR 3/4　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)
　 b　Hue 10YR 3/4　暗褐色　ローム粒子(少)
2.　　Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)
3.　　Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム粒子(中)・粒土粒子(少)・黒色粒子(少)・焼土粒子(少)

第82図　S I 046　実測図

えられるP_1，P_2は西側よりに位置し，東側には確認されなかった。P_3は主柱穴と考えるのには壁が軟弱すぎる。

覆土はローム ブロックを含む暗褐色土が大部分であるが東では極浅くなる。

カマド(第81図)は北壁の中央部に位置し，主軸方向はN－10°－Wで，煙道部は北壁を60cm掘り込み，長径151cm・短径94cmほどで崩壊が激しく，袖部の一部は横断面に砂質粘土を含む第8層・第11層白，色粘土を含む第6層がわずかに確認される。

掘り方は，北壁を幅45cm・奥行64cmで43°の角度を有し細長い煙道部とする。火床は長径85cm・短径58cmほどの不定楕円形状に6cmほど床を掘り窪めている。

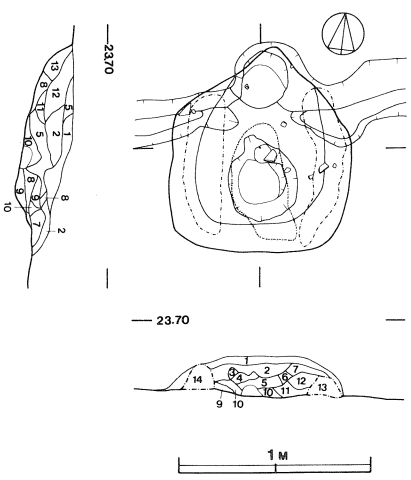
遺物はほとんど検出されなかった。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	43	41	7	主柱穴	P_3	50	46	10	
P_2	38	36	9	主柱穴	P_4	22	21		

SI 047(第84図)　本住居址はF9a3・a4・b3・b4に確認され，北側にSI 038・SI 070が接し，南側にSI 050・SI 046が位置している。

平面形状は，西北コーナーと東北コーナーがやや外側にはりだす，長径4.91m・短径4.91m・面積24.45m^2ほどの方形状を呈し，主軸方向はN－3°－Wを向き，東南コーナーを長方形状のSK 100が掘り込んでいる。

壁は14～22cmで西壁がややゆるやかであるが，他はほぼ垂直に立ちあがる。壁側溝はカマドをSK 100によって切られている部分を除きほぼ全周している。



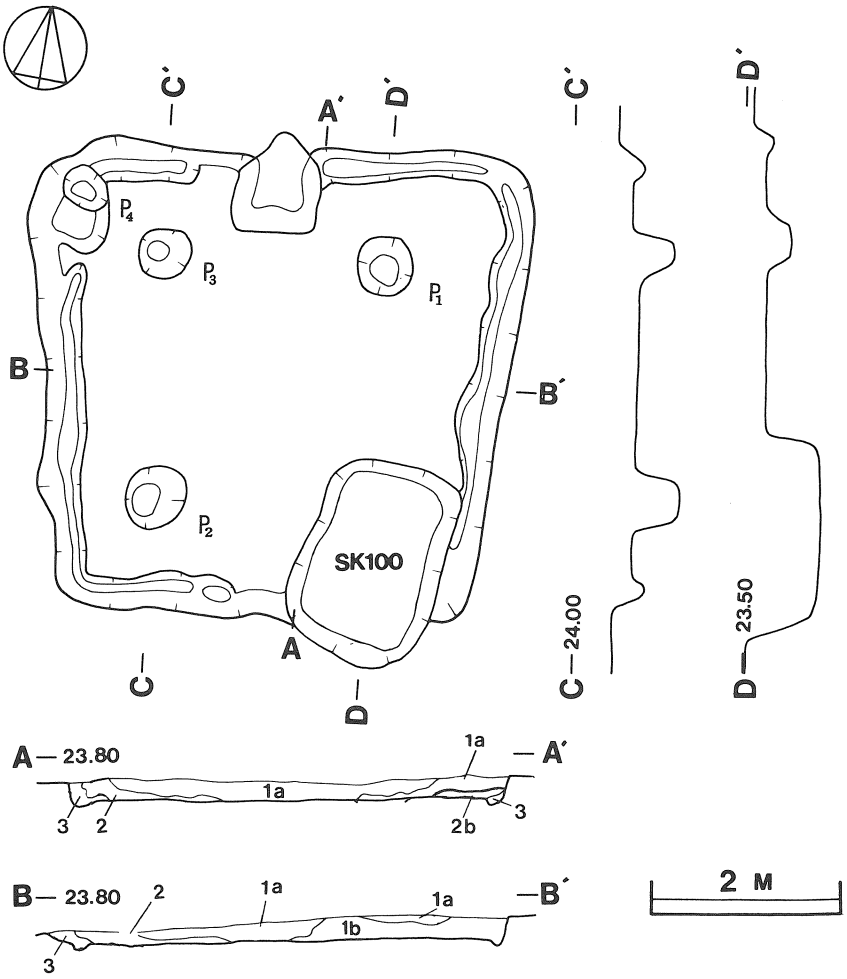
第83図　SI 047　カマド実測図

床は，ほぼ平坦なローム であるが西側にやや傾斜を示している。

ピットは4個確認され，P_1～P_3は主柱穴と考えられ，P_4は西北コーナーに位置している。東南コーナーをSK 100が床を58cmほど掘り込んでおり東南側のピットは破壊されていると考えられる。

覆土は，ローム ブロック・ローム粒子を若干含む暗褐色土層が主である。

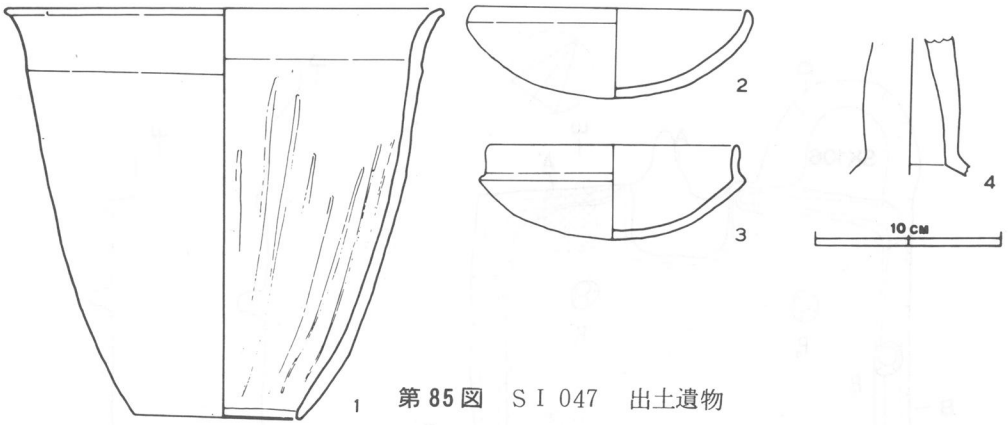
カマド(第83図)は北壁の中央部に位置し，主軸方向はN－7°－Wで，長径108cm・短径95cmほどで，



S I 047　土層解説

1. a　Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ロームブロック (少)・ローム粒子 (中)
   b　Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム小ブロック (中)・ローム粒子 (少)・軟質・暗褐色ブロック (少)
2.　Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ローム小ブロック (少)・軟質・暗褐色ブロック (少)
3. a　Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム粒子 (少)
   b　Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム小ブロック (少)・粘土ブロック (少)

第84図　S I 047　実測図



第85図　ＳＩ047　出土遺物

北壁を幅60cm，30°の角度で20cmほど掘り込み，さらに75°で8cmほど掘り煙道部としている。燃焼部は径42cmの楕円状に床を10cmほど掘り窪めている。袖部は北壁より72～80cmほど突出し，暗褐色土混じりの砂質粘土で構築し48cmの間隔を有している。天井部は崩壊している。

遺物はカマド西袖付近より，ほぼ完型の甑が出土し，東側よりに杯が出土している。

出土遺物（第85図）　土師器の甕・甑・杯・(高杯)がある。

甕は小片のため掲載を省いた。甑はやや小型で，胴部内面にタテ方向のヘラミガキがみられる。

杯は素縁内傾口縁(2)と，外稜垂直立ち上がり口縁の2種がある。

1はカマドの西袖脇，2はカマドの東，3は住居址の東南コーナーからそれぞれ出土している。4の高杯は覆土の混入であろう。

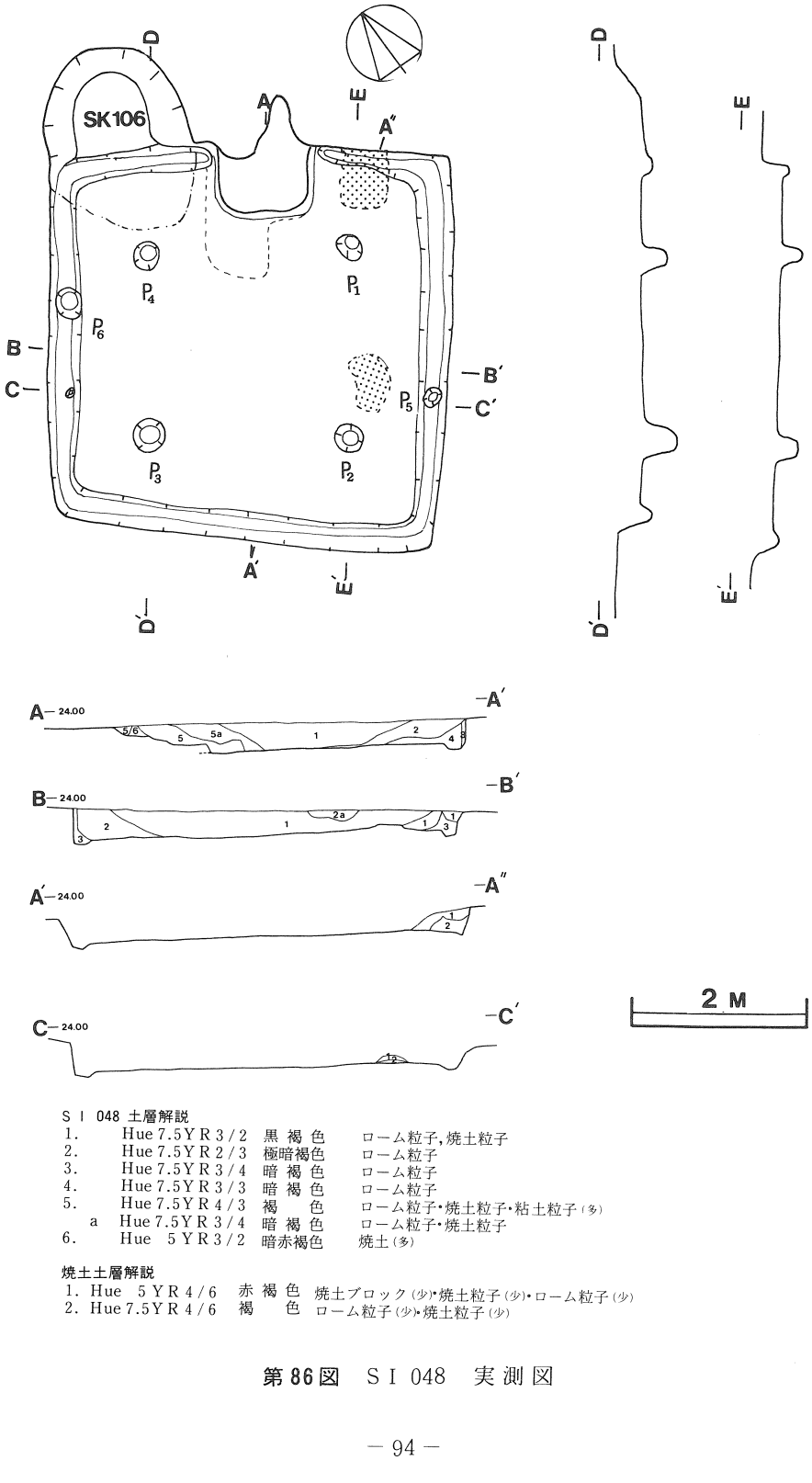
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	58	47	26	主柱穴	P_3	45	43	45	主柱穴
P_2	62	50	47	主柱穴	P_4	43	30	50	

SI 048（第86図）　本住居址はＦ８ｅ０・ｆ０・Ｆ９ａ１・ｅ１・ｅ２・ｆ１に確認され，東部地区の南方部に在り，ＳＩ052が南側に，ＳＩ050が北側にやや接近して位置する。さらに本遺構の北壁コーナーはSK108によって切られている。

主軸方向はＮ－37°－Ｅで，長径4.75m・短径4.44m・面積21.09m²でやや東南コーナーが南に張りだす方形状の平面形を呈している。

壁高は13～33cmで東壁がややゆるく立ちあがり，他壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。

壁側溝は32～42cmの幅でカマドを除き全周している。



S I 048 土層解説

1.	Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ローム粒子,焼土粒子
2.	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	ローム粒子
3.	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子
4.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子
5.	Hue 7.5YR 4/3	褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子(多)
a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子
6.	Hue 5YR 3/2	暗赤褐色	焼土(多)

焼土土層解説

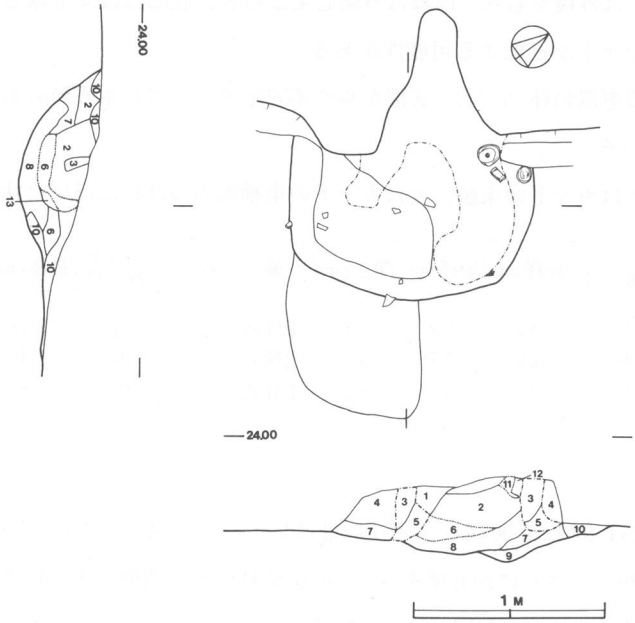
1.	Hue 5YR 4/6	赤褐色	焼土ブロック(少)・焼土粒子(少)・ローム粒子(少)
2.	Hue 7.5YR 4/6	褐色	ローム粒子(少)・焼土粒子(少)

第86図 S I 048 実測図

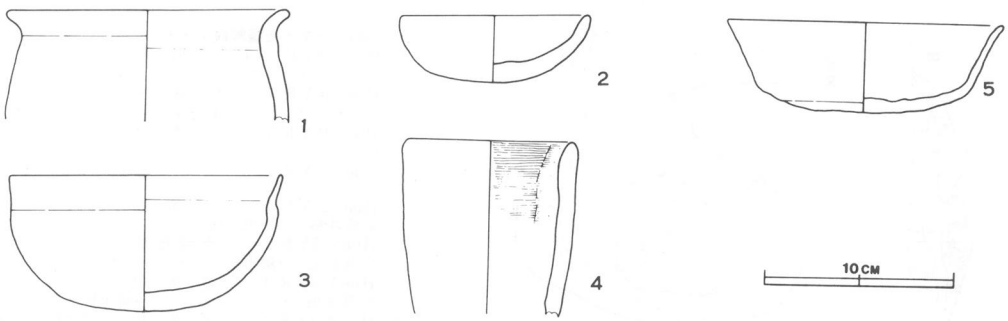
床はほぼ平坦なロームで堅く，６個のピットが確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられる。東側溝の中央やや南にP_5・西側溝の北よりにP_6が確認され，壁側穴と考えられる。

カマドの西および東南に焼土が多量に検出され，覆土中の第1層からも焼土粒子が検出され，火災にあったと考えられる。

ＳＩ 048　土層解説
1. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色　焼土ブロック(多)
2. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　焼土粒子(少)
3. Hue 10YR 4/3　にぶい黄褐色
4. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　炭化材・焼土ブロック(少)
5. Hue 10YR 3/4　暗　褐　色　砂質粘土多・焼土ブロック(少)
6. Hue 2.5YR 3/4　暗 赤 褐 色
7. Hue 10YR 3/3　暗　褐　色　砂質粘土中・焼土ブロック(少)
8. Hue 7.5YR 4/3　褐　色　砂質粘土・ロームブロック(少)
9. Hue .5YR 2/3　極 暗 褐 色　焼土ブロック(少)・ロームブロック(大)
10. Hue 10YR 4/4　褐　色　砂質・焼土ブロック・ロームブロック
11. Hue 5YR 3/4　暗 赤 褐 色　砂質含む・焼土ブロック
12. Hue 7.5YR 4/2　灰　褐　色　カーボン・ロームブロック(少) 攪乱
13. Hue 7.5YR 3/2　黒　褐　色　焼土粒子(少)



第87図　ＳＩ 048　カマド実測図



第88図　ＳＩ 048　出土遺物

カマド(第87図)は，北壁のほぼ中央部に位置し，主軸方向はＮ－53.5°－Ｗで，長径148cm・短径127cmである。北壁を幅63cmで65cmほど掘り込み煙道部としている。天井部はわずかに残存するのみである。西袖は北壁より26cm突出するに留まるが，東袖は80cmほど突出し，やや内側に曲がる様態を呈している。この袖部はロームブロック混じりの砂質粘土で構築されている。第４層は天井部の流出と考えられる。

出土遺物（第88図）　土師器の甕・杯・須恵器の杯がある。

甕は大型と小型があり，大型の甕は小片のため掲載を省いた。1は小型の甕で口縁は短く，かなりゆがんでいる。

2は外稜をもち，口縁は外傾してひらき，底部はほぼ半球形を呈する。4の器形は不明であるが上下が逆転する可能性がある。

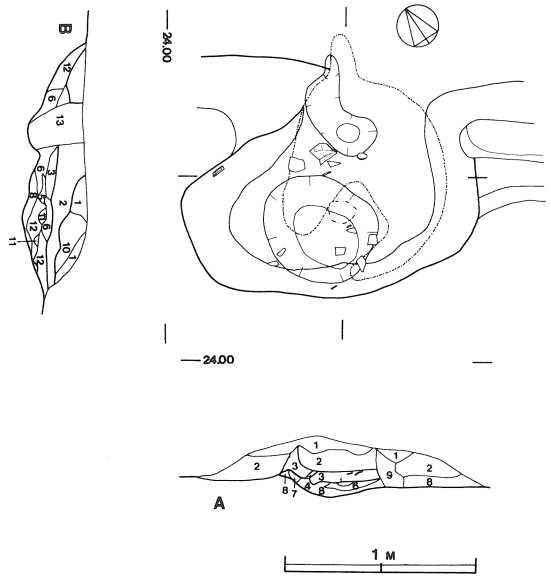
須恵器の杯(5)は，底部がやや不安定で，ミズビキ成形のあと底部外面をヘラケズリ調整している。

3はカマドの東脇，5はカマドの東袖部のつけねに浮いた状態で検出された。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	36	19	26	主柱穴	P_4	27	27	30	主柱穴
P_2	29	27	27	主柱穴	P_5	34	30	12	
P_3	30	30	39	主柱穴	P_6	28	18	26	

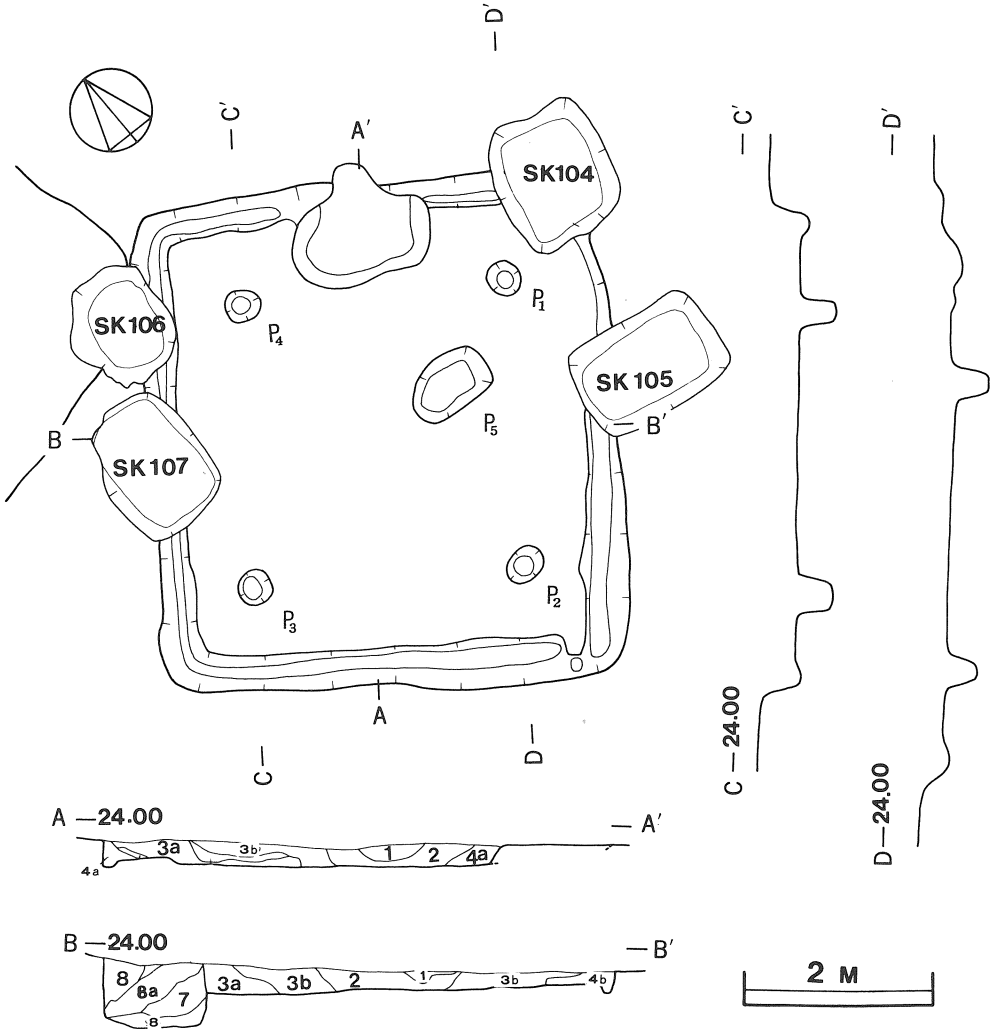
SI 049（第90図）　本住居址はE9a3・d4・e2・e3・e4に確認され，西北SI050が重複し，さらに西北壁をSK106が切り込み，西壁にSK107・東北コーナーにSK104・東壁中央にSK105が切り込んでいる。

主軸方向はN－27°－Eで，長径5.29m・短径4.9m・面積25.92m²の長方形状の平面形を



SI 049　カマド土層解説
1. Hue 10YR 3/4　暗　褐　色
　ローム(小)ブロック含
2. Hue 10YR 3/3　暗　褐　色
　ローム(小)ブロック含・粒子あらい
3. Hue 10YR 3/3　暗　褐　色
　ローム(小)ブロック(少)
4. Hue 7.5YR 4/4　褐　色
　ロームブロック
5. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色
　砂質性粘土(少)・焼土粒子(多)
6. Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色
　砂質粘土(中)・焼土粒子(少)・ロームブロック(少)
7. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色
　砂質性粘土・ロームブロック(少)・焼土粒子(少)
8. Hue 2.5YR 4/2　灰　褐　色　焼土粒子(中)
9. Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　焼土粒子(多)
10. Hue 5YR 2/3　極暗赤褐色
11. Hue 2.5YR 3/4　暗赤褐色
12. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色
13. Hue 7.5YR 2/2　黒　褐　色　攪乱

第89図　SI 049　カマド実測図



S I 049 土層解説

1.	Hue 7.5YR 3/1	黒褐色	耕作土
2.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子を含
3. a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム少ブロック・ローム粒子(少)量含
b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子含
4. a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(多)含
b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子を(多)含・焼土(少)含
5.	Hue 7.5YR 2/2	黒褐色	ローム粒子(少)含
6.	Hue 5YR 4/8	赤褐色	焼土粒子を多含
7.	Hue 5YR 3/2	黒褐色	ロームブロック(少)含柔かい
8.	Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ロームブロック(多)含柔かい
a	Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ロームブロック含柔かい

第90図　S I 049　実測図

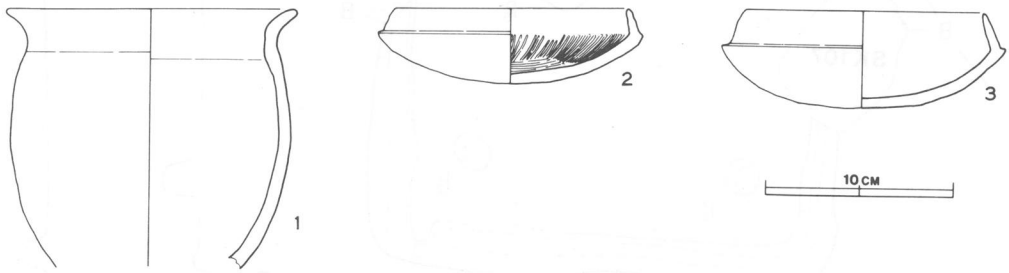
呈している。

壁高は10～34cmほどでほぼ垂直に立ちあがる。壁側溝はカマドと土壙に切られた部分を除き全周する。床はほぼ平坦な堅いロームで，やや北側に傾斜している。

ピットは5個確認されP_1～P_4は主柱穴と考えられる。P_5は不明である。

覆土は，ローム粒子・小ブロックを含む暗褐色土よりなり，第3層・第4層に焼土粒子を検出し，さらに西南コーナー床面に焼土・炭化物を多量に検出していることより火災にあったと考えられる。

カマド(第89図)は北壁の中央に位置し主軸方向はN－27.5°Eを向き，長径137cm・短径136cm ほどであるが崩壊がはげしく，袖部・天井部は不明である。わずかに第2層・第3層に砂



第91図　ＳＩ049　出土遺物

質粘土を少量含む層を確認できるのみである。掘り方は北壁を35cm幅で60cmほど掘り込み，床を長径60cm・短径55cmほどの楕円形状に10cmほど掘り窪めている。

遺物は少量検出している。

出土遺物（第91図）　土師器の甕・杯が出土している。

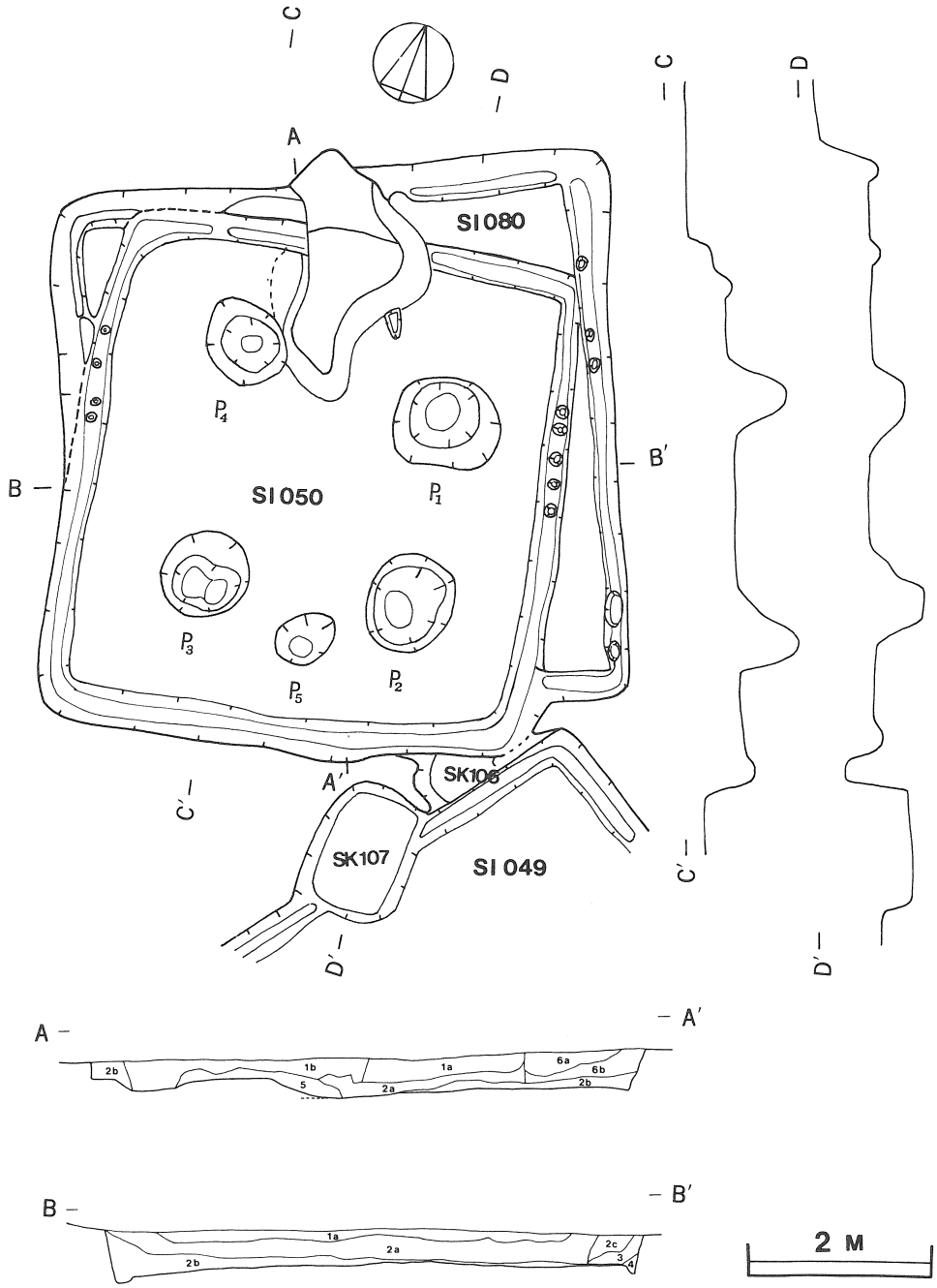
1の甕は小型で，頸部が垂直に立ち上がり，口縁部が短く外反する。

2・3の杯は，外稜内傾立ち上がり口縁で，とくに3は，底部内面にていねいなヘラミガキを有し，外側にもヘラミガキがみられる。

その他の遺物では，土製支脚が出土している。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	32	28	40	主柱穴	P_4	34	24	39	主柱穴
P_2	35	30	31	主柱穴	P_5	81	53	13	
P_3	32	31	37	主柱穴					

ＳＩ050（ＳＩ080）（第92図）　本住居址はＦ9ｃ2・ｃ3・ｄ2・ｄ3に確認され，東南のＳＩ049と重複し，ＳＫ106がさらに重複しているので，ＳＩ050とＳＩ049との新旧関係は不明で



第92図　ＳＩ050．080　実測図

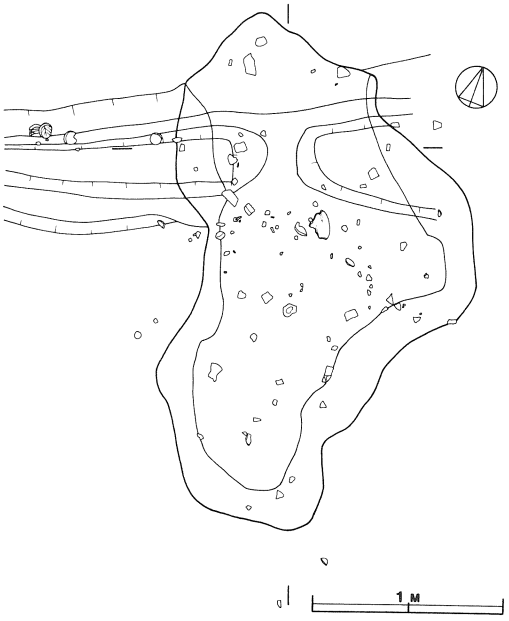
ある。さらにＳＩ080 上に構築されている。ＳＩ050 の主軸方向はＮ－12.8°―Ｗで，長径 5.56m ・短径 5.29ｍ・面積 29.41 m^2 の方形状の平面形を呈している。

ＳＩ080 の主軸方向はＮ－25°－Ｗで，長径 6.19ｍ・短径 6.03ｍ・面積 37.32 m^2 ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は 42～51cmほどで，ほぼ垂直に立ちあがる。壁側溝はカマドをのぞき全周し，西側溝・東側溝に壁側穴を有している。

床は中央部がやや高くなり東側にゆるやかに傾斜し，カマドの焼土が流出している。

ピットは５個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられP_2とP_3の中間南壁よりにP_5 がある。



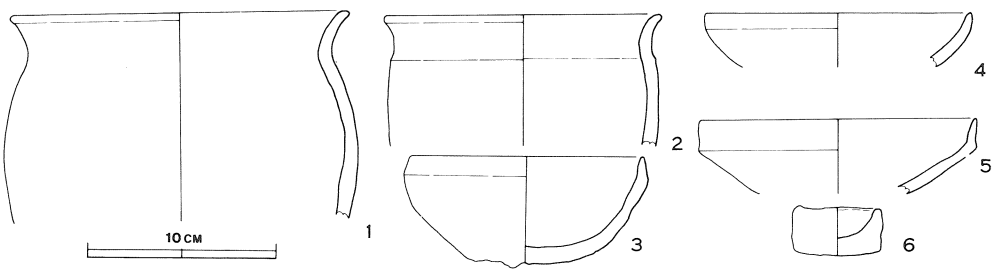
第 93 図　ＳＩ050・080　カマド実測図（A）

覆土は第１層の褐色土が北側に多く堆積し，下位の第２層暗褐色土は中央から南に多く堆積している。

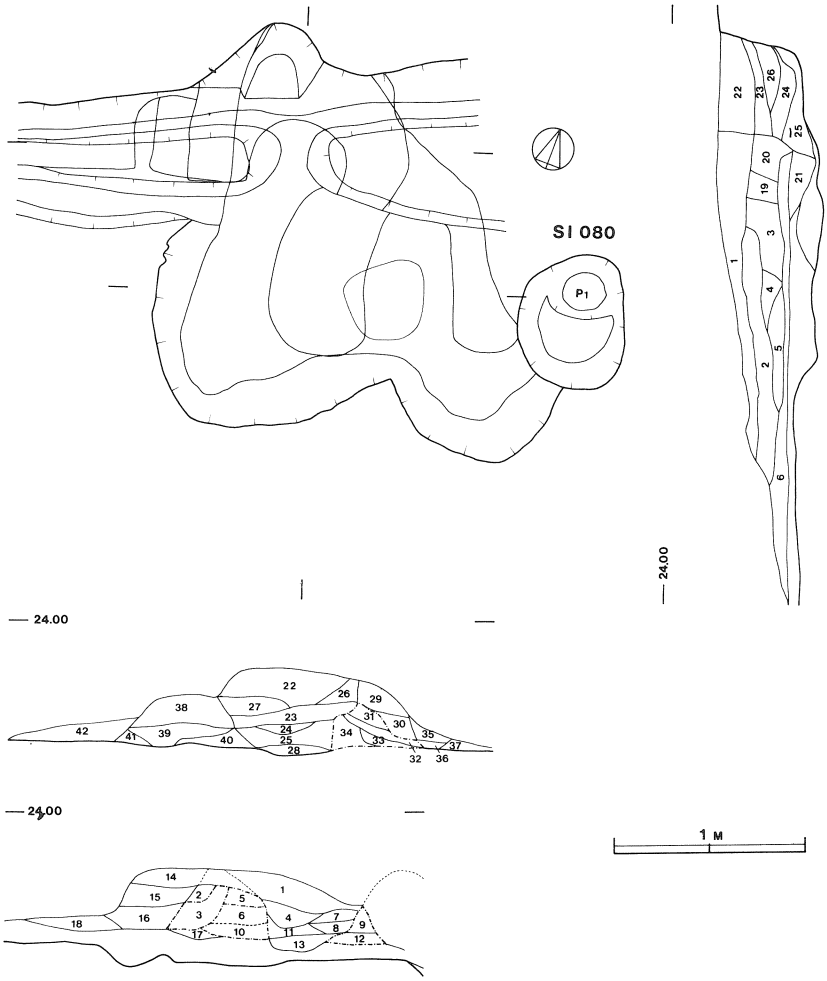
カマド(第 93・95 図)はＳＩ050の大型のカマドと考えていたが，精査後，北壁ぎわに旧カマドを切って構築していることが確認され，旧住居をＳＩ080 とする。焼土が西南に多量に流出しＳＩ050 のカマドは東側に設置される。規模は不明確であるが長径 130cm・短径 94cm と推定され，主軸方向はＮ－20°－Ｗを向き撹乱をうけ流出している。東袖は大部分欠損し，砂質粘土・黄灰色粘土小ブロックを多量に含む層で構成されている。カマドの西側に土器片が出土している。

出土遺物（第 94 図）　土師器の甕・杯・手捏ね土器がある。

１・２は小形の甕で　１の頸部はゆるやかに「く」の字状に屈曲し，２はあまり屈曲がなく，



第 94 図　ＳＩ050　出土遺物



S I 080·050 カマド土層解説

1. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム粒子(多)・焼土粒子微
2. Hue 10YR 4/4 褐 色 灰色Siltを多く含む
3. Hue 2.5YR 3/4 暗 褐 色 黄灰色粘土ブロック及焼土粒子含
4. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土・焼土・炭化粒子含
5. Hue 10YR 4/4 褐 色 黄灰色粘土小ブロック(多)含・ローム炭化粒子(少)含
6. Hue 5YR 3/4 暗赤褐色 焼土を多量に黄灰色粘土粒子少量含
7. Hue 5YR 4/6 赤 褐 色 ほとんど焼土によって構成されている
8. Hue 5YR 2/3 極暗赤褐色 焼土を含む
9. Hue 10YR 4/4 褐 色 黄灰色粧土粒子を多く 焼土粒子少量含む
10. Hue 10YR 4/4 褐 色 黄灰色粘土を多量に含む
11. Hue 7.5YR 3/3 暗 褐 色 焼土粒子(多)含
12. Hue 10YR 3/4 暗 褐 色 粘土含
13. Hue 5YR 4/6 赤 褐 色 焼土
14. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子含
15. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子含
16. Hue 7.5YR 3/3 暗 褐 色 ローム粒子・焼土含
17. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土含
18. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ローム粒子(多)含・かたい
19. Hue 10YR 3/4 暗 褐 色 砂質粘土・ロームブロック・炭化粒子
20. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 ローム粒子含
21. Hue 7.5YR 3/4 暗 褐 色 焼土粒子(多)・ローム粒子(少)含
22. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム・焼土粒子(少)含

第95図 S I 050・080 カマド実測図(B)

頸部外稜をもち稜をつくる。

杯は外稜をもち，口縁部が垂直に立ちあがるもの(3・5)と，素縁で口縁部がやや外傾するもの(4)がある。 3はやや深めで鉢に近く，底部がかなりいびつである。5の形のなかには底部内面に放射状のヘラミガキのみられるものもあった。

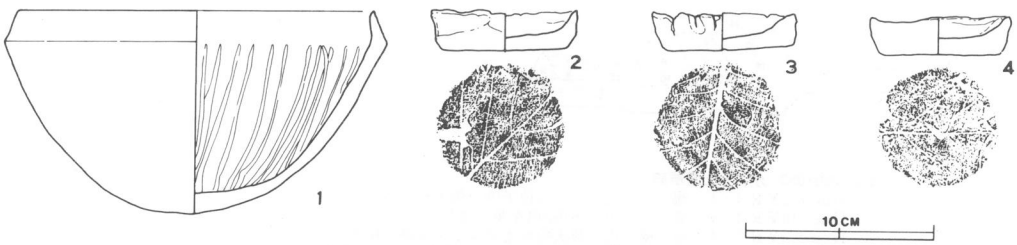
6は手捏ね土器で，ユビオサエの痕がみられる。

1はカマドの西袖上面，2は住居址の中央部南，3・6はカマドの西袖脇，4は住居址の西南部からそれぞれ出土した。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	100	75	38	主柱穴	P_4	82	68	62	主柱穴
P_2	90	78	58	主柱穴	P_5	59	45	25	
P_3	98	96	64	主柱穴					

SI 080(第92図)　SI050と大部分重視し，わずかに北壁・東壁を残存するに留め，壁高は50cmほどで壁側溝を有し，東壁側溝に5個の壁側穴を確認するが，主柱穴はSI050の東にP_1が検出するに留める。遺物はカマド周辺にわずかに出土している。

SI080のカマド(第93図)はSI050に切られ，長径118cm・短径89cmほど残存し，主軸方向はN－21°－Wを向き，袖部は北壁より50cmほど突出し，52cmの間隔を有している。煙道部



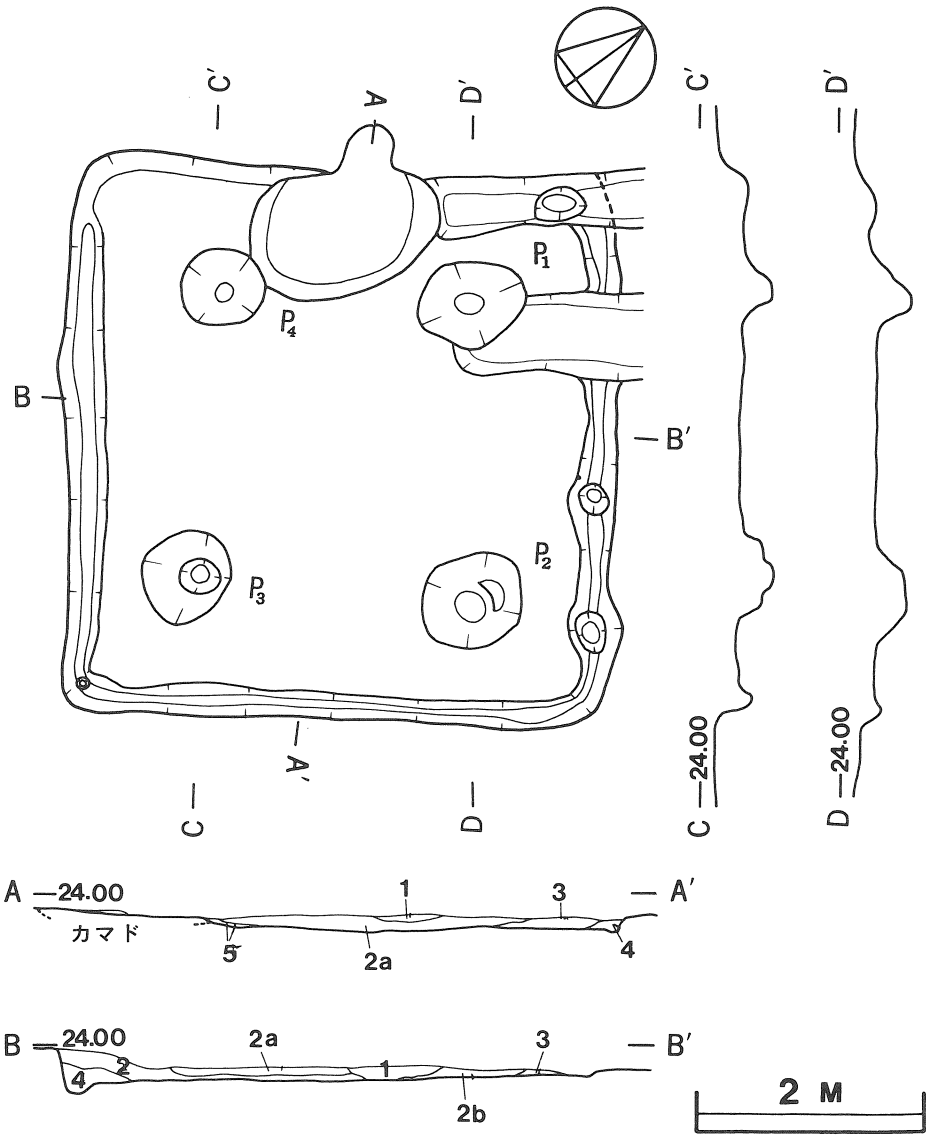
第96図　SI080　出土遺物

は北壁を62cmの幅で75°の角度を有し，34cmほど掘り込んでいる。 壁側溝が燃焼部近くまで確認される。

出土遺物(第96図)　土師器の鉢・手捏ね土器がある。

1の鉢は，内面に放射状のヘラミガキがあり，カマドの東脇から出土している。

2から4の手捏ね土器は，いづれも焼成はあまりよくなく，底部外面に木の葉の圧痕が残っている。2・4は，カマドの両袖外側の壁側溝内から出土し，3はカマドの西脇から出土した。これらの手捏ね土器は，破片も含めれば6点を数えるが，完形品はこの3点である。



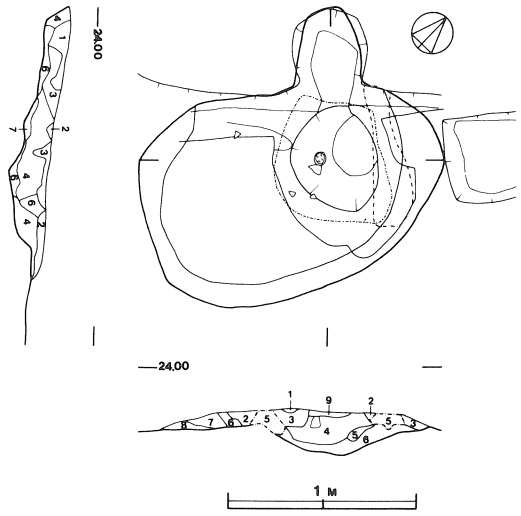
第97図　ＳＩ051　実測図

SI 051（第97図）　本住居址はＥ８ａ２・ａ３・ｂ２・ｂ３・ｂ４・ｃ３に確認され，北コーナーを長方形状の土壙が切り込んで南に延びている。さらに北側はSH01に接し，東南にＳＩ043が位置している。

主軸方向はＮ－45.6°－Ｗで，長径4.8ｍ・短径4.8ｍ・面積23.04㎡の正方形状の平面形を呈している。

壁高は西南壁が30cmほどで垂直ぎみに立ちあがり，他壁は浅く，南から北にかけて削平を受けていると考えられる。

床はほぼ平坦をなすロームで，わずかの焼土を検出し，覆土中第２層からも少量の焼土粒子を検出しており，火災にあったと考えられる。



ＳＩ 051　カマド土層解説
1. Hue 7.5ＹＲ 4/3　褐　色
焼土粒子を含む
2. Hue 7.5ＹＲ 3/2　黒 褐色
焼土粒子・混入カーボン
3. Hue 2.5ＹＲ 4/8　赤 褐色
焼土ブロック(多)
4. Hue 7.5ＹＲ 3/4　暗赤褐色
焼土ブロック・カーボン
5. Hue 7.5ＹＲ 4/2　灰 褐色
砂質粘土・カーボン・焼土
6. Hue 7.5ＹＲ 3/3　暗 褐色
7. Hue 7.5ＹＲ 3/2　黒 褐色
焼土小ブロック
8. Hue 7.5ＹＲ 4/3　褐　色
ローム粒子含む

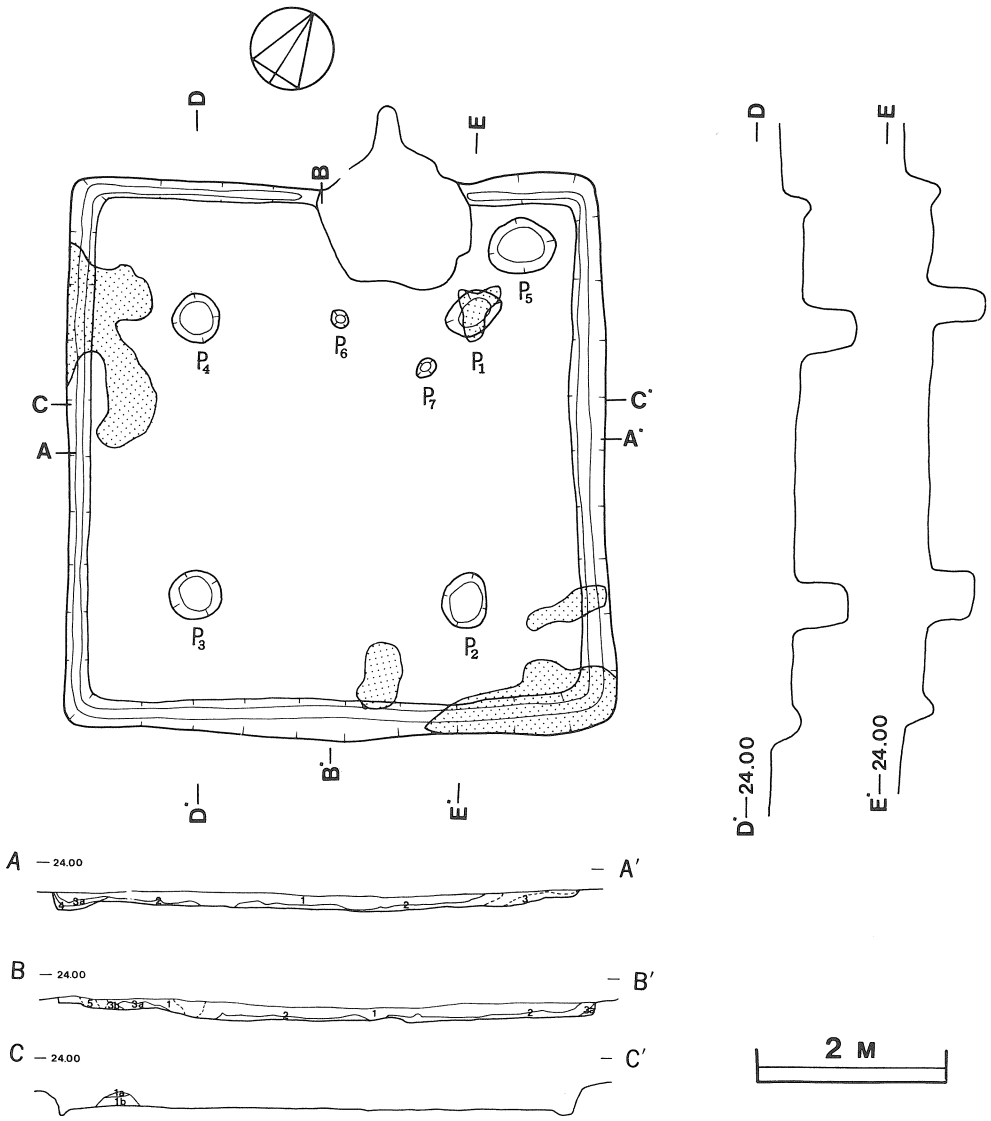
第98図　ＳＩ051　カマド実測図

壁側溝はほぼ全周し，北東壁側溝に壁側穴を３個確認する。

カマド（第98図）は西北壁のほぼ中央に位置し，主軸方向はＮ－45°－Ｗ，長径160cm・短径145cmほどで西南に焼土が流出している。崩壊され天井部は欠損し，右袖部がわずかに残存し，左袖はわずかに断面に砂質粘土を含む第５層が確認されるのみである。煙道部は西北壁を40cmの幅で40cmほど掘り込み，火床は長径72cm・短径70cmの楕円形状に16cmほど掘り窪めている。

遺物は土器片が少量出土したほか，カマドから支脚が出土しているがかなり風化している。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	76	59	36	主柱穴	P_3	65	61	30	主柱穴
P_2	76	67	28	主柱穴	P_4	62	56	25	主柱穴



S I 052 土層解説

1.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム小ブロック(少)・木炭粒子(少)・ローム粒子(少)
2.		Hue 7.5YR 4/3	暗褐色	ロームブロック(少)・焼土粒子(少)・木炭粒子(中)
3.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐色	ロームブロック(少)・軟質ロームブロック(少)
	b	Hue 7.5YR 3/4	褐色	ロームブロック(少)・軟質ロームブロック(少)・木炭(多)
4.		Hue 7.5YR 4/4	褐色	軟質黒色ブロック(少)
5.		Hue 2.5YR 6/3	暗赤褐色	

第99図　S I 052　実測図

SI 052（第99図）　本住居址はＦ８ｆ０・ｇ０・ｈ０・Ｆ９ｆ１・ｇ１・ｇ２・ｈ１に確認され，東部地区の東南端に位置している。北側にはＳＩ049が接近している。

主軸方向はＮ－34.5°－Ｗで，長径5.87ｍ・短径5.68ｍ・面積33.34㎡の方形状の平面形を呈している。

壁高は20～30cmで垂直ぎみに立ちあがり，壁側溝が全周し，側溝を掘った後に北壁にカマドを構築している。

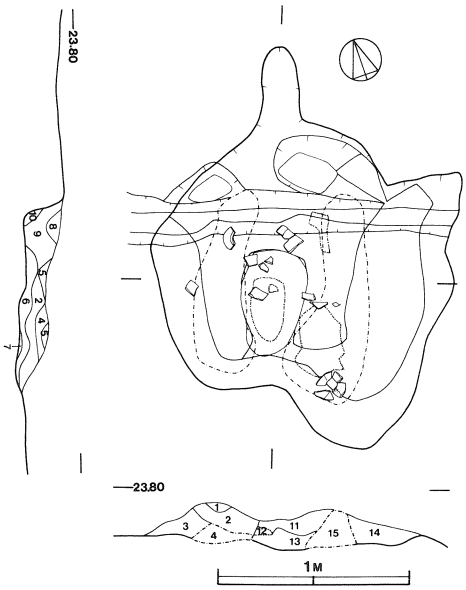
床は，ほぼ平坦な堅いロームで，やや東北にゆるい傾斜を示している。カマド周辺および西壁東南コーナーから床面にかけて黒色土混じりの焼土・炭化物が多量に検出されている。

ピットは7個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられる。なおP_1直上に焼土が検出されている。

P_5は長方形状の貯蔵穴と考えられ，P_6・P_7はさほど大きいものではなく，カマド近くに位置している。

覆土は第1層～3層まで木炭粒子・焼土粒子を含み火災にあったと想定される。

カマド（第100図）は北壁の中央やや東よりに位置し，主軸方向Ｎ－21°－Ｅを向き，長径177cm・



ＳＩ 052 カマド土層解説

1. Hue 10ＹＲ 3／4　暗褐色　粘土(多)・焼土粒子(少)含
2. Hue 5ＹＲ 3／4　暗赤色　焼土ブロック・粒子含
3. Hue 7.5ＹＲ 3／4　暗褐色　焼土粒子(多)含
4. Hue 7.5ＹＲ 3／4　暗褐色　砂質粘土含・焼土粒子(少)含
5. Hue 10ＹＲ 3／4　暗褐色　ローム・焼土粒子(少)含
6. Hue 7.5ＹＲ 3／4　暗褐色　焼土粒子(少)含
7. Hue 2.5ＹＲ 4／8　暗褐色　焼土
8. Hue 10ＹＲ 3／4　暗褐色　砂質粘土・焼土粒子含
9. Hue 7.5ＹＲ 3／4　暗褐色　焼土粒子・灰含
10. Hue 7.5ＹＲ 3／3　暗褐色　ローム粒子(少)含
11. Hue 7.5ＹＲ 4／4　褐　色
12. Hue 2.5ＹＲ 4／8　赤褐色　焼土
13. Hue 7.5ＹＲ 3／4　暗褐色
14. Hue 7.5ＹＲ 4／6　褐　色　ローム・焼土粒子含
15. Hue 10ＹＲ 3／4　暗褐色　砂質粘土・ローム粒子(少)含

第100図　ＳＩ052　カマド実測図

短径153cmで東側に焼土が流出している。

天井部は壊れているが，袖部は北壁より77～108cmほど突出し，やや内側に彎曲し15～43cmの間隔を有している。燃焼部が窪んで暗褐色土が多量に焼土・炭化物を含み，流入している。

遺物は東袖部の先端に杯が出土しているほかカマドの覆土中にも少量の土器片を検出する。

掘り方は北壁を幅108cmで70cmほど掘り込み煙道部とし，煙道ぎわに長径62ｃｍ・短径

32cmの楕円形のピットと，やや西よりに長径42cm・短径20cmの不定形のピットがある。火床は長径55cm・短径32cmの卵形に6cmほど掘り窪めている。

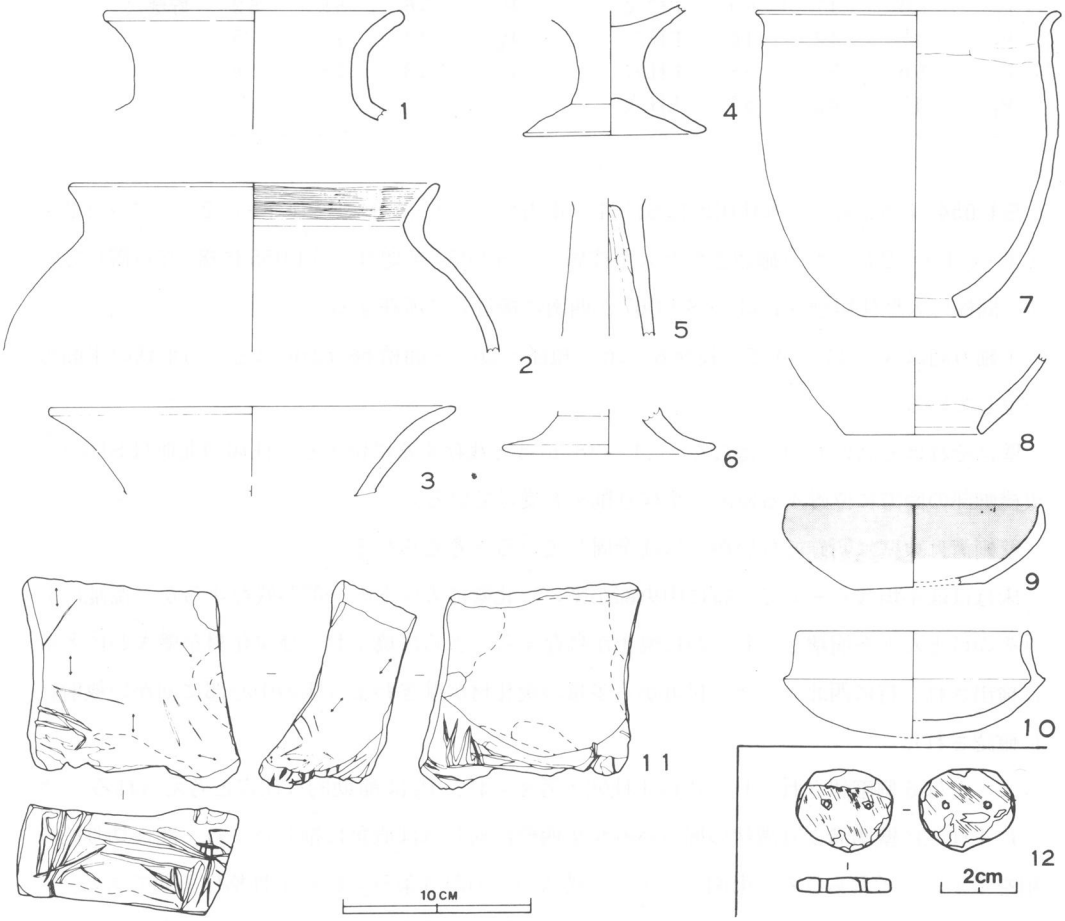
出土遺物（第101図） 土師器の甕・甑・高杯がある。

1の甕は，頸部が垂直に立ちあがり，口縁が外にひらく。2は口縁部が短く，内面にハケ目調整，胴部外面にもわずかにヘケ目が伺える。

3は高杯の杯部で，内外ともにていねいなヘラミガキを行なっており粘土の接合部で段を形成している。4は脚部で，胴部が短く裾部はまっすぐにひらく。内側の凹みは浅い。5の脚部は内側をヘラケズリしており，6の裾部は外面に朱彩がみられる。3・5・6は時代が溯るものであるが，4は住居址に伴うと考えられ，このような形を呈する高杯は他で検出していない。

7の甑は小型で，口縁から底部まで屈曲はほとんどなく，丸い鉢形を呈する。8はやや大型で，底部からV字状にひろがる形の底辺部である。

9の杯は底部が安定しており，素縁の口縁はやや内傾している。体部から口縁部にかけて内



第101図 ＳＩ052 出土遺物

外ともに朱彩がある。10の杯は鋭い外稜をもち，やや長めの口縁が内傾して立ちあがる。

1はカマドの東側，2はP_3の南，4・7はカマドの南，6は住居址の東南部，9はカマド上部，10はP_4の東からそれぞれ出土した。

その他の遺物は土玉が住居址の西南部で，砥石が南壁寄りから出土したほか石製模造品が1点検出された。

11は最大径は11.05cm・幅10.1cm・厚さ4.8～5.6cmを測り台形状をなしている。全面がよく使用され，研ぎ減っており，側面にはV字ないしU字状の溝が縦横にみとめられる。側面下半より裏面にカーボンが付着し，火災時に焼化されたものと想定される。

12は長径2.5cm・短径2.1cm・厚さ0.35cmほどの楕円形状の石製模造品で0.2cm位の穴が2孔穿ってあり，材質はアジノールである。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	50	37	69	主柱穴	P_5	56	55	62	貯蔵穴
P_2	47	42	46	主柱穴	P_6	20	17	15	
P_3	56	51	58	主柱穴	P_7	23	15	15	
P_4	47	42	57	主柱穴					

SI 054（第102図）　本住居址はSH01の南方E8c0・d0・E9c1・c2・d1・d2・d3・e1・e2にわたり確認された大型住居で，SI077を切り，SI055に接して位置している。同様の大型住居址SI037・SI067が西南に接近して所在する。

主軸方向はN－41°－Wで，長径8.32m・短径8.26m・面積68.72m^2ほどの方形状の平面形を呈している。

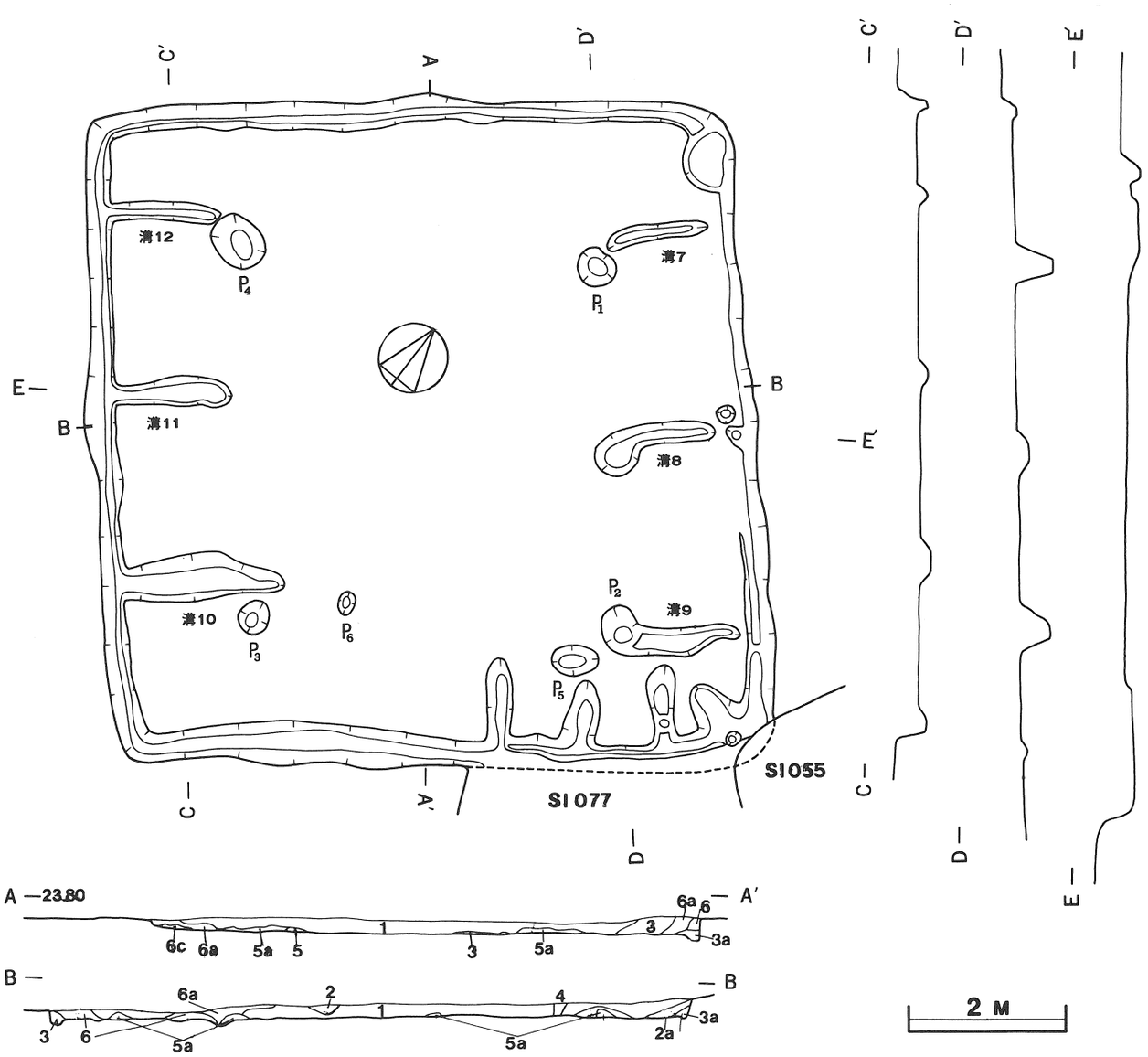
壁はそれほど高いものではなく，11～38cmほど残存するに留まる。住居の北側はSH01の東橋脚部の南方に位置するゆえ，かなり削平を受けている。

壁側溝は東壁は明確でないが，ほぼ全周していると考えられる。

床はほぼ平坦なロームで，特に中央部が堅い。北壁にカマドの一部が残存するが，撹乱によりそのほとんどを崩壊し，わずかに焼土が残存する。さらに焼土および炭化材が壁ぎわに多量に検出され，特に西北コーナー付近から多量の炭化材が壁ぎわより床の中心部に向かい放射状に確認された。

ピットは6個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられ，P_5は補助的な柱穴と考えられる。さらに主柱穴に壁側溝より溝状の掘り込みが東西壁に対しほぼ直角に掘り込まれ，間仕切り的様相を呈すると考えられる。東南コーナーに溝状のものが3条みられるが性格は不明である。

覆土は浅いがほとんどの層より焼土・炭化物の粒子を検出し，火災にあったと考えられる。



S I 054 土層解説

1.		Hue 7.5YR 2/2	黒	褐 色	ローム粒子(少)・焼土粒子・木炭粒子
2.		Hue 7.5YR 3/1	黒	褐 色	ローム粒子
	a	Hue 7.5YR 3/1	黒	褐 色	ローム粒子(少)
3.		Hue 7.5YR 3/4	暗	褐 色	ローム小ブロック(少)
	a	Hue 7.5YR 3/4	暗	褐 色	ローム小ブロック
4.		Hue 7.5YR 2/1	黒	色	
5.		Hue 7.5YR 2/1	黒	色	木炭粒子(多)
	a	Hue 7.5YR 2/1	黒	色	木炭粒子
6.		Hue 7.5YR 2/4	極暗赤褐色		粘土(多)
	a	Hue 7.5YR 2/4	極暗赤褐色		焼土
	b	Hue 7.5YR 2/4	極暗赤褐色		焼土・木炭粒子
	c	Hue 7.5YR 2//	極暗赤褐色		焼土・粘土粒子

第102図 S I 054 実測図

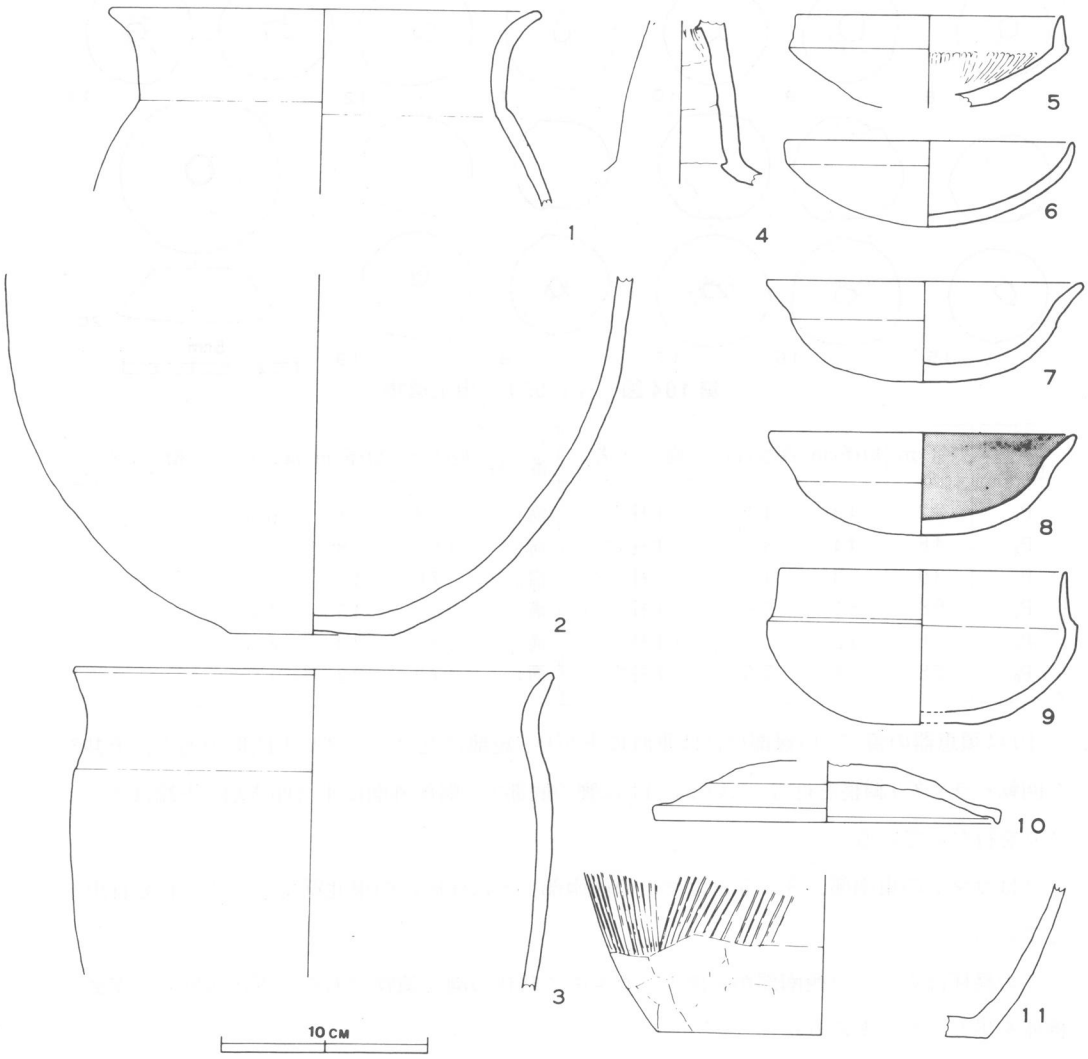
遺物はやや多く，東南コーナー壁ぎわより多数の土玉等が出土している。

出土遺物（第103図） 土師器の甕・甑・杯・須恵器の杯・蓋がある。

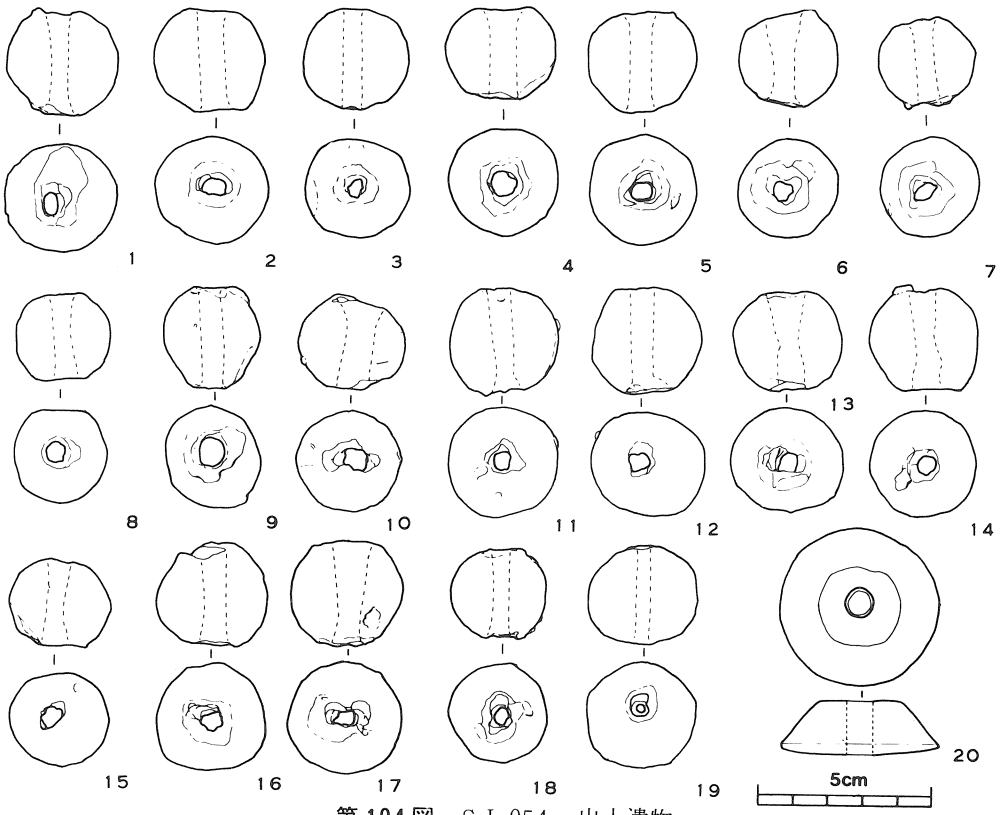
1は大型の甕で，頸部が垂直に立ちあがり，2は大型甕の底部で，底部がせまく胴部が下ぶくれのため不安定な印象をうける。

3は大型の甑で，口縁部から胴部にかけて屈曲があまりない。

杯(5～9)は，外稜垂直立ちあがり口縁で底部内面に放射状のヘラミガキを有するもの(5)や素縁で外傾する口縁部をもつもの(6)のほか，明瞭な外稜はもたないが，口縁部が大きく外へひらき，内面に朱を塗ったもの(8)などがある。9は杯というよりは鉢に近く，やや長めの口縁部が垂直に立ちあがる。



第103図 ＳＩ054 出土遺物



第104図　ＳＩ 054　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	42	42	47	主柱穴	溝$_7$	128	21	6.9	
P_2	48	44	37	主柱穴	溝$_8$	152	38	20	
P_3	39	33	44	主柱穴	溝$_9$	176	43	20	
P_4	68	51	58	主柱穴	溝$_{10}$	231	45	14	
P_5	50	32	19	(主柱穴)	溝$_{11}$	183	30	8.9	
P_6	28	15	5.9	主柱穴	溝$_{12}$	172	22	15	

10は須恵器の蓋で，口縁部はほぼ垂直に下がり，短部は丸い。ミズビキ成形のあと，天井部を回転ヘラケズリ調整を行なっている。11は甕の底部で，胴部外面に平行叩き痕，下端はヘラケズリを行なっている。

2はカマドの東南部，3・5はカマドの西南部，8は住居址の東北壁寄りからそれぞれ出土している。

4の高杯はカマドの西南部から出土したもので時代の溯る遺物である。本住居址では支脚の機能を果たしたであろうか。

その他の遺物としては，多量の土玉が東南壁下に集中して出土しており，火災の際に垂木に

吊してあったものが，下へ落ちた状態で出土したのではないかと考えられる(1～19)。この他，滑石製の紡錘車が1点出土している(20)

SI 055(第106図)　本住居址はE9d3・d4に確認され，SI054の東コーナーを切り，SI077の北側部を切り込んで位置し，SI040が北側に接近している。

主軸方向はN－29.5°－Eで，長径3.43m・短径3.23m・面積11.07m²の方形状の平面形を呈する小型の住居址である。

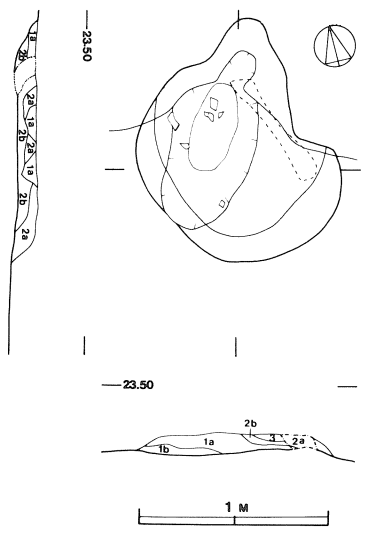
壁高は10～18cmと浅く，ほぼ垂直ぎみに立ちあがり，南壁の一部が撹乱をうけている。

床はほぼ平坦なロームで堅く，やや西南にゆるい傾斜を示す。東北コーナーに撹乱をうけ，床の中央に不規則なピットが9個確認することができる。P_1・P_2は主柱穴と考えられるが，他は不明である。

覆土は浅い暗褐色土層からなるが，焼土粒子を含み火災にあったと考えられる。

カマド(第105図)は北壁の中央に位置し，主軸方向N－14°－Eで，長径130cm・短径108cmほどで，削平を受け，天井部は潰れて不明であり，わずかに東袖部が確認されるのみである。掘り方は北壁を70cmほどの幅で25°の角度を有し，45cm掘り込んで煙道部としている。火床は床をわずかに掘り窪めた程度である。

遺物は少量であるが，内黒土師器に墨書で「仁万」と書かれた杯が出土している。この墨書土器は西南32cmほどに位置するSI064の住居からも多数出土し，注目される遺物である。



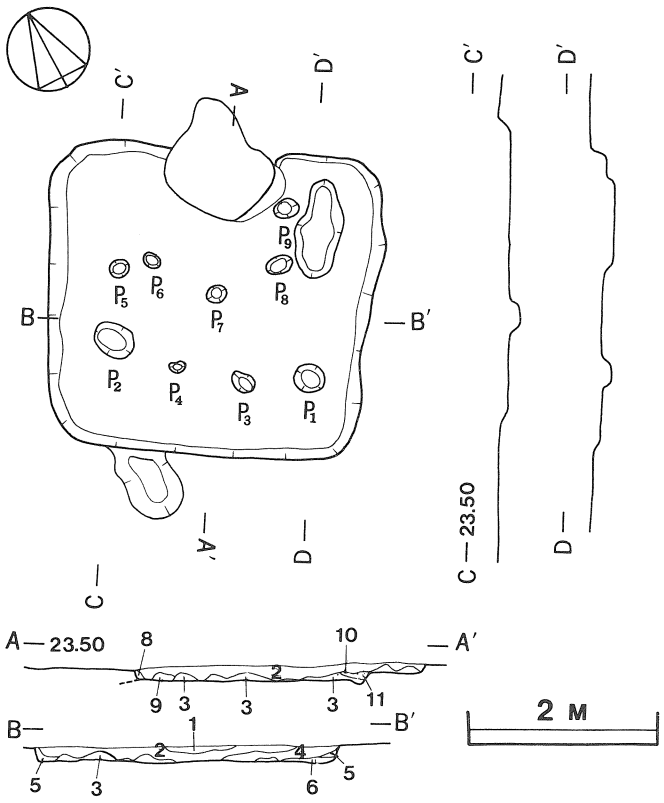
第105図　SI055　カマド実測図

出土遺物(第107図)　土師器の甕・内黒土師器の杯・須恵器の甕・杯などがある。

1の土師器の甕は，底部しか残っていないが長胴の形であろう。内黒土師器において，ロクロによるミズビキ成形のあと，体部下端と底部外面をヘラケズリ調整をする手法は，同時期の須恵器の杯と共通している。3も同様で，さらに底部外面に「仁万」の墨書がみられる。このように墨書のある内黒土師器は，SI064で多量に出土しているが，この住居址ではこの1点だけであった。

須恵器の杯は，4の場合，体部が外側にやや彎曲しており，内黒土師器の杯と非常によく似た器形を呈している。5は大型甕の口縁部である。

2は住居址東北部床面，3は西南部，4は東北

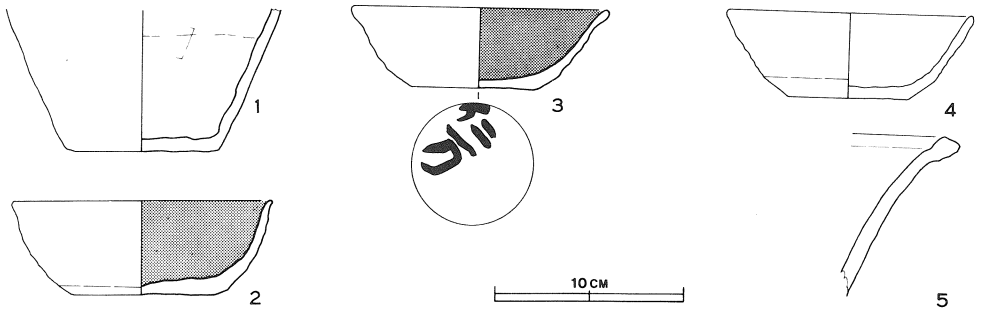


S I 055 土層解説

1. Hue 7.5YR 3/3 暗赤褐色 焼土(多)
2. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 小ロームブロック・ローム粒・有機質を含む・焼土粒(少)
3. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ロームブロック・ローム粒・2より少ない・焼土粒(少)
4. Hue 7.5YR 4/4 褐色 ローム粒子・有機土
5. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ロームブロック
6. Hue 7.5YR 5/6 明褐色 ローム粒子(少)がかたまって混入
7. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 焼土粒(多)
8. Hue 7.5YR 4/4 褐色 大きなロームブロック・まわりの土やわらかい
9. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 大きなロームブロックのかたまり
10. Hue 7.5YR 5/6 明褐色 2より少し大きいロームブロックでやわらかい
11. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色

第106図 S I 055 実測図

壁寄り，５はカマドの東南部から出土した。



第107図　ＳＩ055　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	28	26	10	主柱穴	P_6	19	13		
P_2	40	31	12	主柱穴	P_7	18	15	3.3	
P_3	24	17			P_8	28	17		
P_4	16	12			P_9	25	20		
P_5	20	18							

ＳＩ056（第108図）　本住居址は東部地区東緩斜面Ｅ９ｆ３・ｆ４・ｇ３・ｇ４区に確認され，東南コーナーを，ＳＩ065が切り込み，東北側はＳＩ059に接して位置している。

主軸方向はＮ－9°－Ｗで北側が4.2ｍ・南側3.2ｍ・長径5.23ｍ・面積19.35m^2の逆台形状の平面形を呈し，コーナーはやや隅丸状である。

壁高は西側の壁は41cm内外でほぼ垂直に立ちあがるが，東壁は遺存せず，削平されていると考えられる。

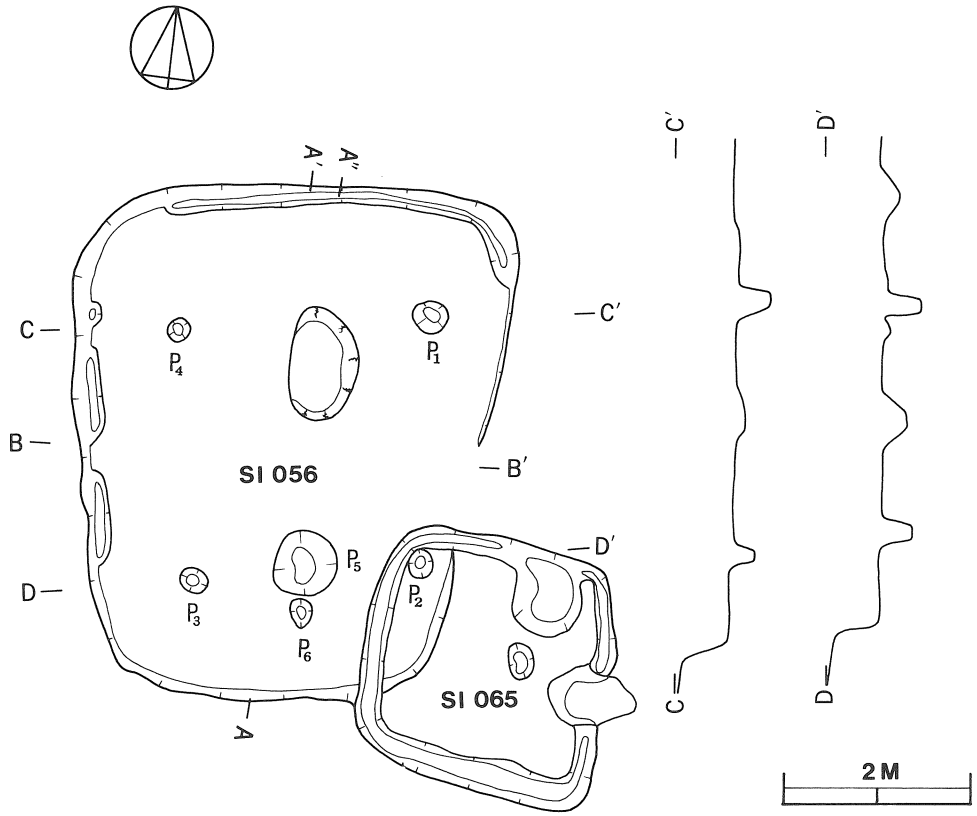
壁側溝は北壁と西壁の一部に確認する。

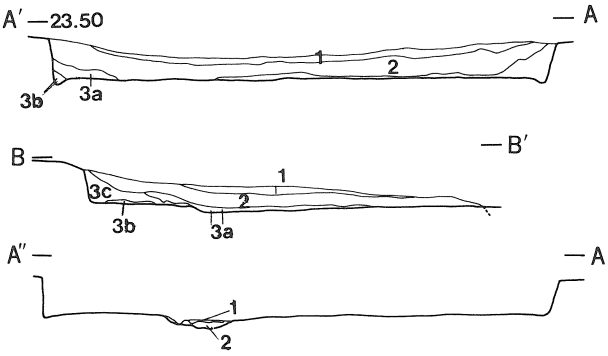
床は，ほぼ平坦をなす堅いロームで，中央部やや北よりに楕円形状の長径120cm・短径73cmの炉址があり，皿状に8cmほど床を掘り窪めている。東南コーナーはＳＩ065の貼床が確認される。

ピットは６個ほど確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられ，P_6はP_2・P_3の中間やや南に位置し，補助柱穴と考えられる。P_5はやや大型で，P_2・P_3の直線上に位置するが性格は不明である。

覆土は第１・２層がローム粒子混りの暗褐色土層，床および壁ぎわに褐色土が堆積している。

遺物は少量で，炉址付近より多く出土している。





S I 056 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム粒子(少)
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック(少) ローム粒子(少)
3. a Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ローム小ブロック(少) 褐色軟質ブロック(少) ローム粒子(少)
b Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ロームブロック(少) ローム小ブロック(少)
c Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ロームブロック(少) 軟質褐色ブロック(中) ローム粒子(中)

炉址土層解説
1. Hue 7 5YR 5/8 明褐色 焼土
2. Hue 7.5YR 5/8 明褐色

第108図 S I 056 実測図

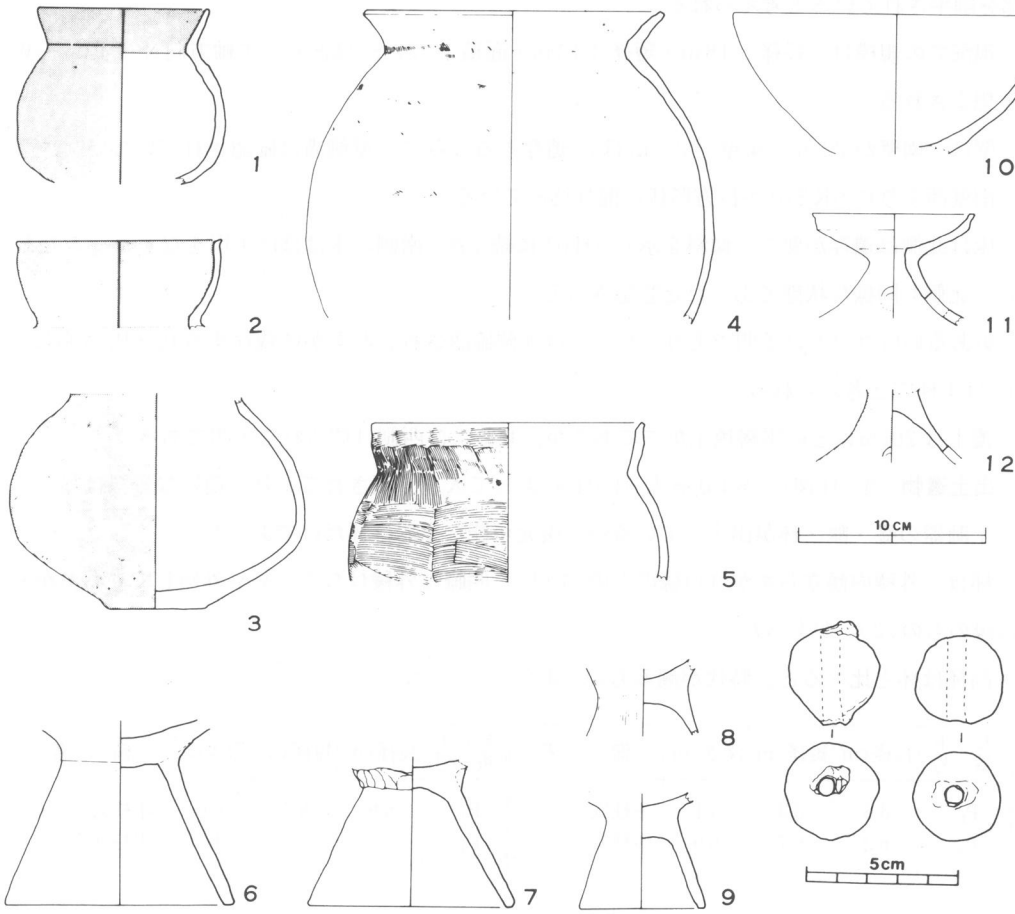
出土遺物（第109図）　土師器の壺・甕・高杯・器台がある。

1の壺は小型で，最大径はほぼ胴部の中位にあり朱彩を施し，緻密でていねいなヘラミガキを行なっている。2は口縁部が外側に彎曲し，端部がつよく外反する。3は1よりやや大型で朱彩があり，最大径は胴部のかなり下に位置する。

甕は大型と小型に分けられ，4は大型で頸部が鋭く「く」の字状に屈曲する。外面をハケ目調整したあとヘラケズリを行なっている。5はやや小型で，頸部は「く」の次状に屈曲するものの，口縁部はやや垂直に立ちあがる。この場合は，ヨコにタテにハケ目調整を駆使しており，口縁部の内側をヘラミガキしている。6から9は台付甕の台部で，とくに7は台部と甕底部との境に粘土紐を指でおさえて貼り付けている。

10は高杯の杯部で，口縁部がやや内傾し，椀に近い形を呈しており，内面をていねいにみがいている。

11は器台で，受部の内面を放射状にヘラミガキし，脚部外面もみがいている。孔は3孔穿た



第109図　ＳＩ056　出土遺物

れ脚部内面はハケ目調整のあとナデ調整している。12も器台であろう。孔は4孔であろうか。器面はみがかれ，朱を塗っている。

これらの土器は，住居址の中央やや北寄りに集中していた。

その他の遺物では，土玉が2点出土している。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	38	34	35	主柱穴	P_4	25	18	28	主柱穴
P_2	26	21	41	主柱穴	P_5	61	57	26	
P_3	30	22	33	主柱穴	P_6	30	17	12	

SI 058（第110図）　本住居址はＥ８ｂ０・Ｅ９ｂ１に確認され，桝形部の東南，クランク状に東に曲がるSH01の南外辺部に位置し，城館跡の東橋脚部を構築するにあたり，かなり北側部を削平されていると考えられる。

現況での規模は，長径5.18m・短径3.13m・面積16.21m^2ほどで，主軸方向Ｎ－12°－Ｗと想定される。

壁は，南壁が22cm・東壁が23cmほど遺存するのみで，壁側溝は確認されていない。さらに南壁西よりにSK210が長方形状に掘り込んでいる。

床は北側は遺存が悪く，傾斜を示しSH01に続くが，南側の床はほぼ平坦をなすロームであり，北側も同様な状態であったと想定される。

炉あるいはカマドは不明であり，ピットは4個確認され，わずかに残存するP_1・P_4さらにP_2 P_3は主柱穴と考えられる。

覆土は20cmほどの黒褐色土が主であるが，北および西側は切られて不明である。

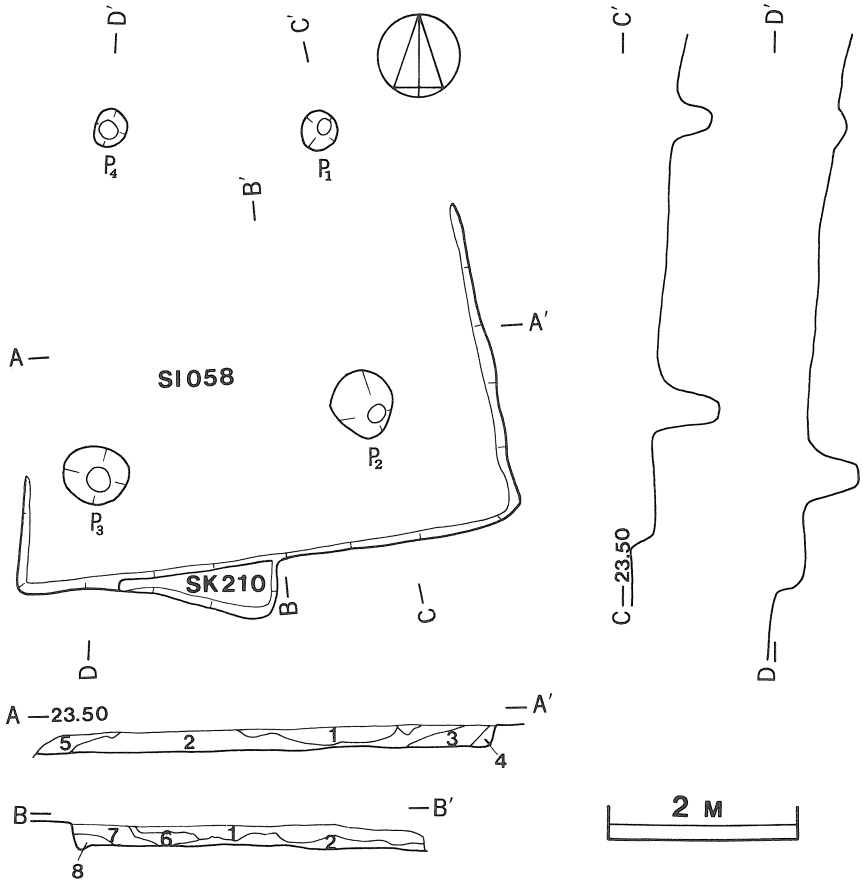
出土遺物（第111図）　ＳＩ058もSH01によって大きく壊されており，良好な資料はない。

土師器の甕・甑・杯が出土しているが，復元可能な土器は杯だけであった。

杯は，外稜内傾立ちあがり口縁のもの(1)と，明瞭な外稜はなく，やや外傾して立ちあがる口縁のもの(2)とがあった。

高杯は杯と比べると，時代が溯るものである。

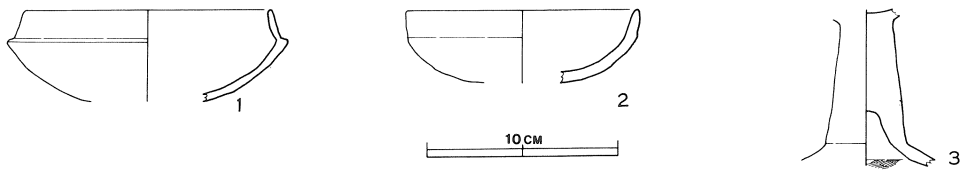
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	36	33	41	主柱穴	P_3	59	53	56	主柱穴
P_2	62	57	69	主柱穴	P_4	35	29	10	主柱穴



S I 058 土層解説

1.	Hue 7.5YR 2/2	黒 褐 色	ローム粒子
2.	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	ロームの粒子・粒
3.	Hue 7.5YR 3/4	暗 褐 色	ローム粒子・粒・ロームブロック
4.	Hue 7.5YR 4/4	褐　　色	ローム粒子・粒・ロームブロック
5.	Hue 7.5YR 3/3	暗 褐 色	ローム粒子・粒(少量)
6.	Hue 7.5YR 2/2	黒 褐 色	ロームブロック(多)
7.	Hue 7.5YR 2/1	黒　　色	はっきりしたローム粒とロームブロック少量含む
8.	Hue 7.5YR 2/2	黒 褐 色	ローム粒・ロームブロック 7より少量含む

第110図　S I 058　実測図



第111図　ＳＩ 058　出土遺物

ＳＩ 059（第112図）　本住居址はＥ９ｅ４・ｆ４・ｆ５に確認され，東北コーナーをＳＩ 076に接し，南側をＳＩ 056に接して位置する。

主軸方向はＮ－77°－Ｅで長径4.99ｍ・短径4.9ｍ・面積24.45ｍ^{2}ほどの方形状の平面形を呈する。

壁高は22～43cmほどを測り，緩傾斜の東壁が浅い。壁側溝はカマド・東北コーナーを除き30cm内外・深さ10～20cmで東壁中央で立ち切れる。

床はほぼ平坦をなす堅いロームで，特に，中央部が堅い床面である。

ピットは南方壁ぎわに１個確認するに留まる。P_1は長径35cm・短径31cm・深さ30cmを測る。

覆土は18～40cmほどで壁ぎわに黒褐色土が流入し，大部分はローム粒子を含む暗褐色土が堆積している。

カマド（第113図）は北壁の中央に位置し，南側にあるP_1と同一直線上に築かれている。

主軸方向はＮ－25°－Ｅで，長径102cm・短径98cm・面積0.99ｍ^{2}で焼土が東側に流出している。

袖部の遺存は良く，北壁より40～55cmほど突出し，35cmの間隔を有し焚口に至る。天井部も残存し，燃焼部直上はやや平坦で土器接置部と想定される楕円形状の穴が確認され，焼土混じりの暗褐色土が堆積している。煙道部は北壁を幅48cmで約30cmほど掘り込んでいる。火床は長径72cm・短径60cmの楕円形状に床を10～18cmほど掘り窪めている。

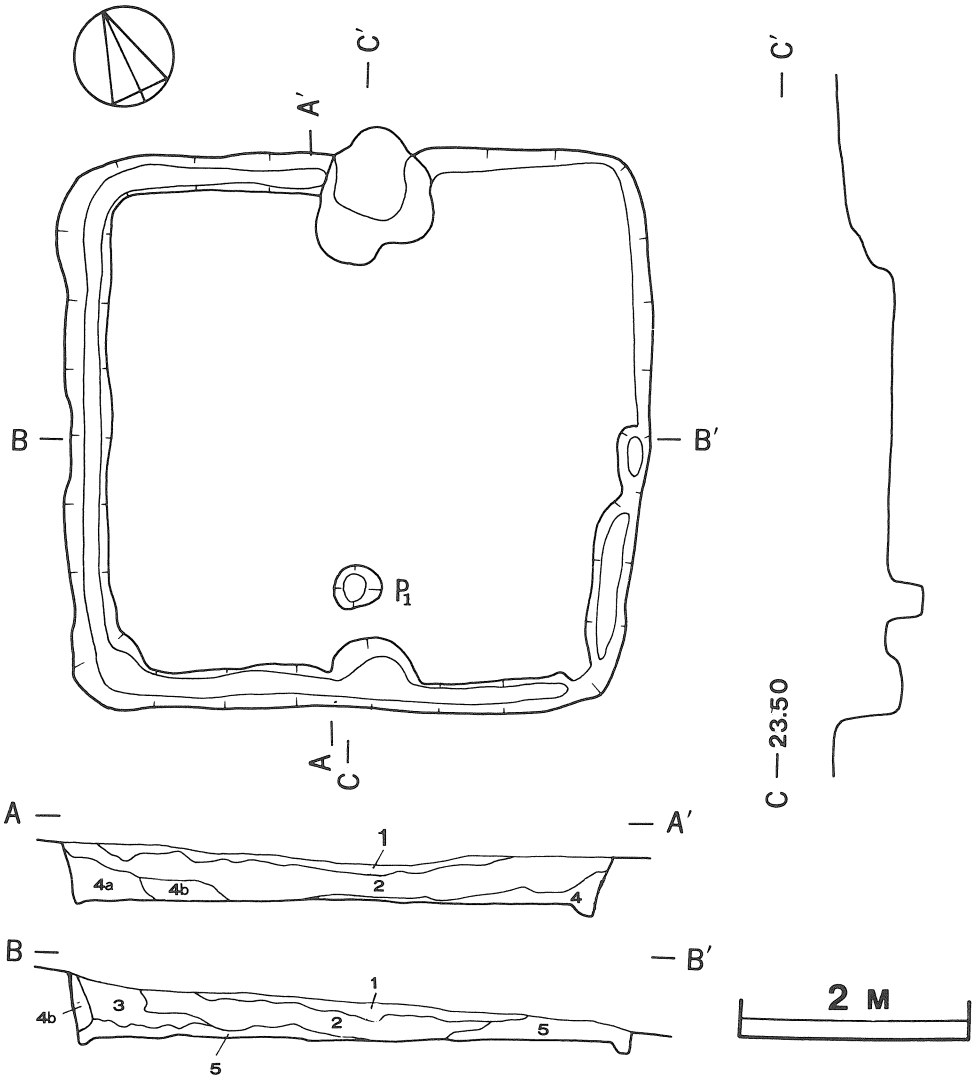
遺物は少量で浮いた状態で検出された。

出土遺物（第114図）　土師器の甕・杯，須恵器の小片がある。

１の甕は大型で，頸部は垂直に立ちあがり，口縁部は平坦に外へひらく。２は口縁部の内外に沈線がめぐり，頸部内外にハケ目調整がみられる。

３から５は杯で，３は明瞭な外稜はなく，口縁部がやや内傾して立ちあがる。４は素縁で口縁部はやや内傾している。５は外稜があり，口縁部は垂直に立ちあがる。

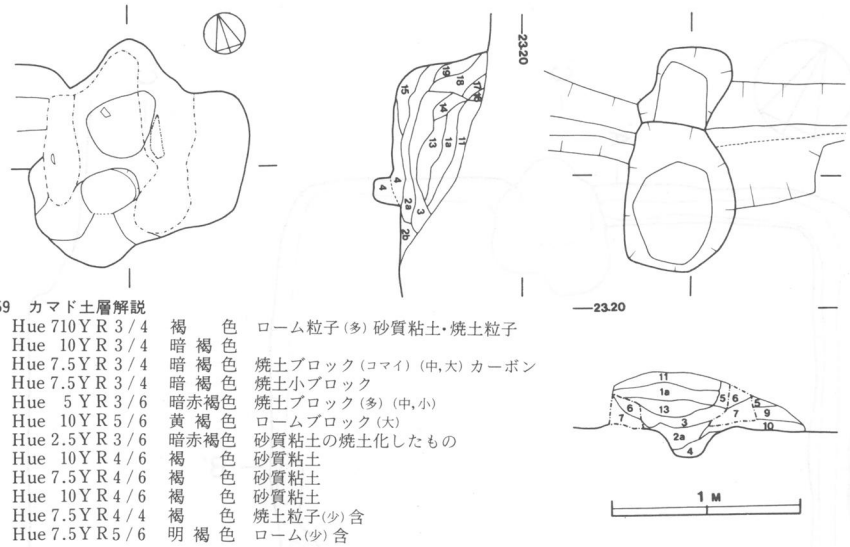
６の須恵器は小片のため器形はわかりにくいが，甕の肩部であろうか。わずかに波状の櫛描文が２段にわたって認めることができる。６は住居址の東北部から出土した。



S I 059 土層解説

1.		Hue 7.6YR 3/3	暗 褐 色	ローム粒子含
2.		Hue 7.5YR 3/4	暗 褐 色	ローム小ブロック・粒子含
3.		Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	ローム粒子(少)含
4.	a	Hue 7.5YR 3/2	黒 褐 色	ローム小ブロック含
	b	Hue 7.5YR 3/2	黒 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子(多)含
5.		Hue 7.5YR 4/4	褐 色	ロームブロック(多)含

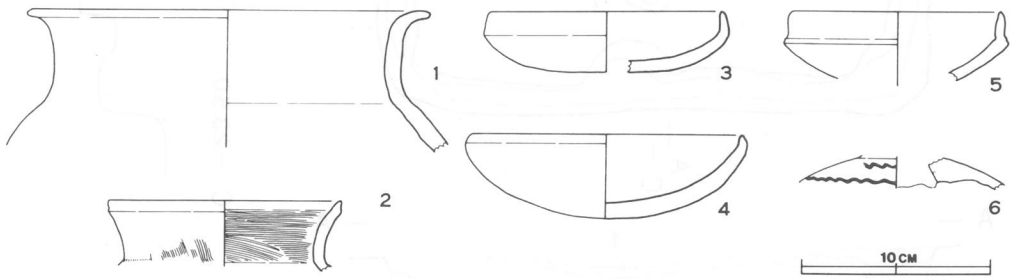
第112図 S I 059 実測図



S I 059　カマド土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 3/4	褐　色	ローム粒子(多) 砂質粘土・焼土粒子
	b	Hue 10YR 3/4	暗 褐 色	
2.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗 褐 色	焼土ブロック(コマイ)(中,大) カーボン
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗 褐 色	焼土小ブロック
3.		Hue 5YR 3/6	暗赤褐色	焼土ブロック(多)(中,小)
4.		Hue 10YR 5/6	黄 褐 色	ロームブロック(大)
5.		Hue 2.5YR 3/6	暗赤褐色	砂質粘土の焼土化したもの
6.		Hue 10YR 4/6	褐　色	砂質粘土
7.		Hue 7.5YR 4/6	褐　色	砂質粘土
8.		Hue 10YR 4/6	褐　色	砂質粘土
9.		Hue 7.5YR 4/4	褐　色	焼土粒子(少)含
10.		Hue 7.5YR 5/6	明 褐 色	ローム(少)含

第113図　S I 059　カマド実測図



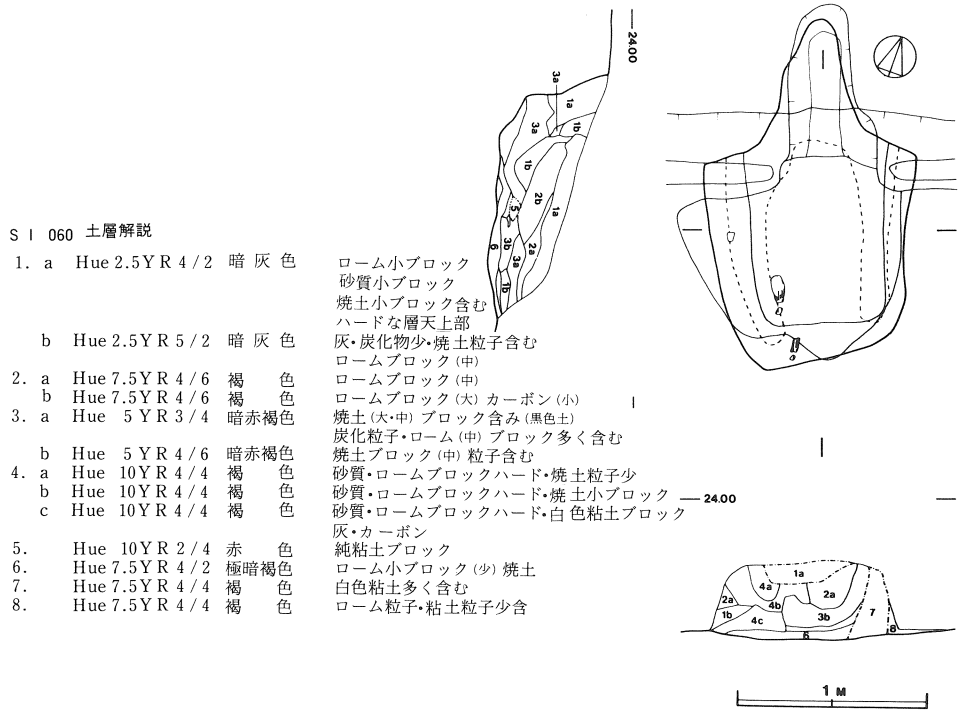
第114図　S I 059　出土遺物

S I 060(第116・117図)　本住居址はE8 i 7・i 8・j 7・j 8・j 9・F8 a 7・a 8・a 9にわたり確認された大型住居で，東方9mで同規模を呈するS I 038，北方4mでS I 067が位置し，さらに西側はSD001に接近している。

主軸方向はN－21.5°－Wを向き，長径7.68m・短径7.52m・面積57. 75m^2ほどの方形状の平面形を呈する。

壁高は56～76cmと深く，遺存は良好である。壁側溝は幅30cm内外，深さ10cmほどでカマドを除き全周している。

床はほぼ平坦で中央部が特に堅いロームであり，壁ぎわより多量の焼土・炭火物が床の中心部に向かう状態で検出されている。北壁のほぼ中央にカマドが位置し，その東方80cmほどに長方形状のP_7があり，長径81cm・短径70cm・深さ35cmを測る貯蔵穴と考えられる。さらに東南の東壁と平行して長方形状のP_8・長径132cm・短径100cm・深さ28cmほどで，南に径40cm・深さ50cmほどのピットを有しており，貯蔵穴あるいは何らかの付帯施設と考えられ



第115図 ＳＩ060　カマド実測図

る。また，南側の中央・南壁側溝ぎわに方形状のP_9・長径92cm・短径84cm・深さ60cmほどの掘り込みが位置している。このピットの埋設土層は，第1層がローム ブロック層のきわめて堅い貼床状を呈する褐色土であり，第2層もローム ブロックを多量に含んでいる。用途は不明である。

さらにその北側に方形状で長径44cm・短径39cm・深さ39cmを測るP_{10}が位置している。

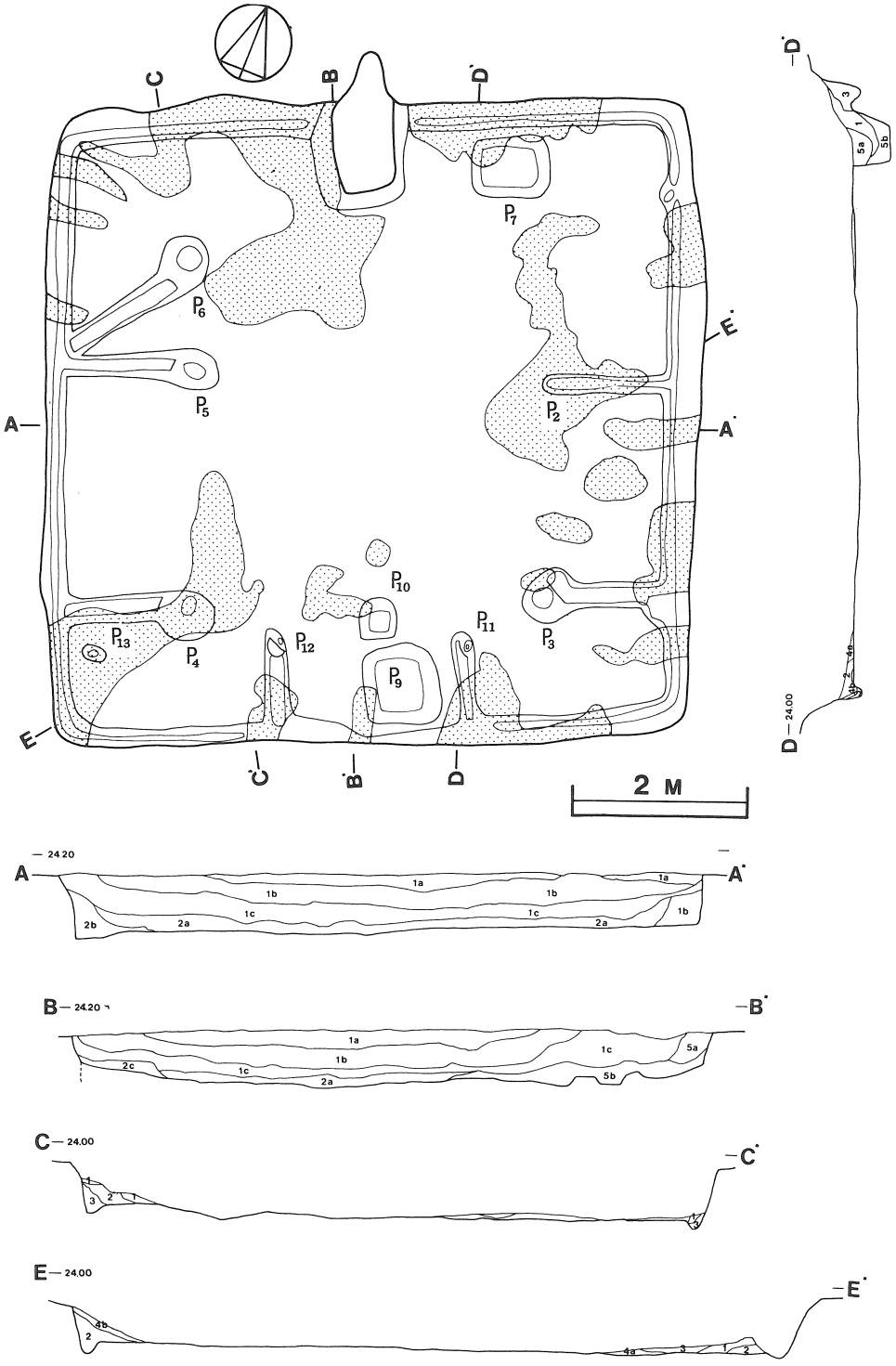
主柱穴はP_1・P_3・P_4・P_6と考えられ，補助的にP_2・P_5が考えられる。P_1以外は間仕切り状の溝が壁側溝よりピットまで続いている。P_2は20cm幅で140cm，P_3は幅30cmで110cm，P_4は幅28cmで100cm，P_5は幅30cmで124cm，P_6はP_5と同地点より幅28cmで140cmほど北向する。

南壁よりP_9を挟む状態で中央を向く同様の溝があり，P_{11}に幅20cmで70cm，さらにP_{12}に幅28cmで78cm程観察された。

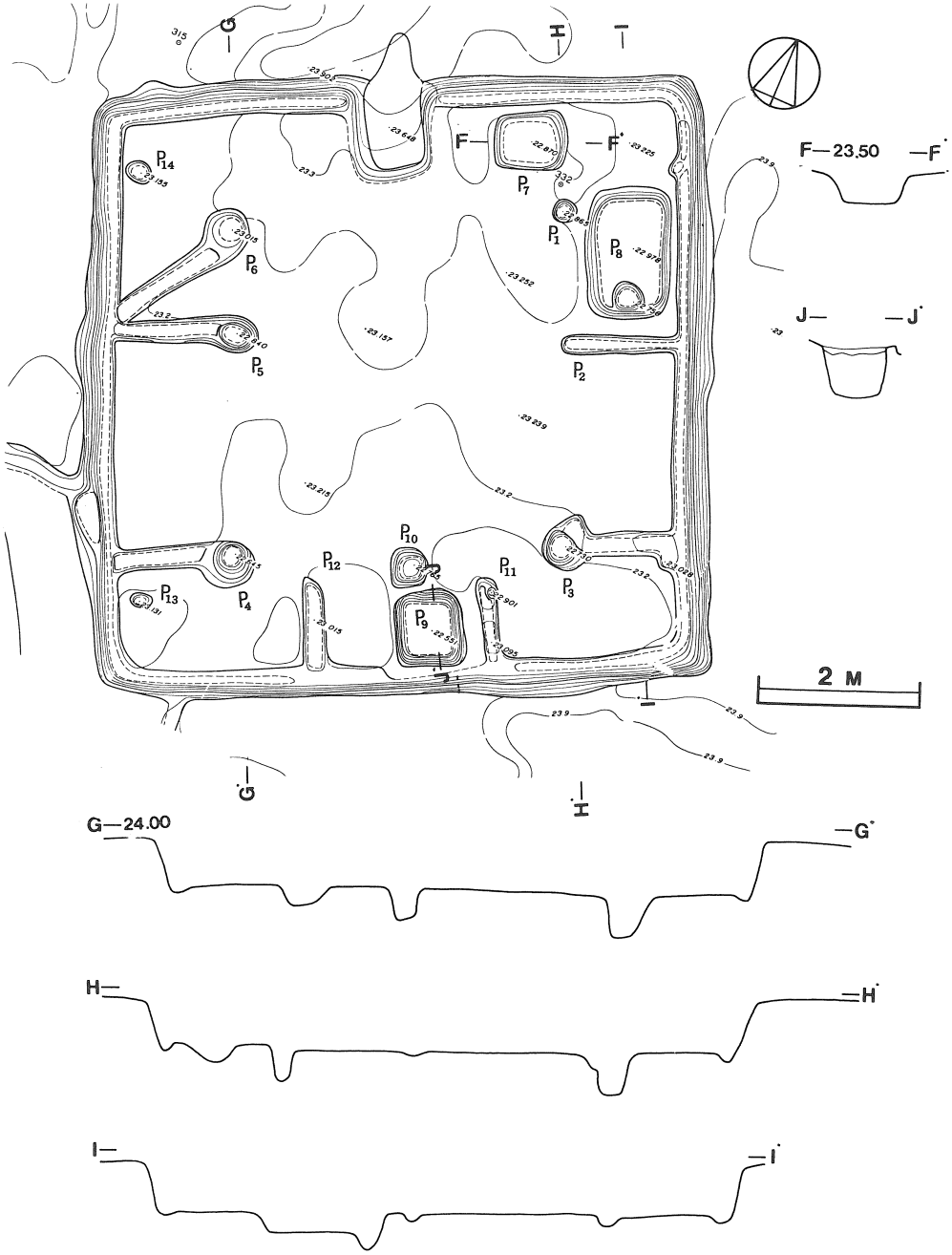
覆土は60～68cmほど堆積し，第1層は暗褐色土層，第2層以下は褐色土でローム ブロック・ローム粒子・焼土等を含み火災にあったと考えられる。

遺物はやや浮いた状態で壁ぎわから多く出土している。

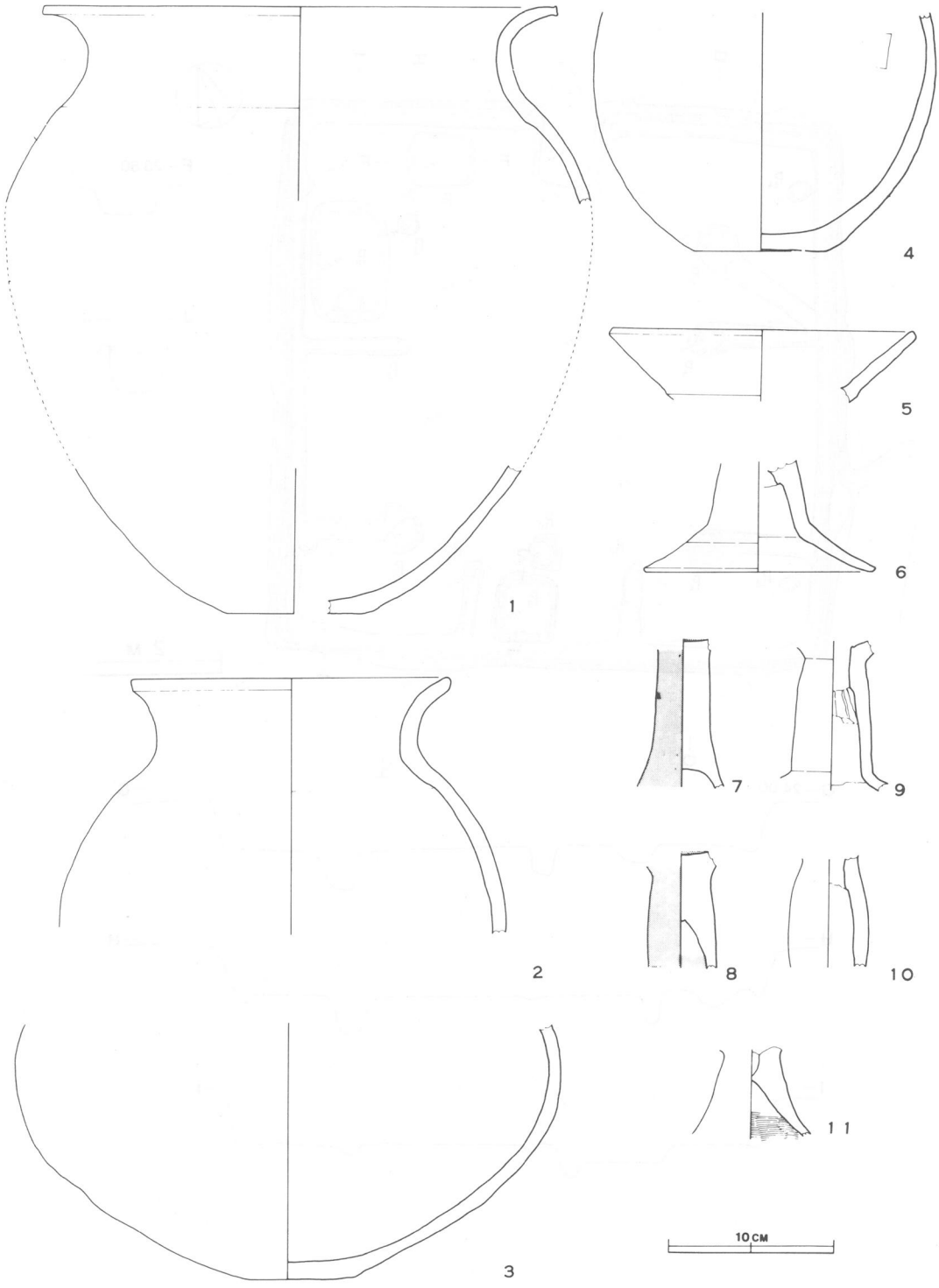
カマド(第115図)は北壁の中央に位置し，主軸方向N－20°—Wで，長径176cm・短径102cm・



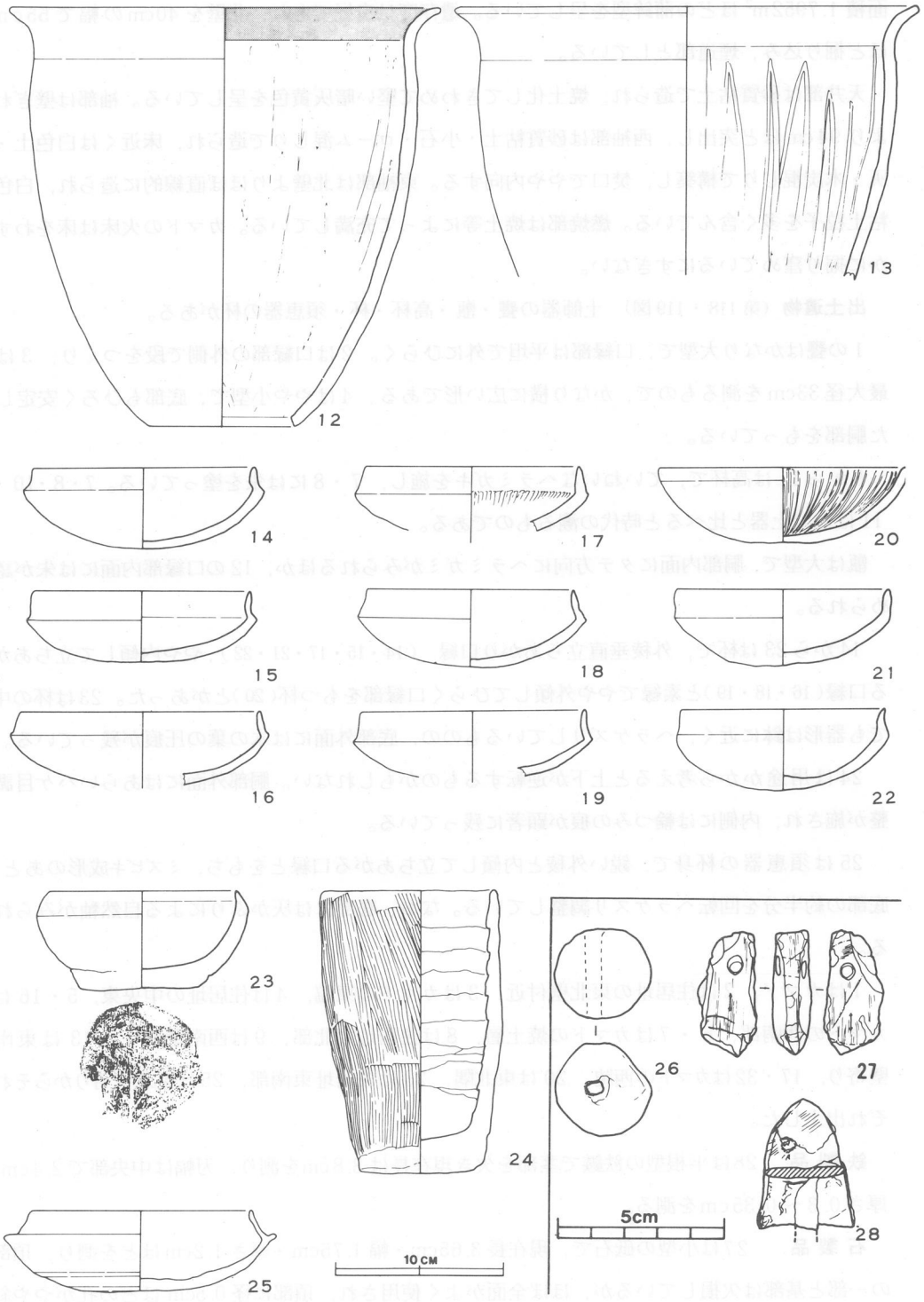
第116図　ＳＩ060（Ａ）　実測図



第117図　ＳＩ060(Ｂ)　実測図



第118図　ＳＩ060　出土遺物



第119図　ＳＩ060　出土遺物

面積 1.7952m² ほどの蒲鉾型を呈している。遺存度は良好であり，北壁を 40cm の幅で 55ｃｍほど掘り込み，煙道部としている。

天井部は砂質粘土で造られ，焼土化してきわめて堅い暗灰黄色を呈している。袖部は壁ぎわより 94cm ほど突出し，西袖部は砂質粘土・小石・ローム混じりで造られ，床近くは白色土・灰・木炭混じりで構築し，焚口でやや内向する。東袖部は北壁よりほぼ直線的に造られ，白色粘土粒子を多く含んでいる。燃焼部は焼土等によって充満している。カマドの火床は床をわずかに掘り窪めているにすぎない。

出土遺物（第 118・119 図） 土師器の甕・甑・高杯・杯・須恵器の杯がある。

1 の甕はかなり大型で，口縁部は平坦で外にひらく。2 は口縁部の外側で段をつくり，3 は最大径 33cm を測るもので，かなり横に広い形である。4 はやや小型で，底部もひろく安定した胴部をもっている。

5 から 11 は高杯で，ていねいなヘラミガキを施し，7・8 には朱を塗っている。7・8・10・11 は他の土器と比べると時代の溯るものである。

甑は大型で，胴部内面にタテ方向にヘラミガミがみられるほか，12 の口縁部内面には朱が認められる。

14 から 23 は杯で，外稜垂直立ちあがり口縁 （14・15・17・21・22），やや内傾して立ちあがる口縁（16・18・19）と素縁でやや外傾してひらく口縁部をもつ杯（20）とがあった。23 は杯の中でも器形は鉢に近く，ヘラケズリしているものの，底部外面には木の葉の圧痕が残っている。

24 は用途かから考えると上下が逆転するものかもしれない。胴部外面にはあらいハケ目調整が施され，内側には輪づみの痕が顕著に残っている。

25 は須恵器の杯身で，鋭い外稜と内傾して立ちあがる口縁とをもち，ミズビキ成形のあと，底部の約半分を回転ヘラケズリ調整している。なお，底部には灰かぶりによる自然釉がみられる。

1 はカマド，2 は住居址の東北壁付近，3 はカマドの東脇，4 は住居址の中央東，5・16 はカマドの西南部，6・7 はカマドの焼土層，8 は住居址東北部，9 は西南壁寄り，13 は東南壁寄り，17・32 はカマドの西脇，20 は東北隅，23 は住居址東南部，25 は東北壁寄りからそれぞれ出土した。

鉄製品　28 は平根型の鉄鏃で茎部を欠き現在長は 3.8cm を測り，刃幅は中央部で 2.4cm，厚さ 0.3～0.35cm を測る。

石製品　27 は小型の砥石で，現在長 3.65cm・幅 1.75cm・厚さ 1.2cm ほどを測り，頂部の一部と基部は欠損しているが，ほぼ全面がよく使用され，頂部に径 0.5cm ほどの孔がやや斜めに穿っている。石材は凝灰質頁岩である。

その他の遺物としては，土玉と風化した土製の支脚が出土した。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	26	25	44	主柱穴	P_8	132	100	28	貯蔵穴か
P_2	21	16	5	柱　穴	P_9	92	84	60	不　明
P_3	59	48	50	主柱穴	P_{10}	44	39	39	
P_4	56	48	49	主柱穴	P_{11}	13	10	25	
P_5	40	39	39	柱　穴	P_{12}	23	23		
P_6	52	46	23	主柱穴	P_{13}	26	16	7	
P_7	81	70	35	貯蔵穴	P_{14}	29	21	5	

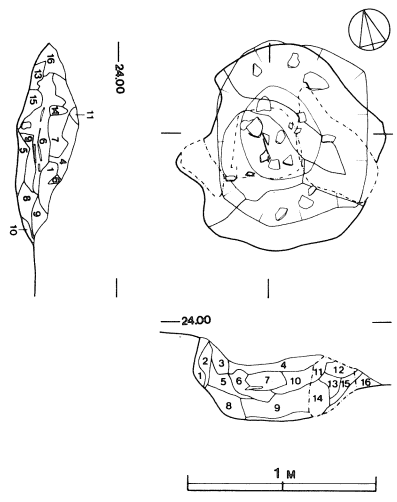
SI 061（第121図）　本住居址はＥ８ｅ５・ｅ６・ｆ５・ｆ６に確認され，大型のＳＩ037の西南壁の中央部をＳＩ061の東北コーナーが切って位置し，南側にＳＩ068が接近し，西側に同形態のＳＩ064が４ｍほどで位置している。

主軸方向はＮ－14°－Ｅで，長径2.96ｍ・短径2.91ｍ・面積8.61㎡の方形状の平面形を呈している。

壁は28cmほどで，ほぼ垂直に立ちあがる。カマドを除き壁側溝が全周し，深さは10cm内外で西壁に３個，東壁に１個の壁側穴があり，さほど大きいものではない。

床はほぼ平坦で堅いロームであり，西南コーナーに主柱穴と考えられるP_1があり，東北コーナーに小さなP_2がある。

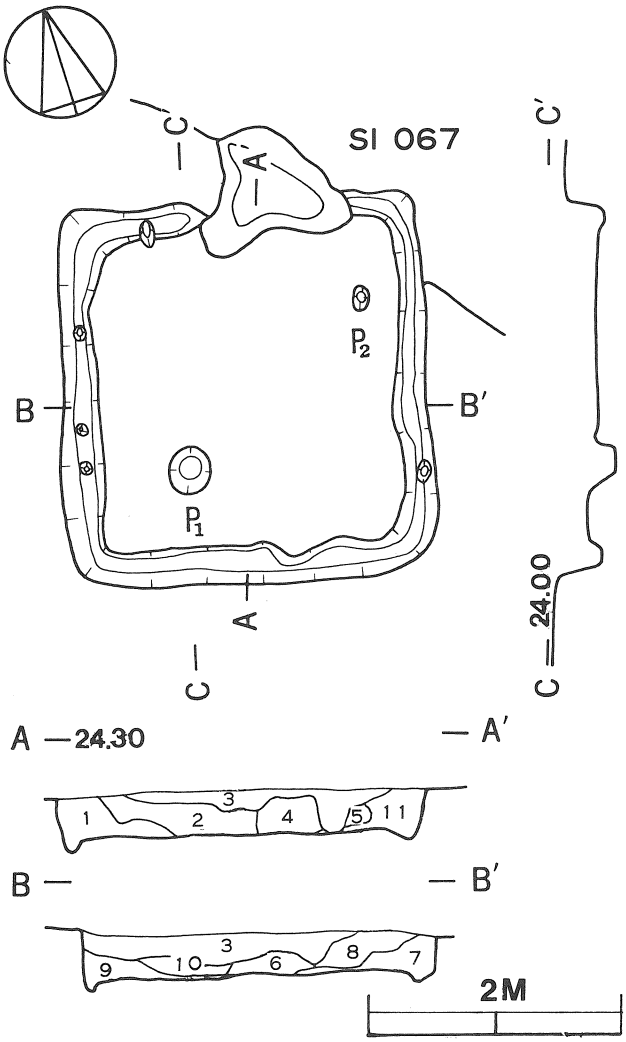
覆土はローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土層が多いが，少量の焼土を検出する。



第120図　ＳＩ061　カマド実測図

カマド（第120図）は北壁の中央より東にかけ位置しＳＩ037の西南壁を掘り込んで構築されている。

主軸方向はＮ－14°－Ｅを向き，長径88cm・短径60cmほどである。煙道部はＳＩ037内に達っしていると考えられ，確認できなかったが，北壁を50cm以上掘り込んでいる。天井部は遺存度が悪く，袖部は，東袖が壊れているが，西袖は比較的遺存が良く，砂質混じりの粘土で築かれ，45ｃｍほどの間隔を有する。焚口部はやや東南方向に開く。燃焼部には灰および焼土が充満し，少量の土師器が出土している。



S I 061 土層解説

1.	Hue 7.5Y R 3/3	暗褐色	ロームの粒・ローム粒子(多数)含む
2.	Hue 7.5Y R 4/4	褐　色	ロームの粒・ロームブロックを含み2よりやわらかい
3.	Hue 7.5Y R 3/2	暗褐色	ロームの粒(少量)・ロームブロックを含み2よりやわらかい
3.	Hue 7.5Y R 5/6	明褐色	ロームブロック(大)を多く含み,非常にかたい
4.	Hue 7.5Y R 2/1	黒　色	わずかにローム粒子・焼土を含む
5.	Hue 7.5Y R		3層に同じ
6.	Hue 7.5Y R 3/2	暗褐色	ローム粒子を含み細かい土の集まり
8.	Hue 7.5Y R 3/3	暗褐色	ローム粒子・ロームの粒を多く含む大量焼土
9.	Hue 7.5Y R 4/4	褐　色	ロームの粒を多量に含みもろい
10.	Hue 7.5Y R 4/4	褐　色	ロームブロックを多量に含みかたい
11.	Hue 7.5Y R 2/2	黒褐色	ロームブロック(少量)をわずかに焼土

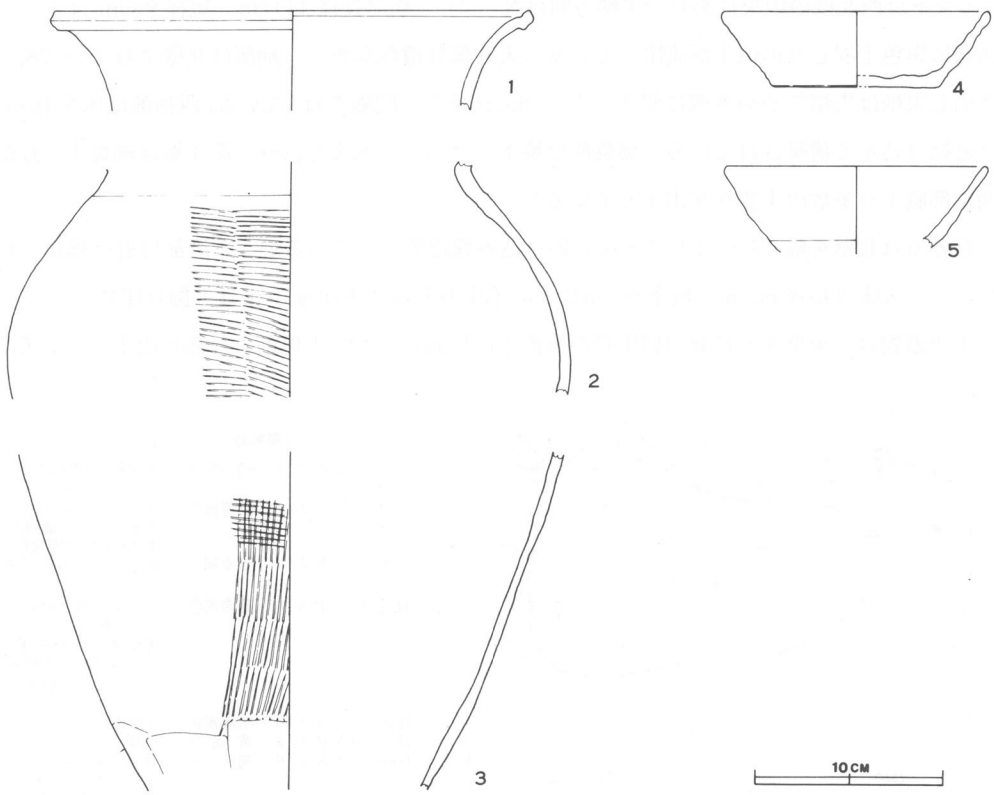
第121図　S I 061　実測図

出土遺物(第122図)　主な土器は須恵器で，土師器は小片だけである。須恵器の器形としては，甕・杯がある。

1から3は同一個体の可能性が強い。口縁部が「く」の字状に屈曲し，頸部から肩・胴部にかけてあまり広がらない。外面には平行叩きを施し，胴部下端は，ヨコにヘラケズリ調整を行っている。これらはカマドの中から出土しており，とくに口縁部の一部分は二次的に火をうけてもろくなっていた。

4の杯は，ミズビキ成形のあと底部をヘラケズリ調整している。5はミズビキ成形のあと，体部下端を回転ヘラケズリを行っており，おそらく底部にも及ぶと思われる。これらの杯もカマドから出土している。

その他では土製の支脚が出土しているが，風化が激しく原形をとどめていない。



第122図　ＳＩ061　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	29	26	22	主柱穴	P_2	20	14		

SI 062（第124図）　本住居址はＥ９ｇ１・ｇ２・ｇ３・ｈ１・ｈ２・ｈ３・ｉ２に確認され，北コーナーをＳＩ063に切られ，東南コーナーをＳＩ074に切られている。

カマド（第123図）は西北壁にあり，住居の主軸方向はＮ－44°－Ｗで，長径6.25ｍ・短径6.1ｍ，面積38.12ｍ^{2}の方形状の平面形を呈している。

壁高は34～44cmほどでほぼ垂直に立ちあがる。壁側溝は重複して切られている部分を除き，幅23cm内外・深さ16cmほどで全周している。

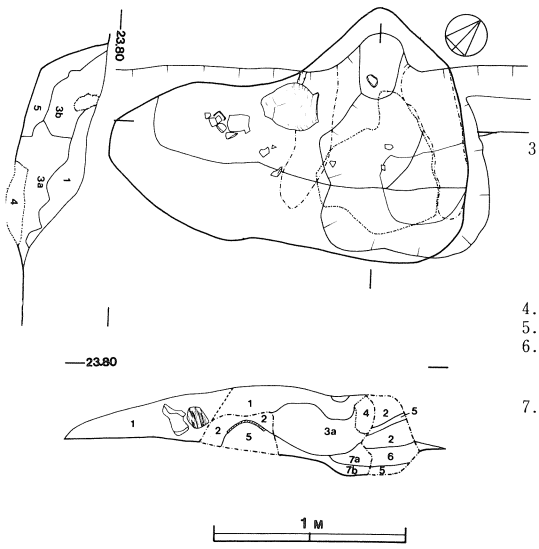
床はほぼ平坦をなす堅いロームであり，ピットは４個確認され，P_1～P_4は対角線上にあり，主柱穴と考えられる。東南コーナーよりの東壁に，長方形状の土壙が切り込んでいる。覆土中にボソボソのロームブロックを含みやわく，新しい時期の土壙と考えられる。

覆土は上層部に撹乱が数ケ所みられ，ローム粒子・ロームブロック混じりの暗褐色土よりなる。

カマドは西北壁の中央にあり，主軸方向はＮ－41°－Ｗで長径111cm・短径98cmほどで，西側に黒色土混じりの焼土が流出している。天井部は遺存が悪く，袖部は北壁より70～78cm突出し東袖は先端でやや外側に開き，40～65cmほどの間隔を有している。西袖部は床を16cmほど掘り込んで構築されている。燃焼部は焼土ブロック，木炭を含み，第４層は純焼土である。西袖部脇より多数の土器片が出土している。

掘り方は北壁を幅40cmほどで20cm掘り込み煙道部としているが，上辺部付近は壊かされている。火床は長径80cm・短径80cmほどの不定方形状に床面を6cmほど掘り窪めている。

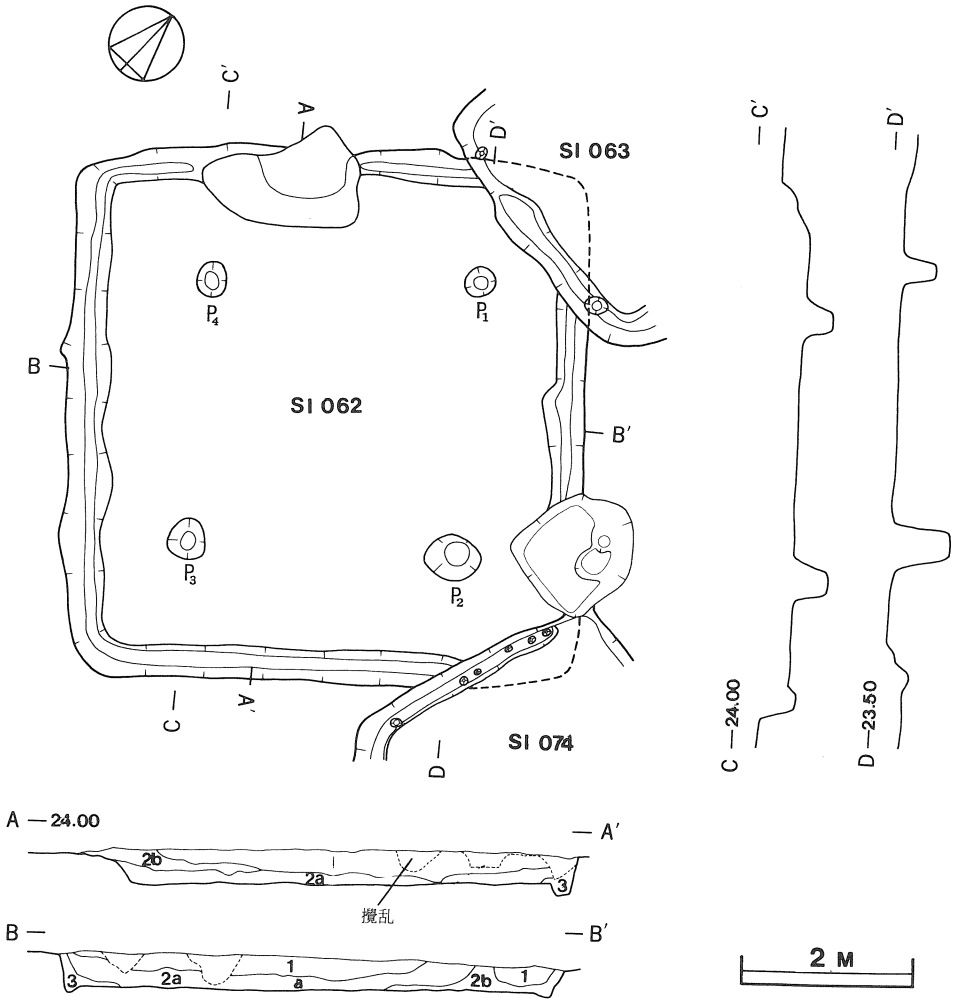
出土遺物は，東壁ぎわに鹿の肩甲骨が床直上に位置し，カマド付近より甕が出土している。



ＳＩ 062　カマド土層解説

1. Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　焼土粒子・黒色土ローム粒子含む
2. Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　ロームブロック（大）焼土ブロック遺物含む袖部・砂質若干含む
3. a　Hue 2.5YR 3/4　暗赤褐色　焼土ブロック・粒子多く含む
   b　Hue 2.5YR 3/3　暗赤褐色　カーボン（微）含むローム粒子焼土ブロック・粒子ロームブロック粒子惹いブロック粒子が多い
4. Hue 2.5YR 2/6　暗赤褐色　純焼土
5. Hue 10YR 5/8　黄褐色　砂質
6. Hue 7.5YR 4/6　褐色　焼土ブロック（小）ロームブロック粒子砂質含む
7. a　Hue 5YR 3/6　暗赤褐色　ロームブロック（中）焼土ブロック・ロームブロック含む
   b　Hue 5YR 3/4　暗赤褐色　ロームブロック多く含むハード

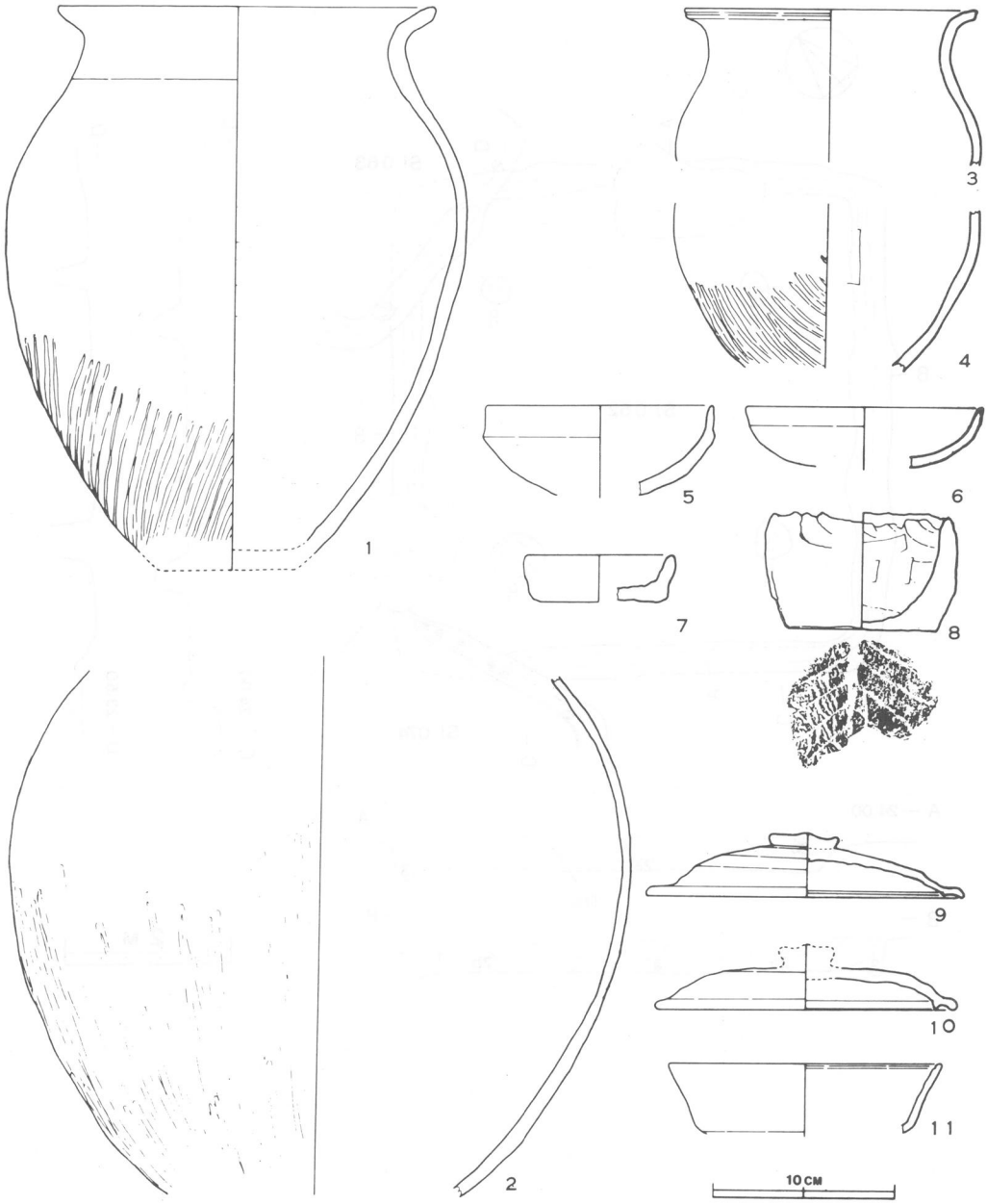
第123図　ＳＩ 062　カマド実測図



S I 062 土層解説

1.		Hue 7.5YR 4/4	褐 色	ローム小ブロック(中)・ローム粒子(中)
2.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少) 粘土ブロック(中)・焼土ブロック(少)
3.		Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少)

第124図　S I 062　実測図



第125図　ＳＩ062　出土遺物

出土遺物(第125図)　土師器の甕・杯・手捏ね土器・須恵器の杯・蓋がある。

1は大型の甕で，最大径は胴部の中位より上にあり，底部にかけてかなりすぼまる形である。頸部が内傾し，口縁部は強く外へひらく。ちょうどＳＩ067の大型甕とＳＩ039の甕との中間形を呈している。胴部の下部外面にはヘラミガきが施されている。2は大型の甕の胴部で，こ

の場合には最大径が1ほど上にはなく，胴部外面にあらいヘラミガキを有す。

3・4は同一個体と思われる小型甕で，口縁部の内側が凹面をなし，端部には沈線がめぐる。胴部下半には，あらいヘラミガキが施されている。

5の杯は小片のため良好な資料とはいえない。6は素縁で口縁部が外傾して立ちあがる。

7・8は手捏ね土器である。8は口縁部がかなりいびつで，体部内面をヘラナデ調整しており底部には木の葉の圧痕がみられる。

9・10は須恵器の蓋である。口縁端部は丸く内側にかえりをもつ。ミズビキ成形のあと天井部を回転ヘラケズリ調整し，扁平な擬宝珠状のつまみをつけ，回転ナデ調整を行なっている。11は杯で，ミズビキ成形によっており，底部の調整は欠損しているため不明である。

1は西袖の中から，2はカマドの東側，4は住居址の西南壁寄り中央，8は西袖脇，9はカマドの東脇からそれぞれ出土した。

その他の遺物では，土製支脚がカマドの西脇から出土している。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	31	26	40	主柱穴	P_3	42	37	40	主柱穴
P_2	51	51	68	主柱穴	P_4	38	31	34	主柱穴

SI 063（第126図）　本住居址はE9f1・f2・g1・g2に確認され，南壁がSI062の東北コーナーを切って位置している。4mほど東南に同規模のSI074が位置する。

主軸方向はN－11°－Eで，長径4.0m，短径3.72m，面積14.88m^2ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は22～28cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。

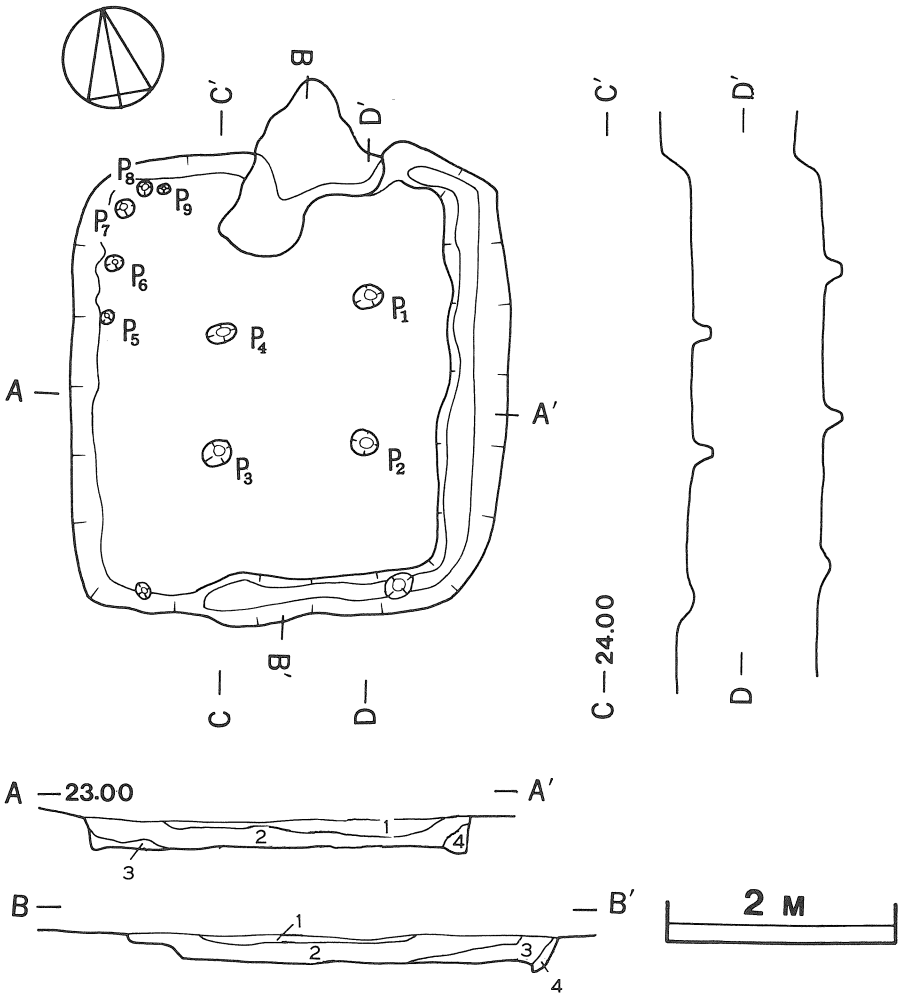
壁側溝は西壁がやや浅いがほぼ全周する。

床はほぼ平坦なロームで，中央部に主柱穴と考えられるP_1～P_4があり，P_4はやや中央よりに位置している。西北コーナーに小さなピットが5個並び，壁側穴と考えられる。

覆土はローム粒子・小ロームブロックを含む黒褐色土であり，第1層より鉄製小型鋤先が出土している。

カマド（第127図）は北壁の中央やや東よりに位置し，主軸方向はN－1.5°—Wで，長径106cm・短径82cmほどで，西南に焼土が流出している。天井部・袖部の遺存は悪いが，土層断面の第1・2層は天井部の潰れと考えられ，第5・8b層は袖部の残存と考えられる。焚口より燃焼部にかけて第3b層に純焼土が検出されている。

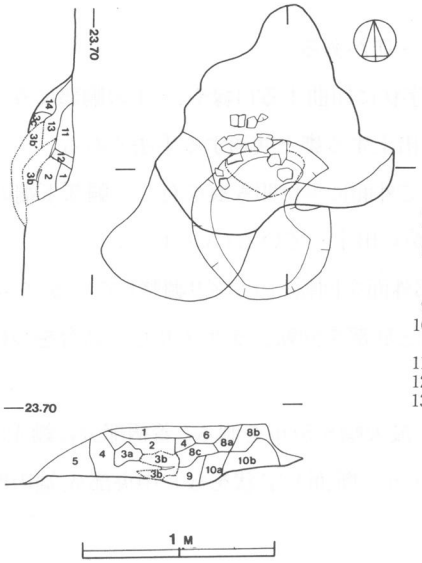
煙道部も明確でなく，火床は長径84cm・短径72cmの楕円形状に8cmほど床面を掘り窪めて



S I 063 土層解説

1. Hue 7.5Y R 2/1 黒 色 ローム小ブロック(少)含
2. Hue 7.5Y R 2/3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック(少)含
3. Hue 7.5Y R 3/1 黒褐色 ローム粒子含
4. Hue 7.5Y R 3/3 暗褐色 ローム粒子含

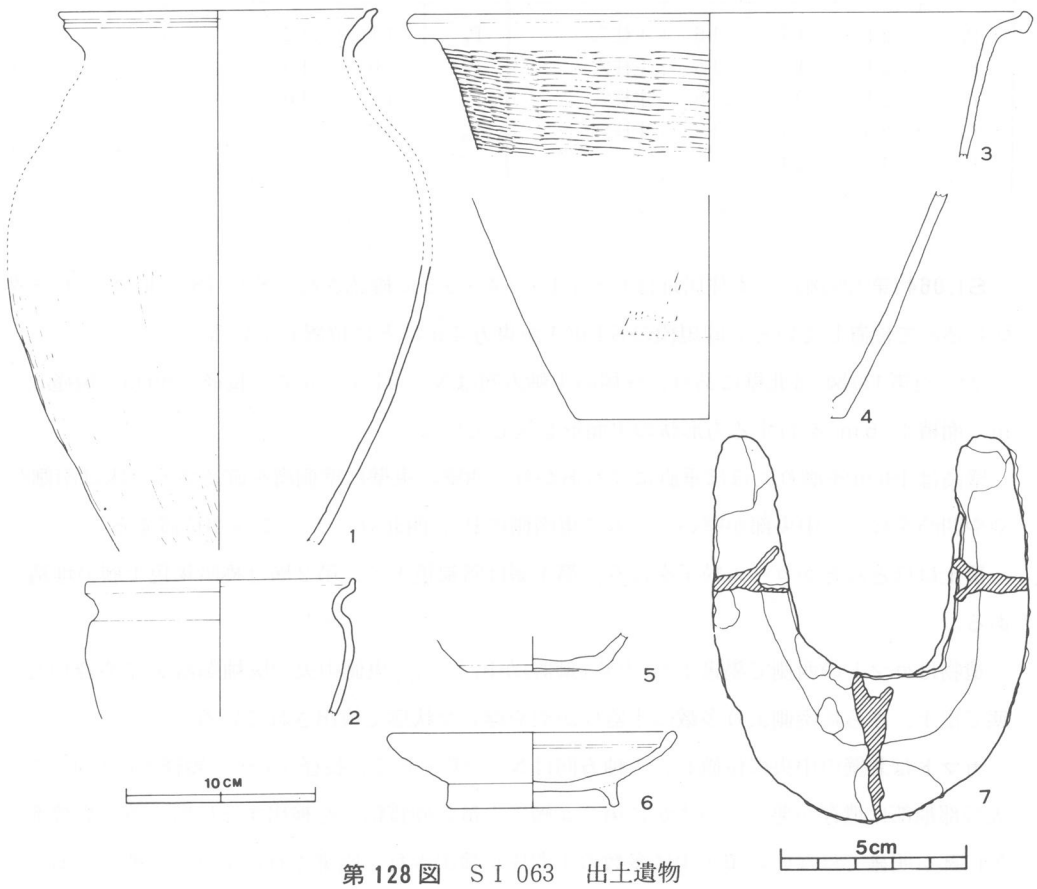
第126図 S I 063 実測図



SI 63 カマド土層解説

1.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	砂質,焼土粒子・ローム粒子少含
2.		Hue 10YR 3/4	暗褐色	砂質(多) ローム・焼土粒子含む(若干)
3.	a	Hue 2.5YR 3/6	暗褐色	焼土ブロック・粒子・砂質(少)
	b	Hue 2.5YR 4/8	赤褐色	焼土ブロック(中) 浅焼土
	b′	Hue 2.5YR 4/8	赤　色	雲母粒子を含む
4.		Hue 5YR 3/6	赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック(小) 黒色土砂質若干含む
5.		Hue 10YR 4/4	褐　色	ロームブロック(大) 砂質を多く含む・焼土粒子の袖部
6.		Hue 10YR 4/4	褐　色	破質粘土粒子・焼土粒子含む
7.		Hue 10YR 4/4	褐　色	砂質粘土
8.	a	Hue 5YR 4/8	赤褐色色	焼土多含む
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	砂質粘土・焼土粒子含む
	c	Hue 5YR 5/6	明赤褐色	焼土
9.		Hue 7.5YR 4/6	褐　色	砂質粘子・焼土粒子含む
10.	a	Hue 7.5YR 4/6	褐　色	焼土粒子含む
	b	Hue 7.5YR 4/6	褐　色	焼土粒子ローム含む
11.		Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	焼土粒子含む
12.		Hue 5YR 3/6	暗赤褐色	砂質粘土と焼土によって構成
13.		Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック

第127図　SI063　カマド実測図



第128図　SI 063　出土遺物

いる。

出土遺物（第128図）　土師器の甕・須恵器の甕・杯・皿がある。

土師器の甕は，大型(1)と小型(2)があり，「く」の字状に屈曲する口縁や，1の胴部にみられるあらいヘラミガキなど，他の国分期の住居址から出土する甕と共通する手法である。

須恵器の甕は，最大径が口縁部にあり，底部へかけて外面に平行叩き痕を有し，胴部下端の外面をヘラケズリを行なっている。同類の甕はＳＩ072から出土している(3・4)。

須恵器の杯は，ミズビキ成形のあと，体部下端と底部外面を回転ヘラケズリ調整している(5)。

皿は口縁内部に沈線が入る形で，ミズビキ成形のあと底部を回転ヘラケズリし，高台をつけて回転ナデ調整している(6)。

鉄製品　Ｕ字型の鉄製鋤先で，最大長は10.3cm，最大幅8.5cmを測る。着柄部分は鋤先の内側に断面Ｖ字状の溝が作られ，刃部は幅1.9～3.9cm，断面Ｖ字状をなし中央部先端の厚さ0.15～1.0cmを測る。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	21	17	16	主柱穴	P_6	11	12		
P_2	21	19	15	主柱穴	P_7	16	15		
P_3	21	20	18	主柱穴	P_8	12	10		
P_4	25	17	15	主柱穴	P_9	10	8		
P_5	11	11							

SI 064（第129図）　本住居址はＥ8ｄ4・ｅ4・ｅ5に確認され，ＳＩ078の北コーナーを切り込んで位置している。同規模のＳＩ061が東方4ｍほどに位置している。

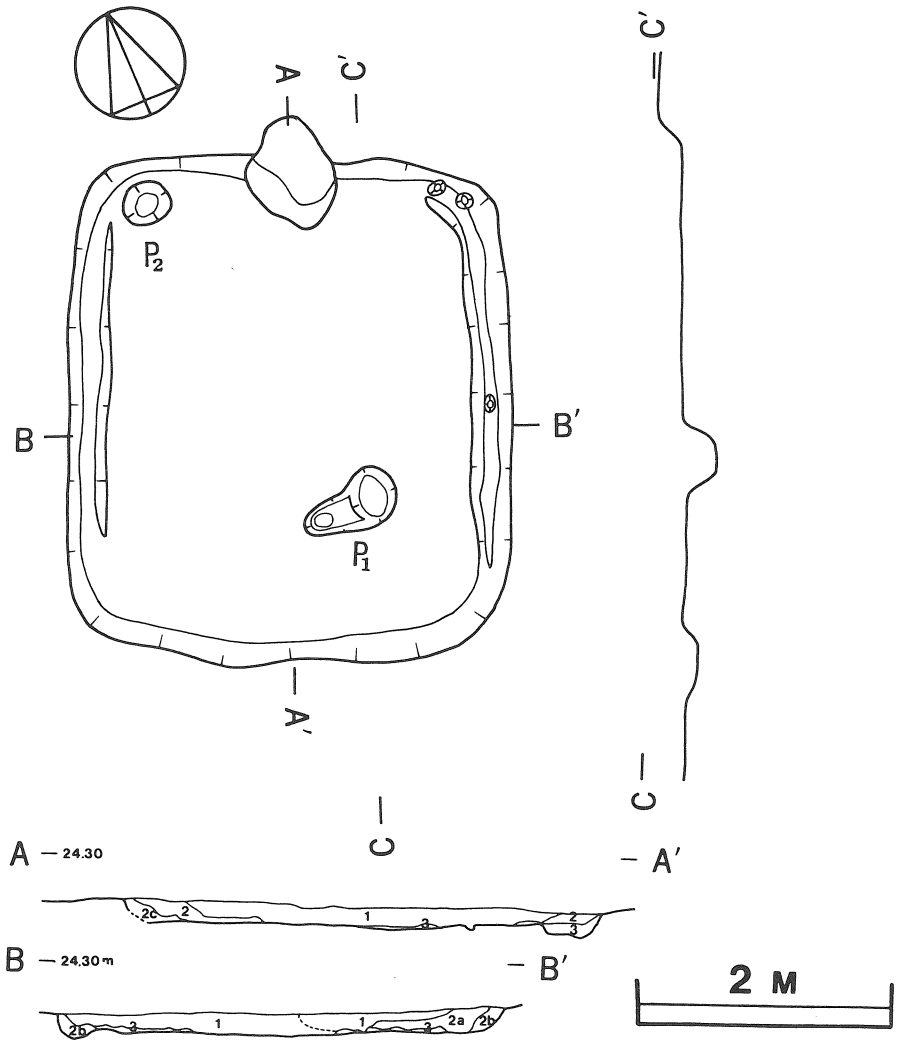
カマド(第130図)は北壁にあり，住居の主軸方向はＮ－24.5°－Ｗで，長径3.89ｍ，短径3.5ｍ，面積13.6m^2を有する方形状の平面形を呈している。

壁高は19cmを測り，ほぼ垂直に立ちあがり，西壁と東壁に壁側溝を確認する。床は南側がやや凹凸をなし，中央部が堅いロームで東南側にP_1，西北コーナーにP_2が位置する。

覆土はほとんどがローム粒子を含み，第1層は暗褐色土で，第2層は極暗褐色土層の堆積である。

遺物はカマドの西側で墨書土器(内黒土師器)が出土し，東側中央の灰釉陶器がやや浮いた状態で出土，さらに南側より多数の土器片がやや浮いた状態で検出されている。

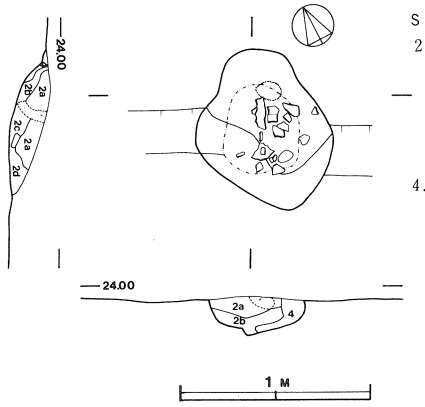
カマドは北壁の中央に位置し，主軸方向はＮ－27°－Ｅで，長径73cm，短径54cmほどで，天井部袖部は遺存が悪く，わずかに第2ａ層に少量の砂質粘土を検出するに留まる。燃焼部・焚口部も明確ではない。覆土中に多数の土器片が検出され，廃棄されたような状態である。中



S I 064　土層解説

1.		Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少)・焼土粒子(極少)・ローム小ブロック(少)
2.	a	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	ローム粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	ローム小ブロック(少)・軟質ロームブロック(少)
	c	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	ローム小ブロック(少)・粘土ブロック(少)
3.		Hue 7.5YR 4/4	褐色	ロームブロック(極少)・軟質ロームブロック(中)

第129図　S I 064　実測図



ＳＩ 064　土層解説

2.	a	Hue 5ＹＲ 3/4	暗赤褐色	焼土小ブロック(少)・焼土粒子(少) 砂質粘土(少)
	b	Hue 5ＹＲ 3/4	暗赤褐色	焼土粒子(少)
	c	Hue 5ＹＲ 3/6	暗赤褐色	焼土粒子(中)
	d	Hue 5ＹＲ 3/4	暗赤褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少) 焼土小ブロック(少)・焼土粒子(少)
4.		Hue 7.5ＹＲ 4/6	褐　色	黄色ブロック(少) ローム小ブロック(少)・焼土粒子(中) ローム粒子(少)

第 130 図　ＳＩ064　カマド実測図

央部に撹乱がみられる。

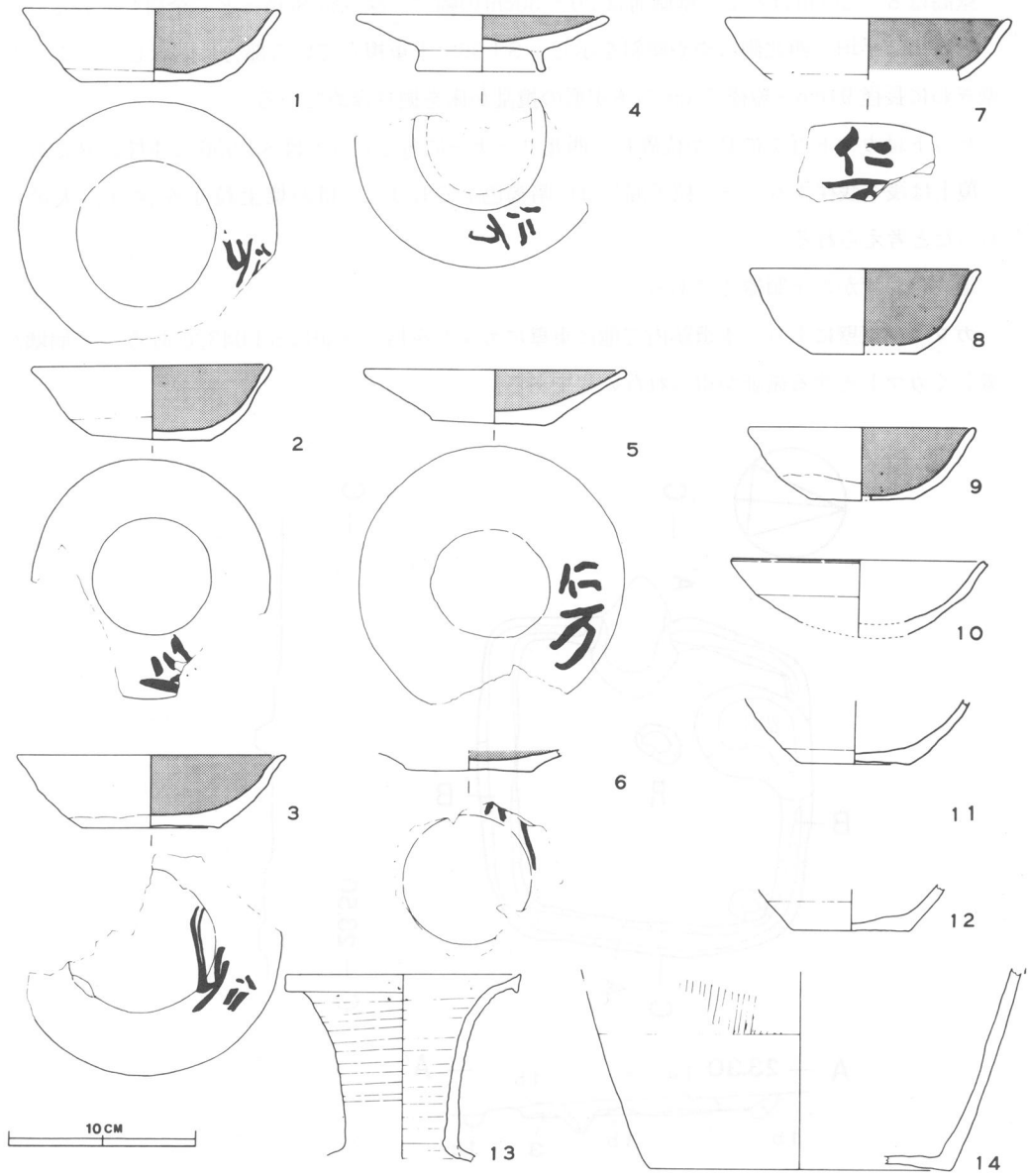
出土遺物（第 131 図）　土師器の杯・内黒土師器の杯・皿・須恵器の甕・灰釉陶器の長頸瓶などがある。

土器の主流は内黒土師器で，本遺跡で検出した国分期の住居址の中でも，ＳＩ064 が圧倒的に多く出土している。器形は杯（1～3，7～9），皿（4～6）に大きく分けられる。杯には高台をつけたものはないが，7の場合はＳＩ038 の所で図示した杯のように高台がつくかもしれない。皿はさらに高台のつく形とそうでないものとに分けられる。いづれの場合もミズビキ成形によっており，杯はそのあと体部下端と底部の外面をヘラケズリ調整する。高台をつける場合は，貼りつけたあと回転ナデ調整を行なっている。内面は黒く焼きあがり，ていねいなヘラミガキのため光沢を帯びている。また，1から7の体部外面にはそれぞれ「仁万」の墨書がみられ，個々の筆跡はちがっている印象をうける。ちなみに，ＳＩ055 出土の杯の場合は，底部に墨書があったが，それとも筆跡はちがうように思われる。これらの内黒土師器はカマドの西脇，すなわち住居址の北寄りに集中していた。

10 は土師器の杯で，口縁端部に沈線がめぐっており，底部は丸く不安定である。これはカマドの中から出土した。11 も土師器の杯であるが，この器形は内黒土師器や須恵器の杯とよく似ている。14 は須恵器の甕の底部である。

15 は，灰釉陶器の長頸瓶の口縁部で，胎土も焼成も良好で，釉も美しい優品である。本遺跡では，遺構に伴って出土した灰釉陶器はこの1点しかなく，貴重な資料と言えよう。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	42	28	27	主柱穴	P_2	34	28	6.5	



第131図　ＳＩ064　出土遺物

SI 065（第132図）　本住居址はＥ９ｇ４に確認され，ＳＩ056の東南コーナーを切って位置し，南側はＳＩ075に接している。

カマド（第133図）は東壁の中央にあり，住居の主軸はＮ－100°－Ｓを向き，長径2.6ｍ・短径2.53ｍ・現状の面積は6.57㎡ほどで，東南コーナーがやや張りだす方形状の平面形を呈している。

壁高は８～20cmほどで，壁側溝は20～30cmの幅で，深さは8cmほどで全周している。

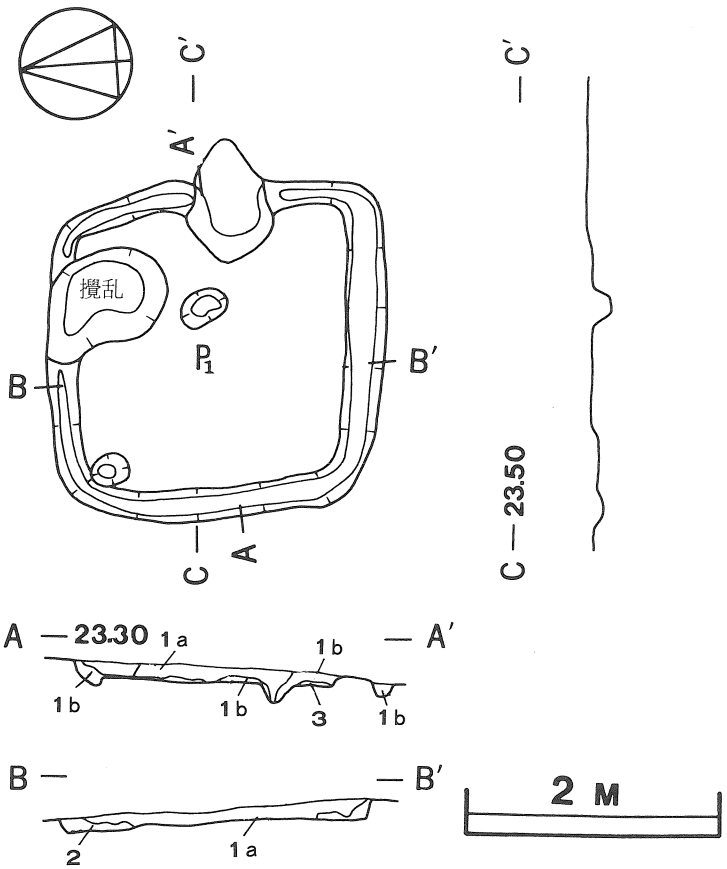
床はほぼ平坦で西北側にやや傾斜を示し，ＳＩ056 と重複している部分は貼床している。北壁ぎわに長径 91cm・短径 77cmの不定形の撹乱が床を掘り窪めている。

ピットはカマド近くに P_1 が位置し，西北コーナーにあるピットはＳＩ056の主柱穴 P_2である。

覆土は浅く残存するローム粒子混じりの暗褐色土であり，少量の焼土粒子を含み，火災にあったと考えられる。

遺物はわずかの土師器片である。

カマドは東壁にあり，本遺跡内で他に東壁にカマドを持つ住居はＳＩ043であるが，崩壊が激しくカマドとする確証が得られない程である。



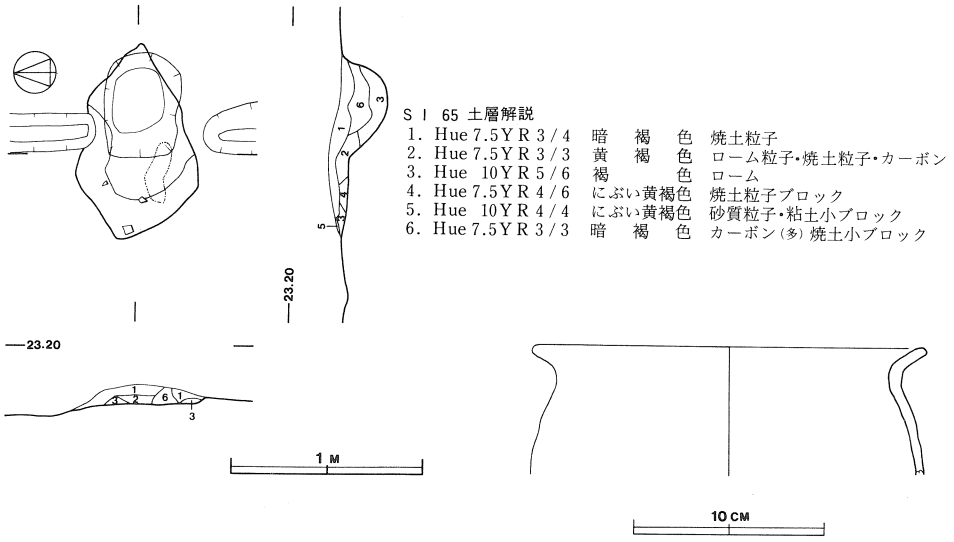
ＳＩ 065　土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(中)・焼土粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(中)・焼土粒子(少)・褐色ブロック(少)
2.		Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロック(少)
3.		Hue 7.5YR 6/4	褐　色	粘土ブロック(多)

第132図　ＳＩ 065　実測図

主軸方向はＮ－96°－Ｓで，長径83cm・短径55cm・床よりの高さ10cmで，わずかに焚口付近に流れ出した砂質粘土を確認するに留まり，天井部・袖部も遺存していない。燃焼部は東壁ぎわの床を20cmほど掘り窪め，煙道部に続くものと考えられる。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	31	12	12		P_2	26	21	41	ＳＩ054の主柱穴



第133図　ＳＩ065　カマド実測図　　**第134図**　ＳＩ065　出土遺物

ＳＩ066（第135図）　本住居址はＥ８ｈ９・ｈ０・ｉ９・ｉ０に確認され，ＳＩ069の西南コーナーを切って位置している。

カマド（第136図）は北壁にあり，住居の主軸方向はＮ－33°－Ｅで，長径3.76ｍ・短径3.59ｍ・面積13.5㎡の方形状の平面形を呈している。

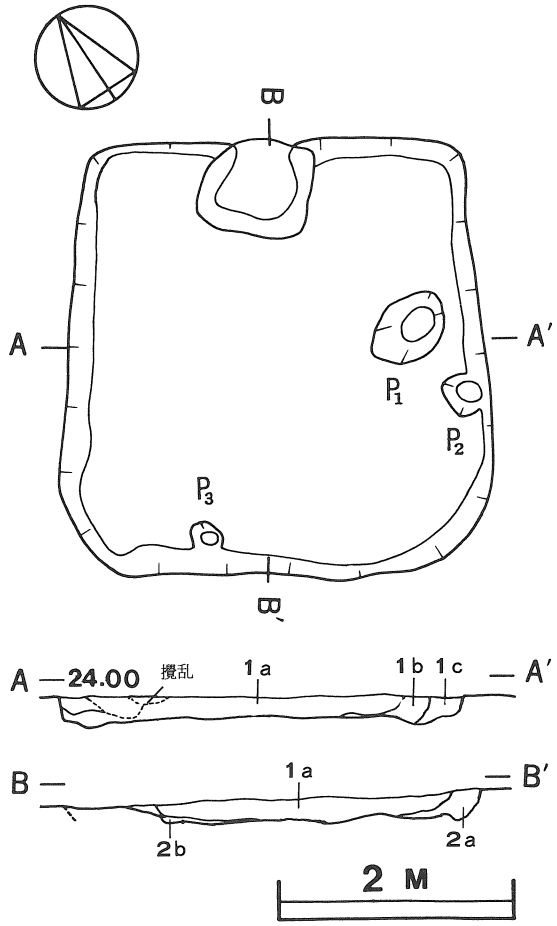
壁高は22cm内外であり，床はそれほど平坦なものではなく，中央部がやや堅いロームである。

ピットは不定形でさほど深いものではない。

覆土はロームブロックを少量含む暗褐色土で，壁ぎわは褐色土が堆積している。

遺物は少量であるが，南側からほぼ完形の須恵器杯が出土している。

カマドは北壁中央部にあり，主軸方向はＮ－33°－Ｅで，長径89cm・短径79cmほどである。上面で撹乱を受け，天井部は遺存せず，東袖部が北壁近くより40cmほど突出して残存し，砂質粘土・小石混じりの暗褐色土であり，西南に焼土が流出して検出されている。



S I 066　土層解説

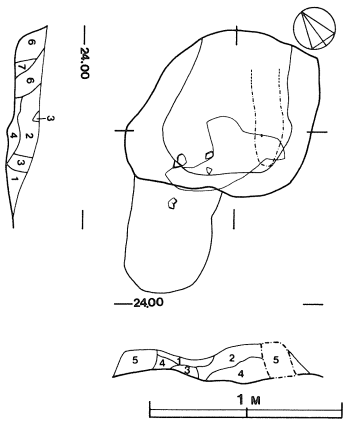
1.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(少)・ローム粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック(中) ロームブロック(少)
	c	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(中)
2.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロック(少)
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロック(少) 焼土ブロック(少)

第135図　S I 066　実測図

出土遺物（第137図）　土師器の甕・須恵器の杯がある。

1は，口縁部が短く端部へかけて「く」の字状に屈曲するもので，2の甕の底部はせまく，タテ方向のヘラケズリの痕が顕著である。

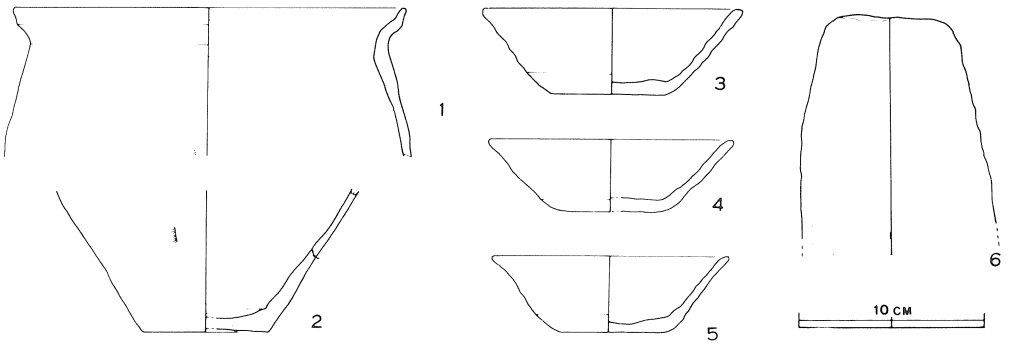
3・4は須恵器の杯で，ミズビキ成形のあと，体部下端と底部の外面をヘラケズリ調整している。



ＳＩ 66 カマド土層解説

1.	Hue 7.5ＹＲ 2／4	極暗褐色	焼土ブロック(中)・ローム小ブロック
2.	Hue 7.5ＹＲ 3／3	暗 褐 色	ローム小ブロック・焼土少ブロック若干含む
3.	Hue 2.5ＹＲ 3／6	暗赤褐色	焼土ブロック・カーボン(少)
4.	Hue 7.5ＹＲ 3／4	暗 褐 色	ローム粒子・カーボン・焼土粒子若干
5.	Hue 10ＹＲ 4／6	褐 色	砂質・ローム小ブロック・小石焼土ブロック(少)
6.	Hue 7.5ＹＲ 2／3	極暗褐色	ローム小ブロック・カーボン
7.	Hue 10ＹＲ 5／6	黄 褐 色	ローム

第136図　ＳＩ066　カマド実測図



第137図　ＳＩ 066　出土遺物

１はカマドの上面，２はカマドの東脇，３・４は住居址の中央南寄りからそれぞれ出土した。その他の遺物としては，土製支脚(６)が１点，カマドから出土している。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	60	46	8.7		P_3	22	21		
P_2	32	28	7.2						

ＳＩ 067（第139図）　本住居址はＥ８ｅ９・ｆ７・ｆ８・ｆ９・ｆ０・ｇ８・ｇ９・ｇ０・ｈ９にわたり確認された大型住居で，東北コーナーがＳＩ084を切り，南側をＳＩ069が切り込んで位置している。西北２ｍに大型のＳＩ037があり，東北５ｍにＳＩ054があり，南方4.5ｍにＳＩ060があり，さらに東南12ｍにＳＩ038があり，大型住居にかこまれて位置している。

カマド(第138図)は西北壁にあり，住居の主軸方向はＮ－37°－Ｗで，長径8.27ｍ・短径8.2ｍ・面積67.81m^2ほどで方形状の平面形を呈している。

壁高は28～30cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。壁側溝は西北コーナーと西南コーナー付近が明瞭ではないがほぼ全周している。

床はほぼ平坦をなすロームで，カマド付近および東側に多量の焼土を検出する。

ピットは5個確認され，P_6・P_7・P_5・P_8はＳＩ067の主柱穴と考えられ，P_9は貯蔵穴と考えられる。

覆土はローム粒子，小ブロックを含む暗褐色土からなり，焼土粒子を含む，また床にも多量に検出されていることにより火災にあったと考えられる。

遺物は，床面の中央から東側にかけて多量の甕・甑・円窓土器・杯等がやや浮いた状態で出土している。

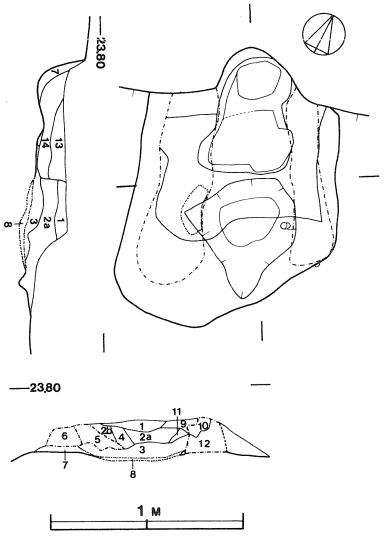
カマドは北壁の中央にあり，主軸方向はＮ－30°－Ｗで，長径128cm・短径110cmほどで，カマド上面は80cmほどの長さの平坦面を有している。天井部は明瞭でないが，第２ａ，２ｂ層に砂質粘土と白色粘土を含む層を観察することができる。

両袖部は比較的良好に遺存し，北壁ぎわより85～100cmほど突出し，40～46cmほどの間隔を有している。煙道部は北壁を40cmの幅で20cmほど半円形状に掘り込んでいる。火床は長径60cm・短径50cmの楕円形に床面を8cmほど掘り窪めている。

出土遺物（第140～143図）　本遺跡で出土した住居址の中では遺物の量が最も多い。また東南の部分は，ＳＩ069によって壊されてはいるものの，他の部分はほぼ破壊を免れ，良好な状態で出土している。

土器は土師器の甕・円窓土器・甑・杯・手捏ね土器などがある。

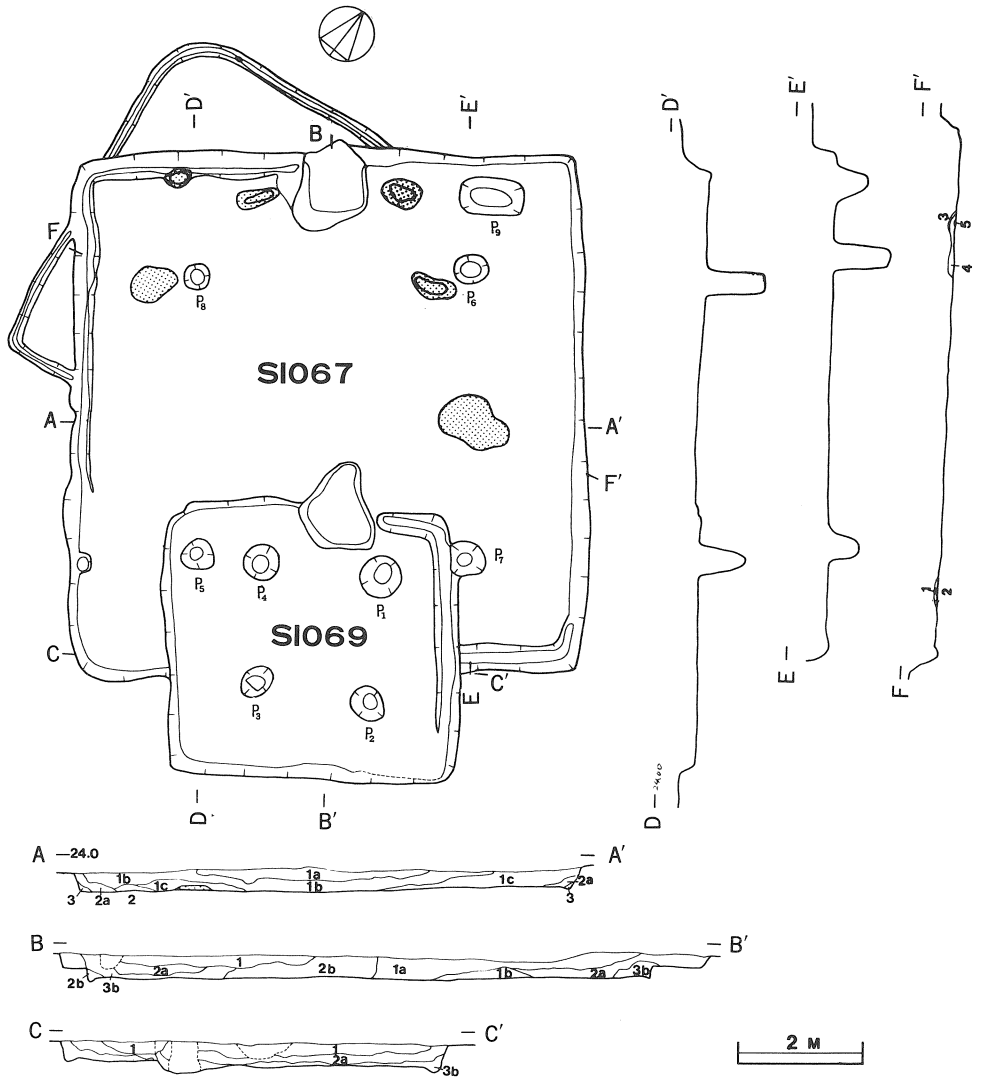
本住居址は，外八代遺跡の住居址のうちでも最大級の規模に層し，完形に近い同類の大型甕



ＳＩ 067　カマド土層解説

1.	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子，焼土粒子若干
2. a	Hue 10YR 5/6	黄褐色	砂質粘土・ローム粒子 焼土粒子含むハード
b	Hue 10YR 5/8	黄褐色	砂質粘土・ローム粒子，白色粘土
3.	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子　灰若干含む
4.	Hue 7.5YR 5/2	灰褐色	焼土粒子・灰
5.	Hue 5YR 4/6	赤褐色	焼土ブロック（中） ロームブロック（中）灰
6.	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	白色粘土粒子 ローム粒子含みハード
7.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームブロック含む
8.	Hue 5YR 3/6	暗赤褐色	焼土ブロック（多）ロームブロック ハード
9.	Hue 10YR 4/4		砂質粘土・焼土含む
10.	Hue 5YR 4/6		砂質粘土か焼土化
11.	Hue 5YR 3/4		砂質粘土か半焼土
12.	Hue 10YR 3/4		ロームブロック含む
13.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子・小ブロック
14.	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	ローム中ブロック・焼土粒子（少） カーボン（少

第138図　ＳＩ067　カマド実測図



S I 067 土層解説

1.	Hue 7.5YR 3/3	暗 褐 色	ロームの粒(少量) 焼土(少量)
2.	Hue 2.5YR 3/4	暗赤褐色	黒色土(少) ローム粒子(微) 炭化物(微)
3.	Hue 2.5YR 4/6	赤 褐 色	ロームの粒(小) 焼土(少) ローム粒・ロームブロック(少量)
4.	Hue 7.5YR 3/2	黒 褐 色	ローム土(多) ロームブロック(少)
5.	Hue 7.5YR 5/6	明 褐 色	ローム土(多) 焼土(少)
1.	Hue 2.5YR 3/4	暗赤褐色	焼土と黒色土のまざり・ロームの粒・炭化物(微)
2.	Hue 7.5YR /	黒 褐 色	ロームの粒(少) 焼土の粒(少) 炭化物(微)
3.	Hue 2.5YR 3/3	暗赤褐色	黒色土と焼土のまざり
4.	Hue 7.5YR 3/2	黒 褐 色	ロームの粒(少) ロームブロック(普)
5.	Hue 7.5YR 4/4	褐 色	ロームの粒(多量)

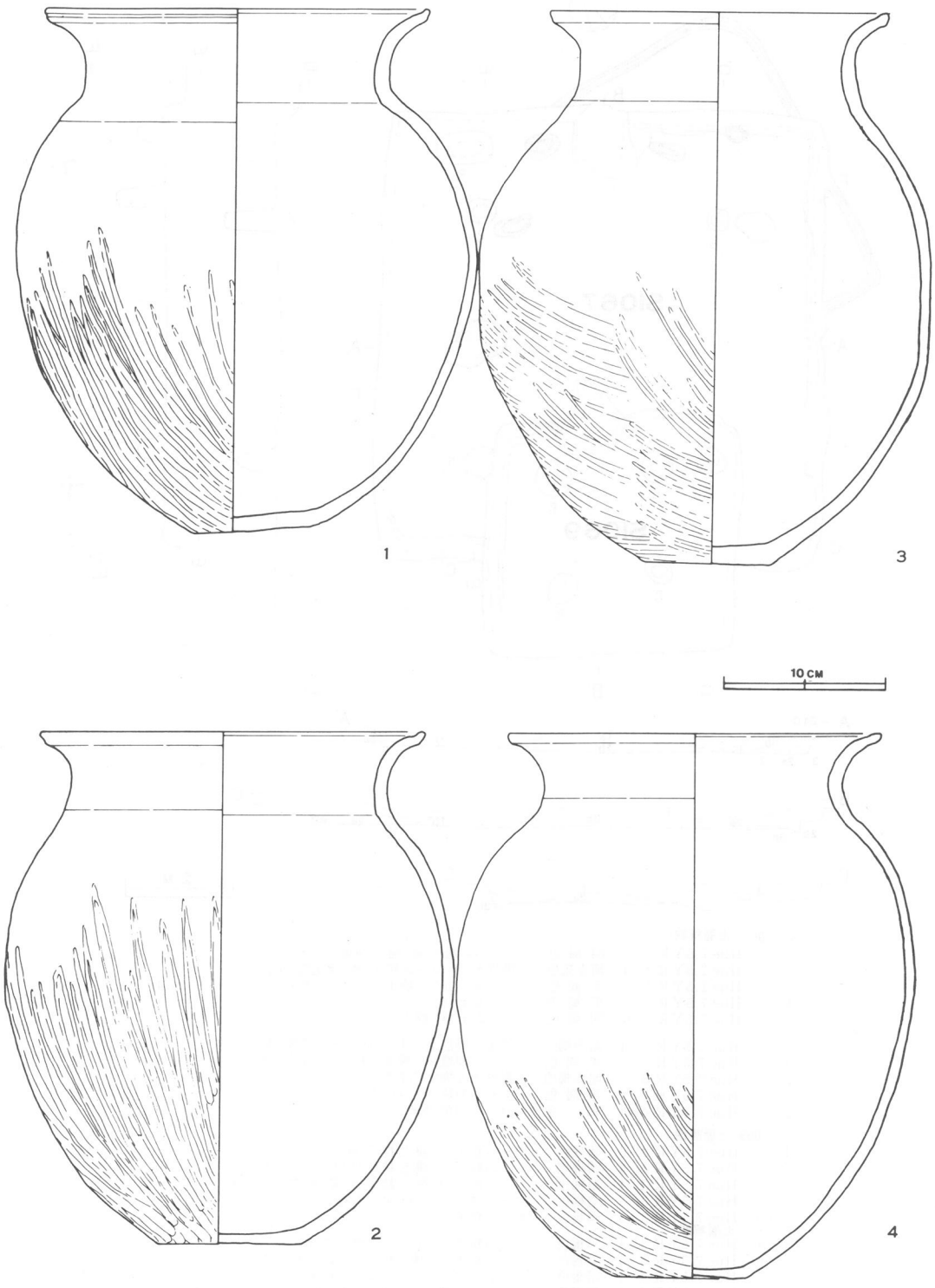
S I 069 土層解説

1.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(中)焼土 粒子(極少)
2. a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(中)焼土 粒子(少)ロ ーム小ブロック(少)
b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(中)焼土 粒子(少)粘 土ブロック(中)
3. a	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームブロック(少) ローム粒子(少)
b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(少)

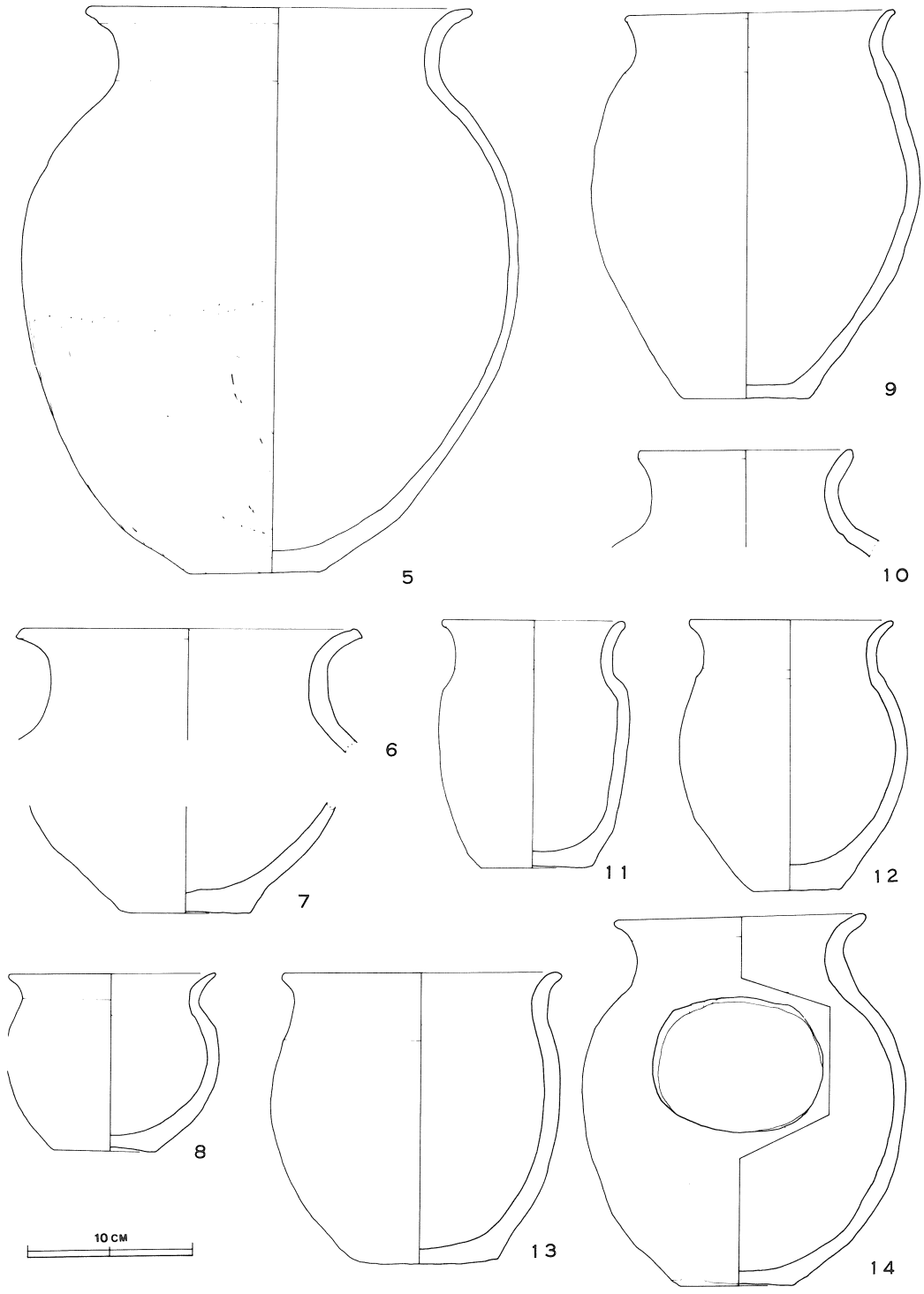
F－F 土層解説

1. a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(中) ロームブロック(極少)
b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少) 焼土粒子(少) ローム小ブロック(少)
c	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック(中) ローム粒子(中)
d	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	木炭片(少) 焼土(少) ローム粒・ロームブロック(少量)
e	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少) ロームブロック(少)

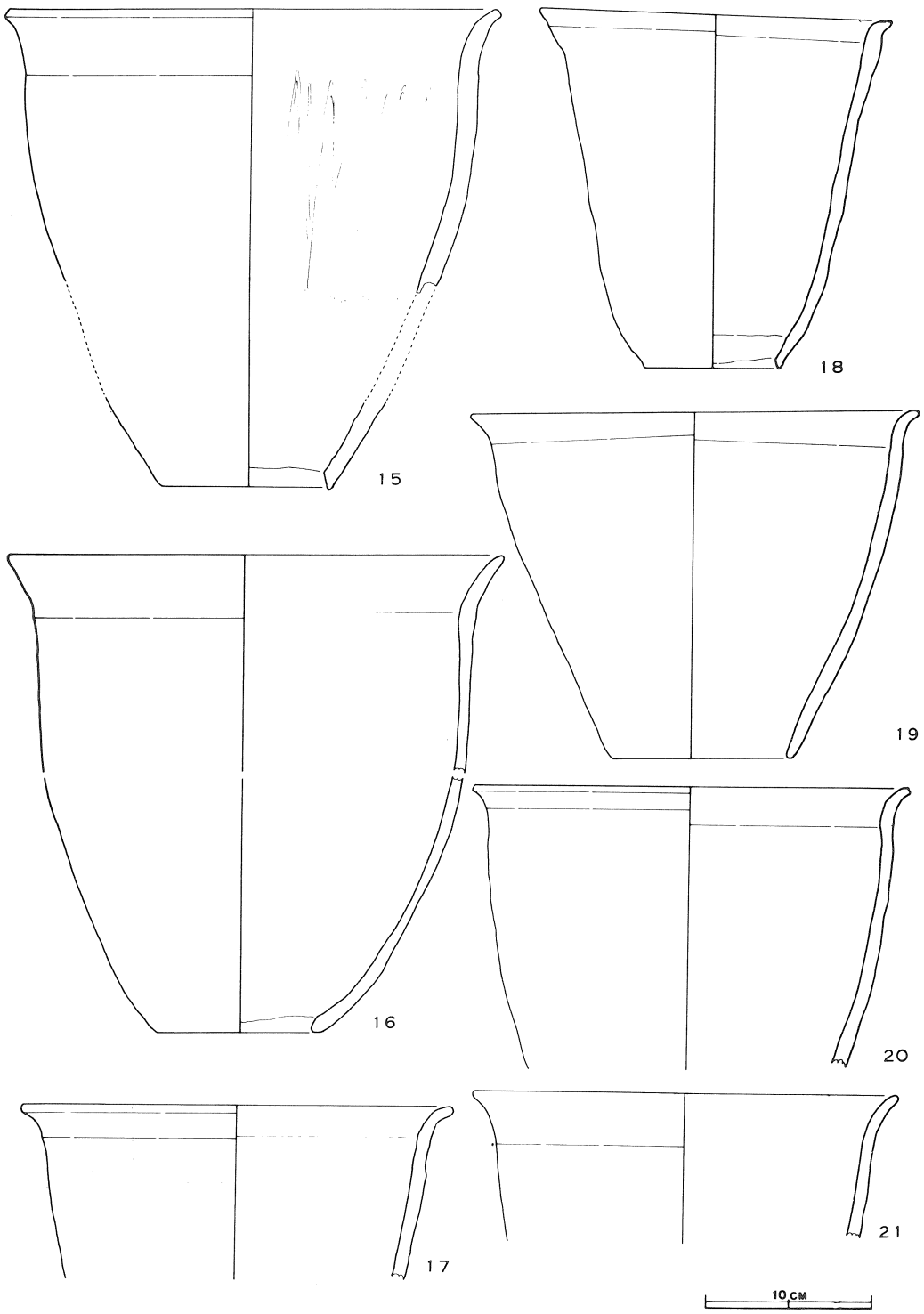
第139図　S I 067　実測図



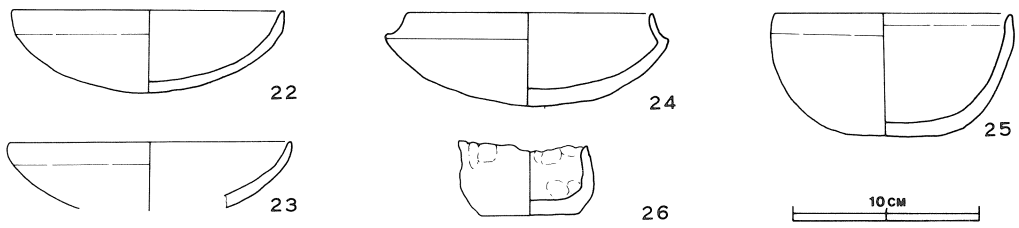
第140図　ＳＩ067　出土遺物



第141図　ＳＩ067　出土遺物



第142図　ＳＩ067　出土遺物



第143図　ＳＩ067　出土遺物

が５個体出土しており，住居址のほぼ中央部に置かれていた（1～5）。これらは，口縁部から頸部にかけてゆるやかに屈曲すること，胴部のほぼ中位で最大径を測り，そこから底部にかけてあらいヘラミガキを有するという共通点がある。この種のヘラミガキは他の時期(国分期）の甕にもみられるが，他と接触し易い胴部から底部にかけての表面を緻密にする効果をもつと考えられる。６の甕は，頸部が垂直に立ちあがり，端部は平らで内側に沈線が入る。７から11は，中型の甕である。器形はさまざまであるが，概して胴部外面をタテにヘラケズリ調整を行うという共通点がある。８の胴部外面にはていねいな調整痕はみられず，10の胴部外面や口縁部内面はヘラミガキを行っている。14は甕形の円窓がつく土器である。頸部は厚く，内傾して立ちあがり，口縁部はつよく外反する。胴部中位よりやや上部に，ヨコ10.4cm・タテ8.4 cmの孔を穿っている。本遺跡において円窓土器はこの１点のみであった。

15から17は甑で，大型と小型に分けられる。15は最も大きく，口縁端部は平らで，胴部内面にはヘラミガキを行っている。16は口縁部がまるく，さほどつよくは外反しない。17・21はほぼ同じ大きさで，17の胴部内面にはヘラミガキがみられる。18は口径に比べて器高が高く，口縁部がいびつで，胴部内面にはヘラミガキがみられる。19は口径に比べて器高が底く全体にかなりゆがんで，口縁部を上からみると楕円形を呈している。20は15を小型にした形で，胴部内面にヘラ調整の痕が伺える。

杯は素縁外傾の口縁をもつ形（22・23）と，外稜内傾立ちあがり口縁（24）があり，25はやや深めで，底部をヘラケズリのあと器面を調整している。

26は手捏ね土器で，内面と口縁部はユビでおさえているが，体部と底部の外面は未調整のままである。

１から５は，前に述べたように住居址中央部にまとめて置かれていたほか，11・19・21・24は住居址の東北部，14・20・22・25は東南部，８は西北部，18は西南部からそれぞれ出土している。完形に近い土器は，住居址の中央からと東北部から多く出土した。

その他の遺物では，土製支脚が東部で，土玉が西北部で出土した。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_5	46	41	74	主柱穴	P_8	37	36	95	主柱穴
P_6	49	35	90	主柱穴	P_9	96	53	55	貯蔵穴
P_7	47	51	49	主柱穴					

SI 068（第145図）　本住居址はE8f5・f6・g4・g5・g6・h5に確認され，SI078の東南側を切り，西南壁はSD001に接して位置している。

カマドは西北壁にあり，住居の主軸方向はN－45°－Wで長径5.3m・短径5.2m・面積27.5m^2ほどの方形状の平面形を呈している。

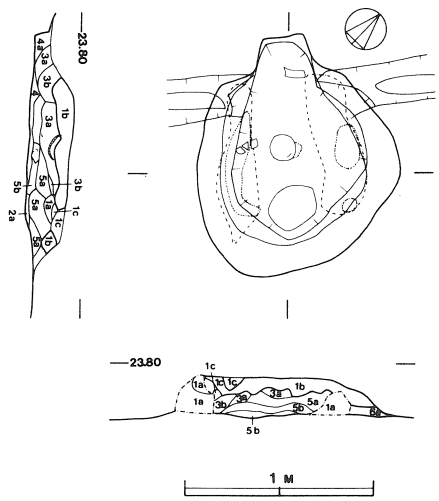
壁高は40cmほどで，ほぼ垂直ぎみに立ちあがり，カマドを除き壁側溝が全周し，西南より南コーナーにかけて多数の壁側穴を有している。

床はほぼ平坦をなす堅いロームでやや西南にゆるい傾斜を示している。床の中央やや西南には炭火物・焼土を多量に含む，長径150cm・短径94cm・高さ34cmほどの楕円形状の層位を検出した。

覆土は，第1層が焼土粒子を多量に含む赤褐色土で，第2層も焼土粒子を含む暗褐色土でありほぼ全域に焼土が検出され，大火にあったと考えられる。

遺物は，西北壁のカマド西側に壺・小型甕・甑・東側に杯が多数集中して検出されている。

カマド（第144図）は西北壁の中央に位置し，主軸方向はN－45°－Wで，長径125cm・短径

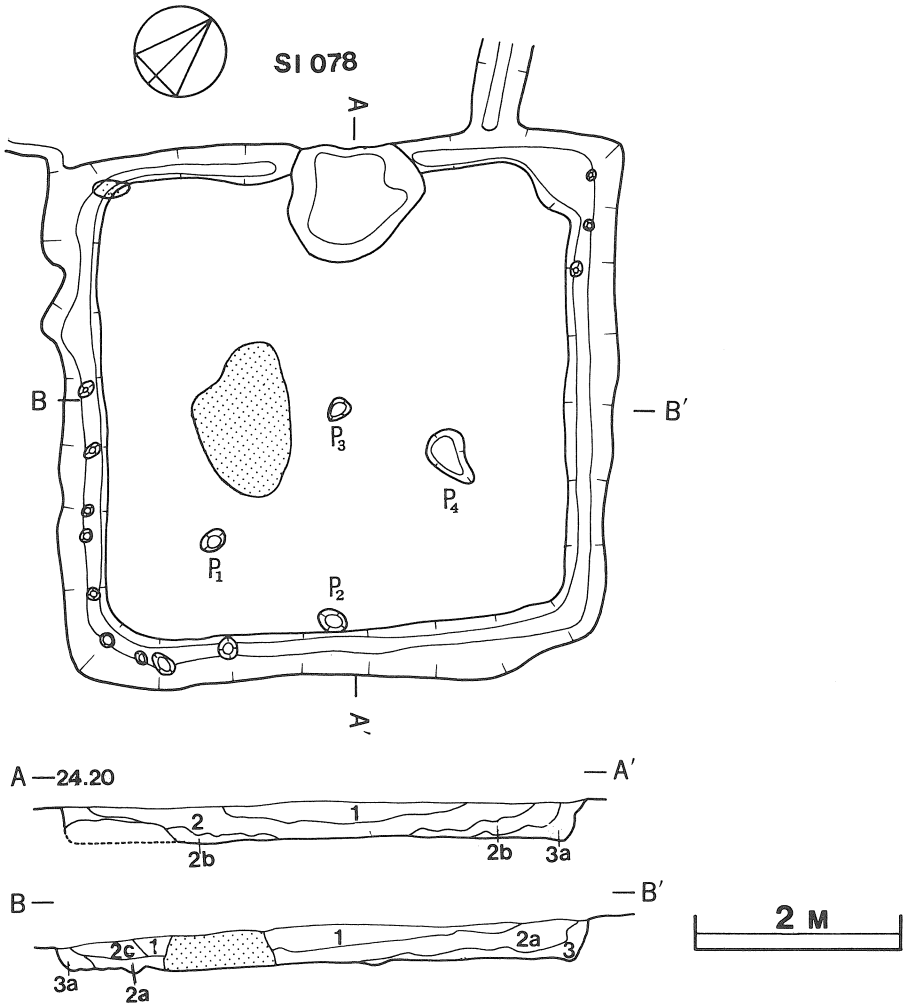


SI 068　カマド土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 5/4	にぶい褐色	砂質粘土層 きわめてかたい
	b	Hue 7.5YR 5/4	にぶい褐色	ローム粒子(少) 砂質粘土層
	c	Hue 7.5YR 5/4	にぶい褐色	ローム粒子(少) 焼土小ブロック(少)
2.	a	Hue 2.5YR 4/8	赤　褐　色	焼土層
3.	a	Hue 5YR 3/6	暗赤褐色	焼土ブロック(中) 木炭粒(少)
	b	Hue 5YR 3/6	暗赤褐色	焼土ブロック(少) 木炭粒(少)
4.	a	Hue 5YR 4/4	にぶい赤褐色	焼土粒子(少) 灰(少) 骨片(粉) 少
	b	Hue 5YR 4/4	にぶい赤褐色	焼土粒子(少) 焼土小ブロック(少)
5.	a	Hue 7.5YR 3/4	褐　色	ロームブロック(少) ローム粒子(少)
6.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	木炭粒(少) 砂質粘土(少)
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(少) 焼土粒子(少)

第144図　SI068　カマド実測図

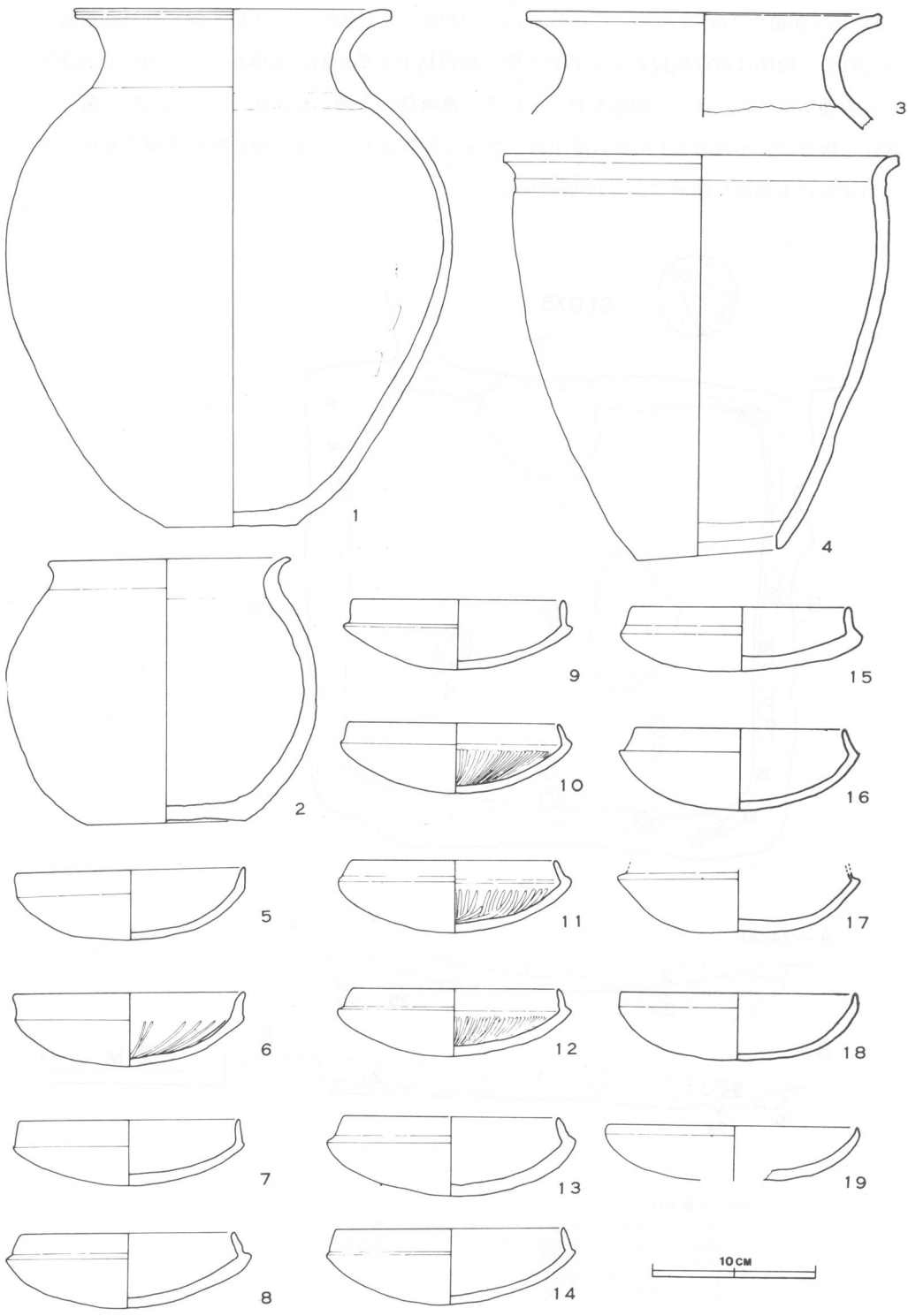
104cm・面積1.3m²ほどで，天井部は潰れた状態で第1b層にローム粒子混じりの砂質粘土がみられる。袖部は遺存が良好できわめて堅い砂質粘土で築かれ，北壁から70～84cmほど突出し，両袖部は34cmほどの間隔を有している。燃焼部の上面に杯が出土している。掘り方は33cm幅で22cmほどSI078の覆土および床を掘り込んでいる。煙道部は不明であり，火床はわずかに床を掘り窪めている程度である。



SI 068　土層解説

1.		Hue 7.5YR 4/8	赤褐色	焼土粒子(多)・焼土層
2.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	焼土ブロック(少)・焼土粒子(多)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(少)・焼土粒子(少)
	c	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(中)
3.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	

第145図　SI 068　実測図



第146図　ＳＩ068　出土遺物

出土遺物（第146図） 土師器の甕・甑・杯が出土した。

1は大型の甕で，口縁部はつよく外反し，端部には沈線がめぐる。頸部は接合のためにかなり器壁が厚くなっており，胴部外面は，肩部・胴中央部・下部にわけてヘラケズリ調整を行なっている。3の口縁部も同類である。

2は小型の甕としたが，鉢に近い器形を呈する。口縁部は短く，底部が口径に比べて広いため安定した印象をうける。

4の甑は，口縁部が短く端部が平坦で，頸部外面に2段の稜をつくる。胴部外面はタテにヘラケズリ，内面はヘラナデを行なっている。

杯は多量出土しており，大きくわけて外稜のある形（6～17）と，素縁の形（17・18）に分けられるが，前者が圧倒的に多い。外稜のある杯は，さらに外傾する口縁（6），垂直に立ちあがる口縁（7・9）と，内傾する口縁（8・10～12）とに分けられる。その中には，底部内面を放射状にヘラミガキ(暗文)を施すもの（6・10～12）も見られ，とくに10から12は，口縁部の内側もていねいにみがいている。素縁の杯は，5は外稜のある杯との中間形を呈する。18は口縁部がほぼ垂直に立ちあがり，19はやや内傾している。

1・2は，カマドの西側に接して，3は，住居址の中央東，4はカマドの南，5・7・8・10・11・16・17はカマドの東脇，9はP_4付近，12は西壁中央，13は南壁中央・14・15・18はカマドから出土している。とくに，8・11・16は3個が重ねられていた。

その他の遺物では，土玉と管状土錘があり，管状土錘は，住居址の東南部から出土した。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	23	16	25	主柱穴	P_3	24	15	34	
P_2	22	18	23		P_4	46	27	9.6	

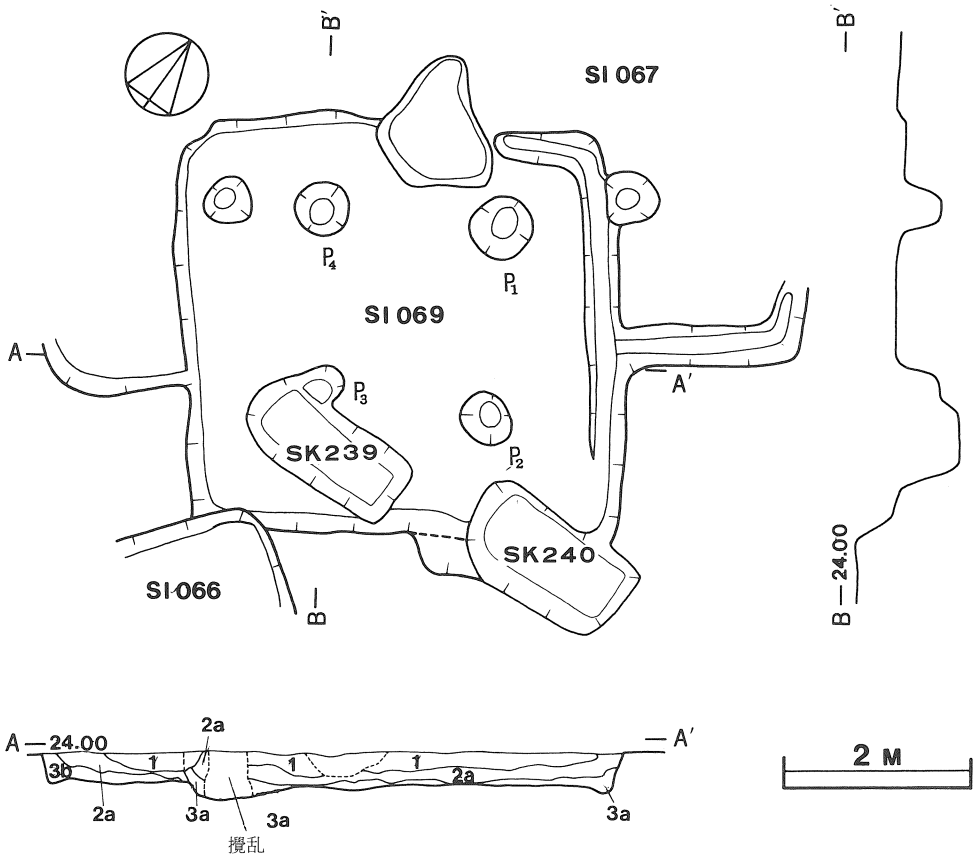
SI 069（第147図） 本住居址はE8g9・g0・f9・f0・h9・h0に確認され，SI067の南側を切り込み，SI066が南コーナーに重複して位置している。

カマドは西北壁にあり，住居の主軸方向はN－37°－Wで，長径4.68m・短径4.4m・面積20.6m^2ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は38～42cmほどでほぼ垂直に立ちあがる。壁側溝は東北壁・西南壁は明瞭であるが，西南壁ぎわはさほど深いものではない。

床はほぼ平坦をなす堅いロームであるが，南側に方形状の新しい土壙SK239，SK240が切り込んでいる。

覆土はローム粒子を含む暗褐色土であるが部分的に撹乱が入る。



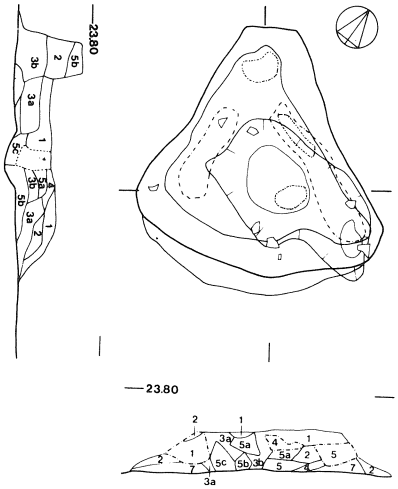
SI 070 土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 4/3	褐	色	焼土粒子(微) ローム粒子(微)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗 褐	色	ロームブロック(少) ローム粒子・カーボン・焼土粒子
2.	a	Hue 7.5YR 3/3	暗 褐	色	ローム粒子・ロームブロック(少)
	b	Hue 7.5YR 3/3	暗 褐	色	焼土粒子(多) カーボン・ロームブロック(少) 粒子含む
3.		Hue 7.5YR 4/4	褐	色	ロームブロック・粒子含む
4.		Hue 7.5YR 4/6	褐	色	ロームブロック・粒子含む

第147図 ＳＩ069 実測図

ＳＩ 69　土層解説

1.		Hue 7.5YR 3/3	暗　褐　色	ローム粒子(少) 焼土粒子(少)
2.		Hue 7.5YR 3/4	暗　褐　色	ロームブロック・砂質粘土
3.	a	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	焼土粒土・砂質粘土粒子
	b	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	焼土粒土・砂質粘土粒子 ロームブロック
4.		Hue 10YR 5/6	黄　褐　色	砂質(多)・焼土粘土・こまかい
5.	a	Hue 2.5YR 3/6		焼土ブロック(純)
	b	Hue 2.5YR 3/4		焼土ブロック(中)・ローム粒子
	c	Hue 2.5YR 3/3		焼土ブロック(少)
6.		Hue 10YR 5/4	にぶい黄褐色	砂質粘土・白色粘土(少) カーボン(少) 袖部
7.		Hue 10YR 3/4	暗　褐　色	ローム中ブロック・荒い



第148図　ＳＩ069　カマド実測図

遺物は少量である。

カマド(第148図)は西北壁の中央にあり，ＳＩ067の覆土を切り込んで築かれている。主軸方向はＮ－38°－Ｗ，長径130ｃｍ・短径90ｃｍ　北側に煙突状に焼化された部分が残存し，天井部は潰れて第３ａ層にその残存を看取できる。両袖部は50～80ｃｍほどで外側に「ハ」の字に開いている。燃焼部・焚口部は現状では明瞭ではない。

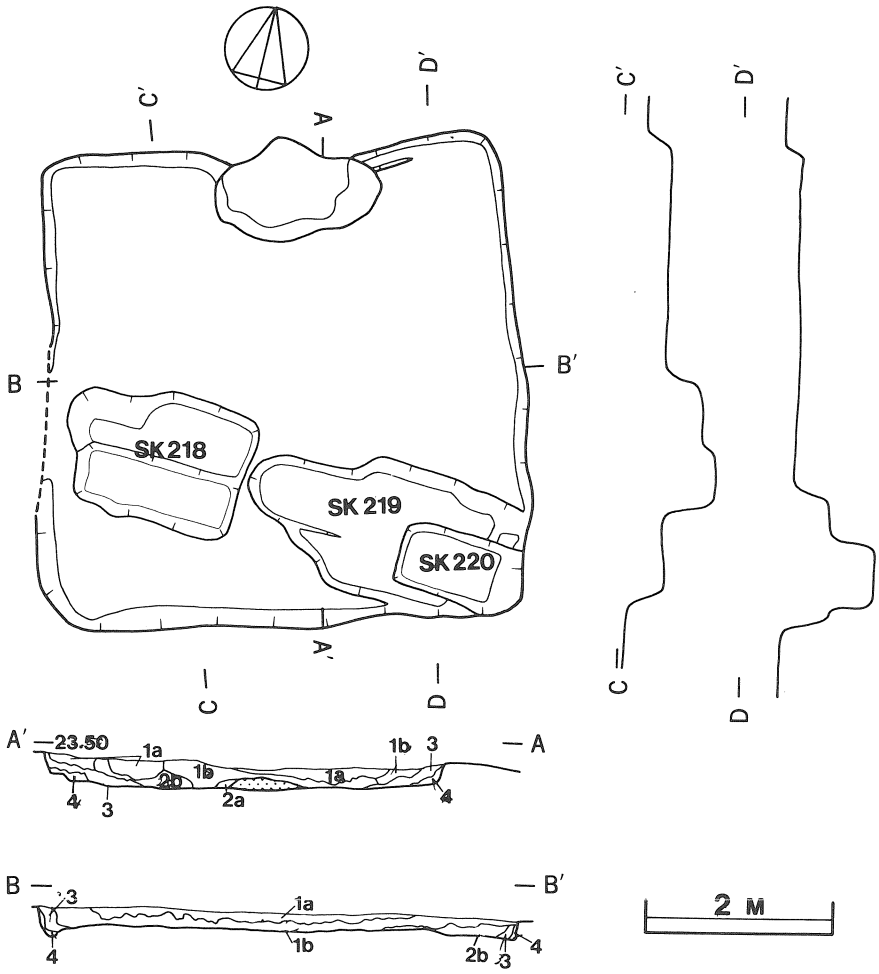
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	60	56	56	主柱穴	P_3	37	34	43	主柱穴
P_2	53	41	52	主柱穴	P_4	51	47	43	主柱穴

ＳＩ070(第149図)　本住居址はＥ９ｉ４・ｉ５・ｊ４・ｊ５・Ｆ９ａ４・ａ５に確認され，西壁がＳＩ038の東南コーナーと重複し，ほぼ直線上に並ぶ長方形状の土壙(ＳＫ216～220)が南側の床を切り込んで位置している。

カマドは北壁にあり，住居の主軸方向はＮ－14°－Ｗで，長径5.07ｍ・短径5.04ｍ・面積25.55ｍ^2 ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は20～32ｃｍほどを測り，ほぼ垂直に立ちあがり，明瞭ではないが西北壁にわずかの壁側溝を有している。

床はほぼ平坦なロームで，西側より東南コーナーにかけて長方形状のＳＫ218・ＳＫ219・ＳＫ220が床面を50～100ｃｍほど掘り込んでいる。ピットは検出されていない。



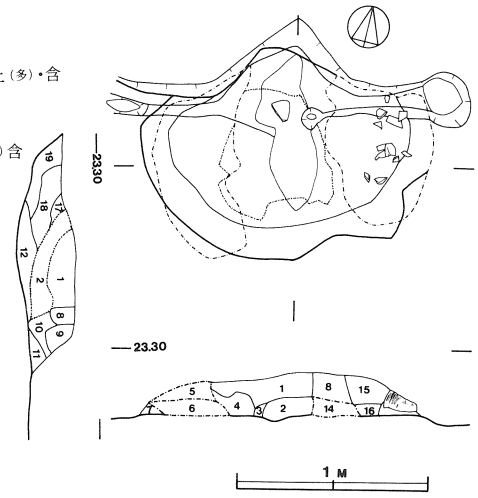
SＩ 070　土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 4/3	暗褐色	焼土粒子(微)・ローム粒子(微)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(少)・ローム粒子・カーボン・焼土粒子
2.	a	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローユ粒子・ロームヅロック(少)
	b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	焼土粒子(多)・カーボン・ロームブロック(少)・粒子含む
3.		Hue 7.5YR 4/4	褐色土	ロームブロック・粒子含む
4.		Hue 7.5YR 4/6	褐色土	ロームブロック・粒子含む

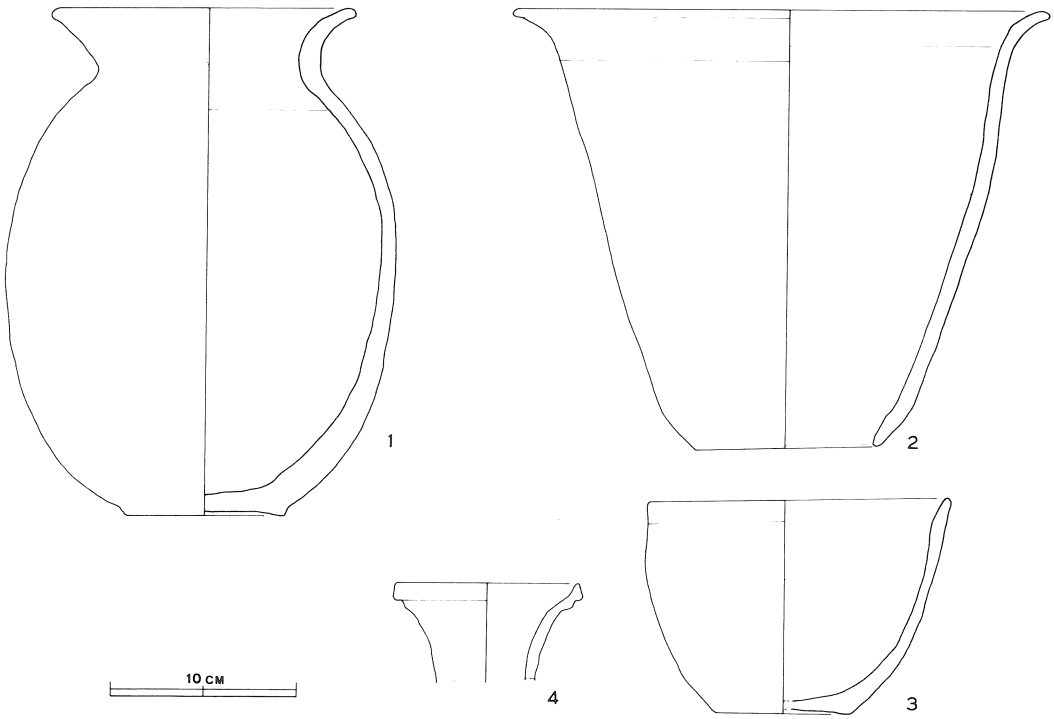
第149図　ＳＩ070　実測図

ＳＩ 070　カマド 土層解説

1. Hue　5ＹＲ 4／8　赤 褐 色　焼土粒子(多) 含
2. Hue　5ＹＲ 4／6　赤 褐 色　砂質粘土が焼土化したもの・焼土 (多)・含
3. Hue 7.5ＹＲ 4／4　褐　　色　焼土粒子少含
4. Hue　5ＹＲ 3／6　暗赤褐色　焼土・砂質粘土含
5. Hue 7.5ＹＲ 4／4　褐　　色　砂質粘土・焼土粒子 (少) 含
6. Hue 7.5ＹＲ 4／4　褐　　色　ロームブロック(多)・焼土粒子 (少) 含
7. Hue 7.5ＹＲ 4／4　　焼土粒子含
8. Hue　10ＹＲ 3／4　暗 褐 色　焼土粒子(少) 含
9. Hue 7.5ＹＲ 4／6　褐　　色　焼土粒子(少) 含
10. Hue 7.5ＹＲ 4／4　褐　　色　砂質粘土・焼土粒子含
11. Hue　5ＹＲ 4／6　赤 褐 色　砂質粘土・焼土粒子含
12. Hue 7.5ＹＲ 4／4　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子含
13. Hue 7.5ＹＲ 4／4　褐　　色　焼土粒子含
14. Hue 7.5ＹＲ 4／4　褐　　色　砂質粘土・焼土粒子含
15. Hue 7.5ＹＲ 4／4　褐　　色　焼土粒子含
16. Hue 7.5ＹＲ 3／4　暗 褐 色
17. Hue 7.5ＹＲ 3／6　暗 褐 色　焼土粒子含
18. Hue 7.5ＹＲ 4／6　褐　　色　焼土粒子(少) 含ザラザラ
19. Hue 7.5ＹＲ 4／6　褐　　色　焼土粒子(少) 含キメ細い



第 150 図　ＳＩ070　カマド実測図



第 151 図　ＳＩ 070　出土遺物

覆土は第１・２層がローム粒子・焼土粒子を含む暗褐色土で，壁ぎわは褐色土が流入している状態で，火災にあったと考えられる。

遺物はカマドの西側に甑が，東側に甕が出土し，床面やや浮いた状態で須恵器が出土している。

カマド（第150図）は北壁の中央に位置し，主軸方向Ｎ－13°－Ｗで，長径150ｃｍ・短径111ｃｍほどで，天井部は遺存が悪く，砂質粘土が焼土化して潰れた状態である。袖部もあまり遺存が良くなく，東袖部はかなり東に流出している。燃焼部にも砂質粘土が焼土化したものが検出されている。遺物は東側袖に多数出土している。

出土遺物（第151図）　土師器の甕・甑・鉢・須恵器の提瓶がある。

１の甕は，頸部が垂直に立ちあがり，口縁部はつよく外反する。底部はひろく，胴部が下ぶくれで安定した印象をうける。

２の甑は，口径が広く，口縁部がつよく外反し，Ｖ字状に底部へかけてすぼまる形を呈する。

３の鉢は，体部から口縁部へかけて屈曲がほとんどない。

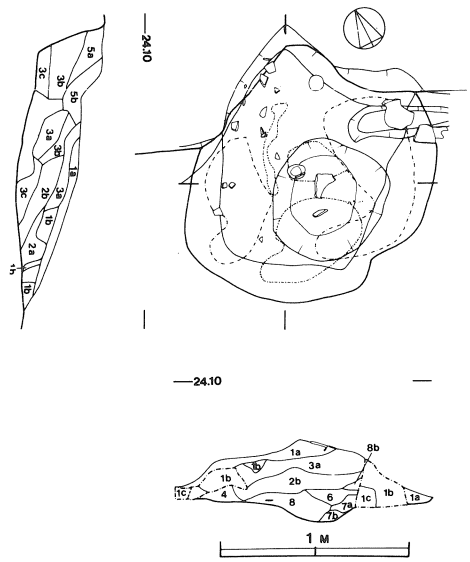
４は須恵器の提瓶の口縁部と思われる。ミズビキ成形によっており，口縁端部の断面が三角形を呈する。口縁内部に自然釉がみられる。

１はカマドの東，２はカマドの西南，３はカマドの西，４は住居址の東北壁寄りからそれぞれ出土した。

ＳＩ071（第153図）　本住居址はＦ８ｂ９・ｂ０・ｃ９・ｃ０に確認され，同規模の小型の住居ＳＩ085が北側3.5ｍに位置している。

カマドは北壁にあり，住居の主軸はＮ－26°－Ｅで，長径3.97ｍ・短径3.91ｍ・面積15.5㎡ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は39～47ｃｍほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがり，壁側溝は幅26ｃｍ・深さ12ｃｍでカマドおよび西北コーナー部を除き一周している。



ＳＩ071　カマド土層解説

1.	a	Hue 2.5YR 5/2	暗	灰	色	ハード砂質粘土ロームブロック
	b	Hue 2.5YR 5/2	暗	灰	色	ハード砂質粘土ロームブロック焼土粒子
	c	Hue 2.5YR 4/2	暗	灰	色	ハード砂質粘土ローム(少)焼土粒子・カーボン
2.	a	Hue 7.5YR 4/6	褐		色	砂質(少)・焼土小ブロック(多)
	b	Hue 7.5YR 4/6	褐		色	砂質(中)・焼土粒子(多)
3.	a	Hue 7.5YR 4/2	灰	褐	色	ローム焼土粒子・砂質カーボン・焼土ブロック
	b	Hue 7.5YR 4/2	灰	褐	色	ローム焼土粒子・砂質カーボン(多)・焼土ブロック
	c	Hue 7.5YR 4/2	灰	褐	色	カーボン・灰・焼土粒子(少)
4.		Hue 10YR 5/8	黄	褐	色	ロームブロック
5.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗	褐	色	焼土(少)・粘土粒子少
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗	褐	色	焼土(少)・ローム粒子
6.		Hue 2.5YR 2/4	極暗赤褐		色	焼土ブロック・カーボン(多)
7.	a	Hue 2.5YR 3/4	暗赤褐		色	焼土粒子・ローム粒子(多)
	b	Hue 2.5YR 3/4	暗赤褐		色	焼土粒子・ロームブロック(中)
8.	a	Hue 2.5YR 4/8	赤	褐	色	純焼土ブロック・カーボン
	b	Hue 2.5YR 4/6	赤	褐	色	焼土粒子・カーボン

第152図　ＳＩ071　カマド実測図

床はほぼ平坦をなす堅いロームで，ピットは５個確認される。P_1～P_4は主柱穴と考えられ，P_5はP_2とP_3の中間やや南側溝よりに位置している。

覆土はローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土が自然堆積を示している。

遺物はやや少量で，カマド付近に須恵器の杯・土師器の甕等が出土している。

カマド（第152図）は北壁の中央に位置し，主軸方向はＮ－26°－Ｅで長径 130ｃｍ・短径120ｃｍほどで，天井部は西南の焚口部にかけて流出し，ロームブロック混じりのハードな砂質粘土よりなり袖部もやや潰れたような状態で，東袖部は焚口で内側に彎曲し，西袖部はやや外側に曲がる。燃焼部焚口に多量の焼土・カーボン等を検出し，ほぼ中央部に支脚が接置されている。

煙道部は北壁をやや斜めに幅70ｃｍ・奥行40ｃｍほどの三角形状に掘り込んでいる。火床は東袖付近に長径64ｃｍ・短径57ｃｍの楕円形状に９ｃｍほど皿状に掘り窪めている。

カマドからの遺物は東袖付近に甕等が出土し，西側に少数の土器片を出土している。天井部の補強に使用されていたと考えられる。

出土遺物（第154図） 土師器の甕・杯・須恵器の杯がある。

１は，土師器の大型甕で，頸部が垂直に立ちあがり，口縁部内側が凹面をなし，端部には沈線がめぐる。頸部の内面はヘラケズリを行なっている。２は小型の甕で，口縁部が短くつよく外反する。３は２よりやや大きく，頸部から垂直に立ちあがり，外反する。

４の杯は底部が不安定で，外へひらく口縁部の内側に沈線がめぐる。口縁部の所々にススの付着がみられ，灯明皿に使われたのであろうか。

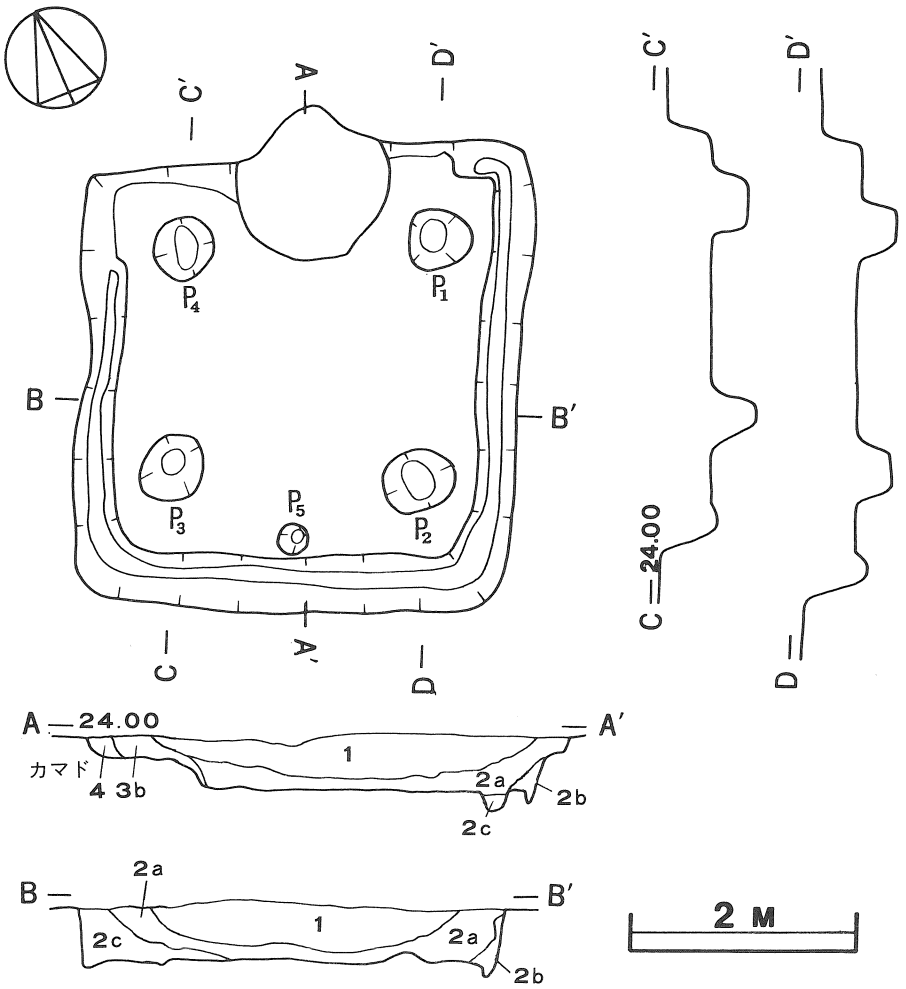
５・６は須恵器の杯で，ミズビキ成形のあと，５は底部外面を回転ヘラケズリ，６はヘラケズリを行なっている。

１はカマドから，２はカマドの支脚（７）の東側，３はカマドの東南部，４はカマドの西側，５はカマドの東脇，６は住居址の中央南寄りからそれぞれ出土した。

その他の遺物としては，土製支脚（７）がカマドの中央に据えられていたほか，土玉が住居址の西南壁寄りでみつかっている。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備考
P_1	45	45	32	主柱穴	P_4	47	43	30	主柱穴
P_2	54	50	30	主柱穴	P_5	26	21	18	
P_3	53	45	40	主柱穴					

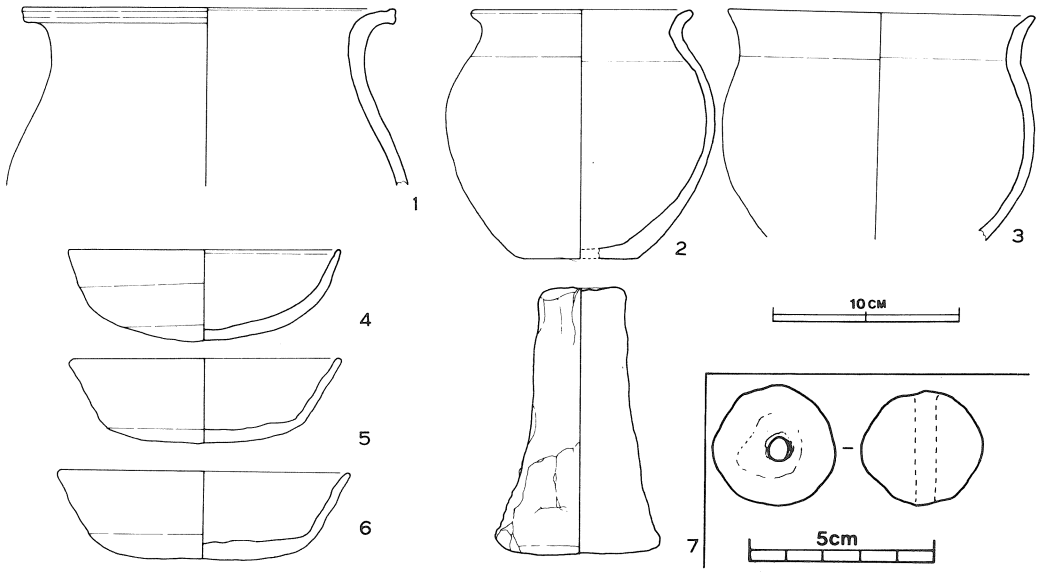
ＳＩ 072（第155図） 本住居址はＥ８ｄ２・ｄ３・ｅ２・ｅ３に確認され，ＳＩ083・ＳＩ 073と重複し，ＳＩ073の東側を切り，ＳＩ083の北コーナーを切って位置している。



S I 071 カマド土層解説

1.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(多)
2.	a	Hue 7.5YR 4/3	暗褐色	ローム粒子(多)
	b	Hue 7.5YR 4/3	暗褐色	ローム粒子(多) ロームブロック(少)
	c	Hue 7.5YR 4/3	暗褐色	ロームブロック(中) ローム粒子(多)
3.	a	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(多) 焼土粒子(少) 粘土粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(多) 焼土ブロック(小) 粘土ブロック(少)
4.		Hue 5YR 3/3	暗赤褐色	焼土ブロック(少) 木炭粒子(少)

第153図 S I 071 実測図



第154図　ＳＩ071　出土遺物

カマドは北壁にあり，住居の主軸方向はＮ－12°－Ｅで，長径4.5ｍ・短径3.82ｍ・面積17.2ｍ^{2}ほどの東西にやや長い長方形状の平面形を呈している。

壁高は10～20cmで，壁側溝は西壁では明瞭に確認できないが，他壁には幅20cm・深さ10ｃｍほどの側溝を確認することができる。

床はほぼ平坦をなすロームで，ピットが４個確認できる。P_1は主柱穴と考えられる。P_2・P_3な小規模であるが，24～27ｃｍの深さを有している。P_4は不明である。カマド西側に位置し，Ｐ番号のついていないピットおよび西壁に位置するピットは，ＳＩ073の主柱穴と考えられるものである。

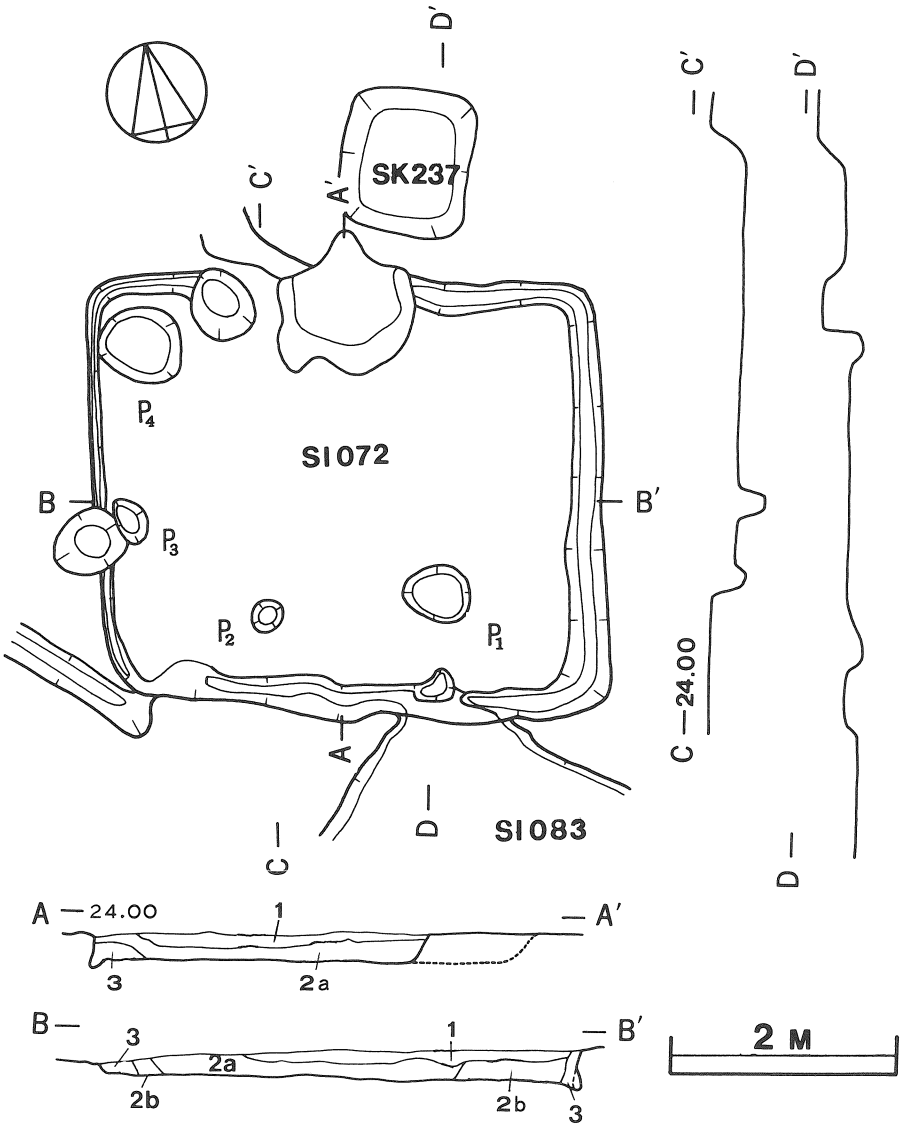
覆土はロームブロックを少量含む暗褐色土が堆積し，第２ａ層に微量の焼土粒子を検出する。

カマド（第156図）は北壁の中央に位置し，主軸方向Ｎ－14°－Ｅで，長径120ｃｍ，短径116ほどで，天井部は遺存せず，袖部は北壁より56～70ｃｍほど突出し，両袖間隔は66ｃｍほどを測る。焚口より煙道部付近まで焼土が充満し，土器片が多数検出されている。第２ｂ層に検出された焼土ブロックは支脚の崩壊したものと考えられる。

出土遺物（第157図）　土師器の甕・須恵器の甕・杯がある。

甕は大型（１）と小型（２）とがある。大型の甕は，口縁部の屈曲や胴部のヘラミガキなど，他の同時期の住居址から出土する甕と同類であるが，この甕の底部には，木の葉の圧痕が残っている。その点では２も同様であるが，この甕はやや小型である上に，胴部にあらいヘラケズリを行なっている。

３は小型の杯で，ミズビキ成形のあと底部外面をヘラケズリ調整している。４は高台をつけ



S I 072　土層解説

1.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)
2.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中)・焼土粒子(極少)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(少)・ローム粒子(少)
3.		Hue 10YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少)

第155図　S I 072　実測図

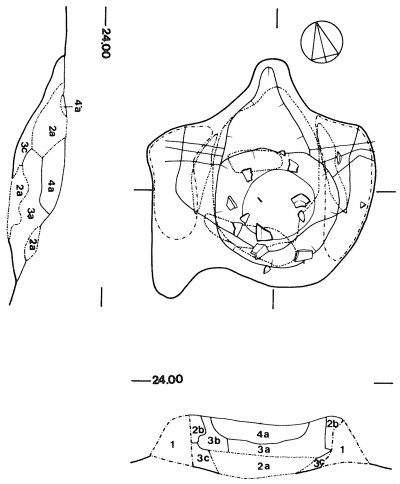
ており，ミズビキ成形のあと，底部外面を回転ヘラケズリし，高台をつけて回転ナデ調整している。

5の甕は，ＳＩ063から出土している甕と器形が似ているが，この甕の胴部内面は，同心円のあて板の輪郭が残っている。

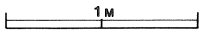
1は住居址の西側中央壁より，2は南部で，3は東北壁寄り，5はカマドの焚き口付近から出土した。

ＳＩ 072　カマド土層解説

1.		Hue 7.5YR　褐　色	砂質粘土層
2.	a	Hue 2.5YR　赤褐色	焼土層
	b	Hue 2.5YR　赤褐色	焼土層
3.	a	Hue 7.5YR　褐　色	焼土小ブロック(少) 焼土粒子(中) 木炭粒子(少)
	b	Hue 7.5YR　褐　色	焼土小ブロック(少) 焼土粒子(中) 木炭粒子(多)
	c	Hue 7.5YR　褐　色	焼土粒子(少)
4.	a	Hue 7.5YR　褐　色	ローム粒子(少) ローム小ブロック(少)



第156図　ＳＩ072　カマド実測図

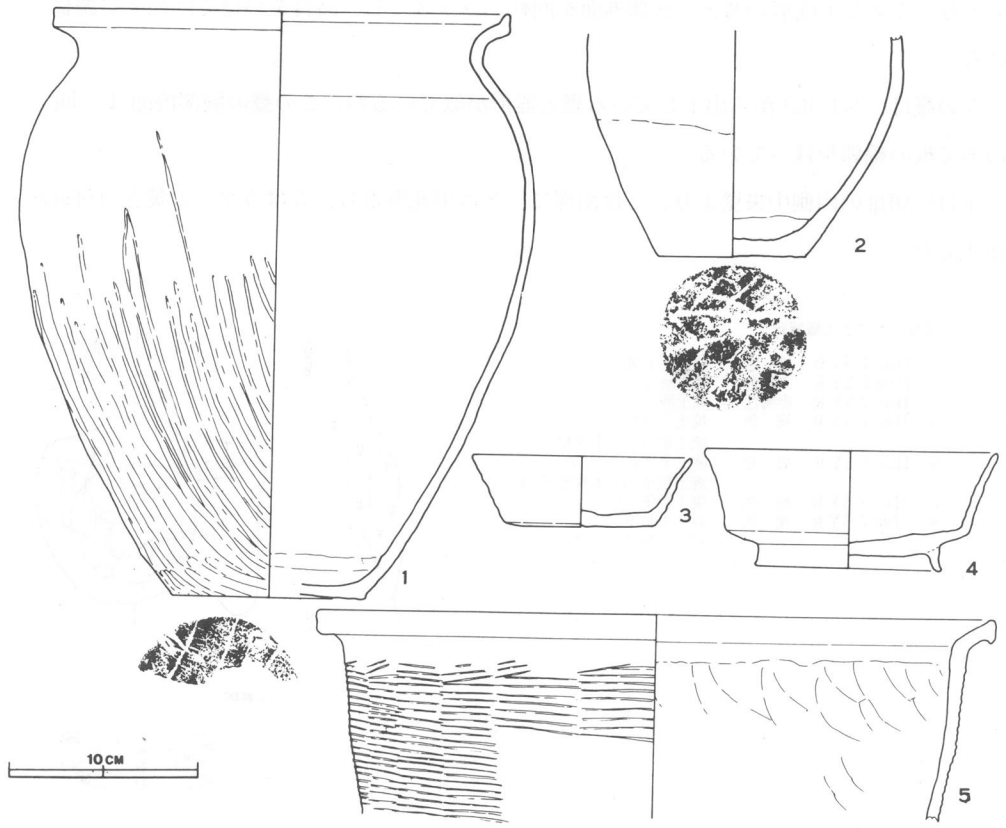


ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	48	46	14	主柱穴	P_3	31	20	27	
P_2	24	23	24		P_4	67	64	21	

ＳＩ 073（第158図）　本住居址はＥ８ｃ１・ｃ２・ｄ１・ｄ２・ｅ１に確認され，ＳＤ001の北側に位置し，ＳＩ072に東南部を切られている。

カマドは東北壁にあり，住居址の主軸方向はＮ－49°－Ｅで，長径4.91ｍ・短径4.72ｍ・面積23m^2ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は24～38ｃｍほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。壁側溝はカマドを除きほぼ全周しているが東南側をＳＩ072に切られている。



第157図　ＳＩ072　出土遺物

床はほぼ平坦な堅いロームであり，ピットは５個ほど確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられP_5は楕円形状を呈するピットであるが，性格は不明である。

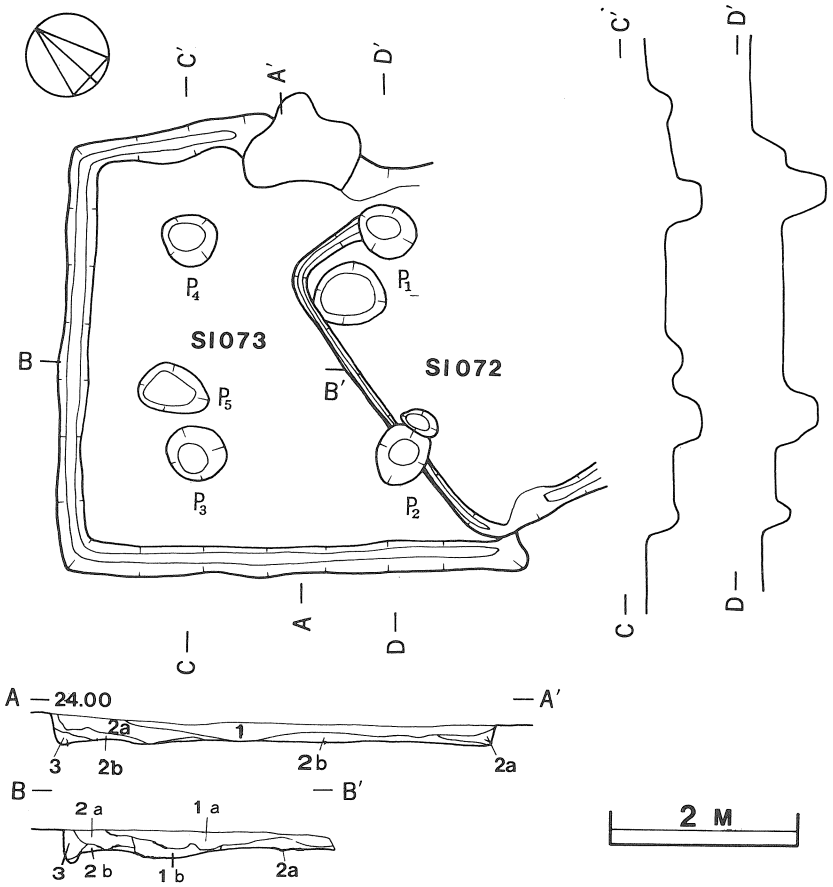
覆土はローム小ブロック・ローム粒子を含み，第１層が暗褐色土で第２層は褐色土層の堆積を呈するが，東南側はＳＩ072によって切られている。

遺物はカマド周辺に多く出土している。

カマド（第159図）は東北壁の中央に位置し，主軸方向はＮ－40°－Ｅで，長径111ｃｍ・短径102ｃｍほどで，天井部は遺存が悪く，袖部は東袖部がかなり崩壊している。壁ぎわより57～72ｃｍほど「ハ」の字形に突出している。焚口より燃焼部にかけて焼土ブロック・焼土粒子が多量に検出される。掘り方は壁を40cmの幅で30ｃｍほぼ垂直ぎみに掘り込み煙道部とし，床を45ｃｍほどの楕円形状に５ｃｍほど掘り窪めて火床としている。支脚が東袖脇より出土している。

出土遺物（第160図）　土師器の甕・甑・杯・鉢がある。

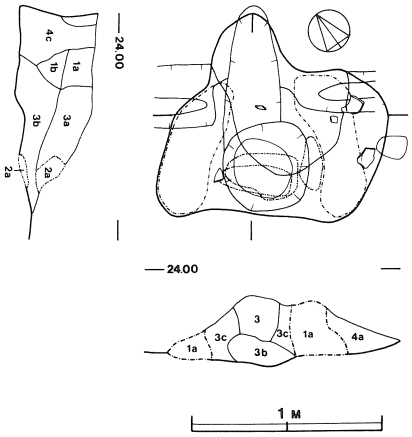
１の甕はやや長胴で頸部が垂直に立ちあがって口縁部へ至る。胴部外面には，あらいヘラミ



S I 073　土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少) やわらかい
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)
	c	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(少)・ローム粒子(中)
2.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム小ブロック(中)・ローム粒子(中)
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロック(少)・ローム粒子(少)
3.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム小ブロック(少)

第158図　S I 073　実測図



S I 073 カマド土層解説

1.		Hue 7.5YR 4/3	褐　色	砂質粘土層
2.		Hue 2.5YR 4/8	赤褐色	焼土層
3.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(少)・焼土粒子(少)
	b	Hue 5YR 3/6	暗赤褐色	軟質焼土ブロック(少) 焼土粒子(多)
	c	Hue 5YR 3/6	暗赤褐色	焼土ブロック(少) 焼土粒子(多)・砂質粘土(少)
4.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(少) 焼土粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック(中)
	c	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(少) ローム粒子(少) 砂質粘土ブロック(少) 焼土粒子(少)

第159図　S I 073　カマド実測図

ガキがみられる。2は小型の甕で，底部は安定し口縁部は短く外反する。

3の鉢は最大径が口径にあり，底部はひろく安定している。頸部が短く屈曲して外稜をつくり口縁部はつよく外へひらく。

4の甑も，頸部・口縁部の形が3の鉢に類似している。5は4に比べて器高が低く，胴部内側に接合の痕が伺える。

6は素縁でやや内傾する口縁の杯である。

1はカマドの煙道部をふさいだ状態で，2から4はカマドに接して西側，6はその西側から出土した。

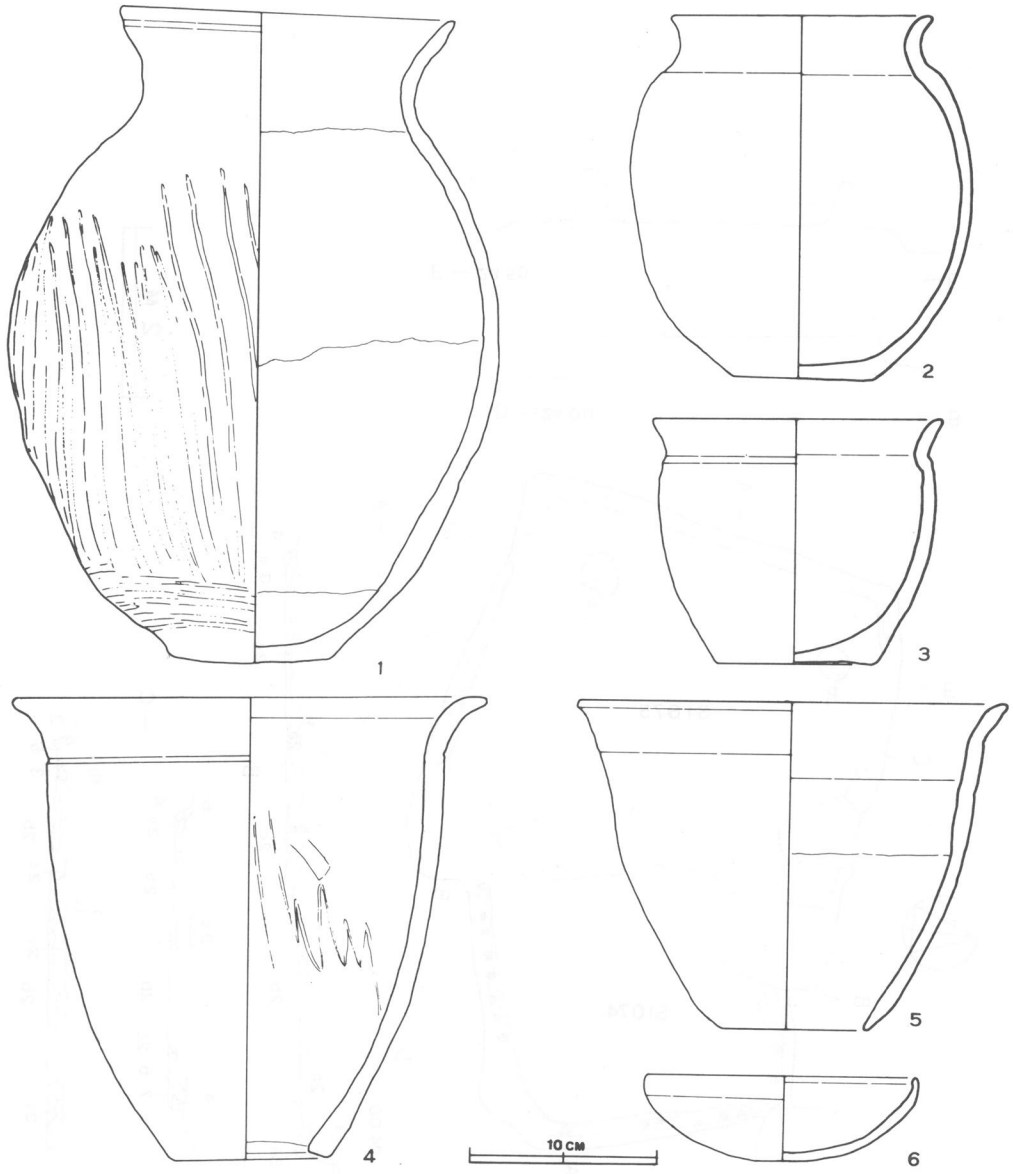
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	56	48	44	主柱穴	P_4	54	44	38	主柱穴
P_2	53	47	45	主柱穴	P_5	68	42	15	
P_3	56	48	30	主柱穴					

S I 074（第161図）　本住居址はE9h3に確認され，東方のS I 062の西コーナー部に接し，東方の重複するS I 075を切り込んで位置している。

カマドは北壁にあり，住居の主軸方向はN－14.5°－Eで，長径3.68m・短径3.10m・面積11.40m^{2}ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は20～44cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがり，東壁はS I 075に接している。壁側溝はほぼ全周しており，南壁東よりの壁側穴はほぼ等間隔で位置している。

床はほぼ平坦な堅い貼床のロームで，やや東側にゆるい傾斜を示している。ピットはみられ

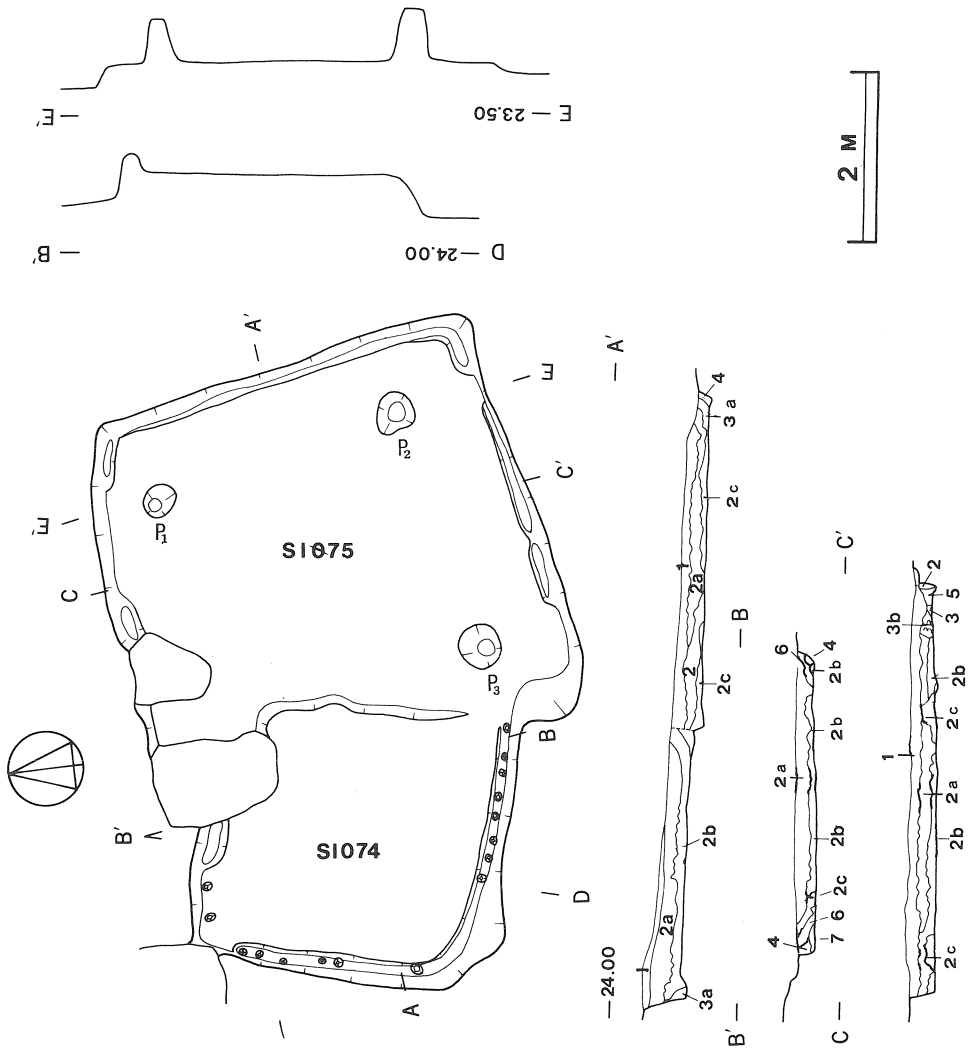


第160図　ＳＩ 073　出土遺物

ない。

覆土は上層が極暗褐色土層で，下層は暗褐色土層が堆積し，少量の焼土粒子が検出されている。

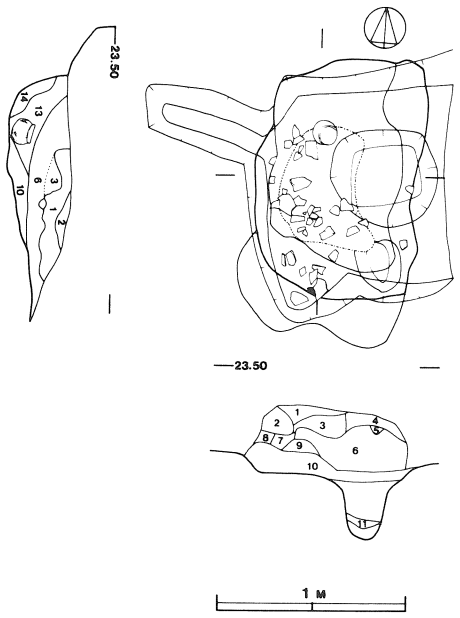
カマド（第162図）は北壁やや東のＳＩ074の西北コーナー付近に位置し，主軸方向Ｎ－4.5°－Ｗで，長径126ｃｍ・短径84ｃｍほどであるが遺存が悪く，天井部・袖部は土層断面図中にわずかに砂資粘土が検出されるに留まる。燃焼部もあまり明瞭ではないが，焼土が少量検出される。



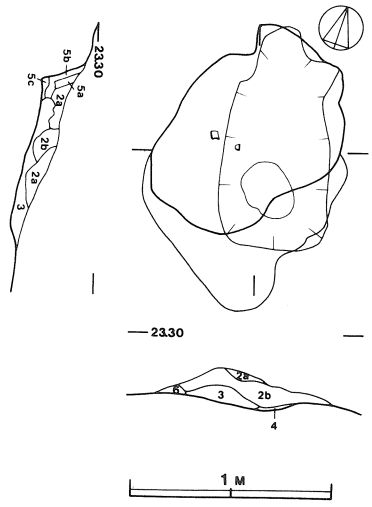
S I 074・075　土層解説

1.		Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	ローム粒子, ブロック (少)
2.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	カーボン (少) ロームブロック (微)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック・粒子・カーボン (小) 若干
	c	Hue 7.5YR 4/6	暗褐色	焼土粒子・ロームブロック粒子・わりあい多
3.	a	Hue 10YR 3/4	暗褐色	ローム粒子ブロック (多) 焼土若干
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム多く含み・焼土小ブロック粒子・カーボン
4.		Hue 10YR 4/4	褐色	ローム (多)
5.		Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	カーボン・ロームブロック (少) 焼土ブロック
6.		Hue 2.5YR 5/4	黄褐色	砂質粘土・焼土
7.		Hue 10YR 2/3	黒褐色	ロームブロック・粒子 (多)

第161図　S I 074・075　実測図



第162図　ＳＩ074　カマド実測図



第163図　ＳＩ075　カマド実測図

燃焼部の火床より煙道部よりに小型鉢が出土し，さらに多数の土器片が検出された。

煙道部の掘り方は明瞭でないが，北壁より床面にかけて長方形状に長径120cm・短径106cm，ほどで８cm掘り込み，さらに東に長径58cm・短径52cmほどの楕円形状のピットがあり，深さ32cmを測る。このピットはＳＩ075の西北コーナーに位置する主柱穴と考えられる。

SI 075（第161図）　本住居址はＥ９ｇ３・ｇ４・ｈ３・ｈ４・ｉ３・ｉ４に確認され，ＳＩ074と重複し，西壁ぎわをＳＩ070によって切られて，北側には小型のＳＩ065が接して位置している。

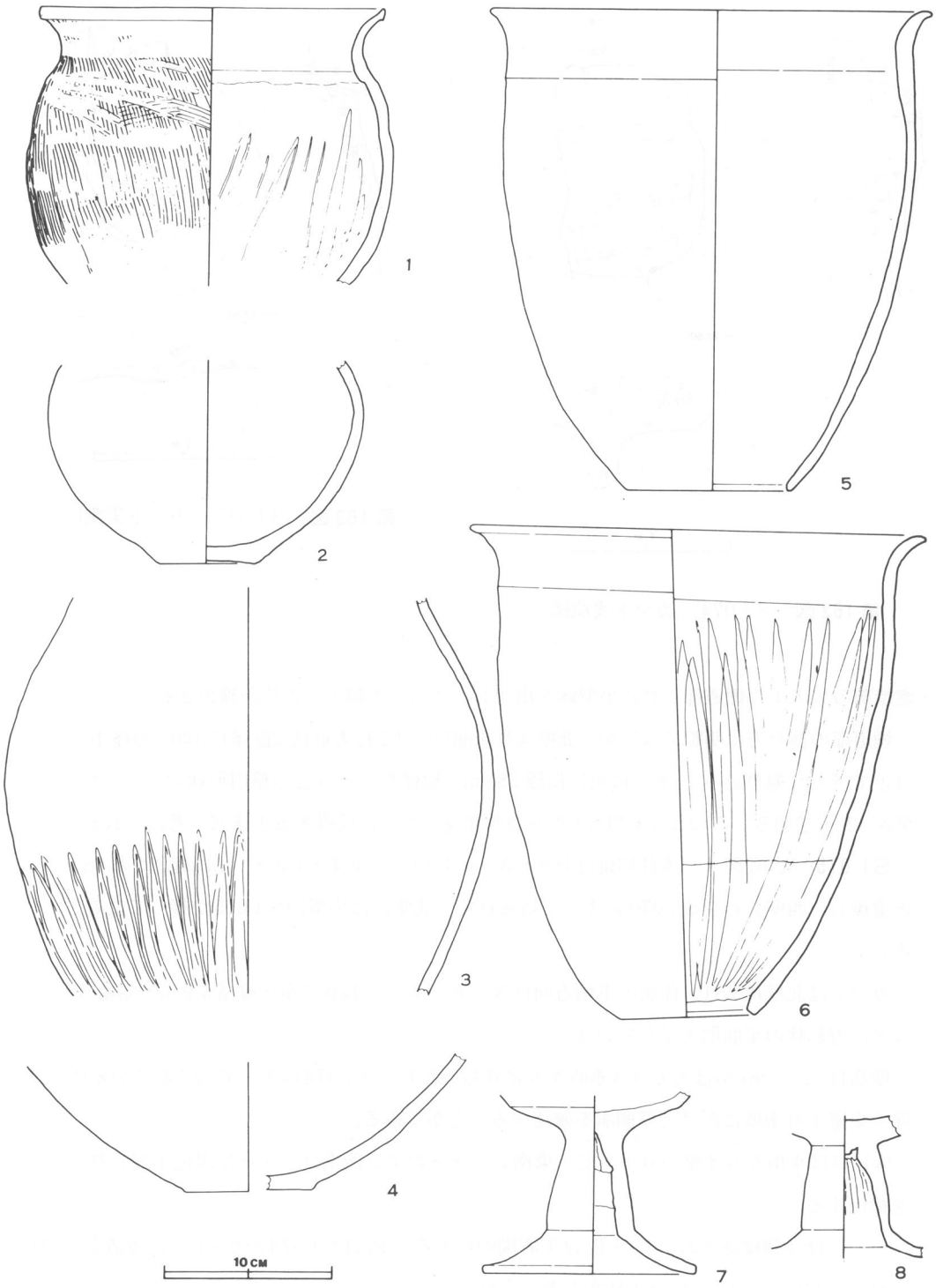
カマドは北壁にあり，住居の主軸方向はＮ－８°－Ｗで，長径５m・短径4.9m・面積24.5m²ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は12～28cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがり，ＳＩ074によって切られている西側を除く東壁より南壁にかけて壁側溝を確認することができる。

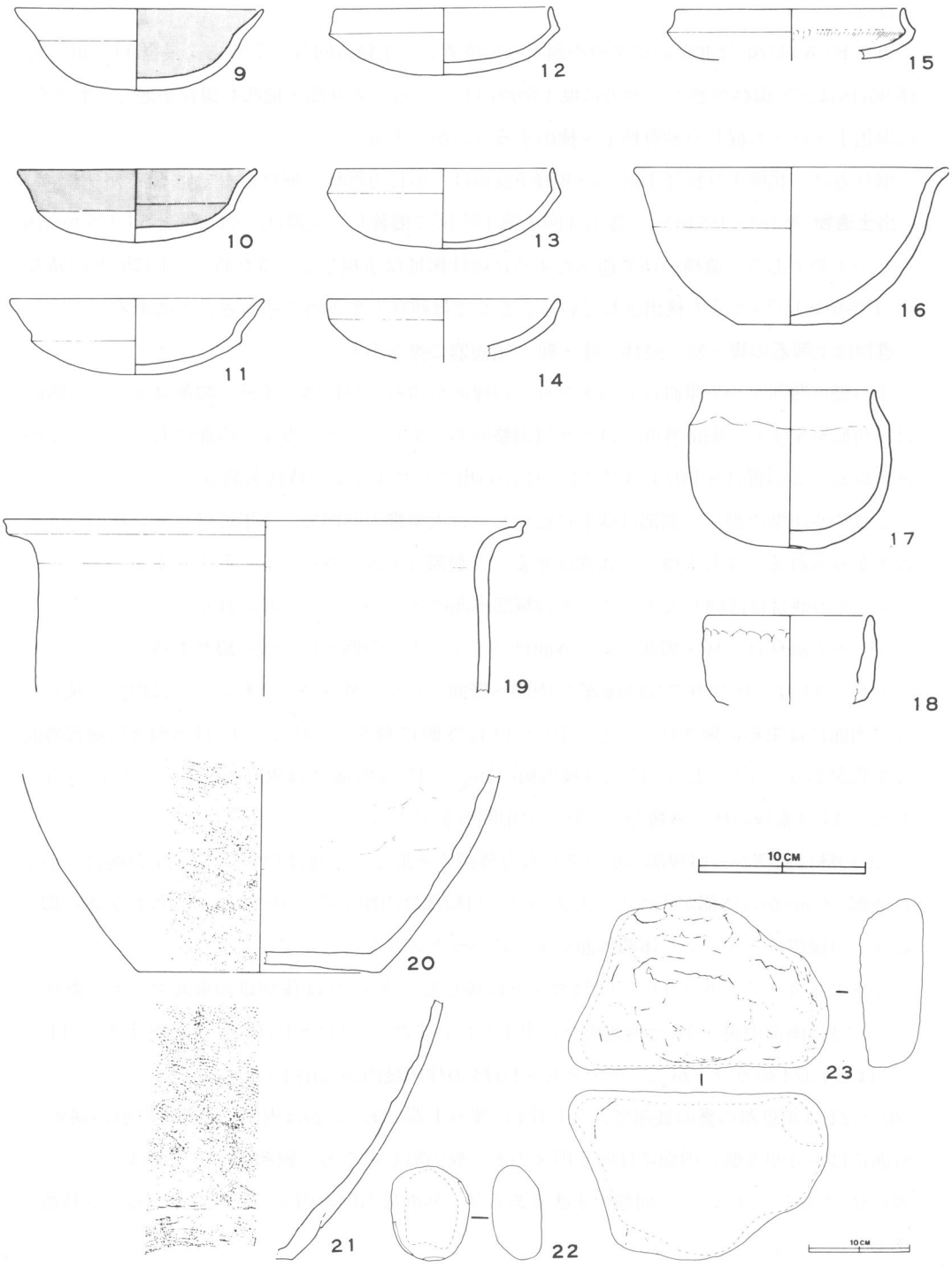
床はほぼ平坦をなす堅いロームで，東南コーナーおよび西南コーナーに黒色土混じりの焼土を検出する。

ピットは４個確認され，P_1～P_3は実測図中にある。P_4はＳＩ074のカマド下に位置し，図化されていないが，P_1～P_4は主柱穴と考えられる。

覆土はＳＩ074とほぼ同様な堆積を示すが，ローム粒子を多量に含み，焼土もやや多く検出



第164図　ＳＩ074・075　出土遺物



第165図　ＳＩ 074・075　出土遺物

される。

カマド(第163図)は北壁の中央やや西よりに位置し，主軸方向Ｎ－7°Ｗで，長径110cm，短径90cmほどで遺存が悪く，南方に焼土が流出している。天井部・袖部も遺存が悪く，わずかに黒色土・ローム混じり砂質粘土を検出することができる。

掘り方は，北壁より長径108cm・短径52cmほどの長方形状に掘り込んでいる。

出土遺物(第164・165図)　第164図・第165図に掲載した土器は，ＳＩ074とＳＩ075から出土したものである。遺構の所で述べたように両住居址は重複しているため，ＳＩ075と同時期の土器がＳＩ074からも検出されている。ここでは便宜上まとめて述べることにする。

遺物は土師器の甕・甑・高杯・鉢・椀，須恵器の甕がある。

1の甕は頸部がやや垂直に立ちあがり，口縁部がゆるやかに外反する。端部はまるく，断面は三角形を呈する。胴部外面にはハケ目調整のあとあらいヘラミガキ，内面にもヘラミガミがみられる。この甕はＳＩ074のカマドの中から出土した小片で，時代も溯る。

2はやや小型の甕で，胴部は球形に近い。3は大型甕の胴部で，下半にはラセン状のヘラミガキがみられる。4も大型で，底部はせまく，胴部は大きく外へひらく形を呈する。

5・6の甑はほぼ同じ大きさで，6の胴部内面にはヘラミガキがみられる。

7・8の高杯は，杯・脚部ともに外面はヘラミガキ，内側にはしぼり痕がある。

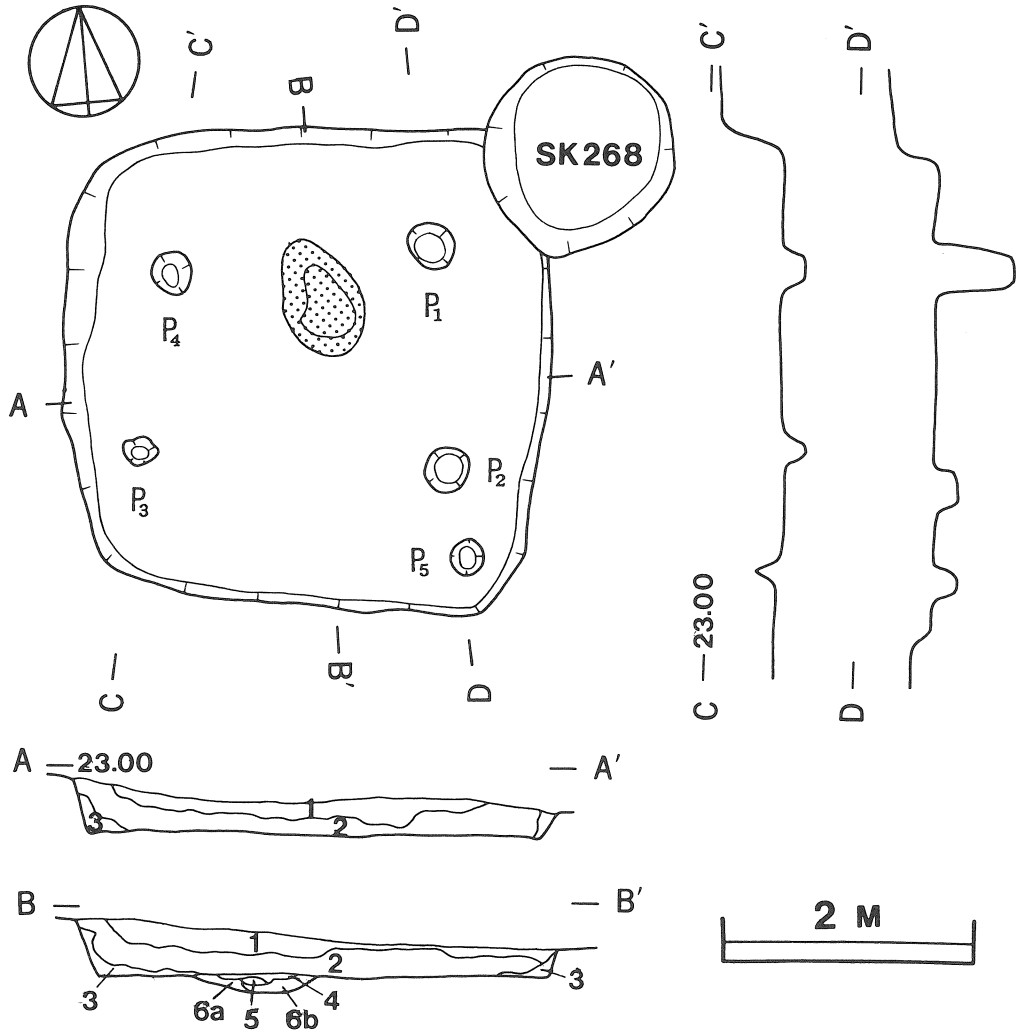
9から11は，杯の中でも口縁部が内側へ彎曲しながら外へひらく形で，9は内側に稜をつくり内面には朱彩が施されている。10・11は外側に稜をもつ杯で，10は内面と口縁部外面に朱彩がある。12・13・15は外稜内傾の杯で，15の内面には放射状のヘラミガキがみられる。14は素縁の杯と外稜をもつ杯との中間形を呈する。

16の鉢は底部から口縁部へかけてかなり外傾する形で，口縁はやや長い。17の椀は，小さな底部(3cm)から体部が大きく立ちあがり，口縁部は内傾する。18の杯は手捏ね土器に似ており，口縁部はヨコナデ，体部外面をタテにヘラケズリを行なっている。

1・2・4・5・6・11・17はカマドに接して，9・10は住居址の東北コーナー寄り，12・13は南部中央，16は西北部から出土した。また，3はＳＩ074内の南壁寄り，11・17はＳＩ074のカマドから，7・8もＳＩ074の住居域内から出土した。

20・21は須恵器の甕の底部で，ＳＩ074に伴う土器である。20は内側に粘土紐の痕が伺え，外面には平行叩き痕，内面には同心円文のあて板の痕がのこる。胴部下端の外面はヘラケズリを行なっている。21は20と同様の手法であるが，外面にも同心円文の叩き痕があるのが特徴である。

石製品(第165図)　22は長径9.22cm・短径7.4cm・厚さ4.8cmほどの楕円形状の磨石で，浅黄色を呈し，側縁側を磨面として利用している。石材は硬質砂岩である。



S I 076　土層解説

1.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中)・木炭粒(中)含
2.	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中)・木炭粒子(少)含
3.	Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック(少)含
4.	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	焼土粒子含
5.	Hue 2.5YR 4/8	赤褐色	焼土含
6. a	Hue 10YR 5/8	黄褐色	熱を受けているローム
b	Hue 10YR 5/6	黄褐色	

第166図　S I 076　実測図

23はカマド付近より出土した扁平な河原石で，長径22.9cm・短径16.35cm・厚さ5.9cmほどの台形状の平面形を呈し，敲打面が明瞭に看取される。

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	36	30	53	主柱穴	P_3	45	45		主柱穴
P_2	42	37	63	主柱穴	P_4	58	50	36	主柱穴

SI 076（第166図）　本住居址はE9d5・d6・e5・e6に確認され，東北コーナー部を円形のSK268が切り込み，西南コーナー部にSI059が接して位置している。

主軸方向はN－32.5°－Wで，長径5.52m・短径4.33m・面積23.90m^{2}ほどの隅丸の長方形の平面形を呈している。

壁高は，東南から東北にかけて浅く18cmほどであるが，西側は50cmを測る。壁側溝は明瞭ではないが，西壁ぎわにわずかにみられる。

床はほぼ平坦をなす堅いロームであり，床面中央やや北に楕円形状の炉址を確認。ピットは5個確認される。P_1～P_4は主柱穴と考えられ，P_5は東南コーナーに位置している。

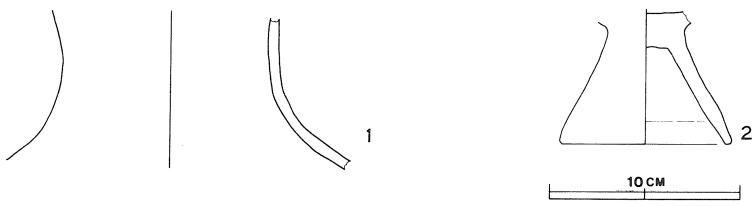
炉址は長径84cm・短径50cmほどの楕円形状を示し，床を皿状に14cmほど掘り窪めている。

覆土は第1・2層がローム小ブロック・ローム粒子を含む暗褐色土で少量の木炭粒子を含む。

出土遺物（第167図）　遺物はほとんどなく，復元できるのは土師器の壺・甕だけである。

1は壺の頸部で，弥生式土器の壺のようにゆるやかに屈曲する。この種の壺は1点しか検出していない。

2は台付甕の台部で，外面にはヘラミガキを行なっている。



第167図　SI 076　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	32	28	65	主柱穴	P_4	31	28	19	主柱穴
P_2	35	34	21	主柱穴	P_5	28	20	15	
P_3	18	18	19	主柱穴					

SI 077（第168図）　本住居址はE9d2・d3・e2・e3に確認され，北側部をSI054・によって切られている。南方にはSI059・SI060・SI063が接近している。

重複して切られているため規模は不明であるが，現況の長径は4.79m・短径は1.81m・面積は8.66m^2を測り，主軸方向はN－16°－Wと考えられる。

壁高は西壁が21cm，南壁が20cm・東壁が15cmほどで，壁側溝は明確でない。

床はほぼ平坦をなし，SI054の床レベルとほとんど変わらない状態である。ほぼ中央部に炭化物を含む焼土が多量に検出している。西南床に長方形状土壙が位置し，P_3とP_6にかけて掘り込んでいる。

東北側SI077と重複する壁ぎわに不定形状の掘り込みがみられる。

遺物は東南コーナーに壺等が床面より出土している。

覆土はローム粒子，木炭粒子を含む暗褐色土層で火災にあったと考えられる。

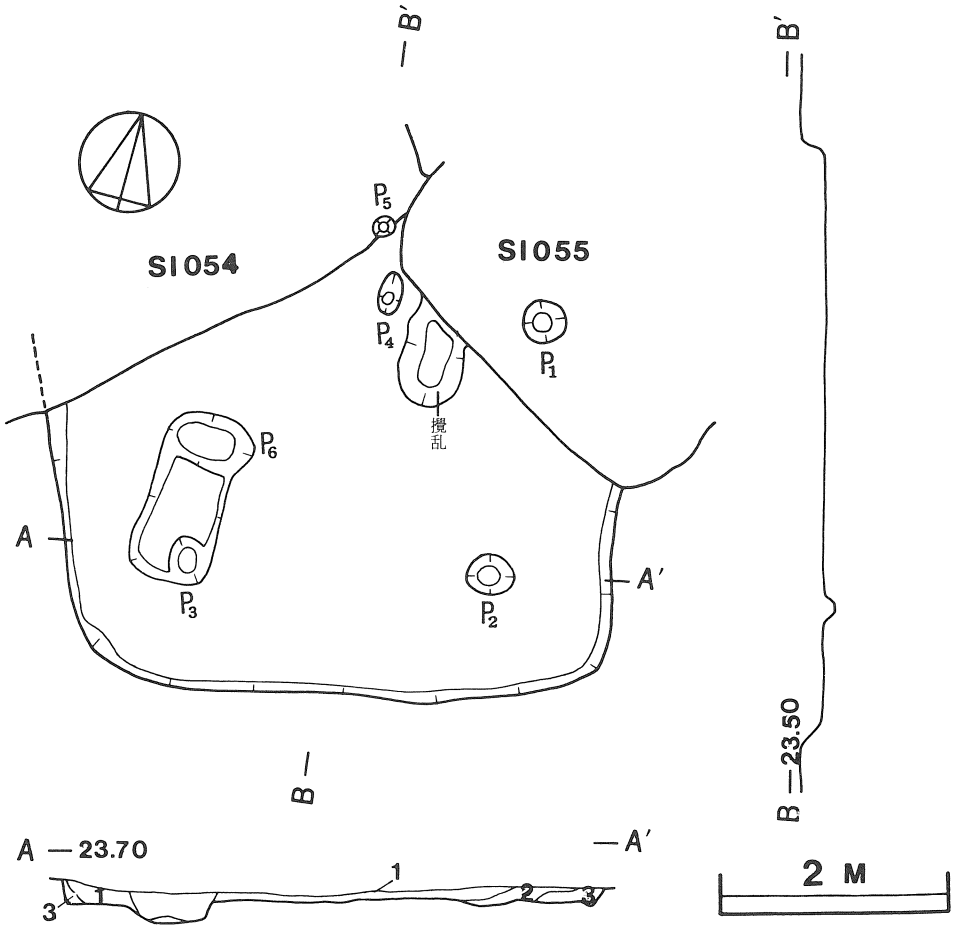
出土遺物（第169図）　土師器の甕(壺)が良好な状態で出土している(1～5)。いずれも，最大径が胴部の中位かやや下にある。

1は口縁部から胴部にかけて残っており，頸部が鋭く「く」の字状に屈曲する。2は胴部から底部にかけて残っており，底部に近い外面にわずかにハケ目の痕が伺える。胴部外面には朱彩が施され，緻密でていねいなヘラミガキを行なっている。3・5は2と同類である。4は頸部がゆるやかに屈曲し，口縁部内側，胴部外面にはハケ目調整を駆使しているほか，口縁端部には列点がめぐっている。

6は器台であるが，小片のため孔の数は不明である。

これらの土器は住居址の中央と東南部で検出した。

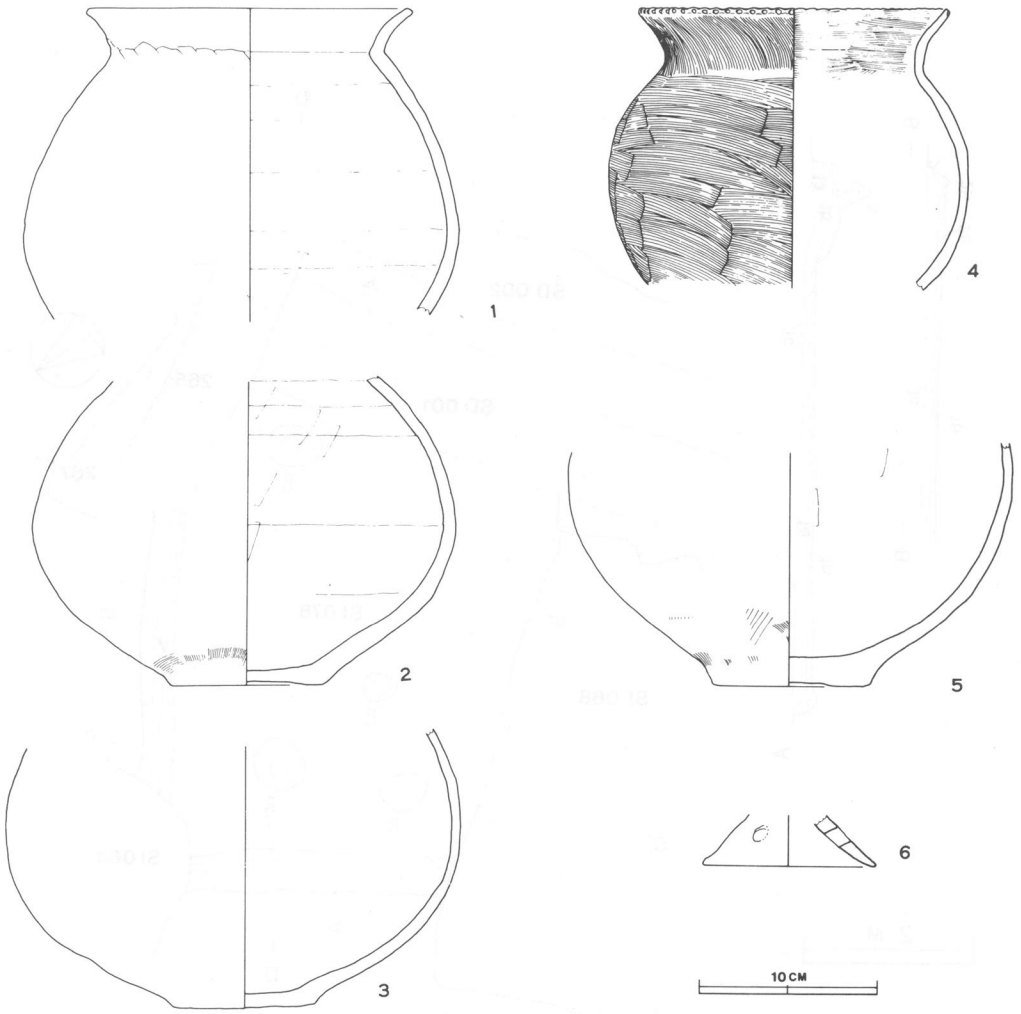
ピット番号	長径cm	短さcm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	40	31	22	主柱穴	P_4	38	22	11	
P_2	41	34	32	主柱穴	P_5	20	20	8	
P_3	41	38	45	主柱穴	P_6	80	48	27	



S I 077　土層解説

1. Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　　ローム粒子(中)・木炭粒子(少)
2. Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　　ローム粒子(少)・軟質褐色ブロック(中)
3. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　　ロームブロック(少)

第168図　S I 077　実測図



第169図　ＳＩ077　出土遺物

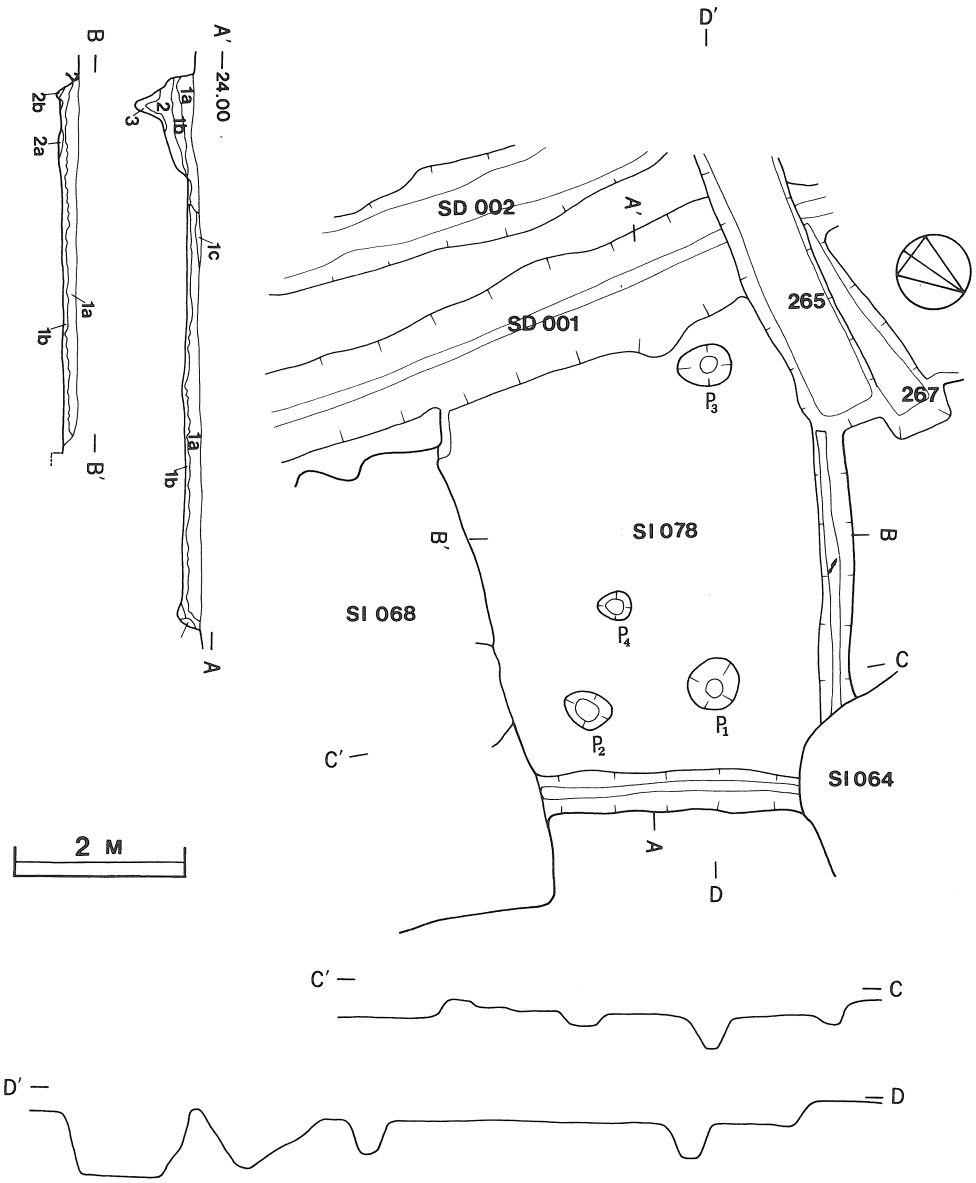
SI 078（第170図）　本住居址はＥ８ｅ４・ｆ３・ｆ４・ｆ５・ｇ４に確認され，住居の西南をＳＤ001によって切られ，北コーナーをＳＩ064によって切られ，東南側をＳＩ068によって切られて位置している。

主軸方向はＮ－32.5°－Ｗで，周囲の大部分を重複する遺構に切られ，規模は不明である。現在長径は5.52ｍ・短径は4.33ｍ・面積は23.90㎡ほどを遺存するのみである。

壁高は22㎝内外で，ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。壁側溝は西北壁・東北壁に確認されるに留まる。床はほぼ平坦をなすロームで，ＳＩ068の床面との比高は12cmを測る。

ピットは東北側に３個・西南側に１個確認され，主柱穴と考えられるものはP_1～P_3である。

覆土はローム粒子・ローム小ブロックを少量含む暗褐色土層が堆積している。床面付近に微



SＩ078　土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)・軟質褐色ブロック(少)
	b	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	ローム小ブロック(極少)・ローム粒子(中)・軟質褐色ブロック(少)
	c	Hue 7.5YR 2/3	極暗褐色	
2.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少)・焼土粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(少)・ローム粒子(多)
3.		Hue 7.5YR 4/4	褐褐色	ロームブロック(多)・ローム粒子(多)

第170図　ＳＩ078　実測図

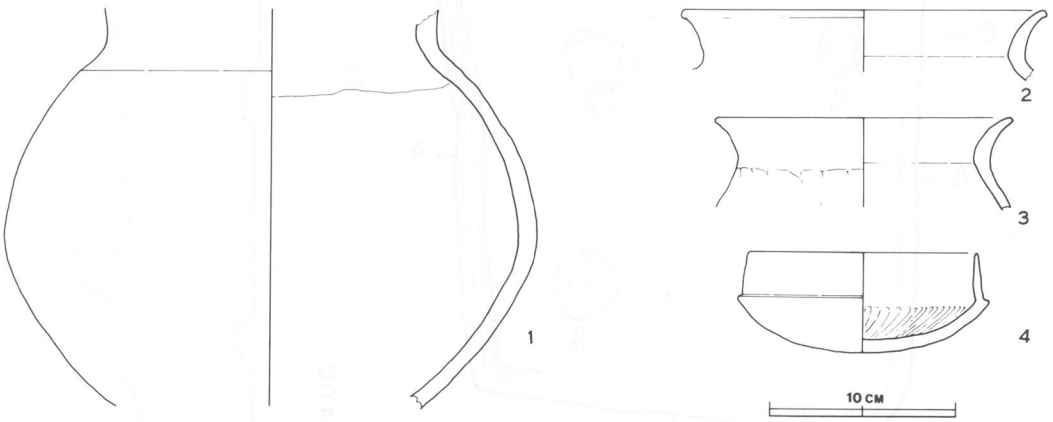
量の焼土粒子を検出する。カマドは不明である。

出土遺物（第171図）　土師器の甕・杯がある。

1は大型の甕で，頸部がほぼ垂直に立ちあがる。2・3はやや小型の甕で，頸部から口縁にかけてゆるやかに「く」の字状に屈曲する。

4の杯は明瞭な外稜をもち，やや長めの口縁が垂直に立ちあがる。口縁部内外ともにヨコにていねいにみがいているほか，底部内面には放射状のヘラミガキがある。

1は住居址のほぼ中央から出土した。



第171図　ＳＩ078　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	55	53	40	主柱穴	P_3	59	41	39	主柱穴
P_2	52	33	16	主柱穴	P_4	36	27	16	

ＳＩ079（第172図）　本住居址はＥ7ａ7・ａ8・ｂ7・ｂ8に確認され，住居の南方に長方形状の土壙ＳＫ232・ＳＫ233・ＳＫ234がほぼ一直線上に並び，東方にＳＫ221・ＳＫ222・ＳＫ224が位置している。

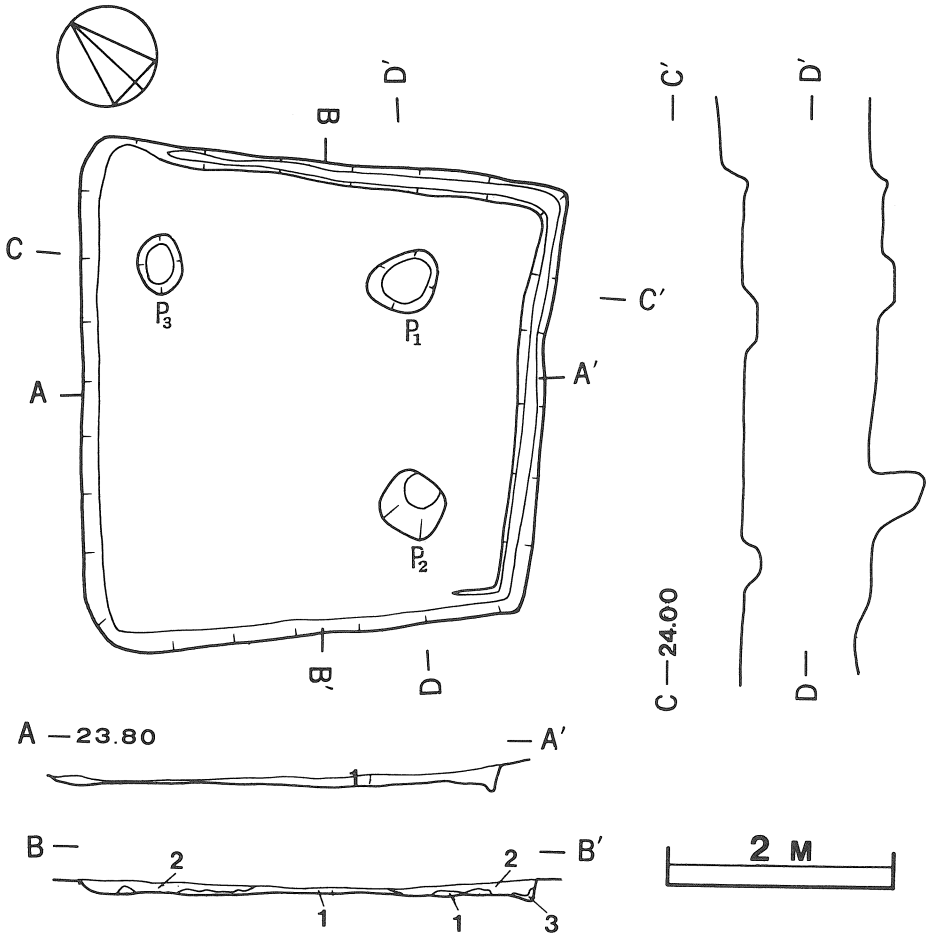
本住居址の主軸方向はＮ－41.5°－Ｗで，長径4.19ｍ・短径4.06ｍほどで西コーナーがやや南に張りだした面積17㎡ほどの不整方形状の平面形を呈している。

壁高は14～20cmを測り，床はほぼ平坦なロームであるが，それほど堅いものではない。

ピットは3個確認され，P_1～P_3は主柱穴と考えられる。

覆土は浅く，ローム粒子を含む暗褐色土・壁ぎわに極暗褐色土が堆積している。

遺物は検出されず，住居址として若干の疑問が残る遺構である。



S I 079　土層解説

1. Hue 7.5YR 3/4　暗 褐 色　ローム小ブロック(少) ローム粒子(少)
2. Hue 7.5YR 2/3　極暗褐色　ローム粒子(少)
3. Hue 7.5YR 4/4　褐　　色　ロームブロック(少)

第172図　S I 079　実測図

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	53	44	14	主柱穴	P_3	45	32	16	主柱穴
P_2	53	49	47	主柱穴					

SI 081（第174図）　本住居址はＥ８ｉ０・ｊ０・Ｆ８ａ０・Ｅ９ｉ１・ｊ１・Ｆ９ａ１に確認され，南側にＳＩ038・ＳＩ085が重複し，西南壁をＳＩ085が切っている。北方３mほどでＳＩ062があり，西方３mほどでＳＩ060が位置している。

カマドは西北壁の中央にあり，東に若干張りだしている。住居の主軸方向はN－30°－Wで，長径6.22m・短径5.96m・面積37m²ほどの方形状の平面形を呈している。

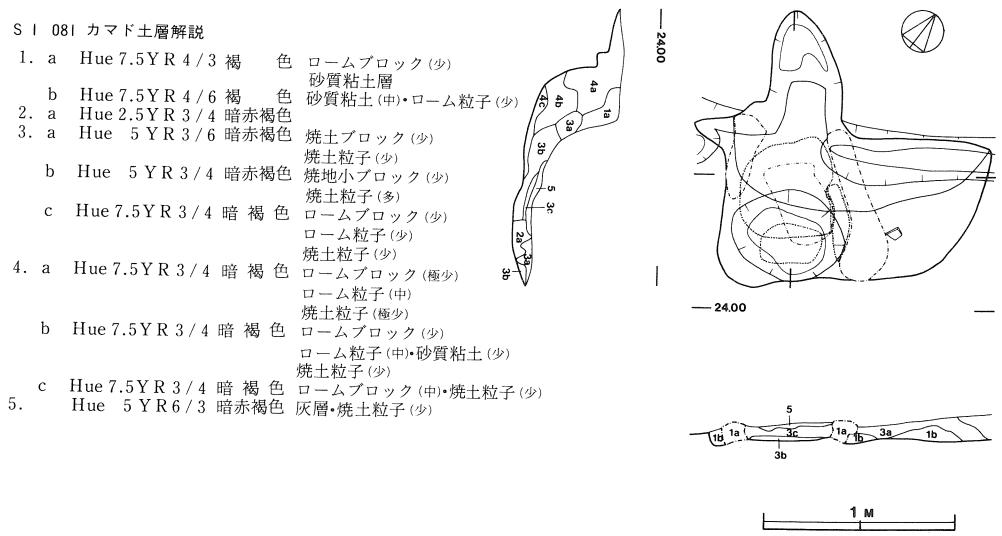
壁高は30～45cmほどでほぼ垂直に立ちあがり，カマドを除き壁側溝が約20cmほどの幅で他住居によって切られている部分を除き全周している。深さは10～16cmほどを測る。

床はほぼ平坦をなすロームで，特に床中心部が堅い。

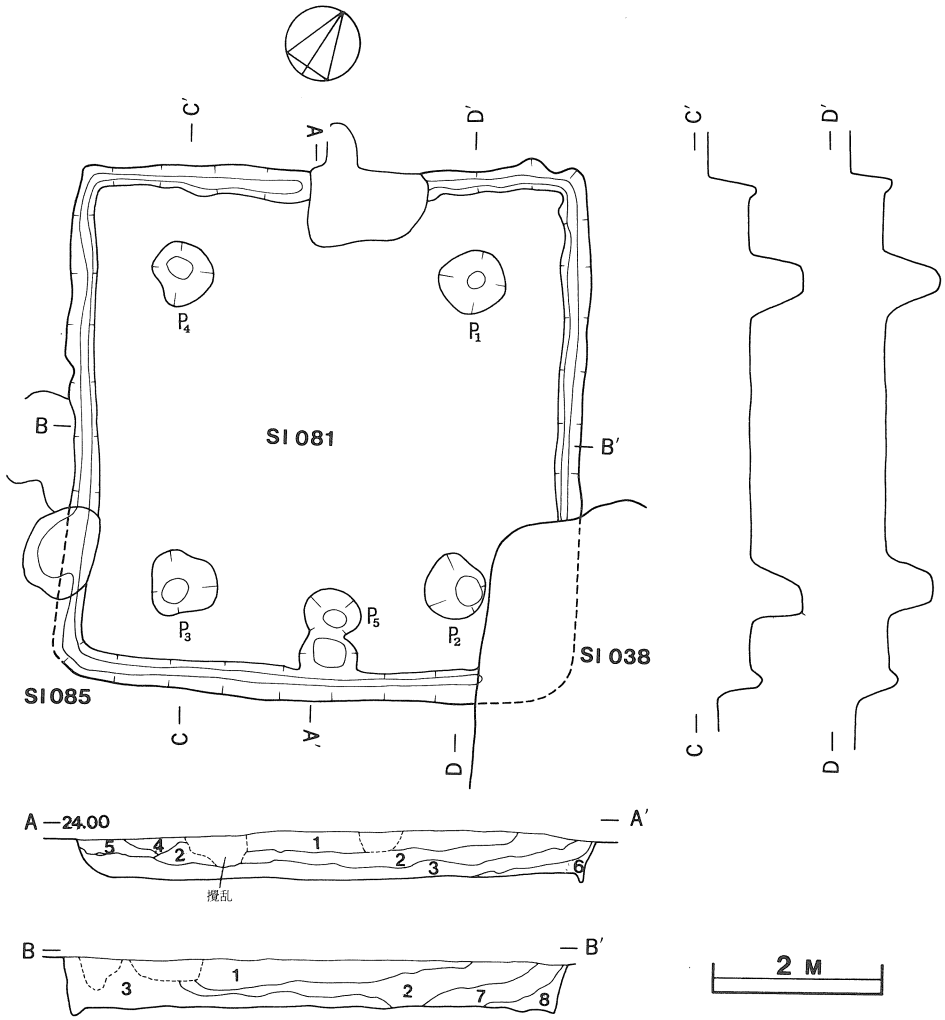
ピットは５個確認され，P_1～P_4は主柱穴と考えられる。P_5はP_2とP_3を結ぶ直線上の中心やや南に位置している。

覆土は土層面に撹乱が入り，ロームブロック・焼土を含む暗褐色土であり，下層は炭化物混じりの褐色土層の堆積がみられる。また床面にも焼土が検出され，火災にあったと考えられる。

遺物は極少量である。



第173図　ＳＩ081　カマド実測図



SI 081 土層解説

1. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム ブロック(少)・ローム の粒(中)・焼土(微)
2. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム ブロック大(中)・ローム の粒(中)・焼土(微)
3. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム の粒(多)・ローム ブロック(少)・炭化物(微)・焼土(微)
4. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム の粒(少)・焼土(微)
5. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム ブロック(少)
6. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム ブロック大(多)・ローム の粒(少)
7. Hue 7.5YR 3/3 褐 色 ローム の粒(多)・ローム ブロック(少)
8. Hue 7.5YR 3/4 褐 色 焼土(微)・ローム ブロック(中)・ローム 粒(多)・木炭片(少)

第174図 SI 081 実測図

カマド（第173図）は大部分崩壊しているが，わずかに袖部と天井部の極一部が残存しているに留まる。燃焼部は不明であるが，わずかに袖部間に，灰・焼土ブロックが検出できる。

煙道部は北壁を40cmの幅で50cmほど掘り込んでいる。火床は長径60cm・短径46cmほどの楕円形状に床面を7cmほど掘り窪めている。

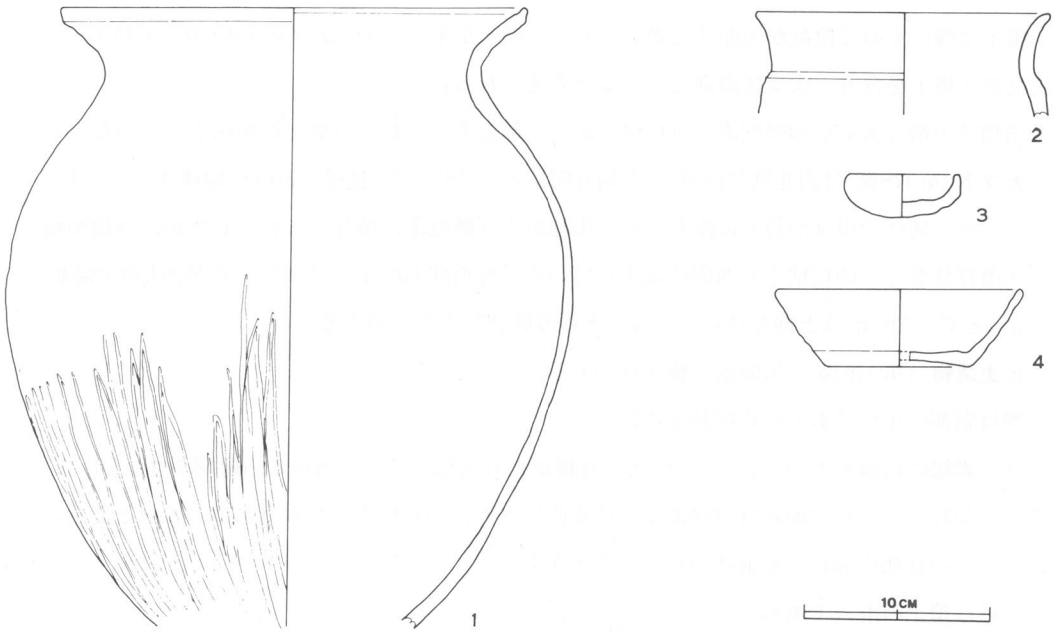
出土遺物（第175図）　土師器の甕・甑・杯・手捏ね土器がある。

1は大型甕で，口縁部は短く屈曲し，内側に沈線がめぐる。胴部の下半にはラセン状のヘラミガキがみられる。2はやや小型で，口径に比べて口縁部がやや長く，頸部外側に稜をつくる。

3は手捏ね土器で，底部はまるく，口縁端部は平坦で，ユビナデの痕が残っている。

4は須恵器の杯であるが，むしろSI085に伴うものであろう。

その他の遺物では，管状土錘の小片がみられた。



第175図　SI 081　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	68	63	75	主柱穴	P_4	66	60	63	主柱穴
P_2	65	61	51	主柱穴	P_5	58	45		
P_3	69	65	56	主柱穴					

ＳＩ082（第177図）　本住居址はＥ7ｄ9・ｅ8・ｅ9・ｆ8・ｆ9・ｆ0に確認され，SD001の南側に位置し，カマドから西南壁にかけて構状の畝が走り，西北コーナーにはＳＫ238の地下式土壙群が確認されている。

カマドは溝状畝によって破壊されているが，西北壁にあり，住居の主軸方向はＮ－26°－Ｗで，長径6.91m，短径6.8m，面積46.9㎡ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は6～13cmほどでゆるい傾斜を示し立ちあがる。壁側溝はカマドを除きほぼ全周し，東南コーナーがやや幅をもちなだらかであり，南側に壁側穴が確認される。

床は中央部から南にかけて撹乱が入り，それほど平坦なローム面ではない。

ピットは10個確認され，P_1～P_4は主柱穴，P_5は貯蔵穴と考えられる。P_6は南壁よりに位置している。P_9はP_3の南側に位置する小さいものである。P_7・P_8・P_{10}は床面中央にあり，さほど大きいものではない。

覆土は浅いもので撹乱が床面まで達しており，混入が多く，ロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土を含み，火災に遭遇していると考えられる。

遺物は少量であるが南壁側溝よりに何らかの一部と考えられる小型土鈴が出土している。

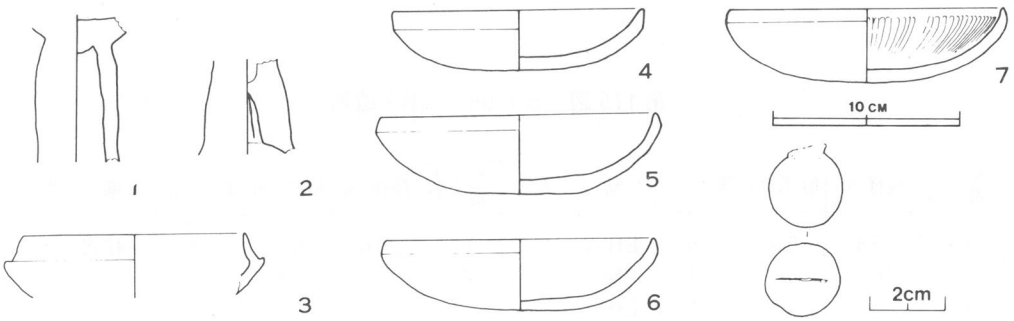
カマド（第178図）は西北壁に位置し，主軸方向はＮ－28°－Ｗ，長径150cm，短径142cmほどであるが，溝状の撹乱が斜めに掘り込み，東袖および燃焼部は遺存しない。わずかに西袖が残るが遺存は悪く，砂質粘土も西側に流出している。煙道部も削平を受けているが西北壁に幅40cmほどで，36cmほど掘り込んでいることのみ確認できるに留まる。

出土遺物（第176図）　土師器の甕・杯がある。

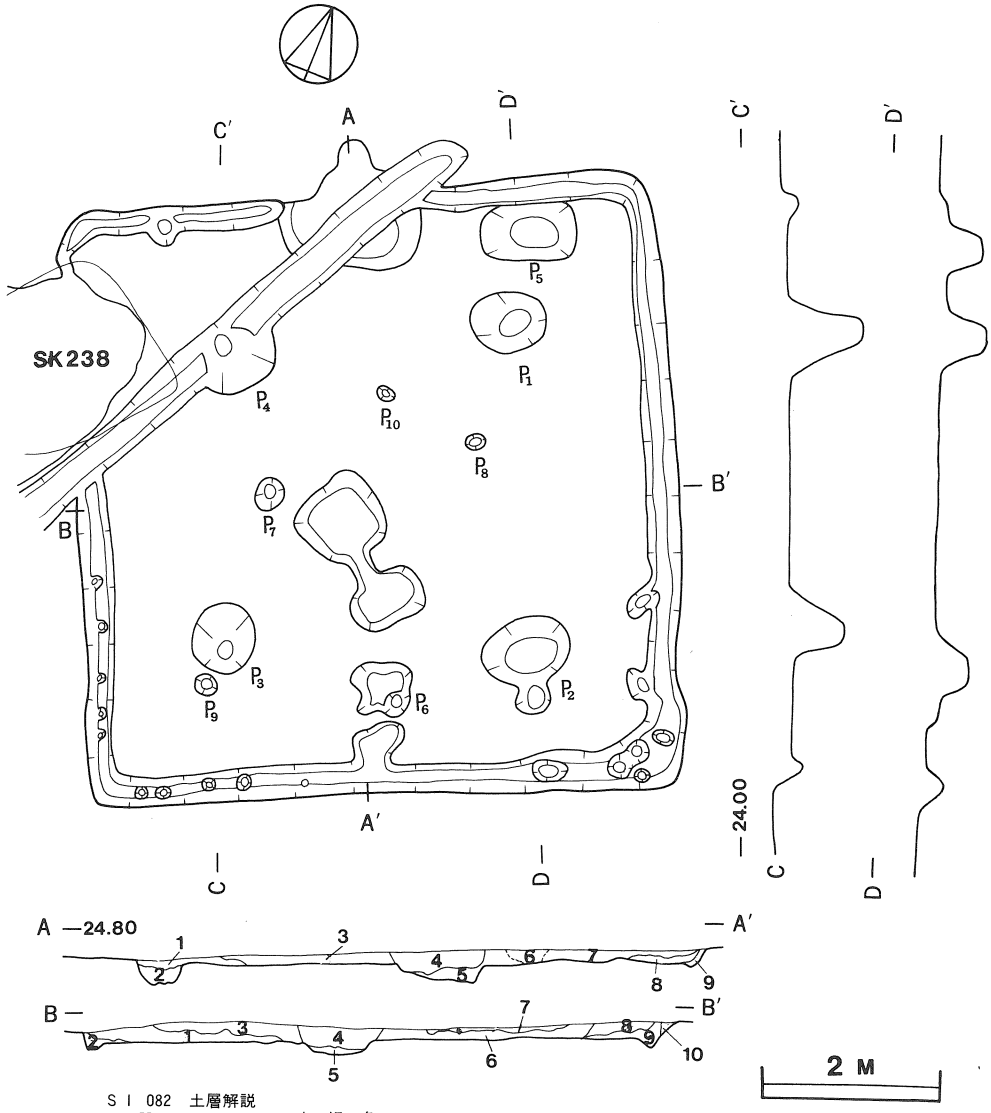
甕は胴部の小片であるため掲載を省いた。

杯は素縁の口縁をもつもの（4～8）と，外稜があり内傾して立ちあがる口縁部をもつもの（3）とに分かれる。さらに前者は口縁部がほぼ垂直に立ちあがる杯と，やや外にひらく杯とに分けられ，7の底部内面には放射状のヘラミガキがある。

高杯は覆土の混入であろう。



第176図　ＳＩ082　出土遺物



S I 082　土層解説

1. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色
2. Hue 7.5YR 2/2　黒　褐　色
3. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色
4. Hue 7.5YR 4/3　褐　　色
5. Hue 2.5YR 2/2　極暗赤褐色
6. Hue 7.5YR 3/1　黒　褐　色
7. Hue 7.5YR 4/4　褐　　色
8. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色
9. Hue 7.5YR 3/2　黒　褐　色

S I 082 カマド土層解説

1. a　Hue 7.5YR 4/3　褐　　色　砂質粘土層
   b　Hue 7.5YR 4/3　褐　　色　砂質粘土(多)・焼土粒子(少)
2. a　Hue 2.5YR 4/8　オリーブ褐色　焼土層
3. a　Hue 5YR 4/3　にぶい褐　色　ローム粒子(中)・焼土粒子(中)・カーボン(少)
4. a　Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　ロームブロック(中)・焼土粒子(少)
   b　Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　ロームブロック(中)・焼土粒子(少)
5.　Hue 5YR 5/3　にぶい赤褐色　灰

第177図　S I 082　実測図

その他の遺物としては，小型の鈴状の土製品が出土している。

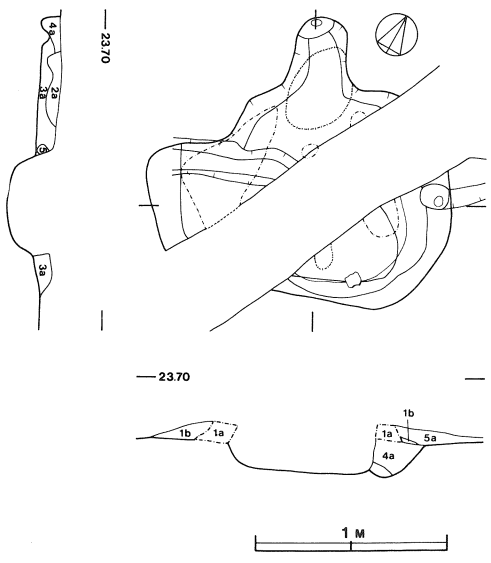
ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	76	59	50	主柱穴	P_6	59	58	31	
P_2	93	64	43	主柱穴	P_7	34	27	17	
P_3	72	63	60	主柱穴	P_8	20	16	12	
P_4	84	83	84	主柱穴	P_9	22	21	15	
P_5	138	71	41		P_{10}	21	15		

SI 083（第179図）　本住居址はE8e2・e3・f1・f2・f3・g2・g3に確認され，住居の中央をSD001が西北より東南にかけて掘り込み，さらに東南より西北にSD002が走り，床の中央P_4にて立ち切れる。

主軸方向はN－50°－Wを向き，長径6.56m，短径6.46m，面積42.37m²ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は17～30cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがり，西北壁の中央より西南壁を回り，東南壁のSD002によって切られる地点まで壁側溝が確認される。

床はほぼ平坦をなすロームであるが，中央をSD001・002によって大部分切られている。主柱穴はP_1～P_4が考えられ，北コーナーには貯蔵穴P_5が確認され，その覆土中に定形の杯が出土している。東コーナーは長方形のSK267・SK265が南北に東南壁を切り込んでいる。



第178図　SI 082　カマド実測図

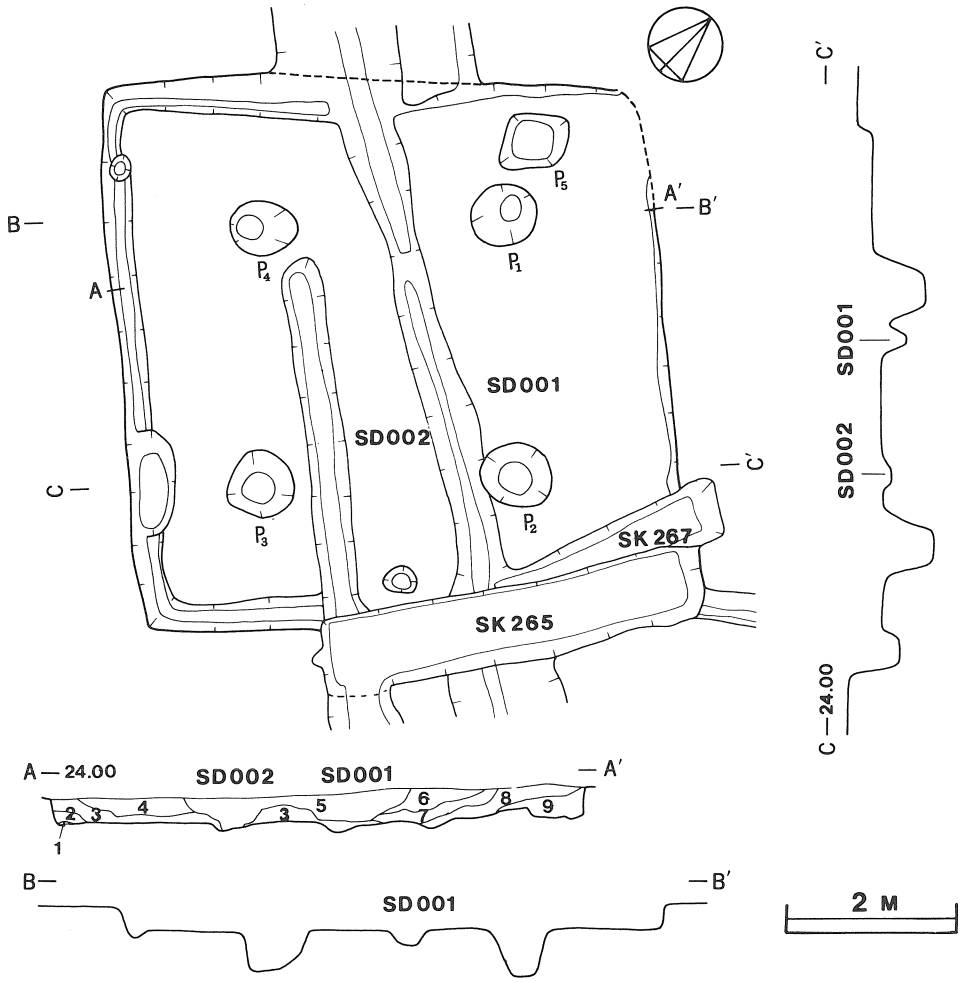
覆土は28～32cmほど堆積し，ローム粒子，ブロックを含む褐色および暗褐色土であるがSD001・SD002が上面260cmほど掘り込んでいる。

出土遺物（第180図）　遺物の量のわりには良好な資料は少ない。本住居址に伴う土器は，1の甑，4から6の杯で，他は覆土の混入であろう。

1の甑は，頸部の屈曲がなく，口縁部はつよく外反する。胴部内面にはタテにヘラミガキを行なっている。

杯は外稜内傾立あがり口縁のもの（4・6）と，素縁の口縁のもの（5）に分けられる。

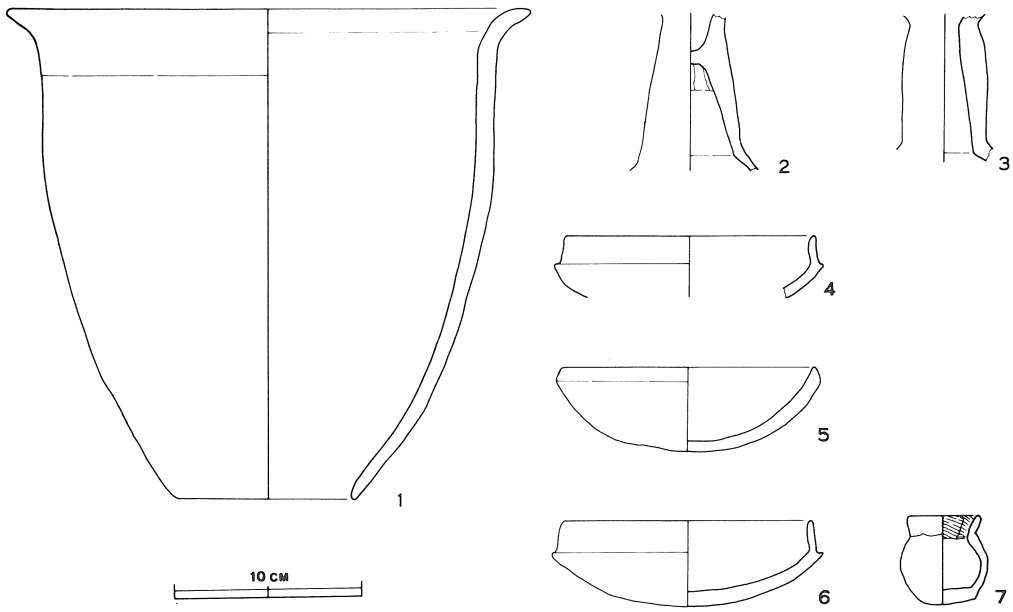
1はP_1の北側から，5・6はP_5（貯蔵穴）



S I 083　土層解説

1.		Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロック(中)
2.		Hue 7.5YR 2/2	黒褐色	ローム粒子(微)・ロームブロック(少)
3.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(多)・ロームブロック(中)
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(中)・ロームブロック(多)
4.		Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少)
5.		Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(少)
6.		Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ロームブロック(微)
7.		Hue 7.5YR 4/3	褐　色	ロームブロック(中)
8.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームブロック(多)・焼土粒(微)
9.		Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームの粒(多)・ローム小ブロック(中)

第179図　S I 083　実測図



第180図　ＳＩ083　出土遺物

ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考	ピット番号	長径cm	短径cm	深さcm	備　考
P_1	67	61	57	主柱穴	P_4	70	55	58	主柱穴
P_2	68	65	65	主柱穴	P_5	71	63	26	貯蔵穴
P_3	69	69	59	主柱穴	P_6				

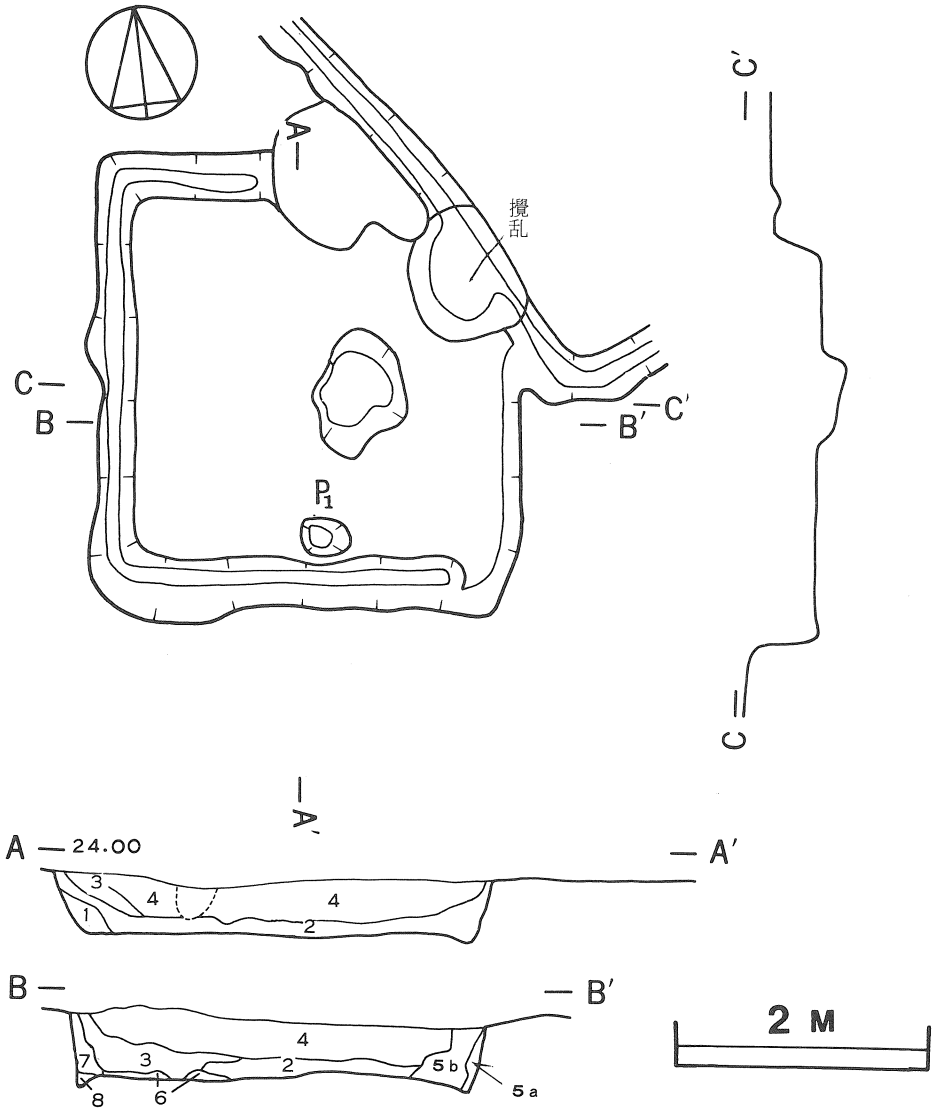
から出土した。

SI 085（第181図）　本住居址はＥ８ｊ９・ｊ０・Ｆ８ａ９・ａ０に確認され，ＳＩ081と重複し，本住居の東北コーナーがＳＩ081の西南壁を切って位置し，同規模の住居ＳＩ071が南方4mで位置している。

カマドは北壁中央やや東よりにあり，住居の主軸方向はＮ－8.5°－Ｅで，長径3.61m・短径3.33m・面積12m^{2}ほどの方形状の平面形を呈している。

壁高は54cmほどでほぼ垂直に立ちあがる。壁側溝はカマドの西廻りに南壁コーナーまで続く。

床はほぼ平坦をなし，堅いロームであるが中央および東北コーナーに撹乱壙がみられ，床面が若干凹んでいる。ピットは南側溝中央よりにP_1が確認され，規模は長径38cm，短径29cm，



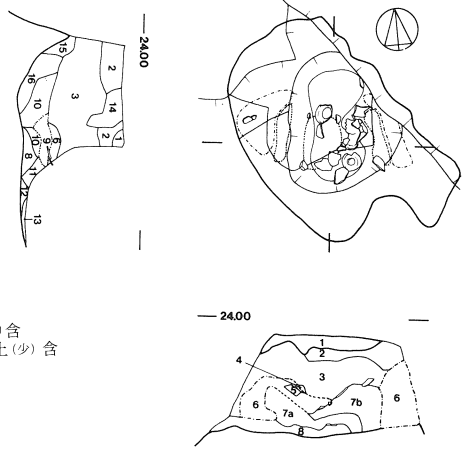
S I 085　土層解説

1.	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	砂質粘土(多)・ローム粒子(少)・かたくしまっている
2.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(少)・ロームブロック(少)・焼土(微)
3.	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	砂質粘土(少)・ロームブロック(少)・ローム粒子(少)・焼土(微)
4.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒(中)・ロームブロック(中)・焼土(微)
5. a	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒(少)・焼土(微)
b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒(多)・焼土(微)・炭化物(微)
6.	Hue 7.5YR 5/6	明褐色	ローム粒(多)・ロームロームブロック(少)
7.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒(少)・焼土(微) もろい
8.	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	ローム粒子(多)・ロームブロック(多)

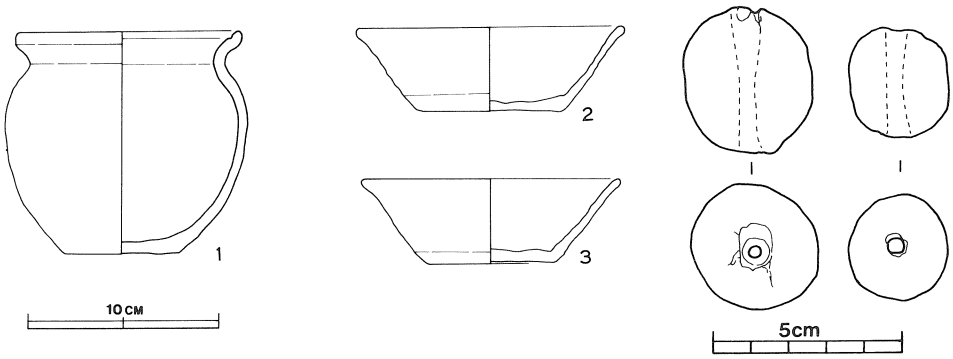
第181図　S I 085　実測図

ＳＩ 085 カマド土層解説

1. Hue 10YR 4/6 褐 色 砂質粘土
ローム粒子(多)含・堅い
2. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ローム粒子含
3. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ローム粒子・ブロック含
4. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ローム粒子・ブロック含
5. 支脚
6. Hue 7.5YR 4/6 褐 褐色 砂質粘土(多)含・堅緻
焼土粒(少)含
7. Hue 5YR 3/6 暗赤褐色 焼土多含
8. Hue 5YR 3/4 暗赤褐色 焼土・炭化粒子(多)含
ロームブロック(少)含
9. Hue 10YR 4/8 赤 色 焼土含
10. Hue 5YR 2/4 灰 褐 色 焼土粒子含
11. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 焼土粒子含
12. Hue 7.5YR 5/6 明 褐 色 ローム含
13. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 焼土粒子含
14. Hue 7.5YR 3/3 暗 褐 色 ローム粒子(少)含
15. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム粒子(少)・砂質粘土(少)含
16. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームブロック(少)・砂質粘土(少)含



第 182 図 ＳＩ085 カマド実測図



第 183 図 ＳＩ 085 出土遺物

深さ 18 cmほどの柱穴である。

覆土は 40 ～ 54 cmほど堆積し，ローム粒子・ブロックを含む暗褐色土が主である。各層より微量であるが焼土を検出する。

遺物は少量である。

カマド（第 182 図）は北壁の中央に位置し，煙道部はＳＩ 081 におよんでいると考えられる。

主軸方向はＮ－ 9° －Ｅを向くと考えられるが，規模は大部分が破壊されているので，不明である。

わずかに北壁ぎわに残存する部分は天井部と袖部の一部を確認することができる。東袖部は，燃焼部に潰れ落ちた様な状態を呈している。第３層に須恵器のほぼ完形に近い杯が出土してい

る。掘り方は北壁およびＳＩ080の西南壁を長径73cm，短径60cmの不定楕円形状に掘り込み，カマド火床はわずかに床面を6cmほど掘り窪めている。

カマド内の遺物の出土量はわりあい多く，補強に使用されたと考えるよりは廃棄されたような状態を呈していると考えられる。

出土遺物（第183図）土師器の小型甕と須恵器の杯がカマドの中から出土している。

1の甕は頸部がゆるやかに屈曲し，口縁部内側に沈線がめぐる。端部はまるい。胴部外面上半はタテに，下半はヨコにヘラケズリを行なっている。

2・3は須恵器の杯で，体部から口縁部にかけて，まっすぐに外へひらく形を呈する。ミズヒキ成形のあと，体部下端と底部の外面をヘラケズリ調整している。

その他の遺物では，土玉が2点，住居の西方から出土した。

2. 土壙(SK)

SK 001(第184図)　本土壙は,E9f7に確認され，SI 001の東南コーナー部を切り込んでいる。さらに東側は急傾斜な崖となる。主軸方向はN－4°－Wで，長径1.82m・短径1.5mの不定楕円形を有し，東壁の外辺は確認不可能である。

遺構検出面から床までの深さは20～40cmであるが，表土からの深さは1.1m内外を有する。西壁はゆるやかに立ちあがるが，北壁はSI 001の床面と接するためゆるやかに存するのみである。床面は中央部北側にSI 001の主柱穴がみられ，東南コーナーには若干の小穴を有し，やや南に傾斜を示している。また床面はややハードなロームである。底部の中央部から北側にかけて馬骨が検出され，頭部は北向きに置かれ，中央部やや北側に脊椎骨，さらにその西方に大腿骨，下肢骨の一部が西北より南におりまげた状態で検出され，その周辺に骨粉状のものが確認された。

覆土はほとんどがローム粒子・ブロックを含み，1～3層まではかなり硬い層位を示し，一部撹乱により掘方は確認できないが，6層の黒褐色より掘り込まれていると想定される。

SK004以降は地区別あるいは形態的に20のグループに分割して叙述する。

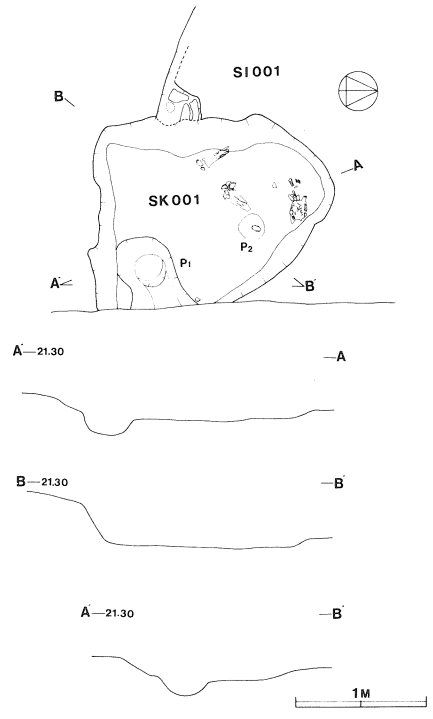
1. C 9区の東北に確認された一群(第187図)

C 9区の東北部に一群をなして位置し，形態的に不定楕円形をなすもの(SK004・008・009)と，長方形状をなすもの(SK005～007)とに分類できる。

不定楕円形のSK004はやや北側に位置し,長径1.22m・短径0.85m・深さ0.22mを測り,覆土はローム粒子を含む2層よりなり，暗褐色土・褐色土の堆積であり，床はそれほど堅いものではない。

SK008は長径1.13m・短径0.96m・深さ0.38mほどでやや斜めに立ちあがり，床はそれほど堅いものではない。

SK009は長径1.46m・短径0.8m・深さ0.16mほどで壁はなだらかに立ちあがり，東側がSK008と接して位置している。



第184図　SK001　実測図

覆土はSK 008と同質の土層をなし，ローム小ブロックを含みボソボソした暗褐色土の堆積である。

長方形状の平面形を呈するSK 005は長径1.52m・短径1.25mほどで，深さ0.20mを測り，壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。覆土はローム粒子と白色粘土粒子を含む暗褐色土層等で，床面にもわずかではあるが白色粘土を貼ったような状態を示している。

このような形態を示すものは，東部地区の西南部で確認されたSK241・242にみることができる。

SK006は西南方向を向く長方形の土壙で長径1.48m・短径0.57m・深さ0.4mほどを測り，西壁にオーバーハングしたピット状の小穴がある。覆土はロームブロックを含む柔らかい暗褐色土の1層のみである。

SK 007はSK 009の南側に位置し，長径1.7m・短径1.12m・深さ0.7mほどで床面より約80°の角度をなし外側に立ちあがる。覆土はローム小ブロックを含みややボソボソの暗褐色土層で，人為的に埋められたと考えられる。

以上の土壙群の遺物はわずかにSK 004・005に若干の土師器片を検出するが，流れ込みと考えられる。土壙の性格・時期については不明であるが，それほど古い時期のものではないと考えられる。白色粘土をわずかに貼ったような状態を呈するSK 005はそれほど深いものではないが，中世期に伴うものかとも考えられるが性格は不明である。

2. C 8区の南側に位置する一群

この地区に確認された土壙はSK 015～019（第189図），SK 020～023（第190図），SK 064～067（第197図），SK 069～070で，形態的には細長い長方形状を呈するもの①（SK 015・017）・長方形状を呈するもの②（SK 016・064～067・069・070）・不定形状で並ぶもの③（SK 018～023）に分類することができる。

① 細長い長方形状を呈するもの

SK 015（第188図） 本土壙はSI 014を切り込んで位置し東西に細長い土壙で，長径4.48m・短径0.77m・深さ約0.2m内外で底部よりゆるやかに外側に立ちあがり，東壁から床にかけてオーバーハングした小穴があり，南側はSB 006の柱穴を切り込んでいる。覆土はローム小ブロック等を含む柔らかい暗褐色土の1層からなる。中世期の建築址を切り込んでいることより，中世より新しい時期のものと考えられる。遺物は少量の土師器片を検出するが，流れ込みの土器片と考えられる。

SK 017（第189図） 本土壙はSI 009の北壁を切り込んで位置し，長径3.9m・短径0.76m・深さ0.15～0.19mほどで底部よりゆるい傾斜をもって立ちあがり，覆土はSK 015と同質的な

ものである。遺物は検出されていない。

② 長方形状を呈するもの

SK 016（第189図） 本土壙は西側にSK018が接して位置し，長径2.1m・短径0.82m・深さ0.71mほどで，ほぼ垂直ぎみに立ちあがり，覆土はローム小ブロック等を含み柔らかい暗褐色土層で人為的に埋められていると考えられる。遺物は検出されない。

SK 064（第197図） 本土壙はSI014・015の床を掘り込み，SK065を切り込んで位置し，長径1.9m・短径1.8m・深さ0.64mほどで，壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。

SK 065（第197図） 本土壙はSK066を掘り込み，SK064によって位置している。長径は2.27m・短径0.75m・深さ0.34mほどで，壁の南側はSK064に切られているが，北壁はややゆるやかに外側に立ちあがる。

SK 066（第197図） 本土壙は西側をSK067に切られ，東側をSK064・065によって切られ，形状は不明である。深さは11cmほどでゆるやかに外側に立ちあがる。SI014のカマドを切っていると考えられる。

SK 067（第197図） 本土壙はSI014・015と重複し，壁を掘り込んでいる。長径1.74m・短径0.92m・深さ0.71mほどで，壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがり，床面はやや堅く平坦をなしている。以上遺物等は検出されていない。

SK064～067の土壙は重複関係をもつが，時期的に同時期あるいはその前後と考えられる新しい土壙である。

③ 不定形状をなしほぼ並んで確認されたもの

SK 018（第189図） 本土壙は東側にSK016，西側にSK019があり，その中間に位置している。不定形であるがA・B・Cの3つの土壙が重複したものと考えられる。Aは長方形状で長径1.4m・短径0.70mほどで壁は重複しているが，東壁は0.37mを測りほぼ垂直に立ちあがる。BとCは重複していると考えられるが土層は同質のもので新旧は明確でない。

SK 019（第189図） 本土壙は形態的には②に入るが，底面および壁がやや不定なので③に入れる。SI008の東南コーナー部とSI022の同コーナーを掘り込んで位置し，西南の一段高い平場はSI022の床面と考えられ，その北側の溝はSI008の壁側溝と考えられる。長径は2.3m・短径は0.94m・深さは0.47mほどで壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。

SK 020（第190図） 本土壙はSI014の東側に並ぶ一群である。東側はSK021に接して位置している。長径は1.16m・短径0.63m・深さ0.23m，壁は床面よりゆるやかに立ちあがる。床は凹凸がみられ，北側に小穴がみられる。覆土はロームブロックを含みボソボソの暗褐色土である。

SK 021（第190図） 本土壙は東側のSK022に接して位置し，A・Bの2つに分けられる。

Aの長径は1.33m・短径は0.58m・深さは0.3mほどで，南側のBの一部を切っている。Bは長径1.24m・短径0.66m・深さ0.2mほどを測り，AとBの間にピット状のものがある。覆土は大粒のロームブロックを含む暗褐色土である。

SK 022（第190図）　本土壙は西側のSK021と重複しその新旧は不明である。A・Bの2つに分けられる。Aは長径1.9m・短径0.8m・深さ0.4mほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。BはAによって切られていると考えられるが，土層断面をみると切り合いはみあたらない。Bは長径1.3m・短径0.3m・深さ0.2m，Aに対するステップ的なものとも考えられる。覆土はSK021とさほど変わらない。

SK 023（第190図）　本土壙はSK022の東側に位置し，長径1.55m・短径0.75mほどの長方形状の平面形を呈し，深さ0.23mほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。

覆土はSK020～023まではほぼ同質土のものと考えられ，荒いロームブロック等を含み柔らかく，人為的に埋めもどされていると考えられ，時期的にはごく新しいものと考えられ，性格はイモ穴的なものと考えられる。

3. C8区の西北端に位置する一群｛SK025～036（但しSK033を除く）・SK071｝

大型の長方形状をなすもの①（SK025・026），長方形状をなすもの②（SK027～031・035），方形状のもの③（SK032・034），細長い長方形状のもの④（SK036・071）

①　大型の長方形状をなすもの

SK 025（第190図）　本土壙は北端部に位置しSK027と重複し，SK025の北壁ぎわにSK032が切り込んで位置する。長径3.07m・短径1.86m・深さ0.35mほどで壁はほぼ垂直に立ちあがる。覆土はロームブロック・ローム粒子を少量含む褐色土層である。

SK 026（第192図）　本土壙はSI006の北側に掘り込み，SK028・SK034と重複関係にある。長径2.31m・短径1.8m・深さ0.3m内外で壁はほぼ垂直に立ちあがり，床面はやや北側に傾斜している。東北コーナーをSK034が切り，西北コーナーをSK028が切り込んでいる。

②　長方形状をなすもの

SK 027（第190図）　本土壙は西側のSK032とSK025が重複して位置し，東側はSK031に接している。3つの土壙に分けて計測する。Aは長径2.7m・短径1.0m，Bは長径1.3m・短径1.16m，Cは長径0.82m・短径0.8mほどで底面のレベル差はさほどみられない。新旧関係はCをBが切り，BをAが切り，さらにAをSK032が切って位置している。明確な形状はわからない。

SK 028（第192図）　本土壙は西側にSK029が重複し，東側にSK026が位置し，SK029の新旧関係は同質土のため検出できず，SK026はSK028によって切られている。長径は

2.3 m・短径は0.94 m・深さは0.3～0.46 mほどで，北側は根切り溝によって掘られている。覆土は2層よりなり，ローム小ブロック・ローム粒子を含む暗褐色土層からなる。

SK 029（第192図）　本土壙は東側にSK028が重複し，西側はSK030が接近して位置している。長径3.24 m・短径0.8 mほどを測りほぼ垂直ぎみに立ちあがる。覆土はSK029と同質である。

SK 030（第191図）　本土壙は西側のSK035と重複し，南壁にSK036が重複し，新旧関係は不明である。短径は0.9 mを測るが長径は不明である。深さ0.45～0.5 mほどで垂直に立ちあがる。覆土はローム小ブロック等を含む暗褐色でSK036と同堆積を示している。

SK 035（第191図）　本土壙は東側はSK030と重複しており，西側は調査区域外に延びていると考えられる。

長径は不明で，短径1.3 m・深さ0.46 mほどでほぼ垂直に立ちあがる。覆土はローム小ブロックを含む暗褐色のみである。

SK 031（第191図）　本土壙は東西にほぼ並ぶこの一群の東端に位置し，SK027に接している。不定形であり，A・Bの2つに分けて計測する。Aの長径は2.9 m・短径は0.65 m・深さは0.2 m内外で長方形状を呈していると考えられ，Bは長径1.9 m・短径1.1 m・深さ0.2 mほどでAによって切られていると考えられる。

③　方形状をなすもの

SK 032（第190図）　本土壙はSK025の北壁ぎわを掘り込んで位置し，東壁はSK027に接している。西壁はわずかにオーバーハングしている。規模は長径0.74 m・短径0.53 m・深さ0.5 mほどでやや斜めに立ちあがる。掘り込みは上面0.9 mの幅をもちSK025を切り込み，覆土はローム小ブロック等を含む褐色土が南側より堆積している。性格は不明である。

SK 034（第192図）　本土壙はSK026の東北コーナーを掘り込んで位置し，東側はSK025に接している。長径は1.35 m・短径1.2 m・深さ0.24 mほどでやや長方形状を呈している。覆土はボソボソした暗褐色土のみである。

④　細長い長方形状のもの

SK 036（第191図）　本土壙はSK030と重複し，西南に延びSI008とSI022の住居の一部を掘り込んで位置している。

長径6.5 m・短径1.0 m・深さ0.48 mほどでほぼ垂直に立ちあがる。覆土はローム小ブロックを含む柔らかい暗褐色土である。櫓台部と想定される土塁状の遺構の東側に位置しているが，城郭に伴う遺構と考えるには覆土堆積状態が柔らかく，他の土壙と同質土であり，新しい時期のものと考えた方が良いと思われる。

SK 071　本土壙は櫓台部分と想定される土塁状遺構のじき脇に確認され，SI022と重

複している。南側に方形状の掘り方が検出されている。長径は4.2ｍ・短径は0.6ｍ，深さは南側が傾斜を示し，0.18～0.48ｍで方形状のプランに接している。同遺構はＳＫ036と同様なものと考えられる。

以上Ｃ９の西北端に位置する一群は最近の農業用の貯蔵穴と考えられるが，SK025・SK026は不明である。

4. Ｄ８区の中央に位置する一群（SK037・SK042～045・SK051・SK077～078・SK118～122）

①南北に長い長方形状のもの（SK039・042・043・045・119），②細長い長方形状のもの（SK044），③長方形あるいは方形状のもの（SK037・077・078・116・118・121・122），④楕円形状のもの（SK051・120）

①　南北に長い長方形状のもの

SK 039（第192図）　本土壙はＳＫ045の北側1.3ｍに確認され，細長い長方形状の土壙ＳＫ044の東2.5ｍに位置している。

規模は長径2.2ｍ・短径1.0ｍ・深さ0.18ｍ，壁はほぼ垂直に立ちあがり，覆土はローム小ブロックを含むボソボソの暗褐色土である。

SK 042　本土壙はＳＩ021の北壁を切り込んで位置し，西側にＳＢ014のP_4（SK186）に接している。

規模は長径1.15ｍ・短径0.8ｍである。

SK 043（第193図）　本土壙はＤ８区のほぼ中央にあり，ＳＫ045に接して確認され，東側にＳＫ041が接して位置する。

規模は長径1.85ｍ・短径0.7ｍ・深さ0.2ｍほどを測り，覆土は暗褐色土の１層のみである。

SK 045（第193図）　本土壙はＳＩ027の東北コーナーを切り込んで位置し，東側でＳＫ043に接して位置している。

規模は長径3.45ｍ・短径0.95ｍ・深さ0.7ｍほどを測り，壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。

覆土はローム小ブロックを含む暗褐色土の２層に分けられる。新旧関係は明確ではないが，ＳＫ043をＳＫ045が切っていると想定される。

SK 119（第205図）　本土壙はＳＫ045・043の東方約２ｍほどに確認され，南側にＳＫ118が接して位置する。本土壙はＡ・Ｂの２つに分けられ，ＡがＢの東側を掘り込み，Ａは長径1.42ｍ・短径1.38ｍ・深さ0.6ｍほどで壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。覆土はローム小ブロック・粒子を含む柔らかい暗褐色土である。

② 細長い長方形状のもの

SK 044（第194図） 本土壙はＳＩ021の東側に確認され，ＳＩ027の東北壁を切り込んで位置する。規模は長径4.9ｍ・短径0.8ｍ・深さは浅く0.05～0.12ｍほどを測る。壁はゆるく外側に立ちあがり，覆土はローム小ブロック等を含むボソボソの暗褐色土のみである。

③ 長方形あるいは方形状のもの

SK 037（第205図） 本土壙はＳＫ149と重複して確認され，新旧関係はＳＫ037がＳＫ149を切っている。形は台形状の長方形で南にやや張りだしている。長径1.3ｍ・短径1.0ｍで深さは0.15ｍ内外である。覆土はローム小ブロックを含むボソボソの暗褐色土である。

SK 077（第198図） 本土壙はＳＢ008のP_2の南側に接して確認され，ＳＢ009の西側に接して位置する。Ａ・Ｂの２つに分けられ，Ａの長径は1.6ｍ・短径は0.97ｍ・深さは0.34ｍ，Ｂは長径1.27ｍ・短径0.8ｍ・深さ0.4～0.6ｍほどで，やや擂鉢状をなしている。 覆土はローム小ブロック等を含むボソボソの暗褐色土である。

SK 078（第198図） 本土壙はＳＢ008のP_3（ＳＫ038）に重複して確認され，東側１ｍにＳＫ077が位置している。

規模は長径1.37ｍ・短径1.2ｍの長方形状を呈し，深さ0.35ｍほどを測り床より約60°で立ちあがる。覆土は柔らかい黒褐色土・暗褐色土よりなる。

SK 116（第201図） 本土壙はＳＫ045の南側0.5ｍに確認され，ＳＩ027の東側に位置する。規模は長径1.47ｍ・短径0.6ｍ・深さ0.3ｍ内外で壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。 覆土はＳＫ078とほぼ同質土である。

SK 118（第202図） 本土壙はＳＫ119の南側に接して確認され，長径1.0ｍ・短径0.96ｍ・深さ0.34ｍほどを測る方形状の平面形を呈している。

SK 121・SK 122（第202図） 本土壙はＳＢ009の南側に確認された土壙でＳＫ121はＳＢ009－P_2に接し，ＳＫ122はＳＩ026の西側に位置する。規模はＳＫ121は長径0.87ｍ・短径0.84ｍ・深さ0.1ｍ，ＳＫ122は長径1.0ｍ・短径0.72ｍ・深さ0.36ｍほどの方形状の平面形を呈し，壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。

④ 楕円形状のもの

SK 051（第195図） 本土壙はＳＢ009内の中央やや南側に確認され，東側に半楕円形状の段をなす。

楕円形状のものをＢとし，半楕円形状のものをＡとする。Ｂの長径は1.44ｍ・短径は1.3ｍ・深さは0.6ｍ，Ａの長径は1.35ｍ・短径は0.6ｍ・深さは0.25ｍ，覆土はロームブロックを多く含む褐色土の１層のみで，ＡとＢの新旧は明確でなく，ＢがＡを切っているとも考えられるが，ＡはＢのステップ的なものとも考えられる。

以上の土壙群は時期的にはごく新しいものと考えられる。SK044の細長い長方形状は北側のSK015・SK017と同形態を呈していると考えられるが，性格は不明である。

5. C 9区の東南に位置する一群（SK046～050・062・063）

①長方形あるいは不定長方形状のもの（SK046～048・050・062・063），②方形状のもの（SK049）とに分類できる。

① 長方形あるいは不定長方形状のもの

SK 046（第193図） 本土壙はC 9区の東南端斜面に確認され，西側にSK048，南側にSK047が接して位置している。長径は1.58 m・短径は1.28 m・深さは西壁で0.34 mを測り，東側は斜面に接する。覆土はローム粒子を含み柔らかい暗褐色土で，西より東へ流れ込んで堆積している。

SK 047（第193図） 本土壙はSH01の東端に接して位置し，北側にはSK046・048が接近して位置する。長径1.66 m・短径0.9 m・深さ0.4 mで壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。覆土はローム粒子を含む暗褐色土で壁ぎわは堅い。

SK 048（第193図） 本土壙はSK046とSK062にはさまれた位置に確認され，南側はSK047に接して位置する。

長径は1.7 m・短径1.06 m・深さは0.7 mほどを測りやや斜めに外側に立ちあがり，床はほぼ平坦をなす。覆土は3層からなり，第1層はわりあい柔らかく，第2・3層はローム粒子を多量に含み堅い。

SK 050（第194図） 本土壙はSH01の北斜面肩部に確認され，東側にSK062・SK048がほぼ同一直線上に並んで位置する。長径は3.4 m・短径は0.84 m・深さは0.8 mを測り，壁はほぼ垂直に立ちあがる。覆土は3層からなりローム粒子を含む黒褐色土で，第3層は堅く第1層に少量の炭化物が検出されている。

SK 062（第197図） 本土壙はSK048とSK050とを結ぶ直線上のほぼ中間に位置し，SH01をはさんだ南側に同形態のSK063が位置している。長径は2.03 m・短径は0.88 m・深さは0.6 mほどで壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがり，覆土はローム粒子等を含む暗褐色土である。

SK 063（第194図） 本土壙はSH01の東端・堀の南側斜面に位置し，長径1.57 m・短径0.75 m・深さ0.3～0.54 mを測り，壁は垂直に立ちあがる。覆土は第1層がローム小ブロックを含む褐色土で少量の粘土ブロックを含み，第2層はややボソボソした暗褐色土である。

② 方形状のもの

SK 049（第194図） 本土壙はSH01の東端の北側肩部に確認され，長径0.87 m・短径0.8 mほどで深さは1.5 m内外を測る。東南コーナーの床面にピットが確認され，覆土はローム

粒子を含む褐色土が2層確認されるのみである。城郭に伴うつり橋の橋脚とも考えられるが，堀の向かいのSK063とは形態が異なる。

6. D9区南側でSH01に接して位置する一群（SK012～014・SK202・203・209）

①方形あるいは長方形のもの（SK012～014），②不定形あるいは楕円形状のもの（SK202・203・209）

① 方形あるいは長方形のもの

SK012（第188図） 本土壙はSH01の橋脚部の北側にSK013とほぼ並んで確認され，SI025の南コーナーに接して位置している。長径は1.24m・短径は1.02m・深さは0.4mほどで壁はほぼ垂直に立ちあがり，床はほぼ平坦で堅いロームである。鉄製刀子が床面よりやや浮いた状態で検出されている。刀子（第268図－19）は，最大長24.3cm・刃部は16.8cm・刃幅1.1～1.25cm・厚さ0.5cmを測り，N－61°－Wを向いて検出された。

覆土は3層よりなり，第1・2層はローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土で，南壁よりの第3層はローム粒子・ロームブロックを多く含むボソボソの暗褐色土層である。

SK013（第188図） 本土壙はSH01の北側1mにあり，西側は1.5mほどでSK012があり，東北1mでSK014が位置している。長径は0.9m・短径は0.85m・深さは0.21mほどで壁はややゆるい傾斜を示している。床面ほぼ中央にピットがみられ，土層断面上にも柱穴状の掘り方を呈している。覆土はローム粒子・ローム小ブロックを含む褐色土の2層からなる。

SK014（第188図） 本土壙はSH01の北側2.6mほどの位置に確認され，西南にSK013があり，北側にSI004が位置している。長径は0.9m・短径は0.85m・深さは0.5～0.6mほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床の中央やや東よりにピット状のものがみられ，柱痕状の掘り込みが看取される。覆土は第1層は褐色土で，第2層は暗褐色土で少量の粘土小ブロックを含んでいる。

以上の土壙は形態や配置からSH01に関連するものあるいは何らかの城郭に関連のある遺構が想定される。

② 不定形あるいは楕円形状のもの

SK202（第213図） 本土壙はSI025の床面を掘り込んで位置している。長径1.05m・短径0.8m・深さ0.2mほどで壁はゆるやかに立ちあがる。覆土は暗褐色土の2層からなり，やわらかい。

SK203（第213図） 本土壙はSI025の西南壁を掘り込みSK209に接して位置する。長径1.09m・短径0.9m・深さ0.15mほどを測り，壁・覆土等はSK202と同様である。

SK209（第213図） 本土壙はSI025の南北壁を掘り込み，南側のSH01の肩部に延び消

滅する。長径2.04ｍ・短径0.68ｍ・深さ0.23ｍほどを測り，床はＳＨ01の方向にゆるい傾斜を示している。

以上の土壙は遺物等も検出されず，掘り方も不定形であり，ごく新しい時期のものと考えられるが性格は不明である。

7. 東柵列斜面に位置する一群（ＳＫ054・055）

SK 054（第196図）　本土壙は柵列の北よりの斜面に確認され，西南1.4ｍほどにＳＫ010が位置している。長径は1.7ｍ・短径は0.8ｍほどの不定形で，深さは西壁で0.8ｍ，北側で0.3ｍを測るが，その後の調査により東壁は斜面に消滅する。覆土は6層に区分され，上層は黒褐色土のしまった土であり，下層に向かうにしたがいロームブロック等を多量に含みややもろい土質である。

SK 055（第195図）　本土壙は柵列の南方斜面に確認され，ＳＫ054とほぼ同形態を呈している。長径は1.16ｍ・短径は0.79ｍ・深さは0.4ｍほどの楕円形状の平面形を呈し，西壁は約60°～70°の角度を有し立ちあがるが，東側は斜面に接している。底面は東西の壁ぎわにわずかの凹をなしている。覆土は4層からなり，暗褐色・褐色土であるが，第2層にロームが流入している。

8. 主郭部東側の掘立柱建築遺構群の付近に位置する一群（ＳＫ010・011・ＳＫ056～061）

SK 010（第187図）　本土壙は柵列状遺構の西斜面上に確認され，西方3.3ｍほどにＳＢ002があり西南3ｍほどでＳＢ001の東北部に位置する。長径は1.6ｍ・短径は1.5ｍほどの楕円形状の平面形を呈し，南側外辺部がやや張りだしている。深さは1.07ｍを測り擂鉢状を呈している。覆土はローム小ブロック・ローム粒子を少量含む褐色土が主であるが，上面の1ａ層からは少量の炭化物を検出する。

SK 011（第197図）　本土壙はＳＢ002の西北コーナーに確認された長径1.82ｍ・短径1.6ｍほどの楕円形の平面形を呈し，東南外辺部がやや張りだし浅いステップ状の段状をなしている。深さは0.4ｍほどを測り，床はほぼ平坦をなす堅いロームで，壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。覆土はローム粒子・ローム小ブロックを含む褐色土層で，第1ａ層に微量の炭化物を検出する。

SK 056（第195図）　本土壙はＳＢ003の西方約2ｍに確認され，ＳＩ023の東南コーナー壁を切り込んで位置し，ＳＢ002が南方1ｍほどで接近して位置している。長径は0.86ｍ，短径は0.73ｍ・深さは0.4ｍほどを測る楕円形状の平面形を呈している。覆土はロームブロックを含む黒褐色土の1層からなる。

SK 057（第195図）　本土壙はＳＢ002の西北コーナーP_3に接して確認され，北側1ｍで同

形態のSK056が位置している。規模は長径0.79m・短径0.77m・深さ0.42mほどの方形状の平面形を呈し，床はほぼ平坦で壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。覆土はSK056と同質土の黒褐色土である。

SK 058（第196図）　本土壙はSB004・005のP_7北側に接して位置している。規模は長径1.15m・短径0.94m・深さ0.52mほどで，南外辺部がやや張りだす長方形状を呈している。床はほぼ平坦なロームで壁はやや斜めに外側に立ちあがる。覆土は第1層が極暗褐色土で，第2層が黒褐色土でともに柔らかく，底面は暗褐色土が堆積している。

SK 059（第196図）　本土壙は重複するSB004・005のP_8の東側に接して位置し，東南1mほどにSK061が位置する。規模は長径0.78m・短径0.72m・深さ0.2mほどの方形状の平面形を呈し，壁・床ともなだらかで軟弱である。

SK 060（第196図）　本土壙はD9区の東北側斜面上に確認され，西南2mほどで重複するSB004・005が位置している。規模は長径1.03m・短径0.55m・深さ0.4～0.55mほどの東に長い長方形状の平面形を呈し床はほぼ平坦で，壁は東壁が斜面で浅く垂直ぎみに立ちあがり，西壁は底面より80°で立ちあがる。覆土はロームブロックを含む柔らかい暗褐色土である。

SK 061（第197図）　本土壙はSB004・005の東側1.5mほどに確認され，規模は長径0.97m・短径0.91m・深さ0.4m，やや楕円形状の方形である。壁は斜めに外側に立ちあがる。覆土は4層に区分されるが，ローム小ブロックを含む柔らかい暗褐色である。

以上の土壙群は掘り方は長方形ないしは方形状をなすもの，楕円形状をなすものがあり，建築址との関連も考慮されるが，配置的には不規則であり，時期等については不明である。SK010は擂鉢状をなし貯水池，あるいは他の遺構とも考えられるが，井戸とするには床・壁ともにローム中にあり，それほど深くなく井戸等とは考えられない。主郭部では他に井戸と考えられるものが検出されていない。

9. D8区の西北に位置する一群（SK072～075・SK148）

SK 072～075（第198図）　SK074はややはなれているが，SK072・073・075は重複して位置し，東南にSK148が接近して位置する。新旧関係はSK073がSK075を切り，さらにSK072がその上に築かれている。

規模はSK072は不明であるがSK073は長径1.2m・短径1.13mの方形状の平面形を呈し，深さは0.49～0.57mほどで壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。　SK075は長径2.46m・短径0.64m・深さ0.2mほどの長方形状の平面形を呈している。

SK074は長径0.77m・短径0.5mの楕円形状の平面形を呈している。

SK 148（第205図）　本土壙はSB004・005の西側に確認され，南側にはSI023が，北側

にはSK072～075が位置している。規模は長径1.8m・短径1.12mの長方形状の平面形を呈し，壁はほとんどなく0.04～0.08mほどに留まる。床のほぼ中央を南北一直線上にピットが9個確認された。深さは中央部がやや深いほかはほぼ均一的であり，さほど大きなものではない。覆土は第1層が黒色土で，ピット内には暗褐色土が堆積している。本遺跡ではこの形態の土壙は類例をみない唯一のものである。

10. D8区の建築址群およびその周辺に位置する一群

C9区に確認された建築址群は北を向き，ほぼ整然としていたため重複はみられたが検出することは易かった。西側のD8区は多数の土壙群が密集してその確認作業を困難としていた。遺構確認面において建築址のプランを確認できるものに関しては柱痕の検出に努めたが，確認できないものについては1基の土壙としSK番号を付けて調査を実施する。

①SB006およびその付近に位置する一群(SK068・184)

SK068　本土壙はSB006－P_3に位置する柱穴と考えられ，長径1.2m・短径0.7mほどの長方形状の平面形をなし，深さ0.5mで床面よりほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床面も長方形状を呈している。

SK184(第210図)　本土壙はSB006の東に位置し，やや楕円形状を呈し壁は軟弱である。長径1.9m・短径1.0m・深さ0.2m，覆土はロームブロックを含む軟質の暗褐色土である。

②SB007の柱穴を形成する一群(SK163～165・169・170)

SK163(第207図)　本土壙はSB007のP_3であり，長径1.1m・短径1.0m・深さ0.73mを測る方形状の平面形を呈し，北壁にピット状のものを有している。覆土はロームブロックを含む褐色土が2層充填してあった。

SK164(第208図)　本土壙はSB007のP_2に位置し，東南にピット状の小穴を有している。長径2.0m・短径1.02mほどの長方形状の平面形を呈し，深さは0.67mを測りほぼ垂直ぎみに立ちあがる。覆土はロームブロック・黒色ブロックを含む暗褐色土層が充填してあった。

SK165(第207図)　本土壙はSI017の西南床面に確認され，SB007のP_1を形成している。長径1.17m・短径0.67mの長方形状の平面形を呈し，壁は深さ0.6mほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床面はそれほど平坦なものではない。覆土はロームブロック・黒色ブロックを含む褐色土が2層充填してあった。

SK169(第208図)　本土壙はSB007のP_7に位置し，長径1.29m・短径1.21mほどの長方形状の平面形を呈し，北外辺がやや張りだしている。覆土はローム小ブロック等を含む褐色土の2層からなる。

SK170(第208図)　本土壙はSB007の東北P_8に位置し，長径1.27m・短径0.95mほどで

東壁外辺がやや張りだした長方形状の平面形を呈している。深さ0.43ｍでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。覆土はローム小ブロック・黒色ブロックを含む褐色土が3層確認される。

③ＳＢ010に位置する一群（ＳＫ085・086・091～093・098・099）

ＳＫ085（第199図）はＳＢ010のP_7である。

ＳＫ086（第199図）はＳＢ010のP_6である。

ＳＫ091（第200図）はＳＢ010のP_1とP_8の中間やや南よりに位置する。

ＳＫ092（第200図）はＳＢ010のP_1である。

ＳＫ093（第200図）はＳＢ010のP_2である。

ＳＫ098（第200図）はＳＢ010のP_5である。

ＳＫ099（第200図）はＳＢ010のP_8である。

以上の土壙の中でＳＫ086は浅い扁平形をなし柱穴は明瞭でないが，他は長方形あるいは楕円形状を呈している。ＳＫ099はＳＩ020の西北壁を掘り込んで位置し，覆土中より元宝通宝が1枚検出されている。

④ＳＢ011に位置する一群（ＳＫ087・088・089・095・096・098・144・168）

ＳＫ087（第199図）はＳＢ011のP_6である。

ＳＫ088（第199図）はＳＢ011のP_7である。

ＳＫ089（第199図）はＳＢ011のP_1である。

ＳＫ095（第200図）はＳＢ011のP_3である。

ＳＫ096（第200図）はＳＢ011のP_4である。

ＳＫ098（第200図）はＳＢ011のP_5である。

ＳＫ144（第200図）はＳＢ011のP_2である。

ＳＫ168（第209図）はＳＢ011のP_8である。

以上の土壙の中でＳＫ168はＳＩ019の西壁南側を切り込み，ＳＫ085・086がＳＢ011のほぼ中央に位置している。ＳＫ098内にＳＢ010・ＳＢ011の柱穴が位置しているが新旧関係は不明である。掘り方は方形あるいは不定長方形状を呈している。

⑤ＳＢ012に位置する一群（ＳＫ140・142・155～160）

ＳＫ140（第204図）はＳＢ012のP_3である。

ＳＫ142（第205図）はＳＢ012のP_2である。

ＳＫ155（第206図）はＳＢ012のP_1である。

ＳＫ156（第206図）はＳＢ012のP_4である。

ＳＫ157（第207図）はＳＢ012のP_5である。

ＳＫ158（第207図）はＳＢ012のP_6である。

SK 159（第207図）はSB 012のP_7である。

SK 160（第207図）はSB 012のP_8である。

SK 140は不定形で扁平な土壙であり，西側のBが柱穴である。 SK 158はSI 009の西南コーナー床を切り込んでいる。長方形状の平面形を呈し建築址の内側壁よりに柱痕が位置していると想定され，SB012の西コーナーよりにSK 141（第204図），東北コーナー付近にSK 150（第206図），SK 151（第206図が位置し，床および壁も軟弱で何らかの撹乱と考えられる3基が確認されている。

⑥SB 013に位置する一群（SK 135～139・166・167・232）

SK 135（第203図）はSB 013のP_5である。

SK 136（第204図）はSB 013のP_6である。

SK 137（第204図）はSB 013のP_3である。

SK 138（第204図）はSB 013のP_7である。

SK 139（第204図）はSB 013のP_4である。

SK 166（第209図）はSB 013のP_2である。

SK 167（第209図）はSB 013のP_1である。

以上，長方形状の平面形を呈しやや深めに掘り込まれ，SK 137はSI 020のカマドの北側を掘り込み，SK 139はSI 020のP_4とほぼ重複したような形で掘り込んでいる。SB 013の西南側は柵列とも考えられる，不均等の間隔を有する小穴群に面している。SB 013の西側は約4mほどで傾斜地となり，西側の腰曲輪に面しSH01より北向する堀とほぼ同方向を向いて構築されていると想定される。

⑦SB 014に位置する一群（SK 082・083・090・124・152・153・154・186）

SK 082（第199図）はSB 014のP_2である。

SK 083（第199図）はSB 014のP_6である。

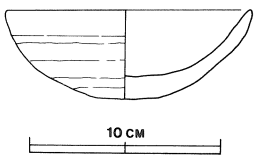
SK 090（第199図）はSB 014のP_5である。

SK 124（第202図）はSB 014のP_8である。

SK 152（第206図）はSB 014のP_3である。

SK 153（第206図）はSB 014のP_1である。

SK 154（第206図）はSB 014のP_7である。



第185図 SK053 出土遺物

北側に位置するSK 153はSI 019の東南コーナーを掘り込みSK 053と接して位置する。SK 124はSI 019の床中央にあり，SK 154はやや南壁よりに位置する。南側のSK 186はSI 021のカマドを切り込み，東側にはSK 042が重複して位置している。

SK 153と重複するSK 053（第185図）の壁面に本遺跡の土壙群の中ではほとんど完形の遺物

は検出されていないが，東南壁に土師器の完形の杯が出土している。底部はやや安定し，素縁の口縁が外傾して立ちあがる。口縁部を除く外面はヘラケズリ調整しているが，輪積みの痕が伺える。

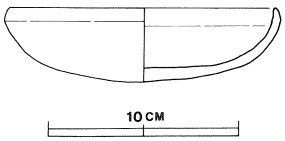
SK 154（第186図）からも，素縁で内傾する口縁部をもち，底部内面にはヘラミガキを行っている土師器の杯が1点出土している。

⑧SB 015に位置する一群（SK080・161・162・185・188・190・214・215）

SK 080はSB015のP_8である。

SK 161（第207図）はSB 015のP_6である。

SK 162（第207図）はSB015のP_7である。



第186図　SK 154　出土遺物

以上の土壙の中でSK 185・SK214・SK215はSI 019の中央床を掘り込み，SK 185はその西側にも長方形状の掘り込みがみられる。SK 190はSI 035のコーナー部に位置し，東南側にピットの掘り込みが看取される。SK 161にも同様なピットが確認される。さらにSK 080の西に接して位置するSK 187もSK 185と同様の長方形状の掘り込みがみられ，掘り直ししているものとも考えられるが，新旧関係は同質土の為検出できなかった。

SB 015の東側約2mに重複したSK037・149（第208図）が確認され，新旧関係はSK037がSK 149を掘り込んでいる。形状は不定形で深さは浅く，覆土はローム小ブロックを含むボソボソの暗褐色土でSBには伴わない新しい時期の撹乱と考えられる。SK 080の東側にほぼ接して位置するSK 076（第198図）はA・Bの2つに分けられる土壙で，覆土はロームブロックを含むややボソボソの褐色土の堆積で，新しい時期のものと考えられる。SK 214の西側に接して確認されたSK 125は，SI 019の西壁を切り込む撹乱と考えられる。

11. 西柵列状遺構に位置する一群（SK 131 ～ 134・143・145・147）

主郭部の西端側に検出された10数個の小穴群である。SK 131（第203図），SK 145（第205図）は長方形状を示しているが他の土壙は不定長方形状を呈している。

SK 131とSK 132（第203図），SK 133・SK 143（第204図）はほぼ東西を向き，長い長方形の櫓（隅櫓）的なものとも考えられないでもないが，掘り方が不規則で不定形であり，図面上での想像の域を出ないものである。この部分の西側SK 132・SK 133の東脇を南北に通るピット列が6個ないし7個確認され，柵列のものと想定される。

12. 桝形部の西側に位置する一群（SK 052・127・129・130・193 ～ 197）

SK 052（第195図）　本土壙は桝形部の西南端に確認され，SI 034と重複し，カマドを切

り込んで位置している。長径1.98m・短径1.92mほどの楕円形状の平面形を呈し，深さ0.3～0.4mほどを測り，壁はゆるやかに立ちあがる。壁ぎわに多量に検出した焼土はSI034のカマドを破壊し，その残存と想定される。床は中央部がやや凹み堅いロームで，覆土はローム粒子・焼土を含む黒褐色土と暗褐色土である。性格・時期は不明である。

SK 129（第203図）　SK052の北側に確認され，SI034の北壁を切り込んで位置する。長径1.35m・短径0.9m・深さ0.83mを測り，長方形状の平面形を呈し，壁は深くほぼ垂直ぎみに立ちあがり，床面は平坦で堅い。覆土はローム小ブロック等を含む柔らかい暗褐色土である。

SK 130（第203図）　本土壙はSK196と接して位置し，長径1.24m・短径0.7m・深さは浅く0.1m内外である。覆土はローム小ブロックを含む暗褐色土で柔らかい。

SK 127（第203図）　本土壙はSI031の西北コーナーに接して位置する長径0.69m・短径0.65mほどの楕円形で，深さは0.4mでやや斜めに立ちあがる。覆土は暗褐色土である。

SK 194（第211図）　本土壙は桝形部の西側に位置し，SK129・130と同形態を呈する。覆土はローム小ブロックを多く含む暗褐色土である。

以上の土壙の性格はSK052とSK127は不明であるが他は近世の農業用の貯蔵穴と考えられる。

次に桝形部の西側にほぼ並んで確認されたSK193・195・196・197（第211図）は楕円形・不定形状であるが，ほぼ等間隔に並んでいる。しかしSK193はSI034の主柱穴の可能性が強い。さらにSH01にそいSK197の北方3.8mに円形のピットが位置し，そのピットからN－40°－W方向に三角形のSK117が2mで位置し，さらに同方向3mで楕円形のSK115，さらに1.4mで長方形のSK114等がSH01にそって確認されている。（ただしSK114に至ってはSH01の肩部より約2mほど距離を有する）しかしこれらの一群を桝形部の柵列と考えるのにSK197からの距離がありすぎる事が問題であり，さらに堀内の土層断面に現われているローム大ブロックを含む土塁の痕跡と想定される土層が確認されていることで，この桝形部の先端には土塁があったものとすれば柵列はあまり考えられず，他の何らかの性格をもつピットとも考えられる。

西側の橋脚部と想定される遺構の堀を越した対面北側に位置する長方形状のSK113は，床面もほぼ平坦をなす堅いロームで，橋に対する何らかの関係をもつ遺構の一部と考えられる。

13.　桝形部の北側に位置する一群（SK192・198～201・204～208）

同形態であるが2つに分けられる。①は西南より東北方向に直線的に並ぶ一群，②は南より北北西に並ぶ一群である。

①の西南より東北に並ぶ一群はSK192・199～201である。

SK 192（第210図）は南側が張り出す方形状を呈し，SI 028の西南コーナーを掘り込んで位置している。SK200（第211図はSI028の南コーナー床を掘り込み，SK199（第211図）はSI 028の主柱穴の南側に接して位置する。SK201はSI028とSI026とのほぼ中間位にあり，南側がやや張り出す方形状のものであり，形態的にはSK127・192・200・199・201という並びが想定されるが性格・時期については不明である。

SK 205 ～ 208（第213図）は南北にほぼ並んで位置しているが，床および壁面，掘り方も軟弱であり，規模も大小差がみられ，性格は不明である。

14. E 9区に位置する長方形状の一群（SK216 ～ 220・239・240・266a・b）

SK 216～220はほぼ東西に同一直線上に並ぶ土壙で，多少の重複関係がみられる。覆土はローム小ブロック等を含む暗褐色土で，農業用のイモ等の貯蔵穴と考えられる。SK216・217はSI 038の東コーナー部に重複して位置し，SK 218～220はSI 070の南を掘り込んで位置している。SK 216～220までが直線的に並び，SK266a・b（第223図）はSI 038の東北コーナー付近にSK 216群とほぼ直角に配置された形で検出されている。SK 069の南側に位置するSK 239・240もSK 216～220の土壙の性格とほぼ同じものと考えられる。

15. F 9区のほぼ中央に位置する一群（SK100 ～ 108）

①長方形状のもの（SK100・101・104・105・106・107・108），②不定形状のもの（SK102・103）

① 長方形状のもの

SK 100 本土壙はSI 047の東南コーナーを掘り込んで位置し，長径2.1 m・短径1.45 mの長方形状の平面形を呈し，深さ0.45～0.53 m，壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。覆土はローム小ブロックを含む暗褐色土である。

SK 101 本土壙はSK 102の東側に確認された長径1.4 m・短径1.1 mで東壁外辺がやや張り出す不定長方形状を呈し，深さ0.6～0.7 mで壁はゆるい傾斜を示している。覆土は5層に分けられ，ボソボソのローム小ブロックを含む暗褐色土である。

SK 104 ～ 107 本土壙はSI 049と重複して確認され，いずれも壁を切り込んで位置している。SK 104は同住居の東北コーナーに位置し，北側の細長いSK 103と重複している。SK 105は東南壁のほぼ中央部を東西方向に長い長方形状に掘り込み，SK 106は西北コーナーに位置し，SI 050と重複しSI 049とSI 050との重複関係をさらに不明確にしている。SK107は西北壁に位置している。

以上の土壙の覆土はローム小ブロック・ローム粒子を含む暗褐色土・褐色土からなり，土質

はやや軟弱であり，ごく新しい時期のものと考えられるが性格は不明である。

② 不定形状のもの

SK 102　本土壙はSI 049の北側に確認され，直南にSK 103が位置している。形状はやや長方形状をなしているが，西南壁側にピット状の凹がみられる。床・壁とも軟弱で，覆土はロームブロックを含み柔らかい。

SK 103　本土壙は細長い不定形状のもので，南側の長方形状のSK 104によって切られている。床・壁とも軟弱で，性格は不明である。

16. F 9区の南端に位置する一群（SK 109・211～213）

本土壙群はSI 052の南側2mほどに位置し，周辺には梅の木が数本みられ，南方6mで山崎家系の墓地が位置している。

SK 109・211～213（第213図）は重複する不定形状の土壙であり，新旧関係はSK 213をSK 212が掘り込み，さらにやや長方形状のSK 211がSK 212を掘り込んでいる。覆土はローム小ブロックを含む柔らかい暗褐色土・褐色土で，性格・時期は不明である。

17. C 8区の北端部に位置する不定形状の一群（SK 033・175～181・183）

SK 033（第191図），SK 175～181（第209図），SK 183（第210図）は西側に位置する③とは形態も異なり，不定楕円形状を呈し，ばらついて位置し壁および床も黒色土混じりの軟弱のものである。覆土も軟質の褐色土のブロックを含む柔らかい層からなり，撹乱的なものと想定されるが，SK 177の南より床面にピット状の小穴を有するものがみられる。性格・時期等は不明の土壙群である。

18. E 7区の東北SD 001の北側に位置する一群（SK 221～228・232～236）

①東西方向に並ぶ一群（SK 232～236），②南北に並ぶ一群（SK 221～228）に分けられる。

①のほぼ東西に並ぶ一群

SK 232・SK 233（第216図）はSI 079の南側に確認され，SD 001の北側に接して位置する。

SK 234（第217図）　本土壙はSD 001の北側に位置し，SK 233・SK 221にはさまれた位置に確認され，A・B・Cの3つに分けて計測した。A・Cはほぼ同レベルで，中央部Bがやや深い。覆土はほぼ同層であり切り合い関係は認められない。

SK 235はSK 221と重複しているためSK 221で記述する。

SK 236（第217図）　本土壙はSD 001の北側E 7 d 0に確認された不定形状の平面形を呈し，覆土はロームブロックを含む褐色土・暗褐色土が堆積している。

② 南北に並ぶ一群

SK 221（第214図） 本土壙は不定台形状をなし，東側の方形状のSK235を切り込んで位置し，覆土は暗褐色土でそれほど堅い土層ではなく，床・壁もなだらかで軟弱である。

SK 222・SK 223（第215図） 本土壙はSK 221の北側に位置し，SK 222とSK 223が重複して確認され，SK 223はさらに北側でSK 224と重複して位置している。平面形状は長方形状をなし，壁はほぼ垂直ぎみに立ちあがる。覆土はSK 222がロームブロックを含む暗褐色土で，SK 223はボソボソの感じの褐色土である。

SK 224・225（第215図） 本土壙はやや細長い長方形状で，SK224は東北を向き，SK 225は西北を向き，先端がSK 224に接して位置している。 両土壙は共に浅く中央部がやや窪み，SK 234は中央部がピット状をなし，北壁にもピット状の小穴をみる。

SK 227・228（第216図） 本土壙はD8j1に確認され，SK 227とSK 228とが重複し，SK 222ないしSK 223とほぼ同様な形態を呈している。SK 228はA・Bの2つに分けて計測したが，切り合い関係は認められない。床は平坦で壁は垂直に立ちあがる。

SK 227の覆土は2層の暗褐色土であるが，SK 228は3層の褐色土でロームブロック等を含む柔らかい層である。

以上の土壙群の中で，SK222・223・226～228は同形態を呈し，農業用の貯蔵穴と考えられる。SK 221・224・225については時期・性格は不明である。

19. D7区のほぼ平坦な平場に位置する一群（SK229・230）

SK 229（第216図） 本土壙はD7区の平坦な平場のほぼ先端に確認され，東西にやや長い長方形状を呈し，床面はそれほど平らなものではなく，壁もやや軟弱である。東コーナーにピット状のものがみられるが明瞭なものではない。覆土はローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土である。性格は不明である。

SK 230（第216図） 本土壙はD7区平場の東南の立ちあがりに近い所に確認された長方形状のもので，SK 229同様に壁・床等もそれほどしっかりしたものではない。 覆土はロームブロックを多く含む。

D7区の平坦な平場はSH 01とSH 03に面した位置にあり，表土からの深さは1.2mを測る。城郭に何らかの関係をもつ平場と考えられる。

20. E7区に確認された地下式土壙群を含む一群

①地下式土壙群{SK244・245（246）・264・238（243）・255（258）・259・247}，②白色粘土を貼る土壙（SK241・242・250），③長形状の土壙（SK248・251～254・256・257・260～263・

249）

以上の3つに分類される。

① 地下式土壙群

SK 238・SK 243（第218図） 本土壙はSI 082の西北壁を掘り込んで位置し，西南側にSK 243が位置し，西側のSK 254を切り込んで位置している。

規模は遺構確認面で長径3.1m・短径1.95mほどの不定形状を呈する暗褐色土が確認され，その後の調査により深さ約0.5mほどで北壁をオーバーハングした地下式土壙であることが確認された。南側のSK 243は確認面より0.9～1.16mほど垂直に掘り込み，床面はほぼ平担をなして南より北に傾斜を示し，2mほどでSK 238に接し，さらに0.7mほど掘り下げている。SK 238の床面は堅い平坦なロームで一辺1.78mの方形状を呈している。遺構確認面から床までの深さは1.84mを測り，地下室内の壁高は平らに調整されている。壁高は床面より1.3mほど垂直に立ちあがり，天井部に至っていると考えられる。覆土は大別して2層からなり，第1層は0.9～1.4mほど堆積し，さらに4層に細分される。ほとんどがロームブロックを含み，下層に向かうにしたがいロームブロックが多量に検出されており，天井部の崩落と考えられる。

遺物は，土師器・土師質土器・擂鉢等が少量，覆土中より出土している。

SK 243はSK 238に伴う施設と考えられ，SK 238が地下室，SK 243が竪坑部と想定される。

SK 244（第218図） 本土壙はSK 259の北側1.2mにあって，SK 245の東側1.4mに位置している。

確認面では長径2.3m・短径2.2mほどの方形ぎみの楕円形状をなし，遺構上面より0.6～0.7mの深さのところよりやや袋状に掘り込まれている。上面より床面までの深さは約2.4mを測る。

床面は長径2.7m，短径は東北壁で2.5m・西南壁で2mを測る台形状をなし，壁は床面より1.1mでほぼ垂直に造られ，それより上位でやや内向する。西南壁のほぼ中央部には幅0.9mほどの横穴が西南方向にあけられている。

覆土上層はロームブロックを含む暗褐色土，下層は褐色土でその成分により5区分される。第2b層には粘土ブロックを含み，第2c層はロームブロックを多量に含み，天井部の崩落したものと考えられる。

SK 245・246（第218図） 本土壙は土壙群の西北に位置し，東側にSK 244・SK 259が接近して位置している。

確認面での長径は3.9m・短径は2.85m（SK 246の短径1.76m）を測り，SK 246は竪坑部と考えられ，深さは1.57mでややゆるい段状をなしてSK 245の床へ続く。SK 245は地下室部

と考えられる。壁は垂直に立ちあがり，床面より1.9ｍで内彎し，さらに0.2ｍほど僅かに外反して確認面に達する。SK 246・245は確認面では隅丸の長方形状を呈しているが，床面は長径2.5ｍ・短径1.8ｍを測り，黒色土混じりの白色粘土を含むロームで堅く平坦であり，東壁やや北よりには幅0.6ｍほどの横穴が設けられている。この横穴は蒲鉾状をなしSK259方向を向いて位置する。

覆土は暗褐色土と褐色土の2層よりなり，さらに8区分される。第1ｃ層に木炭粒子を少量検出し，第2ｂ層には粘土ブロックを含み，さらに下層はロームブロックを多く含む。天井部は崩落している。

SK 259・247（第219図）　本土壙は東南にSK 250が重複し，北側にSK 244が位置し，西北にSK 245が位置している。

SK 247はSK 259の東南に重複して確認され，SK 259に切られているとも考えられる。

SK 259は確認面で西北側が隅丸状を示す長径2.5ｍ・短径2.2ｍの長方形状を呈している。

SK 247は長径2.1ｍ・短径1.7ｍの長方形状のものがSK 259に切られているのか，それともSK 259の竪坑的なものか不明であるが，竪坑にしては現在確認されているものの中では例をみない程浅く，確認面からの深さは0.9ｍ程である。

SK 259は確認面からの深さは2.2ｍを測り，SK 247との比高は1.3ｍである。壁は下位がやや弓なりに奥に凹むが，ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床面は長径2.4ｍ・短径1.8～2ｍの長方形状を呈し中央やや北よりに焼土および炭化物が浮いた状態で検出され，西北コーナーに馬の顎・歯等が検出されている。

SK 255・258（第219図）　本土壙はSI 082の南方1.3ｍに確認され，東側1.2ｍでSK 258が位置している。SK 255は地下式土壙の地下室部と考えられ，SK 258はその竪坑的なものと想定される。SK 258の南側には半円形状のＢ・Ｃがあるが切り合い関係は明瞭でない。

SK 258の規模は長径1.8ｍ・短径1.2ｍ・深さ2.23ｍを測り，SK 255と重複する部分は壁が張りだし，0.4～0.8ｍの間隔を有している。Ｂは深さ0.45～0.55ｍを測り，Ｃは0.2ｍほどで段状をなしている。

SK 255の確認面での長径は2.45ｍ・短径1.8ｍで，床面は長径2.4ｍ・短径1.7ｍの長方形状を呈し，ほぼ平坦をなす白色粘土混じりのロームで，壁は垂直に立ちあがる。

覆土は6層よりなり，第1層がａ・ｂに分けられる黒褐色土でａに微量の炭化物・焼土が検出されている。ロームブロックが多く検出される土層は第3・4・6層である。

SK 255とSK 258の床面のほぼ同レベルである。

SK 264（第219図）　本土壙はSD 009を掘り込んで確認され，確認面では長径1.4ｍ・短径1.23ｍほどの楕円形で，底面は長径1.8ｍ・短径1.4ｍの長方形を呈し，北壁の中央部に

横穴が西北向きに掘り込んでいる。壁は内側に内彎しながら立ちあがり，やや袋状をなし，床より確認面までの深さは1.7ｍである。

覆土は８層よりなり，ほとんどがロームブロックを含む褐色土・暗褐色土で，第７層がロームブロックを多く含む粘質のあるにぶい褐色土である。

②　白色粘土を貼ったような状態の土壙（SK241・SK242・SK250）

SK 241・242（第217図）　本土壙は地下式土壙群の南側のＳＤ007をはさんで南北に確認され，SK 241は楕円形で，SK 242は長方形状を呈している。覆土は浅く，ローム粒子を少量含む暗褐色土で，底面には灰褐色の白色粘土を貼ったような状態を呈している。

SK 250（第220図）　本土壙は北側のSK 247と南側のSK 253にはさまれ重複して位置する土壙で両土壙によって切られている。規模はSK 247・SK 253に切られ不明であるが，SK 241・242とほぼ同様のものと考えられる。この種のものはSH 01の以北では，長方形状のSK 005のみで現在まで４例しか確認されていない。性格は不明である。

③　長方形状の土壙群（SK248・249・251～254・256・257・260～263）

SK 248（第220図）　本土壙は東側にSK 251が切り合い，西側にSK 253が切り込み，南側はSK 260の西北コーナーを掘り込んで位置している。長径2.22ｍ・短径1.7ｍの長方形状を呈していると想定され，深さ0.7～0.8ｍを測り，垂直に立ちあがる。SK 251・253の床面比高は0.21ｍほどである。

SK 251・253（第220図）　本土壙はSK 248を掘り込んで東側にSK 251が西側にSK 253が位置し，SK 253の北側にはSK 250が位置している。

SK 251は長径2.08ｍ・短径1.68ｍの長方形状の平面形を呈し，東南壁の上面に約15°の角度を有する幅0.62ｍ・長さ1.2ｍほどの溝状のものがあり，さらに北側に楕円形状の掘り込みがみられるがこれは撹乱であると考えられる。床はほぼ平坦をなし，西壁と東南のほぼ中央部にピット状のものが位置している。深さはそれほど深いものではない。

SK 253は長径2.38ｍ・短径1.65ｍ・深さ1.18ｍを測るSK 251と同形態の土壙と考えられ，SK 251と並ぶ線上に位置し，床面のレベルもさほど変らない。ピットはSK 251より深く0.3ｍである。

SK 252・254（第221図）　本土壙はSI 082の西側に確認され，西北にSK 244が位置し，東南にSK 243が重複して位置する。

SK 252はSK 254によって切られているが，長方形状の平面形を呈するものと考えられ，SK 254は東南コーナーをSK 243によって切られている。SK 254の長径2.72ｍ・短径1.74ｍの長方形状の平面形を呈し，床は平坦で堅いロームからなり，壁は垂直に１ｍほど立ちあがる。

覆土はロームブロックを含む暗褐色土で，一部少量の粘土粒子を含む。

SK 256・257（第221図）　本土壙はSK 255の地下式土壙の東側1.2 mに確認され，SD 007の北側に位置している。

SK 256は不定形の浅い土壙で南側をSK 257によって切られていると考えられる。SK257は長径2.28 m・短径2 mの長方形状の平面形を呈し，北側がややSK 256の方に張り出している。

床は平坦をなし，ゆるやかに外側へ0.5 m程立ちあがり，角はやや丸みをおびている。

SK 249（第221図）　本土壙はSI 082の西南に確認され，北側には地下式土壙SK 238 が位置している。

規模は長径2.5 m・短径1.7 mの長方形状を呈し，壁は深さ0.7～0.8 mを測りほぼ垂直ぎみに立ちあがり，東南側と東北側がやや段状をなしている。覆土はローム粒子・ローム小ブロックを含む。第1層が黒褐色土で第2層が褐色土である。

SK 261・262（第222図）　本土壙はSD 007の北側1 mほどに重複して確認され，SK 261が切り込んでいる。SD 007をはさんだ南側にSK 263が位置している。

SK262は長径2.1 m・短径2mの方形状の平面形を呈し，壁は深さ1mを測り垂直に立ちあがる。

SK 261はSK 262の北側を掘り込み，長径2.5 m・短径1.9 m・深さ0.4 mでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。東北コーナーよりにピットが確認されている。

SK 261の覆土は1層であるが，SK 262は3層からなるが，さらにロームブロック・ローム小ブロックを含む7区に細分できる。

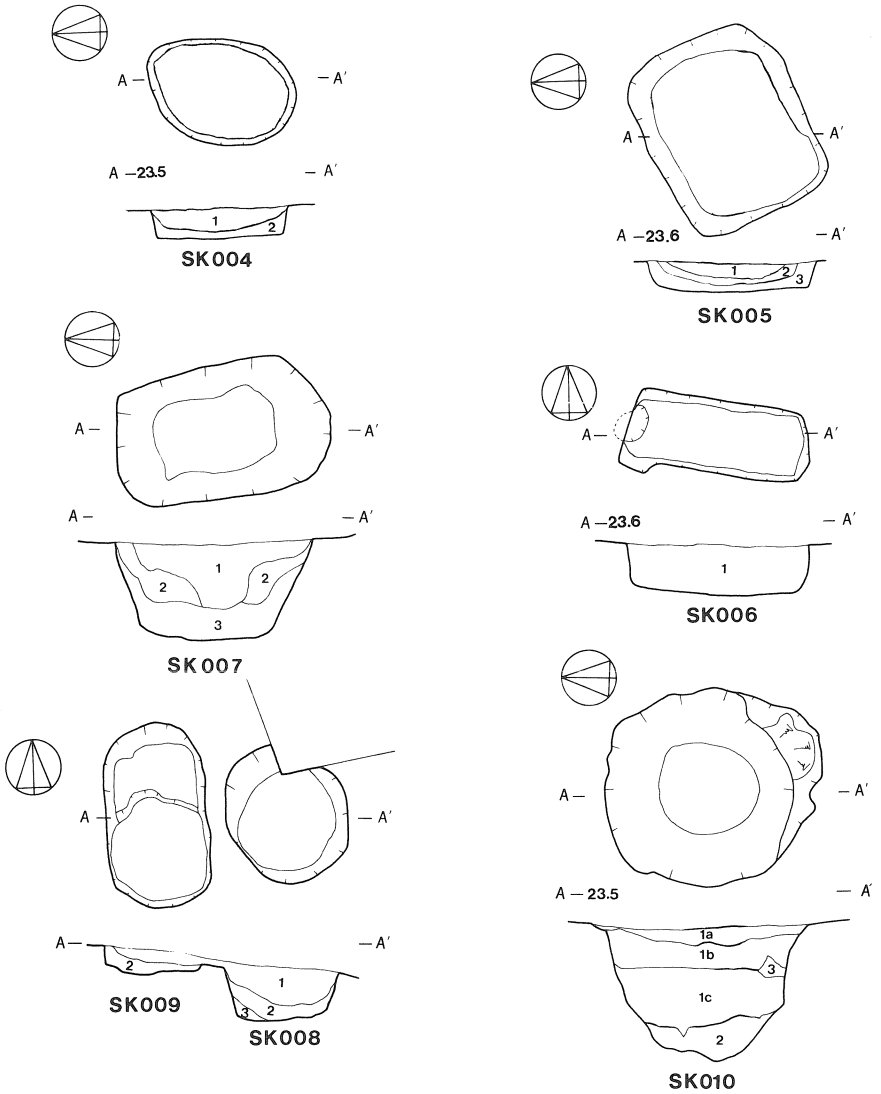
遺物は，陶器片等がごく少量出土している。

SK 263（第222図）　本土壙はSD 007の南方に位置し確認された地下式土壙群の南端部に位置している。規模は長径2.3 m・短径1.8 m・深さ0.8～0.93 mを測り，壁はほぼ垂直に立ちあがる。床面はほぼ平坦をなす堅いロームで，北よりにP_2～P_5のピットが確認され，西南壁ほぼ中央にP_1が位置している。

覆土はロームブロック・ローム粒子を含み，第1層は暗褐色土で第2層は褐色土が堆積していた。

遺物は土師質土器・陶器等の破片が少量ではあるが検出されている。

以上の地下式土壙および長方形状の土壙は，弓なり状のSD 001の南に位置し，重複関係より2期ないし3期の時期が考えられるが同時期あるいはその前後とも考えられる。出土遺物・土壙の型態より中世城郭に伴う時期の遺構と想定される。



S K 005　土層解説
1.　Hue 7.5Y R 2/3 極暗褐色　ローム粒子・白色粘土粒子を含む
2.　Hue 7.5Y R 3/3 暗　褐　色　白色粘土ブロックを含む
3.　Hue 7.5Y R 5/4 にぶい褐色　白色粘土ブロックを含む

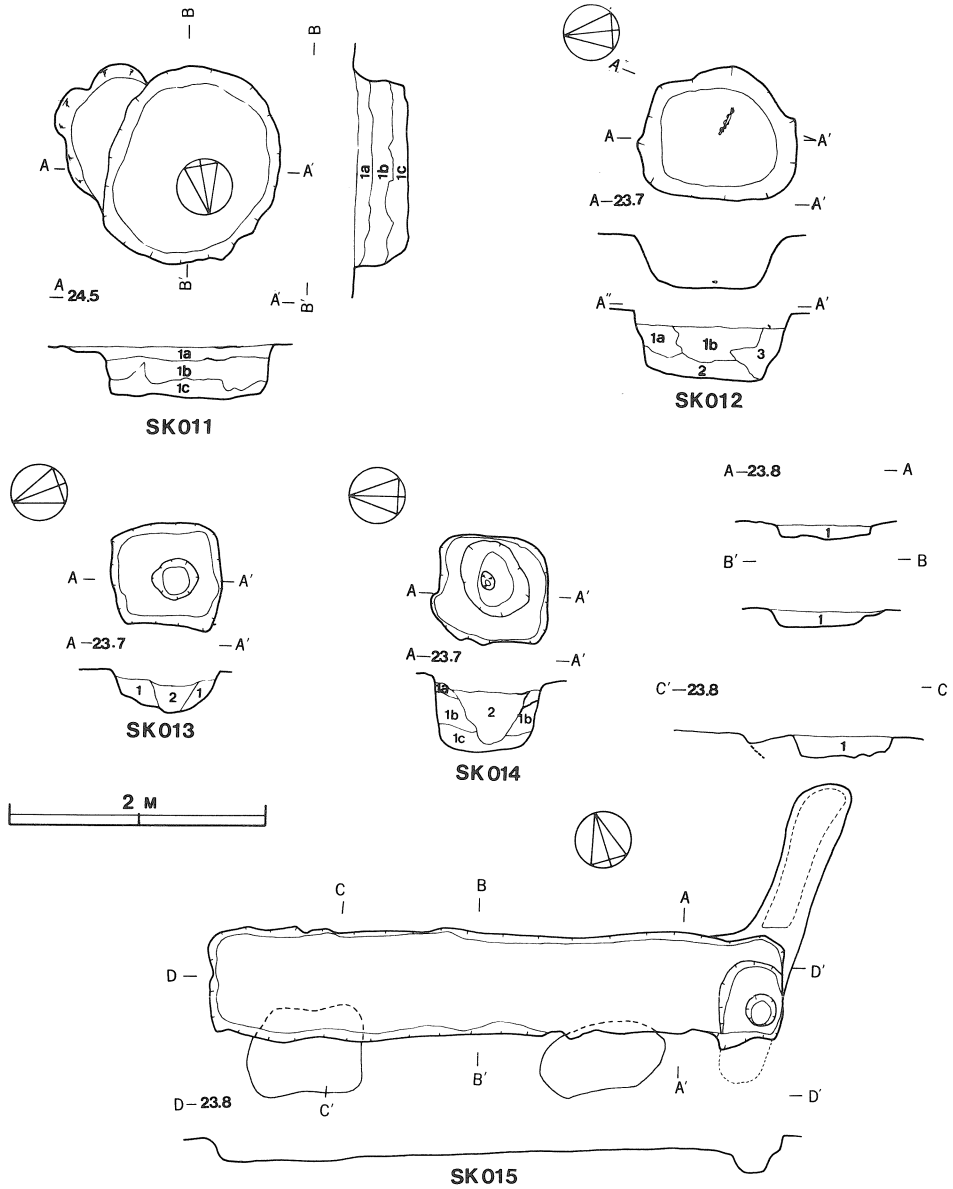
S K 004・006　土層解説
1.　Hue 7.5Y R 3/4 暗　褐　色　ローム粒子を含む
2.　Hue 7.5Y R 4/4 褐　　色　ローム粒子を多く含む

S K 007～009　土層解説
1.　Hue 7.5Y R 4/4 褐　　色　ローム小ブロックを含みややポソポソ
2.　Hue 7.5Y R 3/4 暗　褐　色　ローム小ブロックを含みポソポソ
3.　Hue 7.5Y R 2/3 極暗褐色　ローム小ブロックを含みポソポソ

S K 010　土層解説
1. a　Hue 7.5Y R 3/4　褐　色　ローム小ブロック(中)・ローム粒子(中)・カーボン(少)含む
　 b　Hue 7.5Y R 3/4　褐　色　ローム小ブロック(小)・ローム粒子(中)含む
　 c　Hue 7.5Y R 3/4　褐　色　ローム小ブロック(小)・ローム粒子(小)含む
2.　Hue 7.5Y R 4/3　褐　色　ローム粒子(小)含む
3.　Hue 7.5Y R 3/4　暗褐色　ローム粒子(小)含む

2 M

第187図　S K 実測図(1)

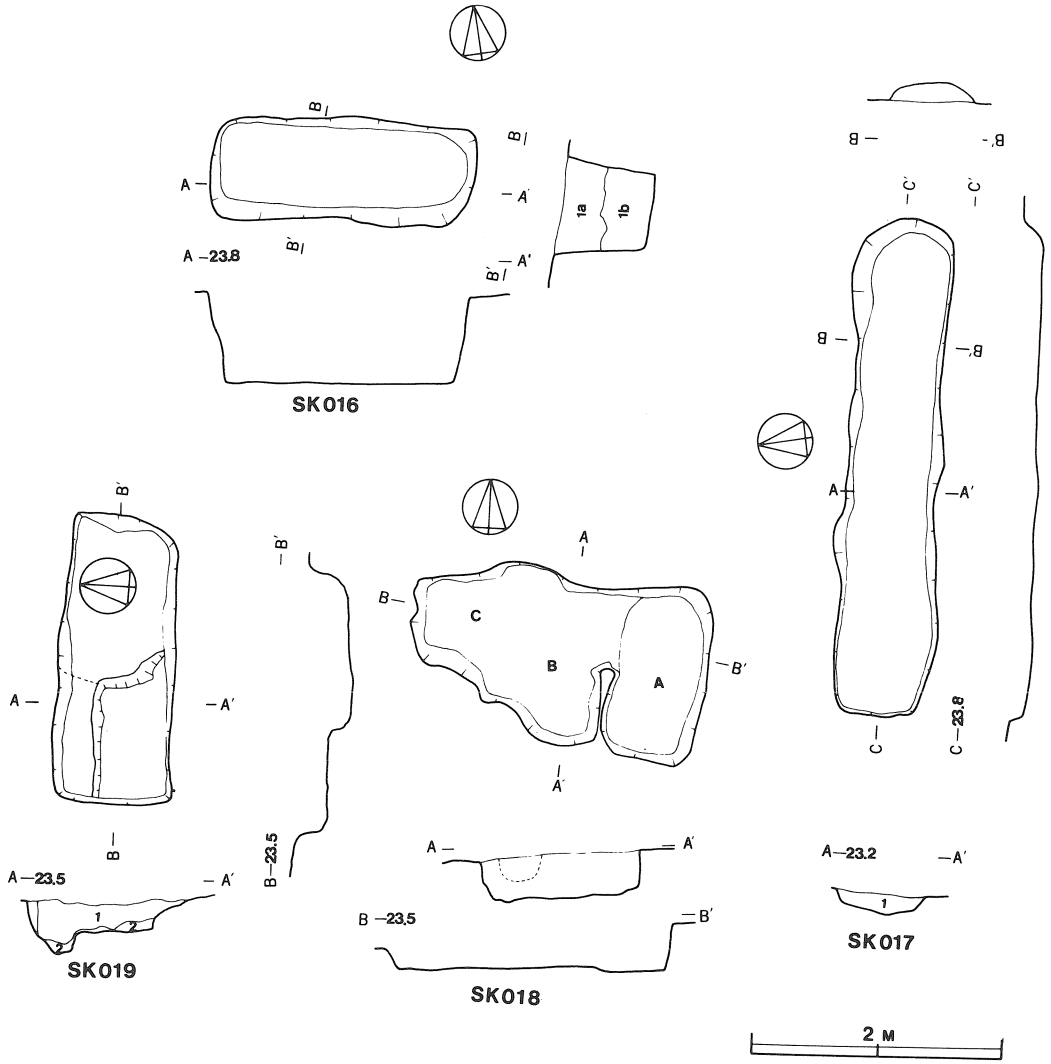


SK 011 土層解説
1. a Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム小ブロック(中)・ローム粒子(中)・カーボン粒子(少)・ロームブロック(少)
b Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中)
c Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)・ロームブロック(中)

SK 012 土層解説
1. a Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム粒子(中)・ローム小ブロック(少)
b Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム粒子(少)・ローム小ブロック
2. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム粒子(少)・ローム小ブロック(少)・ロームブロック(少)
3. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム粒子(少)・ローム小ブロック(多) 全体がボロボロした感じ

SK 014 土層解説
1. a Hue 7.5YR 3/6 褐 色 ローム粒子(少) ・ローム小ブロック(少) ・ロームブロック(少)
2 b Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム粒子(少) ・ローム小ブロック(少)
c Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム粒子(少) ・ローム小ブロック(少)
2. a Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム粒子(少) ・粘土小ブロック(少)

第188図 SK実測図(2)



SK 016 土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(中)・ローム小ブロック(中)・ローム粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック(中)・ローム粒子(少)

SK 017 土層解説

1.	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多) 全体にボソボソした感じ

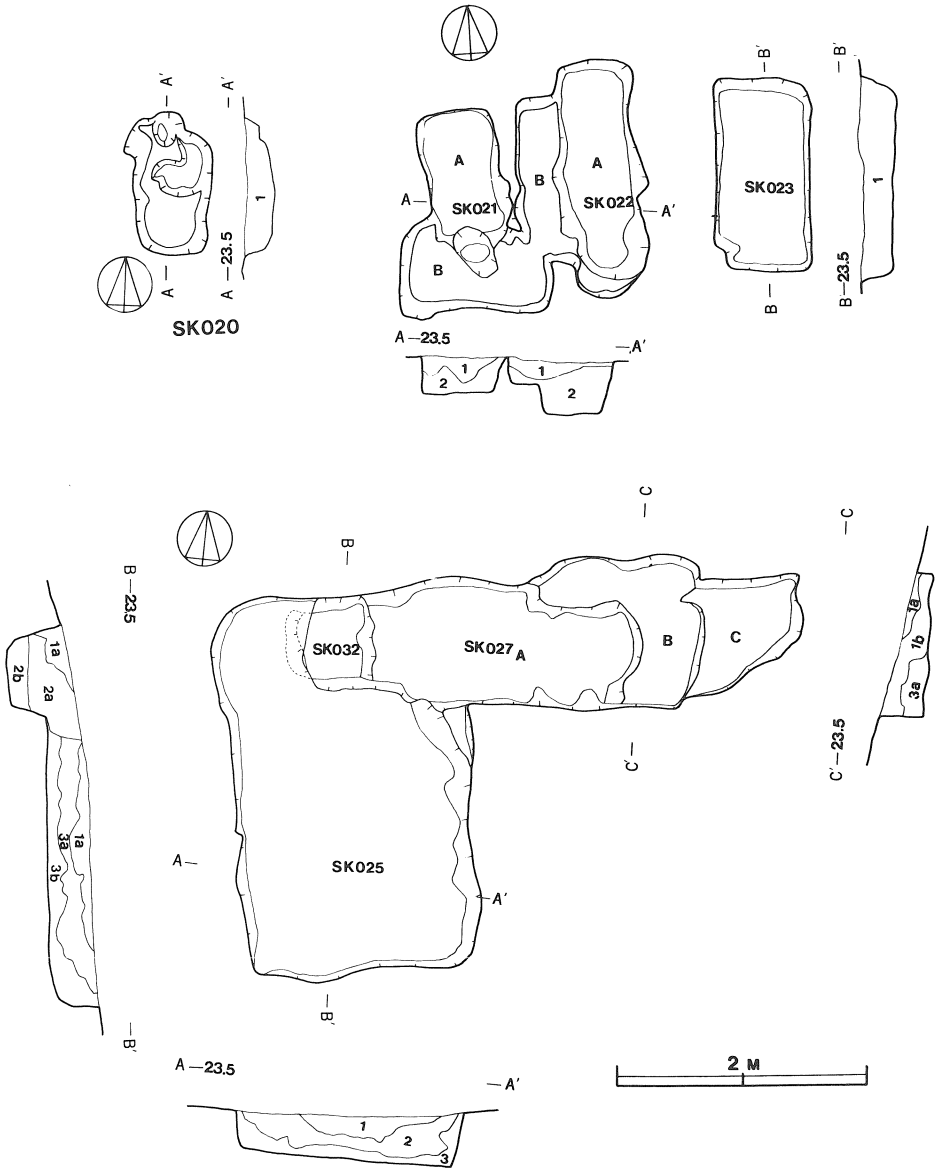
SK 018 土層解説

1.	Hue 7.5YR 2/3	黒褐色	黒色土の中に大小の粒が混量に混入している やわらかくもろい

SK 019 土層解説

1.	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームの粒がかなりはっきりと混入している しの草の根多量に入る,やわらかくもろい
2.	Hue 7.5YR 5/6	明褐色	ほとんどローム層でハードロームを混入している

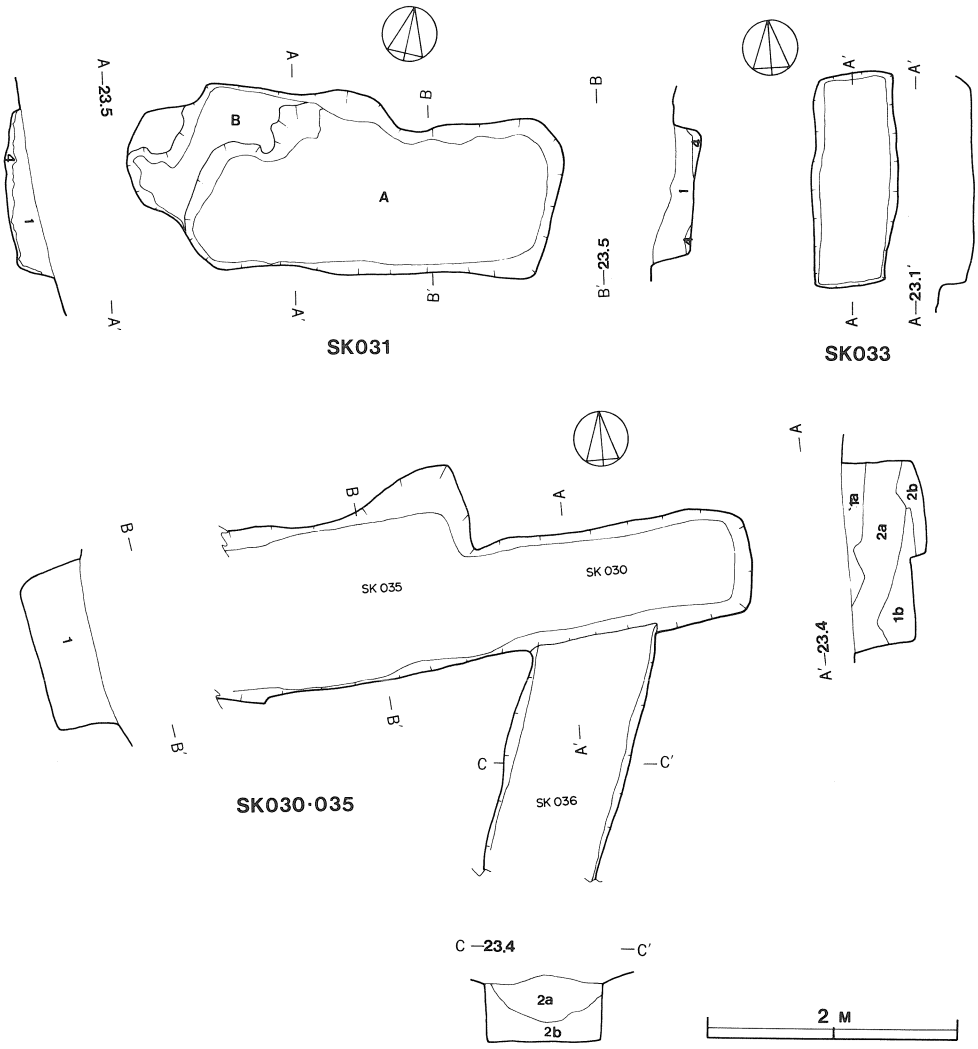
第189図　SK実測図(3)



S K 021～023　土層解説
1. Hue 7.5Y R 1/3　黒褐色　弾力のあるやわらかい土
2. Hue 7.5Y R 1/4　褐　色　ロームの粒子を多数含み，ハードローム状のかたまりも多数含む

S K 025･032　土層解説
1. Hue 10Y R 4/6　褐　色　軟質ロームブロック(少)・ローム粒子(少)
2. Hue 7.5Y R 4/4　褐　色　黒色ブロック(少)・ローム粒子(少)
3. Hue 7.5Y R 4/6　褐　色　ロームブロック(少)・ローム粒子(少)

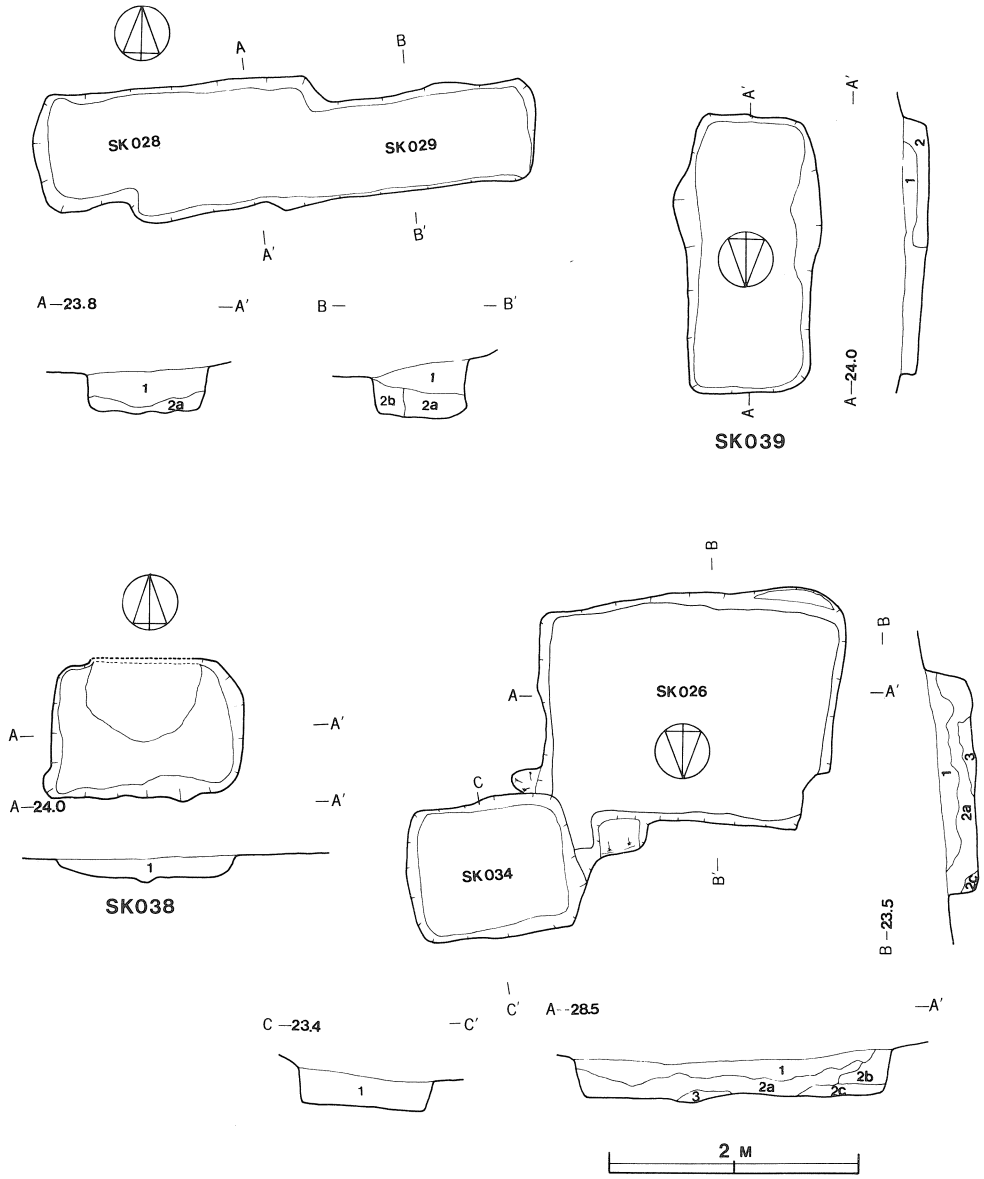
第190図　S K 実測図(4)



S K 028～030・S K 038　土層解説
1.　　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム小ブロック(多)・ローム粒子(中)
2. a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)
　 b　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム粒子(少)

S K 035·036　土層解説
1.　　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(中)・ローム粒子(少)
2. a　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)
　 b　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ロームブロック(中)・小ブロック(少)・ローム粒子(少)

第191図　SK実測図(5)



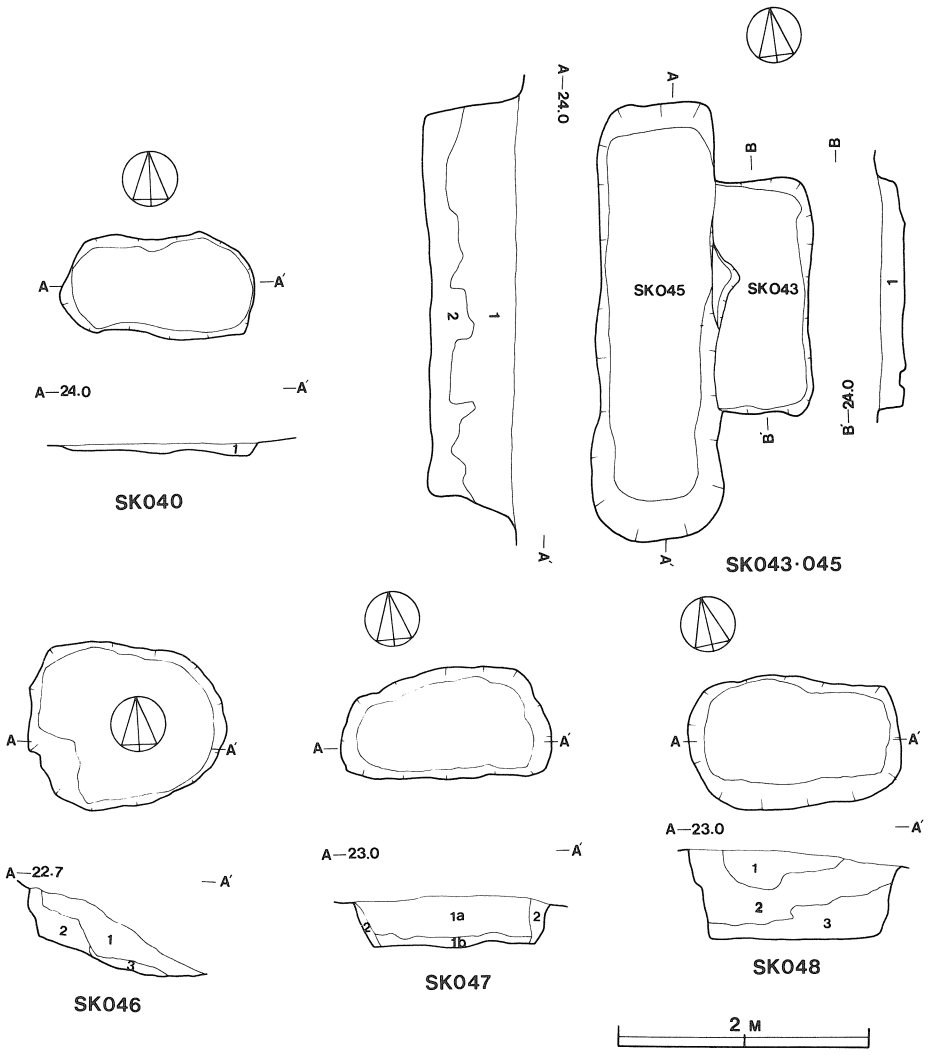
S K 026・034　土層解説

1.	Hue 7.5Y R 3 / 4	暗褐色	ローム粒子(中)・若干ボソボソした感じ
2. a	Hue 7.5Y R 4 / 4	褐　色	ローム粒子(少)・ローム小ブロック(少)
b	Hue 7.5Y R 5 / 6	明褐色	ローム粒子(極小)
c	Hue 7.5Y R 4 / 6	褐　色	ローム粒子(中)・若干ボソボソした感じ
3.	Hue 7.5Y R 3 / 2	黒褐色	ローム粒子(少)

S K 039　土層解説

1. Hue 7.5Y R 3 / 4 暗褐色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(中)
しまりがなくボソボソした感じ
2. Hue 10Y R 3 / 4 暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少) 1層よりしまっている

第192図　S K 実 測 図（6）



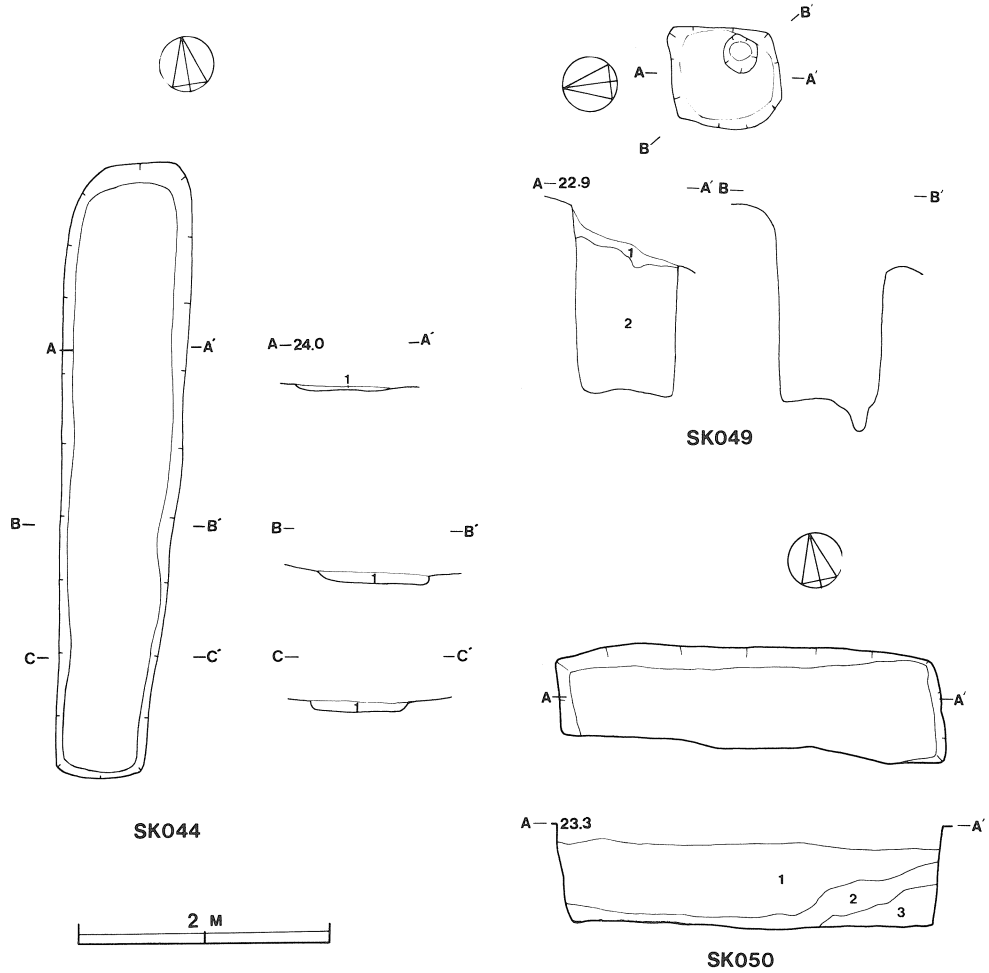
S K 043·045　土層解説
1. Hue 7.5Y R　暗褐色　ロームブロック(多) ローム小ブロック(中) しまりがなくポソポソ
2. Hue 10Y R　暗褐色　ロームブロック(少) ローム小ブロック(少) 1層よりしまっている

S K 046　土層解説
1. Hue 7.5Y R 3/3　暗褐色　やわらかい,ローム粒子を含む
2. Hue 7.5Y R 8/5　明褐色　ローム土層で少量のハードロームの粒を含む
3. Hue 7.5Y R 3/3　暗褐色　1層と色彩はほとんど同じ,1層よりしまりがある土,ロームの粒子も若干多い

S K 047　土層解説
1. a　Hue 7.5Y R 4/4　褐　色　ローム粒子を含みしまっている
　b　Hue 7.5Y R 4/4　褐　色　aよりローム粒子若干少なくもろい
2. Hue 7.5Y R 6/4　褐　色　ローム粒子を多量に含みかたい

S K 048　土層解説
1. Hue 7.5Y R 6/5　明褐色　ロームの粒・ハードロームの粒を多く含み1～3のなかでは比較的やわらかい
2. Hue 7.5Y R 4/4　褐　色　ロームの粒が2層より小さくなり,かたい層となる
3. Hue 7.5Y R 6/5　明褐色　ローム粒子を多量に含み,非常にかたい層若干橙がかっている

第193図　SK実測図(7)

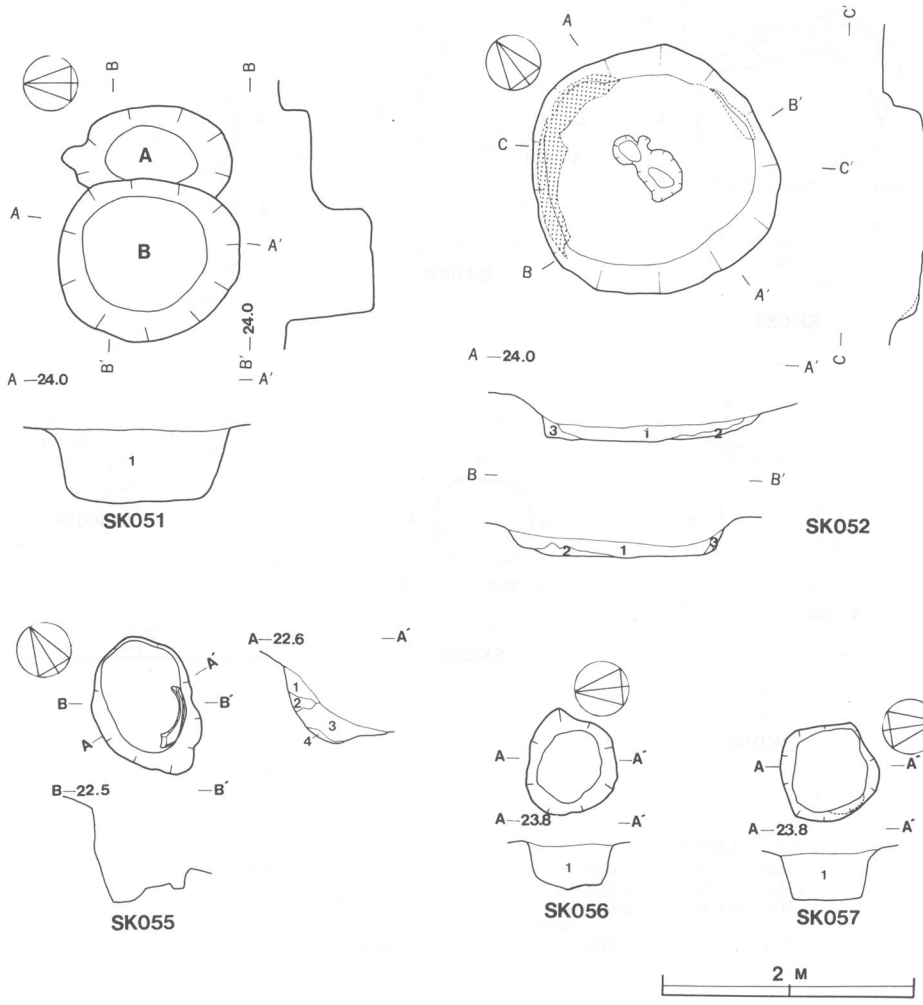


S K 044　土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(中) ローム小ブロック(少),やわらかくボソボソした感じ

S K 049　土層解説
1. Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ローム粒子・ロームの粒を多く含む
2. Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ローム粒子とロームの粒を多量に含み
　1層よりも非常にもろい

S K 050　土層解説
1. Hue 7.5Y R 2 / 2　黒褐色　ロームの粒子含みごくわずかの炭化物を含む
　土はしまっている
2. Hue 7.5Y R 3 / 2　黒褐色　ロームブロック・多くのロームの粒を含む
　土はくずれやすい
3. Hue 7.5Y R 4 / 3　褐　色　ロームの粒を多く含みわずかだが粘土を含み
　非常にかたい

第194図　SK実測図（8）



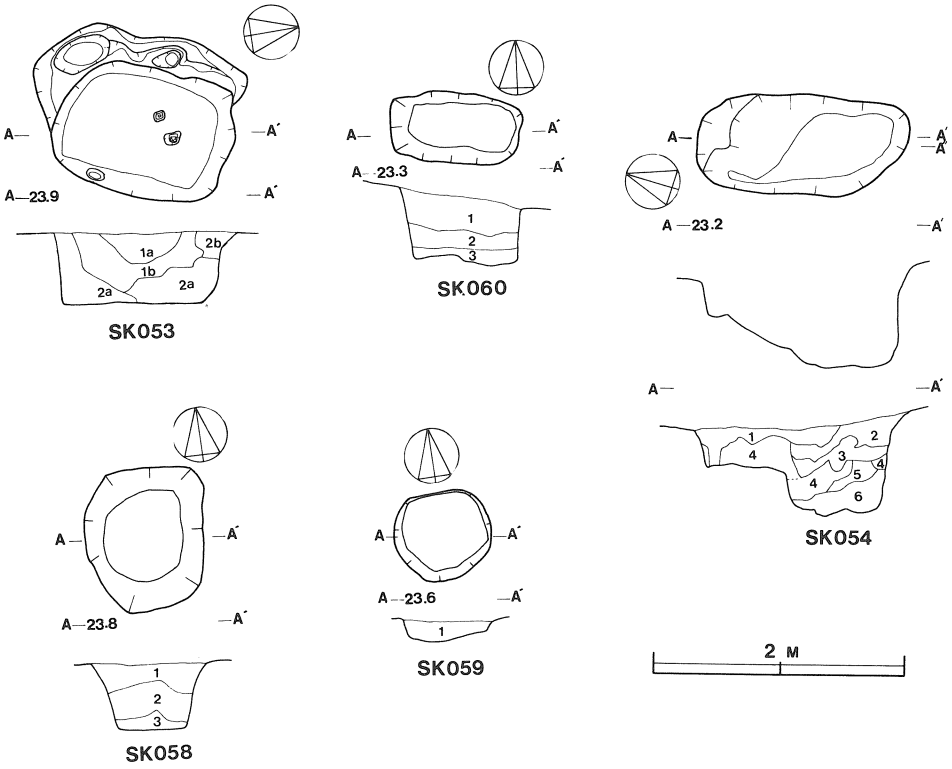
SK 051 土層解説
1. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームブロック(多)・ローム小ブロック(過多)含む

SK 055 土層解説
1. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム粒子を多量に含む
2. Hue 7.5YR 5/8 明褐色 有機土をほとんど含まないローム土,比較的もろい
3. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ロームの粒とわずかなロームブロックを含む,粘着力あり
4. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム粒子を多量に含み,粘着力あり

SK 052 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ロームの粒子・粒を含む
2. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームの粒子多く,粒も少量含む
3. Hue 10 R 4/6 赤 色 ロームの粒子・粒が多量含まれているが焼けている

SK 056・057 土層解説
1. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 ロームブロック含む

第195図 SK実測図(9)



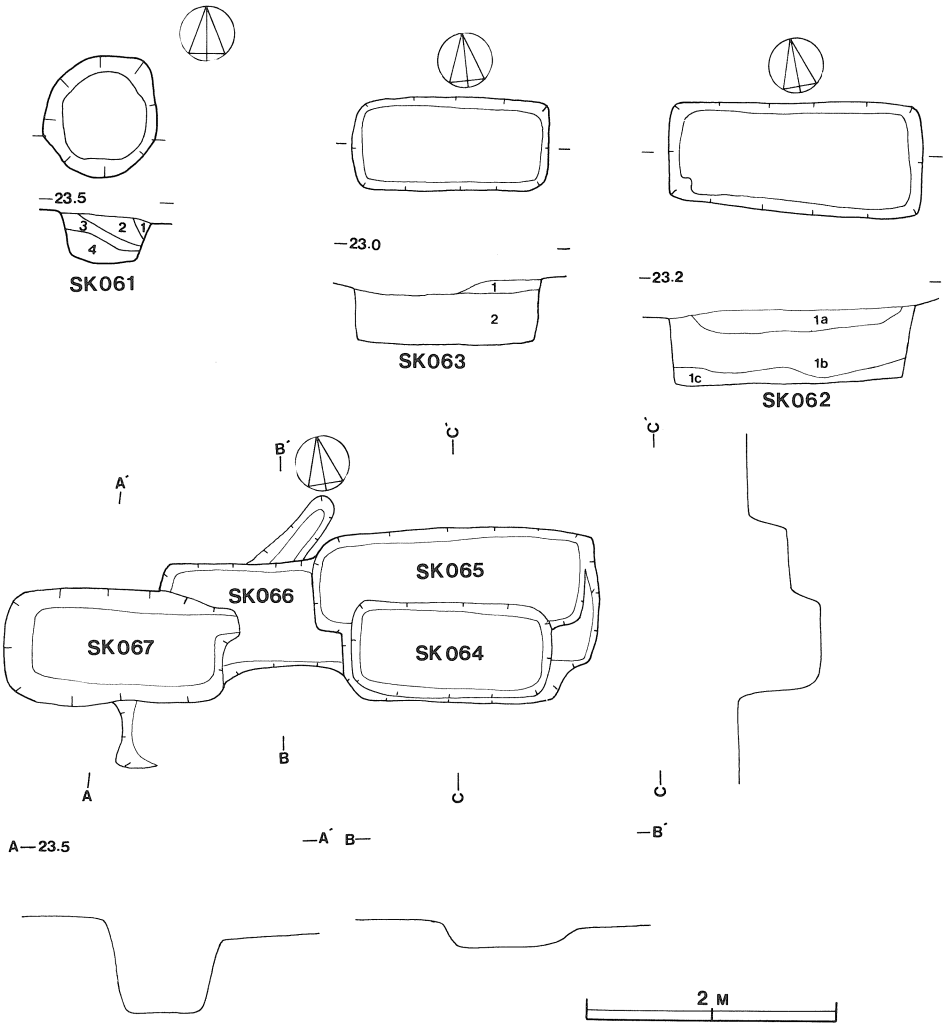
S K 053　土層解説
1. a Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ロームブロック(少)・褐色ブロック(少) 軟質
　 b Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(少)
2. a Hue 10Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)
　　軟質ロームブロック(少)・ローム粒子(少)
　 b Hue 10Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(中)・軟質ロームブロック(少)

S K 054　S I 059　土層解説
1. Hue 7.5Y R 2 / 2　黒褐色　少量ローム粒子が含まれているしまった土
2. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム粒子・粒が多量に含まれるしまった土
3. Hue 7.5Y R 2 / 1　黒　色　黒色土の中にロームの粒子や小粒をロームブロックが混入
4. Hue 7.5Y R 5 / 6　明褐色　ローム土の中に粒状のロームの粒やロームブロックを含まれる
5. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ロームの粒や粒子を多量に含みもろい
6. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ロームの粒やロームブロックを多量に含み非常にもろい

S K 058　土層解説
1. Hue 7.5Y R 2 / 3　極暗褐色　ローム小ブロック含む,やわらかい
2. Hue 7.5Y R 2 / 2　黒 褐 色　ロームブロック含む,やわらかい
3. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗 褐 色　ロームブロック多量に含む

S K 060　土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗 褐 色　ロームブロック含む,やわらかい
2. Hue 7.5Y R 2 / 2　黒 褐 色　ロームブロック少量含む,やわらかい
3. Hue 7.5Y R 3 / 4　暗 褐 色　ローム粒子を多量に含む

第196図　SK実測図(10)

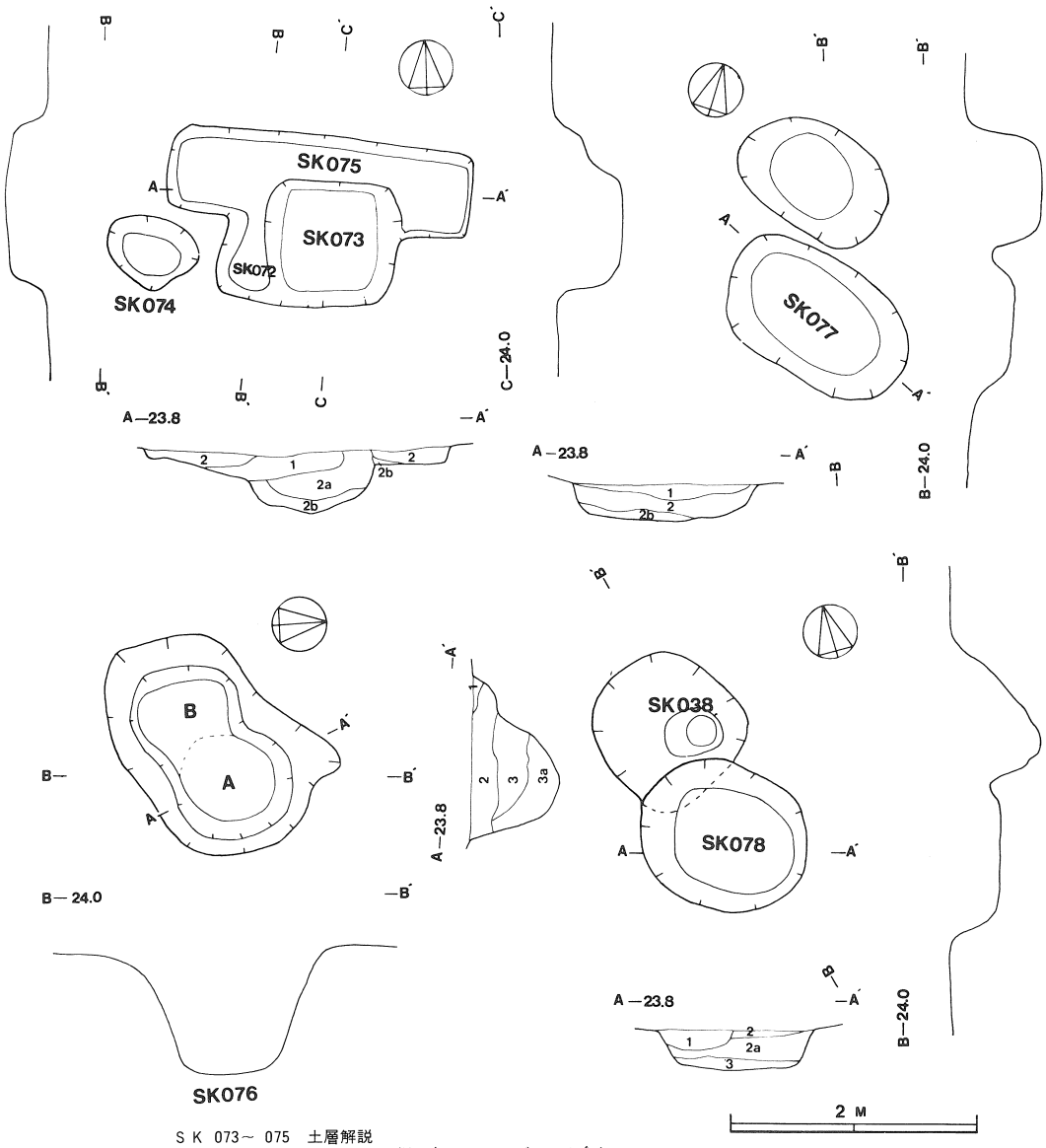


S K 061 土層解説
1. Hue 7.5Y R 2/2 黒褐色 やわらかい
2. Hue 7.5Y R 3/4 暗褐色 ローム小ブロックとローム粒子を多量に含む,やわらかい
3. Hue 7.5Y R 3/2 黒褐色 ローム粒子を若干含む,やわらかい
4. Hue 7.5Y R 3/3 暗褐色 ローム小ブロックとローム粒子を含む,やわらかい

S K 062 土層解説
1. a Hue 7.5Y R 3/4 暗褐色 ローム小ブロック(中)・ローム粒子(少)含む
b Hue 7.5Y R 3/4 暗褐色 ロームブロック(極少)・ローム粒子(中) ローム小ブロック(少)含む
c Hue 7.5Y R 3/4 暗褐色 ローム小ブロック(中)・ローム粒子(多)含む

S K 063 土層解説
1. Hue 7.5Y R 4/4 褐 色 ローム小ブロック(中)・粘土ブロック(中)含む
2. Hue 7.5Y R 3/3 暗褐色 ローム小ブロック(多)・ロームブロック(多)含む
全体的にボソボソした感じ

第197図 S K 実 測 図 (11)

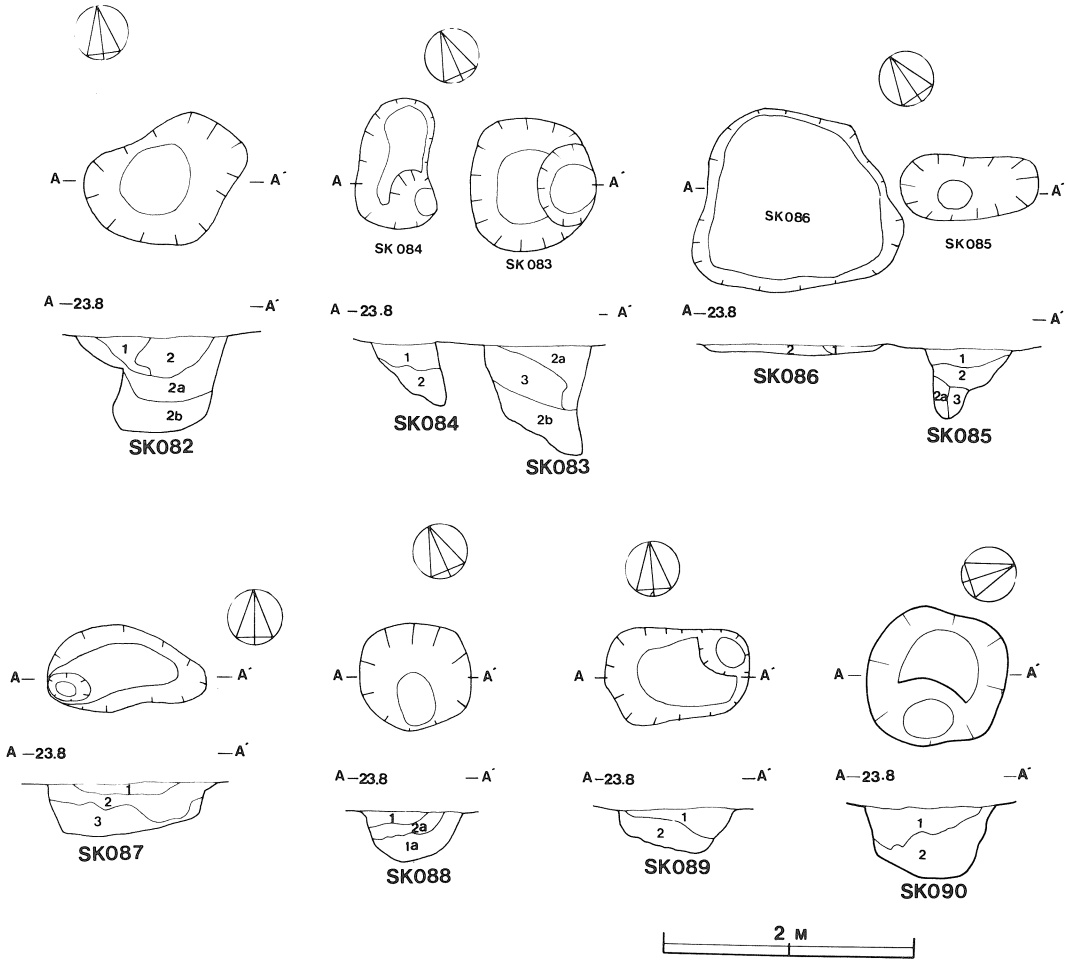


S K 073～ 075　土層解説
1.　Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色　ロームブロック含む
2.　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム粒子若干含む
　a　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム小ブロック含む
　b　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム小ブロック(多)含む

S K 076　土層解説
1.　Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ローム粒子含む
2.　Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色　ハードロームブロック
3.　Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ハードロームブロック含む
　a　Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ハードロームブロック(多)含む

S K 078･077　土層解説
1.　Hue 7.5Y R 3 / 2　黒褐色　ローム小ブロック(少)含む
2.　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム粒子(多)含む
　a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム粒子･ローム小ブロック(多)含む
3.　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム粒子･ローム小ブロック含む

第198図　S K 実 測 図 (12)



S K 082～084 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3/4 暗 褐 色 黒色土ローム粒子含む
2. Hue 7.5Y R 3/3 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック含む
a Hue 7.5Y R 3/3 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック(少)含む
b Hue 7.5Y R 3/3 暗 褐 色 ローム小ブロック(多)含む
3. Hue 7.5Y R 4/4 褐 色 ローム小ブロック(多)含む

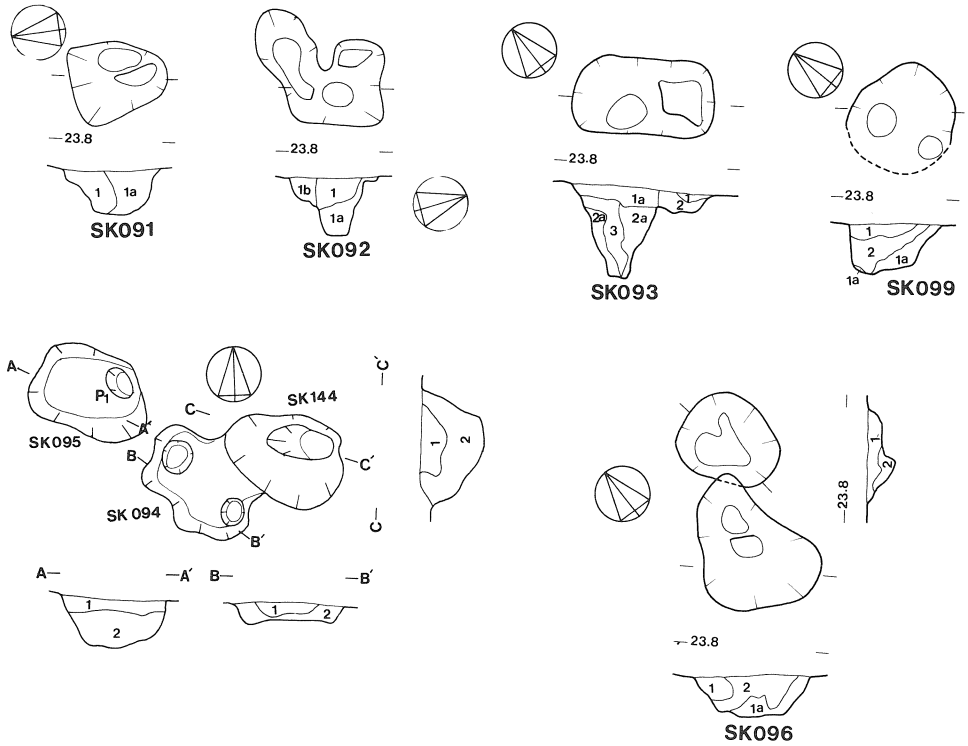
S K 085・086 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3/2 黒 褐 色 ローム粒子含む
2. Hue 7.5Y R 2/3 極暗褐色 ローム粒子(少)含む
a Hue 7.5Y R 2/3 極暗褐色 ローム粒子含む
3. Hue 7.5Y R 3/4 暗 褐 色 ローム小ブロック含む

S K 087 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3/4 暗 褐 色 ローム粒子(多)含む
2. Hue 7.5Y R 2/1 黒 色 ローム粒子(少)含む
3. Hue 7.5Y R 3/3 暗 褐 色 ローム小ブロック含む

S K 088 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3/4 暗 褐 色 ローム小ブロック含む
a Hue 7.5Y R 3/4 暗 褐 色 ローム小ブロック(多)含む
2. a Hue 7.5Y R 3/2 黒 褐 色 ローム粒子含む

S K 089・090 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3/2 黒 褐 色 ローム粒子含む
2. Hue 7.5Y R 3/3 暗 褐 色 ローム小ブロック含む

第199図 S K 実 測 図 (13)



S K 091·092　土層解説
1.　Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム小ブロック(多)含む
a　Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム小ブロック(少)含む
b　Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム小ブロック(少)含む

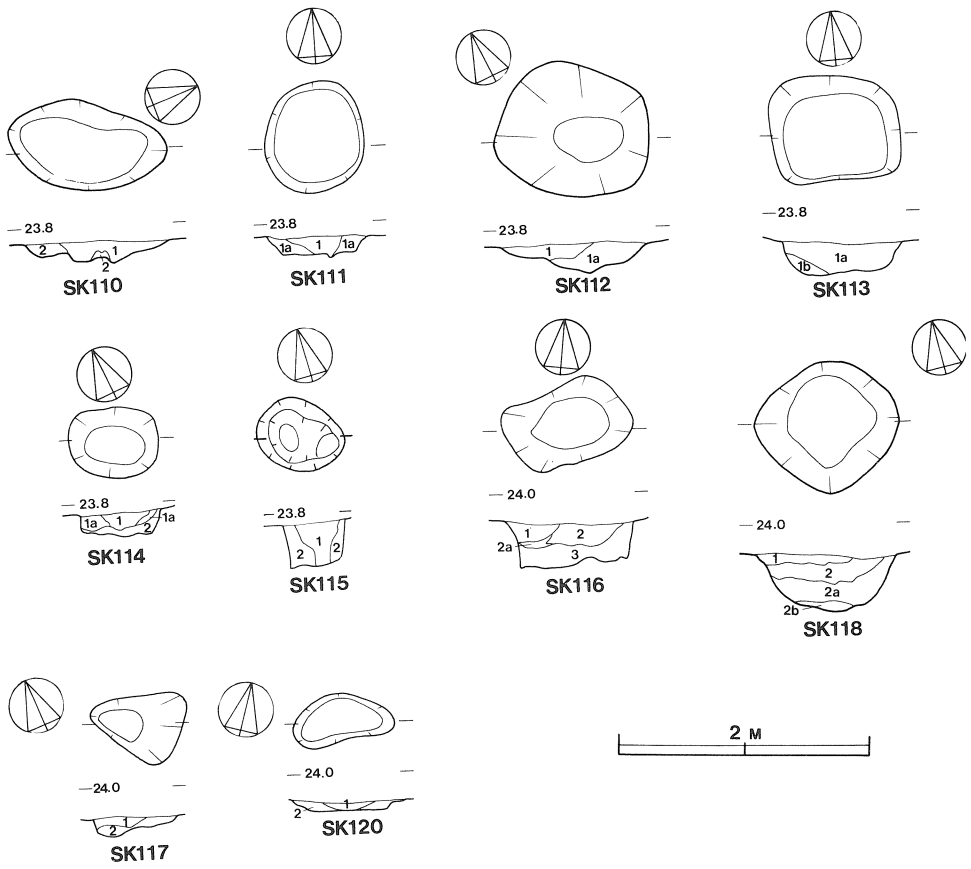
S K 093　土層解説
1.　Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ローム小ブロック(多)含む
a　Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ローム小ブロック含む
2.　Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム粒子含む
a　Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム粒子・ロームブロック含む
3.　Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ローム小ブロック含む

S K 094·095　土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム粒子・ロームブロック含む
2. Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ローム小ブロック(多)含む

S K 096·099　土層解説
1.　Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ローム小ブロック含む
a　Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ローム小ブロック(多)含む
2.　Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ローム小ブロック(少)・粒子(少)含む

S K 098　土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム粒子・ロームブロック含む
2. Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ローム粒子(少)含む
3. Hue 7.5YR 4/6　褐　色　ロームブロック含む

第200図　SK実測図(14)



SK 110・115 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム粒子含む，やわらかい
2. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームブロック(多)含む

SK 111・112 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム粒子(少)含む
a Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム粒子含む

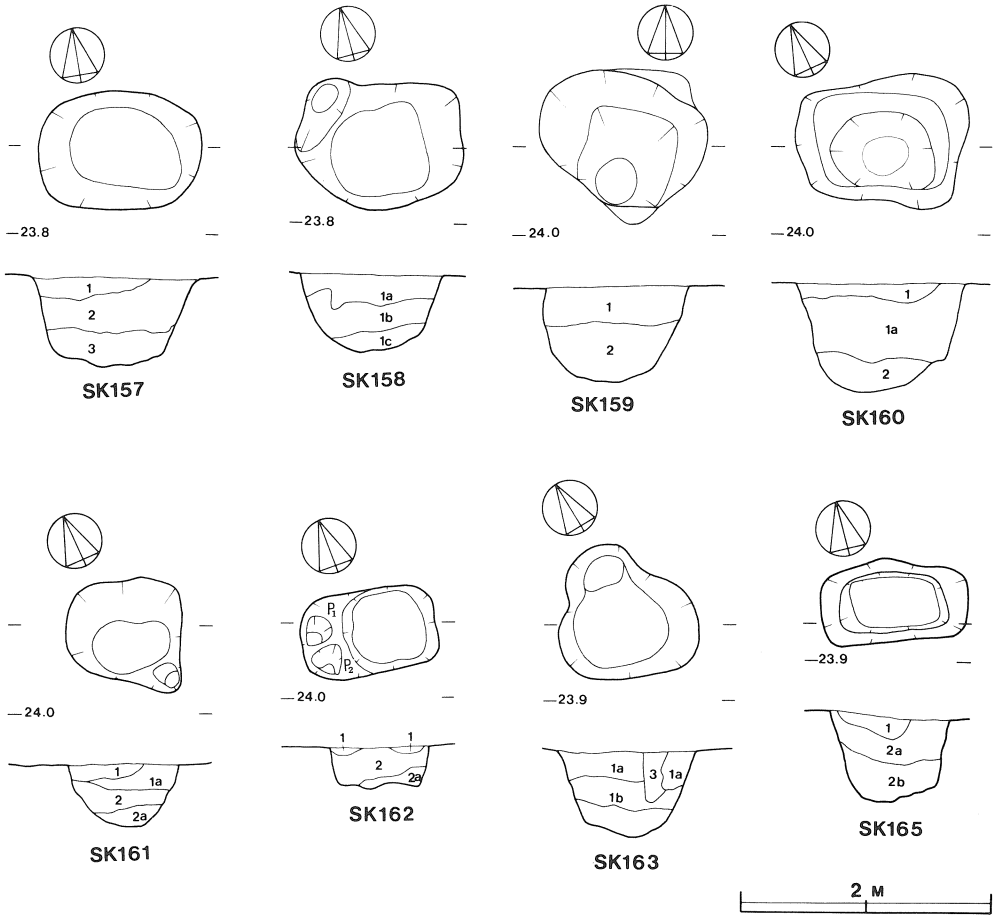
SK 113 土層解説
1.a Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ロームブロック(少)・ローム小ブロック(多)含む，しまりがない
b Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多)含む，しまりがない

SK 114 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム粒子(少)含む
a Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム粒子含む
2. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームブロック含む

SK 117・120 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム粒子(少)含む
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム粒子(多)含む

SK 116・118 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム粒子(少)含む
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック(多)含む
a Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ロームブロック含む
3. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム小ブロック含む

第201図 SK実測図(15)



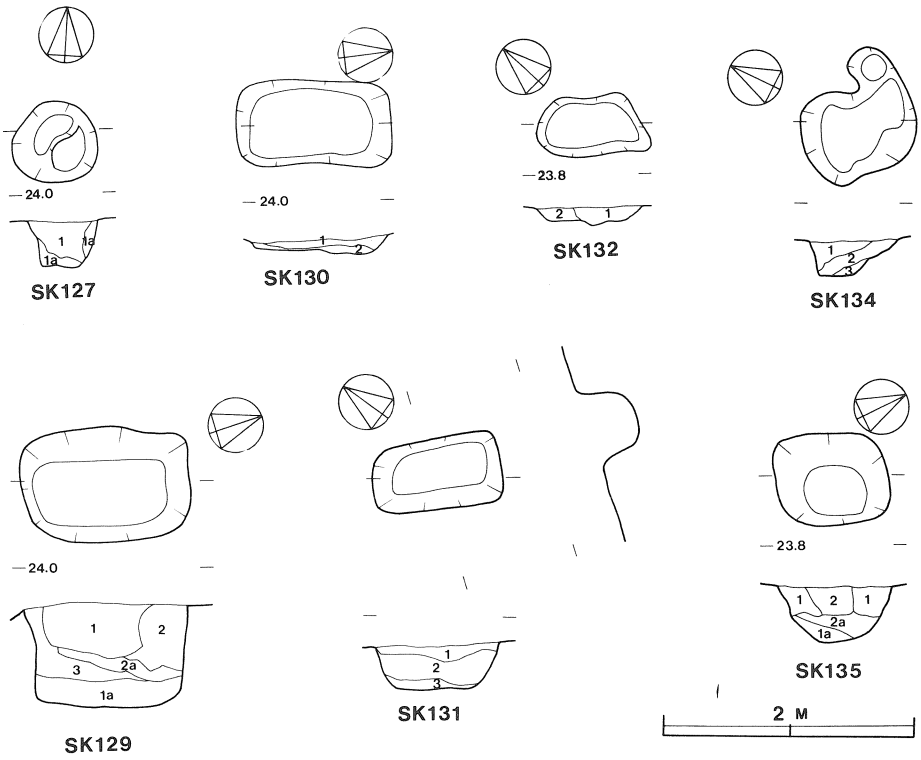
SK 118 土層解説
1. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 ローム小ブロック(少)含む
2. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム粒子含む

SK 121・122 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック含む
2. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム小ブロック含む

SK 124 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム小ブロック(少)含む
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ロームブロック(多)含む
3. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム小ブロック含む

SK 127・126・128・125 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子含む
2. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム粒子含む

第202図 SK実測図(16)



S K 127 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 2 黒 褐 色 ローム粒子含む
a Hue 7.5Y R 3 / 2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック含む

S K 129 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 4 暗 褐 色 ローム小ブロック含む
a Hue 7.5Y R 3 / 4 暗 褐 色 ロームブロック含む
2. Hue 7.5Y R 2 / 2 黒 褐 色 ローム粒子含む
a Hue 7.5Y R 2 / 2 黒 褐 色 ローム粒子含む・ローム小ブロック(少)含む
3. Hue 7.5Y R 2 / 3 極暗褐色 ローム粒子含む

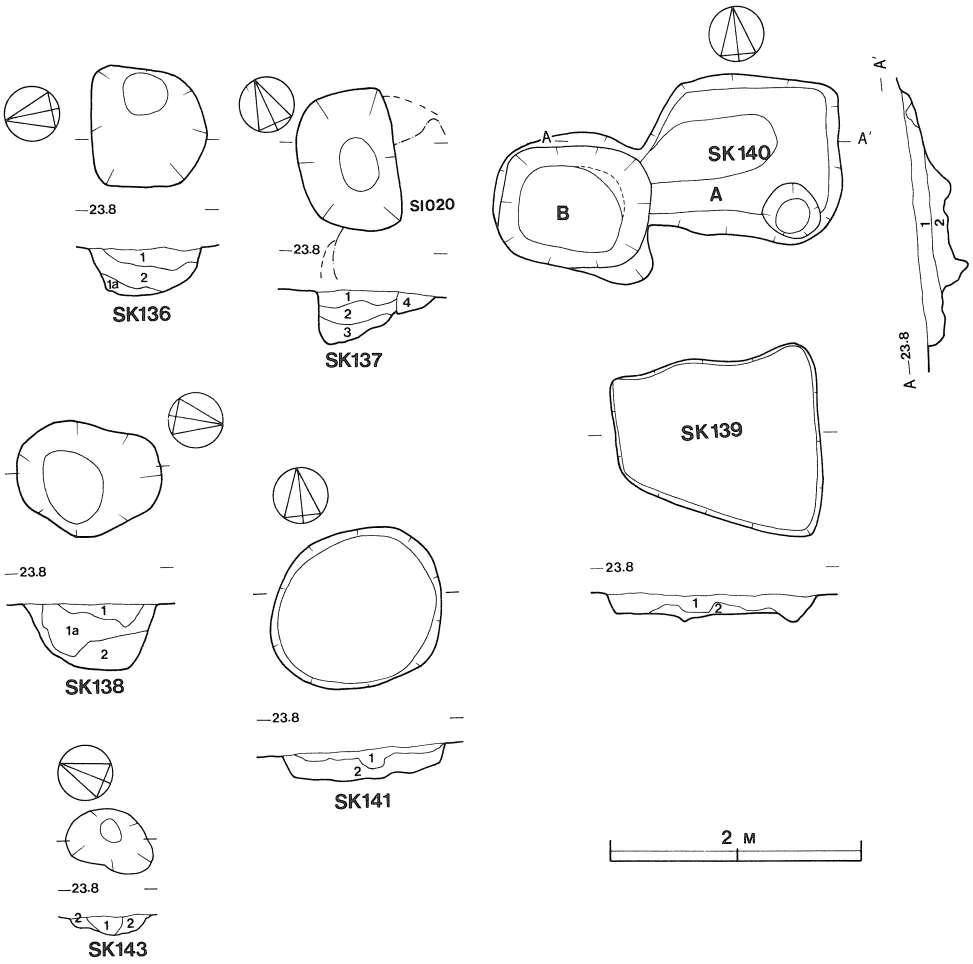
S K 130・132 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 4 暗 褐 色 ローム粒子含む
2. Hue 7.5Y R 4 / 3 褐 色 ロームブロック含む

S K 131 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 2 黒 褐 色 ローム粒子含む
2. Hue 7.5Y R 2 / 3 極暗褐色 ローム粒子(少)含む
3. Hue 7.5Y R 3 / 4 暗 褐 色 ローム粒子(多)含む

S K 134 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 3 暗 褐 色 ローム粒子含む
2. Hue 7.5Y R 3 / 4 暗 褐 色 ローム粒子(多)含む
3. Hue 7.5Y R 4 / 4 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック(多)含む

S K 135 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 4 暗 褐 色 ロームブロック(多)含む
a Hue 7.5Y R 3 / 4 暗 褐 色 ロームブロック含む
2. Hue 7.5Y R 2 / 2 黒 褐 色 ローム粒子含む
a Hue 7.5Y R 2 / 2 黒 褐 色 ローム粒子(多)含む

第203図 S K 実 測 図 (17)



S K 136　土層解説
1.　　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(多) 含む
　a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック含む
2.　　Hue 7.5Y R 3 / 2　黒褐色　ローム小ブロック(少) 含む

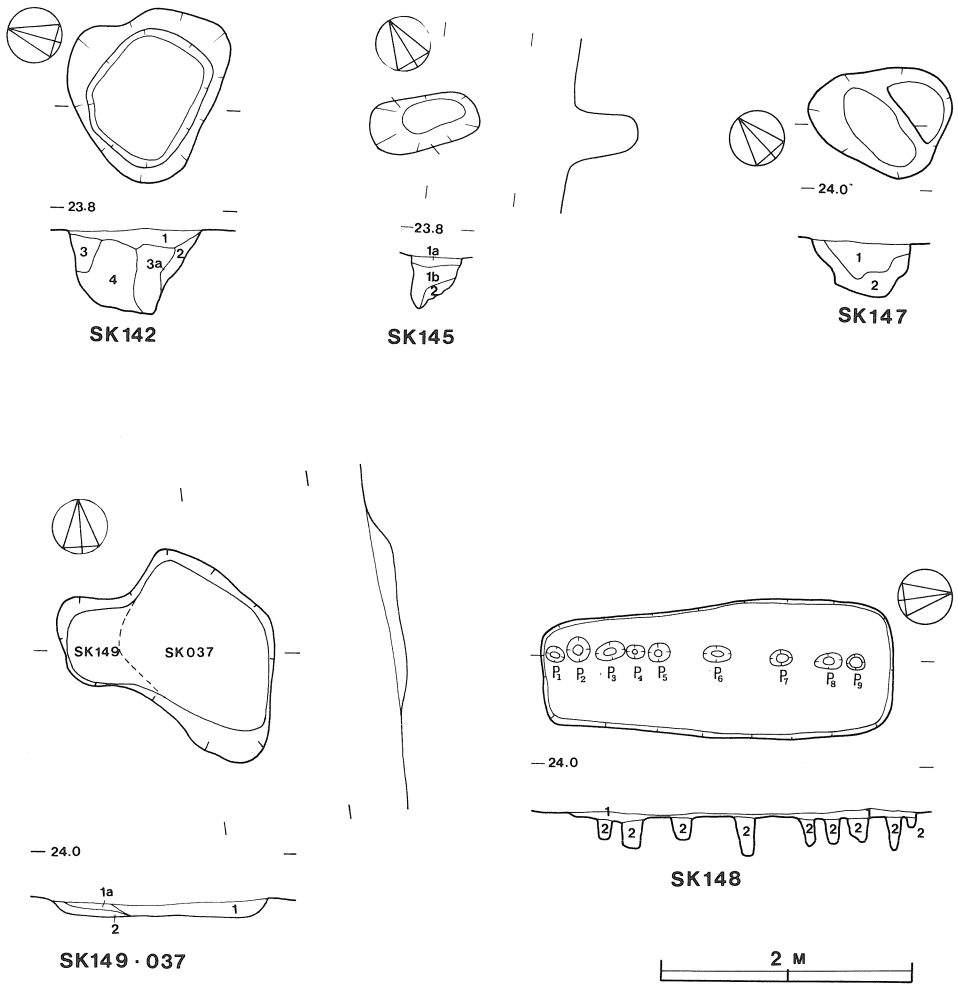
S K 137　土層解説
1. Hue 7.5Y R 4 / 4　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)
　　ローム粒子(少)含む
2. Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(極少)・ローム粒子(少)含む
3. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)
　　ローム粒子(少)含む
4. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色

S K 138　土層解説
1.　　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック含む
　a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック(多) 含む
2.　　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム小ブロック(少) 含む

S K 139~141　土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少) 含む やわらかい
2. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)含む

S K 143 土層解説
1. Hue　10Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(少)・ローム粒子(極少)含む
2. Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ロームブロック(中)含む

第 204 図　S K 実 測 図 (18)



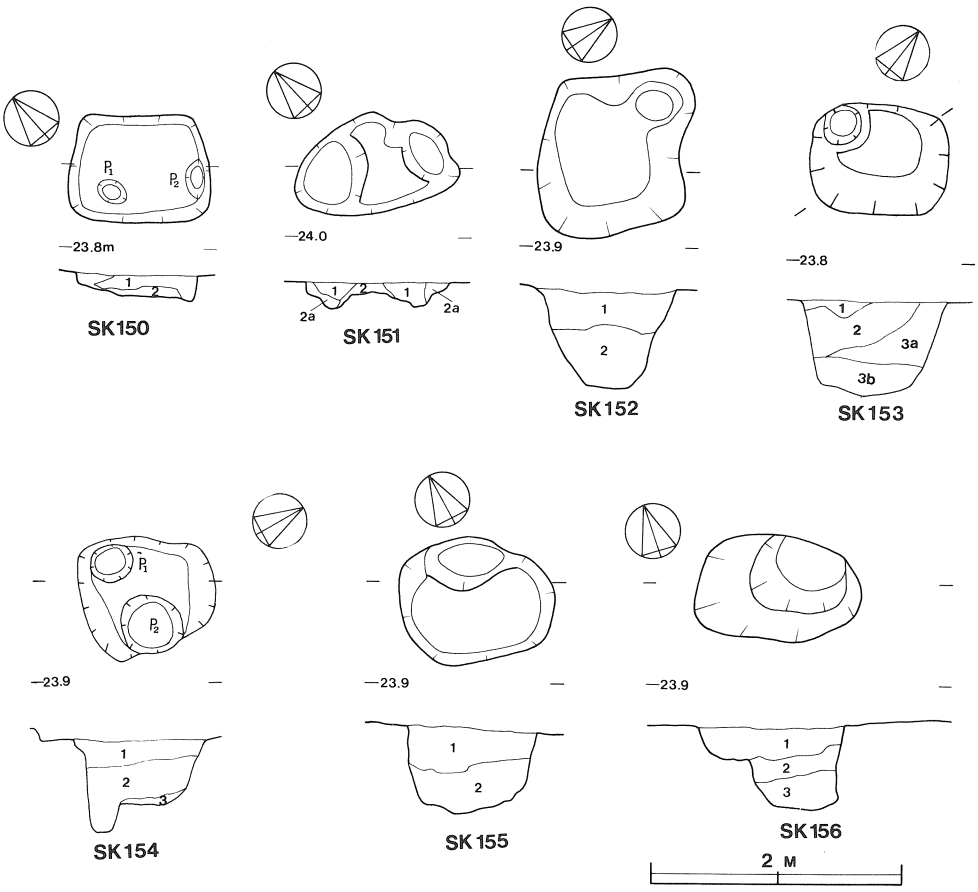
S K 142 土層解説
1. Hue 7.5Y R 2/2 黒褐色 ローム粒子含む
2. Hue 7.5Y R 3/4 暗褐色 ローム粒子(多)含む
3. Hue 7.5Y R 3/3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック含む
a Hue 7.5Y R 3/3 暗褐色 ローム粒子(多)含む
4. Hue 7.5Y R 4/4 褐 色 ロームブロック含む

S K 145 土層解説
1. a Hue 7.5Y R 3/4 暗褐色 ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)含む
b Hue 7.5Y R 3/4 暗褐色 ローム粒子(少)含む
2. Hue 7.5Y R 4/4 褐 色 ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)含む

S K 147 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3/4 暗褐色 ロームブロック(多)含む,軟質土
2. Hue 7.5Y R 4/4 褐 色 ロームブロック含む,軟質土

S K 148 土層解説
1. Hue 7.5Y R 2/1 黒 色 ローム小ブロック(少)含む
2. Hue 7.5Y R 3/3 暗褐色 ローム粒子(多)含む

第205図 S K 実測図(19)



SK 150 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム ブロック(少)含む
2. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム小ブロック(少)含む

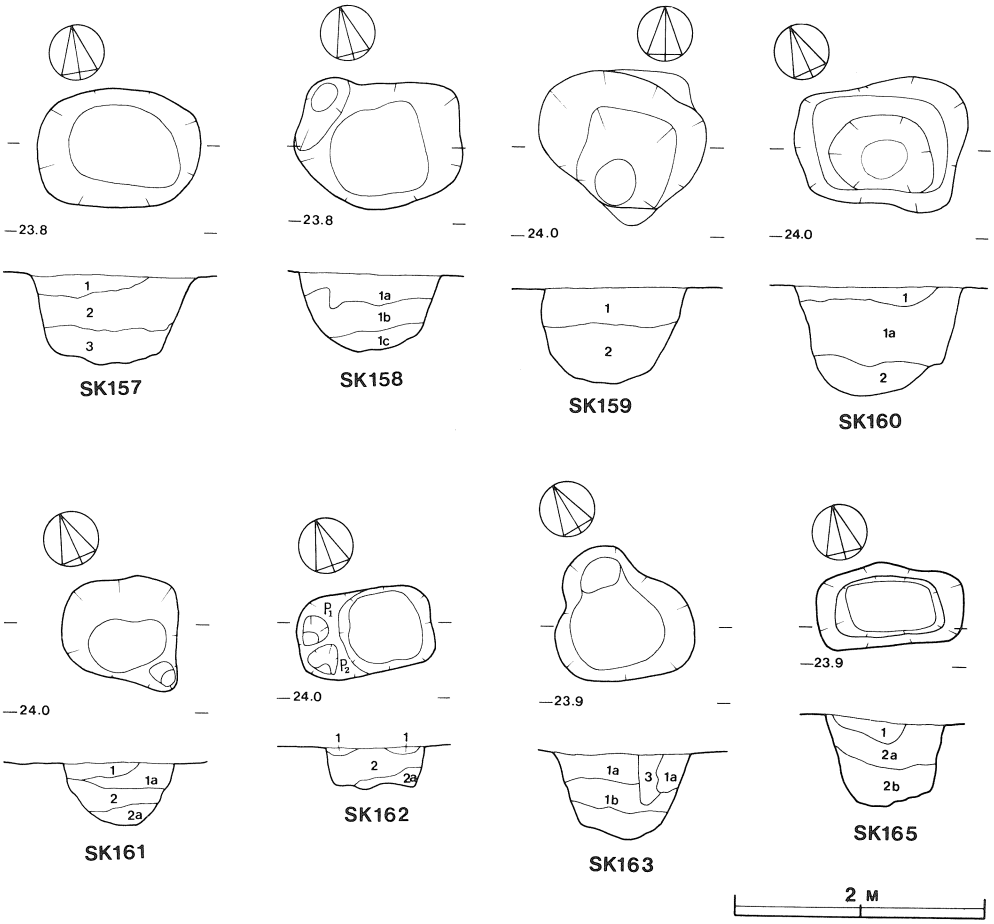
SK 151 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム小ブロック含み 軟質
2. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム粒子含み 軟質
a Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム小ブロック(少) 軟質

SK 152・155 土層解説
1. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム ブロック(多)・ローム小ブロック(多)含む
2. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ローム ブロック(多)・ローム小ブロック(多)含む

SK 153 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム ブロック(少)・ローム小ブロック(多)含む
2. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ローム ブロック(多)・ローム小ブロック(多)含む
3. a Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム ブロック(多)・ローム小ブロック(多)含む
b Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム ブロック(中)・ローム小ブロック(多)
黒色ブロック(少) 含む ボロボロでやわらかい

SK 154・156 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム ブロック(過多)・ローム小ブロック(多)・ローム粒子(少)含む
2. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ローム ブロック(多)・ローム小ブロック(多)・ローム粒子(少)含む
3. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム小ブロック(少)含む

第206図 SK実測図(20)



S K 157・159　土層解説

1. Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ロームブロック (中)・黒色小ブロック(少)・ローム粒子(少)含む
2. Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(多)含む
3. Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)
黒色小ブロック(少)含む

S K 158　土層解説

1. a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(少)含む
b　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(極少)含む
c　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(極少)含む
黒色小ブロック(少)含む

S K 160・165　土層解説

1.　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(少)褐色ブロック(少)含む
2. a　Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色　ロームブロック(過多)・ローム小ブロック(過多)含む
b　Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色　ロームブロック(過多)・ローム小ブロック(過多)
黒色小ブロック(少)含む

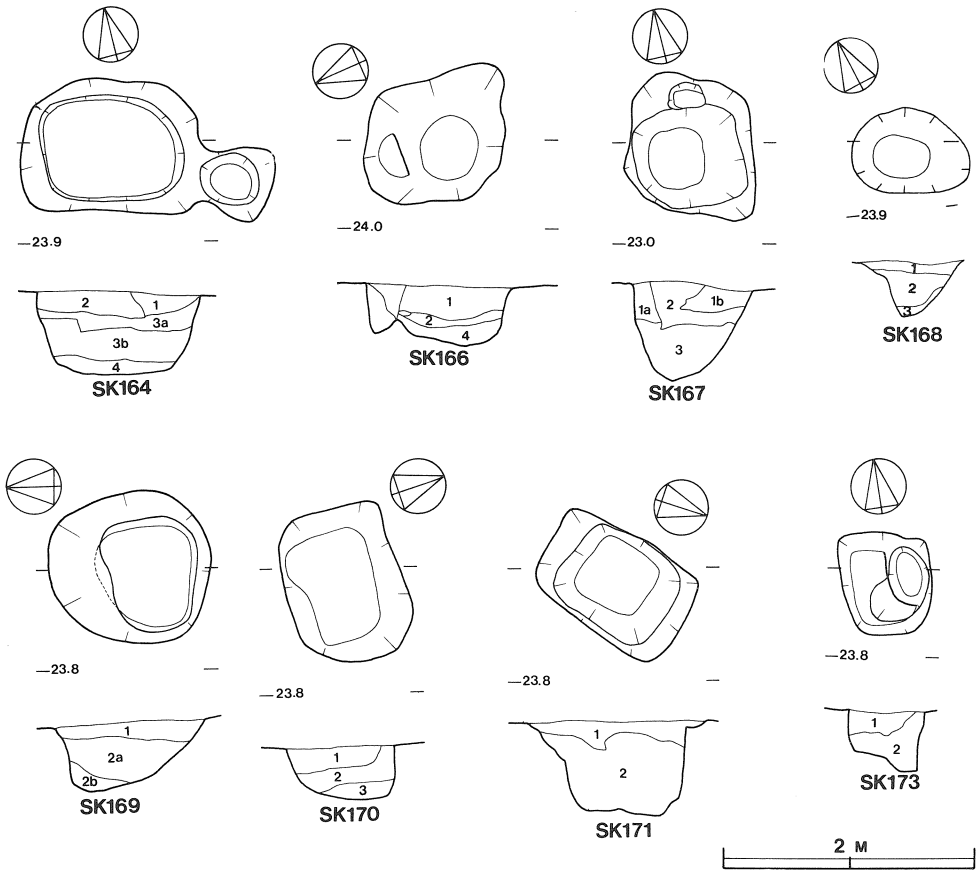
S K 161・162　土層解説

1.　Hue 7.5Y R 3 / 2　黒褐色　ローム粒子含む
a　Hue 7.5Y R 3 / 2　黒褐色　ローム小ブロック(少)含む
2.　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック含む
a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(少)含む

S K 163　土層解説

1. a　Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色　ロームブロック(過多)含む
b　Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(中)含む
2.　Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(多)含む
3.　Hue 7.5Y R 3 / 2　極暗褐色

第207図　S K 実測図（21）



SK 164・166 土層解説

1. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少) ローム粒子(少)含む
2. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームブロック(中)・ローム小ブロック(多) ローム粒子(少)含む
3. a Hue 7.5YR 4/3 暗褐色 ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多)・黒色ブロック(中)含む
   b Hue 7.5YR 4/3 暗褐色 ロームブロック(中)・ローム小ブロック(多)・黒色ブロック(中)含む
4. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローブ小ブロック(少)含む

SK 167 土層解説

1. a Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ロームブロック(少)・ローム小ブロック(極少)含む
   b Hue 7.5YR 2/3 極暗褐色 ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)含む
2. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームブロック(中)・ローム小ブロック(少)含む
3. Hue 7.5YR 3/3 暗褐色 ロームブロック(多)・ローム小ブロック(少)
   暗褐色ブロック(少)含む

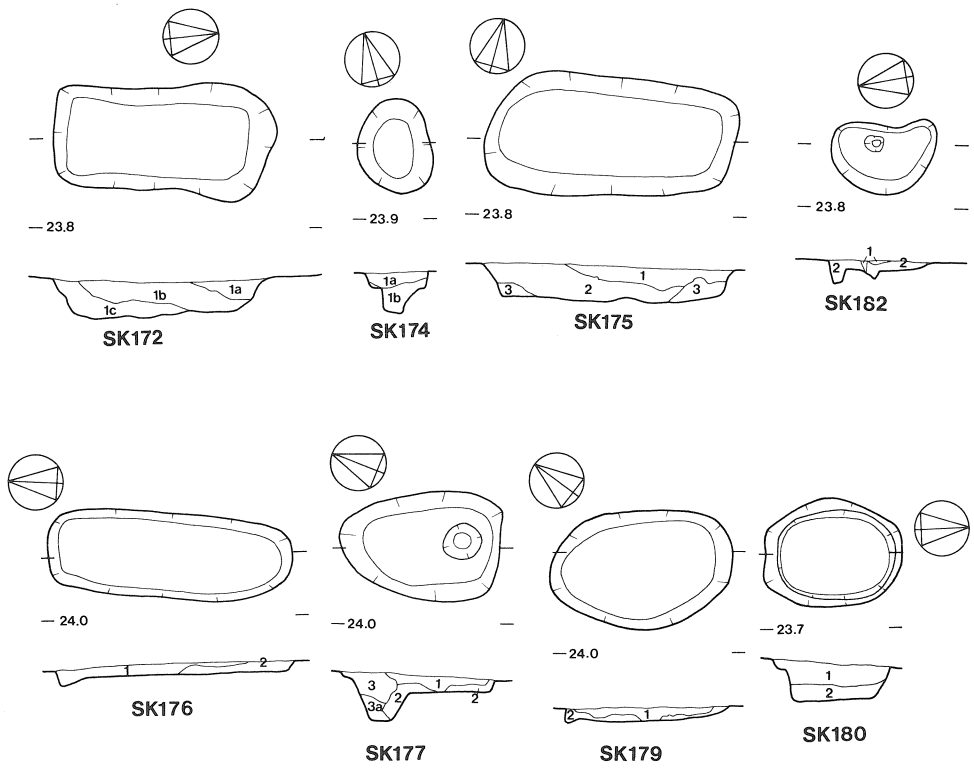
SK 169 土層解説

1. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多)含む
2. a Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ロームブロック(中)・ローム小ブロック(中)
   軟質黒色ブロック(少)含む
   b Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多)含む

SK 170・171・173・168 土層解説

1. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ロームブロック(多)・ローム小ブロック(中)含む
2. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームブロック(中)・ローム小ブロック(多)・黒色ブロック(極小)含む
3. Hue 10YR 4/6 褐 色 ロームブロック(少)・ローム小ブロック(多)含む

第208図 SK実測図(22)



S K 172·174 土層解説
1. a Hue 10Y R 3 / 4 暗褐色 ローム粒子(少)•ローム小ブロック(極少) 含む
b Hue 10Y R 3 / 4 暗褐色 ロームブロック(中)•ローム小ブロック(中)含む
c Hue 10Y R 3 / 4 暗褐色 ローム小ブロック(少)•ロームブロック(極少) 含む

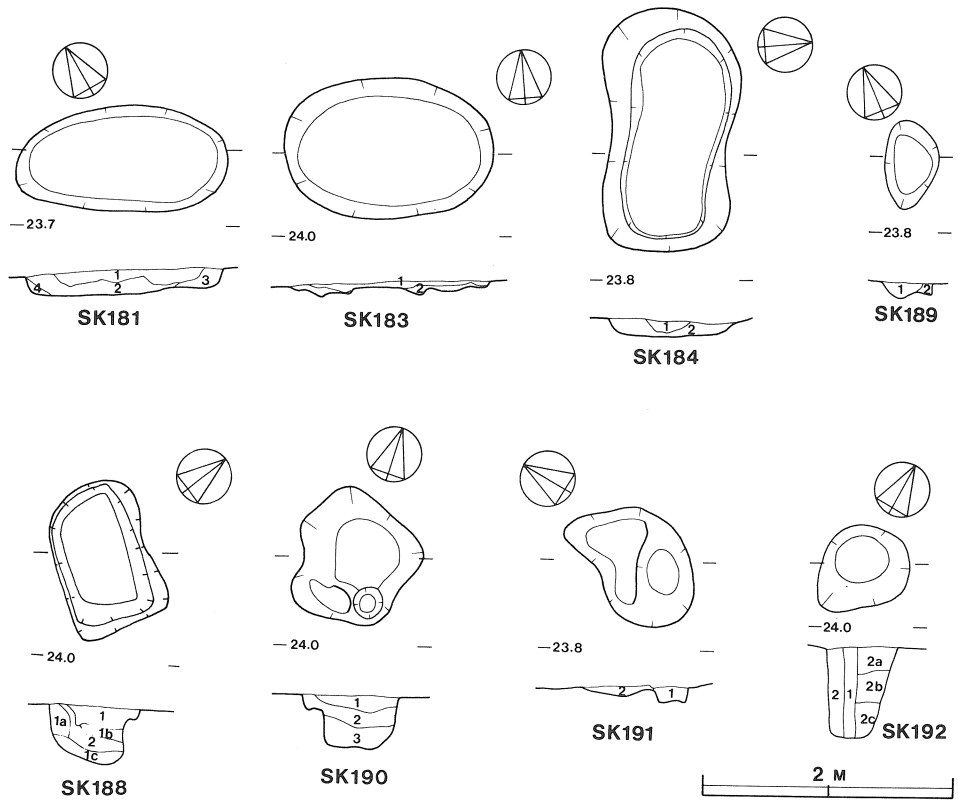
S K 175 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 4 暗褐色 軟質褐色ブロック(少)•ローム粒子(極少) 含む
2. Hue 7.5Y R 4 / 4 褐 色 軟質褐色ブロック(少)•ローム粒子(少) 含む
3. Hue 7.5Y R 4 / 6 褐 色 ロームブロック(少)•軟質黒色ブロック(少)含む

S K 177 土層解説
1. Hue 7.5Y R 2 / 2 黒褐色 ローム粒子(少) 含む
2. Hue 7.5Y R 3 / 4 暗褐色 ローム粒子(多)含む
3. Hue 7.5Y R 2 / 1 黒 色 ローム粒子(少) 含む
a Hue 7.5Y R 2 / 1 黒 色 ローム粒子含む

S K 176·179·182 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 2 黒褐色 ローム粒子含む
2. Hue 7.5Y R 3 / 4 暗褐色 ローム粒子(多)含む

S K 180 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 4 暗褐色 ローム小ブロック(中)•ローム粒子(中) 含む
2. Hue 7.5Y R 3 / 3 暗褐色 ローム小ブロック(少)•ローム粒子(少) 含む

第209図 S K 実測図(23)



SK 181 土層解説
1. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 黒色小ブロック(少)含む
2. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 黒色小ブロック(極少)含む
3. Hue 7.5YR 4/6 褐 色
4. Hue 7.5YR 4/4 褐 色

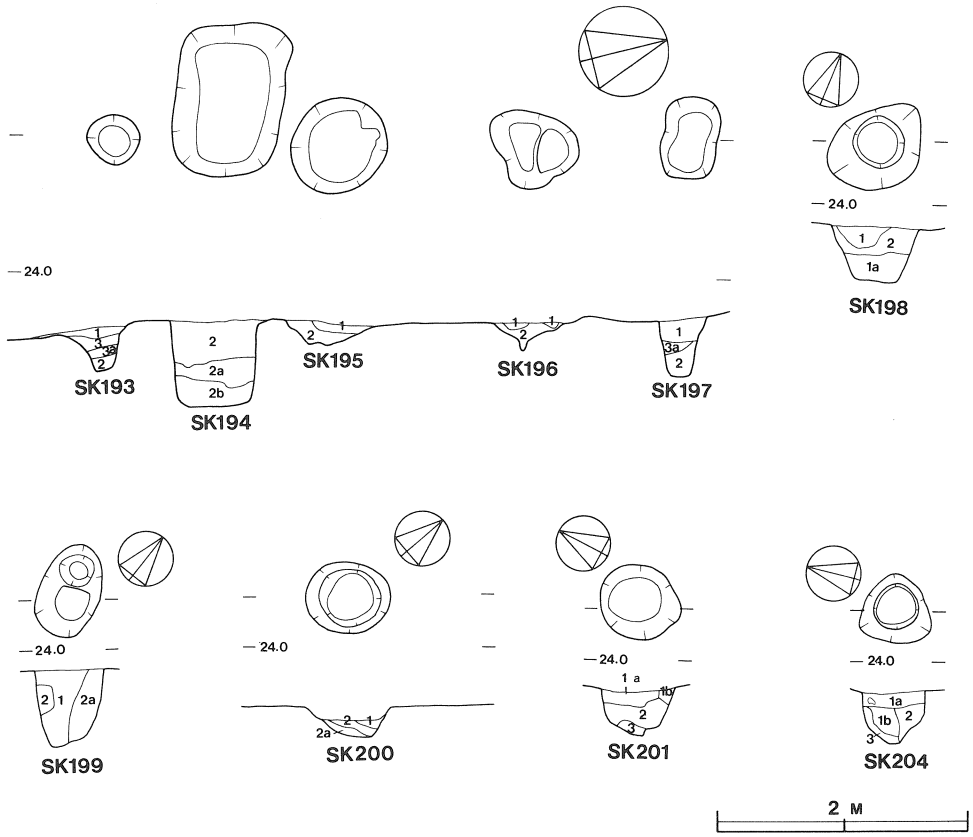
SK 183 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック(少)含む
2. Hue 7.5YR 4/6 褐 色

SK 184 土層解説
1. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 ローム粒子(少)含む,軟質
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック(少)含む

SK 188 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック中に黒色土を含む
a Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック中に黒色土を少量含む
b Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック中に黒色土を多(多)含む
c Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ロームブロック中に黒色土を含む
2. Hue 7.5YR 3/2 黒褐色 ローム粒子含む,軟質

SK 189～191 土層解説
1. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム小ブロック含む
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム小ブロック含む
3. Hue 7.5YR 2/2 黒褐色 ローム小ブロック(少)含む

第210図 SK実測図(24)



S K 193～197　土層解説

1.　　Hue 7.5Y R 3 / 2　黒褐色　ローム粒子含む
2.　　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック含む
　a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(多) 含む
　b　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック含む
3. a　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム小ブロック含む
　b　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム小ブロック(少) 含む

☆S K 194, S K 195, S K 196, S K 197と同じ

S K 198 土層解説

1 .　　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム小ブロック・粘土(少) 含む
　a　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム小ブロック(少) 含む
2.　　Hue 7.5Y R 3 / 2　黒褐色　ローム粒子含む

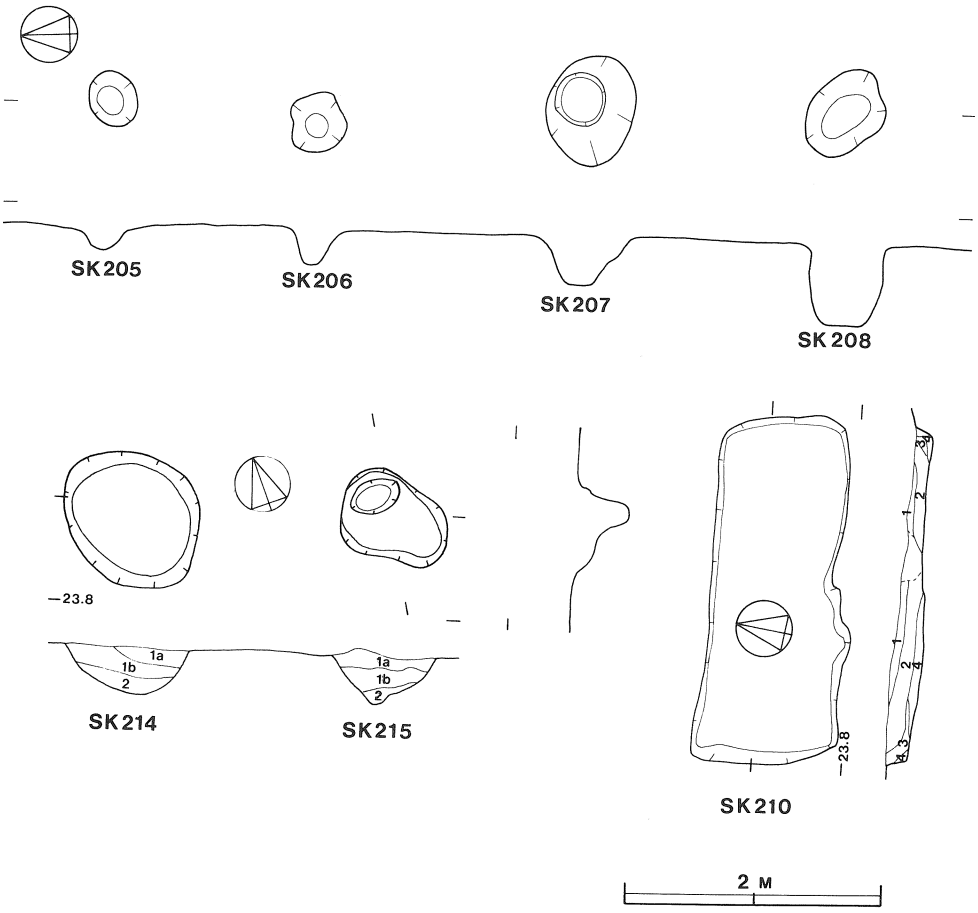
S K 199・200 土層解説

1.　　Hue 7.5Y R 3 / 2　黒褐色　ローム粒子(少) 含む
2.　　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(少) 含む
　a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(微少) 含む

S K 201～204　土層解説

1. a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム粒子・ブロック(小) カーボン (微) 含む
　b　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック粒子含む
2.　　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ロームブロック(小) 粒子含む
3.　　Hue 10Y R 5 / 8　黄褐色

第211図　S K 実測図 (25)



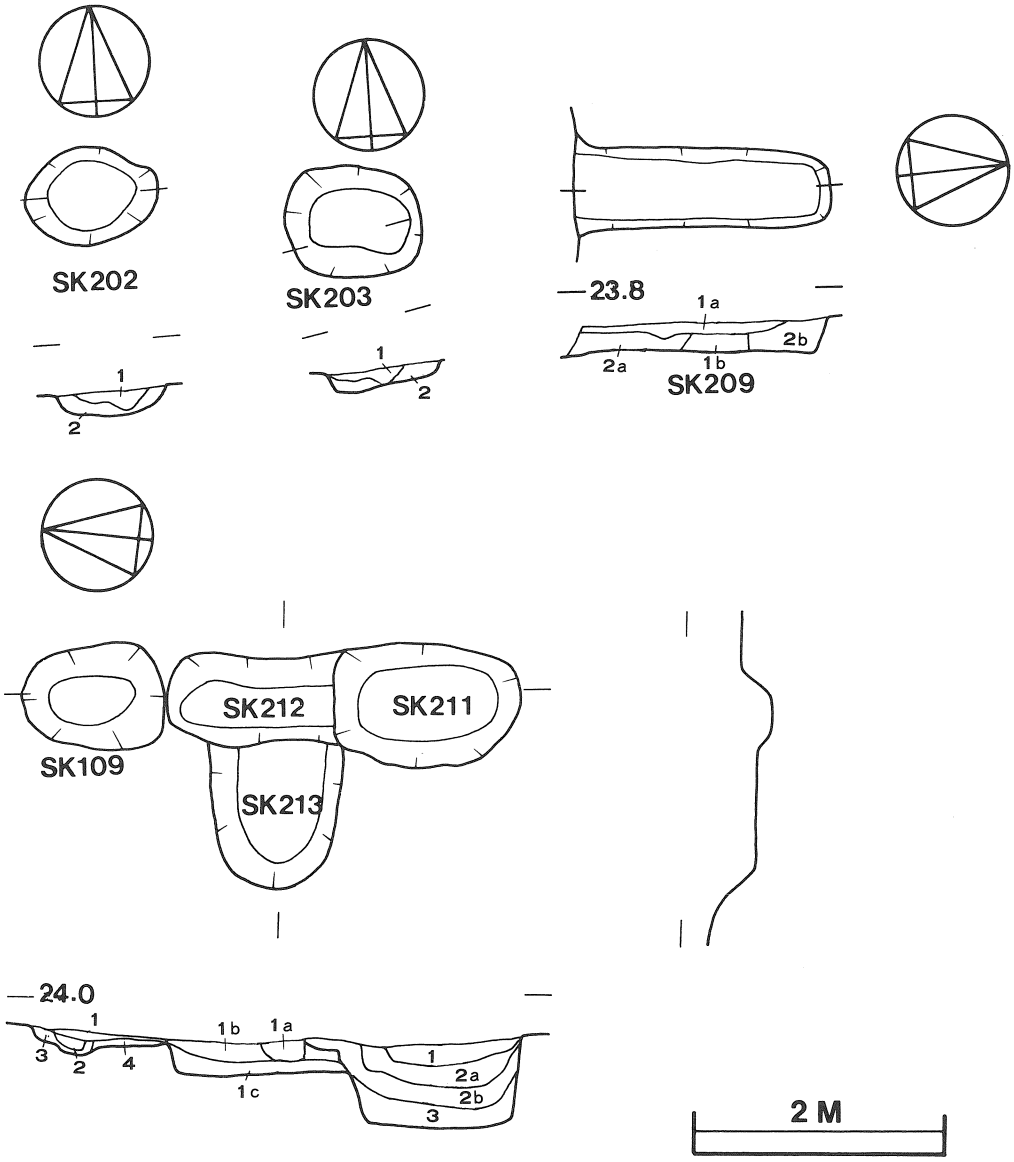
S K 210 土層解説

1. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ロームの小さなブロックやロームの粒を含み，かたい
2. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ロームブロック（1層より大きい）を含みやわらかい（もろい）
3. Hue 7.5Y R 3 / 2　黒褐色　ローム粒子と黒色土がまざりあい非常にかたい
4. Hue 7.5Y R 5 / 6　明褐色　ロームブロック（少）・ローム粒（多）含む

S K 214・215 土層解説

1. a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック（中）・ローム粒子（少）含む
   b　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック（少）・ローム小ブロック（少）・ローム粒子（少）含む
2.　Hue 7.5Y R 4 / 4　暗褐色　ローム粒子（少）含む

第212図　SK実測図（26）

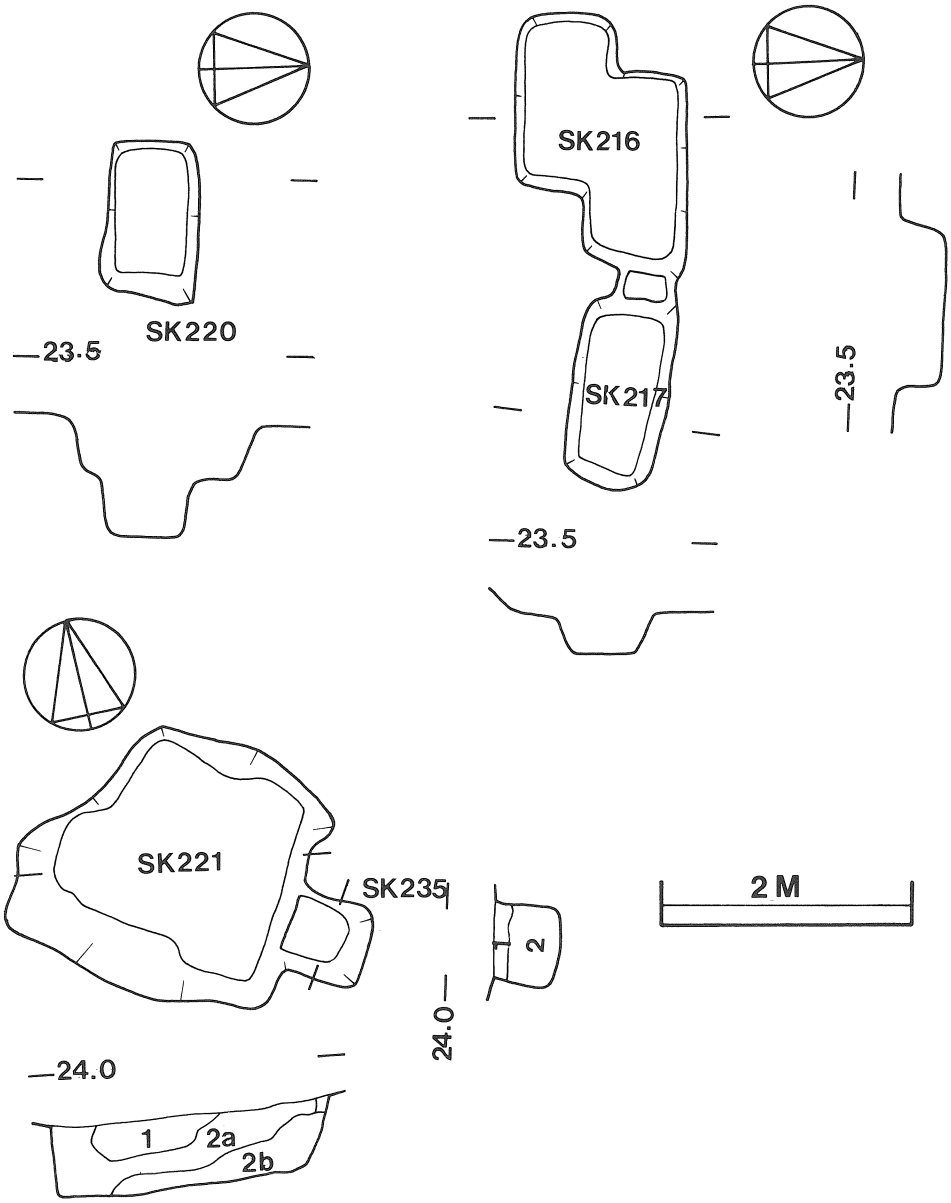


S K 202 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色
2. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色

S K 211・109 土層解説
1.　　Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色
2. a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色
　 b　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色
3.　　Hue 7.5Y R 3 / 4　褐　色
4.　　Hue 7.5Y R 4 / 3　褐　色

S K 212 土層解説
1. a　Hue 7.5Y R 4 / 3　褐　色
　 b　Hue 7.5Y R 4 / 3　褐　色
　 c　Hue 7.5Y R 4 / 3　褐　色

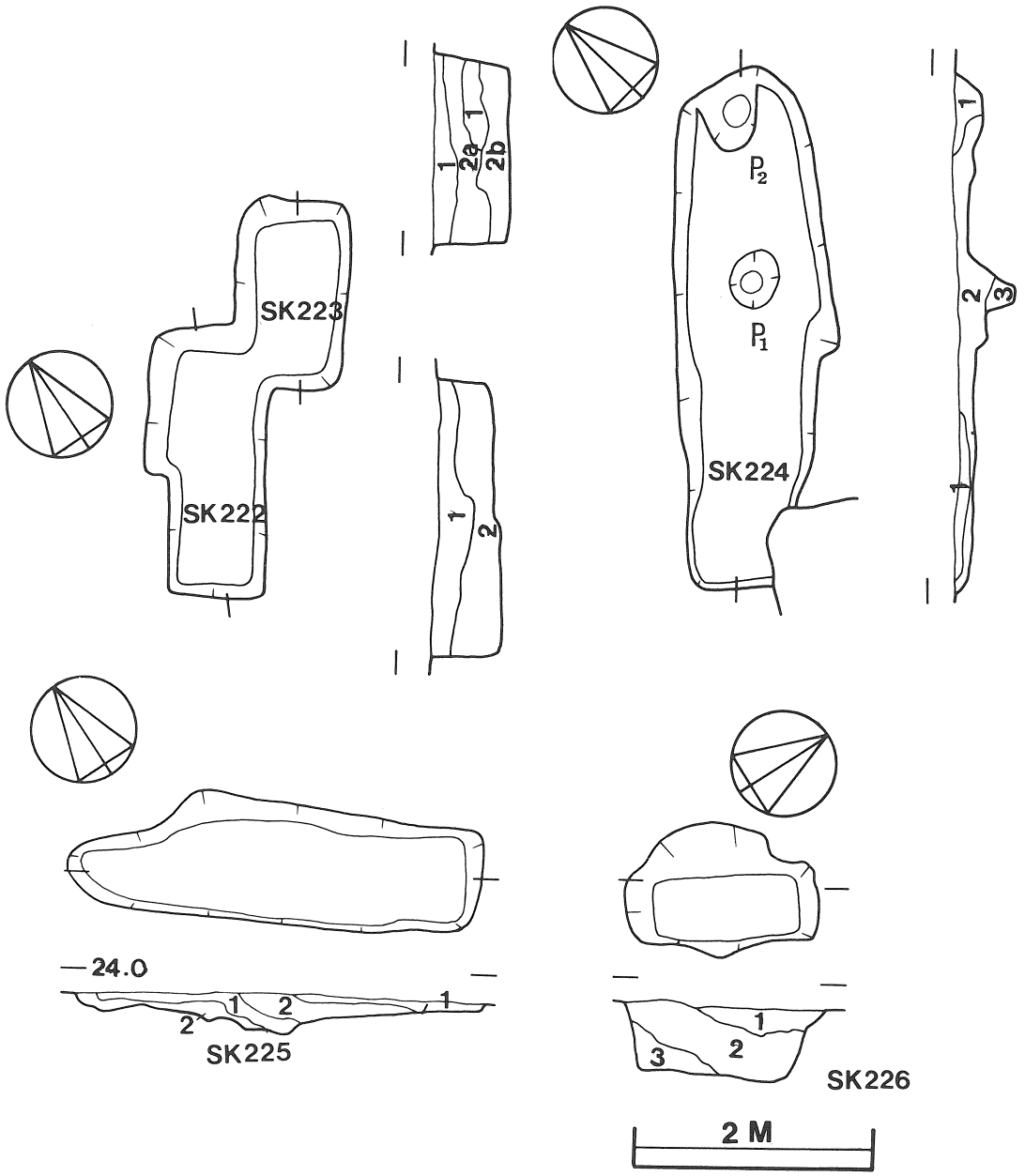
第213図　S K 実 測 図（27）



S K 221 土層解説
1　　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(極少)・ローム粒子(中)含む
2. a　Hue 10Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少) 含む
　 b　Hue 10Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(極小) 含む

S K 235 土層解説
1. Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多) 含む
2. Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多) 含む

第 214 図　S K 実 測 図 (28)

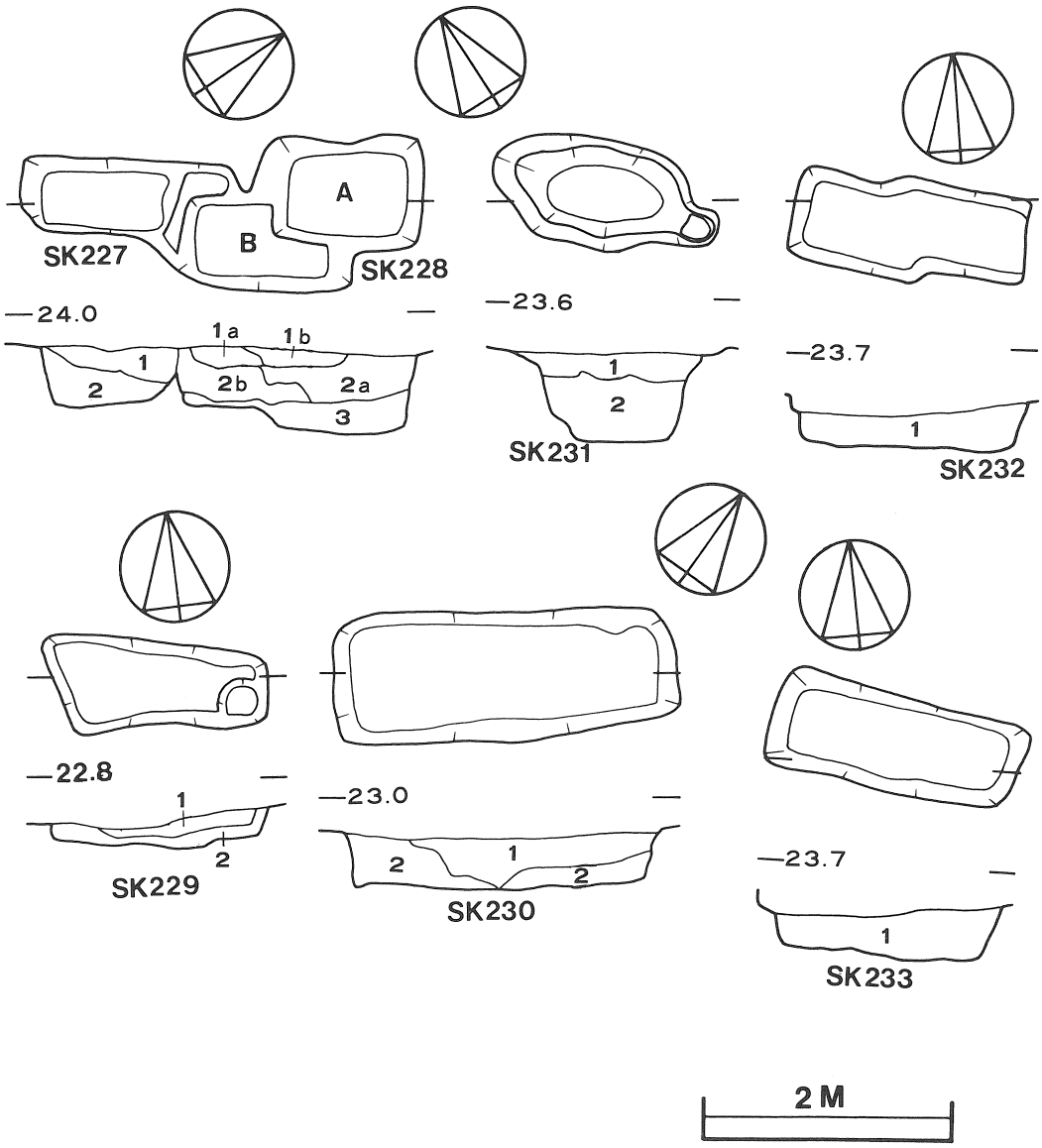


S K 222 土層解説
1. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多) 含む・ボソボソした感じ
2. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ロームブロック(中)・ローム小ブロック(中) 含む

S K 223 土層解説
1. Hue 10YR 4/4 褐 色 ロームブロック(中)・黒色ブロック(少)含む
2. a Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームブロック(少)・黒色ブロック(中)含む
b Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ロームブロック(中)・黒色ブロック(中)含む

S K 224～226 土層解説
1. Hue 7.5YR 4/4 褐 色 ローム粒子(少)含む
2. Hue 7.5YR 4/6 褐 色 ロームブロック(中)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)含む
3. Hue 7.5YR 3/4 暗褐色 ローム

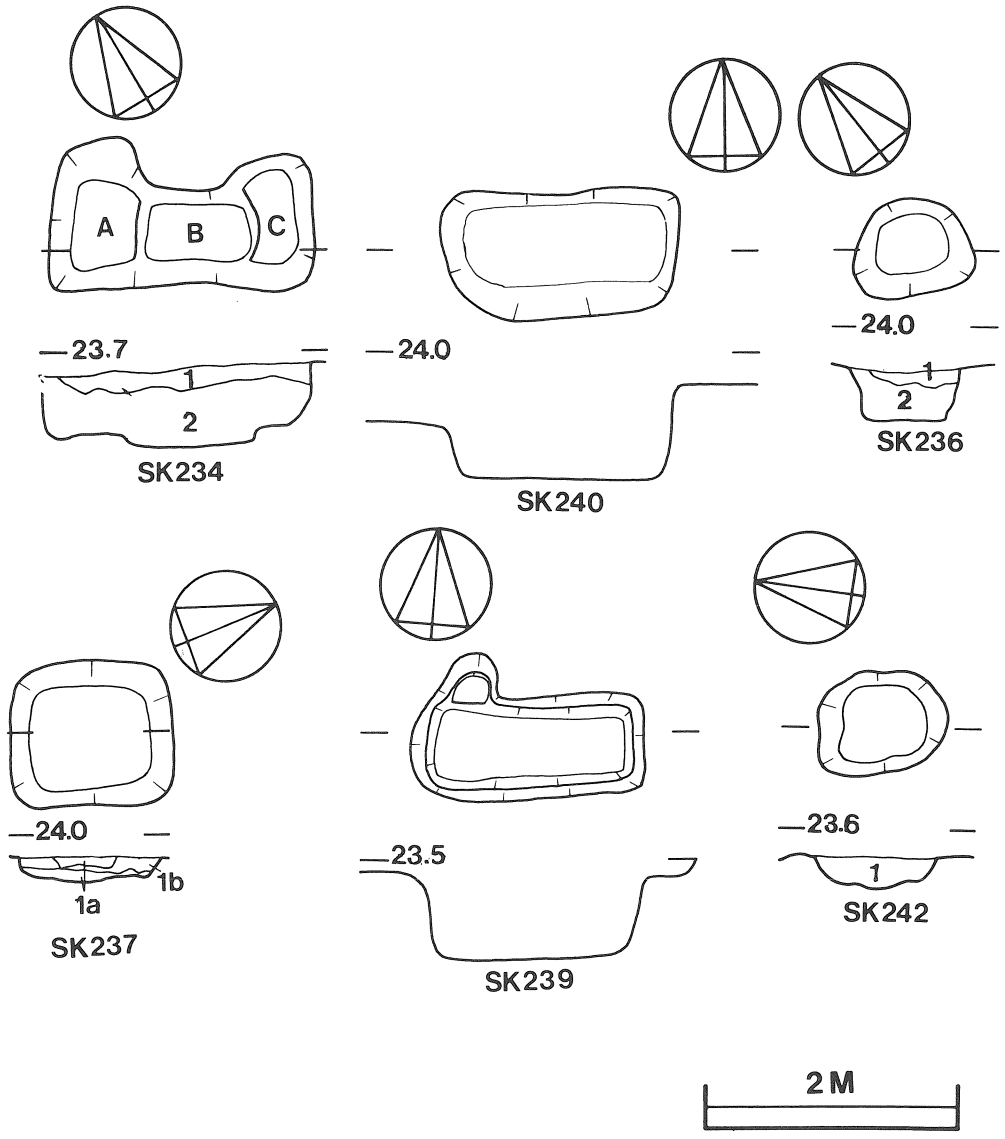
第215図 S K 実測図(29)



S K 227・229～233　土層解説
1. Hue 10Y R 3/4　暗褐色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(少)含む
2. Hue 7.5Y R 4/6　褐　色　黒色ブロック(少)・ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)含む

S K 228　土層解説
1. a　Hue 7.5Y R 4/6　褐　色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(多)含む
   b　Hue 7.5Y R 4/6　褐　色　ロームブロック(多)含む
2. a　Hue 7.5Y R 4/4　褐　色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)含む
   b　Hue 7.5Y R 4/4　褐　色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多)含む
3.　Hue 7.5Y R 4/3　褐　色　ローム小ブロック(少)含む

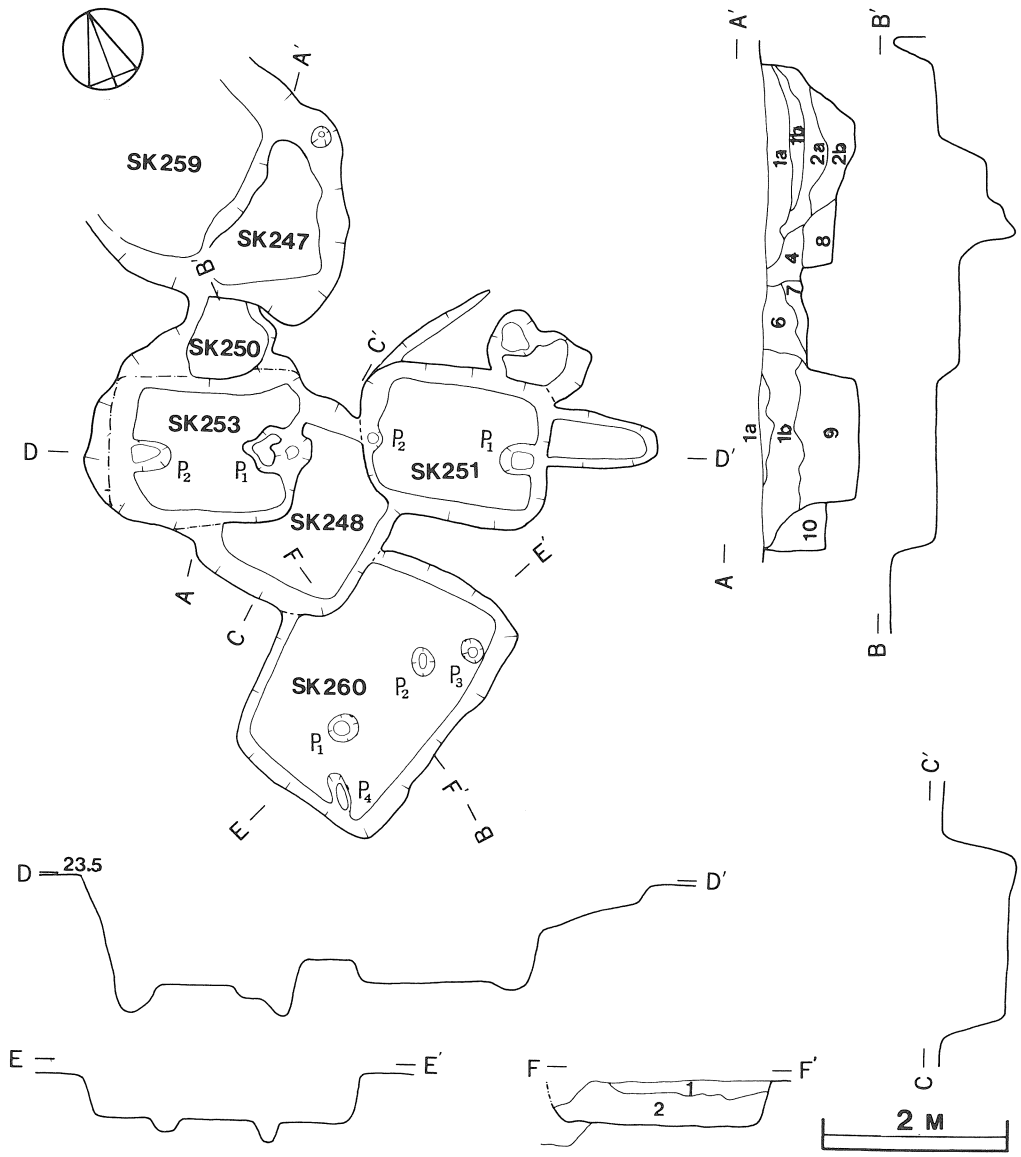
第216図　S K 実測図（30）



S K 234・236　土層解説
1. Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多) 含む
2. Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多) 含む

S K 237　土層解説
1. a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少) 含む
　 b　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中) 含む

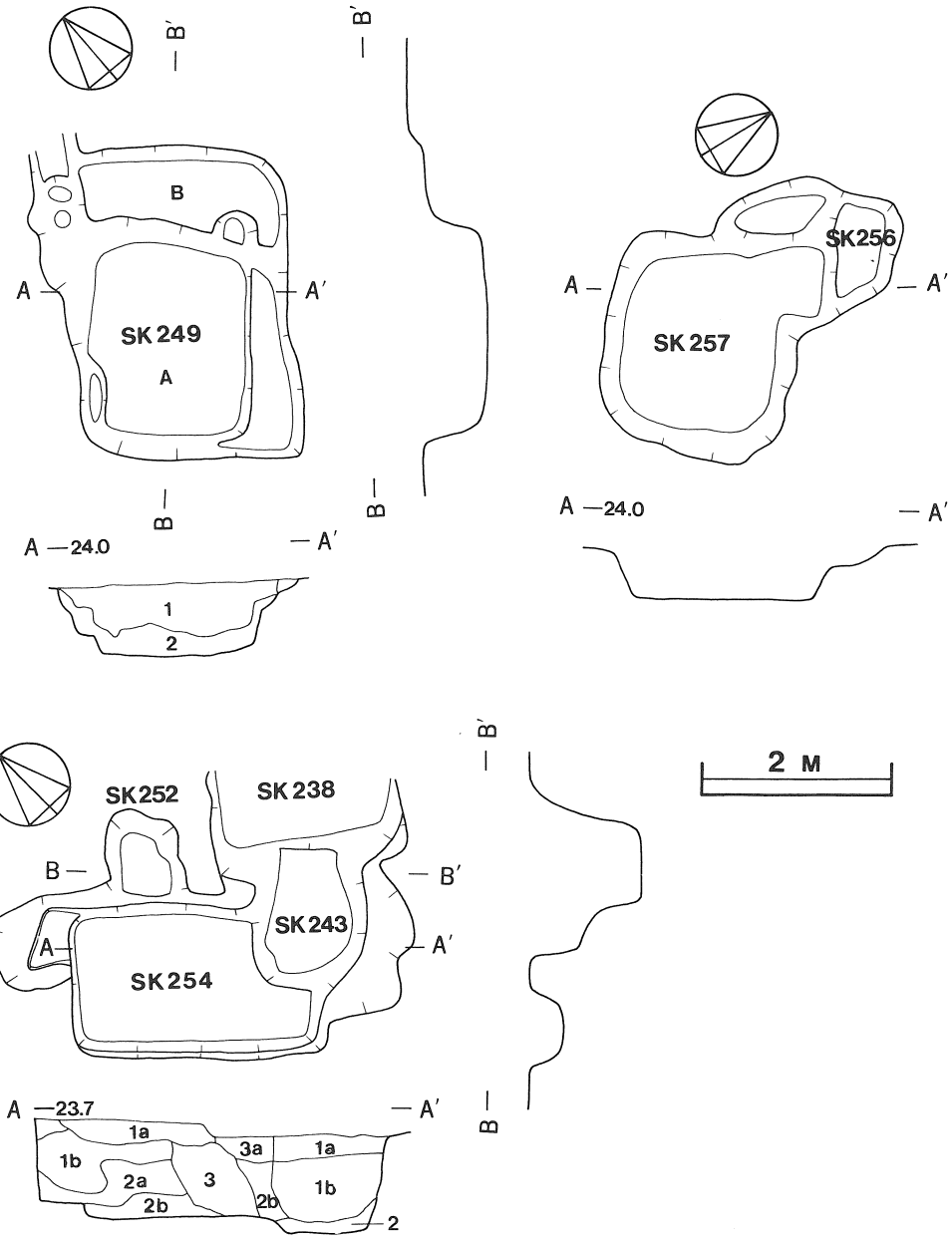
第 217 図　S K 実 測 図 (31)



S K 253・247・250　土層解説

1. a　Hue 7.5Y R黒　褐　色　ローム粒(微)・焼土(微)・炭化物ごくわずか 含む
   b　Hue 7.5Y R黒　褐　色　ロームの粒(小)・焼土の粒(微)・炭化物ごくわずか 含む
2. a　Hue 7.5Y R黒　褐　色　ロームの粒(中)・焼土の粒(微)・炭化物ごくわずか 含む
   b　Hue 7.5Y R褐　　色　ロームの粒(中)・ロームブロック(微) 含む
3.　Hue 7.5Y R暗　褐　色　ロームの粒(中)・ローム粒子(微) 含む
4.　Hue 7.5Y R褐　　色　ロームブロック(中)・焼土(微) 含む
5.　Hue 7.5Y R明　褐　色　ロームブロック(多)・ロームの粒(少) 含む
6.　Hue 7.5Y R褐　　色　ロームブロック(中)・白色粘土(少)・ロームの粒(多) 含む
7.　Hue 7.5Y Rにぶい褐色　白色粘土(多)・ロームの粘土(多) 含む
8.　Hue 7.5Y R暗　褐　色　ロームブロック(少) ロームの粒(中) 含む
9.　Hue 7.5Y R暗　褐　色　ロームブロック(多) 白色焼土(微)含む
10.　Hue 7.5Y R明　褐　色　ロームブロック 含む

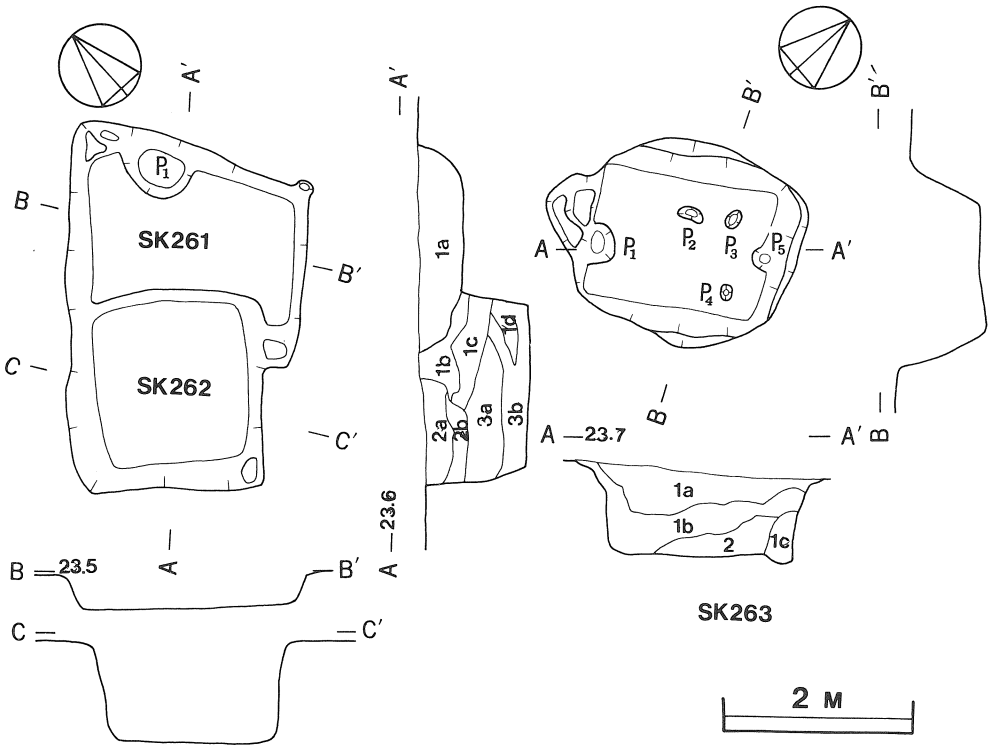
第220図　S K 実 測 図 (34)



S K 249　土層解説
1.　　Hue 7.5Y R 2 / 3　黒褐色
2.　　Hue 7.5Y R 4 / 3　褐　色

S K 243・254　土層解説
1. a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色
　 b　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色
2. a　Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色
　 b　Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色
3.　　Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色

第221図　S K 実 測 図（35）

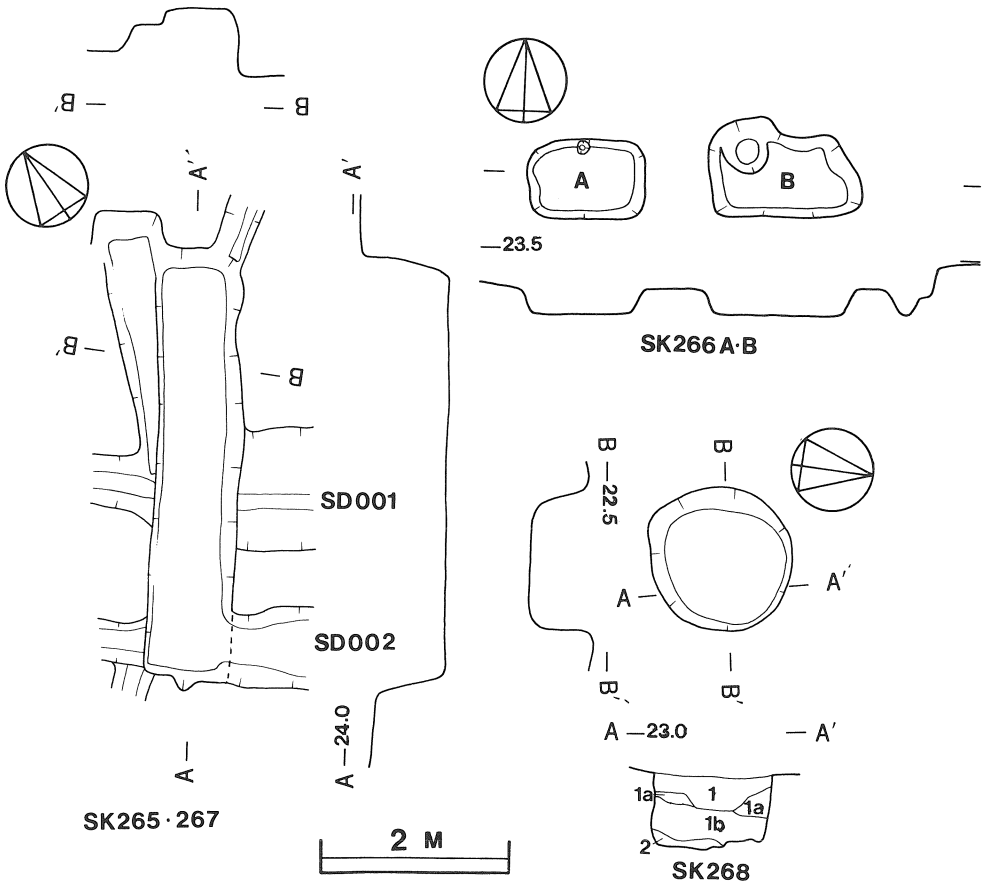


S K 260 土層解説
1. Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)含む
2. Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ローム小ブロック(多)・ローム粒子(多)含む
3. Hue 7.5Y R 3 / 3　暗褐色　ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)含む

S K 263 土層解説
1. a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(少)・ローム粒子(多)含む
　 b　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(中)・ローム粒子(中)含む
　 c　Hue 7.5Y R 4 / 4　暗褐色　ローム小ブロック(多)含む
2.　 Hue 7.5Y R 4 / 4　褐　色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(中)・ローム粒子(中)含む

S K 261・262 土層解説
1. a　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色
　 b　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色
　 c　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色
　 d　Hue 7.5Y R 3 / 4　暗褐色
2. a　Hue 7.5Y R 4 / 4　暗褐色
　 b　Hue 7.5Y R 4 / 4　暗褐色
3. a　Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色
　 b　Hue 7.5Y R 4 / 6　褐　色

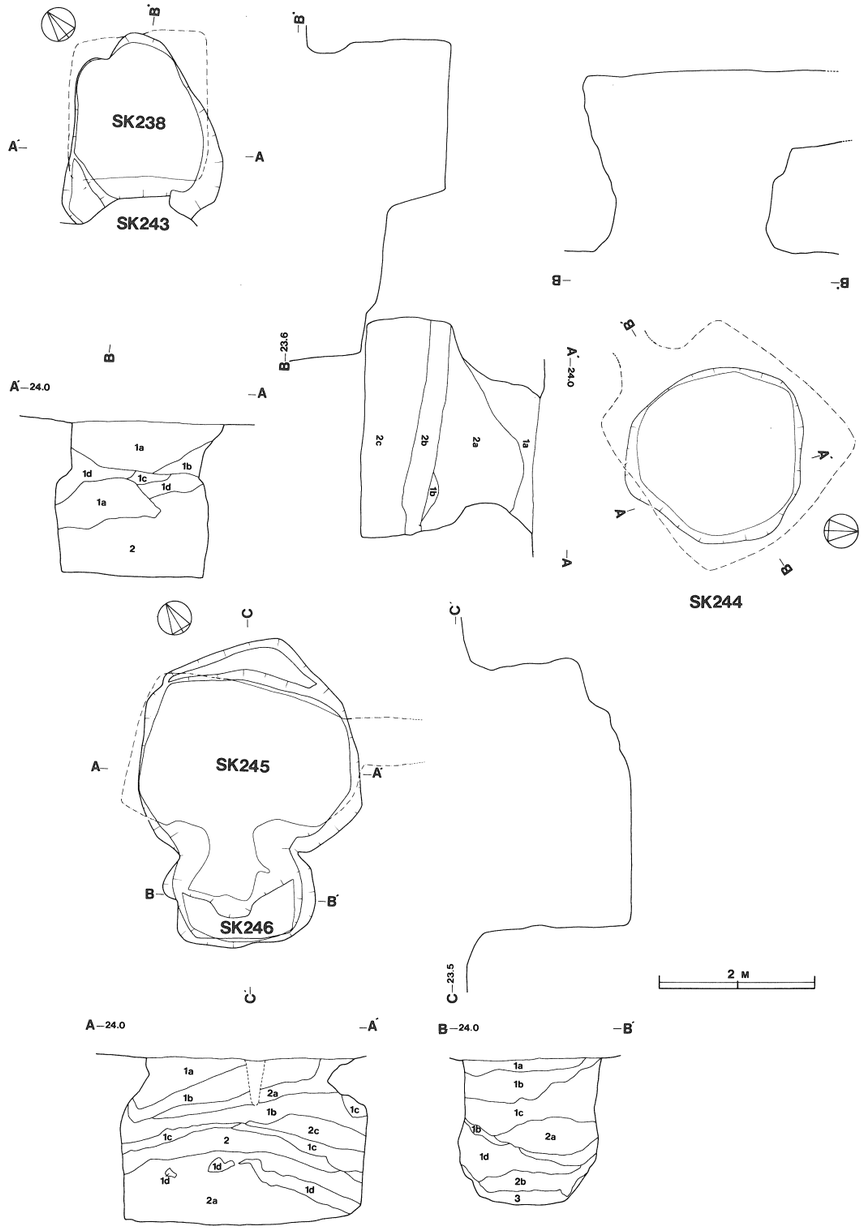
第222図　S K 実 測 図 (36)



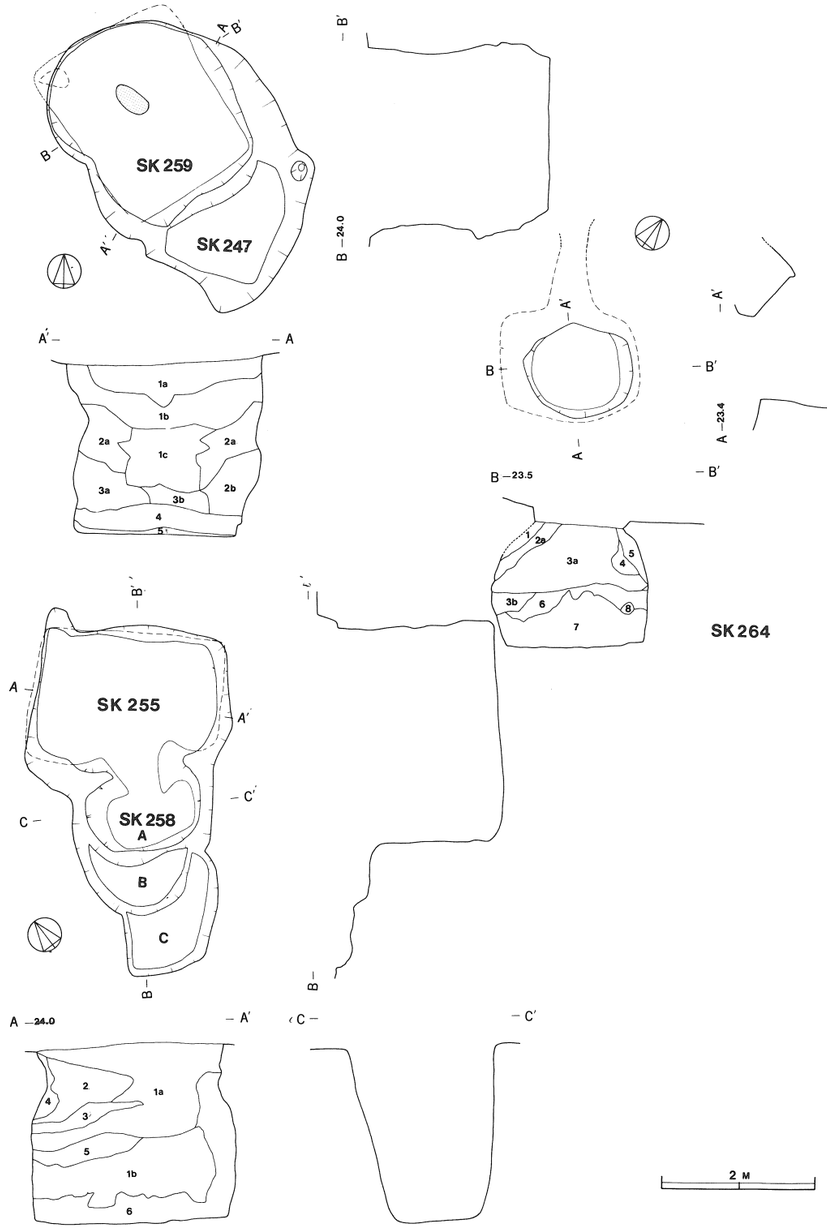
S K 268 土層解説

1. Hue 7.5Y R 3/3 暗褐色 ローム小ブロック少含む
a Hue 7.5Y R 3/3 暗褐色 ローム小ブロック含む
b Hue 7.5Y R 3/3 暗褐色 ロームブロック含む
2. Hue 7.5Y R 3/4 暗褐色 ロームブロック含む

第223図 S K 実 測 図 (37)



第218図　SK実測図（32）



第219図　SK実測図（33）

第1表　土壙（SK）一覧表

遺構	地区	主軸方向	平面形状	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	面積	覆土遺物	P番号	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	備考
				m	m	m	m²			m	m	m	
SK001	E9f7	N−4°−W	不定楕円形	1.82	1.5	0.2 ～0.4	8.807	馬骨					
004	C9f1, f2	N−14°−E	不定楕円形	1.22	0.85	0.22	3.362	土師器片					
005	C9f3, g3	N−68.5°−E	長方形	1.52	1.25	0.20～0.22	1.900	土師器片					
006	C9g1, h1	N−85.5°−W	長方形	1.48	0.57	0.36～0.4	0.843						
007	C9g2	N−0°	長方形	1.70	1.12	0.70～0.75	1.904						
008	C9g2	N−16.4°−E	不定長楕円形	1.13	0.96	0.32～0.42	3.428						
009	C9g2, f2	N−19.8°−W	不定長楕円形	1.46	0.80	0.12～0.20	4.006						
010	D9e4, e5	N−20°−W	楕円形	1.60	1.50	1.07	7.542	土師器片					
011	D9d2	N−44.1°−E	楕円形	1.82	1.56	0.40	8.967	土師器片					
012	D9h2	N−8°−E	楕円形	1.24	1.02	0.40	1.264	鉄製刀子					
013	D9h2, i2	N−20°−E	方形	0.90	0.85	0.21	0.765		P1	0.36	0.33		
014	D9h3	N−8°−E	方形	0.90	0.85	0.50～0.59	0.765		P1	0.63	0.47		
015	C8h5, h6	N−75°−W	長方形	4.48	0.77	0.18～0.30	3.449	土師器片	P1	0.25	0.24		
016	C9g4	N−80.5°−W	長方形	2.10	0.82	0.71	1.772	土師器片					
017	C8h3	N−9.5°−E	長方形	3.96	0.76	0.15～0.19	3.009						
018A	C9g3, g4	N−12.5°−E	長方形	1.40	0.76	0.37	1.064						
018B	C9g3, g4	N−4.5°−E	不定長方形	1.45	0.96	0.30	1.392						
018C	C9g3, g4	N−80.4°−W	不定形	1.65	0.70	0.18	1.155						
019	C9g3	N−83°−W	長方形	2.30	0.94	0.26～0.47	2.162						
020	C8g7	N−4°−E	不定長方形	1.16	0.63	0.23	0.730		P1	0.26	0.16		
021A	C8g7	N−64°−W	長方形	1.33	0.58	0.28～0.30	0.771						
021B	C8g7		長方形	1.24	0.66	0.20	0.818						
022	C8g7	N−1°−E	長方形	1.90	0.77	0.41	1.463						
023	C8g7	N−10.5°−E	長方形	1.55	0.75	0.23	1.162						
025	C8 e4.e5 d4.d5	N−14°−W	長方形	3.07	1.86	0.35	5.710	土師器片					
026	C8e4	N−88.5°−W	長方形	2.31	1.80	0.25～0.32	4.158	縄文土師器					
027A	C8d5	N−8°−E	長方形	2.70	1.00	0.18	2.700						
027B	C8d5	N−80°−E	長方形	1.30	1.16	0.14	1.508						
027C	C8d5	N−63°−E	不定形	0.82	0.80	0.12	0.656						
028	C8e3	N−84°−E	長方形	2.30	0.94	0.3 ～0.46	2.162						
029	C8e2	N−81.8°−E	長方形	3.24	0.78	0.18	2.527						
030	C8e2	N−80.5°−E	長方形	不明	0.90	0.45～0.50							
031A	C8d2	N−76°−E	長方形	2.90	0.65	0.20～0.26	1.885	縄文土器片					
031B	C8d2	N−90.2°−E	不定形	1.90	1.10	0.26～0.30	2.090	土師器片					
032	C8d5	N−2°−W	長方形	0.74	0.53	0.50	0.392						
033	C8d7	N−6°−E	長方形	1.70	0.69	0.16～0.26	1.173						
034	C8d4	N−82.5°−E	長方形	1.35	1.11	0.24	1.498						
035	C8e1, e2	N−84.5°−E	不定長方形	不明	1.30	0.46							
036	C8e2, f2	N−14°−E	長方形	不明	1.00	0.48		土師器片					
037	D8a7	N−12°−W	長方形	1.29	1.02	0.15～0.17	1.315						
038	D8c7, b7	N−88.5°−EW	長方形	1.53	1.12	0.17	1.713						SB008−P_3
039	D8c7, d7	N−0°	長方形	2.20	1.01	0.18	2.222						
040	D8b5, b6	N−88°−W	不定長方形	1.52	0.79	0.01～0.10	1.200						

遺構	地区	主軸方向	平面形状	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	面積	覆土遺物	P番号	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	備考
				m	m	m	m^2			m	m	m	
SK041	D8d7	N−16°−E	長方形	1.70	1.20	0.20	2.040						
042	D8e5	N−88°−E	長方形	1.15	0.80	0.05	0.920						
043	D8e7, d7	N−8°−E	長方形	1.85	0.71	0.20	1.313						
044	D8c6, d6	N−10°−W	長方形	4.89	0.79	0.05〜0.12	3.863						
045	D8d7, e7	N−7°−E	長方形	3.45	0.95	0.69	3.277	土師器片					
046	D9j6	N−86°−W	円形	1.58	1.28	0.34	1.959						
047	D9j6	N−86°−W	不定長方形	1.66	0.90	0.40	1.494						
048	D9j9, j6	N−81°−W	不定長方形	1.70	1.06	0.70	1.802	土師器片 石製模造品					
049	D9j5	N−9°−W	方形	0.87	0.80	1.44〜1.50	0.696		P1	0.30	0.27		
050	D9j4	N−86°−W	長方形	3.40	0.84	0.80	2.856						
051A	D8d8, d9	N−0°	楕円形	1.35	0.62	0.70	3.045						
051B	D8d8, d9	N−15°−E	楕円形	1.44	1.30	0.60	1.627						
052	D8i6	N−0°	楕円形	1.98	1.92	0.32〜0.39	1.938	土師器片	P1	0.24	0.21		
									P2	0.39	0.31		
053	D8a6, b6	N−24°−E	長方形	1.50	1.30	0.55	1.950	土師器杯(完形)	P1	1.00	0.12		
									P2	2.00	0.12		
									P3	0.45	0.25		
054	D9d5	N−18°−W	不定長方形	1.69	0.79	0.30〜0.80	1.335						
055	D9h6, i6	N−2°−E	楕円形	1.16	0.79	0.35〜0.56	1.056						
056	D9c1	N−87°−E	楕円形	0.86	0.73	0.39	0.580						
057	D9d1	N−90°−E	方形	0.79	0.77	0.42	0.489	土師器片					
058	D9a2	N−5°−W	不整方形	1.15	0.94	0.52	1.038	土師器片					
059	D9a3	N−12°−W	長方形	0.78	0.72	0.20	0.477						
060	D9a4	N−82°−W	長方形	1.03	0.55	0.40〜0.55	0.566	土師器片					
061	D9b4	N−25°−E	不定方形	0.97	0.91	0.39	0.738						
062	D9j4	N−79°−W	長方形	2.03	0.88	0.61	1.786						
063	E9c5	N−82°−W	長方形	1.57	0.75	0.30〜0.54	1.177						
064	C8g5, g6	N−78.5°−W	長方形	1.91	1.79	0.64	3.418						
065	C8g5, g6	N−82°−W	長方形	2.27	0.75	0.34	1.702						
066	C8g5	N−82°−W	長方形	3.47	0.88	0.11	3.053	土師器片					
067	C8g5	N−79.5°−W	長方形	1.74	0.92	0.71	1.600						
068	C8i5	N−87°−W	不定長方形	1.20	0.70	0.50	0.840	土師器片					
069	C8f2, f3	N−85°−W	長方形	1.08	0.70	0.20	0.756						
070	C8g2	N−18°−E	長方形	1.80	0.82	0.26	1.443	土師器片					
071	C8f1	N−6°−E	長方形	4.20	0.60	0.18〜0.48	2.520	土師器片					
072	D8a0	N−0°	不明	0.98	0.90	0.36	0.882						
073	D8a0	N−0°	方形	1.20	1.13	0.49〜0.57	1.356						
074	D8a0	N−70°−W	楕円形	0.77	0.49		1.243						
075	D8a0	N−82°−W	長方形	2.46	0.64	0.16〜0.25	1.574						
076A	C8j7	N−40°−E	不定形	1.36	1.13	0.74	1.536	土師器片					
076B	C8j7	N−49°−E	不定形	1.26	1.24	1.20	1.562						
077A	D8c8	N−71°−W	長方形	1.61	0.97	0.34	1.561						
077B	D8c7	N−76°−W	長方形	1.27	0.84	0.40〜0.62	1.066						
078	D8b7	N−65°−W	長方形	1.37	1.20	0.35	1.644	土師器片					

遺構	地区	主軸方向	平面形状	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	面積	覆土遺物	P番号	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	備考
				m	m	m	m²			m	m	m	
SK079	D8 j7	N−61°−W	台形	0.98	0.90	0.85	0.416	擂鉢					
080	D8 j7	N−62°−W	方形	1.00	0.95	0.20〜0.40	0.950	土師器片					
081	D8 b6	N−84°−E	不定方形	1.05	0.65	0.16〜0.38	0.682						
082	D8 b5	N−80°−E	方形	1.33	0.79	0.79	1.050	土師器片					
083	D8 b4	N−22°−W	方形	1.06	1.00	0.57〜0.90	0.882	土師器片	P1	0.49	0.39		
084	D8 a4, b4	N−61°−W	長方形	1.05	0.65	0.22〜0.51	0.682						
085	D8 a4	N−55°−W	長方形	1.10	0.52	0.24〜0.59	0.572	土師器片					
086	D8 a4	N−55°−W	不定長方形	1.65	1.46	0.09	2.137						
087	D8 a4	N−90°−WE	楕円形	1.27	0.70	0.32〜0.43	0.889	土師器片	P1	0.53	0.23		
088	D8 a4	N−64°−W	方形	0.89	0.85	0.40	0.621						
089	D8 b4	N−84°−W	長方形	1.15	0.78	0.25〜0.37	0.897	土師器片					
090	D8 b4	N−58°−W	長方形	1.12	1.05	0.47〜0.60	0.984	土師器片					
091	D8 b4	N−26°−W	台形	0.82	0.71	0.39	0.502	土師器片					
092	D8 c4	N−72°−W	方形	0.80	0.77	0.18〜0.48	0.527	土師器片					
093	D8 b3, b4	N−50°−W	長方形	1.14	0.63	0.17〜0.72	0.718	土師器片					
094	D8 b3, b4	N−51.5°−W	不定形	1.27	0.82	0.13〜0.18	1.041		P1	0.26	0.25		
									P2	0.23	0.19		
095	D8 b3	N−61°−W	長方形	1.14	0.67	0.42	0.763		P1	0.28	0.18		
096A	D8 a3	N−26°−E	不定長方形	1.11	0.96	0.33	1.065	土師器片					
096B	D8 a3	N−7°−E	不定長方形	0.82	0.72	0.12〜0.23	0.590	土師器片					
097	D8 a3	N−26°−W	不定方形	1.05	0.74	0.20〜0.32	0.777	土師器片					
098	D8 a3	N−10°−W	楕円形	1.44	1.43	0.32〜0.52	6.465	土師器片	P1	0.62	0.54		
099	D8 b3	N−80°−W	方形	8.04	0.75	0.31〜0.40	6.030	古銭					元宝通宝
100	F9 b4	N−12°−E	長方形	2.10	1.45	0.40〜0.53	3.045						
101	F9 d4	N−40°−W	不定長方形	1.41	1.12	0.60〜0.70	1.579	土師器片					
102	F9 c4	N−4°−W	長方形	2.78	1.00	0.30〜0.46	2.780	土師器片	P1	1.20	1.00	0.60	
103	F9 d4	N−5°−E	不定長方形状	不明	0.50	0.12							
104	F9 d4	N−18°−E	長方形	1.50	1.20	0.22	1.800						
105	F9 e4	N−89°−W	長方形	1.48	0.90	0.21	1.332						
106	F9 e1	N−12°−E	不定長方形	1.18	0.98	0.34	1.156	土師器片					
107	F9 d3	N−3°−W	長方形	1.50	1.10	0.70	1.650	石製模造品					双孔円板
108	F9 d3	N−20°−E	不定形	1.70	1.60	0.35	2.720						
109	F9 i1	N−7°−W	不定形	1.13	0.85	0.10〜0.20	0.965						
110	F9 i1	N−24°−W	不定形	1.26	0.72	0.11〜0.18	0.907						
111	D8 c3, d3	N−3°−E	楕円形	0.89	0.80	0.16	0.621						
112	D8 d3	N−61°−E	楕円形	1.23	1.06	0.11〜0.25	1.187						
113	D8 e4	N−90°−EW	不定長方形	1.03	0.83	0.15〜0.30	0.832	土師器片					
114	D8 e5	N−64°−E	楕円形	0.72	0.57	0.11〜0.20	0.395						
115	D8 e5	N−36°−W	楕円形	0.64	0.60	0.35	0.321	土師器片					
116	D8 e7	N−65.5°−E	長方形	1.47	0.64	0.30〜0.38	0.940						
117	D8 f6	N−19.5°−E	三角形	0.71	0.56	0.08〜0.17	0.440	土師器片					
118	D8 e8	N−56°−E	方形	1.00	0.96	0.34	0.960	土師器片					
119A	D8 e8	N−86°−W	長方形	1.42	1.38	0.60	1.959	土師器片					
119B	D8 e8	N−0°	長方形	1.92	0.54	0.53〜0.62	1.036						

遺構	地区	主軸方向	平面形状	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	面積	覆土遺物	P番号	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	備考
				m	m	m	m^2			m	m	m	
SK120	D8e8	N－74°－E	楕円形	0.80	0.39	0.09	0.312	土師器片					
121A	D8d9	N－90°－E	方形	0.87	0.84	0.28～0.29	0.594	土師器片					
121B	D8d9	N－86°－W	長方形	0.93	0.45	0.11	0.678						
122	D8e9	N－83°－E	長方形	1.02	0.72	0.36	0.816						
123	D9d1	N－69°－E	長方形	0.98	0.50	0.40	0.490	土師器片（内黒）					（SI026 P_1側）
124	D8a5	N－7°－E	長方形	1.20	0.52	0.37～0.52	0.624	土師器片	P1	0.56	0.48		SB014－P_8
125	C8a5	N－90°－WE	不定形	0.88	0.80	0.12	0.704						
126	D8b3	N－57°－W	楕円形	1.34	1.00	0.09	1.340						
127	D8g7	N－87°－E	不定方形	0.69	0.65	0.39	1.083	土師器片					
128	D8 g8, g9 h8, h9	N－90°－WE	長方形	1.08	0.92	0.26	0.993						
129	D8i6	N－18°－E	長方形	1.35	0.93	0.83	0.526	土師器片多数					他鉄片
130	D9h6	N－7°－E	長方形	1.24	0.69	0.11～0.15	0.855						
131	D8c1	N－42.5°－W	長方形	1.04	0.58	0.40	0.603	土師器片					
132	D8c1	N－47°－W	不定長方形	0.85	0.48	0.11～0.15	0.408						
133	D8c1	N－48°－E	不定形	0.91	0.50	0.43～0.46	0.455						
134	D8b1	N－29°－W	不定形	0.93	0.76	0.17～0.29	0.706						
135	D8b1	N－25°－E	長方形	0.91	0.74	0.47	0.673	土師器片					SB013－P_5
136	D8b1	N－77°－E	方形	0.96	0.94	0.40	0.902						SB013－P_6
137	D8b2	N－20°－E	不定長方形	1.14	0.75	0.18～0.44	0.855						SB013－P_3
138	D8a1	N－10°－E	不定長方形	1.16	0.90	0.28～0.53	1.044	土師器片					SB013－P_7
139	D8b2	N－88°－W	長方形	1.62	1.54	0.16～0.23	2.494	土師器片					SB013－P_4
140A	C8j3	N－84.5°－W	不定形	1.53	1.31	0.15～0.42	2.004	土師器片					
140B	C8j3	N－80°－W	不定形	1.19	0.98	0.15～0.42	1.116		P1	0.49	0.47		
141	D8j2	N－86.5°－W	楕円形	1.35	1.17	0.21～0.25	4.983	土師器片					
142	C8j3 D8a3	N－74°－E	長方形	1.37	1.03	0.54～0.68	1.411						SB012－P_2
143	D8c1	N－14°－W	楕円形	0.65	0.45	0.10～0.15	0.948						
144	D8b4	N－50°－W	不定長方形	0.98	0.69	0.52	0.676						
145	D8c1, c2	N－67.5°－W	長方形	0.87	0.44	0.27～0.44	0.382						
146	D8a8, b8	N－4°－E	楕円形	1.10	0.58	0.60	2.213						
147	D8a1, b1	N－48.5°－W	不定形	1.16	0.89	0.43	1.032						
148	D8d6	N－6.5°－E	長方形	1.80	1.12	0.04～0.08	2.016		P1	0.15	0.13	0.23	
									P2	0.21	0.19	0.31	
									P3	0.23	0.15	0.24	
									P4	0.15	0.11	0.38	
									P5	0.17	0.15	0.32	
									P6	0.23	0.13	0.29	
									P7	0.18	0.14	0.28	
									P8	0.22	0.13	0.33	
									P9	0.15	0.12	0.14	
149	D8a7	N－7°－E	不定形	0.70	0.51	0.15～0.17	0.357	礫石					
150	C8j3	N－47.5°－W	不定形	1.12	0.85	0.12～0.17	0.952	土師器片	P1	0.24	0.17		
151	C8j4	N－45°－W	不定形	1.29	0.82	0.08～0.22	1.057						
152	D8b6	N－34°－E	不定長方形	1.24	1.16	0.80	1.438	土師器片	P1	0.50	0.50	0.05	SB014－P_3
153	D8d6	N－51.5°－E	不定長方形	1.11	0.88	0.76	0.976	土師器片	P1	0.38	0.30	0.80	SB014－P_1

遺構	地区	主軸方向	平面形状	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	面積	覆土遺物	P番号	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	備考
				m	m	m	m^2			m	m	m	
SK154	D8a5	N−29°−E	長方形	1.08	0.98	0.57〜0.80	1.058	土師器片	P1	0.34	0.30		SB014−P_7
									P2	0.49	0.42		
155	D8a4	N−59.5°−W	不定長方形	1.23	1.00	0.68	1.230	土師器片					SB012−P_1
156	C8j2	N−71.5°−W	長方形	1.33	0.81	0.29〜0.69	1.077	燈明皿					SB012−P_4
157	C8i2	N−81.5°−W	長方形	1.30	0.92	0.73	1.196	土師器片					SB012−P_5
158	C8i3	N−73°−W	楕円形	1.35	1.00	0.62	4.333	土師器片					SB012−P_6
159	C8i4	N−54°−W	楕円形	1.29	1.06	0.76	4.333						SB012−P_7
160	C8j4	N−63.5°−W	長方形	1.32	0.85	0.86	1.122	土師器片					SB012−P_8
161	C8j6	N−66.5°−W	長方形	0.87	0.80	0.50	0.696						SB015−P_6
162	C8i6	N−72°−W	長方形	1.09	0.66	0.35	0.719	弥生片	P1	0.23	0.21		SB015−P_7
									P2	0.24	0.24		
163	C8i7	N−60°−W	不定長方形	1.10	1.06	0.73	1.166	土師器片					SB007−P_3
164	C8i7, j7	N−74°−W	長方形	2.03	1.02	0.67	2.070		P1	0.42	0.39		SB007−P_2
165	C8j8	N−79°−W	長方形	1.17	0.67	0.58〜0.69	0.783	土師器片(多)					SB007−P_1
166	D8a2	N−24.5°−W	不定長方形	1.10	1.06	0.28〜0.47	1.166						SB013−P_2
167	D8a2	N−14°−E	不定長方形	1.04	0.98	0.80	1.019						SB013−P_1
168	D8a4	N−28°−E	不定長方形	0.93	0.66	0.45	0.613	土師器片					SB011−P_8
169	C8h8	N−90°−WE	方形	1.29	1.21	0.29〜0.53	1.560						SB007−P_7
170	C8h8	N−19°−E	長方形	1.27	0.95	0.43	1.206						SB007−P_8
171	C8h0	N−12.5°−E	長方形	1.25	0.83	0.76	1.037						
172	C8g0	N−75°−E	長方形	1.77	0.93	0.30〜0.35	1.646	土師器片					
173	C8h9	N−11°−E	不定長方形	0.83	0.72	0.36〜0.51	0.597						
174	C8h9	N−14.5°−E	楕円形	0.77	0.59	0.12〜0.34	1.450						
175	C8f7	N−75°−E	長方形	2.00	1.00	0.28	2.000						
176	C8e8	N−4°−E	長方形	1.94	0.68	0.09〜0.13	1.319						
177	C8e8	N−17.5°−W	不定長方形	1.26	0.86	0.12〜0.39	1.083		P1	0.31	0.29		
178	C8e8	N−69°−W	長楕円形	1.80	0.80	0.30	5.306						
179	C8e7	N−40°−W	楕円形	1.46	0.95	0.12	4.559						
180	C8d7	N−85°−E	楕円形	1.09	0.87	0.28〜0.32	3.015						
181	C8d7	N−60°−W	楕円形	1.69	0.85	0.20	5.061						
182	C8g8	N−11.5°−W	不定形	0.84	0.54	0.08〜0.18	0.453		P1	0.15	0.08		
183	C8e7, f7	N−83.5°−W	楕円形	1.68	1.13	0.04〜0.11	6.198	土師質土器					
184	C8i7	N−82°−W	不定長方形	1.90	1.00	0.20	1.900						
185	D8a6	N−69°−W	不定長方形	1.80	0.68	0.40	1.224						SB015−P_2
186	D8c5	N−32°−E	長方形	0.82	0.75	0.50	0.615		P1	0.54	0.46	0.25	SB014−P_4
187	C8j7	N−62°−W	長方形	0.90	0.85	0.46	0.765						
188	D8a6	N−70°−W	長方形	1.18	0.81	0.35〜0.45	0.955	土師器片					SB015−P_1
189	C8h9	N−30°−W	楕円形	0.70	0.43	0.13	1.001						
190	C8j5	N−14°−E	長方形	1.55	0.93	0.11〜0.43	1.441	土師器片	P1	0.25	0.23		SB015−P_5
191	C8j8	N−33.5°−E	長方形	1.00	0.73	0.08〜0.14	0.730						
192	D8g7	N−62.5°−E	楕円形	0.70	0.67	0.74	1.472	土師器片					
193	D8i6	N−13.5°−E	楕円形	0.42	0.41	0.38	0.540						
194	D8i6	N−71.5°−W	長方形	1.22	0.89	0.69	1.085						
195	D8h6	N−16°−E	円形	0.78	0.77	0.23	0.477	土師器片					

遺構	地区	主軸方向	平面形状	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	面積	覆土遺物	P番号	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	備考
				m	m	m	m^2			m	m	m	
SK196	D8h6	N−40°−E	円形	0.75	0.67	0.14〜0.29	0.439						
197	D8h6	N−70°−E	長方形	0.66	0.45	0.53	0.297						
198	D8f8	N−27.5°−E	楕円形	0.85	0.62	0.44	1.695						
199	D8f8	N−32°−E	楕円形	0.75	0.48	0.53〜0.62	1.186	土師器片 石製模造品	P1	0.26	0.23		双孔円板1
200	D8f8	N−44.5°−W	円形	0.68	0.57	0.11〜0.25	0.361	土師器片					
201	D8f9	N−28°−W	円形	0.65	0.59	0.34〜0.41	0.329						
202	D9h1	N−4°−W	楕円形	1.05	0.80	0.21	2.684	土師器片 弥生片					
203	D9h1	N−7°−W	不定形	1.09	0.90	0.14〜0.16	0.981						
204	D8h9	N−13.5°−W	楕円形	0.58	0.55	0.30〜0.44	1.001						
205	D8h9	N−90°−WE	楕円形	0.43	0.33	0.21	0.452						
206	D8g9	N−89°−W	楕円形	0.47	0.42	0.29	2.486						
207	D8g9	N−86°−W	楕円形	0.87	0.70	0.38	1.934						
208	D8f9	N−84.5°−W	楕円形	0.66	0.62	0.63	1.284						
209	D9h1	N−6°−E	不定長方形	2.04	0.68	0.23	1.387	土師器片 砥石					
210	E9b1	N−84°−W	長方形	2.72	1.02	0.19〜0.24	2.774						
211	F9i1	N−7°−W	不定形	1.49	0.96	0.66	1.430						
212	F9i2	N−7°−W	不定形	0.56	0.34	0.26	0.190						
213	F9i2	N−7°−W	不定形	1.18	1.04	0.26	1.227						
214	D8a5	N−70°−W	楕円形	1.04	1.02	0.23〜0.36	3.328						SB015−P_3
215	D8a5	N−21°−E	不定長方形	0.82	0.67	0.25〜0.32	0.549		P1	0.36	0.27		SB015−P_4
216	E9j3	N−90°−WE	長方形	1.60	1.25	0.37	2.000						
217	E9j3	N−90°−WE	長方形	1.40	1.30	0.18〜0.44	1.820						
218A	E9j4	N−86°−W	長方形	1.26	0.71	0.37	0.894						
218B	E9j4	N−87°−W	長方形	1.72	0.67	0.53	1.152						
219A	E9j4	N−85.5°−W	長方形	1.98	1.40	0.55	2.772						
219B	E9j4	N−85°−W	長方形	1.56	0.70	0.50	1.092						
220	E9j5	N−90°−WE	長方形	1.26	0.78	0.47〜0.94	0.982						
221	E7c9	N−31.5°−E	不定長方形	2.86	2.13	0.55〜0.58	6.091						
222	E7b0	N−33°−E	長方形	2.24	0.99	0.46〜0.58	2.217	土師器片					
223	E7b0	N−35°−E	長方形	1.58	0.96	0.64	1.516						
224	E7b0	N−36.5°−E	長方形	2.34	4.30	0.12〜0.46	10.062		P1	4.65	4.20		
225	E8b1	N−53°−W	不定長方形	3.44	1.06	0.08〜0.34	3.646	土師器 陶器					
226	D8j1 E8a1	N−36°−E	長方形	1.46	1.14	0.58	1.664						
227	D8j1	N−37°−E	長方形	1.74	0.62	0.50	1.078	土師器片 粘板岩					
228A	D8j1	N−37°−E	不定長方形	1.38	0.92	0.50〜0.70	1.269						
228B	D8j1	N−35°−E	不定長方形	1.20	0.74	0.50〜0.70	0.888						
229	D7g7	N−82°−W	不定長方形	1.73	0.76	0.28〜0.30	1.314						
230	D7j9	N−52°−E	長方形	2.73	1.04	0.50	2.839						
231	E7a7	N−36.5°−W	楕円形	1.88	0.88	0.22	5.978						
232	E7c7,c8	N−77°−W	不定長方形	1.86	0.84	0.40	1.562	土師器片 陶器					SB013−P_8
233	E7c8	N−70°−W	長方形	2.00	0.76	0.50	1.520						
234A	E7c8,c9	N−62°−W	不定形	1.20	0.70	0.52	0.840						
234B	E7c8,c9	N−62°−W	不定形	0.88	0.76	0.62	0.668						
234C	E7c8,c9	N−62°−W	不定形	1.06	0.50	0.52	0.530						

遺構	地区	主軸方向	平面形状	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	面積	覆土遺物	P番号	規模 長軸	規模 短軸	規模 深さ	備考
				m	m	m	m^2			m	m	m	
SK235	E7c9	N−60°−W	方形	0.77	0.66	0.54	0.508						
236	E7d0	N−53°−W	台形	0.88	0.78	0.46	0.202						
237	E8d3	N−23°−E	長方形	1.28	1.16	0.14〜0.20	1.484						
238	E7f8	N−37°−E	不定長方形	2.12	1.57	1.78〜1.84	3.328	土師器片 土師質土器 擂鉢					地下式壙
239	E8g9, h9	N−84°−E	長方形	1.86	1.18	0.74	2.194						
240	E8g0	N−88°−W	長方形	1.86	1.02	0.54〜0.72	1.897						
241	E7j7	N−43°−W	楕円形	0.58	0.48	0.14	0.879						
242	E7i6	N−80°−W	楕円形	1.00	0.80	0.15	2.543						
243	E7f8	N−49°−E	不定形	1.42	1.10	1.04	1.562						
244	E7e7	N−47°−E	楕円形	2.30 (2.70)	2.14 (2.50)	2.30〜2.34	6.970						地下式壙
245	E7e6	N−32°−E	不定長方形	2.80	2.10	1.60〜2.15	5.880	土師器片					
246	E7f5, f6	N−27°−E	不定形	1.76	1.60	2.13	2.816	土師・須恵					
247	E7f7, g7	N−34°−W	不定三角形	2.10	1.30	0.74〜0.94	0.882						
248	E7g7	N−53°−E	長方形	2.22	1.70	0.70〜0.80	3.774						
249A	E7g8	N−44.5°−E	長方形	2.52	2.34	0.73	5.836	土師器片 (多)					
249B	E7g8	N−44.5°−E	長方形	2.50	0.78	0.18	1.747						
250	E7g6, g7	N−39°−E	不定形	1.00	0.98	0.48	0.980						
251	E7g7	N−61°−W	長方形	2.08	1.68	1.05	3.494	土師器片	P1	0.42	0.34	0.10	
									P2	0.28	0.20	0.09	
252	E7e7	N−43°−E	不定形	0.90	0.80	0.32	0.720						
253	E7g6	N−68°−W	長方形	2.38	1.65	1.18	3.927	土師器片	P1	0.71	0.50	0.31	
									P2	0.53	0.35	0.32	
254	E7f7	N−43°−W	長方形	2.72	1.74	0.10	4.732	土師器片 陶器					馬骨
255	E7g9	N−41°−E	長方形	2.50	1.72	2.20	4.300	砥石					
256	E7g0		不定形	1.12	0.60	0.20	4.651						
257	E7h0	N−47°−W	長方形	2.28	2.04	0.52	0.672	土師器片					
258A	E7h9, g9	N−34°−E	不定長方形	1.80	1.10	0.22	1.980						地下式壙(前)
258B	E7h9, g9		半円形	1.46	0.63	0.46〜0.56	0.835						
258C	E7h9, g9		不定形	1.40	1.14	0.20〜0.26	1.419						
259	E7f6, f7	N−34°−W	長方形	2.50	2.20	2.28	5.544	土師・須恵 陶器片 土師質土器					地下式壙
260	E7h6, h7	N−51°−E	長方形	2.90	2.10	0.50	6.090	土師器片	P1	0.30	0.30	0.15	
									P2	0.32	0.26	0.23	
									P3	0.25	0.24		
									P4	0.46	0.22	0.15	
261	E7h8, i8	N−32°−W	不定長方形	2.50	1.94	0.40	4.850	土師器片 陶器	P1	0.62	0.48	0.22	
262	E7i7, i8	N−43°−E	方形	2.10	2.05	1.04	2.184	土師器片					
263	E7j8	N−54°−E	長方形	2.30	1.80	0.80〜0.93	4.140	土師器片 土師質土器 陶器	P1	0.42	0.38	0.27	
									P2	0.28	0.13	0.08	
									P3	0.21	0.14	0.06	
									P4	0.18	0.11	0.02	
									P5	0.22	0.21	0.10	地下式壙
264	E7j0	N−34°−W	楕円形 底(不定長方形)	1.40 (1.75)	1.22	1.74〜1.88	1.708						
265	E8f3	N−37°−E	長方形	4.56	0.90	0.70〜0.86	4.104						
266A	E9i3, j3	N−89°−E	長方形	1.26	0.82	0.30	1.033						
266B	E9i3, j3	N−87°−E	不定長方形	1.60	0.86	0.31	1.376						

遺構	地区	主軸方向	平面形状	規模			面積	覆土遺物	P番号	規模			備考
				長軸	短軸	深さ				長軸	短軸	深さ	
				m	m	m	m^2			m	m	m	
SK267	E8f3	N−20°−E	長方形	不明	0.70	0.30							
268	E9d6		円形	1.52	1.50	0.73	1.811						
269	F8e6, f6	N−59°−W	台形	2.25	1.52	0.70〜0.82	2.265						
270	F8d5	N−33°−W	長方形	1.04	0.75	0.15	0.780						

3. 溝（SD）

SD 001（第224図） 本溝は，Ｅ７・Ｅ８・Ｆ８に確認され，東部地区の西南部を西側より東南に走り，ほぼ中央部の南側にＳＤ002が平行して走り，ともに南方に向かうと想定される。

西側の溝の始まりはＳＨ03の南側の立ちあがり部に接するＥ７ａ３より主軸方向Ｎ－72°－Ｗを向き，約32ｍ東南のＥ８ｅ１でＮ－58°－Ｗ方向となり，ＳＩ083・ＳＩ078の住居を切りＳＩ068の南で角度を変え，Ｆ８ｃ８ではＮ－27°－Ｗを向きさらに南下すると考えられる。

確認されたＳＤ001の全長は約78.7ｍほど，上幅は１～1.6ｍほどで，遺構面からの深さは高低差の関係があるが・西側で60～78ｃｍ・中央部で45 cm・南側で54 cmほどであり，底面のレベルはＡ－Ａ′で22.82ｍ・Ｆ－Ｆ′で23.24m・Ｇ－Ｇ′で23.29m・Ｉ－Ｉ′で23.46ｍを測り中央部と西側の比高は57 cmで，西側と南側の比高は64 cmを測り，南側より中央にかけてはそれほどの高低はないが西側に向かうにしたがい傾斜を示している。断面形状は西側では薬研状を呈するが，中央から南にかけてはややなだらかな傾斜を示している。

表土下第２層より掘り込まれ，覆土の第１層ａはローム粒子を含む褐色土で，きわめて固い層である。第２層は暗褐色土の堆積である。

覆土中の遺物は，少量の土師器片と陶磁器・石製品が出土している。

石製品は長径9.2 cm・幅2.85 cm・厚さ2.55 cmほどを測り，頂部は鋭角をなし中央部が厚みをもつ鰹節状をなし，基部は欠損している。最大幅をなす部分を境に上下ともよく使用され研ぎ減っている。側面および裏面の一部に砥石製作時の切断面が残る。

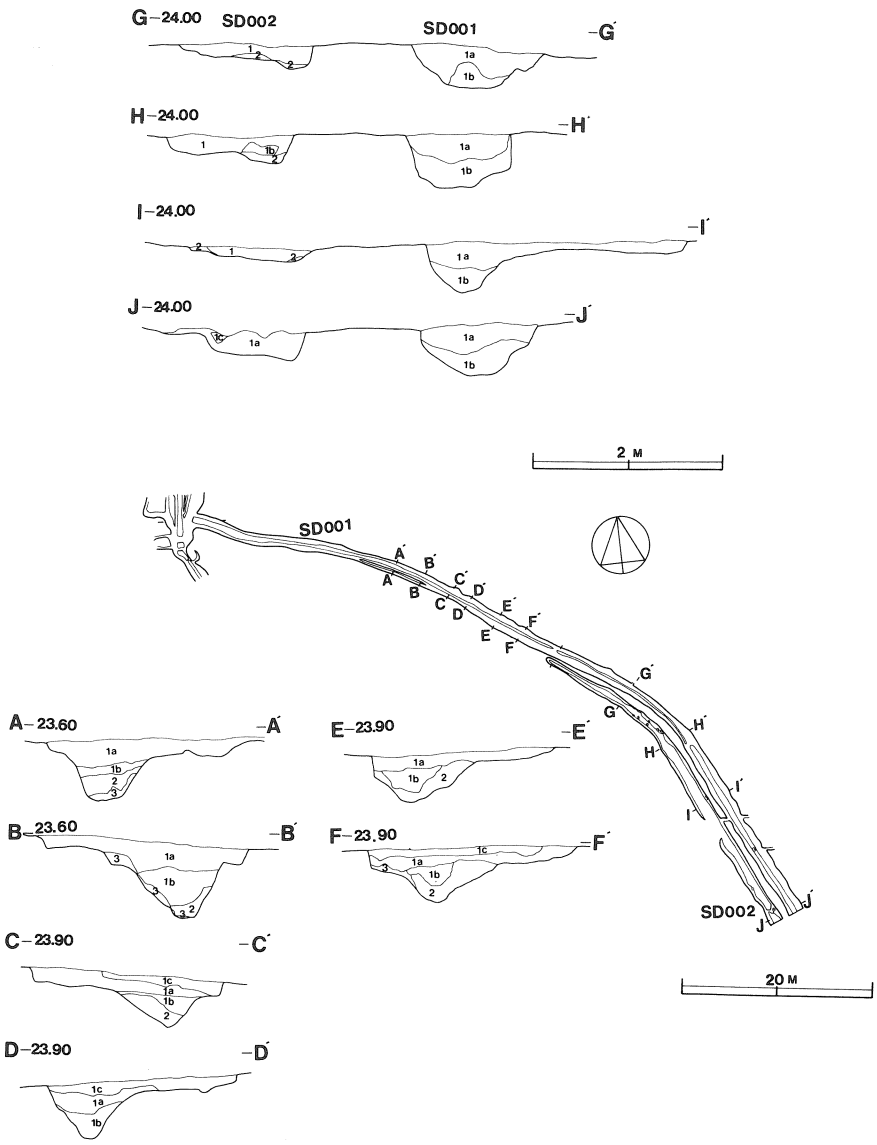
もう１つは長径3.2 cm・短径2.75 cm・厚さ1.65 cmほど残存する小型の方形状の砥石で，表・裏面が使用されているが大部分は欠損している。材質は両方ともにぶい橙色を呈する凝灰質頁岩である。

SD 002（第224図） 本溝は，ＳＤ001のほぼ中央部に位置するＳＩ083内の床を切って始まり，ＳＤ001と平行して東南下する。上幅１～1.6ｍほどでＳＤ001とほぼ同じである。現在長は37.2ｍほどを測り，深さは16～26 cmほどでＳＤ001と比べると高低差はあまりなく東南より西北にゆるい傾斜を示している。覆土は第１層が暗褐色土，第２層が褐色土層の堆積である。断面はゆるい「Ｕ」字状を呈する。

遺物は少量であるが，土師器，黄瀬戸の小皿が底部付近より出土している。

ＳＤ001とＳＤ002はそれほどの時代差はないと考えられ，あるいは同時期に近いとも考えられる。

ＳＤ001・ＳＤ002にはわずかではあるが壁面にピットを有し，底辺部より黄瀬戸系の陶器が



SD 001 土層解説

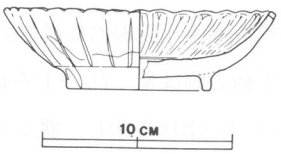
1.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐 色	ローム粒子(少) きわめて固い
	b	Hue 7.5YR 3/4	褐 色	ローム粒子(中) aに比してやわらかい
	c	Hue 7.5YR 4/4	褐 色	ローム粒子(極少)
2.		Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(少)・ローム粒子(少)
3.		Hue 7.5YR 4/6	褐 色	ロームブロック(少)・ローム粒子(多)

SD 002 土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(少)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(多)
	c	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(少) ボソボソでやわい
2.		Hue 7.5YR 4/4	褐 色	ローム粒子(少)

第224図 SD001・002 実測図

出土していることより，中世の溝状遺構と考えられる。



第225図　SD002出土遺物

出土遺物（第225図）　陶器の皿が1点出土している。口縁部は輪花状で，内側には花弁風の彫文が施され，底部には2圏がめぐる。釉色は黄色であるが，かかり具合にむらがあり安定していない。底部には窯道具を使った重ね焼の痕がみられ，素地は黄味を帯びた白色を呈する。SX001出土の陶器に類例があり，（第266図－1）黄瀬戸に属するものであろう。

SD 003　本溝は，東部地区の南側斜面Ｆ８ｇ６に確認され，上幅2～2.4ｍほどで現在長11ｍほどを測るが，底部が凹凸で壁もなだらかに立ちあがるやや不定形の溝である。西北方向に延びると考えられたが，途中で立ちあがって切れる。遺物はわずかの土師器片が流れ込んでいるが，時期は不明である。

SD 004（第226図）　本溝は，Ｅ7層に確認され西北より東南にかけて直線的に走る断面形が「Ｖ」字状の溝である。西北の始まりはSH03の南の立ちあがりの上面Ｅ７ｂ３より主軸方向Ｎ－25°－Ｗを向き，東南に直線的に延びＥ７ｊ６でＮ－20°－Ｗ方向を向く。溝の中央部の東方に地下式土壙群が位置している。溝の南方末Ｅ７ｊ６でＳＤ007がＮ－100°－Ｓほどで接している。

確認されたＳＤ004の全長は36.7ｍほどで，上幅は西北側は狭く約１ｍほどであるが，中央より東南にかけては1.4～1.7ｍの幅を有する。遺構面からの深さは高低差の関係があるが，西北側では50～85 cm，中央部では90 cm，東南末では80 cmを測り，底面のレベルは西北側で22.684ｍ，中央部がやや高くなり23ｍほどとなる。東南側は22.72ｍの標高を有している。

覆土は，５層からなり，ローム粒子・ローム小ブロックを含み，少量の焼土・カーボンが検出されている。Ｄ－Ｄ′の上面第８・９層は，古墳時代後期の住居址と想定される掘り込みが看取される。

出土遺物は少量の土師器・弥生式土器等が検出され古式土師器が出土し，古墳時代後期の住居が上面に構築されていることにより，この溝は古墳時代前期に比定されると考えられる。

SD 006（第238図）　本溝は，ＳＨ02を東北より西南にかけて切り込んでいる。

溝の始めはＥ７ｄ１より主軸方向Ｎ－14°－Ｅを向き，SH02の畝を斜めに横切るように掘り込まれ，Ｅ６ｆ０まで続き，現在長は17.4ｍを測りさらに西南に延びると想定される。

遺物はほとんど検出されず，中世期のＳＨ02を切っていることよりそれ以降の時期であることは確かであるが，明確な時期は不明である。

覆土はローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土が堆積しているが，全体的にそれほどしまりのある土層ではない。

SD 007（第227図）　本溝は，地下式土壙群の南側Ｅ７ｊ６～Ｅ７ｊ０に確認された断面「Ｕ」字状を呈する直線的な溝である。

主軸方向はＮ－75°－Ｅを向き，上幅90 cmほどで，壁はゆるやかに外側に立ちあがり底面の広い「Ｕ」字状を示し，底レベルはＥ７ｊ６で22.89m・Ｅ７ｉ０で23.20ｍほどで，比高は31 cmほどで東より西に傾斜を示している。壁および底辺付近に柱穴を有している。

現在長は14.3ｍほどであるが，さらに東側へ延びていると考えられる。西側はＳＤ004とほぼ垂直に交差している。

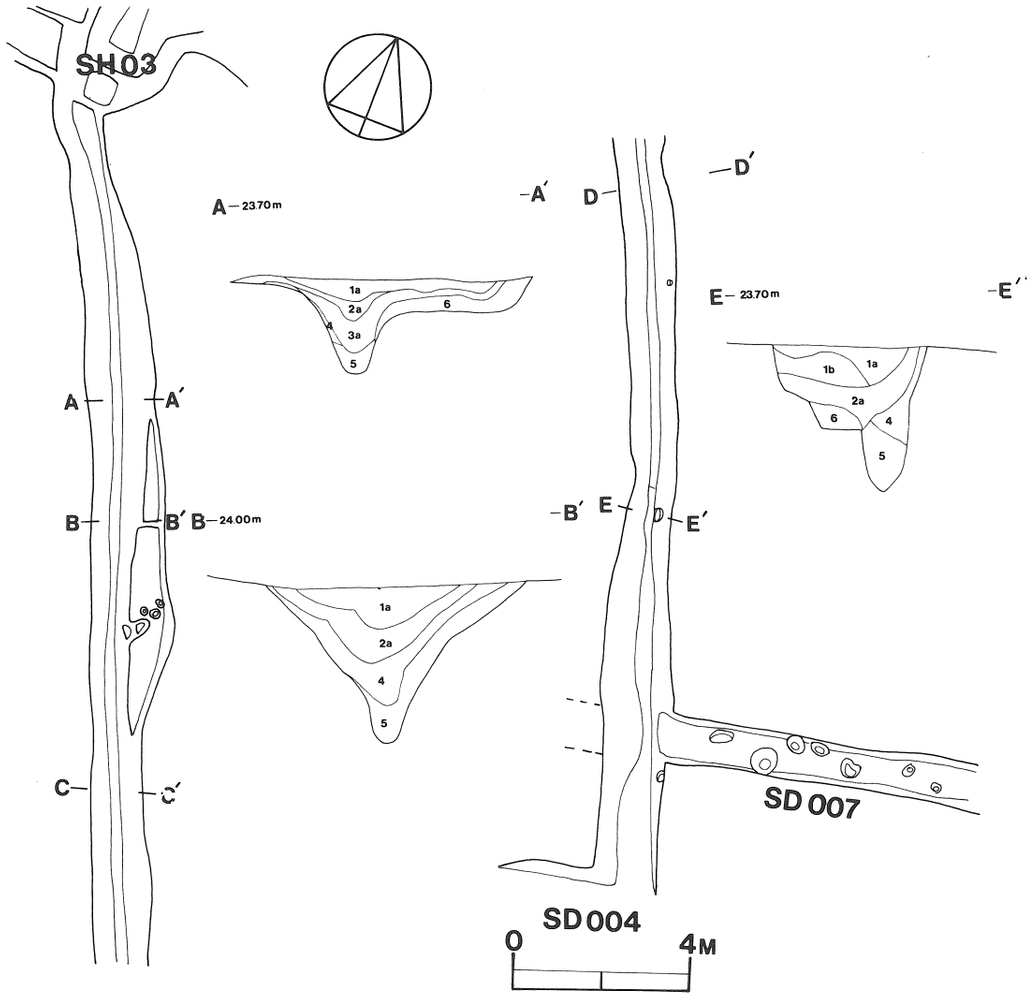
覆土は３層からなり，ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土である。

遺物は，陶磁器・土師質土器等が出土しており，掘り方や壁面に柱穴痕をもつことなどで，中世の溝状遺構と想定されるが確定的ではない。

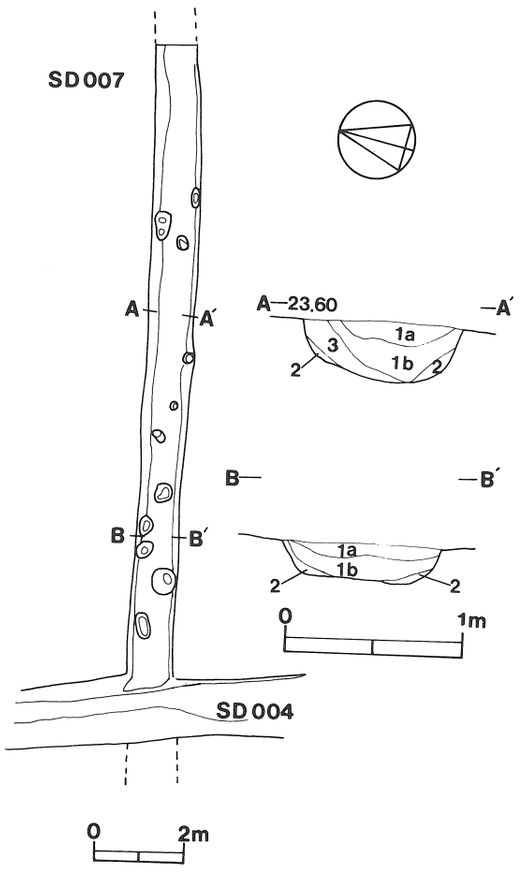
SD 008　本溝は，東部地区の西南Ｆ７ｃ～ｃ４に確認され，主軸方向はＮ－53°－Ｗを向き，上幅は３ｍほどで，現在長は5.６ｍほどを有し西南から東南に延びると想定される。遺構面からの深さは約50 cmほどで，壁はゆるやかに斜めに立ちあがり，底面は凹凸である。

覆土は５層に区別でき，第２層および第３層に多数の土師器片が流れ込んでいる。

中世期の堀ＳＨ02がＦ６ａ０で立ちあがる様相を呈しており，ＳＤ008は何らかの関係があるかとも考えていたが，ＳＤ008の壁面，底面は軟弱であり，堀との関連は薄いと考えられＳＨ02の南側の防備に疑問をなげかける。



第 226 図　ＳＤ004　実測図



ＳＤ 007　土層解説

1.	a	Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ローム粒子(少)・ローム小ブロック(微)
	b	Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ローム粒子(微)
2.		Hue 7.5YR 5/6	明褐色	ローム小ブロック(多)
3.		Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム小ブロック(中)

ＳＤ 004　土層解説

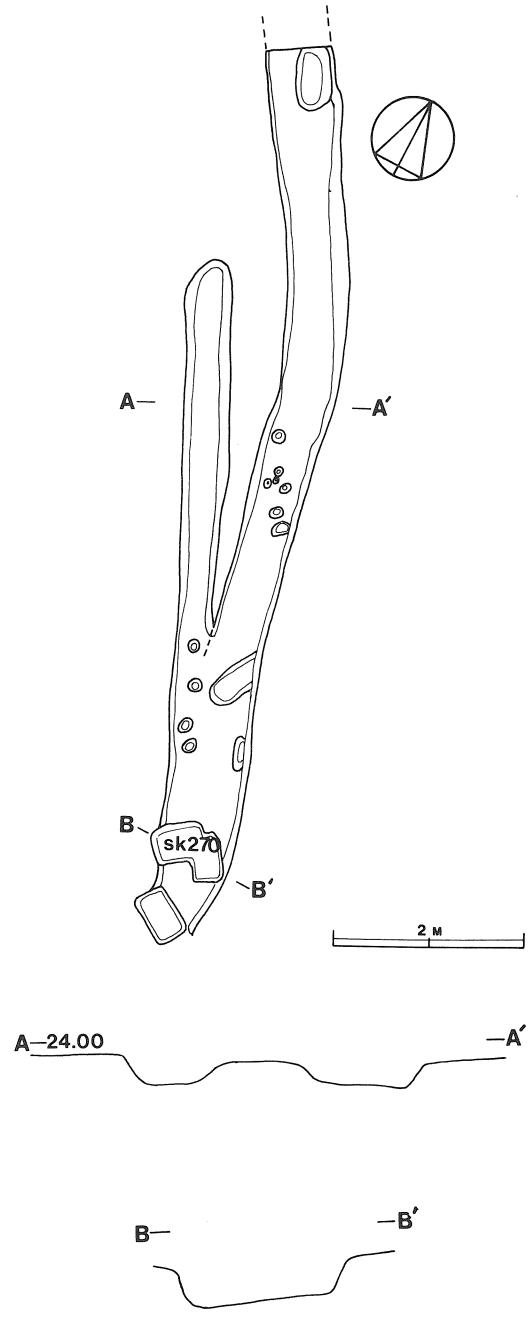
1.	a	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(少)・ローム小ブロック(微)
	b	Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ローム粒子(中)・ローム小ブロック(中)・カーボン(少)
	c	Hue 7.5YR 2/2	黒褐色	ローム粒子(微)・焼土(少)
2.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(少)・ローム小ブロック(少)
	b	Hue 7.5YR 3/2	暗褐色	ローム粒子(微)・カーボン(中)
3.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(多)
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子(少)・カーボン(微)
	c	Hue 7.5YR 5/6	明褐色	ローム粒子(多)・ロームブロック(多)
4.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(微)・ローム小ブロック(微)
5.		Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ローム粒子(少)・カーボン(微)
6.		Hue 7.5YR 5/6	明褐色	ローム粒子(多)・カーボン(少)
7.		Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ローム粒子(少)・焼土(微)
8.		Hue 7.5YR 3/2	黒褐色	ローム粒子(少)・ロームブロック(中)・カーボン(微)
9.		Hue 7.5YR 2/1	黒褐色	ローム粒子(微)・ロームブロック(少)

第 227 図　ＳＤ007　実測図

SD 005（第228図）　本溝は，東部地区の南側Ｅ８ｊ４～Ｆ８ｄ５に確認され，さらに西南のＦ８ｂ４～Ｆ８ｃ４に走る溝とＦ８ｃ４区で接合し，細い「Ｙ」字状を呈している。

確認されているＳＤ005の始めはE8ｊ4で主軸方向Ｎ－35°－Ｗを向き，Ｆ８ｃ４で西側の溝と合流し，Ｆ８ｄ５でＮ－20°－Ｗで南下し，南斜面で立ち切れる。

遺物は少量の流れ込みの土器片である。時期は不明である。

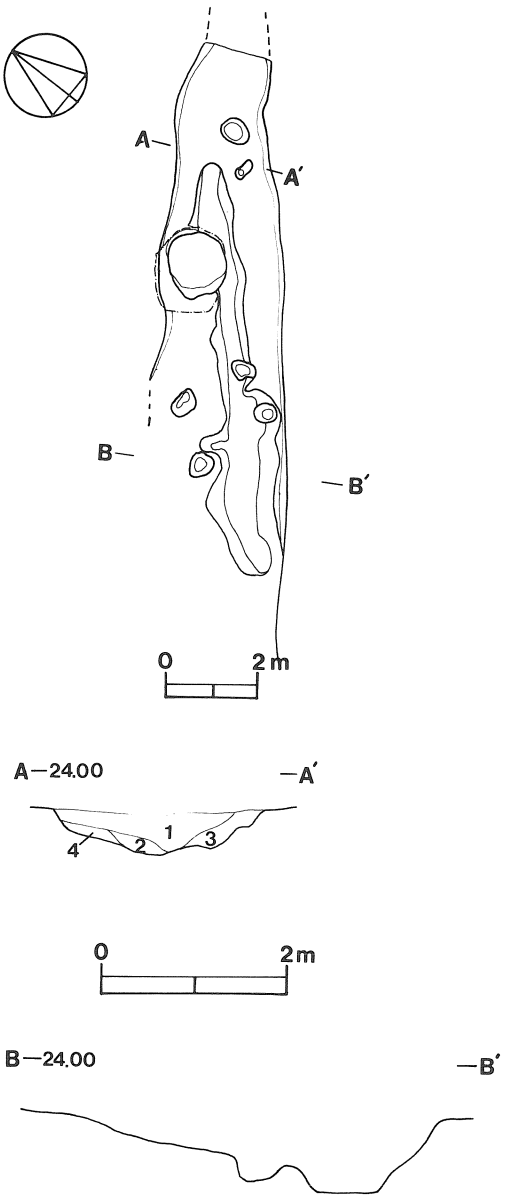


第228図　ＳＤ005　実測図

SD 009（第229図）　本溝は，東部地区の西南Ｅ８ｉ１よりＦ７ａ９に確認され，西北４ｍほどでＳＤ007が東西に走り，東南約10ｍほどでＳＤ005が西北より東南に走り，ほぼ中間ややＳＤ007よりに本溝は位置する。

主軸方向はＮ－57°－Ｅを向き，上幅1.4ｍ～2.4ｍ，現在長は17ｍを測り，遺構面の深さは40～80ｃｍほどで，ゆるい傾斜をもち，外側に立ちあがる。底面は凹凸がみられ，ほぼ中央にＳＫ264の地下式土壙が位置している。本溝は東北より西南に傾斜し，南斜面で消滅する。

覆土はローム小ブロックを含む黒褐色・暗褐色土でやわく，遺物は流れ込みの遺物がわずかに検出されるに留まり本溝の時期は不明である。



ＳＤ 009　土層解説
1. Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ローム小ブロック（微）
2. Hue 7.5YR 3/3　暗褐色　ローム小ブロック（中）
3. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ロームブロック（多）・黒色土（微）
4. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ローム小ブロック（微）

第229図　ＳＤ009　実測図

4. 堀（SH）

SH 01（第1号堀）（第232図）　本堀は，東部地区のほぼ中央部D７・D８・D９・E８・E９区にわたり確認された断面箱薬研状の大規模な堀で，中央部が南側に張りだす出桝形状を呈し東南側が堀り切りの空堀である。

主軸方向はD８ｆ１でN－72°－Wを向き，西方12mほどで土塁状遺構に突きあたり北に折れ地形に平行して北進し，西傾斜面の腰曲輪を形成していると考えられる。

D８ｆ１の東側は10ｍほどで堀の南外辺部に７ｍ幅で2.2ｍほど堀内に突出した橋脚部と想定される張り出し部がある。さらに東側のD８ｇ５で方向を約90°南に屈曲し，さらに12ｍほどで約100°の角度をもち東南に向き直線的に23ｍほど続き，さらに東北方向に96°に折れ10ｍほど進み，さらにクランク状に東南方向に折れ，21ｍほど続き掘り切りになる。

ＳＨ01の長さは，北側外辺部で88ｍを測り，南側外辺部では94ｍ,底部は95ｍの長さを有して西端部で北側に屈曲している。上幅は７～８ｍほどであるが，折曲する部分では約10ｍを測る。

遺構確認面からの深さは西側の傾斜地では2.６～2.９ｍほどであるが，中央部は3.５ｍほどで，東南側は4.14ｍほどの深さに掘り込んでいる。

断面形態は西側で底面から約50°の角度を有し，中段からは20°のゆるい傾斜となり肩部へ立ちあがる。

中央部は底面幅１ｍほどを有し約70°の角度で立ちあがり中段から30°ほどになる。

東南端は，底面は約60°ほどの薬研状をなし中段から底部へは30°を測る箱薬研堀状の断面を呈している。

桝形部は長径21ｍ，短径11ｍほどで面積231㎡を有し，西側にピットが５個確認されている。東側の肩部やや斜面に幅10～30ｃｍほどで，長さ5.５ｍほどの溝を確認する。 中央部はＳＩ029～ＳＩ034の住居が重複して位置している。

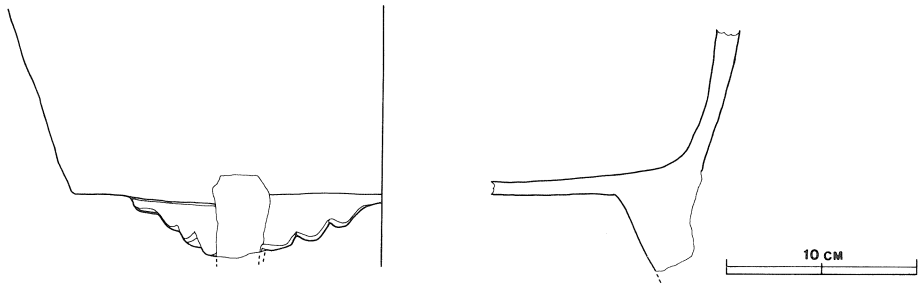
橋脚部は桝形部の西側と東南側の折りの部分が考えられるが，西側の張りだし部は他の遺構とも考えられる。東南の橋脚部と考えられる遺構は，桝形部の東南コーナー東よりの北斜面中段に長径6.７ｍ，短径1.５ｍほどの平場を造り出し，堀底は砂質粘土，白色粘土層に達し，角柱穴状のピットが２つあり西側のピットは71ｃｍ，東側ピット117ｃｍほどの方形状に掘り込んで位置している。また，遺構確認面からピット底までの深さは，4.４～4.７ｍを測るが平場からの深さは2.６ｍほどである。

覆土（第233・234図）は８層から10層に区分され，第２層より掘り込まれ，堀の底部は砂質粘

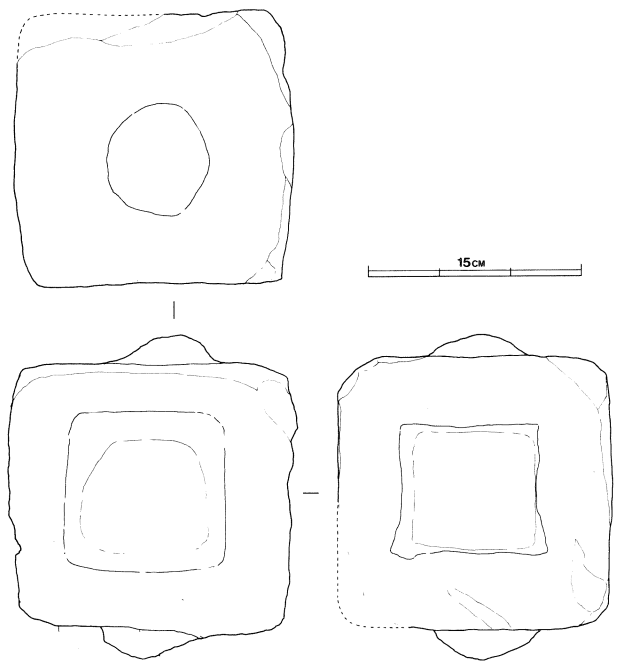
土・白色粘土層まで達している。

堆積状態は底辺部で自然堆積状を示しているが，第４層はきわめて堅い土層であり，ある一時期の生活面があったと想定される。第３層にローム大ブロックを多量に含み，ややボソボソの感じの層であり，内側の土塁状遺構の残存を埋めもどしていると考えられる。

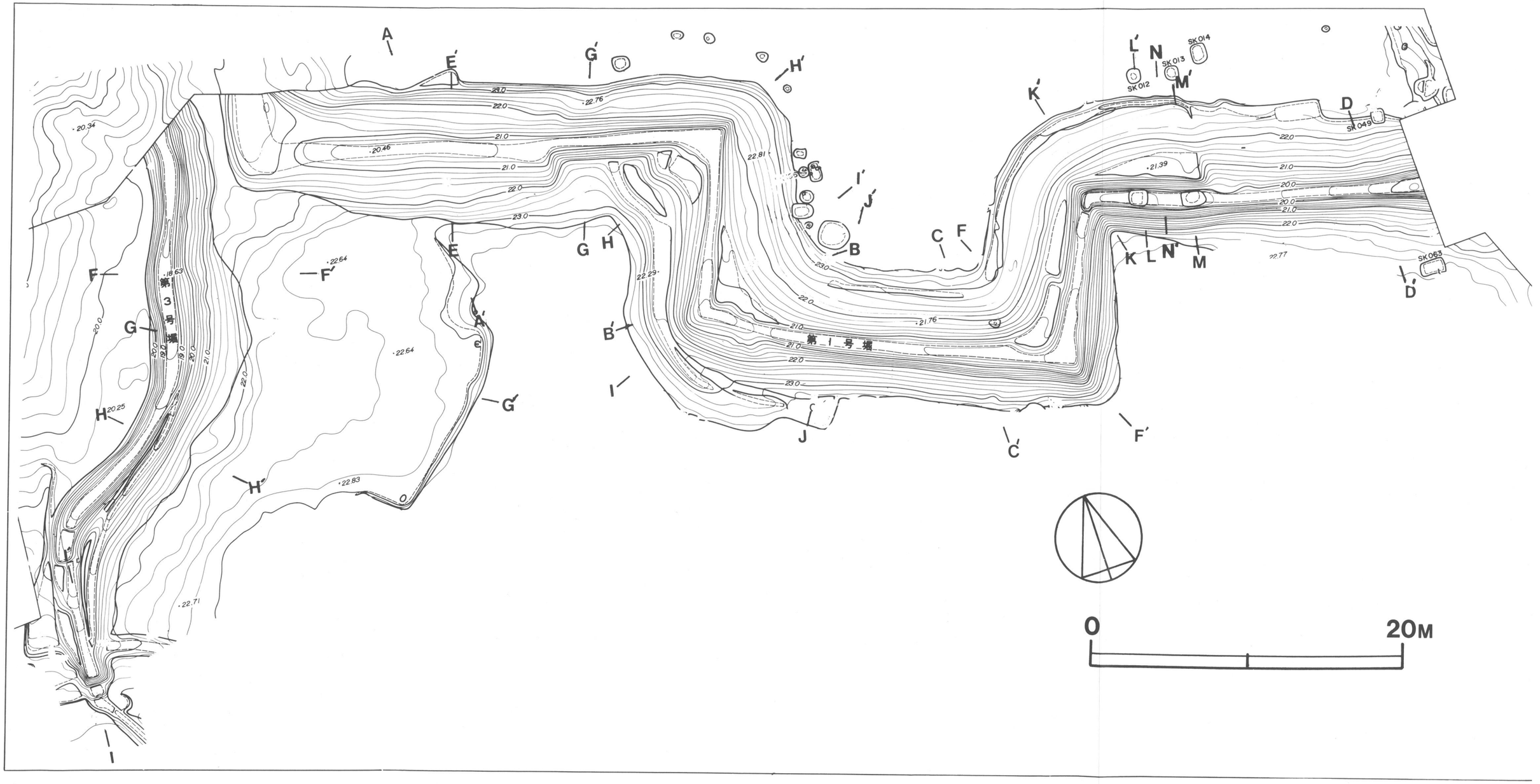
遺物は，桝形部の東南コーナーの中段斜面に宝篋印塔の塔身部(第231図)が出土し,東側橋脚部の底辺付近に瓦質の火舎の一部と考えられる底部片を検出した(第230図)。火舎はかなり大型の円型で，底部には３ケ所に脚がつくと考えられる。脚の付け根には彫文を施した装飾があり，脚は欠損して不明であるが蕨手風のものがつくと考えられる。表面は黒く焼きあがり，内部は灰褐色を呈する。



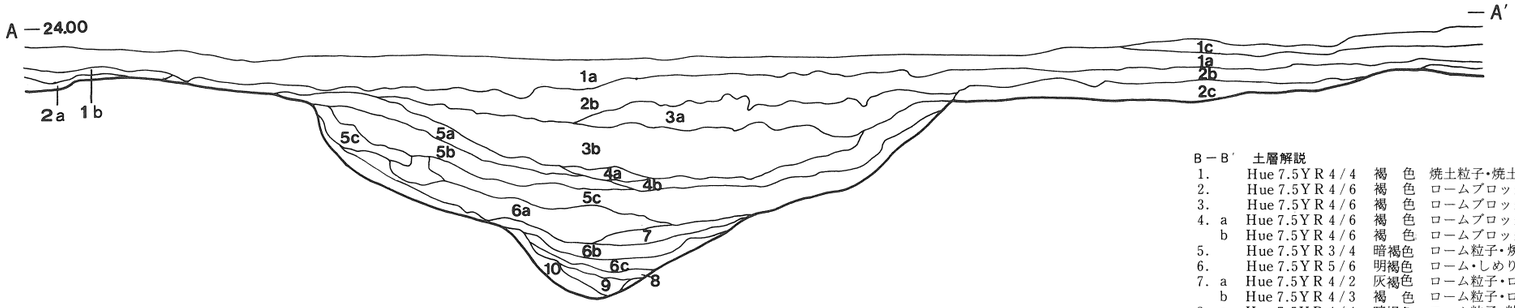
第230図　ＳＨ01　出土遺物



第231図　ＳＨ01　出土遺物

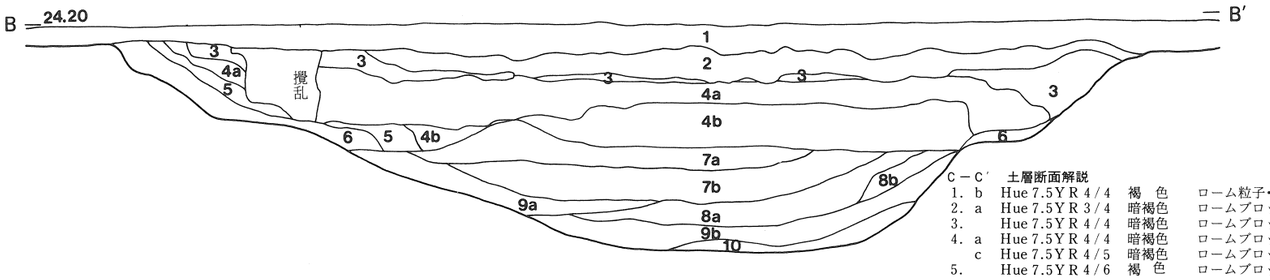


第 232 図　SH01　実測図



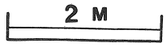
B－B′ 土層解説

1.		Hue 7.5YR 4/4	褐　色	焼土粒子・焼土ブロック(小)・ロームブロック(小)・表土層ハード
2.		Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック多く含む・ロームブロック粒子を多く含む
3.		Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック粒子を多く含む
4.	a	Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック(大)・ローム含みカーボン焼土粒子を若干含む
	b	Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック(中)粒子を含みハード
5.		Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子・焼土カーボン(微)を含む
6.		Hue 7.5YR 5/6	明褐色	ローム・しめりけをもつ
7.	a	Hue 7.5YR 4/2	灰褐色	ローム粒子・ローム小ブロックを含みきわめてハード道路
	b	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	ローム粒子・ロームブロック(中)ハード
8.	a	Hue 7.5YR 4/4	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・焼土粒子を含む
	b	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	ローム粒子・ロームブロック(中)を含む
9.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子・ブロックを含む
	b	Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ローム粒子・ブロックを多く含み,粘土粒子を含む
10.		Hue 7.5YR 4/2	灰褐色	粘土粒子小ブロック砂群を含む



C－C′ 土層断面解説

1.	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子・焼土ブロック(小)・若干含む表土層・ロームブロック・カーボン(少)含む
2.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック粒子(小)含む
3.		Hue 7.5YR 4/4	暗褐色	ロームブロック(大)粒子多く含む
4.	a	Hue 7.5YR 4/4	暗褐色	ロームブロック(大)粒子多く含む
	c	Hue 7.5YR 4/5	暗褐色	ロームブロック(大)粒子含みハードである
5.		Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック(小)・ロームブロック(大)若干含む
6.	a	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中)・粘土粒子(極少)含む
	b	Hue 7.5YR 4/3	褐　色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)含む
7.	a	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームブロック(少)・粘土ブロック(中)含む
	b	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム小ブロック(多)・粒土粒子(中)含む
	c	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)・粘土ブロック(極少)・粘土粒子(中)含む
8.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム小ブロック(少)・ローム粒子(少)・粘土粒子(極少)含む
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロック(中)・ローム粒ブロック(過多)・粘土粒子(中)含む
9.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム小ブロック(中)・ローム粒子(多)・粘土ブロック(中)・粘土粒子(中)含む
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(中)・ローム小ブロック(多)・粘土ブロック(中)・粘土粒子(中)・黒色小ブロック(少)含む
10.	a	Hue 10YR 4/4	褐　色	ロームブロック(多)・ローム小ブロック(多)・粘土ブ子(極少)・黒色ブロック(少)含む
	b	Hue 10YR 4/4	褐　色	ロームブロック(中)・ローム小ブロック(多)・粘土ブロック(中)・粘土粒子(少)含む



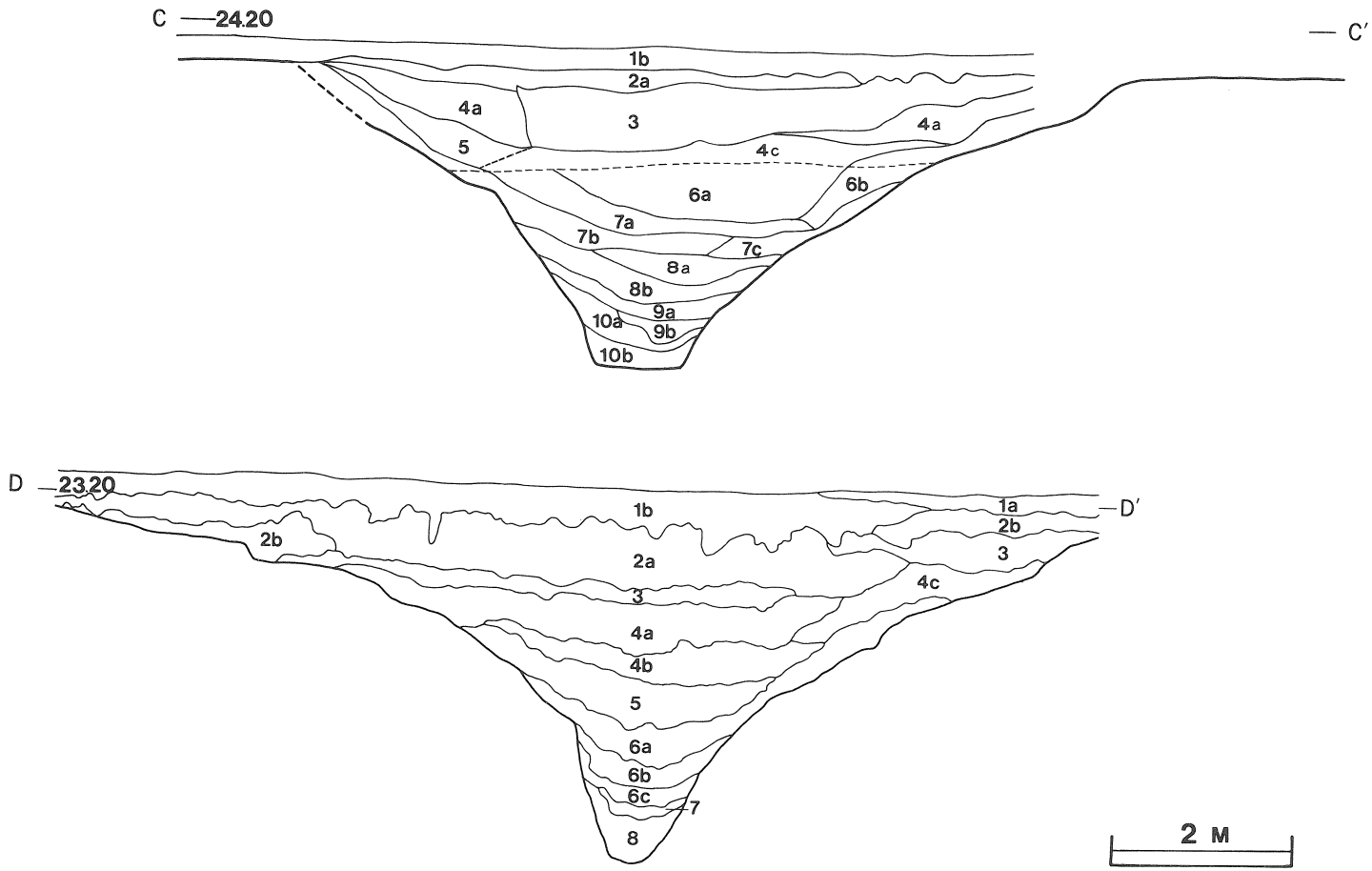
A－A′ 土層断面解説

1.	a	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム粒子・焼土ブロック(少)若干含む表土層・ロームブロック カーボン(少)含む
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロック多く含む
	c	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロック含み焼土粒子を含む
2.	a	Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック(小)含む
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック粒子(小)含む
	c	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック粒子(小)含む
3.	a	Hue 10YR 4/6	褐　色	ロームブロック粒子多く含み(乾燥がはげしくボソボソ)
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロック(大)・粒子多く含む(乾燥がはげしくボソボソ)
4.	a	Hue 7.5YR 4/6	褐　色	ロームブロック(大)粒子含みハードである
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ロームブロック(小)ロームブロック(大)若干含む
5.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(小)多く含みカーボン(微)含む
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック(小)多く含みカーボン焼土若干含む
	c	Hue 7.5YR 3/6	暗褐色	ロームブロック(小)　カーボン(小)含む
6.	a	Hue 10YR 4/6	褐　色	ロームブロック(小)多くカーボン(微)・粘土小ブロック含み荒くしめけをもつ
	b	Hue 10YR 4/6	褐　色	ロームブロック・カーボン・白色粘土若干含む
	c	Hue 10YR 4/4	褐　色	ロームブロック・カーボン・白色粘土若干含む
7.		Hue 10YR 4/6	褐　色	ロームブロック(小)・カーボン含む白色粘土多く含む
8.	a	Hue 7.5YR 2/3	暗褐色	ロームブロック・白色粘土・黒色土を含む
9.		Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子含みしめり有・荒い
10.		Hue 7.5YR 5/8	にぶい黄褐色	白色粘土・黄褐色(ロームまじり)しめりけ有

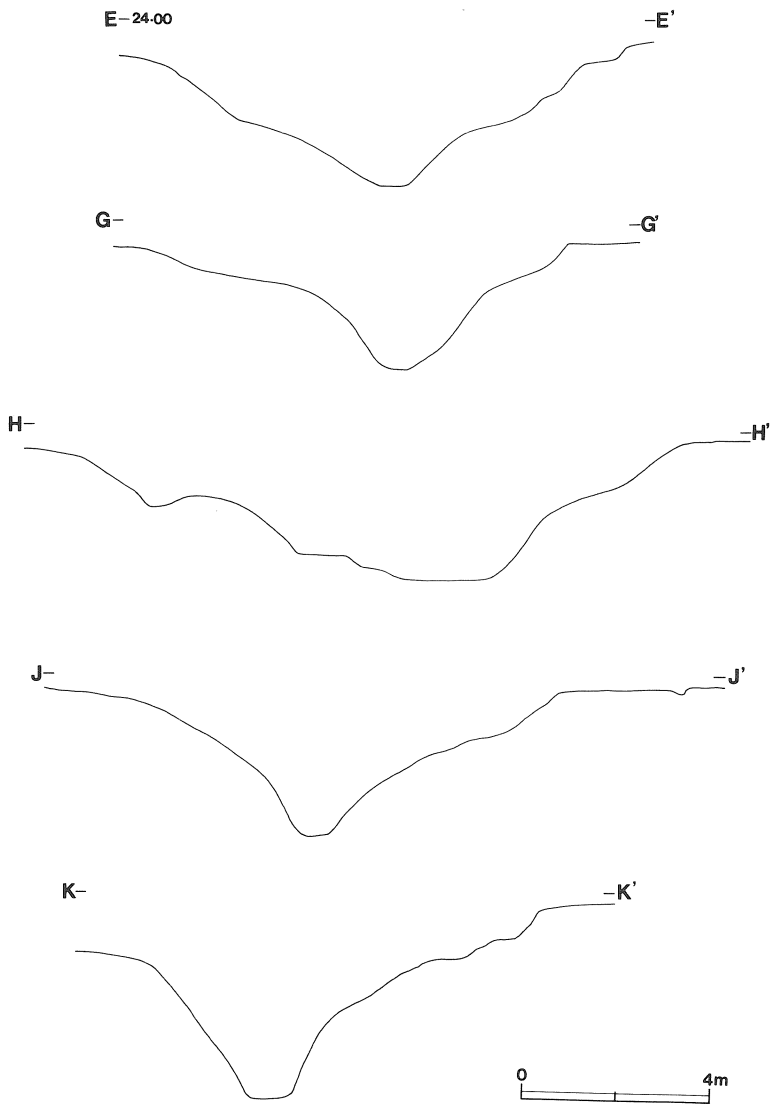
D－D′ 土層解説

1.	a	Hue 10YR 4/4	褐　色	ローム粒子(多)・焼土粒子・乾燥が早くパサパサした感じ
	b	Hue 10YR 4/4	褐　色	ローム粒子(多)・ローム小ブロック(極少)・乾燥度がが早くパサパサした感じ・粘土層
2.	a	Hue 10YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(中)・ローム小ブロック(中)・カーボン粒(極少)
	b	Hue 10YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(中)・ローム小ブロック(多)
3.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ロームブロック(多)・ローム小ブロック(極小)・ローム粒子(少)
4.	a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(中)・ローム小ブロック(極少)・カーボン粒(極少)
	b	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(中)・ローム小ブロック(多)・粘土粒子(少)・焼土粒子(極少)
	c	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	ローム粒子(多)・ローム小ブロック(過多)粘・粘土粒子(極小)・ロームブロック(少)
5.		Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	ローム粒子(多)・ローム小ブロック(少)　・粘土粒子(多)・粒子小ブロック(少)・黒色小ブロック
6.	a	Hue 7.5YR 4/4	暗褐色	ローム粒子(多)・ローム小ブロック(多)・粘土粒子(多)
	b	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム小ブロック(多)・粘土ブロック(多)・ローム粒子(多)・粘土粒子(多)・ロームブロック(少)
	c	Hue 7.5YR 4/4	褐　色	ローム小ブロック(多)・　ローム粒子(多)・粘土粒子(多)・粘土小ブロック(過多)・粘土ブロック(中)
7.		Hue 7.5YR 4/3	褐　色	ローム粒子(多)・ローム小ブロック(多)・粘土粒子(小)・粘土小ブロック(少)
8.		Hue 7.5YR 3/4	褐　色	ローム粒子(中)・ローム小ブロック(多)・砂質粘土　ブロック(多)・粘土小ブロック(多)・粘土粒子(中)・粘土層で粘性がきわめて強い

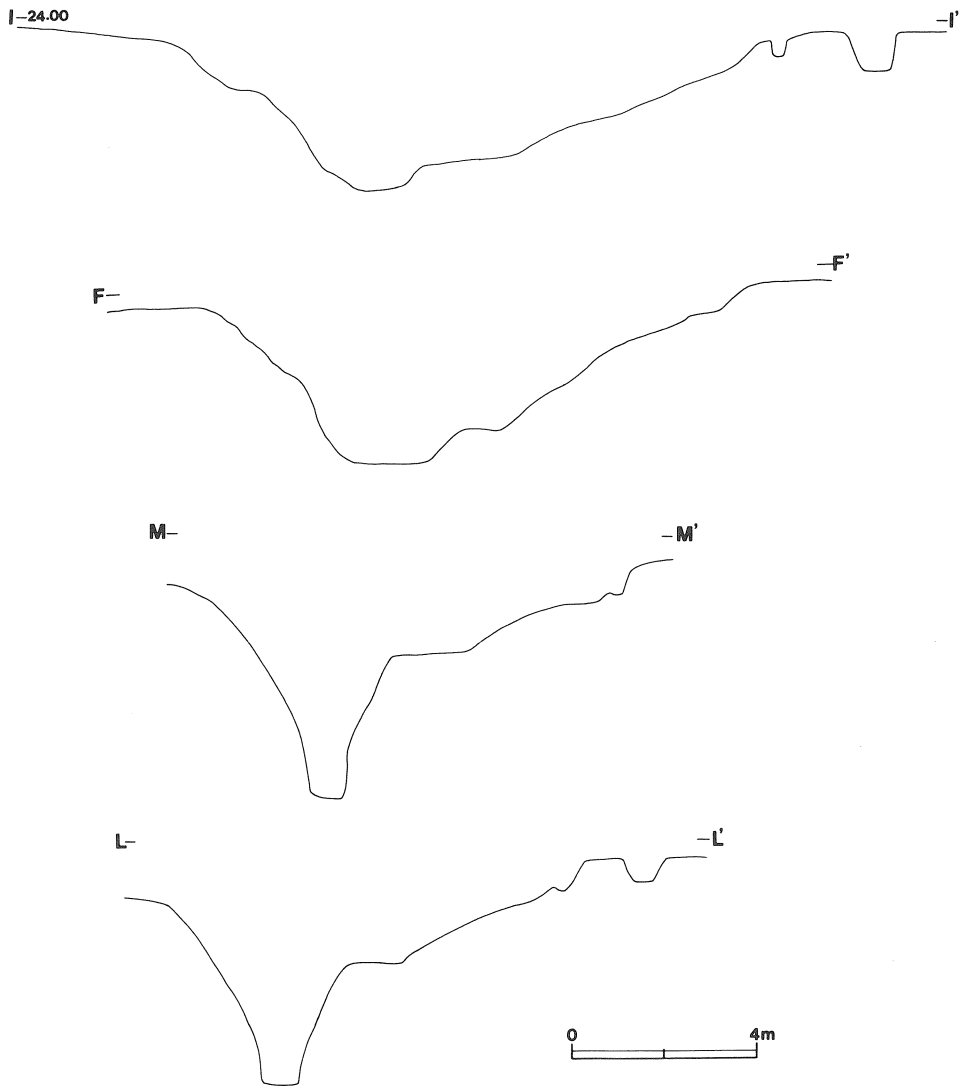
第233図　SH01　土層断面図（1）



第234図　SH01　土層断面図（2）



第235図　ＳＨ01　断面図（3）



第236図　ＳＨ01　断面図（４）

SH 02（第２号堀）（付図４）　本堀は東部地区の西南Ｅ７ａ１からＦ６ａ０にかけて確認された「ㄣ」型状を呈する堀で，北より南々西に走り断面「Ｗ」字状の畝堀である。

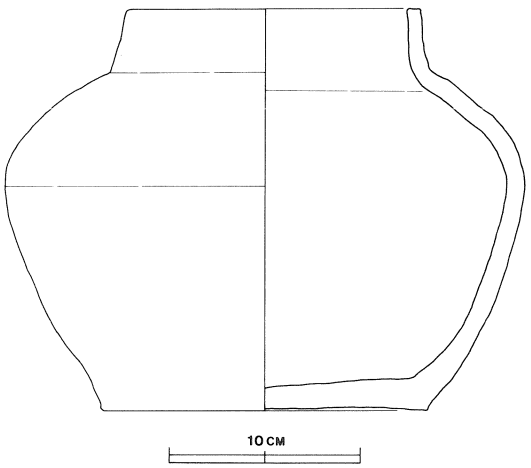
形態的には２つに分けられ，西側は箱堀状を示し，全体的には「ㄣ」型状をなしている。東側は薬研堀状の断面形を示し，「ㄣ」型状を呈している。さらに北側では西側の箱堀と東側の薬研堀とに狭まれた中央部に 1.4～1.6 ｍほどの土塁状の畝を残している。この土塁状の遺構は南に向かうにしたがい傾斜し，高さを除々に減少し，南側で底辺近くで消滅する。

規模は西側の箱堀が上幅 2.5～３ｍで，確認面からの深さは北側で 1.5ｍ・南側で 2.1ｍを測り，全長は約 50 ｍほどである。東側の薬研堀は北側で上幅３～４ｍであるが，南側は 2.5～2.7 ｍほどとなり，深さは 1.6～1.8ｍで南側がやや深い程度で，全長は約 40 ｍほどである。

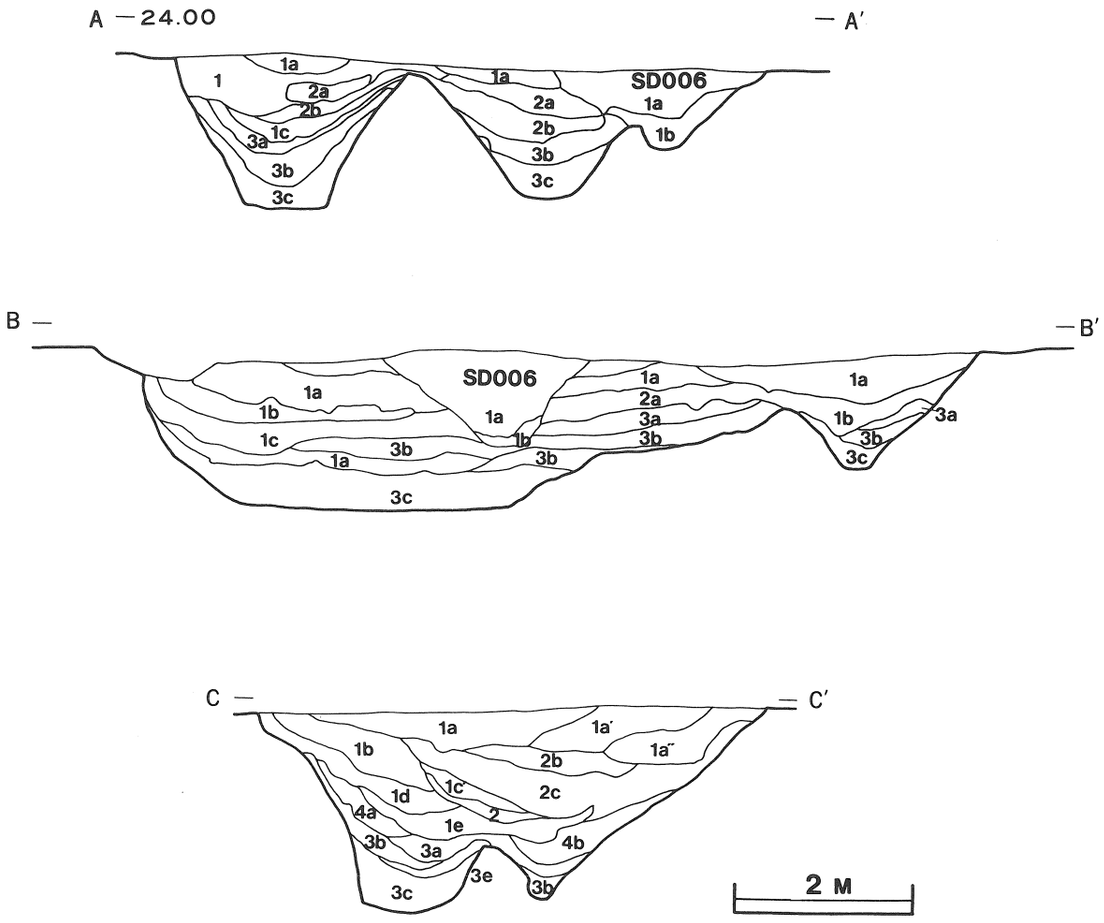
堀底のレベル差はあまり明瞭ではないが，クランク状に曲折する部分がやや高い程度である。

覆土は大別して３層に分かれ，さらに 10 層に細分され，ロームブロック・ローム粒子等を含む暗褐色土・褐色土層である。箱堀と薬研堀との切り合い関係は認められず，ほぼ同時期あるいはその前後と考えられる。

遺物は，南側の西壁ぎわの覆土中より皇宋通宝が１枚出土し，それより南方のやや下位に，土師質の壺が出土している（第237図）。口縁部は，ほぼ垂直に立ちあがり端部は平坦である。底部は広く安定し，最大径は 27.2 cmを測り，肩部から口縁部にかけてはヨコナデの痕がみられ以下はタテに整形痕が伺える。蓋がつく蔵骨器に類似した形状を呈している。



第 237 図　ＳＨ 02　出土遺物



SH 02　土層解説

A－A′　土層解説
1. a　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(中)・粘土粒子(極少)
　 b　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム粒子(中)
　 c　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(多)・黒色軟質ブロック(少)
2. a　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(多)・ローム粒子(少)・黒色軟質ブロック(極少)
　 b　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(多)
3. a　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム小ブロック(中)・ローム粒子(過多)
　 b　Hue 7.5YR　褐　色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(過多)
　 c　Hue 7.5YR　褐　色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(過多)

SD 006　土層解説
1. a　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム小ブロック(中)・ローム粒子(多)・黒色ブロック(少)
　 b　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(中)

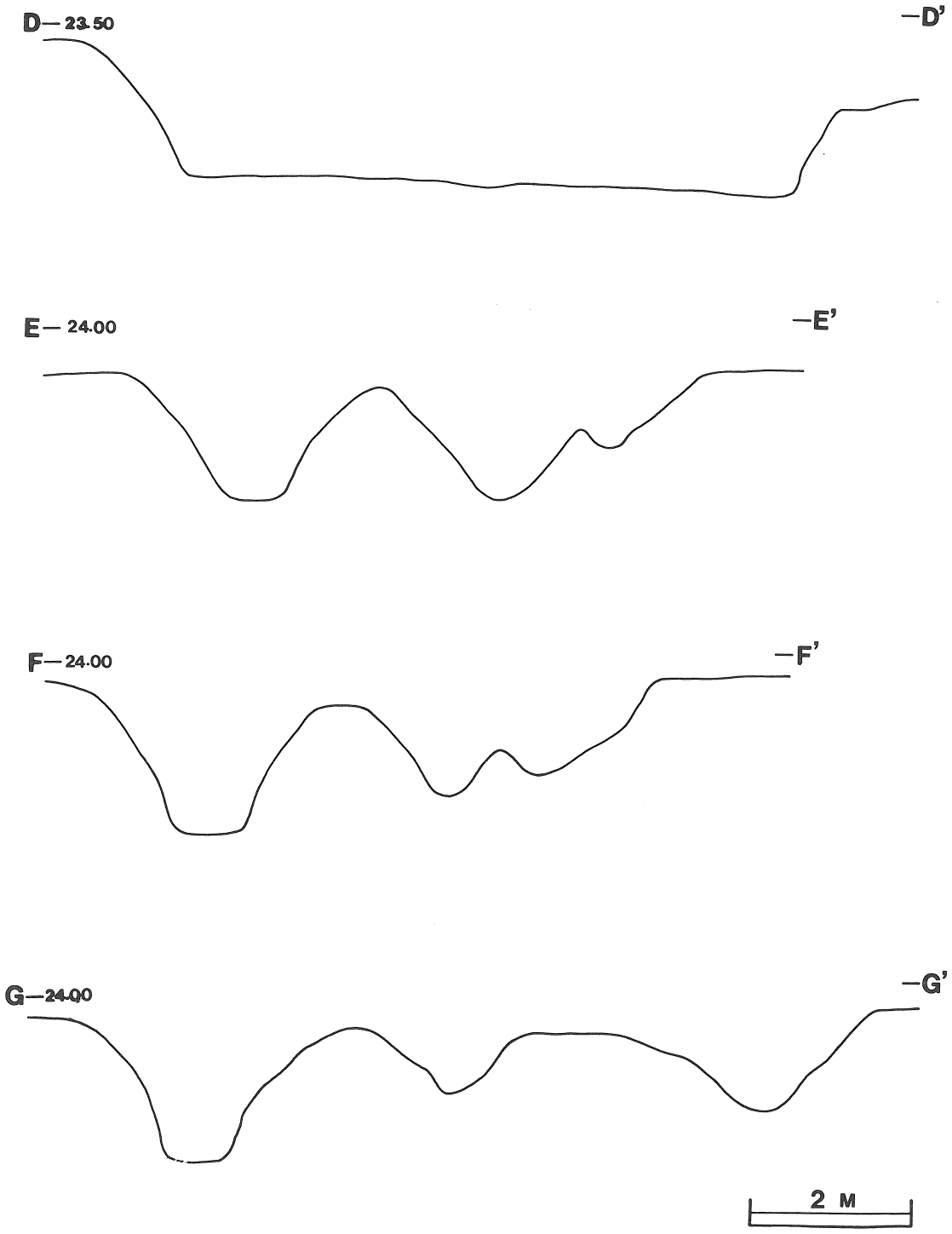
SD 006　セクション
1. a　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(少)
　 b　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中)

B－B′　土層解説
1. a　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(中)
　 b　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム粒子(中)
　 c　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(多)・ローム小ブロック(少)
　 d　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中)
2. a　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(多)・ローム粒子(少)・黒色軟質ブロック(極少)
　 b　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(多)
3. a　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロウ(中)・ローム粒子(過多)
　 b　Hue 7.5YR　褐　色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(過多)
　 c　Hue 7.5YR　褐　色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(過多)
4. a　Hue　10YR　褐　色　ローム小ブロック(中)・ローム粒子(過多)
　 b　Hue　10YR　褐　色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(過多)・ローム粒子(多)

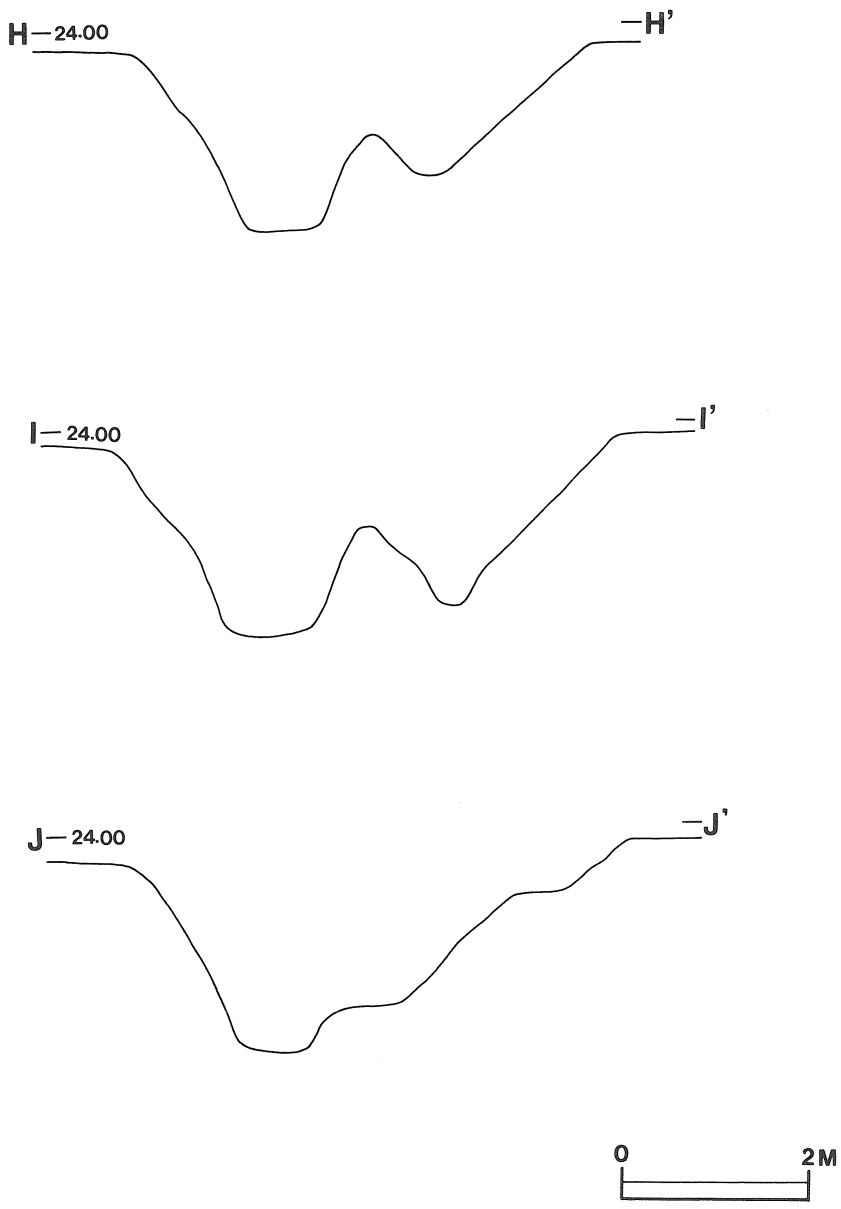
C－C′　土層解説
1. a　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(中)
　 a′　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(中)・ローム小ブロック(極少)・黒色軟質ブロック(少)
　 a″　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(中)・ローム小ブロック(少)
　 b　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム粒子(中)
　 c　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(多)・黒色軟質ブロック(少)
　 c′　Hue 7.5YR　暗褐色　ローム粒子(多)・ローム小ブロック(少)
　 d　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(中)
　 e　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(多)
　 a　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(多)・ローム粒子(少)・黒色軟質ブロック(極少)
2. b　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(少)・ローム粒子(多)
　 c　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(多)・ローム粒子(多)
　 d　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(少)・ローム小ブロック(多)・ローム粒子(多)
　 a　Hue 7.5YR　暗褐色　ロームブロック(中)・ローム粒子(過多)
3. b　Hue 7.5YR　褐　色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(過多)
　 c　Hue 7.5YR　褐　色　ロームブロック(多)・ローム小ブロック(過多)
　 d　Hue 7.5YR　褐　色　ロームブロック(過多)・ローム小ブロック(過多)
　 e　Hue 7.5YR　褐　色　ロームブロック(中)・ローム小ブロック(過多)

〔各ブロック粒子の密度がうすくしまりがない。
全体的にボロボロした感じ〕

第238図　SH02土層断面図(1)



第239図　SH02断面図(2)



第240図　SH02　断面図（3）

SH 03（第3号堀）（第244図）　本堀は東部地区の西傾斜地Ｄ７区に確認された第３号堀である。

堀の始まりはＥ７ｂ３より北に延びＤ７ｉ３で約30°を向き弓なりに斜面裾に平行して北向する。

上幅は３～3.4ｍ・下幅は0.8～1.2ｍほどで，遺構確認面からの深さは1.1～1.5ｍを測る。現在長は約37ｍほどあるが，さらに西北方向に延び下向すると想定される。

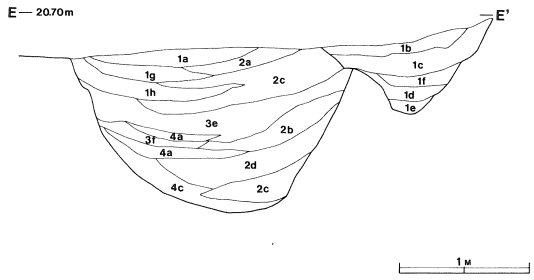
堀底のレベルは南南西で19.80ｍ・北側では18.70ｍである。比高は1.1ｍほどで，南南西より北側に傾斜を示している。

断面形状は北側では箱堀状を示しているが，Ｃ－Ｃ′で東壁が段状をなしＤ－Ｄ′で東壁ぎわの上面に薬研堀の掘り込みが確認され，南側ではこの薬研堀と箱堀とによって，ＳＨ02の南側でみられるような畝が検出される。

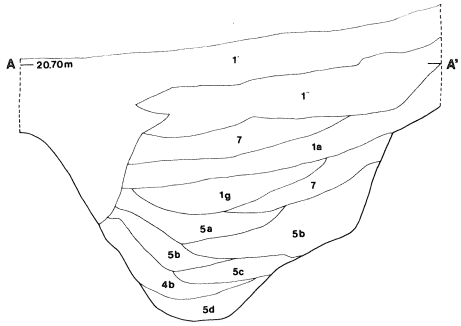
覆土は７層からなり細分すれば31に区分され，ローム直上面より確認され，砂質粘土層まで掘り込んでいる。箱堀の堆積土はロームブロック・砂質粘土・暗褐色土ブロック等を含み，堆積状態は人為的に交互に埋められていると考えられる。薬研堀はレンズ状の堆積を呈している。

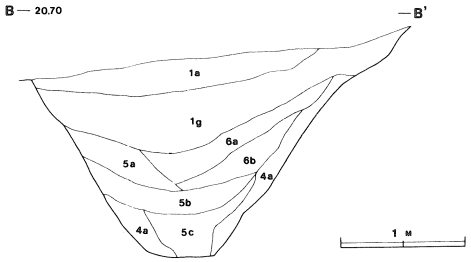
南端の南壁は長方形状に掘り込まれ，壁は垂直に立ちあがり，その上面部にＳＤ001・ＳＤ004が接して位置している。さらに南南西を南北に走るＳＨ02があって，ＳＨ03とは喰い違いのような状況を呈している。このＳＨ02とＳＨ03に狭まれた細い地区（ややゆるい段状をなす）が虎口と考えられる。

出土遺物　北側の確認面付近で土師質土器（内耳土器）が廃棄されたような状態で出土している（第264図－１）。内耳土器の中でも擂鉢形を呈し，口径29.6cm・器高8.5cmを測る。内耳は３ケ所に二等辺三角形になるように配置され，つくり出しになっている。胎土は砂粒とスコリアを多く含み，焼成は普通，色調は黄橙色を呈する。

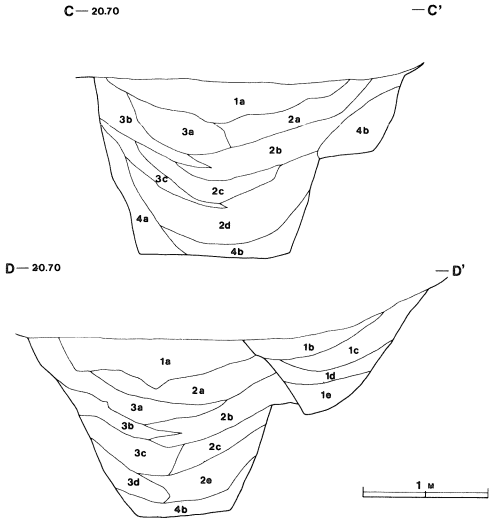


第241図　ＳＨ03　土層断面図（１）





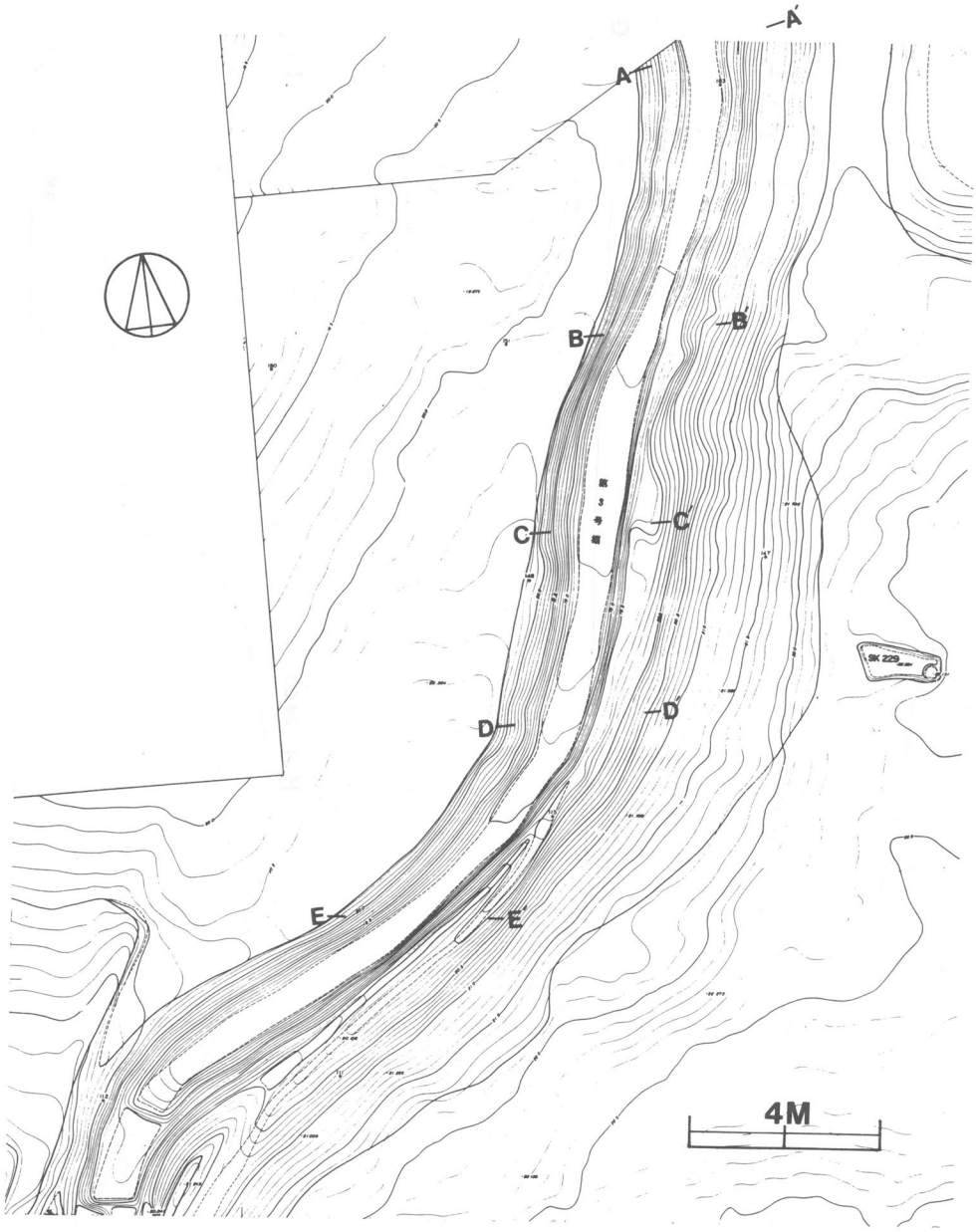
第 242 図　ＳＨ 03　土層断面図（２）



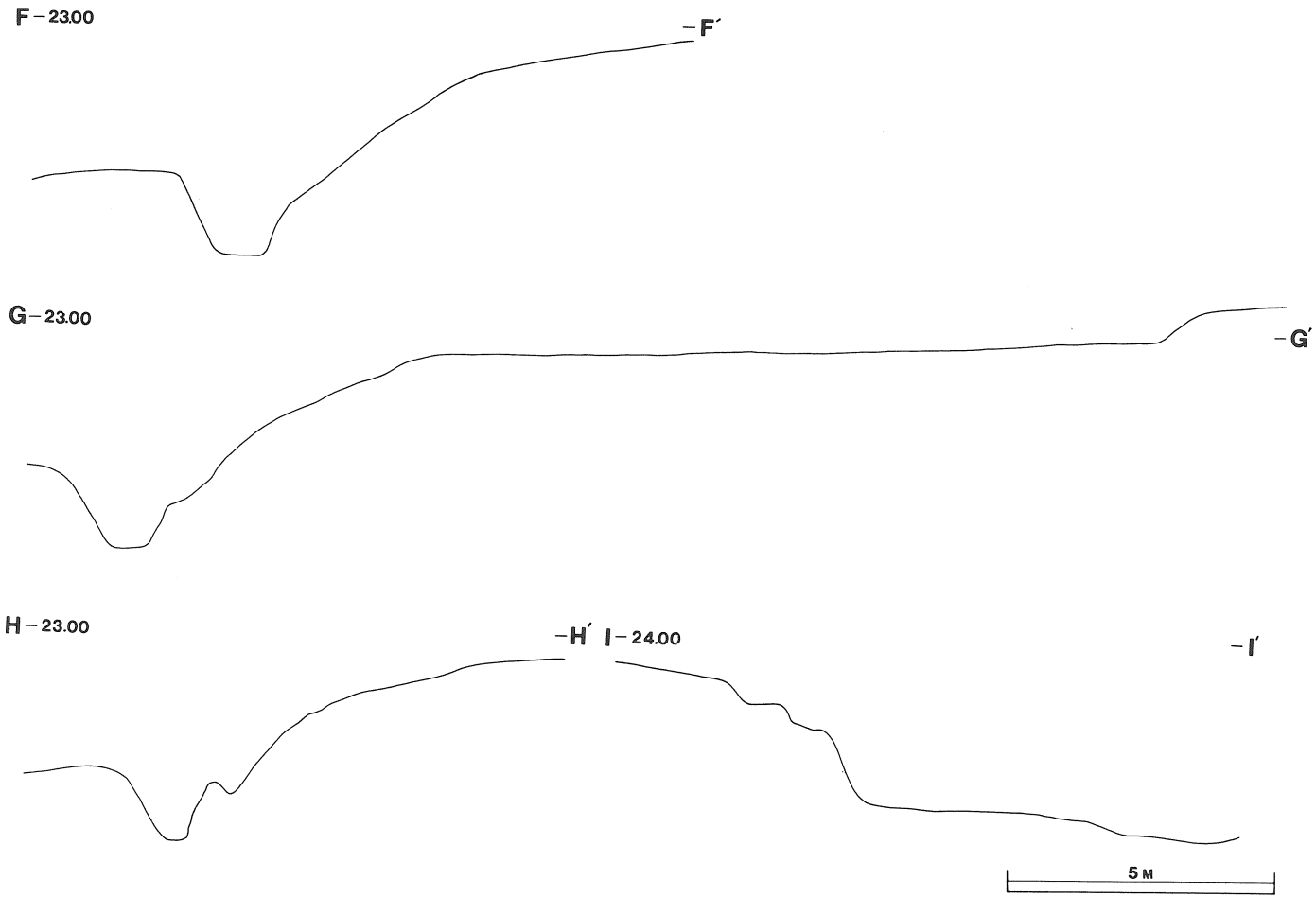
第 243 図　ＳＨ 03　土層断面図（３）

ＳＨ 03　土層解説

1'	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	
1''	Hue 7.5YR 3/3	暗褐色	粘土粒子(少) きわめて乾燥度が高い
1. a	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	粒子ブロック(中)
b	Hue 7.5YR 4/3	暗褐色	焼土粒子(多)
c	Hue 7.5YR 4/3	褐色	粘土ブロック(多) 粘土粒子(多) 砂粒(少)
d	Hue 7.5YR 4/3	褐色	粘土ブロック(少) 粘土粒子(多) 砂粒(少)
e	Hue 7.5YR 4/3	褐色	粘土ブロック(過多)
f	Hue 7.5YR 4/3	褐色	砂粒(多) 粘土ブロック(少)
g	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	砂粒(少)
h	Hue 7.5YR 3/4	暗褐色	砂粒(中)
2. a	Hue 7.5YR 5/4	にぶい褐色	粘土ブロック(少) 砂粒(中)
b	Hue 7.5YR 5/4	にぶい褐色	粘土ブロック(過多) 砂粒(中)
c	Hue 7.5YR 5/4	にぶい褐色	粘土ブロック(中) 砂粒(中) 暗褐色ブロック(少)
d	Hue 7.5YR 5/4	にぶい褐色	粘土ブロック(多) 砂粒(多) 暗褐色ブロック(少)
e	Hue 7.5YR 5/4	にぶい褐色	粘土ブロック(中) 砂粒(多)
3. a	Hue 7.5YR 4/4	褐色	粘土ブロック(中) 暗褐色ブロック(中) 砂粒(中)
b	Hue 7.5YR 4/4	褐色	粘土ブロック(少) 暗褐色ブロック(多) 砂粒(中)
c	Hue 7.5YR 4/4	褐色	粘土ブロック(少) 暗褐色ブロック(過多) 砂粒(中)
d	Hue 7.5YR 4/4	褐色	ロームブロック(多) 暗褐色ブロック(中)
e	Hue 7.5YR 4/4	褐色	暗褐色ブロック(多) ロームブロック(少) 砂粒(中) 粘土ブロック(少)
f	Hue 7.5YR 4/4	褐色	暗褐色ブロック(多) ロームブロック(少) 砂粒(多)
4. a	Hue 7.5YR 5/6	明褐色	砂粒(過多) 粘土ブロック(極少)
b	Hue 7.5YR 5/6	明褐色	砂粒(過多) 粘土ブロック(少) 酸化又は鉄分の含んだ赤褐色の砂粒を含む
c	Hue 7.5YR 5/6	明褐色	砂粒(過多) 暗褐色ブロック(少) 酸化又は鉄分の含んだ赤褐色の砂粒を含む
5. a	Hue 10YR 4/6	褐色	砂粒(過多) 粘土粒子(極少)
b	Hue 10YR 4/6	褐色	砂粒(過多) 粘土ブロック(少)
c	Hue 10YR 4/6	褐色	粘土ブロック(少) 砂粒(過多) 5 b より 6 b に近く明るい
d	Hue 10YR 4/6	褐色	粘土ブロック(少) 4 層に見られる 酸化し又は鉄分を含んだ砂粒(混)
6. a	Hue 10YR 5/4	にぶい黄褐色	砂粒(過多) 粘土ブロック(極少)
b	Hue 10YR 5/4	にぶい黄褐色	砂粒(過多) 粘土ブロック(少)
7.	Hue 10YR 6/4	にぶい黄褐色	粘土層ブロック



第244図　SH03　実　測　図



第245図　SH03　断面図(4)

5. 掘立柱建築址群

SB 001（第246図）　本建築址は主郭部の東側D9f2，f3，f4に確認され，北側に同方向を向くSBが4棟ほどあり・本遺構はその南端に位置し，SI004の床中央より北壁にかけて重複して位置している。

規模は桁行3間（6m）・梁行1間（3.14m）・面積18.84m²ほどで，主軸方向はN－5°－Eを向いている。

柱痕のピット番号は東南コーナーをP_1とし，東南西側まわりで北側に「⊏」状に番号をP_1－P_8まで仮称する。

桁行3間の柱間寸法は南側のP_1～P_4は2.1＋1.55＋2.4mをなし，北側のP_5～P_8は1.9＋2.1＋2.0mほどの間隔をなす。

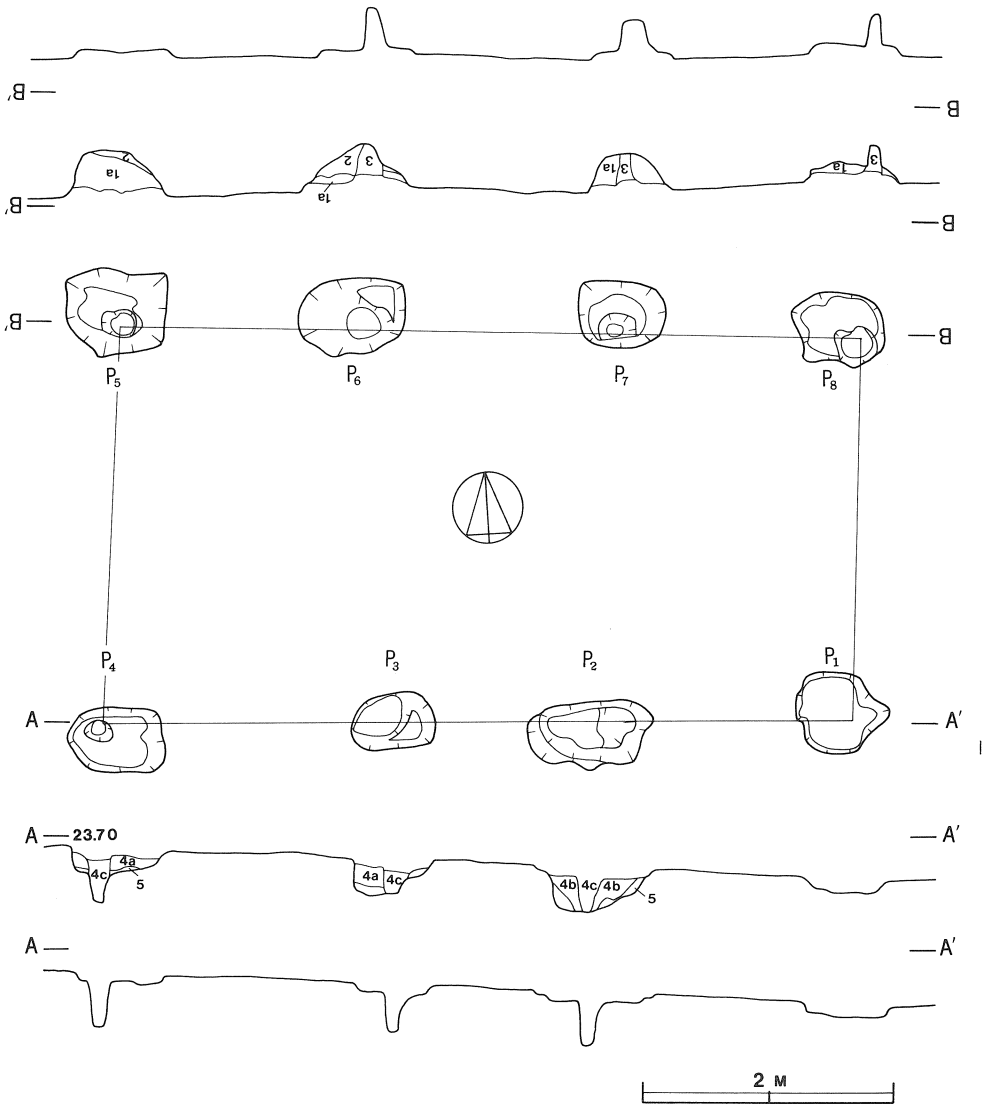
柱穴の掘り方は一辺が約0.6～0.8mほどの方形ないし長方形状を呈し，深さは約0.3～0.44mを測りほぼ均一的なものである。柱痕は掘り方の中央より内側壁に位置し，柱穴内にはロームブロック・ローム粒子を含む褐色・暗褐色土を充填していた。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考
P_1	0.65	0.60	0.12	方形	P_5	0.80	0.62	0.38	長方形
P_2	1.00	0.52	0.44	長方形	P_6	0.86	0.60	0.40	長方形
P_3	0.65	0.44	0.38	長方形	P_7	0.70	0.53	0.28	長方形
P_4	0.75	0.52	0.44	長方形	P_8	0.70	0.58	0.32	長方形

SB 002（第247図）　本建築址はD9d2・d3・e2・e3に確認され，南側3mほどでSB001が位置し，北側はP_6～P_8がSB003と重複し切られている。建築址内西側に楕円形状のSK011が所在する。

桁行は3間（6.66m）・梁行1間（3.3m）・面積は21.98m²ほどであり主軸方向はN－2°－Eで，ほぼ北方向に構築されている。

桁行の柱間寸法P_1～P_4は2＋2.35＋2.2m，P_5～P_8は2.2＋2.15＋2.2mほどを測る。掘り方は一辺約0.7～0.9mほどで長方形ないし方形状を呈し，深さは約0.4～0.5mほどであり，柱痕の掘り方はほぼ中央にあるが，P_3・P_6はやや内側壁によっている。掘り方底部の凹地と柱痕の位置はかならずしも一致していない。



S B 001 土層解説

1. a　Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ロームブロック (少)
2.　　Hue 7.5YR 4/3　褐　色　ロームブロック (少)
3.　　Hue 7.5YR 4/6　褐　色　ロームブロック (極少)
4. a　Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム粒子 (少)・ロームブロック (少)
　 b　Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　ローム粒子 (少)
　 c　Hue 7.5YR 3/4　暗褐色　abに比してやわらかくぼそぼそしてロームブロックを含まない
5.　　Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ロームブロック (中)

第 246 図　S B 001　実 測 図

SB 003（第248図）　本建築址はD9c2・c3・c4・d2・d3・d4に確認され，南側をSB002と重複し，北側に重複したSB004，005が位置し，SI005の直上に位置している。東側3mほどで傾斜面の柵列となる。

規模は桁行3間（5.4m）・梁行1間（3.3m）・面積は17.82m²ほどで主軸方向はN－3°－Wを向く東西に長い掘立柱建築址である。

桁行3間の柱間寸法は南側のP_1～P_4は1.7＋2.25＋1.45mを測り北側のP_5～P_8は1.44＋2.27＋1.7mほどで，梁行の寸法は3.3mである。

南側のP_2・P_3はSB002のP_6・P_7を掘り込んでおり，形態的にもあまり変化はないがSB003がSB002より新しい。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考
P_1	0.61	0.60	0.70	方形	P_5	0.90	0.60	0.20	長方形
P_2	0.75	0.51	0.52	長方形	P_6	0.75	0.50	0.32	長方形
P_3	0.90	0.46	0.42	長方形	P_7	0.92	0.62	0.43	長方形
P_4	0.72	0.52	0.40	長方形	P_8	0.60	0.60	0.44	方形

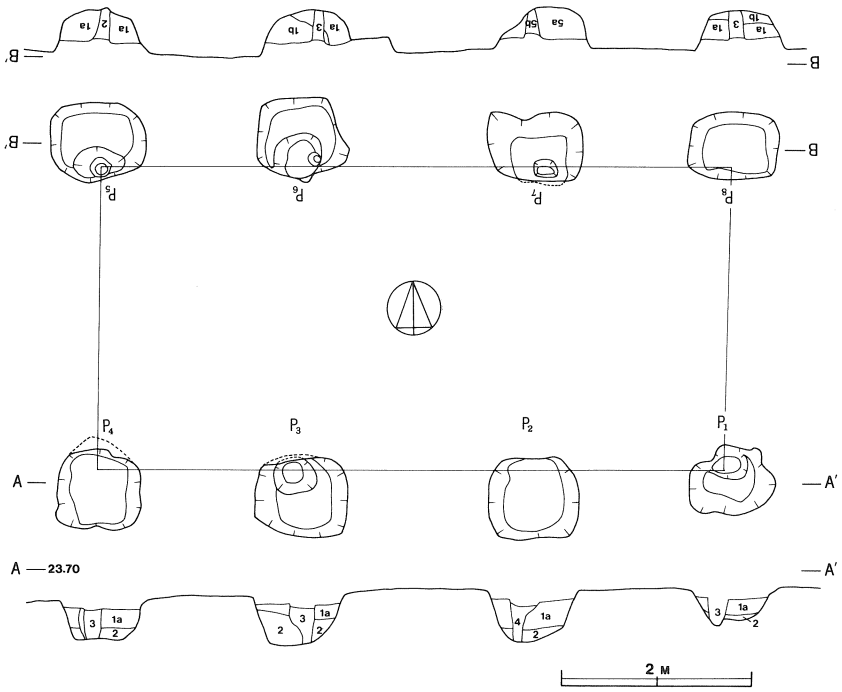
SB 004（第249図）　本建築址はD9a1・a2・a3・b1・b2・b3に確認され，SB005と重複し，南側1mほどでSB003に接して位置している。西南P_4はSI023の床を掘り込み，P_5の西側はSK148に接している。

桁行は3間，梁行は1間であり，桁行8.6mで柱間寸法は南側のP_1～P_4間が2.84＋3＋2.7m，北側のP_5～P_8間は2.9＋3＋2.7mでほぼ同間隔を有している。梁行は4.6mを測る。

主軸方向はSB004・005は共にN－0°を向いて位置している。

柱痕はP_1，P_4，P_7が検出されなかった。覆土はロームブロック・ローム粒子を含む，明褐色土・暗褐色土を充填していた。掘り方はSB005の内側を切り込んでいる。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考
P_1	0.58	0.53	0.12	方形	P_5	0.68	0.53	0.64	不整方形
P_2	0.90	0.53	0.58	長方形	P_6	0.77	0.64	0.65	不整方形
P_3	0.81	0.50	0.62	長方形	P_7	0.71	0.70	0.68	方形
P_4	0.70	0.58		不明	P_8	0.75	0.56	0.61	長方形

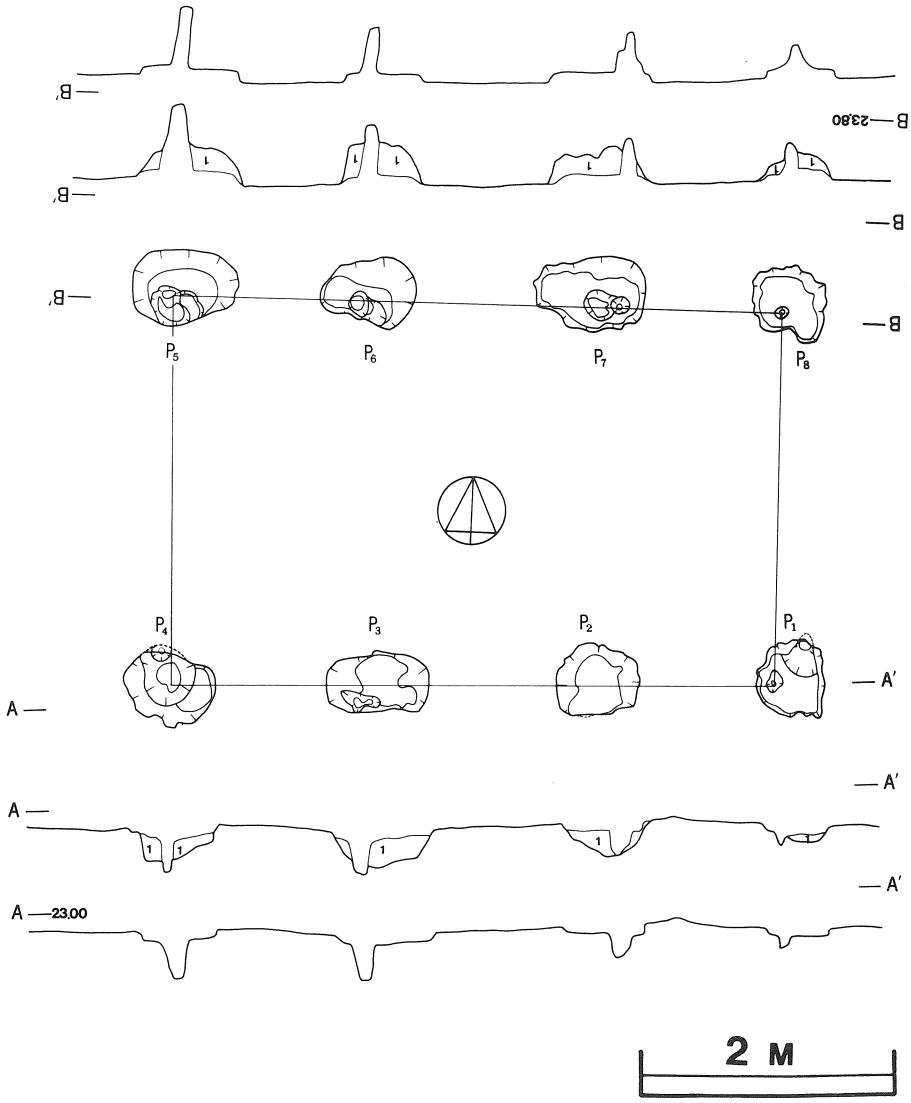


S B 002　土層解説

1. a　Hue 7.5YR 4/6　褐　色　ロームブロック(多)
   b　Hue 7.5YR 4/6　褐　色　ロームブロック(多)・黒色ブロック(中)
2.　Hue 7.5YR 4/3　褐　色　ロームブロック(多)
3.　Hue 7.5YR 4/6　褐　色　1に比してロームブロック(極少)
4.　Hue 7.5YR 4/3　褐　色　ロームブロック(極少)
5. a　Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ロームブロック(中)
   b　Hue 7.5YR 3/2　黒褐色　ロームブロック(極少)

第247図　S B 002　実測図

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考
P_1	0.90	0.70	0.40	不整長方形	P_5	1.00	0.82	0.48	長　方　形
P_2	0.95	0.85	0.55	方　形	P_6	0.95	0.82	0.47	方　形
P_3	0.95	0.85	0.54	方　形	P_7	0.98	0.70	0.45	長　方　形
P_4	0.90	0.87	0.43	方　形	P_8	0.91	0.70	0.43	長　方　形



S B 003
1. Hue 7.5Y R 4/6　褐色　ロームブロック(多)・ローム粒(中)
全体にロームブロックを含みボロボロした感じ

第248図　S B 003　実 測 図

SB 005（第249図）　本建築址はD9a1・a2・a3・b1・b2・b3・c1・c2・c3に確認され，内側のほぼ同位置にSB004が重複して確認されている。

規模は桁行3間（8.8m），梁行1間（5.2m）ほどで，東西に長い長方形状を呈し，面積46.26m^2ほどである。主軸方向はN－0°を向きSB004と同方向，同位置に構築されていることは，SB004とSB005の関係は建て直しの関係も考えられる。

桁行の柱間寸法はP_1～P_4が3＋2.7＋3.1m，北側P_5～P_8は2.8＋2.8＋3.2mほどを測る。

掘り方は長方形，方形状を呈し，SB005の掘り方はやや大型で，SB004は小型の長方形状のものでありSB001～003までの掘り方とほぼ同様のものであり，SB005は規模的に確認された建築址の中で最大級のもので，強いてあげれば，SB012に近いものである。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考
P_1	0.94	0.80	0.74	長方形	P_5	0.97	0.75	0.62	長方形
P_2	0.96	0.86	0.64	長方形	P_6	0.94	0.84	0.66	長方形
P_3	1.24	0.78	0.52	長方形	P_7	1.22	0.66	0.78	長方形
P_4	0.94	0.76	0.36	長方形	P_8		0.63	0.53	長方形

SB 006（第250図）　本建築址はC8h5・h6・h7・i5・i6・i7に確認され，SI014内に重複し，SK015が北側のP_5－P_6に接して位置している。さらにSB007が東側に重複しているが新旧は不明である。

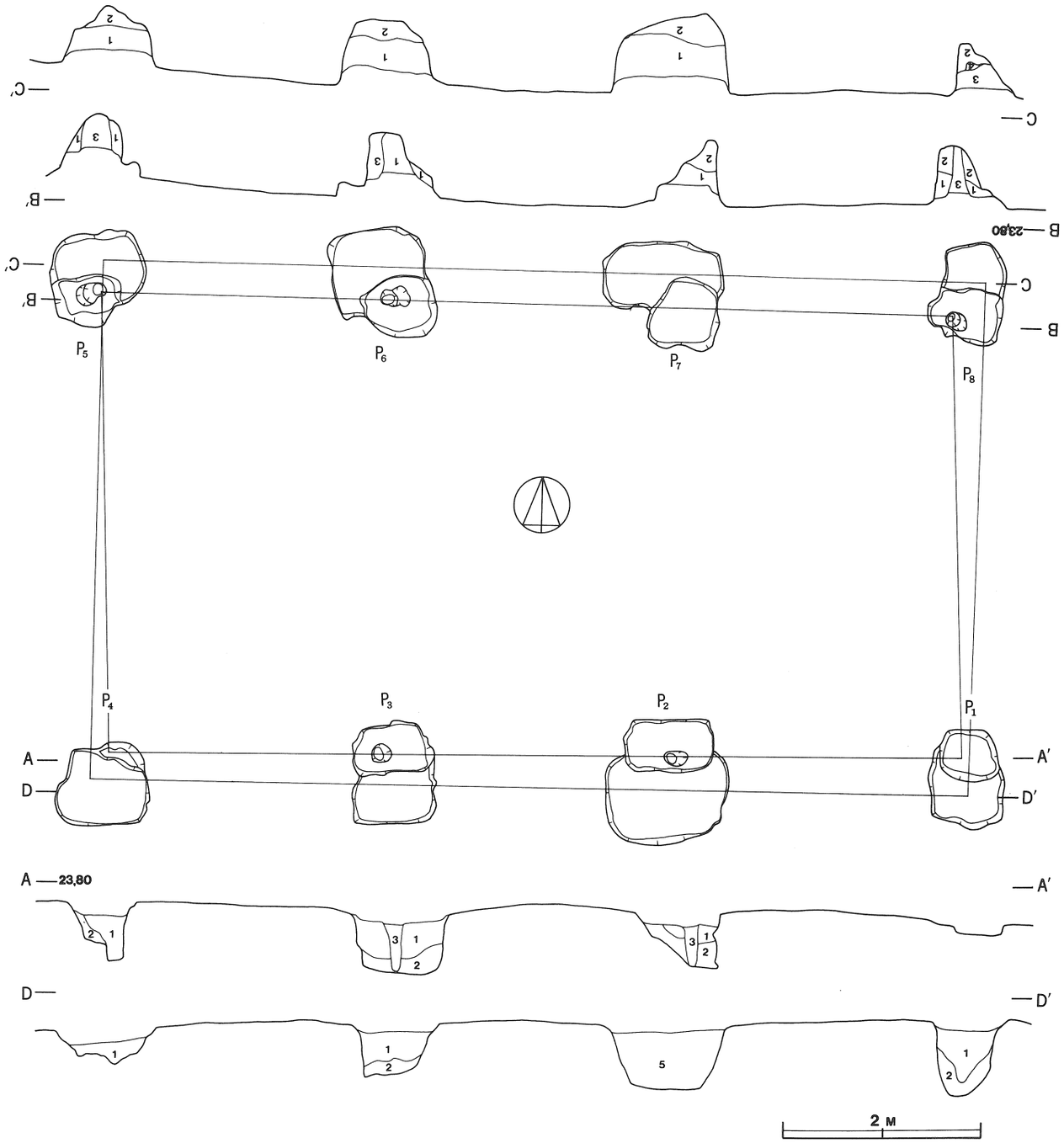
規模は桁行3間（6.12m），梁行（4.3m）を測り，東西に長い長方形状の平面形を呈し，主軸方向はN－11°－EでSH01とほぼ同方向を向き，面積は26.32m^2である。

柱間寸法はP_1～P_4間が2.1＋1.8＋2.16m，P_4～P_5は4.3m，P_5～P_8は2.2＋1.84＋2.0mほどを測る。

掘り方はP_1～P_8が方形状をなし他は長方形状を呈し，深さは均一的なものである。

遺物（第251図）はP_6から糸切り痕を有する土師器の杯，口縁端部が平坦な土師質土器，内耳土器の破片が出土し，内耳には微量のススが付着していた。

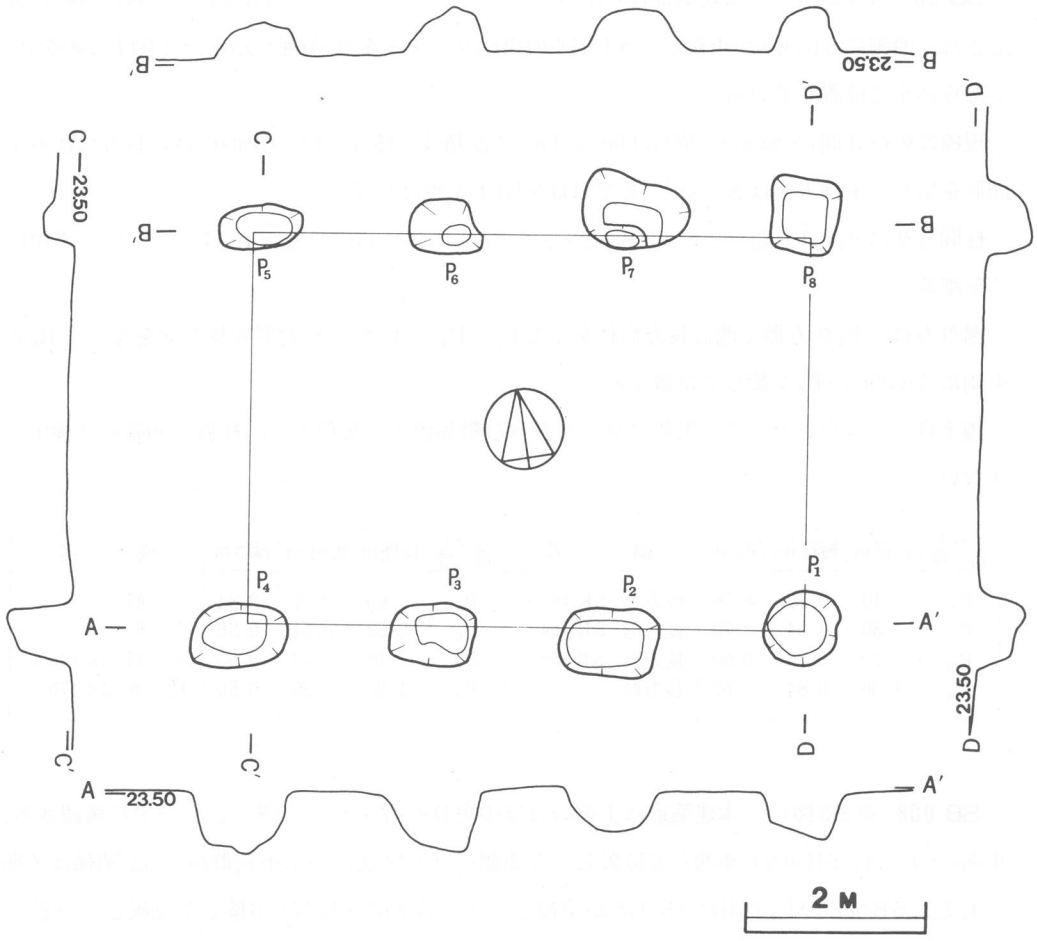
ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考
P_1	0.82	0.80	0.50	方形状	P_5	0.90	0.50	0.38	長方形
P_2	1.08	0.74	0.48	長方形	P_6	0.80	0.62	0.50	長方形
P_3	0.92	0.66	0.38	長方形（SK068）	P_7	1.20	0.84	0.46	長方形
P_4	1.02	0.70	0.70	長方形	P_8	0.86	0.72	0.52	方形



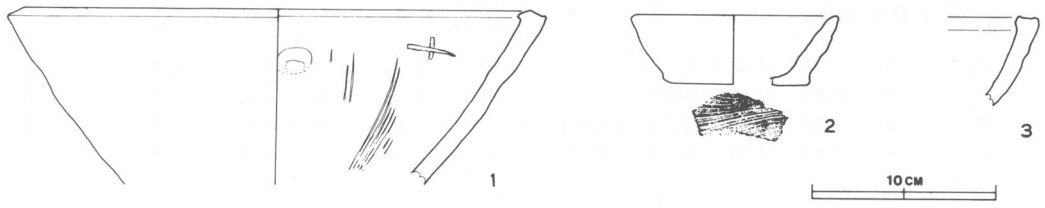
S B 004·005 土層解説

1. Hue 7.5Y R 4 / 4 褐 色
   ロームブロック・ロームの粒を含み非常にもろく
   くずれやすい
2. Hue 7.5Y R 4 / 4 褐 色
   ロームの粒・粒子が主で粘着力が強い
3. Hue 7.5Y R 3 / 3 暗褐色
   ロームの粒・粒子を含む,ごくわずか炭化物も
   含まれている 比較的やわらかい
4. Hue 7.5Y R 3 / 3 暗褐色
   ハードロームの大きなかたまりを含みもろい
5. Hue 7.5Y R 2 / 2 黒褐色
   有機土の中にロームの粒子や小粒のものを
   含む,土質はかわきやすくもろい

第 249 図 SB004・005 実測図



第250図　SB 006　実測図



第251図　SB 006　出土遺物

SB 007（第252図）　本建築址はC8h6・h7・h8・i6・i7・j8の主郭部の西側に確認され，西側にSB006が重複し，SI014の東南コーナーをP_5が掘り込み，SI017の床をP_1が掘り込んで位置している。

規模は桁行3間（8.52m），梁行1間（5.1m）で面積43.45m^2ほどの東西に長い長方形状の平面形を呈し，主軸方向はN－16°－Eでほぼ SH01と平行している。

柱間寸法はP_1～P_4間が2.6＋2.8＋2.8m・P_4～P_5は5.1m・P_5～P_8は2.6＋3＋2.8mほどを測る。

掘り方は，P_5が方形で他は長方形状を呈しP_2～P_4，P_7がやや大型の長方形をなし，P_6の東側にSB006のP_8が接して位置する。

覆土はローム小ブロック，黒色ブロックを含む暗褐色土，褐色土で，柱痕は明確には検出できない。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考
P_1	1.10	0.70	0.76	長方形（SK165）	P_5	0.80	0.76	0.84	方　形
P_2	1.30	1.04	0.70	長方形（SK164）	P_6	0.83	0.64	0.36	方　形
P_3	1.10	0.76	0.60	長方形（SK163）	P_7	1.18	1.12	0.50	方　形（SK169）
P_4	1.06	0.84	0.62	長方形	P_8	1.20	1.20	0.50	長方形（SK170）

SB 008（第253図）　本建築址は主郭のほぼ中央D8a7・b7・b8・c7・c8に確認され，東南コーナーは，SB009が重複して位置し，北東側に「冂」字状に並ぶ小穴群があるが関係は不明である。SB008のP_3の南にSK078が重複し，P_2の南側にSK077が接して位置している。

規模は桁行3間（5.96m），梁行1間（4.34m）で面積は25.86m^2ほどの長方形の平面形を呈し，主軸方向はN－20°－Eを向いている。

柱間寸法はP_1～P_4間が2＋1.92＋2m，P_4～P_5は4.34m，P_5～P_8は2.08＋1.88＋2mほどを測る。

掘り方はほぼ同様な長方形状を呈し，P_3・P_6はやや西北を向いて掘り込まれている。

P_6の北側に接して「冂」字状に小穴群が確認されているが本建築址との関連は不明である。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考
P_1	1.10	0.94	0.52	方　形	P_5	1.12	0.96	0.72	長方形
P_2	1.18	0.88	0.62	長方形	P_6	1.02	1.00	0.77	方　形
P_3	1.26	1.20	0.78	長方形（SK038）	P_7	1.00	0.76	0.50	長方形
P_4	0.92	0.83	0.54	方　形（SK079）	P_8	0.98	0.76	0.50	長方形

第252図　SB 007　実測図

第253図　SB 008　実測図

SB 009（第254図）　本建築址はD8c8・c9・c0・d8・d9に確認され，P_5がSB008のP_1と重複しているが新旧関係は覆土が同質の土層であり確認することはできなかった。本建築址の西側に楕円形状のSK 051が確認されている。

桁行は3間（6.6m），梁行1間（3.2m）を測り，面積39.46m²の長方形状の平面形を呈し，主軸方向はN－15°－Eを向いている。

柱間寸法はP_1～P_4間が2.2＋2.2＋2.2m・P_4～P_5は3.2m・P_5～P_8は2＋2.4＋2mである。

掘り方はP_1・P_2，P_7・P_8が方形ないし長方形状を示し，P_3・P_4，P_5・P_6がやや扁平な長方形状を呈し，確認されているSBの掘り方とは若干様相が異なる。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考
P_1	0.78	0.68	0.20	方　形	P_5	1.02	0.68	0.58	長方形
P_2	0.86	0.56	0.62	長方形　（扁平）	P_6	1.06	0.54	0.62	長方形
P_3	0.82	0.52	0.48	長方形	P_7	0.96	0.84	0.52	長方形
P_4	0.82	0.40	0.56	長方形	P_8	0.96	0.76	0.52	長方形

SB 010（第255図）　本建築址は土壙群が密集しているD8a3・a4・b3・b4・c4に確認され，北側はSB011が重複し，東側には南北に長いSB014が接し，SB010のP_3・P_4はSI020の東北壁を掘り込んでおり，西側1mにSB 013があり，さらに北側にはSB012が位置している。

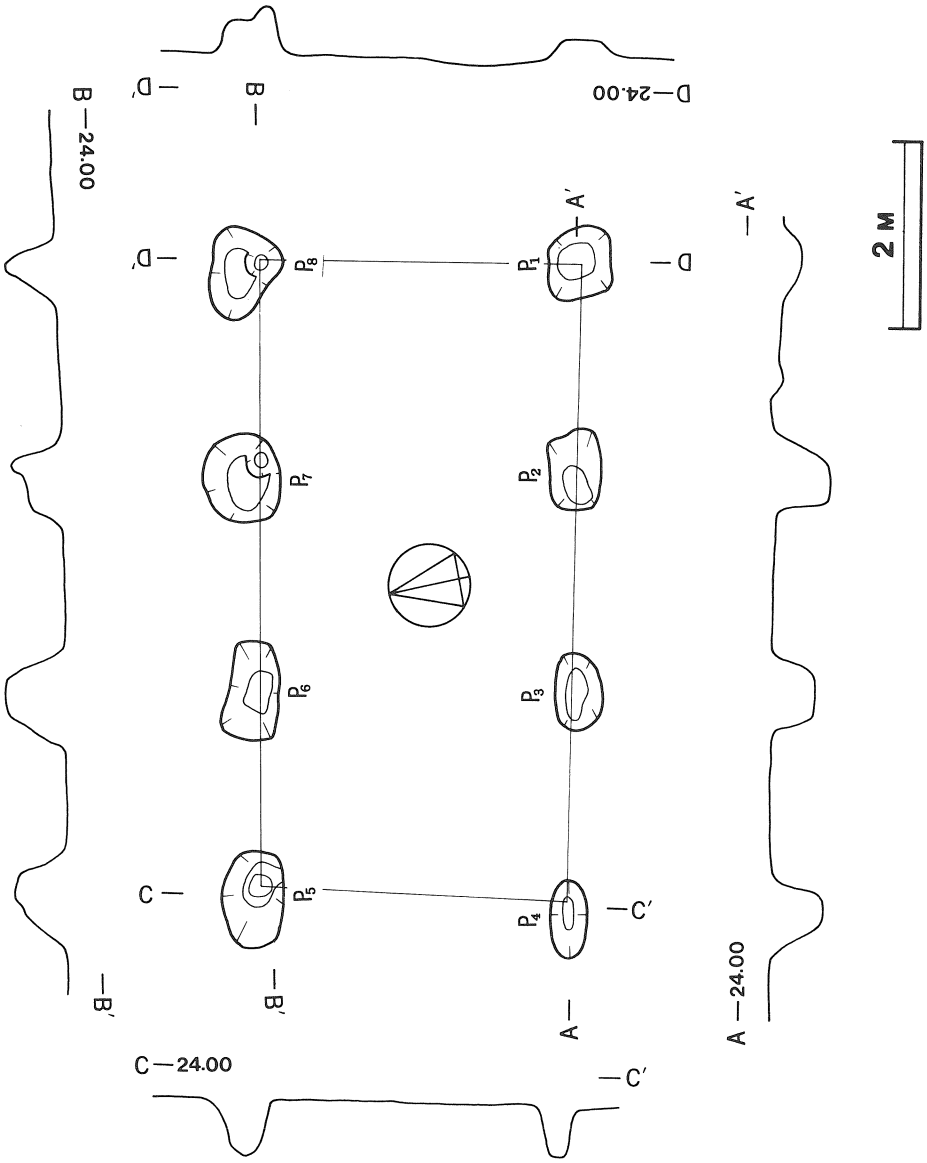
桁行は3間（7.2m），梁行1間（3.56m）ほどで面積は25.63m²である。主軸方向はN－41°－Eを向き西北より東南に長い長方形状の平面形を呈している。

柱間寸法はP_1～P_4間が2.2＋2.2＋2.6m，P_4～P_5は3.56m，P_5～P_8は3.1＋1.6＋2.5mを測る。

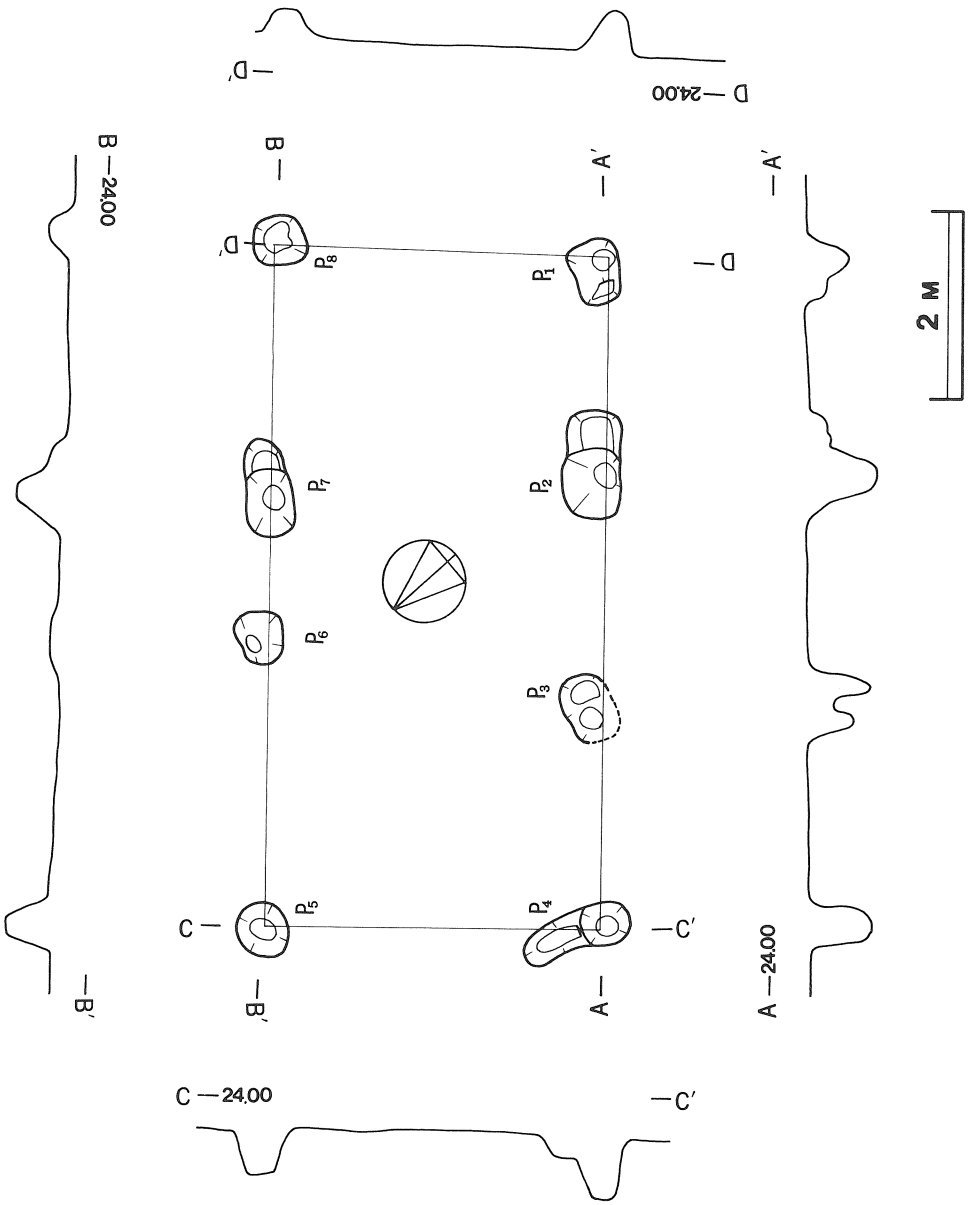
掘り方は長方形あるいは方形状を呈しP_2・P_4・P_7には掘り直しのようにも考えられる掘り方が見られ，P_5～P_6は距離を有し，P_6～P_7間は短かい。掘り方はそれほど大きなものではない。

遺物はSB010のP_3より古銭（元豊通宝）が1枚出土している。

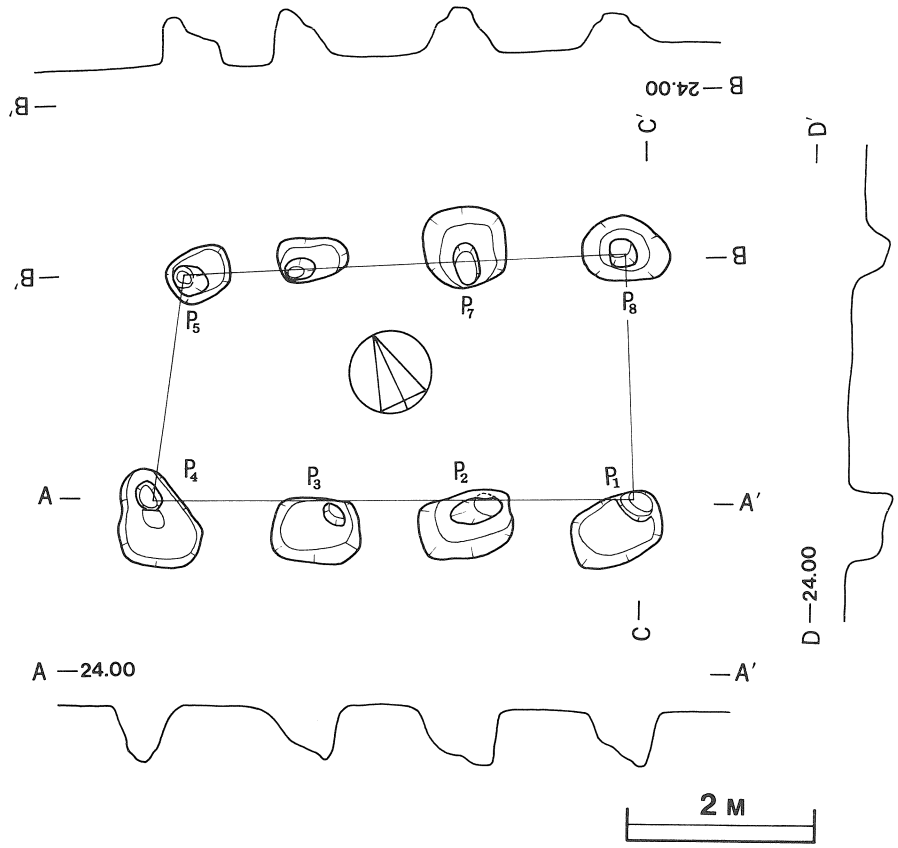
ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考
P_1	0.72	0.50	0.46	長方形	P_5	0.58	0.58	0.50	円　形（SK 098）
P_2	1.06	0.64	0.74	長方形	P_6	0.58	0.52	0.12	方　形（SK 086）
P_3	0.76	0.52	0.66	長方形	P_7	0.50	0.50	0.52	長方形（SK 085）
P_4	1.20	0.40	0.68	円　形	P_8	0.54	0.54	0.26	方　形



第254図　ＳＢ009　実測図



第255図　SB 010　実測図



第256図　SB011　実測図

SB 011（第256図）　本建築址は土壙群の密集しているD8a3・a4・b3・b4に確認され「冂」字状にSB013・SB012・SB015・SB014が囲み，南側はSB016と重複して位置している。

桁行は3間（4.7m），梁行1間（2.4m）で面積11.28m²を有し，主軸方向はN−26°−Eを向く。

柱間寸法はP_1〜P_4は1.6＋1.6＋1.8m，P_4〜P_5が2.4m，P_5〜P_8は1.2＋1.8＋1.6mを測りやや台形状の平面形を呈している。

掘り方は長方形あるいは方形状を呈し，P_5・P_6はやや小規模である。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備　考
P_1	1.00	0.72	0.60	長方形（SK089）	P_5	0.70	0.56	0.52	長方形（SK098）
P_2	1.00	0.70	0.60	長方形（SK144）	P_6	0.72	0.46	0.52	長方形（SK087）
P_3	0.94	0.70	0.54	長方形（SK095）	P_7	0.88	0.88	0.50	方　形（SK088）
P_4	1.06	0.80	0.60	長方形（SK096）	P_8	0.92	0.70	0.36	長方形（SK168）

SB 012（第257図）　本建築址は主郭部の西側C8i2・i3・j2・j3・D8a3・a4に確認され，P_4の南側1mでSB013があり，P_1・P_2の南にはSB010・011がほぼ接して位置し，東方3mにSB015が位置している。

桁行3間（8.4m）・梁行1間（4m）で面積は33.6m²ほどである。主軸方向はN－18°－Eを向き，東西に長い長方形状の平面形を呈している。

柱間寸法はP_1～P_4間が2.8＋2.8＋2.8mで，P_5～P_8は2.92＋2.8＋2.8mで等間隔を有し，梁行はP_4～P_5が4.14m・P_1－P_8が3.96mを測る。

掘り方もほぼ同様な方形あるいは長方形状を呈し，深さもそれほど変わらない。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考
P_1	1.14	1.06	0.66	長方形（SK155）	P_5	1.20	0.94	0.76	長方形（SK157）
P_2	1.24	1.04	0.80	長方形（SK142）	P_6	0.94	0.90	0.82	方　形（SK158）
P_3	1.20	1.04	0.66	長方形（SK140）	P_7	1.22	1.00	0.78	長方形（SK159）
P_4	1.32	0.92	0.74	長方形（SK156）	P_8	1.36	1.02	0.96	長方形（SK160）

SB 013（第258図）　本建築址は主郭部西端のC8j1・D8a1・a2・b1・b2に確認され，西側に柵列状の小穴が並び，東方1mでSB010，011があり，北側1mでB012が接近して位置し，P_4はSI020内の床面を掘り込んでいる。

桁行は3間（6.4m）・梁行は1間（3m）で面積は19.8m²で主軸方向はN－15°－Eを向き，南北に長い長方状の平面形を呈している。

柱間寸法はP_1～P_4間が2＋2.4＋1.8m，P_4～P_5は3m・P_5～P_8は2.2＋2.4＋1.8mを測る。

掘り方は長方形ないし方形状の平面形を示し，深さもほぼ均一である。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考
P_1	1.02	0.94	0.76	長方形（SK107）	P_5	1.08	1.04	0.66	方　形（SK135）
P_2	1.12	0.90	0.60	長方形（SK166）	P_6	0.90	0.60	0.62	長方形（SK136）
P_3	1.00	0.72	0.62	長方形（SK137）	P_7	0.88	0.84	0.52	方　形（SK138）
P_4	0.82	0.70	0.52	長方形（SK139）	P_8	0.88	0.74	0.52	方　形（SK232）

第257図　SB 012　実測図

第258図　ＳＢ013　実測図

SB 014（第259図）　本建築址はD8a5・b4・b5・b6・c5に確認され，東側3.5mほどにSB008があり，北側にはSB015，西側はSB011・010が接して位置し，SB014のP_4はSI021のカマドを掘り込み，P_1・P_7・P_8はSI019の床およびコーナー部を掘り込んでいる。

桁行は3間（6.6m），梁行1間（3.88m）で面積は26.4m^2ほどを測る。主軸方向はN－30°－EでSB013のように南北に長い長方形状の平面形を呈している。

柱間寸法はP_1～P_4は1.8＋1.8＋2.8m・P_4～P_5が3.88m，P_5～P_8は2.8＋2＋1.8mである。

掘り方は方形あるいは長方形状の平面形を呈し，内側壁に柱痕があったと想定される。P_3の北壁にピットがみられる。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考
P_1	1.12	0.82	0.90	長方形（SK153）	P_5	1.06	1.00	0.72	長方形（SK090）
P_2	1.06	0.84	0.88	長方形（SK082）	P_6	1.04	0.98	0.92	長方形（SK083）
P_3	1.12	1.08	0.90	長方形（SK152）	P_7	1.04	0.88	0.78	長方形（SK154）
P_4	0.92	0.74	0.78	長方形（SK186）	P_8	0.90	0.72		方　形（SK124）

SB 015（第260図）　本建築址はC8j5・j6・j7・D8a5・a6に確認され，北側が3mにSB006・007があり，南側2mにSB014・西側3mにSB012が，東側2mにSB014が位置し，周囲を前述の建築址によって囲まれたような状態にある。

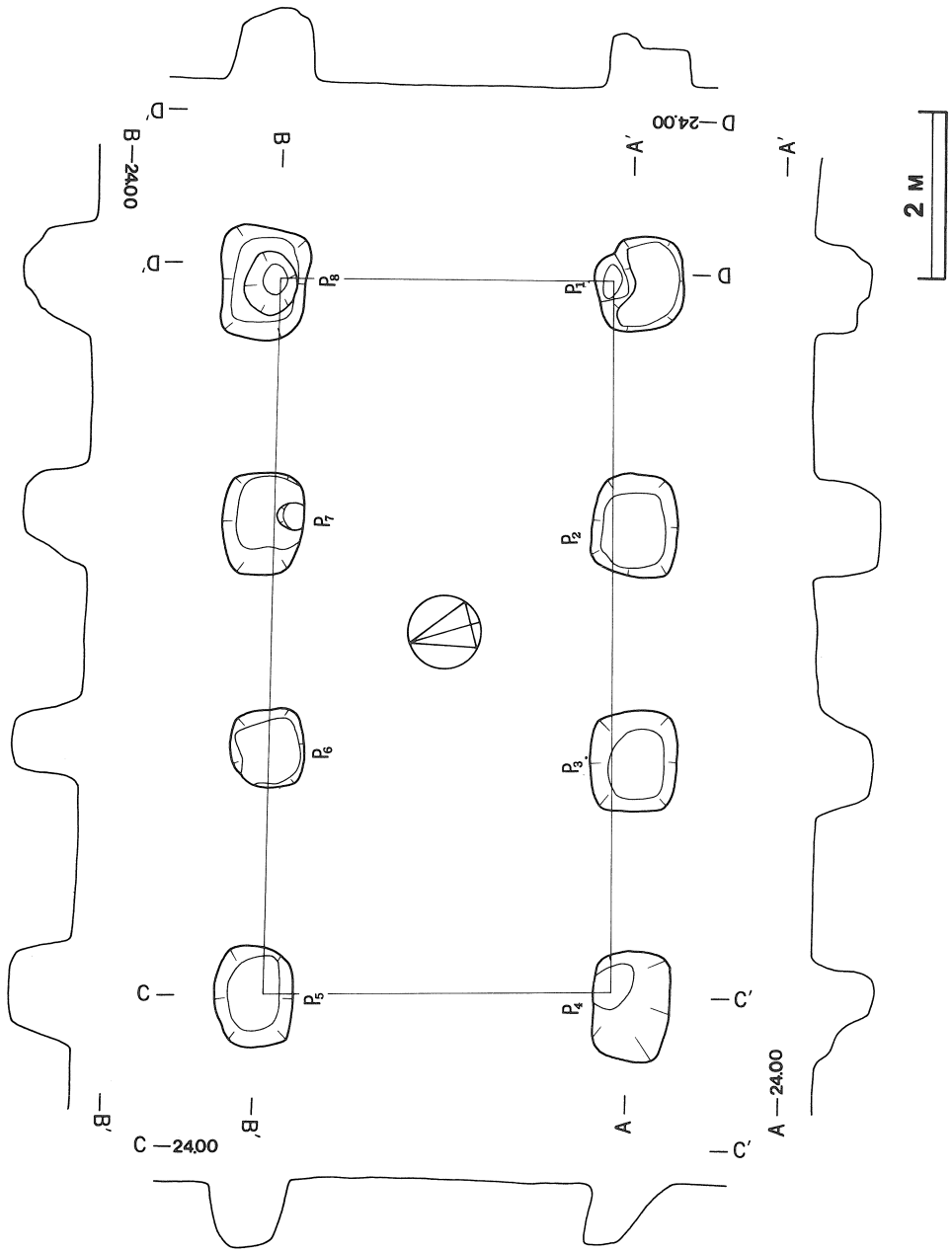
桁行は同様に3間（6.6m），梁行1間（4m）で，面積26.4m^2ほどの東西に長い長方形状の平面形を呈し，主軸方向はN－22°－Eを向いている。

柱間寸法は，P_1～P_4は1.96＋2.88＋1.88m・P_4～P_5が4m・P_5～P_8は1.86＋2.8＋1.94mを測る。掘り方は長方形あるいは方形状の平面形を示し，壁はほぼ垂直ぎみ，あるいはやや斜めに立ちあがっている。

さらにSB015のP_1～P_4を通る線の延長約2mにSB008のP_5が位置し，そのさらに延長上にP_6～P_8が並び，SB015のP_4～P_1，SB008のP_5～P_8がほぼ直線上に並んで位置している。

ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考	ピット番号	長径m	短径m	深さm	備考
P_1	1.04	0.68	0.50	長方形（SK188）	P_5	0.88	0.68	0.46	長方形（SK190）
P_2	1.00	0.78	0.50	長方形（SK185）	P_6	0.90	0.80	0.52	長方形（SK161）
P_3	0.82	0.72	0.58	長方形（SK215）	P_7	1.10	0.74	0.58	長方形（SK162）
P_4	1.00	0.74	0.44	長方形（SK214）	P_8	0.98	0.92	0.62	方　形（SK080）

第259図　SB 014　実測図



第260図　SB 015　実測図

出土遺物（第251図）　建築址群からの遺物の出土は極少量でSB006から土師質の擂鉢・内耳土器・杯等が出土し，SB010より元豊通宝が1枚検出されたのみである。

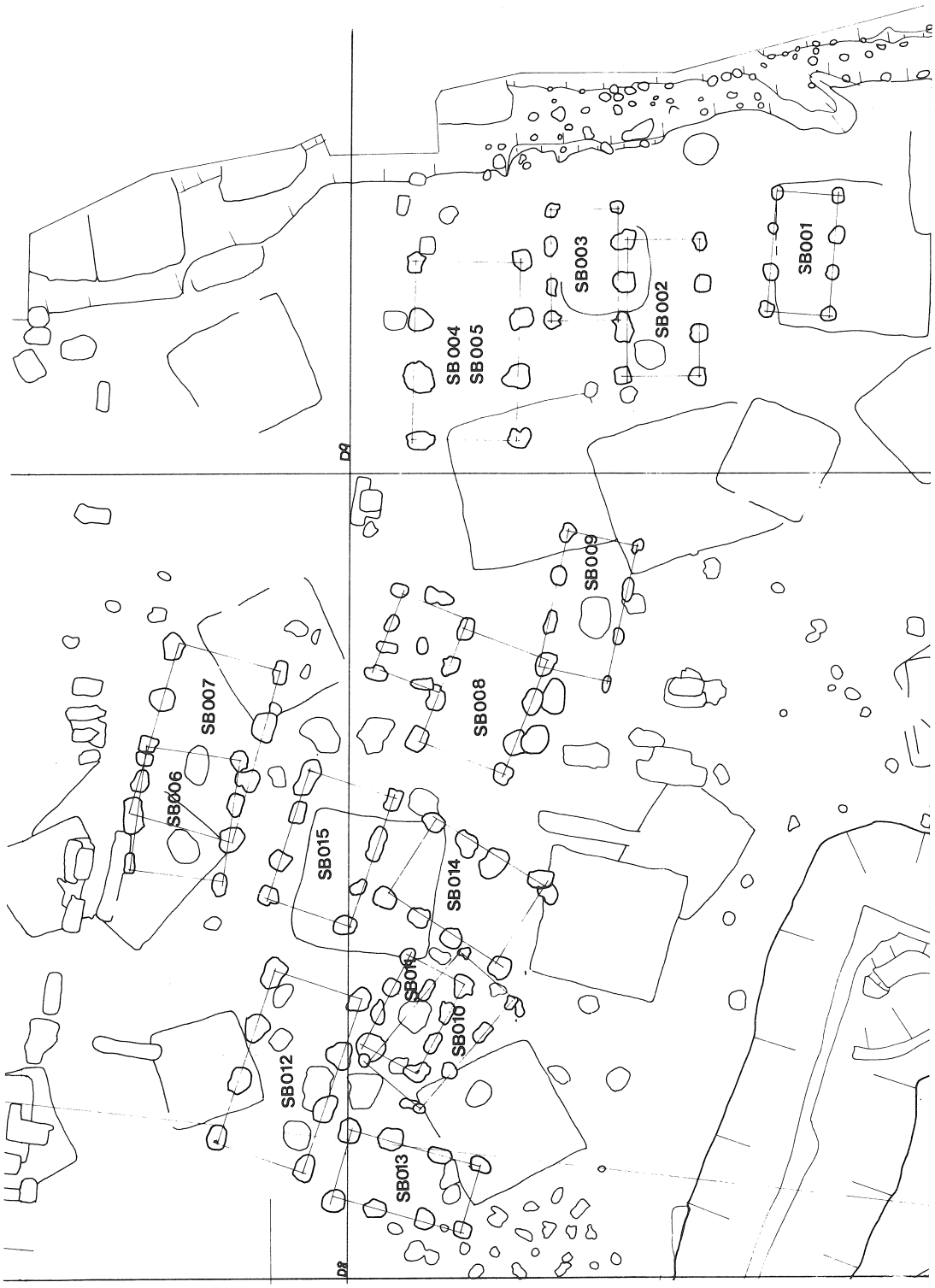
1は擂鉢で，底部にかけてほぼ真直ぐにすぼまる形を呈し，口縁端部はヘラで切り平縁となっている。口縁部に近い位置に楕円形の孔が穿たれ，櫛描きによるおろし目の上部に「＋」のヘラガキがみられる。2はやや小型の杯で，器壁が内厚である。底部外面には糸切り痕がみられ，その他の部分にはヨコナデ調整によっている。3は内耳土器の口縁部で，小片のため全体形はわからない。内面と口縁部はヨコナデ調整，外面はていねいな調整を施しておらず凹凸がみられる。外面には多量のススが付着し，生活用具として使用されていることがわかる。

以上確認された掘立柱建築址は15棟であるが，規模はすべて桁行3間，梁行1間であり，掘り方は方形あるいは長方形状を呈している。主郭部の東側の一群は真北を向き，西側の一群はほぼ堀と平行して構築されている。

主軸方向・規模・重複関係・配置などから考えて構築時期はⅢ期ないしそれ以上の時期が想定されるが，遺構の配置を明確にすることは困難であった。

第2表　掘立柱建築址遺構一覧表

	主軸方向	堀に対する角度	桁行	m	梁行	m	面積(m^2)	重複関係	備考
SB001	N－5°－E	N－18°－W	3間	6	1間	3.14	18.8		
002	N－2°－E	N－14°－W	3間	6.66	1間	3.3	21.9	SB003	SB003が新しい
003	N－3°－E	N－23°－W	3間	5.4	1間	3.3	17.8		
004	N－0°－E	N－12°－W	3間	8.6	1間	4.6	39.5	SB005	SB004が新しい
005	N－0°－E	N－12°－W	3間	8.88	1間	5.21	46.2		
006	N－11°－E	N－17°－W	3間	6.12	1間	4.3	26.3	SB007	
007	N－16°－E	N－9°－W	3間	8.52	1間	5.1	43.4		
008	N－20°－E	N－4°－W	3間	5.96	1間	4.34	25.8	SB009	
009	N－15°－E	N－8°－W	3間	6.6	1間	3.2	21.1		
010	N－41°－E	N－23°－E	3間	7.2	1間	3.56	25.6	SB011	
011	N－26°－E	N－10°－E	3間	4.7	1間	2.4	11.2		
012	N－18°－E	N－2°－E	3間	8.4	1間	4.0	33.6		
013	N－15°－E	N－3°－E	3間	6.6	1間	3.0	09.8		
014	N－30°－E	N－13°－E	3間	6.6	1間	4.0	26.4		
015	N－22°－E	N－0.5°－E	3間	6.6	1間	4.0	26.4		


SB001
SB002
SB003
SB004
SB005
SB006
SB007
SB008
SB009
SB010
SB011
SB012
SB013
SB014
SB015
D9
D8

第261図　SB配置図

6．柵列群

本柵列は主郭部の東端斜面，西端斜面，桝形部の西側に確認され，東端斜面に特に多くの柵柱列が確認されている。

東端斜面柵列（第262図）　本柵列は主郭部の東端斜面に確認されたもので，標高22.00～23.00ｍに不等間隔ではあるが3段の柵柱列があったと想定される。柵柱列の配列は幅2～3.5ｍで，ほぼ30ｍ程柵列状をなしていると考えられる。柵柱穴は約60°～70°の角度を有して斜面を掘り込み，柱穴の規模はそれほど規則性をもつものではないが，ほぼ同様な形態をなしている。長軸は0.5～0.8ｍ，深さ0.5～0.9ｍほどの楕円形あるいは円形状をなすものである。

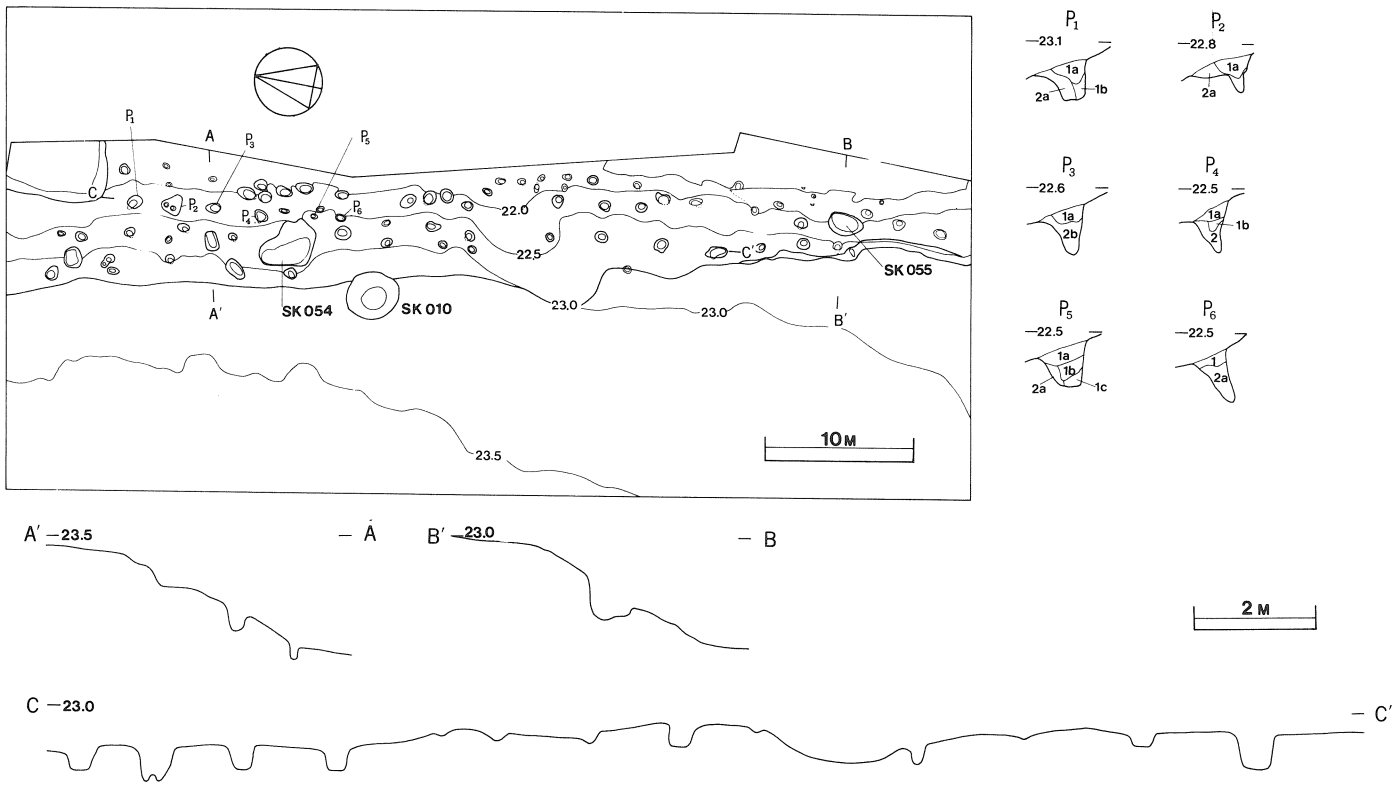
柵列のほぼ中央部斜面に主軸方向Ｎ－40°－Ｅを向く，凹状をなす傾斜が看取される。さらに北側と南側にＳＫ054，ＳＫ055が位置しこれは土壙の項で述べた。

覆土はローム小ブロック，ローム粒子を含む暗褐色土でそれほど堅い土質でない。

西端斜面上に確認された柵列（ＳＫ－11類）　本柵列は主郭部の西端，ＳＨ01の北側に屈曲する腰曲輪に平行して検出された柵柱列群でＳＢ013に接して位置している。

規模はそれほどのものではなく，幅4ｍほどで，南北に11ｍほど並列していると考えられる。

桝形部の西側に確認された土壙群（ＳＫ－12類）　本柵列は桝形の西側からＳＨ01にそってやや間隔をもって確認されたもので，柵柱列としては若干の問題を残している。規模・その他詳細なことに関しては土壙群の所で述べた。



第262図　東端斜面柵列群

7．その他（SX）

SX 001（第263図）　本遺構は東部地区の南端緩傾斜地でゆるい段差を有するG7・G8区に確認された，長径約30ｍ・短径15ｍほどの平坦な平場で底面は白色粘土層に達する。

北側のゆるい立ちあがり部分およびその周辺に多数の陶磁器，砥石，土師質土器（内耳，擂鉢）が検出されている。覆土はロームブロック・粘土ブロック・黒色ブロック等を含み柔い土質である。出土遺物は散在し，投棄されたような状況を呈していると考えられる。西北には不定楕円形状で，長径2.8ｍ・短径2.4ｍほどの土壙が検出されている。

本遺構の性格は不明であるが，遺物は中世より近世にかけての陶磁器が出土している。以前この周辺には江戸時代に屋敷があったとも云われている。

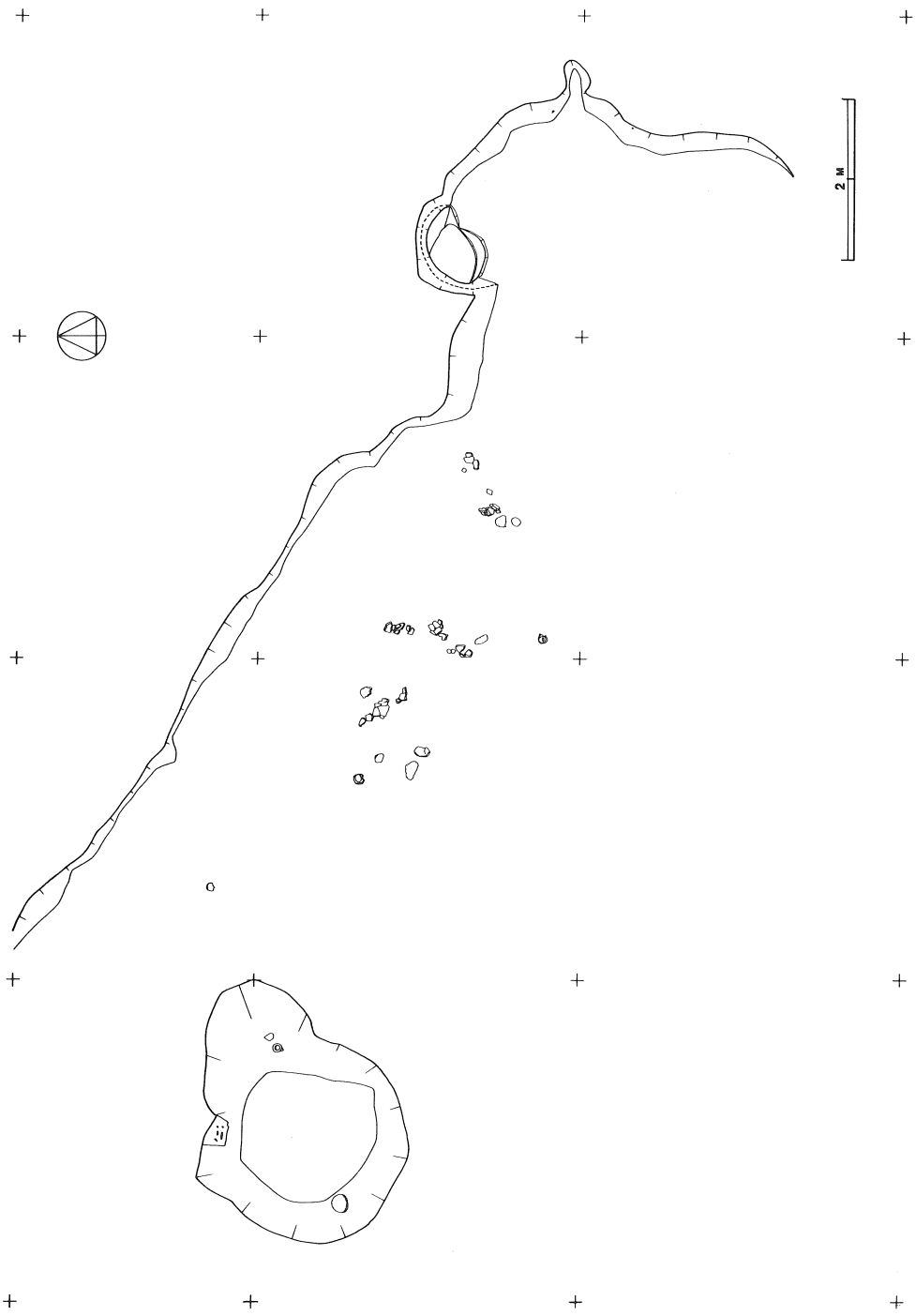
出土遺物（第264～266図）　外八代城址に伴う土器類についてここで述べることにする。土器は，土師質の内耳土器・鍋・擂鉢，土師器の小皿，瓦質の火舎と陶器がある。

内耳土器は，器形でみると擂鉢形と盆形に大きく分けられる。擂鉢形のものは，口径30～40ｃｍ・深さ8.5ｃｍ以上あり，内耳がつくり出しになっている（1・2）。1はSH03から出土した。3から6は盆形であるが，3・4は，底部から口縁にかけてやや開きぎみで，深さは6ｃｍ内外を測る。とくに4は，内耳の右脇に櫛描きによる文様が入り，この種の内耳土器は1点だけであった。5・6の場合は，内耳が貼り付けである。いづれの場合も，内耳は内側に3ケ所2等辺3角形になる位置に配置され，内面にはヨコナデの痕がみられるが，外面にはていねいな調整痕はみられない。外面全体にススが付着しており，日常に使用されていたことがわかる。胎土は砂粒を含み，色調はにぶい橙色を呈するものがほとんどであるが，うすい橙色や褐色を呈するものもあった。

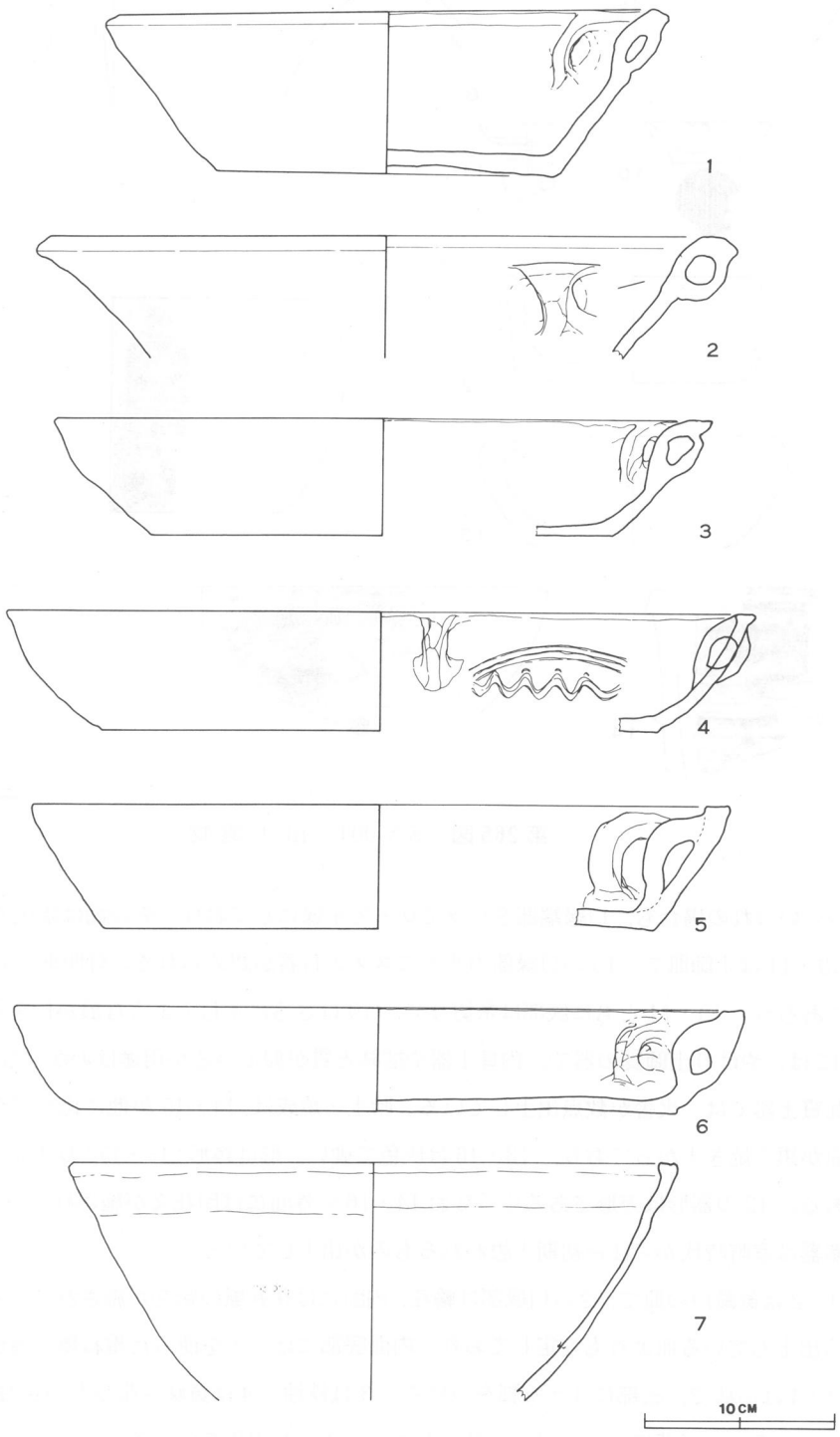
内耳土器は，中世の館や城址からの出土例が多く，その使用された年代も中世から近世にわたる長い期間である。これらは，調理器具として使用された後，埋葬の際に人の頭部にかぶせた例が多く，そのため人骨・古銭と共に出土することが多い。外八代遺跡で出土した内耳土器は，人骨や古銭に伴って検出したわけではないが，古銭も出土しており，城も廃城となった可能性が強いことなどを考えあわせると，日常での使用後，埋葬の際に利用された可能性も考えられる。

7は，やはり土師質で，胎土・焼成などが内耳土器と同質である。器壁はうすく，口縁端部が平らで，底部へかけて器面に凹凸がある。鍋として使用されたものかと思う。

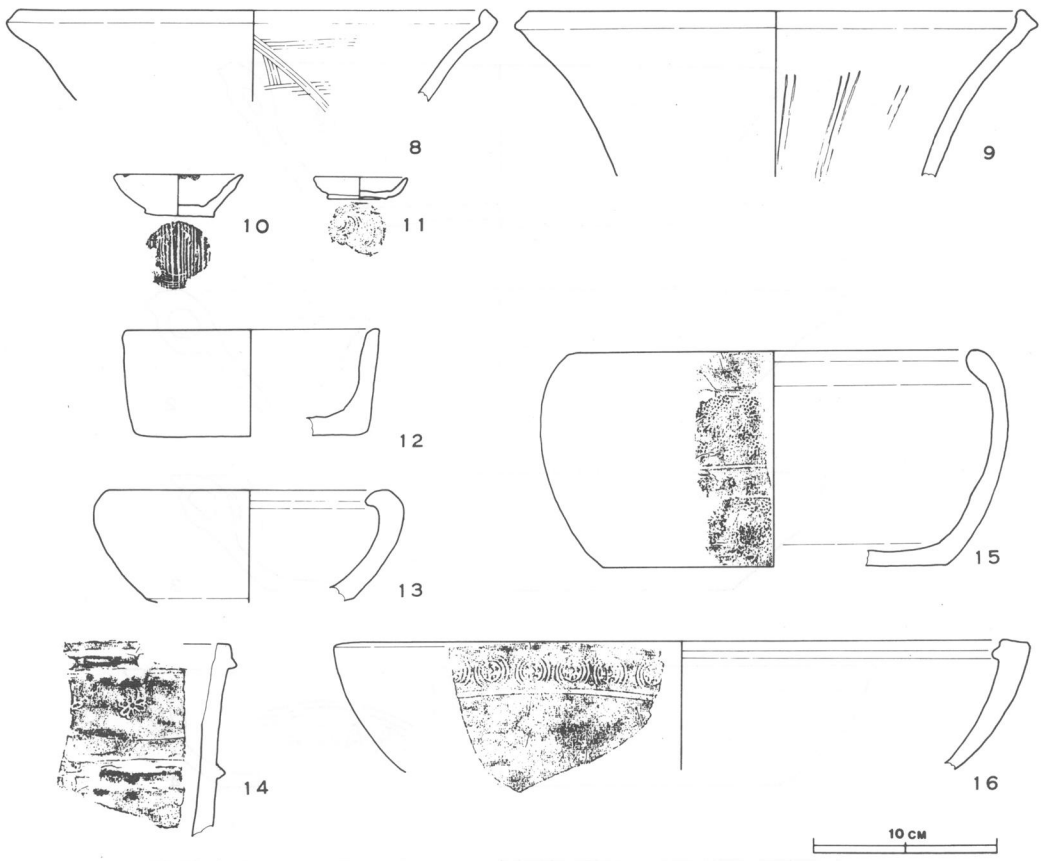
擂鉢は大きく2種に分けられる。1つは8のように，内面のおろし目が不定方向につけられたもので，もう1つは9のように，おろし目をタテに入れており，量的には後者が圧倒的に多



第263図　ＳＸ001　実測図



第264図　ＳＸ001　出土遺物



第265図　ＳＸ001　出土遺物

多い。いづれの場合も，口縁端部をヘラで切って平縁にしており，その面は幅広である。

10・11は土師皿で，10の口縁部の所々にススの付着が認められる。灯明皿として使われたのであろう。10・11ともに底部は糸切りで，10はさらに木目のような痕が伺える。

12は，やはり土師質の器で，内耳土器や擂鉢と質が似ているが用途はわからない。

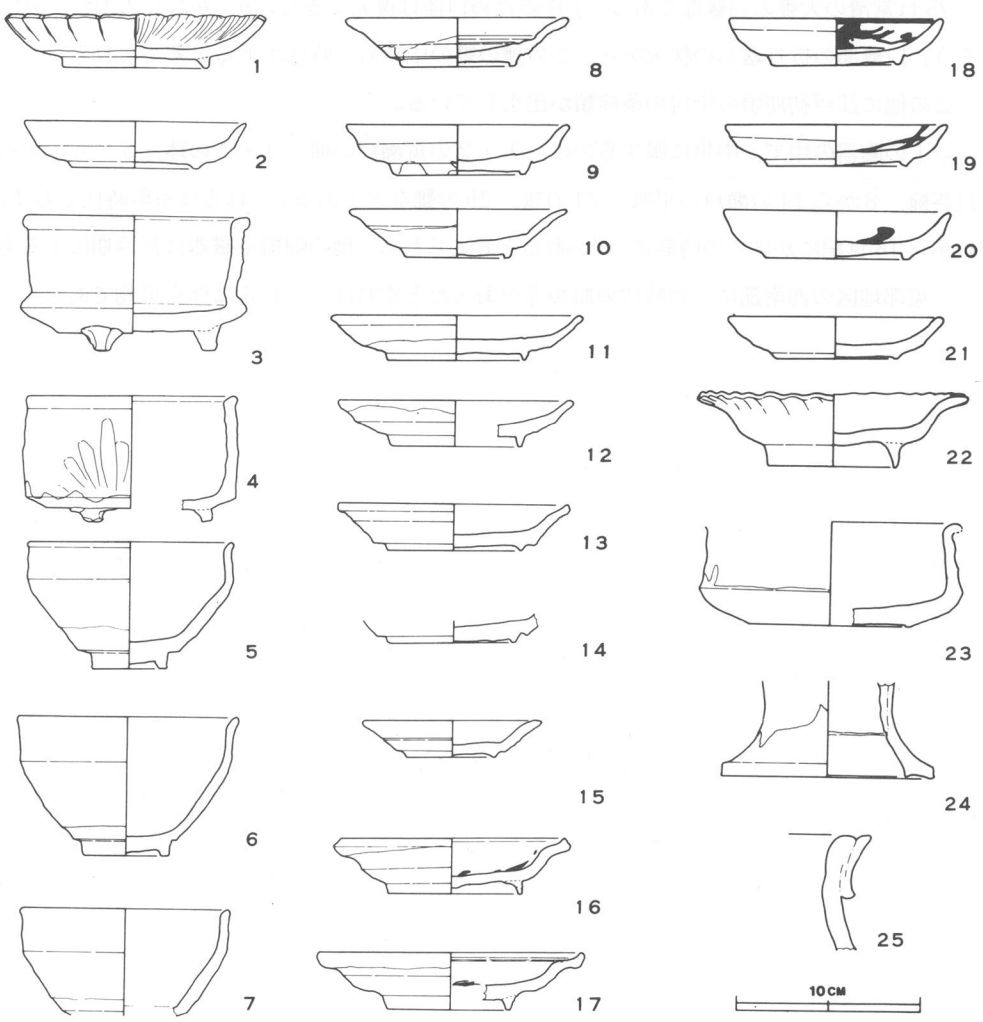
瓦質土器では，火舎が数点出土している。胎土・焼成は，14・15が他に比べてやや軟質で，表面が黒く焼き上がっており，13・16は灰色で硬い。形は鉢形（13・15）のほか，盤形（16）がある。12の器形は方形であろう。なお14・16の外面には印花文が施されている。

陶器は室町時代から江戸初期と思われるものが出土している。

1・2は黄瀬戸の皿で，2の口縁部は輪花，内面には花弁風の彫文が施されている。釉はＳＤから出土している皿よりも安定しており，内面底部にはトチを使った重ね焼の痕がみられる。

3・4は小鉢で，底部に3ケ所脚をつける。3は鉄釉，4は黄味を帯びた白色釉である。

5から7は天目茶椀で，口縁のくびれがややくずれた印象を受ける。5・7には鉄釉，6に



第266図　SX001　出土遺物

は灰釉がかけられている。

8から14は瀬戸の平皿で，釉は灰釉，内面底部に重ねて焼いた痕が輪状にのこるものと，窯道具による痕が3ケ所にのこるものとがあった。

16・17は，乳白色の釉が口縁部外面までかかり，底部内面には「米」や文様が鉄釉で描かれている。

21・22は磁器で，白釉がかかり貫入が入っている。22は口縁部が波状を呈し，いわゆる美濃の御深井の鍔皿とよばれるものであろう。

24は瀬戸の瓶子か花瓶の台部である。内側に接合の痕がみられ，外面には灰釉がかかっている。胎土は精良で焼成もよい。

25は常滑の大甕の口縁部である。小片のため口径は復元できないが，かなり大型のものであろう。口縁部の折り返しの状況から，この種の甕の中でも，時代が下ると考えられる。

この他に江戸初期頃の染付の茶椀類が出土している。

以上の陶器の中で，中世に属するのは，1・2の黄瀬戸の皿，3・4の鉢，5・6・7の天目茶椀，8から14の瀬戸の平皿，24の瓶，25の甕などである。これらは室町時代でも15世紀から16世紀にかけての時期につくられたと考えられる。他の陶器や磁器は江戸期に下るもので，東部地区の西南部に江戸時代の館か寺があったとすれば，それらに伴う遺物であろう。

8. 金属製品・煙管・古銭

金属製品(第267・268図)　環状金具(1～2)　1は幅1.1cm・厚さ0.3cmの扁平な径2.8cmの環状をなし，責め金具の一種かとみられる。接合部は幅2.2cmの板状をなしている。東部地区の南方F8b8区より出土している。2は径5.4cmの環状をなすものとみられ，半分を欠損する。軸は径0.5～0.7cmの円形あるいはやや方形状を呈し，細い先端は鋭角である。西部地区の西南E4a5区より出土している。3は径7.3cmのU字型の責め金具の一種かとみられ，幅1.3cm・厚さ0.3cmを測る。西部地区の2よりに出土している。

蓋(4)　現在長は6cmで推定基部径は26cmと考えられ，明瞭なかえりを有する。東部地区の東端E9d2区より出土している。

小柄(6)　長径9.5cm・幅1.2cm・厚さ0.2～0.5cmで表面に五三の桐がわずかに3ケ所看取される。

青銅製の柄で緑青が多量に吹き出る。調査区南端のSX001付近のG8c2より出土している。

紡錘車(10・11)　10は4.8cmほど遺存し，推定径6cmほどの円形状をなしていると考えられ，厚さ0.3～0.5cmを測り，径1.3cm・高さ1.2cmほどの突起が残存している。調査区の中央E6i0より出土している。

11は径6.4cmの円形で厚さは0.2～0.3cmを測り，中央に径0.8cmの棒状の突起が0.8cmほど残存している。出土位置はSH01の覆土中より検出されたものである。

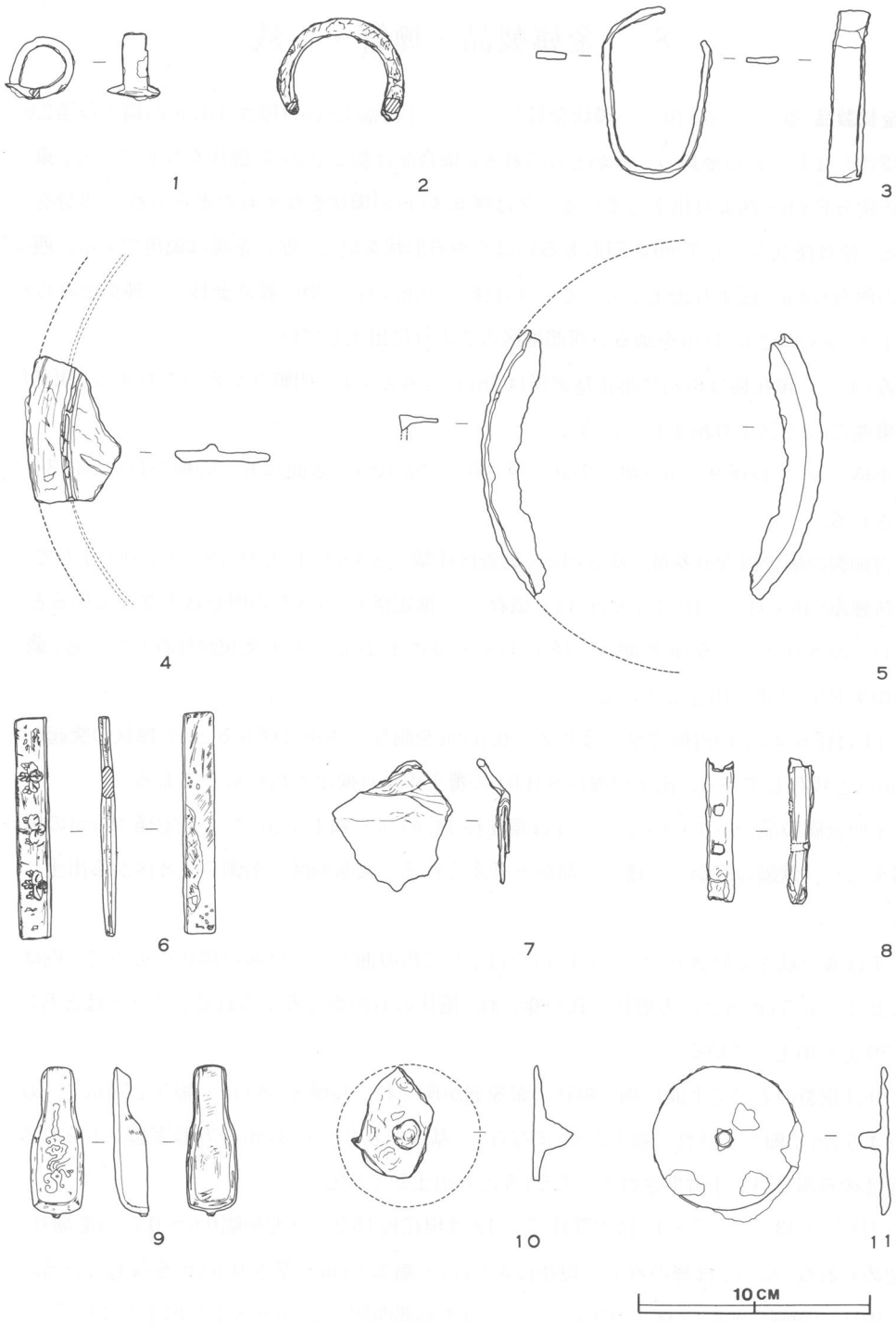
不明金属製品(5・7・8・9)　5は現在長11.4cm・幅1.7cmで，推定径18cmの円形と考えられ，鉄鍋の底か，五徳の一部かと考えられる。東部地区の南側F8e8区から出土している。

7は薄い鉄片で厚さ0.15～0.4cmでねじれて折り曲る。8は薄い棒状のもので，内は空洞で0.4～0.5cmほどの方形状の孔が穿たれ，笛状のものかと考えられる。7・8はともにSK129より出土している。

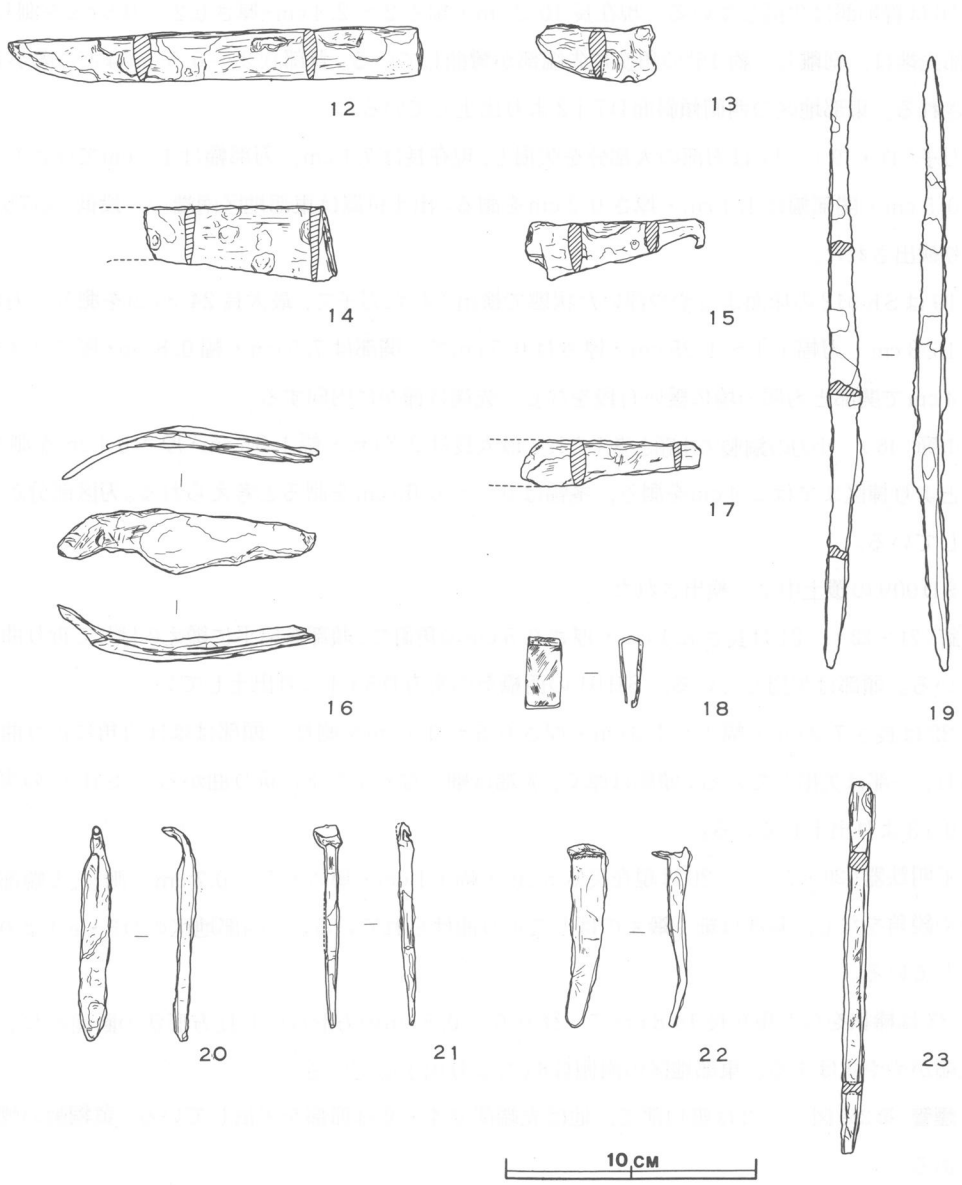
9は銅製のもので上面に細い線状の銀象嵌が彫られ，長径6.45cm・幅3.25cmで，基部より4.5cmで細くくびれ，幅1.5cmになる。基部に0.2～0.3cmの方形突起がみられる。裏面は接着部分が若干看取される。E8i5より出土している。

刀(12・13)　12・13は刃部片で，12は現在長16.2cm・刃部幅0.6～0.7cmを測り，反は認められない。13は峰のみで，現在長4.6cm・幅2.1cm・厚さ0.6cmをなしている。12はSH01の南側のE8a3区より出土し，13は主郭部西側のD7h9区より出土している。

鎌(14・15・16)　刃部の先端部の一部を欠失している。現在長は7.2cm，刃部の現在長は



第267図　金属製品（1）



第268図　金属製品（2）

6.7cm，着柄部の最大幅は2.8cm，現在最大高1.1cmを測る。西部地区の第2突端部のC3i5より出土している。

15は着柄部分の残存部で，基部はU字形に加工して留め金具が挿入される部分とみられる。現在長7.1cm・幅1.0～2.3cm・厚さ0.5cmを測る。　東部地区の南方F8f3より出土している。

16は着柄部は欠損している。現在長10.2cm・幅1.2～2.4cm・厚さ0.2～0.5cmを測り，刃部先端は，剝離し，約15°の角度に先端部が彎曲している。背部0.2～0.5cmほどの溝が看取される。東部地区の西側傾斜面D7j2より出土している。

刀子（17・19） 17は刃部の大部分を欠損し，現在長は7.1cm，刃部幅は1.7cmで厚さ0.3～0.5cm・関部幅は1.1cm・厚さ0.3cmを測る。出土位置は東部地区南端の一段低いG7b7より検出された。

19はSK012の床面よりやや浮いた状態で検出された刀子で，最大長24.3cmを測り，刃部は16.8cm・刃幅1.1～1.25cm・厚さは0.5cmで，関部は7.5cm・幅0.8cm・厚さ0.3～0.4cmで関部と刃部の境に緩い有段をなし，先端は僅かに内向する。

巾頸（18） 小刀の銅製の巾頸と考えられ，最大長は2.8cm・幅1.35cm・厚さ0.1cmを測り，刃とより棟区までは2.4cmを測り，茎幅は0.3～0.65cmを測ると考えられる。刃区部分が欠損している。

SD009の覆土中より検出された。

釘（21・22） 21は長さ8.1cm・厚さ0.5cmの角釘で，頭部を扁平に鍛えのばして折り曲げている。頭部は欠損している。SH01の西橋部の南方D8i4より出土している。

22は長さ7.3cm・幅1～1.3cm・厚さ0.5～0.7cmを測り，頭部はほぼ直角に折り曲げられ，一部は欠損している。頭部は厚く，先端は細くなりくの字に折り曲がる。SH01の東側E9a3より出土している。

不明鉄器（20・23） 20は現在長8.5cm・幅1.1cm・厚さ0.5～0.7cmを測り，先端部はやや鋭角をなし，基部は細く鍛えのばして折り曲げられている。 西部地区のD5・e4より出土している。

23は棒状をなし現在長14.8cmで，径0.6～0.8cmの方形ないし長方形状の断面をなし，先端がややすぼまる。東部地区の南側G8c2より出土している。

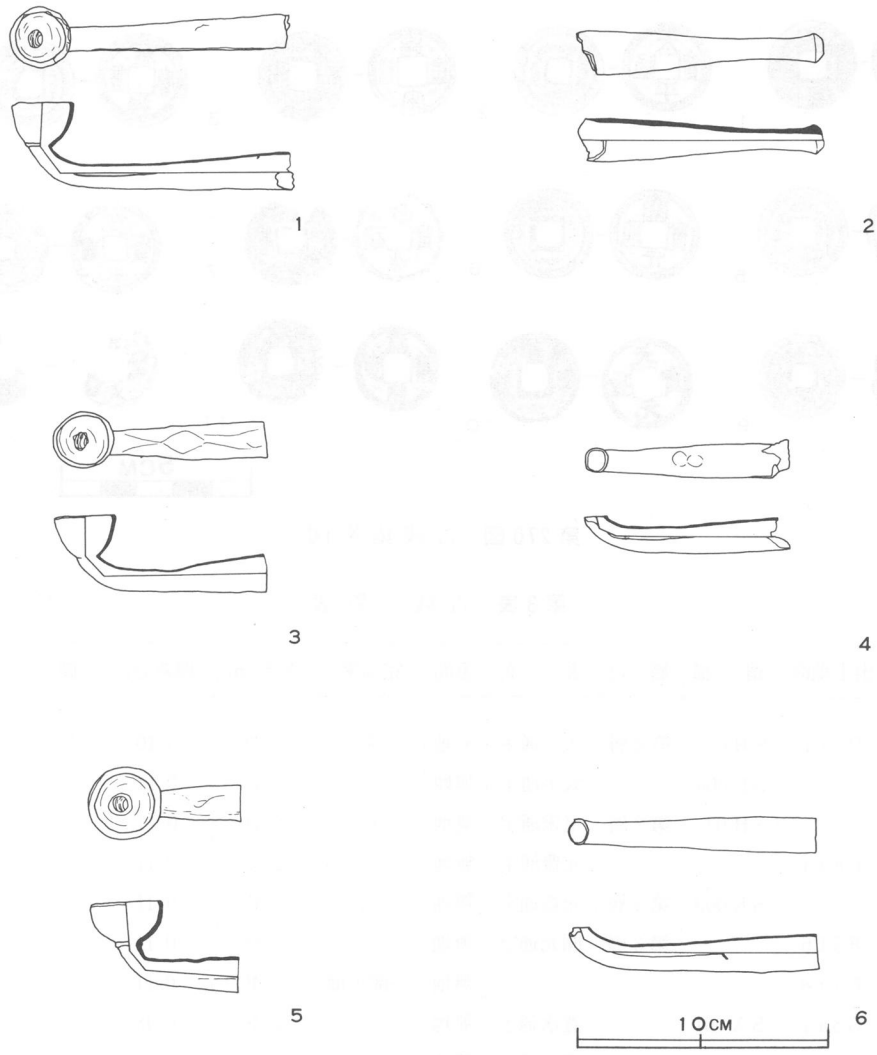
煙管（第269図） 2は吸口部で，他は先端部で4・6は皿部を欠損している。黄銅製の煙管である。

1は現在長7.3cm・径は0.7～0.9cm・皿部は直径1.6cmである。東部地区の南方G8c1より出土。

2は吸口部で現在長6.5cm・最大径1.2cm・最小径0.4cmほどであり，1と同地区より出土している。

3は現在長5.55cm・径は0.6～0.95cm・皿部直径1.6cmを測り，管の上面は敲打によるへこみを示している。桝形部の西側D8h5（SH01）の第3層から出土している。

4は皿部を欠損する煙管で，現在長6.55cm・径0.9cmを測り，SH02の中央クランク部



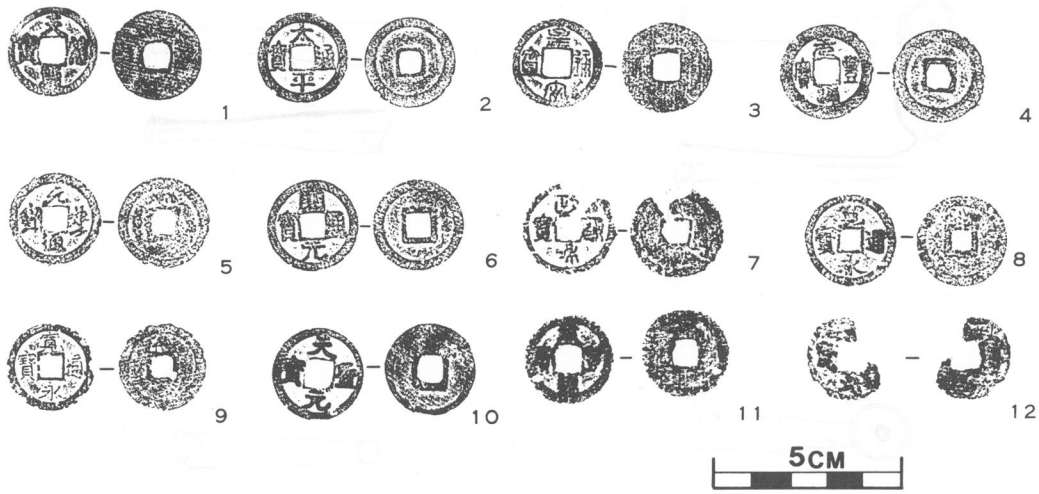
第269図　煙　管

E7e1より出土している。

5は長さ4cm・径1cm・皿部の直径2cm・先端部が短かく皿部が大きい煙管で，SH01の東端部E9b5より出土している。

6は皿部を欠損する先端部で，現在長6.55cm・径0.6～0.9cmを測る。SH02の南方E7e1より出土している。

古銭（第270図）　本遺跡内で検出された古銭は12枚の方孔銭で，小調査区の調査で6枚出土し，他は中世城郭に伴う遺構の覆土中より検出されている。一部錆化がすすんで判読できないものもある。



第270図　古銭拓影図

第3表　古銭一覧表

	出土地区	遺　構	層　位	表　面	裏面	完存率	直径 cm	厚み cm	備　考
1	D9i1	SH01	第2層	天□通宝	無地	完	2.23	0.10	
2		SD004	×	太平通宝	無地	完	2.45	0.11	
3		SH02	第2層	皇宋通宝	無地	完	2.41	0.11	
4	D8a4		×	元豊通宝	無地	完	2.52	0.11	
5		SK009	第1層	元豊通宝	無地	完	2.45	0.11	
6	E5f6		第3層	開元通宝	無地	完	2.48	0.11	
7	E7i8				無地	一部欠損	2.46	0.11	
8	G8a1	SX001		寛永通宝	無地	完	2.45	0.18	
9	D7j5			寛永通宝	無地	完	2.31	0.11	
10	G8c1	SX001		天元□宝	無地	完	2.48	0.11	
11	D9i7			不　明	無地	完	2.40	0.11	
12	D9i7			□元□宝	無地	一部欠損	2.22	0.11	

9．石製品

本遺跡で確認された石製品は，そのほとんどが砥石である。その分布は東部地区が中心で西部地区からは僅かに数例を検出するのみである。特に多い地区は東部地区の南側の低い地域である。

次に多く検出されたのはSH01である。

多量の砥石等を出土した東部地区の南側(G7・G8区)は，小破片を含めれば20個以上を検出する。1～9(第271図)

1はやや大型の鰹節状を示し，頂部側面と裏面がよく使用され，側面には砥石製作時の切断面の痕跡が着取される。2・3は中央部が張り出す鰹節状をなし，上下に良く使用され，側面には切断面が残る。4もほぼ同様であるがややたなご腹状を呈している。ほぼ全面が上下・斜めによく使用されている。

5は楔状をなすもので，基部側面がよく使用され，側面には荒い切断痕が明瞭に残る。

6は小型であるがよく使用され，裏面に切断痕が残る。基部と頂部の一部を欠く。

7は中央部が山なりになりその上下が良く使用され，側面には切断痕が残る。8もほぼ7と同様であるが表面で三面利用されている。

9は扁平で全面が使用されている。表面が良く利用され，頂部は研ぎ出しに利用され，基部は欠損してすぼまる。酸化鉄が付着し橙色化している。

10～16(第272図)は長方形状の置砥石をさらに切断して小型化して利用している。研磨面は方形の側面のみであり他面は切断痕が残存しておりあまり利用されていない。

11は欠損あるいは磨滅して原型は不明である。部分的に使用痕が看取される。軟質の砂岩。

12は頂部・基部が欠損し，裏面は磨滅している。三面が研磨され，特に側面が良く使用されている。

13は大部分が欠損し，三面が研磨され，表がよく利用され，火をあびている。

以上の中で1～9までの砥石は中世特有の使用方法を示すものではないかと考えられる。

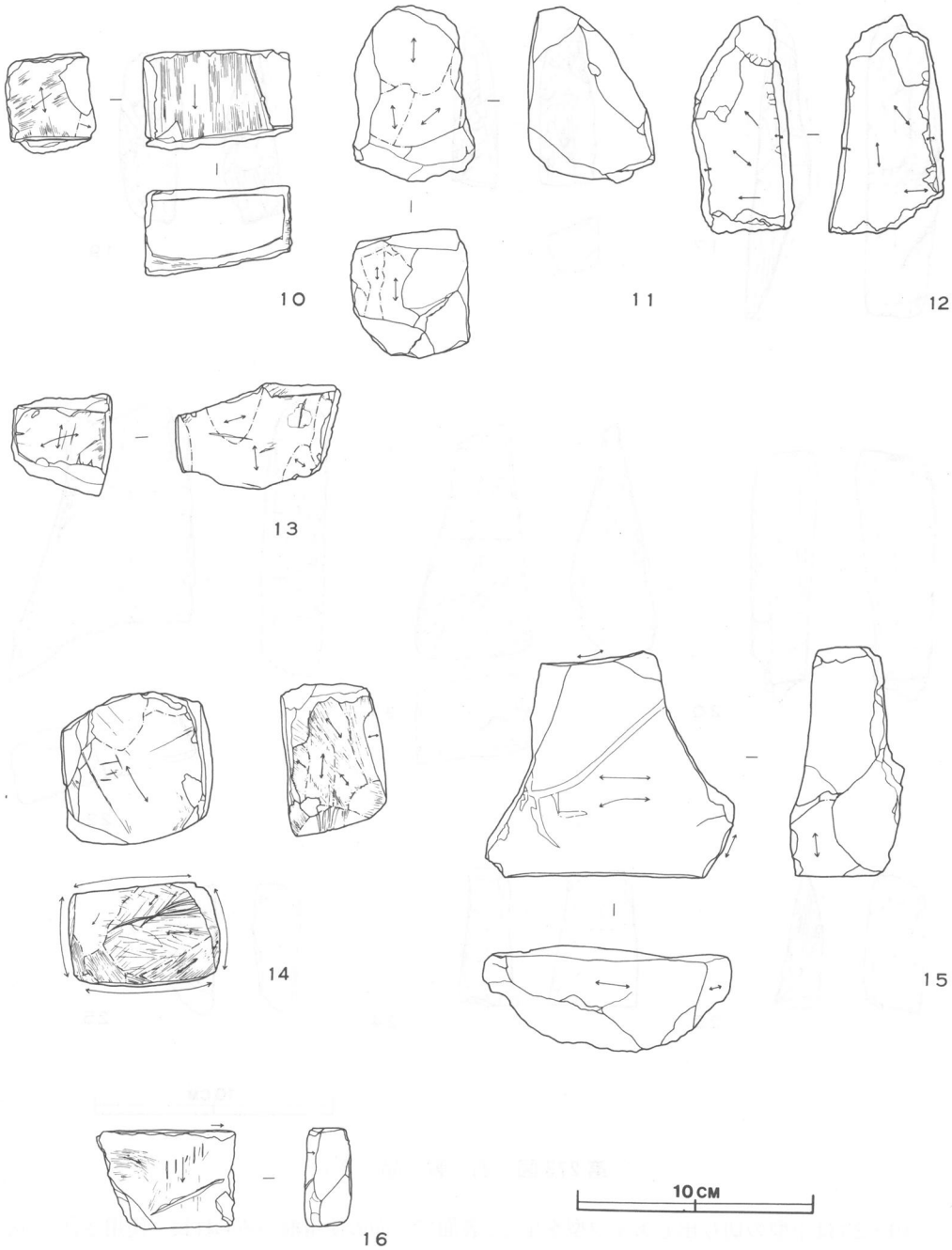
14は方形状をなし，全面がよく使用され砥石でSD008より出土している。

15は頂部が欠損し三角形状をなし，表面は良く使用され，裏面はかなり欠損している。

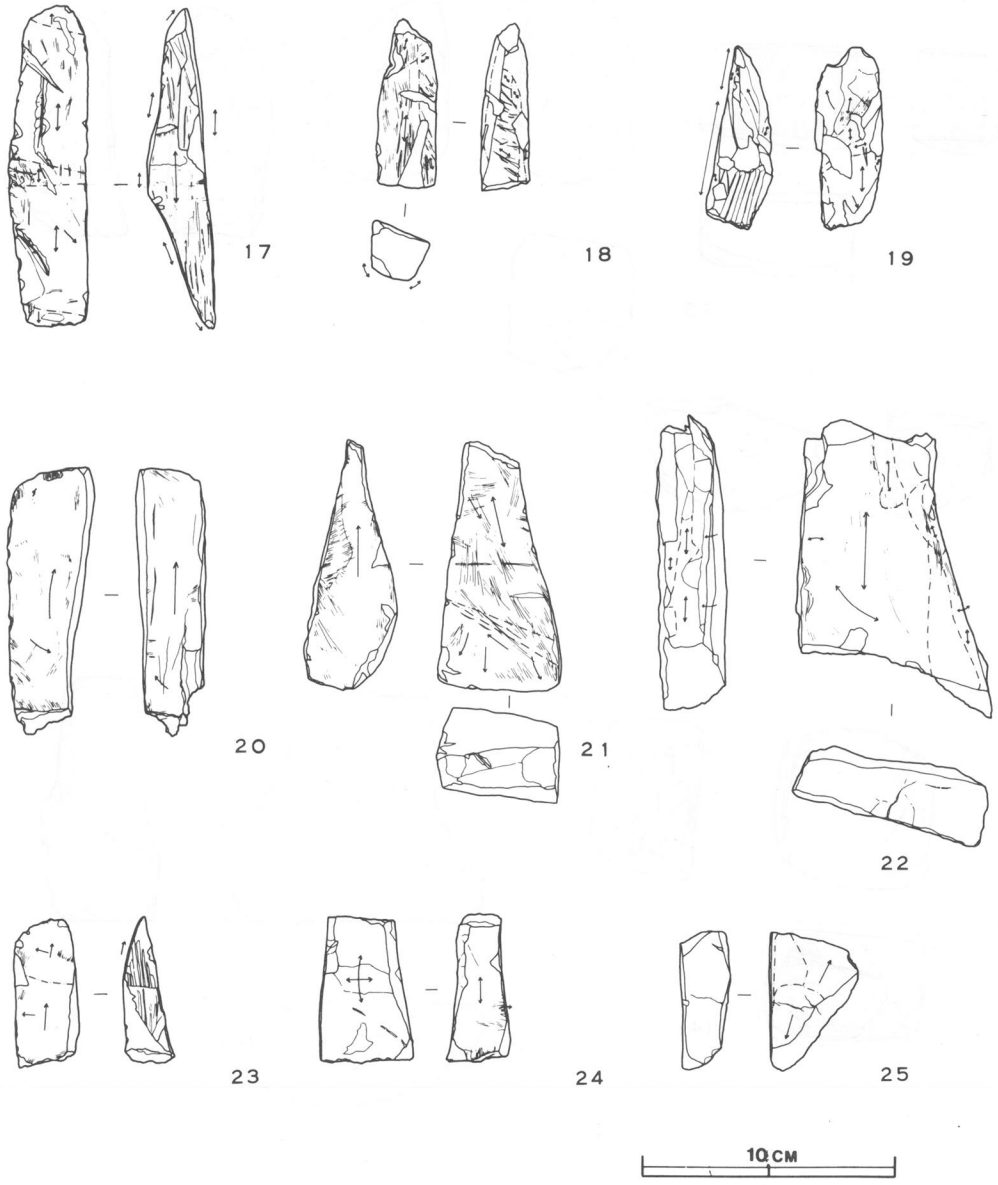
16は頂部と基部を欠損し，表面が良く使用され，基部の角で刃先を研磨していると考えられ，全体的には浅黄橙色であるが一部分にぶい赤褐色で，手持ちの仕上げ砥と考えられる。

17～25(第273図)　17は鰹節状を呈し，ほぼ全面が良く使用され，表面は三面の使用痕が看取される。

第271図　石　製　品（1）



第272図 石 製 品（2）



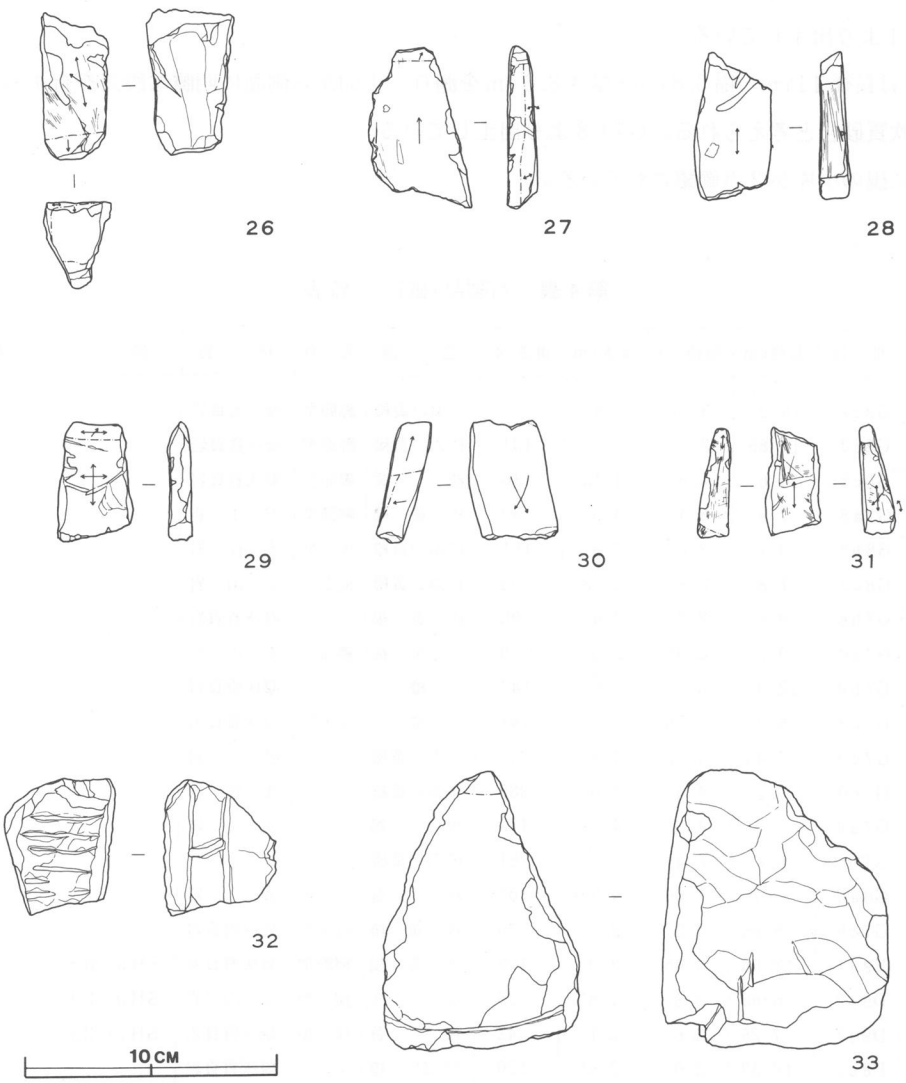
第273図　石　製　品（3）

19・23は小型の切り出しナイフ型を呈し，表面で二面の使用痕がみられ良く使用されている。側面には切断面が看取される。

18は小型の蒲鉾形を呈し，ほぼ全面が使用され，角部も良く使用されている。

20は細長い長方形状の砥石で，全面がよく使用され，頂部角も使用痕が看取される。

21は中央部が研ぎ減って欠損したものと考えられ，折れた後再利用されている。



第274図 石 製 品（4）

22は扁平的な砥石で全面が良く使用されている。

24・25は小型の砥石で，全面が良く使用されている。頂部・基部の一部を欠損している。

26～33（第274図） 26は断面船底型を呈する小型の砥石で，ほぼ全面が良く使用されている。

27～31は小型の手持ち砥石と考えられ，全面が良く使用され，基部は欠損している。頂部は研き出しあるいは仕上げ時に利用していると考えられる。

32は長径5cm・短径4.4cm・厚さ4.3cmほど遺存し，側面にはV字状の溝が6条みられ，

上面にも２条の溝がみられた。石材は硬質砂岩と考えられ，性格は臼の一部かと考えられる。G８ｃ１より出土している。

33は長径11cm・幅5.8cm・厚さ8.6cmを測り，上面から側面に明瞭な段差を有する。石材は軟質砂岩と考えられる。G７ｂ８より出土している。

他に硯の小片が２点確認されている。

第４表　石製品(砥石)一覧表

	地　区	長径cm	短径cm	厚さcm	重さ g	色　調	形　状	材　質	備　考
1	G8c2	15.2	3.9	2.8		にぶい黄橙	鰹節型	凝灰質頁岩	
2	G8c2	10.85	3.0	3.3	131	にぶい黄褐	鰹節型	凝灰質頁岩	
3	G8c2	10.6	2.85	4.15	138	淡　黄	鰹節型	凝灰質頁岩	
4	G7a8	7.9	3.1	3.0	82	灰黄褐	鰹節型	安山岩	
5	G8b3	9.7	3.6	3.8	151	にぶい黄橙	楔　型	流紋岩	
6	G8c3	7.8	2.8	2.15	59	にぶい黄橙	長方形	安山岩	
7	G7b8	9.8	2.7	2.65	90	灰黄褐		凝灰質頁岩	
8	G7c0	9.2	3.35	2.8	119	灰黄褐	鰹節型	安山岩	
9	G7b9	12.9	3.5	2.0	140	橙		凝灰質頁岩	
10	G7b8	6.2	3.95	3.25	145	橙	長方形	凝灰質頁岩	
11	G7c9	7.45	4.52	4.85	215	にぶい黄橙		砂　岩	
12	G7c0	9.2	4.4	4.05	235	にぶい黄橙		流紋岩	
13	G7a9	7.0	4.3	4.3	172	黒　褐		安山岩	
14	SD008	6.4	6.4	4.1	281	にぶい黄橙	方　形		
15	G8a6	9.7	7.65	4.3	407	浅　黄	台　形	砂　岩	
16	G7c5	5.85	4.2	2.0	70	浅黄橙	長方形	凝灰質頁岩	
17	E9a1	12.65	3.05	2.3	102	灰黄褐	鰹節型	凝灰質頁岩	SH01出土
18	D9j2	6.65	2.3	1.85	35	黄　灰	楔　型	安山岩	SH01出土
19	D9j2	7.25	2.6	2.15	42	浅　黄	楔　型	凝灰質頁岩	SH01出土
20	F8c1	10.52	2.9	2.55	120	にぶい橙		凝灰質頁岩	
21	C5c4	9.83	3.6	3.4	172	にぶい赤褐			西部地区出土
22	F7c9	11.65	6.0	2.52	238	灰　黄		粘板岩	
23	E9a3	5.85	2.45	1.41	32	褐	楔　型	凝灰質頁岩	SH01出土
24	D8f5	5.8	3.2	1.8	64	淡　黄		凝灰質頁岩	SH01出土
25	C8g6	5.49	3.15	1.85	41	灰　黄	台　形	軟質砂岩	SB006北側出土
26	E5f6	5.82	2.5	2.9	57	浅黄橙	台　形	軟質砂岩	
27	D7f6	6.4	3.4	1.1	34	灰　白		流紋岩	SH03出土
28	D9i5	5.89	2.98	1.1		明　褐		凝灰質頁岩	
29	D8c8	4.7	2.7	0.8	17	黄　褐		凝灰質頁岩	SB008・SB009
30	F9b7	4.75	3.15	1.3	35	明赤褐		凝灰質頁岩	
31	E8f1	4.3	2.0	1.05	14	灰		砂質頁岩	SH01

10. その他の遺物

外八代遺跡は，原始から近世にわたる複合遺跡であるため，幾度かの土木工事によって，それ以前の時代の遺構は消失せざるを得なかった状況にある。また，発掘調査も第1次，第2次に及び，そのために遺構に伴わずに出土した土器片も相当の量にのぼっている。そこで，そうした遺構外から検出した土器片の中でも，外八代遺跡の性格を把握する上で必要と考えたものについて，ここに掲載し説明を加えたい。

(1) 縄文式土器(第275図)　本遺跡で出土した縄文式土器はごく少量である。第275図に掲載した拓影図はそのすべてで，SI008・SI009・SI014・SI015・SI019・SI020・SI021 SI022・SI029・SK026の覆土に混入していたものである。これらはSH01よりも北の地区，とくに北寄りから多く出土しており，その付近に縄文時代の遺構があった可能性がある。

1から12は沈線文系の土器群である。1は口縁部，他は胴部片で，胎土は砂粒を含み，焼成は良好である。色調は1と11が明赤褐色，6は灰黄褐色，他は橙色からにぶい橙色を呈する。田戸下層式に比定される土器群である。

13・14・15は，やはり沈線文系の土器群で，13と15の下部には貝殻腹縁文がみられる。13は口縁部，14・15は胴部片で，胎土は砂粒を含み，焼成は良好，色調はにぶい橙色を呈する。これらは田戸上層式に比定される。

16は，沈線文と刺突文のほかに条痕がみられる。胎土は砂粒とスコリアを含み，焼成は良，色調は明るい橙色を呈する。

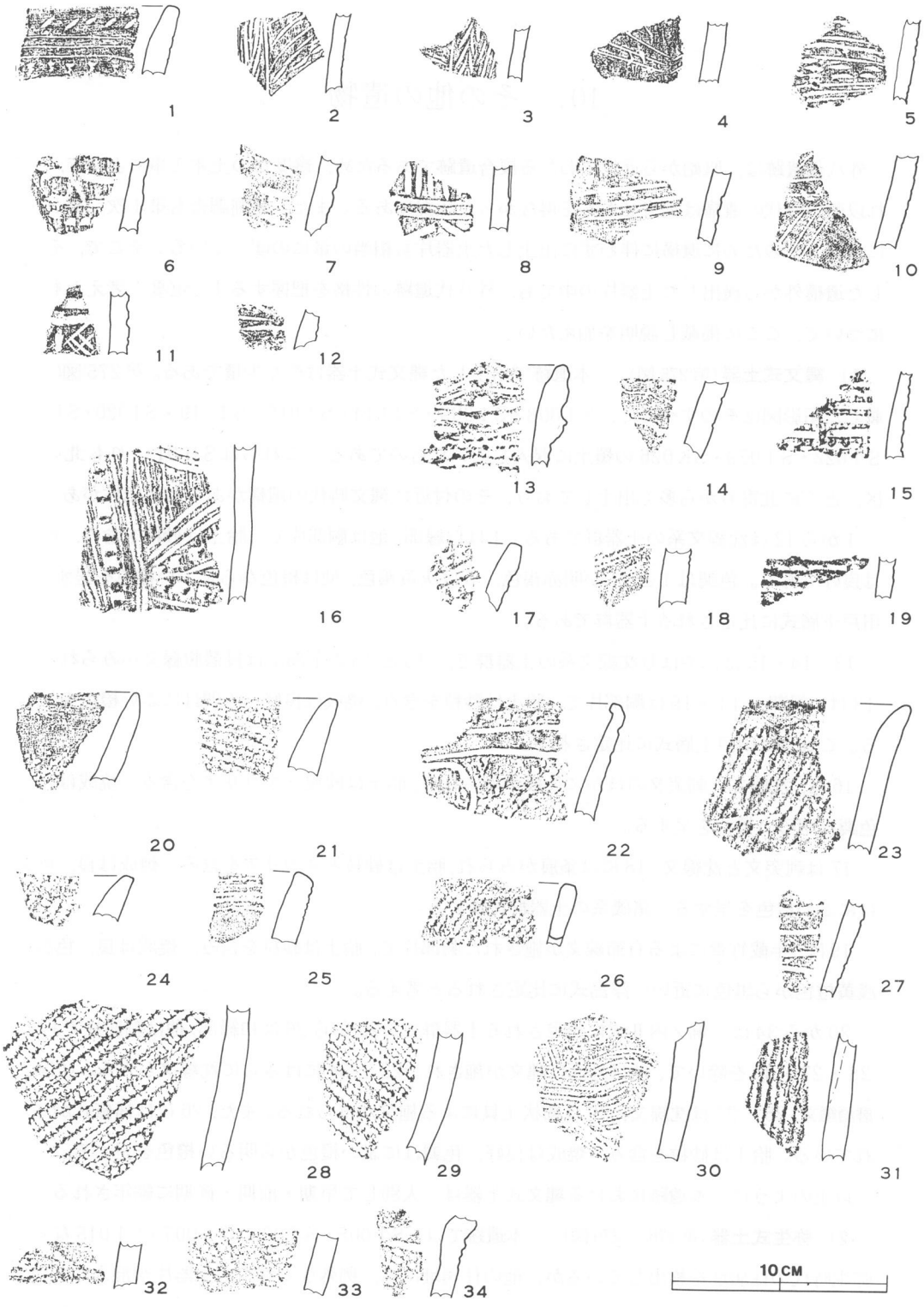
17は刺突文と沈線文，18には条痕がみられ，胎土は砂粒とスコリアを含み，焼成は良，色調はにぶい橙色を呈する。諸磯系の土器群に類する。

19は，半截竹管による有節線文が施された胴部片で，胎土は砂粒を含み，焼成は良，色調は浅黄橙色から黒色に近い。浮島式に比定されると考える。

20から34は，堀ノ内Ⅱ式に比定される土器群で，20から26は口縁部，他は胴部片である。25・27・30を除いて，他は外面に縄文が施され，22と34にはさらに沈線文が入る。(広義の磨消縄文) 25・27は沈線文，30は櫛状工具による施文がみられる。また，26には補修孔が穿たれている。胎土は砂粒を含み，焼成は良好，色調はにぶい橙色から明るい橙色を呈する。

以上のように，本遺跡における縄文式土器は，大別して早期・前期・後期に編年される。

(2) 弥生式土器(第276～279図)　本遺跡では，SI005・SI006・SI007・SI015などの弥生時代の住居址を検出しているが，他の住居址にも，例外なく弥生式土器片が混入していることから，当初はさらに遺構があったと考えられる。図示した土器片の拓影図はその一部であ


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
10CM

第275図　縄文式土器

るが，口縁部・頸部はつとめて掲載するようにした。

1・2は，指頭圧痕による波状を呈する口縁部で，6の胴部には櫛状工具による羽状の文様が横走する。これらは深鉢形土器と考えられ，5はその種の底部かと思う。この底部には焼成後に穿たれた孔がある。3の口縁部は，端部に縄文の押捺がみられ，外面には朱を塗っている。4・6・9は，区画した沈線の間を縄文で充塡しているもので，4の外面には朱を塗っている。8はS字状結節文と列点を配し，10の口縁部内面には縄文がみられる。11は羽状の縄文が施され，さらに外面に朱を塗っている。12の口縁端部には縄文の押捺がみられるほか，13は内側で複合口縁をなし，複合部には布目圧痕が認められる。以上の土器群は，南関東系のものでとくに，1・2・5・6の深鉢形土器や，3・4・7・8の壺などは，中期後葉(宮ノ台期)に比定されると考える。

14は，櫛状工具による施文がみられ，胎土は砂粒を含み，焼成はやや軟弱で，橙色を呈している。16はS字状結節文が施され，17には連続した刺突文がみられる。18・19は羽状の縄文を施し，20の口縁部には刻み目が入り，外面には粘土の輪積みらしき痕がみられるほか，外面に朱を塗っている。20は，上部にハケ目調整がみられ，以下には縄文を施した土器を利用した土製円板である。これらの土器群も南関東系の手法をもつもので，後期初頭に比定されると考える。

22から25は，半截竹管による波状文がみられる足洗系の土器群である。

27は頸部から肩部にいたるもので，外面にヘラ状工具による刺突があり，28は複合口縁を呈する壺で，下部には刺突がみられるほか，内面には朱彩が施されている。これらは南関東の後期後葉に比定されると思われる。

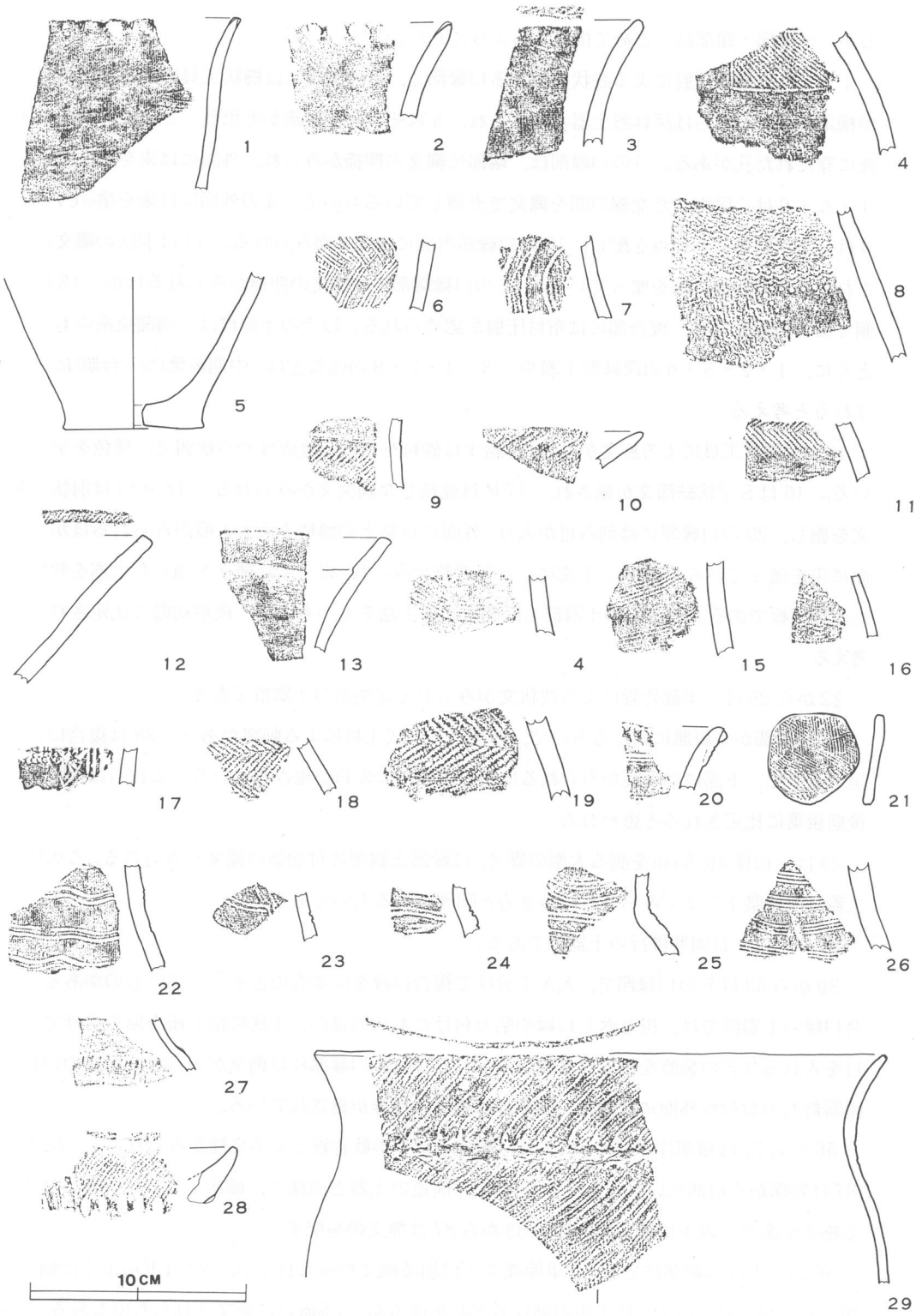
29は，口径26.5cmを測る大型の甕で，口縁部と胴部に付加条の縄文がみられる。この種の土器は茨城県下でよくみられるほか北方と関連があるものである。

30以下は，長岡期併行の土器群である。

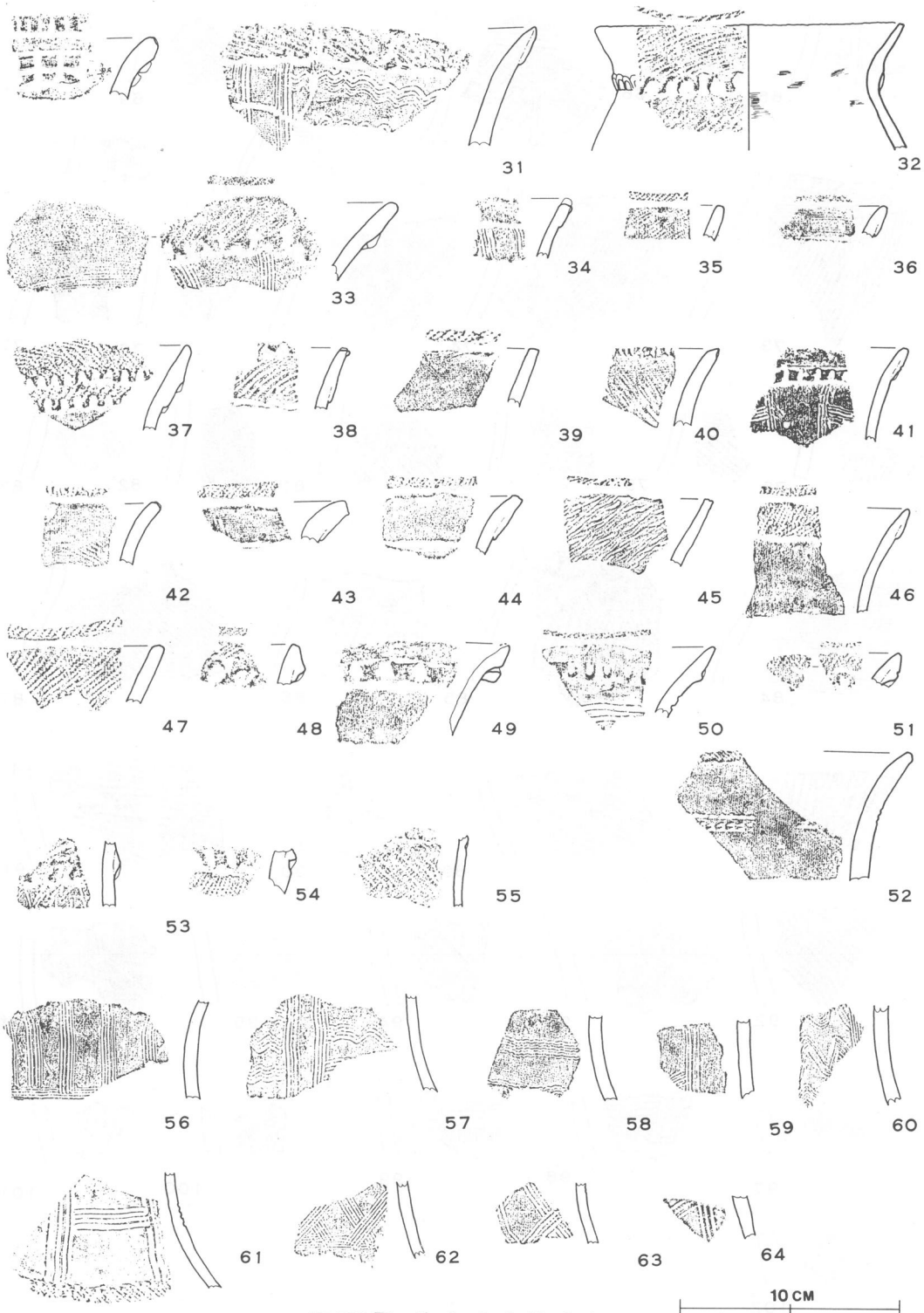
30から52はその口縁部で，大きく分けて複合口縁をなすものとそうでないものがある。複合口縁の土器群では，折り返し口縁や貼り付けたもののほか，下部に粘土紐を貼り付けて刻み目を入れるなどの装飾を施したものがみられる。複合口縁部には縄文がみられ，素縁の口縁の土器群もおおむね外面には縄文，端部には縄文の押捺が施されている。

56から72は頸部片で，ヘラ状工具，櫛状工具や半截竹管による文様がみられる。 73から87は頸部から肩部にいたるもので，上部は，前述の土器と同様に，櫛状工具やヘラ状工具による施文があり，以下は縄文である。83から87は無文帯を配す。

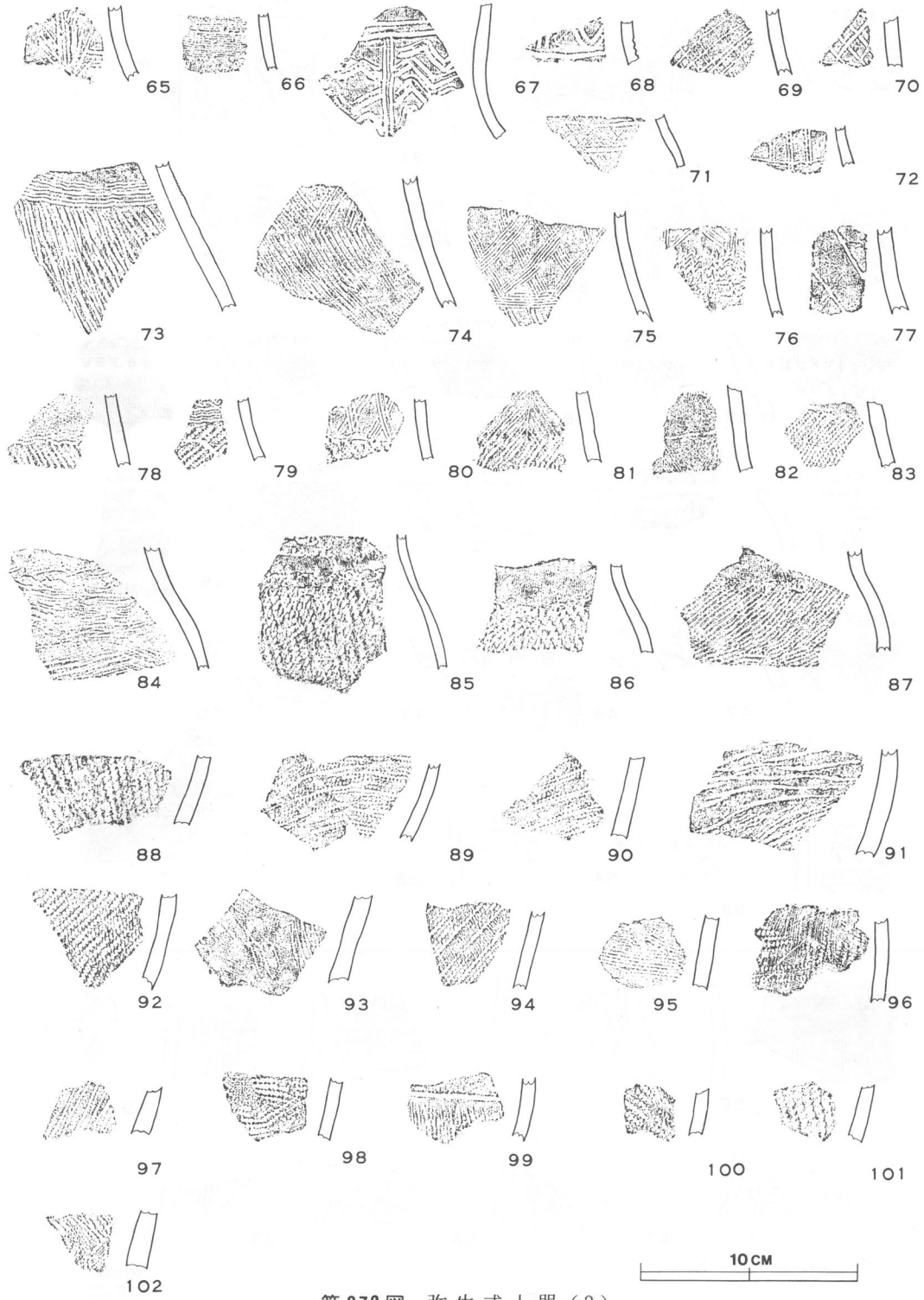
88から103は胴部片である。単節縄文・付加条縄文がみられるが，93などのように軸の不明のものや，103のように1段の撚りもどしがゆるんで，不揃いに施文されたものもある。103



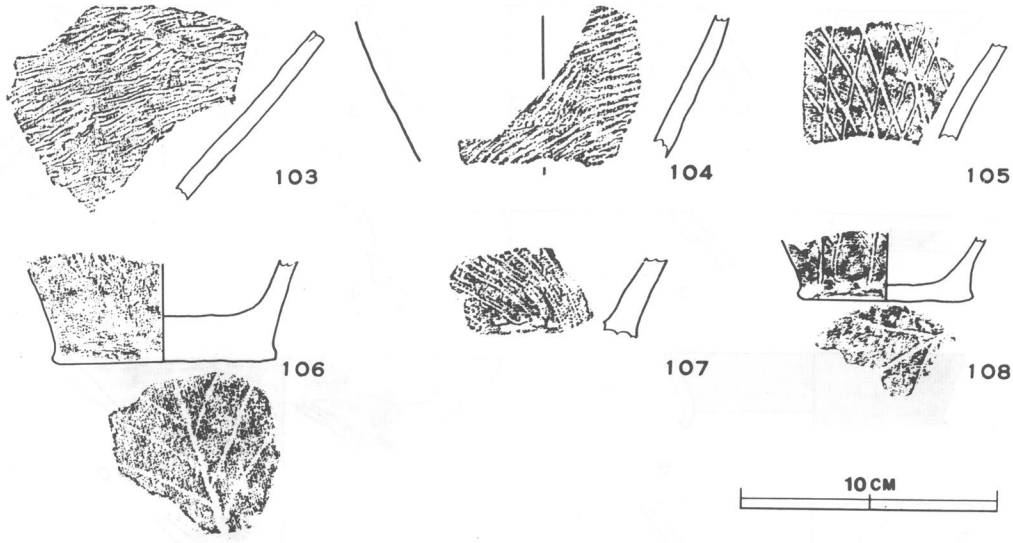
第276図 弥生式土器（1）



第277図 弥生式土器（2）



第278図 弥生式土器（3）



第279図　弥生式土器（4）

は45と同一個体であろう。また，94・96にはハケ目調整の痕がみられ，南関東の手法に類する。

104から108は，胴部から底部にかけての小片で，付加条縄文のほか，105，108のようにヘラ状工具で格子文を描いたものもあり，底部外面には木の葉圧痕が伺える。

以上，本遺跡で検出した弥生式土器は，中期後葉から後期に編年される土器群で，千葉県や茨城県内で出土する土器にみられる手法のほか，栃木県にみられる手法の土器もあった。それは，本遺跡の位置する竜ケ崎地区が，茨城県の最南端に位置し，利根川をはさんで千葉県に接する立地条件からも考えうることである。

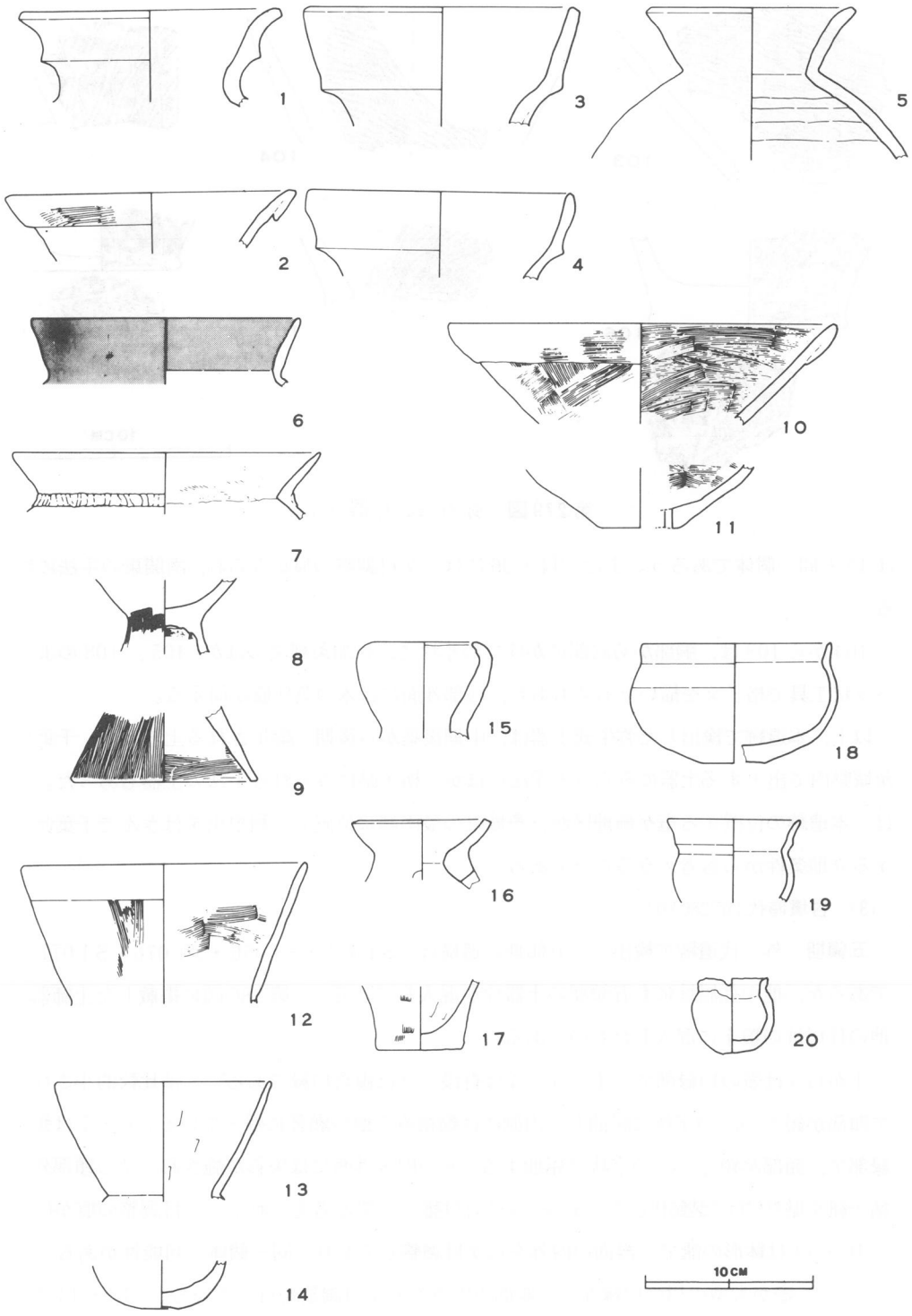
(3)　古墳時代（第280図）

五領期　外八代遺跡で検出した五領期の遺構は，ＳＩ001・ＳＩ056・ＳＩ076・ＳＩ077などであるが，他の住居址にも五領期の土器片が混入している。　第280図に掲載した土師器は，他の住居址の覆土に混入したものである。

1から5は壺の口縁部で，1・3・4は有段，2は複合口縁である。5は比較的小さな口縁で頸部が鋭く「く」の字状に屈曲し，内側には輪積みの痕が顕著に残っている。6・7は甕の口縁部で，頸部が鋭く「く」の字状に屈曲する。6の内・外面には朱彩が施され，7の頸部外側に粘土紐を貼り付けて装飾化している。8・9は台付甕の一部と考えられ，ハケ目調整の痕が伺える。

10・11は鉢形の甑で，器面の内外を八ケ目調整しており，同一個体の可能性がある。

12は，壺か大型の坩の口縁部で，器面の内外をハケ目調整を行っている。　13・14はやや小型の坩で，器面をていねいにみがいている。



第280図　土　師　器(五領期)

15・16は器台である。15はやや異形を呈するが，いづれも小片のため全体の形は不明である。

17は底部片で，もっと時代の溯るものかもしれない。

18の椀は，口縁部の内側に稜を形成し，器面全体をていねいにみがいているが，とくに口縁部外面と胴部上面はタテに，以下はヨコにヘラミガキを行なっている。

19は，かなり小型の甕形を呈する土器で，口縁部はヨコナデ，胴部には内外ともにヘラ調整の痕が伺える。20はミニチュアの甕形を呈し，口縁部がかなりゆがんでおり，各所に指圧痕が認められる。

以上，住居址に伴って出土した土器も含めて，本遺跡で検出した古式の土師器群は，五領Ⅱ式に比定して差しつかえないものと考える。

和泉期（第281図）　本遺跡では，明確な和泉期の住居址は検出されていないが，他の住居址には，和泉期の高杯の破片などがかなり混入していた。

1から3はSDに混入していた甕の口縁部で，頸部の屈曲から和泉期と考える。

4から9は高杯で，4・5・7は端部がつよく外反するが，8は外側に彎曲して端部がやや内傾する。杯の内面はヨコにヘラミガキ，外面には，タテにラセンを描くようにヘラミガキを行なっている。6の脚の内側には輪積みの痕が顕著に残り，9は鋭い外稜を形成し，杯部の外面にはわずかにハケ目の痕が伺える。9は焼成が軟弱であるが他は良好である。

10の坩は，底部がややあげ底で，口縁部内面はヨコにヘラミガキ，外面はタテにケズッたあとていねいなヘラミガキを行なっている。胴部内側の上部には接合の痕がみられ，内面はヘラナデ調整している。外面はヘラ調整の痕が伺える。

13は手捏ね土器で，内面にはユビナデの痕が伺えるほか，外面は未調整で凹凸がはげしい。

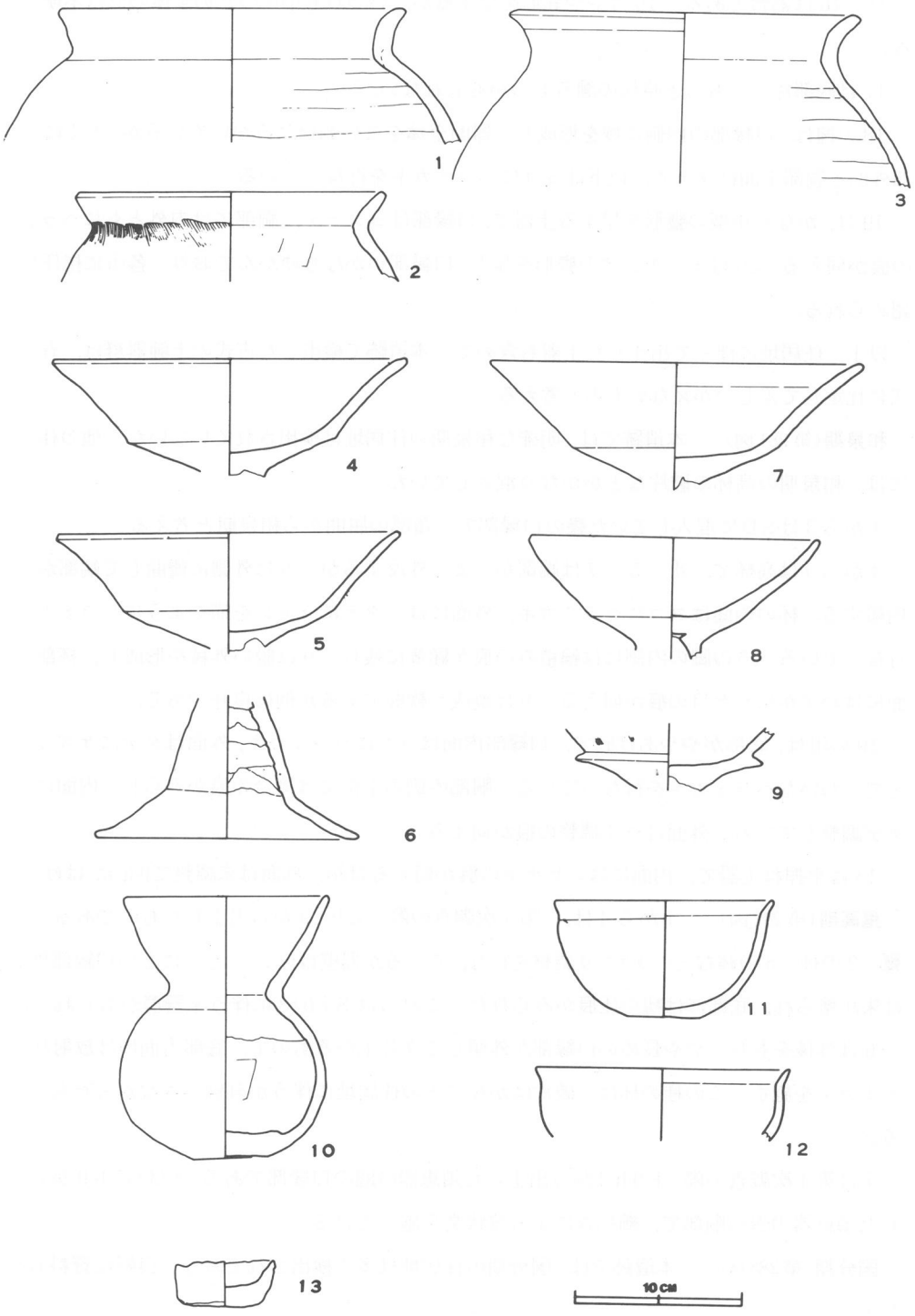
鬼高期（第282図）　1から4は，第1次調査の際，C9i3から出土したものである。1の甕，2の杯，3の鉢などヘラケズリ調整を行なっているが器壁は厚い。とくに2の口縁部外面には朱が塗られ，底部には籾の圧痕がみられた。これらはSI018に伴う土器群かもしれない。

6は外稜をもち，やや長めの口縁部が外傾して立ち上がるもので，底部内面には放射状のヘラミガキを施す。この種の杯は，破片ばかりでどの住居址に伴うか判別できなかったものである。

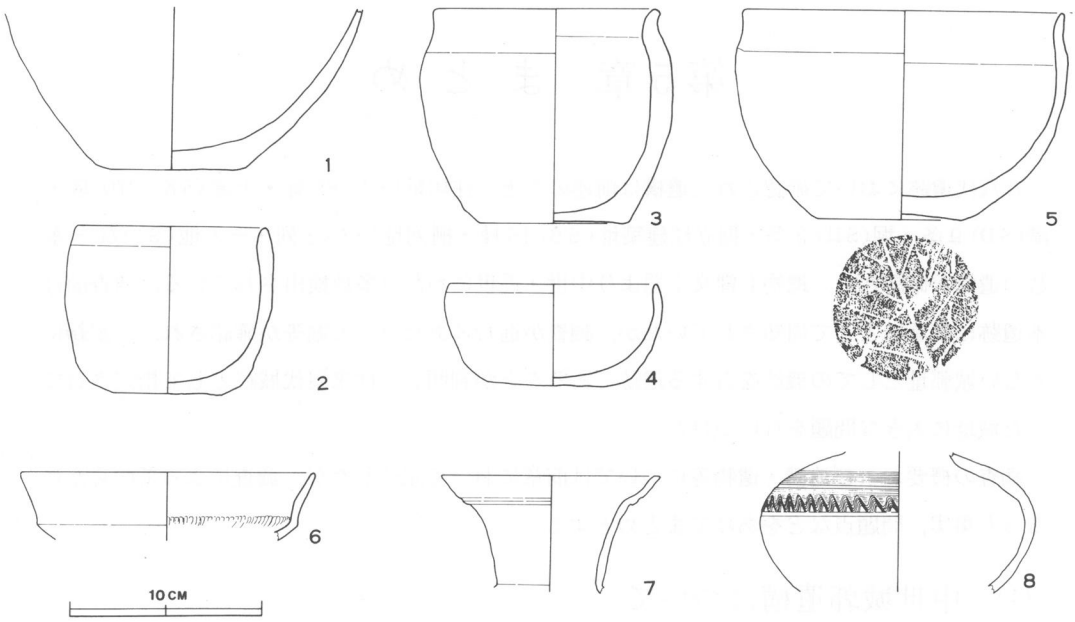
7は第1次調査の際，F9h3から出土した須恵器の甕の口縁部である。8はG7b9から出土した須恵器の壺の胴部で，櫛描きによる波状文を施している。

国分期（第283図）　本遺跡では，国分期の住居址は多く検出されており，良好な資料も得ている。

ここに図示した3点は，さらにそれらを補うものである。



第281図　土　師　器(和泉期)

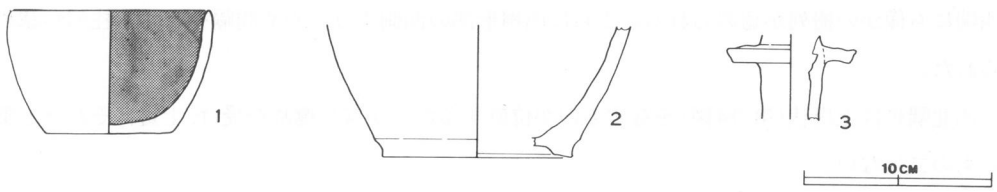


第 282 図　土師器・須恵器（鬼高期）

1 は内黒土師器の杯で，C8 j 9 から出土したものである。この種の器形は，遺構から出土した内黒土師器とは異なっている。

2 は須恵器の壺の底部と思われるもので，S I 057 の覆土に混入していたものである。

3 は，S I 056 の覆土に混入していた灰釉陶器で，浄瓶の一部と思われる。S I 064 から出土した長頸瓶と同様，胎土・焼成とも良好で貴重な資料である。



第 283 図　土師器・須恵器・灰釉陶器（国分期）

第5章　まとめ

外八代遺跡において確認された遺構は前述のごとく住居址(ＳＩ) 85軒・土壙(ＳＫ) 270基・溝(ＳＤ) 9条・堀(ＳＨ) 3条・掘立柱建築址(ＳＢ) 15棟・柵列址(ＳＡ) 3列・その他(ＳＸ)など多数の遺構が確認され，遺物も縄文土器より中世・近世にわたり多数検出されている。調査前は本遺跡は集落址として周知されていたが，調査が進むにあたり，大堀等が確認され，古記録にもない城郭址としての機能を有する遺跡であることが判明し，従来屋代城跡として指定されていた城址に大きな問題をなげかけた。

調査の概要および遺構・遺物等については前章において記述したが，調査によって明らかになった事実，問題点などをあげてまとめとする。

(1)　中世城郭遺構について

1　主　郭

本遺跡の東部地区のＤ７・Ｄ８・Ｄ９・Ｅ８・Ｅ９区にわたって確認された大規模な出桝形状の箱薬研堀(ＳＨ01)の以北，Ｃ８・Ｃ９・Ｄ８・Ｄ９区が主郭と考えられる。

ＳＨ01は西北より東南方向に台地を横断して東側で堀り切りとなり，全長95ｍ，上幅８～10ｍ,深さ約4ｍほどを測る。中央部は出桝形状をなし，その両側に橋脚部と想定される遺構が確認されている。主郭部の規模は東西約80ｍ，南北約50ｍ，面積2400㎡ほどと考えられる地区である。北端および東端は急崖をなし比高は約14ｍを測る。西端はやや緩傾斜をなし，中段は狭い平場状をなし，階段状の支谷に至る。東端の斜面上には多数の柵柱列が確認され，西端にも僅かの柵列が認められる。さらに出桝形部の西側よりにやや間隔を有する柱列が認められた。

西北隅には土塁状(第284図)をなすものが位置するが，かなり撹乱を受け,土質はそれほど堅いものではない。

西側斜面では主郭の西側でクランク状に北向する堀が確認され，中央の拡張区Ｃ７ｊ列(第285図)に確認された堀は薬研状を呈し，覆土中に少量の焼土とカーボンを検出する。西側肩部のローム面は平坦をなし，さらに斜面下に落ち込みが確認されている。ＳＨ03の北向に延びる遺構との関連も想定される。

主郭部はほぼ平坦をなし，東側から中央部にかけては地形をかなり削平していると考えられる。

確認された遺構は，掘立柱建築址が15棟(東側に5棟・西側に10棟)と200基以上の土壙が検出されている。井戸は検出されなかった。

2 二ノ郭

二ノ郭は，主郭部に確認された大規模な出桝形状の堀(SH01)の南方地域で，その東端は急崖となり，西側は傾斜面D7区に確認されたSH03とE6区に確認されたSH02に囲まれた範囲と考えられる。

規模は，東西約80m，南北約70mを測り，総面積約6200m²ほどの範囲が考えられる。しかしSH01の南方20～30mほどの距離にSH03から弓なりに南南東へ走る溝(SD001・002)が確認され二ノ郭を二分する形で位置している。

さらに問題となるのは南側の境界である。E7・E8・E9区はほぼ平坦面をなしているが，F7・F8区は緩傾斜地となりG7・G8区へとゆるい傾斜を示しているのみで，特別な防備施設がみとめられない事である。土塁状のものがあったとも考えられるが，調査前にその痕跡を確認することはできなかった。

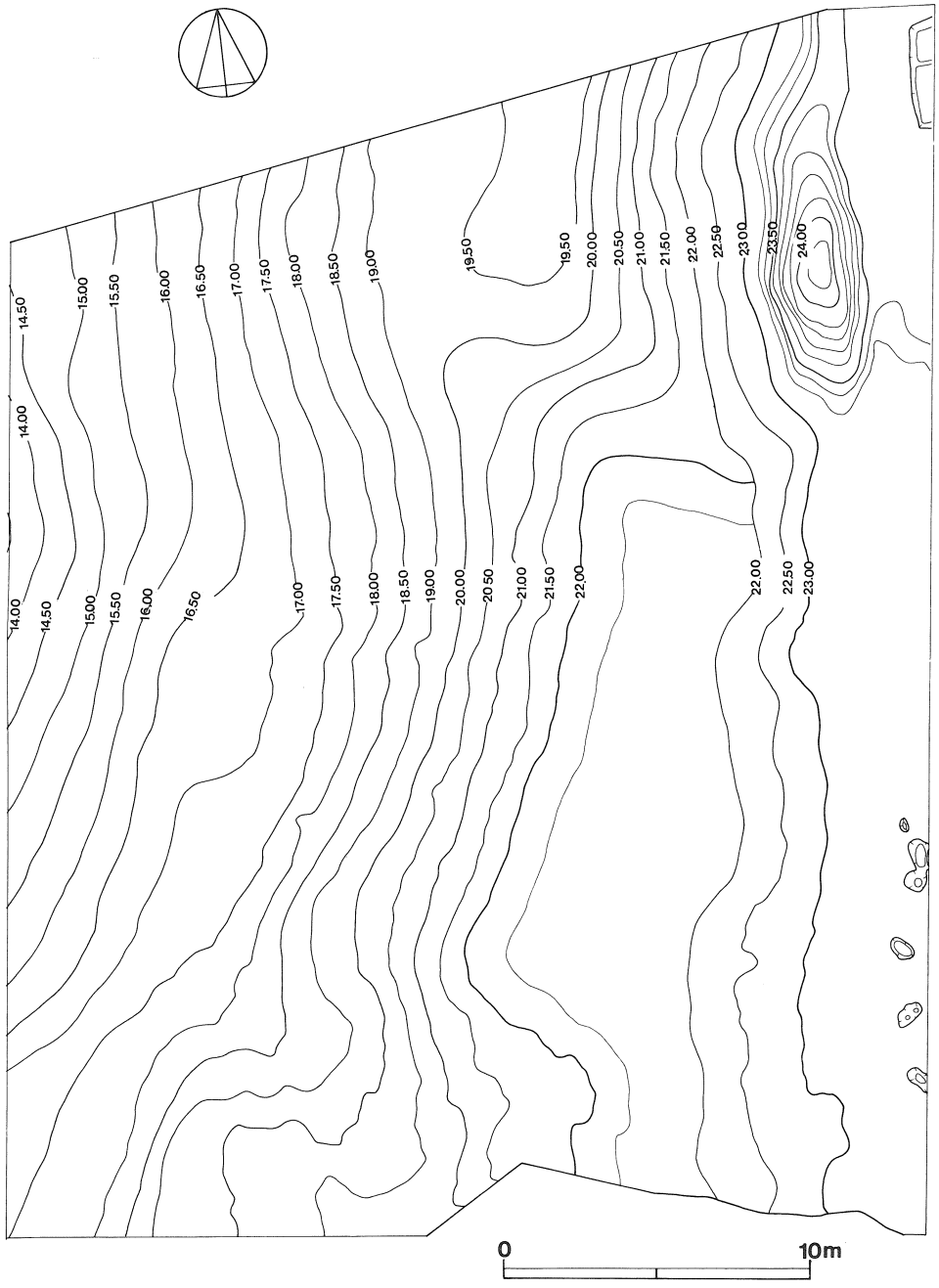
堀以外に確認された遺構は，SD001の西南部に地下式土壙・ピットを有する長方形土壙・その他不明の土壙が多数検出されている。中世期の所産とするものは，地下式土壙とピットをもつ長方形状の土壙が考えられる。遺物は少量の土師器・陶磁器・土師質土器・馬骨等が検出されている。

二ノ郭の東側からは中世期に伴う遺構は検出されていないが西北側のSH01とSH03に狭まれた地域D7区の表土下40～60cmほどの深さに，黒色土混じりの白色粘土を貼ったような状態を示し，下層は堅い暗褐色土層がほぼ水平に堆積しており，僅かに窪んだ傾斜地を人工的に埋めて平坦な地形に整形していると想定される平場が看取された。

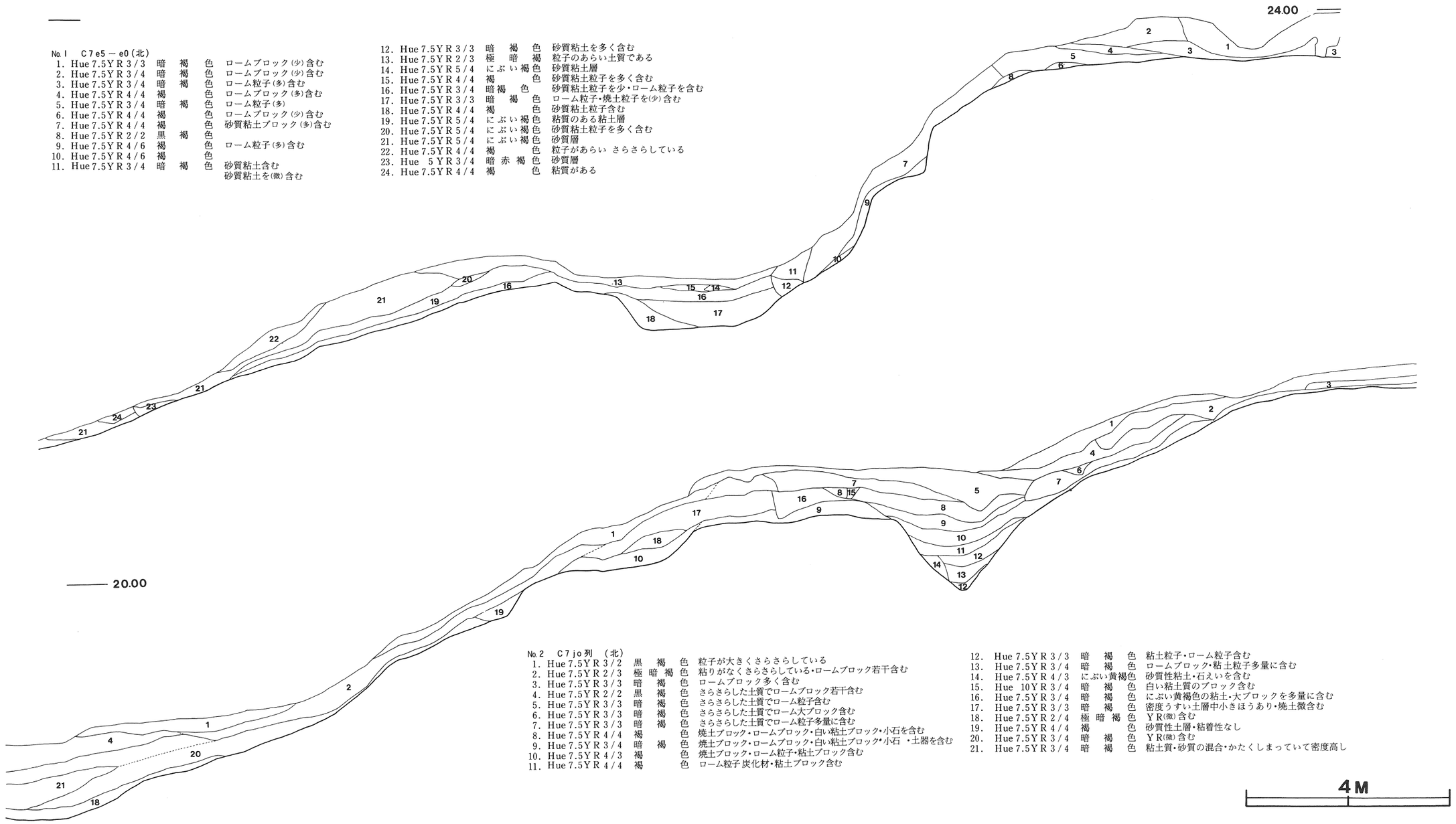
以上主郭および二ノ郭に伴う遺物は少量の土師質土器・鉄製品・砥石・陶器等が検出されるに留まるが，南方部の緩傾斜地G7・G8区から多量の陶磁器・土師質土器(内耳・擂鉢)が検出されており，その出土状態はあたかも投棄されたようである。当地区より出土した遺物は15世紀後半期～17世紀のものと考えられ，近世の陶磁器を除けばほぼ城郭の構築時期に合うものと想定されよう。

これにより城郭の時期は伊禮氏の云う15世紀の後半期より16世紀前半の時期と合うものと考えられる。

問題となるのは，主郭部はSH01の大規模な堀を要し，また東西には柵列を配し，虎口には横矢を射る出桝形状をなしたほぼ完全な防備施設がなされているが，二ノ郭は防備不足の観が多分に認められる。それは，西側に確認されたSH02が途中で立ちあがり消滅してしまい，その周辺を拡張して調査を実施したが，同様の遺構は検出されていない事である。また生活には



第284図　西側傾斜面　土塁状遺構



No.1　C7e5～e0(北)

1. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色　ロームブロック(少)含む
2. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　ロームブロック(少)含む
3. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　ローム粒子(多)含む
4. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ロームブロック(多)含む
5. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　ローム粒子(多)
6. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ロームブロック(少)含む
7. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　砂質粘土ブロック(多)含む
8. Hue 7.5YR 2/2　黒　褐　色
9. Hue 7.5YR 4/6　褐　色　ローム粒子(多)含む
10. Hue 7.5YR 4/6　褐　色
11. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　砂質粘土含む
　砂質粘土を(微)含む
12. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色　砂質粘土を多く含む
13. Hue 7.5YR 2/3　極　暗　褐　粒子のあらい土質である
14. Hue 7.5YR 5/4　にぶい褐色　砂質粘土層
15. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　砂質粘土粒子を多く含む
16. Hue 7.5YR 3/4　暗褐　色　砂質粘土粒子を少・ローム粒子を含む
17. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子を(少)含む
18. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　砂質粘土粒子含む
19. Hue 7.5YR 5/4　にぶい褐色　粘質のある粘土層
20. Hue 7.5YR 5/4　にぶい褐色　砂質粘土粒子を多く含む
21. Hue 7.5YR 5/4　にぶい褐色　砂質層
22. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　粒子があらい さらさらしている
23. Hue　5YR 3/4　暗赤褐色　砂質層
24. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　粘質がある

No.2　C7jo列　(北)

1. Hue 7.5YR 3/2　黒　褐　色　粒子が大きくさらさらしている
2. Hue 7.5YR 2/3　極　暗　褐　色　粘りがなくさらさらしている・ロームブロック若干含む
3. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色　ロームブロック多く含む
4. Hue 7.5YR 2/2　黒　褐　色　さらさらした土質でロームブロック若干含む
5. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色　さらさらした土質でローム粒子含む
6. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色　さらさらした土質でローム大ブロック含む
7. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色　さらさらした土質でローム粒子多量に含む
8. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　焼土ブロック・ロームブロック・白い粘土ブロック・小石を含む
9. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　焼土ブロック・ロームブロック・白い粘土ブロック・小石　・土器を含む
10. Hue 7.5YR 4/3　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土ブロック含む
11. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　ローム粒子 炭化材・粘土ブロック含む
12. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色　粘土粒子・ローム粒子含む
13. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子多量に含む
14. Hue 7.5YR 4/3　にぶい黄褐色　砂質性粘土・石えいを含む
15. Hue 10YR 3/4　暗　褐　色　白い粘土質のブロック含む
16. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　にぶい黄褐色の粘土・大ブロックを多量に含む
17. Hue 7.5YR 3/3　暗　褐　色　密度うすい土層中小きほうあり・焼土微含む
18. Hue 7.5YR 2/4　極　暗　褐　色　YR(微)含む
19. Hue 7.5YR 4/4　褐　色　砂質性土層・粘着性なし
20. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　YR(微)含む
21. Hue 7.5YR 3/4　暗　褐　色　粘土質・砂質の混合・かたくしまっていて密度高し

第285図　西傾斜面　土層断面図

欠く事ができない水の問題がある。主郭および二ノ郭にも井戸は検出されておらず，台地周辺には数ケ所の湧水があると云われるが，非常時に台地をおりることは困難である。

さらに二ノ郭の外郭の追求をしたが防備上の施設・遺構は確認されていない。これらの事と南側の防備不足，SH02が途中で切れてしまう状態などからして，建築途中で廃城となっている事も考えられるが，その全貌を把握することはできなかった。しかし，昭和54年末に本遺跡の西方500ｍほどに位置する屋代城跡の調査が実施されており，屋代城跡の性格がつかめれば，外八代遺跡との関係もかなり明確になるかと考えられ，今後の調査に期待したい。

(2)　土壙について

本遺跡内で確認された土壙は270基であり，形状は楕円形・長方形・不定形などさまざまである。掘立柱建築址・柵柱列・地下式土壙など中世期の所産と考えられる以外は性格の不明なものである。

中でも二ノ郭の西南に一群をなして確認された土壙は，城郭址に多く確認されている地下式土壙・長方形遺構である。確認された地下式土壙は6基であり，形態的に分類すればSK255は竪坑と地下室との段差がない無段C類をなし，SK238・SK245は僅かではあるが段差をもつ有段Ⅰ類Cに分けられる。(註1) SK244・SK259・SK264は地下室単室であるが，SK244・SK259はトンネル状の横穴をもち，SK245との関連が想定される。SK264は北測に横穴が掘られている。

長方形土壙は10基確認され，SK251・SK253・SK260～SK263は壁ぎわにピットを有している。SK251とSK253のピットはほぼ同直線上に位置している。

県内においてこの種の地下式土壙は鹿島郡鹿島町神野遺跡・守谷町北今城遺跡に類列がみられ，ピットを有する長方形遺構の類例は，那珂郡那珂町堀之内館跡(註2)に3基確認され，一辺2ｍ内外でほぼ壁中央に密着してピットが掘られている。高萩市リュウガイ遺跡(註3)でも同規模のものが確認され，住居址状遺構・竪穴状遺構としているが，比較上たいへん興味がある遺構である。

以上の土壙からの出土遺物は土師質土器・陶器等が少量出土し，SK254・SK259からは獣骨(馬)が出土し，焼土・炭化物が検出されている。性格は栃木県石那田館跡(註4)にみられる方形遺構と同様な上屋の構造が考えられる貯蔵用的なものと想定される。

参考文献

註1　半田堅三「本邦地下式壙の類型学的研究」『伊知波良』2　1979年

註2　国道349号線発掘調査会「常陸堀之内館跡」昭和51年

註3　高萩市教育委員会「リュウガイ遺跡」 昭和51年

註4　栃木県教育委員会「石那田館跡」 昭和50年

(3) 住居址・土器について

本遺跡の東部地区に確認された住居址は85軒である。時期別に分ければ，弥生時代の住居址は4軒，古墳時代の五領期に比定される住居址4軒，鬼高期に比定される住居址は35軒ほど確認されてⅢ期ないしはそれ以上に細分されるものと考えられる。

国分期の住居址は11軒ほど確認されⅡ期に分けられ，その他の住居も鬼高・国分期に伴うものと考えられるが，城郭により大部分破壊されており，ここでは不明として扱っておく。

以上の住居址の中で特筆すべきものは，主柱穴P_2～P_3のほぼ中間やや壁よりに柱穴を有するものが13軒確認されていることである。特に大型の住居址にはほとんどといってよい程検出されている。また，その大型住居址は全て火災にあっている。なお，住居内に貯蔵穴を有するものは少なく，85軒中6軒のみである。

中世城郭の主郭であるSH01以北の住居址は，城構築の際にかなりの削平を受けたと考えられ，極一部の遺構を残すに留まる。さらに集落址を把握する上において大規模な堀によって中央部および西側部分を破壊されている事は，その集落の分布，配置を明確にすることを非常に困難としている。

次に検出された土器について若干の考察を加えて結びとする。

外八代遺跡では，発掘調査の結果，縄文式土器から近世の陶磁器類などの長期にわたる出土遺物を検出した。そのうち外八代城に伴う土器については第4章のSD002，SB006，SH01とSX001のところで述べた。また，縄文式土器，弥生式土器と古墳時代の中でも古式に属する五領期の土師器については第4章10のところで述べた。ここでは，外八代遺跡の中でも，最も遺構数の多かった鬼高期から国分期にかけての土器について，簡単にまとめておくつもりである。

鬼　高　期

外八代遺跡で，最も多く検出された住居址は，古墳時代の中でも鬼高期に比定されるものである。しかし，これらは，後に中世の城郭を築造する際にかなり壊されており，出土した遺物の量のわりには完形に近い土器は少ない。このうち，遺物がほぼ良好な状態で出土したのはSI054・SI054・SI060・SI062・SI067・SI068・SI070・SI073などである。

関東地方における土師器の発展をみると，前代の和泉期と鬼高期の間には大きな転期がある。それは，須恵器の影響をうけたことによるもので，和泉期にみる器形だけからの進化では説明できない器形があらわれることから，古くから言われてきた。当時の土師器しか知らなかった

関東地方の人々にとって，初めて須恵器に出会った時の驚きと憧れは，想像以上のものであろう。土師器のように，低火度で焼成された土器は，日常に使われる場合，須恵器に比べてさまざまの欠点をもっている。当時の人々が須恵器を見た時，それに似せようとしたことは当然であろう。かくして，外稜をもつ杯・高杯・鉢が出現するのである。もし，茨城県における土師器の研究が遅れているとするならば，須恵器に対する理解が足りないことに起因するのではないだろうか。それは，土師器に対し須恵器の出土例が非常に少ないために致し方のないことかもしれない。だからと言って，近畿・東海における須恵器の編年をそのままこちらへもってくることができないのは当然である。ただ，須恵器の窯が関東に定着する以前に，どのように須恵器が土師器へ影響を与えたかを考えることが必要であり，その発祥地における本来の須恵器に対する理解を深めることが基礎になるであろう。

さて，須恵器の日本における発祥地である地方，すなわち，須恵器を充分に供給できた近畿地方では，その後何百年もの間，土師器と須恵器が，手法も用途も区別されたまま発展していった。それに比べて，須恵器の普及がずっと遅れた関東地方では，須恵器が伝わってから，土師器を須恵器に近づける工夫がされるようになる。関西の土師器に比して，関東の土師器が硬く，場合によっては，軟弱な須恵器に近い硬さをもつものがあり，また色調の点からも，黒っぽく焼き上がっているものが非常に多い。これらは，日常に使用される土器は土師器がほとんどであったため，欠点をカバーするための工夫がなされたといえよう。いづれにせよ，関東における土師器と須恵器の発展は，器形と手法の点で相互に関連をもっている。

本遺跡のＳＩ080から出土した外稜のある鉢(第96図－1)や，ＳＩ037の外稜があり，やや長めの口縁をもつ杯は須恵器の第Ⅰ段階(「陶邑」の編年，大阪文化財センター)の影響をうけたものである。また，ＳＩ068・ＳＩ075の土師器群は，かなりの出土量に比して須恵器を伴わないことから，後述するＳＩ060の土器群よりも溯るものと解釈している。ちなみにＳＩ075の土器群は，千葉・大谷口の土器の組成にかなり共通点があるように思われる。さらに，やはり鬼高期に比定されるＳＩ003・ＳＩ020やＣ9i3から出土した土器群(第282図)のように，器面をヘラケズリ調整してはいるものの肉厚で，須恵器の器形とは関連のみられない土器群は，やはり鬼高期のうちでも古式に属すると考える。それは，ヘラケズリという調整が，器壁をうすくするためのものであり，土器づくりの方向性が，よりうす手でつよいものへと向かうという前提から考えた場合である。

さて，ＳＩ060では，陶邑の編年でいえば第2段階のⅡ式に比定される須恵器の杯身を伴っている。また，ＳＩ070は，やはり同時期と思われる提瓶を伴っている。これらを伴う土師器群をみると，杯や甑の内面にラセン状もしくは放射状のヘラミガキを行なう手法が盛行している。

次に，扁平なつまみと，内側にかえりをもつ須恵器の蓋を伴うのがＳＩ062である。これを

伴う土師器群をみると，器壁はかなりうす手で，外面の調整に顕著なヘラケズリはみられず，下半にヘラミガキを施した大型甕がある。この種の甕は，本遺跡でかなり多くみられたもので，とくにＳＩ067からは５個体も出土している。ただし，ＳＩ067は最大の遺物量のわりには須恵器の良好な資料は得られず，ＳＩ062ほど下がるかどうかは疑問である。

このように，鬼高期を３段階にわけた場合，ＳＩ062がⅢ式に，ＳＩ060がⅡ式と仮りに編年すると，ＳＩ080・SI075・ＳＩ037の土器群はⅡ式よりも以前に，ＳＩ068もⅡ式より少し前に，ＳＩ070はⅡ式に比定されると解釈する。しかし，Ⅲ期にわけたとしても，そのⅠ期の期間は50年ほどあり，外八代遺跡の住居址の重複関係や住居址の構造による耐久年数を考え合わせると，もっと細分化される可能性があるが，それらは別の機会にゆずりたい。また，千葉県や東京都，埼玉県の鬼高期の土器群と比較した場合，千葉県の土器にはかなりの類似点があり，東京・中田遺跡や埼玉県の土器とは異なった点が多く発見される。これは，時期差も考えられようが，むしろ地域差による面が大きいのではないかと思う。

真　間　期

本遺跡では，真間期に比定できる資料はほとんどない。土師器では長胴形になると考えられる甕の底部片は１・２点出土しているが，伴出関係も定かでない状況である。また須恵器についても詳しいことは判らない。ＳＩ054から，かえりを消失した蓋が出土しているが，土師器をみると，ＳＩ054に伴うかどうかは疑問で，真間期に比定できるかもしれない。ＳＩ071は，土師器の甕に良好な資料がないため確定できないが，須恵器の杯の器形をみると，底部が不安定で，口径もやや大きく，真間期に比定できそうな土器群である。

国　分　期

本遺跡では，国分期の住居址を多数検出し，ＳＩ016・SI039・ＳＩ055・ＳＩ061・ＳＩ063・ＳＩ064・ＳＩ066・ＳＩ071・ＳＩ072などから良好な土器が出土した。

これらは，土器の組成から内黒土師器を主流とする住居址，ＳＩ055・ＳＩ064と，須恵器が主流のＳＩ063・ＳＩ072に分けられる。内黒土師器を主流とする土器群をみると，須恵器の杯は，内黒土師器の杯と器形が酷似している。内黒土師器は，手法の点からロクロを使うことを除けば，近畿地方で出土する黒色土器Ａと同じである。この２者の関係はさておき，黒色土器が陶邑の衰退と反比例して発展した土器であることを考えると，関東の内黒土師器が須恵器と相互に関連をもつ土器であるという点で，前にも触れたように，土師器と須恵器の関係が西と東ではまるで違うことに気づくであろう。さらに，ＳＩ064からは灰釉陶器の長頸瓶が伴出している。これは猿投の編年でもかなり古式に属すると思われるが，他から浄瓶の一部も出土していることから，Ⅱ期の初め頃のものであろうか。

さて，須恵器を主流とする住居址の土器群をみると，須恵器の甕は口径に最大径があり，頸

部の屈曲がなくて口縁部がつよく外反するものである。また，杯も高台をつけるものがいくつかあり，高台をつけないものは，ミズビキ成形の時にできる凹凸が顕著で，底部がせまく，体部がまっすぐに大きくひらく形のものである。

以上のように，大きく2つに分かれた土器群について，2つの時期を設定することが可能である。住居址との関連も含めて，両者の詳しい関係については今後の課題としたい。

付　記

本報告の土器の原稿を草するにあたり，とくに縄文式土器・弥生式土器・陶磁器類・内耳土器については多くの方々からご教示を得た。末尾ながら記して，感謝の意を表する。

参　考　文　献

茨城県史編集委員会　「茨城県史料　考古学資料編・先土器・縄文時代」　茨城県　昭和54年

小林　達雄編　「縄文土器」　日本原始美術大系1　講談社　昭和52年

下津谷達男他　「夏見台(第3次)」　夏見台遺跡第3次発掘調査団　昭和51年

井上　義安　「茨城県富士山遺跡Ⅰ」昭和54年

三森　俊彦・阪田　正一他　「市原市大厩遺跡」千葉県開発公社　昭和49年

茂木　雅博編　「常陸　須和間遺跡」　雄山閣出版刊行　昭和47年

佐藤　次男・井上　義安・宮田　　毅　「弥生式土器－関東・東関東1－」『考古学ジャーナル』146号　昭和53年

佐藤　次男　「弥生式土器－関東・東関東2－」『考古学ジャーナル』147号　昭和53年

井上　唯雄・柿沼　恵介　「弥生式土器－関東・北関東1－」『考古学ジャーナル』140号　昭和52年

井上　唯雄・柿沼　恵介　「弥生式土器－関東・北関東2－」『考古学ジャーナル』141号　昭和52年

井上　唯雄・柿沼　恵介　「弥生式土器－関東・北関東3－」『考古学ジャーナル』143号　昭和52年

伊藤　考太　「茨城の弥生式土器その1－十王台式土器成立に関する試論」『ひたちじ』№6　茨城考古学会　昭和42年

斎木　　勝・深沢　克友　「考古学から見た房総文化・3　弥生時代」『研究紀要』3　千葉県文化財センター　昭和53年

豊郷台遺跡発掘調査会　「豊郷台遺跡群Ⅰ　ミシマ遺跡」　昭和51年

小林　行雄・杉原　荘介編　「弥生式土器集成図録」　弥生式土器集成刊行会　昭和48年

茨城大学考古学研究会　「那珂川流域における遺跡分布（土師器・須恵器・瓦編）」『茨城大学考古研究会報告　第2集　茨城大学周辺遺跡分布調査報告書Ⅱ』昭和51年

高野寺畑遺跡調査団編　「高野寺畑遺跡調査報告書」　茨城県勝田市教育委員会・高野畑遺跡調査会　昭和54年

川崎　純徳他　「赤浜遺跡発掘調査報告」　高萩市教育委員会　昭和47年

國平　健三・岡本　孝之・山本　暉久・藤井　和夫「上浜田遺跡」神奈川県教育委員会　昭和54年
茨城県教育財団「松葉遺跡－竜ケ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書1－」昭和54年
岡田　淳子他「八王子中田遺跡・古墳時代集落址の調査・資料篇Ⅰ」八王子市中田調査会
昭和41年
岡田　淳子他「八王子中田遺跡・古墳時代集落址の調査・資料篇Ⅱ」八王子市中田調査会
昭和43年
岡田　淳子他「八王子中田遺跡・古墳時代集落址の調査・資料篇Ⅲ」八王子市中田調査会
昭和52年
古宮　隆信「中馬場遺跡　第3次発掘調査報告書」千葉県柏市教育委員会・中馬場遺跡第3次発掘調
査団　昭和51年
茂木　雅博編「小澤野」茨城県東海村教育委員会・東海村小澤野遺跡調査会　昭和53年
杉原　荘介・大塚　初重編「土師式土器集成図録　本編1」東京堂出版　昭和46年
杉原　荘介・大塚　初重編「土師式土器集成図録　本編2」東京堂出版　昭和47年
杉原　荘介・大塚　初重編「土師式土器集成図録　本編3」東京堂出版　昭和48年
杉原　荘介・大塚　初重編「土師式土器集成図録　本編4」東京堂出版　昭和49年
駒宮　史朗・大和　　修・塩野　　博・横川　好富「関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告」
『埼玉県遺跡発掘調査報告』第7集　埼玉県教育委員会　昭和51年
小久保　徹・谷井　　彪「日本住宅公団(川越・鶴ケ島地区)埋蔵文化財発掘調査報告　鶴ケ丘」『埼玉
県遺跡発掘調査報告』第8集　埼玉県教育委員会　昭和51年
駒宮　史朗・大和　　修・宮崎　朝雄・宮崎由利江「関越自動車関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ　中
堀・耕安地・久城前」『埼玉県遺跡発掘調査報告』第15集　埼玉県教育委員会　昭和53年
横川　好富・柿沼　幹夫・小久保　徹・鈴木　敏昭「上越新幹線埋蔵文化財調査報告Ⅱ　東谷・前山2
号墳・古川端」『埼玉県遺跡発掘調査報告』第16集　埼玉県教育委員会　昭和53年
横川好富監修「日本住宅公団高坂丘陵地区埋蔵文化財調査報告－Ⅰ－舞台」(資料編)『埼玉県遺跡発掘
調査報告』第17集　埼玉県教育委員会　昭和53年
佐々木和博「施釉陶器の実年代をめぐる研究史的検討」『史館』第10号　昭和53年
田辺　昭三「陶邑古窯群Ⅰ」平安学園考古学クラブ　昭和41年
中村　　浩他「陶邑Ⅰ」『大阪府文化財調査報告書』第28輯　大阪府教育委員会　昭和42年
中村　　浩他「陶邑Ⅱ」『大阪府文化財調査報告書』第29輯　財団法人　大阪文化財センター
昭和53年
中村　　浩他「陶邑Ⅲ」『大阪府文化財調査報告書』第30輯　財団法人　大阪文化財センター
昭和53年
横山　浩一「刷毛目調整工具に関する基礎的実験」『九州文化史研究所紀要』第23号　昭和53年
静岡県考古学会編「須恵器－古代陶質土器－の編年」静岡県考古学会シンポジューム2　昭和54年
小笠原好彦「丹塗土師器と黒色土師器(2)」考古学研究　第18巻3号　昭和46年
佐藤　政則・瓦吹　　堅「日立市小木津町横内遺跡発掘調査報告書」『日立市文化財調査報告第5集』

日立市教育委員会　昭和54年
佐藤　次男「伝説千々乱風」『茨城県史研究』第32号　昭和50年
鈴木　正博・鈴木加津子「取手と先史文化」取手市教育委員会　昭和54年
座右宝刊行会編「世界陶磁全集3　日本中世」小学館　昭和52年
座右宝刊行会編「世界陶磁全集5　黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部・長次郎・光悦」小学館　昭和51年
楢崎　彰一「猿投山須恵器の編年」『世界陶磁全集』第1巻　河出書房　昭和33年
楢崎　彰一「三彩・緑釉・灰釉」『陶磁大系』5　平凡社　昭和48年
古川　庄作「黄瀬戸・瀬戸黒」講談社　昭和50年
宮石　宗弘「瀬戸」講談社　昭和54年
山田　友治「房総における中世のやきものについて（3）」『史館』第9号　昭和52年
宮城県多賀城跡調査研究所「桃生城跡Ⅱ」『多賀城関連遺跡発掘調査報告書』第2冊
鈴木　秀雄「竜ケ崎郷土史」竜ケ崎市　昭和33年
八千代市中世館城址調査団・八千代市教育委員会「八千代市中世館城址調査報告」昭和51年
広島県教育委員会「恵下城跡発掘調査概報」昭和53年
君津市教育委員会・久留里城址発掘調査団「久留里城」昭和54年
大野城跡緊急発掘調査会「大野城跡発掘調査概報」昭和53年
三上　次男・楢崎　彰一「歴史時代　下」『日本の考古学Ⅶ』河出書房新社　昭和54年
「日本Ⅱ・桃山」『陶器講座』雄山閣　昭和47年
鳥羽　正雄「その総てを解体・復元」『城郭』日本城郭資料館出版会　昭和44年
栃木県教育委員会・日本道路公団東京支社「石那田館跡」昭和50年
三上　次男・楢崎　彰一「歴史時代　上」『日本の考古学Ⅵ』河出書房新社　昭和53年
志田　諄一「リュウガイ遺跡」高萩市教育委員会　昭和51年
埼玉県立歴史資料館編「越畑城跡　関越自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『埼玉県遺跡発掘調査報告書』第20集　埼玉県教育委員会　昭和54年
半田　堅三「伊知波良　2」昭和54年
鳥羽　正雄「日本城郭辞典」東京堂出版　昭和54年
茂木　雅博・岩本　克昌「常陸堀之内館跡」国道349号遺跡調査会　昭和50年
阿久津　久地「茨城・栃木・群馬」『日本城郭大系』新人物往来社　昭和54年
井上　宗和「日本の城の基礎知識」雄山閣　昭和53年
宮城県教育委員会「宮城県文化財発掘調査略報」（昭和52年度分）
永山　倉造他「国造　福島県天栄村に於ける奈良・平安時代集落址の発掘」国造遺跡発掘調査団　昭和53年
山梨県教育委員会・勝沼町教育委員会・勝沼市館跡調査団「勝沼氏館跡調査概報Ⅲ」昭和53年
山梨県教育委員会・勝沼町教育委員会・勝沼市館跡調査団「勝沼氏館跡調査概報」昭和50年
「日本古建築　細部語彙　社寺篇」綜芸舎　昭和45年
高橋　一夫「和泉・鬼高期の諸問題」『原始古代社会研究』2

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

土器類観察表

(第　5　表)

項目について

番　　号　図版中の番号に一致する。

遺物名　縄文式土器，弥生式土器，土師器，須恵器，灰釉陶器，内黒土師器，土師質土器，瓦質土器，陶器，磁器に分類した。
器種は壺，甕，甑，高杯，杯，椀，坩，器台，提瓶，瓶，長頸瓶とした。

法　　量　単位はセンチメートル，(　)は復元値である。

SI001

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴（文様）	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器 壺	19.5	−	口縁部は，折りかえし口縁	口縁部－ヨコナデ，口縁部内面－ハケ目調整の後ヘラミガキ↔，頸部から胴部にかけて－ハケ目調整の後ヘラミガキ↓	砂粒	良	にぶい橙色	口縁から頸部完存
2	土師器 甕	21.2	−	頸部が鋭く「く」の字状に屈曲する	口縁部－ヨコナデ，胴部内面－ヘラナデ 内面に輪積み痕が残る	砂粒 スコリア	良	にぶい赤橙色	口縁部から胴部$\frac{2}{3}$残

SI002

1	土師器 杯	13.2	−	素縁・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ	粘質 スコリア	普通	赤褐色	口縁部完存
2	土師器 杯	13.0	3.9	素縁・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	良好	橙色	完形
3	土師器 椀	12.6	5.1	半球形を呈する	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良	橙色	完形
4	土師器 杯	12.2	4.6	外稜・内傾口縁	口縁部－ヘラミガキ 底部内面－放射状ヘラミガキ 底部外面－ヘラケズリ	砂粒	軟弱	明赤褐色	完形
5	土師器 椀	13.2	4.7	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ	砂粒	普通	橙色	完形
6	土師器 椀	12.0	5.6	半球形を呈する	3に同じ 底部外面に木の葉圧痕	砂粒	良好	橙色	完形

SI003

1	土師器 甕	(16.8)	−	頸部は垂直に立ち上がり，口縁部は平坦にひらく	口縁部－ヨコナデ	砂粒	良好	橙色	口縁部$\frac{1}{3}$
2	土師器 杯	11.1	6.8	鉢に近い形を呈する	口縁部－ヨコナデ，体部から底部外面－ヘラ調整，体部・底部内面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	良	橙色	完形
3	土師器 杯	11.1	6.6	2とほぼ同形	口縁部－ヨコナデ，体部から底部外面－ヘラ調整，体部・底部内面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	普通	橙色	$\frac{3}{4}$
4	土師器 杯	13.1	4.5	外稜・内傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部内面－放射状のヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良好	橙色	完形
5	土師器 杯	15.7	5.1	外稜・垂直口縁，ただし外稜は明瞭でない	口縁部－ヨコナデ，底部内面－放射状のヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	良	橙色	完形

SI004

1	土師器 甕	28.3	29.0	頸部はゆるやかに屈曲する 口縁部内側に沈線	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↑のあと下半にヘラミガキ，胴部内面上部－ヘラケズリ↗，下部－ナデ↔	砂礫	良好	橙色	完形
2	土師器 高杯	15.2	11.6	杯部は外稜をもち，その上に沈線が2圏めぐる。口縁は外傾して立ち上がる	杯・口縁部－ヨコナデ，杯・底部内面－ヘラミガキ，同外面－ヘラケズリ，脚・内面－ヘラケズリ，同外面－ヘラミガキ	砂粒	良好	橙色	完形
3	土師器 杯	16.2	4.7	素縁・外傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部内面－放射状のヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良好	橙色	完形
4	土師器 杯	(11.9)	(4.9)	外稜・垂直口縁	口縁部－ヨコナデ，底部内面－ていねいなヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	良好	橙色	$\frac{1}{3}$残
5	土師器 椀(杯)	10.4	9.4	鉢に近い形を呈する。口縁端部は短く外反する。	口縁部－ヨコナデ，体部外面－ヘラケズリ	砂礫 スコリア	普通	にぶい橙色	完形

SI005

1	弥生式土器 壺	−	−	口縁部外面下部に刺突，端部に縄文の押捺	付加条縄文	砂粒	良	橙色	口縁部片
2	弥生式土器 壺	−	−		口縁端部－縄文押捺。付加条縄文	砂粒	良	にぶい橙色	口縁部

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴（文様）	胎土	焼成	色調	備考
3	弥生式土器 壺	－	－		頸部－無文帯を有す。付加条縄文	砂粒(少)	良	外面－黒色 内面－ にぶい橙色	頸部片
4	弥生式土器 壺	－	－		頸部に無文帯を有す。付加条縄文	砂粒(少)	良	にぶい橙色	頸部片
5	弥生式土器 壺	－	－		頸部－櫛描文，ヘラ状工具による格子文	砂粒(少)	良好	橙色	頸部片
6	弥生式土器 壺	－	－		無文帯を有する。以下は付加条縄文	砂粒(少)	良	にぶい橙色	頸部片
7	弥生式土器 壺	－	－		無文帯を有する。以下は付加条縄文	砂粒	良	橙色	胴部片
8	弥生式土器 壺	－	－		無文帯を有する。以下は付加条縄文	砂粒	良	橙色	胴部片
9	弥生式土器 壺	－	－		無文帯を有する。以下は付加条縄文	砂粒	良	にぶい橙色	胴部片
10	弥生式土器 壺	－	－		無文帯を有する。以下は付加条縄文	粘質	良	褐色	胴部片
11	弥生式土器 壺	－	－		無文帯を有する。以下は付加条縄文	砂粒(少)	良	にぶい橙色	胴部片
12	弥生式土器 壺	－	－		櫛描き文か？	砂粒	良	にぶい橙色	頸部か？
13	弥生式土器 壺	－	－		付加条縄文	砂粒(多)	良	橙色	胴部片
14	弥生式土器 壺	－	－		付加条縄文	砂粒(少)	良	外面－ にぶい褐色 内面－黒色	胴部片

SI006

15	弥生式土器 壺	－	－		付加条縄文	砂粒	良	にぶい橙色	胴部片

SI007

1	弥生式土器 壺	－	－	複合口縁	端部－縄文押捺 外面－付加条縄文，下部に刺突	砂粒(少)	良	にぶい褐色	口縁部片
2	弥生式土器 壺	－	－	複合口縁	端部－縄文押捺 外面－付加条縄文	砂粒(少)	良	にぶい褐色	口縁部片
3	弥生式土器 壺	－	－		端部－縄文押捺 外面－付加条縄文，下部に瘤状突起	砂粒(少)	良好	にぶい橙色	口縁部片
4	弥生式土器 壺	－	－		上部－ヘラ状工具による刺突，以下－付加条縄文	砂粒(少)	良	外面－黒色 内面－ にぶい褐色	肩部片
5	弥生式土器 壺	－	－		上部－無文帯，以下－付加条縄文	粘質	良	にぶい橙色	頸部片
6	弥生式土器 壺	－	－		櫛状工具による施文，ヘラ状工具によるジグザグ文，下部に瘤状の突起	砂粒	良好	にぶい黄橙色	頸部片
7	弥生式土器 壺	－	－		上部－櫛状工具による施文，以下－付加条縄文	砂粒(少)	良	外面－黒色 内面－ にぶい褐色	頸部から胴部の小片
8	弥生式土器 壺	－	－		上部－櫛状工具による施文，以下－付加条縄文	砂粒(少)	良	外面－黒色 内面－ にぶい褐色	頸部から胴部の小片
9	弥生式土器 壺				上部－櫛状工具による施文，以下－付加条縄文	砂粒(少)	良好	橙色	頸部から胴部小片
10	弥生式土器 壺	－	－		頸部に無文帯を配す，以下は付加条縄文	砂粒(少)	良好	外面－黒色 内面－ にぶい褐色	頸部から胴部 $\frac{3}{4}$
11	弥生式土器 壺	－	－	胴部中位で，ゆるやかに「く」の字状に屈曲する	付加条縄文（羽状）	砂粒(少)	良	にぶい橙色	脚部 $\frac{1}{4}$

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴（文様）	胎土	焼成	色調	備考
12	弥生式土器	－	－		付加条縄文	砂粒（少）	良	にぶい橙色	底部に近い胴部片
13	弥生式土器	－	－	胴部から頸部にかけて，ゆるやかに内傾して立ち上がる	頸部－ヘラ状工具による区画と格子文，櫛状工具（単位６本）による界線，以下は付加条縄文	砂粒（多）	軟弱	橙色	頸部から胴部 3/4
14	弥生式土器				付加条縄文	砂粒（多）	軟弱	橙色	胴部片，13と同一個体
15	弥生式土器				付加条縄文	砂粒（多）	軟弱	橙色	胴部片，13，14と同一個体
16	弥生式土器				付加条縄文	砂粒（少）	良	にぶい橙色	胴部片
17	弥生式土器				付加条縄文	砂礫	良	にぶい橙色	胴部片
18	弥生式土器				付加条縄文	砂粒	良好	橙色	胴部片
19	弥生式土器				付加条縄文	砂粒（少）	良	にぶい橙色	胴部片
20	弥生式土器	－	－		付加条縄文	砂粒（少）	良好	橙色	胴部片
21	弥生式土器	－	－		付加条縄文（軸不明）	砂粒	良好	にぶい橙色	胴部片
22	弥生式土器	－	－		付加条縄文（軸不明）	砂粒（少）	良	にぶい橙色	胴部片
23	弥生式土器	－	－		付加条縄文	砂礫	良	にぶい橙色	胴部片
24	弥生式土器	底部径（6.8）	－		付加条縄文，底部外面－木の葉圧痕	砂粒（少）	良好	にぶい橙色	底部片
25	弥生式土器	底部径（7.0）	－		単節縄文	砂粒	良好	にぶい橙色	底部片
26	弥生式土器	底部径 8.0			付加条縄文，底部外面－木の葉圧痕	砂礫（多）	良	にぶい褐色	胴部から底部 4/5

SI008

1	土師器 甕	（20.3）	－	頸部は垂直に立ち上がり，口縁が平坦にひらく	口縁部－ヨコナデ，胴部内外－ヘラ調整	砂粒	良好	橙色	口縁部 1/3
2	土師器 杯	（10.0）	7.6	鉢に近い器形，外稜をもつ	口縁部－ヨコナデ，体部底部外面－ヘラケズリ，体部，底部内面－ヘラミガキ	砂粒	良	にぶい褐色	2/3 残

SI009

1	土師器 甕	（23.4）	－	口縁部が短く，内側は凹面をなし，外部は「く」の字状に段をつくる	口縁部－ヨコナデ，胴部内外－ヘラ調整	砂礫	良好	にぶい橙色	口縁部のみ 1/4
2	須恵器 杯	－	－	底部は丸みをおびてやや不安定	ミズヒキ成形，底部外面－回転ヘラケズリ ロクロ回転方向↷	砂礫（多）	やや軟	黄灰色	底部のみ

SI010

1	土師器 甕	（20.8）	－	口縁部は短く，垂直に立ち上がりやや外傾する	口縁部－ヨコナデ	砂礫（多）	普通	にぶい橙色	口縁から胴部 1/2
2	土師器 甕	－	－	底部はひろく，胴部下部は安定した形を呈する	胴部内外－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	普通	にぶい橙色	胴部から底部 1/4
3	土師器 甑	（28.8）	－	口縁部はやや平坦に外反する。頸部の屈曲はない	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ→，胴部内面→↑	スコリア（多）	良好	橙色	口縁部から胴部 1/2
4	土師器 甑	20.7 22.9	21.5	口縁部はやや平坦に外反する頸部の屈曲はない	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↓↖，胴部内面↗	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	完形
5	土師器 杯	12.4	－	外稜・垂直口縁	口縁部－ヨコナデ，底部内面－ヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ	スコリア	良	にぶい橙色	1/4
6	土師器 杯	12.7	－	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	スコリア	良	にぶい橙色	1/3
7	土師器 杯	（12.2）	－	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良	橙色	1/4

SI011

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴（文様）	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器 甕	(20.2)	－	口縁部は短く，つよく外反する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ナデ	砂粒(多)	良好	橙色	口縁から胴部にかけて1/4
2	土師器 甕	－	－	底部はひろく(径12cm)，胴部は長胴であろう	胴部から底部内面－ナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕	砂粒	良好	橙色	胴部から底部2/3残
3	土師器 甕	(21.8)	－	頸部外面にヨコナデによる凹面	胴部内面から口縁部－ヨコナデ 胴部外面に砂が多量付着	砂粒(多)	良好	橙色	口縁部から胴部1/6
4	土師器 甕	16.7	－	口縁部内側が凹面をなす	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラミガキ	砂礫(多)	良好	にぶい褐色	口縁部から胴部，ほぼ完形

SI015

1	弥生式土器 壺	－	－	外側に粘土紐を貼り付け，ヘラ状工具で刻み目を入れる	端部－縄文押捺	砂礫(多)	良	にぶい黄褐色	口縁部片
2	弥生式土器 壺	－	－	複合口縁	端部－縄文押捺	砂粒	良	にぶい橙色	口縁部片
3	弥生式土器 壺	－	－		端部－縄文の押捺，外面－付加条縄文，下部に刺突	砂粒	良	外面－黒褐色 内面－ にぶい橙色	口縁部片
4	弥生式土器 壺	－	－		櫛状工具によるスリット	砂粒(少)	普通	にぶい橙色	頸部片
5	弥生式土器 壺	－	－		上部に無文帯を配する。以下－付加条縄文	砂粒	良	にぶい橙色	頸部から胴部の小片
6	弥生式土器 壺	－	－		上部に無文帯を配する。以下－付加条縄文	砂粒	良	外面－黒褐色 内面－ にぶい橙色	頸部片
7	弥生式土器	－	－		櫛状工具による波状文	砂粒 スコリア	良好	外面－黒色 内面－ にぶい橙色	頸部片
8	弥生式土器	－	－		S字状結節文	砂粒(少)	良好	橙色	頸部片
9	弥生式土器	－	－		付加条縄文	砂粒	良	にぶい橙色	底部に近い胴部片
10	弥生式土器	－	－		付加条縄文	砂粒	良	にぶい橙色	胴部片
11	弥生式土器	－	－		付加条縄文	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色	胴部片
12	弥生式土器	－	－		付加条縄文	砂粒	良	橙色	胴部片
13	弥生式土器	－	－		付加条縄文	砂粒	良	橙色	胴部片
14	弥生式土器	－	－		付加条縄文	砂粒(少)	良	表面－黒褐色 内部－橙色	胴部片
15	弥生式土器	－	－		付加条縄文	粘質	良好	にぶい橙色	胴部片
16	弥生式土器	－	－		付加条縄文	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色	胴部片
17	弥生式土器	－	－		付加条縄文，底部外面－木の葉圧痕	砂粒	良	にぶい橙色	底部片

SI016

1	土師器 甕	－	－	器壁は比較的うすく，底部にかけてかなりすぼまる形を呈する	胴部外面－あらいヘラミガキ，胴部内面下部に輪づみの痕が残る	砂粒 スコリア(多)	良	にぶい褐色	胴部1/3，胴部下半にススが付着
2	須恵器 皿	21.6	－	口径が大きく，口縁部は外稜をつくって，短く外反する。端部は平坦	ミズヒキ成形，底部外面－ヘラケズリ 高台をつけて回転ナデ調整	砂礫	良好	青灰色	1/2
3	須恵器 杯	(13.7)	－	口径に比べて器高が短い	ミズヒキ成形	良	良好	青灰色	口縁から体部下端1/4

SI020

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器 甕	11.9	15.1	口縁が短く，ほぼ垂直に立ちあがる。頸部の屈曲がほとんどない	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	砂礫(多)	普通	にぶい橙色	1/2
2	土師器 杯	13.5	4.7	外稜・外傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－ヘラミガキ	スコリア 砂礫(多)	良好	橙色	3/4
3	土師器 杯	(13.1)	5.35	外稜をもつ	底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状のヘラミガキ(暗文)	良	良好	内面－黒褐色 外面－浅黄橙	底部 1/3
4	土師器 杯	10.5	6.6	口縁がかなりいびつ	全体にヘラケズリ調整	砂粒	良好	橙色	2/3
5	土師器 杯	12.5	6.8	4と同類の器形	内面と口縁部外側－ヨコナデ	スコリア	良好	浅黄橙色	1/2
6	土師器 鉢	19.2	9.3	摺鉢状を呈す	口縁部－ヨコナデ，体部外面－ヘラケズリ	砂粒	良好	にぶい橙色	2/3

SI021

1	土師器 甕	(20.0)	－	頸部から，口縁部にかけて「く」の字状に屈曲する	口縁部－ヨコナデ	砂礫 スコリア	良好	にぶい赤褐色	小片
2	土師器 杯	11.9	4.1	外稜・垂直口縁	底部から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂礫 スコリア	良好	にぶい橙色	完形
3	土師器 杯	10.4	4.8	外稜・垂直口縁	口縁部－ヨコナデ，底部内面－ヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ	砂礫 スコリア	良好	内面－黒色 外面－ にぶい褐色	完形
4	土師器 杯	12.7	4.8	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ，木の葉圧痕	砂粒 スコリア	良好	表面－黒色 内部－ 明黄褐色	2/3
5	土師器 杯	(12.0)	4.3	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	良好	褐灰色	1/3
6	土師器 杯	13.0	4.3	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ	砂礫 良好	良好	にぶい黄橙色	完形
7	土師器 杯	11.6	5.2	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ	砂礫 スコリア	良好	にぶい褐色	3/4
8	土師器 杯	12.8	3.9	素縁・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ，木の葉圧痕	砂礫 スコリア	良好	にぶい橙色～黒色	完形
9	土師器 杯	12.9	4.8	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ	良好	良好	内面－黒色 外面－褐灰色	完形
10	土師器 杯	(13.4)	4.8	外稜・内傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ 底部内面－放射状のヘラミガキ	良	良好	褐灰色	1/3
11	土師器 杯	14.0	4.6	素縁・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部－ヘラケズリ，ヘラミガキ	砂粒	良好	黒色～橙色	3/4

SI022

1	土師器 杯	13.6	5.2	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ 底部外面－ヘラケズリ，ヘラミガキ	砂粒	良好	にぶい橙色	完形

SI026

1	土師器 甕	(18.6)	－	口縁部はやや長く，頸部はゆるやかに「く」の字状をえがく。口径と胴部最大径があまりちがわない	口縁部－ヨコナデ，胴部内面－ハケ目調整↘，胴部外面－ハケ目調整↓のあと下半はヘラケズリ	砂粒 スコリア	普通	橙色	口縁から胴部 1/4
2	土師器 甕	20.0	19.5	最大径が頸部下にあり底部にかけてすぼまる。口縁はかなりいびつである。	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ 底部外面－木の葉圧痕	良好	良好	にぶい橙色	完形
3	土師器 甕	(20.4)	－	頸部から口縁部はゆるく外反し外側に段をつくる	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ナデ 胴部内面に輪づみの痕がのこる	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	口縁から胴部 1/2

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
4	土師器 甕	－	－	3つの形を呈する甕の底部と考えられる	底部に木の葉圧痕	砂礫(多)	普通	橙色	底部のみ完存
5	土師器 甑	(29.0)	－	口縁端部に沈線がめぐる。端部は平坦	口縁部－ヨコナデ，胴部内・外面－ヘラミガキ↕	良好	良好	にぶい黄褐色	小片
6	土師器 高杯	底辺径 8.4	－	底辺端部はやや上に上がる	底辺端部－ヨコナデ，裾部外面－ヘラミガキ，裾部内面－ヘラミガキ↘	良好	良好	橙色	裾部のみ完形
7	土師器 椀	(16.6)	－	口縁部は折り返し，底部は半球形を呈する	口縁部－ヨコナデ，底部内面－ヘラミガキ↕	良好	良好	褐色	小片
8	土師器 杯	(18.2)	－	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良好	黒色～橙色	1/4
9	土師器 杯	12.4	4.5	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	スコリア	良好	表面－黒色 内部－褐色	完形
10	土師器 鉢	(8.0)	－	外稜をつくり，口縁部はかなり内傾する	口縁部－ナデ，体部外面－ヘラケズリ	砂粒	良好	にぶい黄橙色～黒色	3/4

SI029

1	土師器 甕	13.8	－	口縁部内側に沈線がめぐる。端部外部は「く」の字状に段をつくる	口縁部－ヨコナデ	砂粒	良	にぶい褐色	口縁から胴部 1/4
2	内黒土師器 杯	底部径 6.0			ミズヒキ成形，体部下端・底部外面－ヘラケズリ，内面－ヘラミガキ	砂粒(少)	良	にぶい黄橙色	底部のみ

SI033

1	土師器 甕	(17.0)	－	頸部は垂直に立ち上がり，口縁部が短く，つよく外反する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面下部－ヘラミガキが一部に及ぶ，胴部内面－ヘラナデ	砂粒 スコリア	良	橙色	小片
2	土師器 甑	(23.6)	－	頸部は，ほとんど屈曲がなく口縁端部は平坦	口縁部－ヨコナデ，胴部内面－ヘラミガキ↯	砂礫(多)	良	にぶい橙色	口縁から胴部 1/3

SI034

1	土師器 杯	(12.6)	(4.8)	外稜・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ・朱彩 底部外面－ヘラケズリ	砂礫(多)	良	にぶい赤褐色	1/4

SI037

1	土師器 甕	(22.3)	－	頸部から口縁部が「く」の字状に外反する	口縁部－ハケ目調整のあとヨコナデ 胴部外面－ハケ目調整←，胴部内面－ハケ目調整，ヘラナデ	スコリア	良好	にぶい橙色	小片
2	土師器 椀	(11.9)	－	口縁部はやや外反，底部は半球形を呈す	口縁部－ヨコナデ，底部内・外面－ヘラ調整，口縁部－朱彩	砂粒 スコリア	良好	褐灰色	1/3
3	土師器 杯	13.0	5.0	口縁部はやや長い，外稜・内傾口縁	口縁部－ヨコナデ・ヘラミガキ，底部－ヘラケズリ，底部内面－ヘラミガキ	良好	良好	褐色～にぶい褐色	完形
4	土師器 杯	12.7	4.6	外稜・垂直口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状のヘラミガキ	スコリア 砂粒	良好	灰黄褐色	3/4
5	土師器 杯	(13.0)	5.1	口縁はやや長い。外稜・垂直口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状のヘラミガキ	砂粒	良好	にぶい橙色	1/4
6	土師器 杯	(12.6)	4.5	口縁はやや長め，外稜・外傾口縁	口縁部－ヨコナデ，ヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－ヨコナデ	良好	良好	褐灰色	1/3

SI038

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎・土	焼成	色調	備考
1	土師器 甕	(19.7)	−	頸部はほぼ垂直に立ちあがりつよく外反する	口縁部－ヨコナデ	スコリア	良	橙色	口縁部のみ 1/3
2	土師器 甕	25.1	−	頸部はほぼ垂直に立ちあがり口縁部の外側に段をつくる	口縁部－ヨコナデ	砂礫(多)	良好	にぶい橙色	口縁から胴部完存
3	土師器 甕	−	−	最大径は胴部ほぼ中位から上にある	胴部外面下半－ヘラミガキ，胴部内面－ヘラナデ←	砂礫(多)	良	にぶい黄橙色	胴部から底部 2 1/2
4	土師器 杯	(12.0)	−	外稜をつくり，口縁部はやや外反する	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ユビオサエの痕が伺える	良	良	にぶい橙色	1/6
5	土師器 杯	(11.7)	−	外稜・垂直口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状のヘラミガキ	良	良好	外面－黒色 内面－橙色	1/4
6	土師器 杯	(14.2)	−	外稜・外傾口縁	内部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	スコリア	良	黒褐色	1/4
7	土師器 杯	(13.0)	−	素縁・垂直口縁	内部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒(少)	普通	灰白色	1/4
8	土師器 杯	(13.7)	−	素縁・外傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－ヘラミガキ	スコリア	良好	暗赤灰色	1/6
9	土師器 杯	(12.2)	−	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	良	良好	外面－黒色 内面－橙色	1/6
10	土師器 手捏ね土器	5.7	2.9	杯形	手捏ね，ユビオサエ，底部に木の葉圧痕	砂粒(少)	普通	にぶい橙色	完形
11	土師器 手捏ね土器	4.6	3.2	杯形	手捏ね，ユビオサエ，底部に木の葉圧痕	良	良	橙色	完形
12	土師器 手捏ね土器	5.2	3.5	杯形	手捏ね，ユビオサエ，輪づみの痕がのこる	良	良	橙色	完形
13	土師器 手捏ね土器	10.8	5.0	杯形	手捏ね，ユビナデ，輪づみ痕，底部－木の葉圧痕	砂粒(少)	良	橙色	1/3
14	土師器 手捏ね土器	5.4	2.3	杯形	手捏ね，ユビオサエ，底部に木の葉圧痕	良	良	橙色	完形
15	須恵器 甕	−	−	折り返し口縁，端部の断面は三角形を呈する	外面に櫛描きによる波状文	砂粒	普通	灰色	小片，波状櫛描文
16	土師器 甕	(20.8)		頸部の屈曲はなく，口縁がつよく外反する。頸部外面にヨコナデによる凹面がある	胴部内面から口縁部－ヨコナデ	砂粒	良	橙色	1/4
17	土師器 杯	11.7		素縁口縁，やや小型	ミズヒキ成形	良	良	橙色	1/3
18	内黒土師器 杯	(14.8)	5.7	高台が高いが，杯底部は安定している。体部は外側に彎曲して立ちあがる	ミズヒキ成形，腕の底部－回転ヘラケズリ，高台を付けてから，回転ナデ調整 杯内面－ヘラミガキ	砂粒	良好	浅黄橙色	1/2
19	須恵器 杯	−	−		ミズヒキ成形，体部下端－回転ヘラケズリ，底部外面－ヘラケズリ	砂礫	やや軟	灰褐色	底部のみ
20	須恵器 杯	−	−		ミズヒキ成形，底部－糸切り	良好	良好	灰黄色	1/2 余残

SI039

1	土師器 甕	21.8	33.0	口縁部は短く，屈曲するため内側に沈線がめぐり，端部にも沈線がめぐってその下に段をつくる	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－あらいヘラミガキ，胴部内面－ヘラナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂礫	普通	にぶい橙色	1/2
2	土師器 甕	23.5	−	口縁部は短く，屈曲するため内側に沈線がめぐり，端部にも沈線がめぐってその下に段をつくる	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－あらいヘラミガキ，胴部内面－ヘラナデ	砂礫	良	にぶい褐色	底部欠損，他は完形
3	土師器 甑	29.8	29.3	口縁部は短く，屈曲するため内側に沈線がめぐり，端部にも沈線がめぐってその下に段をつくる	口縁部－ヨコナデ，胴部下端－ヘラケズリ→胴部内面－ヘラナデ	砂礫	良	にぶい橙色	完形
4	土師器 甕	17.5	−	頸部は「く」の字状に屈曲し端部は 1,2 に同じ。胴部は球形を呈する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	スコリア	やや軟弱	オリーブ黒色	底部欠損，他は完形

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
5	須恵器 蓋	－	－	扁平な擬宝珠形のつみを付す	ミズヒキ成形，回転ナデ調整	砂礫(多)	普通	灰黄色	天井部のみ完存
6	須恵器 杯	－	－	小片のため不明	ミズヒキ成形，底部外面－回転ヘラケズリ	砂粒	普通	灰白色	小片，底部外面に黒書がみられる
7	須恵器 杯	11.5	3.4	底部がひろく，体部から口縁部が短くまっすぐに外反する	ミズヒキ成形，底部外面－ヘラケズリ	砂粒(少)	普通	灰色	完形
8	須恵器 杯	14.9	3.7	7よりも口縁部がやや長い	ミズヒキ成形，底部外面－ヘラケズリ	砂粒(少)	普通	灰色	完形
9	須恵器 皿	(23.8)	－	大皿に属する。底部と口縁との境いで鋭い段を形成する。高台がつくものと考えられる	ミズヒキ成形，底部外面－回転ヘラケズリ，ロクロ方向↷	砂礫(少)	普通	灰色	高台部欠損，四部 1/4
10	須恵器 甕	最大径 (45.0)	－	最大径は胴部上半にある。器壁は比較的うすい	胴部－叩き調整(平行叩き痕，同心内文痕)	砂粒	良	暗灰色	胴部のみ 1/2 弱
11	須恵器 甕	－	－	器壁が厚い	胴部－叩き調整(平行叩き痕) 内面は同心円文をすり消している	砂礫(多)	堅緻	灰色	胴部のみ 1/5 弱

SI041

1	土師器 甕	(24.6)	－	頸部はほぼ垂直に立ち上がり口縁部は短く外反する。内側は凹面をなし，外側に段をつくる	口縁部－ヨコナデ，胴部内面－ヘラナデ	砂礫	良好	にぶい橙色	口縁から胴部 1/4
2	内黒土師器 杯	(15.0)	－	椀に近い形を呈する。器壁はうすく，外側に彎曲して立ちあがる	ミズヒキ成形，杯部内面－ヘラミガキ	砂粒	良	灰褐色	口縁から体部 1/3
3	須恵器 杯	(14.4)	3.9	底部はひろく安定しており口縁端部がやや反る	ミズヒキ成形，底部外面－回転ヘラケズリ	砂礫(多)	普通	灰白色	1/4

SI045

1	土師器 杯	14.0	4.1	外稜・外傾口縁	底部内面から口縁－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良	橙色	完形
2	須恵器 杯	13.9	4.5	底部はひろく，体部下端で屈曲して外反する	ミズヒキ成形，底部外面－回転ヘラケズリ	良	普通	灰褐色	1/2

SI047

1	土師器 甑	23.6	22.2	底辺からV字状にひらく。頸部はほとんど屈曲がなく口縁端部は外側に反る	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ→，ヘラミガキ	砂粒	良	にぶい黄橙色	完形
2	土師器 杯	14.7	4.9	素縁・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒(少)	良	表面－黒色 内面－にぶい赤褐色	完形
3	土師器 杯	13.3	5.1	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒(少)	普通	にぶい褐色	完形
4	土師器 高杯	－	－	脚・胴部はややふくらむ	脚・胴部外面－ヘラミガキ，脚胴部内面－ヘラケズリ	良	良好	表面－明赤褐色 内部－橙色	脚・胴部のみ完存

SI048

1	土師器 甕	14.9	－	頸部はゆるやかに屈曲し，口縁部は短く，つよく外反する。口縁部はかなりゆがんでいる。	口縁部－ヨコナデ	砂粒(少)	良	橙色	口縁部から胴部 1/2
2	土師器 杯	14.4	7.2	外稜・外傾口縁。器高が高く鉢に近い形を呈する。底部はほぼ半球形である	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ・ヘラミガキ，底部内面－ヘラミガキ	砂粒(少)	良	にぶい橙色	3/4

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
3	土師器 椀	10.1	3.7	小形の半球形を呈する。口縁はゆがんでいる	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良	にぶい橙色	完形
4	土師器 (不明)	(8.6)	－	コップ状を呈する	口縁部－ヨコナデ，胴部内－ハケ目調整，胴部内面下半－ヘラナデ	砂礫 スコリア	良好	明赤褐色	口縁部から胴部1/3
5	須恵器 杯	14.6	4.8	底部はやや不安定	ミズヒキ成形，底部外面－回転ヘラケズリ	砂礫(多)	普通	灰白色	3/4

SI049

1	土師器 甕	(15.4)	－	頸部は垂直に立ちあがり，口縁部はつよく外反する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面下半－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	良	良	にぶい褐色	口縁から胴部1/4
2	土師器 杯	12.4	4.0	外稜・内傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ・ヘラミガキ，底部内面－放射状ヘラミガキ	砂粒	良好	表面－黒褐色 内部－橙色	ほぼ完形
3	土師器 杯	12.5	5.2	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	良好	浅黄橙色～黒褐色	ほぼ完形

SI050

1	土師器 甕	(18.0)	－	頸部はゆるやかに「く」の字状に屈曲する	口縁部－ヨコナデ	砂礫(多)	普通	にぶい橙色	口縁部から胴部1/2
2	土師器 甕	(14.8)	－	頸部で外稜をつくり，垂直に立ちあがってゆるやかに外反する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラナデ	粘質	良	にぶい橙色	口縁部から胴部1/4
3	土師器 杯	12.9	6.0	外稜・垂直口縁，器高がやや深く鉢に近い形を呈する	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒(少) スコリア	良	橙色	2/3
4	土師器 杯	(14.0)	－	素縁・外傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－ヘラミガキ	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色	1/4
5	土師器 杯	(14.8)	－	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良	にぶい黄橙色	1/4
6	土師器 手捏ね土器	4.8	2.6	杯形	手捏ね，ユビオサエ	砂粒 スコリア	良	にぶい黄橙色	1/2

SI080

1	土師器 鉢	(18.8)	11.8	外稜・内傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状ヘラミガキ(暗文)	砂粒(少)	良	表面－黒色 内部－にぶい橙色	1/2
2	土師器 手捏ね土器	7.7	2.2	小皿形	手捏ね，ユビオサエ，底部外面－木の葉圧痕	スコリア	軟弱	にぶい橙色	完形
3	土師器 手捏ね土器	7.5	2.0	小皿形	手捏ね，ユビオサエ，底部外面－木の葉圧痕	スコリア	普通	にぶい橙色	完形
4	土師器 手捏ね土器	7.3	2.0	小皿形	手捏ね，ユビオサエ，底部外面－木の葉圧痕	スコリア	軟弱	橙色	完形

SI052

1	土師器 甕	15.9	－	頸部は垂直に立ちあがり，口縁部はつよく外反する	口縁部－ヨコナデ	砂粒(少)	良	橙色	口縁部のみ完存
2	土師器 甕	(19.7)	－	頸部はゆるやかに「く」の字状に屈曲し，口縁部短かい	口縁部－ヨコナデ，口縁部内面－ハケ目調整，胴部外面－ヘラナデ・ヘラケズリ，胴部外面－ヘラナデ	砂礫(多)	良好	にぶい橙色	口縁から胴部1/4
3	土師器 高杯	(21.6)	－	杯は外稜を有し，口縁部が大きく外反する。口縁端部はまるい	口縁部－ヨコナデ，杯部内外面－ヘラミガキ	スコリア	良好	橙色	杯上部1/3，粘土ひも接合部分で離脱
4	土師器 高杯	底地径 9.8	－	脚の胴部は短く，裾部も低い。内側の凹みも浅い	脚の胴部外面－ヘラミガキ，裾部外面－ヘラケズリ，裾部内面－ナデ	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	脚部完存
5	土師器 高杯	－	－	脚の胴部は棒状であるが下部がやや広くなる	脚の胴部外面－ヘラミガキ，脚の胴部内面下部－ヘラケズリ	粘質	良好	橙色	脚の胴部1/2

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
6	土師器 高杯	－	－	底辺端部はやや上がる	ヨコナデ調整，外面に朱彩	良	良好	にぶい橙色	裾部 1/2
7	土師器 甕	(16.2)	16.2	底辺部からやや外側に弧をえがいて立ちあがり，頸部は屈曲はない。口縁部は短く外反する。	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↘，胴部内面－ヘラナデ↑	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色	3/4
8	土師器 甕	－	－	底辺部からV字状に外反する器形	ヘラケズリ調整←	スコリア	良好	橙色	底辺部のみ 1/2
9	土師器 杯	13.5	(4.5)	底部が安定している。素縁内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ 朱彩	砂粒 スコリア	良好	橙色	1/2
10	土師器 杯	12.2	(5.7)	外稜・内傾口縁，口縁部はやや長い	底部内面から口縁部－ヨコナデのあとヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ	スコリア	軟弱	橙色	1/2，底部外面に焼土付着

SI053

1	土師器 甕	(13.8)	－	頸部はゆるやかに「く」の字状に屈曲する	口縁部－ヨコナデ	粘質	良好	赤褐色	口縁部の小片
2	土師器 甕	(15.0)	－	頸部はゆるやかに「く」の字状に屈曲する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラナデ←	砂粒(少)	良好	にぶい橙色	口縁から胴部 1/3
3	土師器 甕	－	－	SI067の大型甕に類する形	胴部外面－ヘラミガキ，胴部内面－ヘラナデ，底部外面－ヘラミガキ	砂礫(多)	普通	にぶい赤褐色	底部のみ完存
4	土師器 杯	16.4	－	外稜・内傾口縁，底部は半球形を呈する	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒(少)	良	にぶい黄褐色	口縁部のみ 1/2
5	土師器 杯	(13.0)	(3.0)	素縁・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ	砂粒	良	明黄褐色～暗灰色	1/3
6	土師器 杯	(15.8)	－	外稜・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	良好	浅黄橙色	1/5
7	土師器 杯	(10.2)	－	半球形を呈する	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－輪づみの痕がのこる	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	小片

SI054

1	土師器 甕	21.1	－	頸部は長く垂直に立ちあがり口縁部はつよく外反する	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ↕，	砂礫(少)	軟弱	橙色	小片
2	土師器 甕	底部径 7.8	－	底部はせまく，胴部はやや下ぶくれの形を呈する	胴部内面－ヘラ調整	砂礫(多)	普通	にぶい黄褐色	底部から胴部 1/2
3	土師器 甕	28.4	－	頸部はやや屈曲する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↓，胴部内面－ヘラミガキ↕	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	口縁から胴部 1/3
4	土師器 高杯	－	－	脚の胴部は裾部にむかってひろがる	脚の胴部外面－ヘラミガキ，脚部の胴部内側－しぼり痕	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	脚の胴部のみ
5	土師器 杯	(13.0)	－	外稜・垂直口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状ヘラミガキ	砂粒	良好	にぶい橙色	1/6
6	土師器 杯	14.2	4.2	素縁・外稜口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒(少)	良	表面－黒色 内部－にぶい黄褐色	1/2
7	土師器 杯	15.4	4.9	内稜・外傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，内面－ヘラミガキ	砕粒 スコリア	良好	にぶい黄橙色	1/2
8	土師器 杯	(15.0)	5.0	内稜・外傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，内面－朱彩	スコリア	普通	浅黄橙色	1/4
9	土師器 杯	(13.8)	－	外稜・垂直口縁，口縁部は長く，器高も高い	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－ヘラミガキ	砂粒(少)	良好	にぶい褐色～黒色	1/3
10	須恵器 蓋	底辺径 16.5	－	口縁端部は短く下り，端部はまるい	ミズヒキ成形，天井部 1/2－回転ヘラケズリ	砂礫(多)	普通	灰色	3/4，つまみ欠損
11	須恵器 甕	－	－	底部はひろい	胴部外面上部－叩き調整(平行叩痕)，同下部－ヘラケズリ↔，胴部内面－ナデ	砂粒	良好	赤褐色	胴部から底部 1/2

SI055

1	土師器 甕	底部径 8.0	－	やや小型で胴部はやや長胴と考えられる	胴部内面－ヘラナデ←	砂礫 スコリア	良好	橙色	胴部から底部のみ完存
2	内黒土師器 杯	13.6	4.9	底部はひろく，体部・口縁部が外側に彎曲して立ちあがる	ミズヒキ成形，底部外面－ヘラケズリ，内面－ヘラミガキ	砂礫	良	橙色	1/2
3	内黒土師器 杯	13.5	4.2	体部・口縁部は，ほぼまっすぐに立ち上がる	ミズヒキ成形，体部下端・底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良	橙色	完形，底部に墨書「仁万」

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
4	須恵器 杯	(13.0)	4.5	2の杯と同類の器形	ミズヒキ成形，体部下端・底部外面－ヘラケズリ	砂礫(多)	普通	黄灰色	1/3
5	須恵器 甕	－	－	頸部は長く外反し，口縁端部の断面は三角形を呈する	回転ナデ調整	砂礫	普通	灰色	小片

SI056

1	土師器 壺	(9.2)	－	最大径は胴部中位より下にある。頸部は「く」の字状に屈曲する	口縁外面－ヘラミガキ↔，胴部外面－ヘラミガキ↕，胴部内面－ヘラナデ，口縁部から胴部にかけて朱彩が施されている	粘質	良好	明黄褐色	1/3，底部欠損
2	土師器 壺	(11.0)	－	頸部は「く」の字状に屈曲し口縁部は長く，外側に彎曲して外反する。端部は外にくびれる	口縁部－ヘラミガキ・朱彩	砂粒(少)	良好	橙色	口縁部1/3
3	土師器 壺	－	－	胴部中位より下に最大径がある	胴部－ヘラミガキ・朱彩，底部－ヘラミガキ	砂粒	良好	にぶい橙色	底部から頸部2 1/2
4	土師器 甕	(16.0)	－	頸部は鋭く「く」の字状に屈曲する。最大径は胴部の中位，口縁端部は平坦	口縁部－ハケ目調整のあとナデ，胴部外面－ハケ目調整のあとヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ←	砂粒 スコリア	良好	橙色	口縁から胴部1/3
5	土師器 甕	(14.6)	－	頸部は「く」の字状に屈曲し口縁部は垂直に立ちあがり端部は平坦	口縁部外面－ハケ目調整↔，頸部外面－ハケ目調整↕，胴部外面－ハケ目調整↔，口縁部内面－ヘラミガキ，胴部内面－ヘラナデ	砂粒(少)	良好	にぶい橙色	口縁から胴部1/3
6	土師器 甕	底辺径 12.3	－	大型で，底辺部までまっすぐにひらく	甕胴部下端外面－ヘラミガキ，台部－ヘラ調整，端部－ナデ調整	砂粒 スコリア	良	橙色	台部のみ完存
7	土師器 甕	底辺径 11.0	－	6よりやや小型，底辺部までまっすぐにひらく	甕部との境いに粘土ひもの凸帯を貼り付け，ユビオサエ，台部外面－ヘラ調整，内面－ナデ	砂粒(少)	良好	橙色	台部のみ完存
8	土師器 甕	－	－	やや小型，台部の器壁がうすい	外面－ハケ目調整	粘質	良	浅黄橙色	甕底部との接合部のみ完存
9	土師器 甕	底辺径 (6.7)		小型で底辺部へまっすぐひらく	台部内面－ナデ調整	砂粒	良	橙色	台部1/3
10	土師器 高杯	(17.7)	－	杯部はやや外面に彎曲してひらく	口縁部－ヨコナデ，杯底部外面－ヘラ調整，一部ヘラミガキ，内面－ヘラミガキ↕	砂粒(少)	良好	にぶい黄橙色	杯部1/5
11	土師器 器台	8.7	－	受部は外稜をつくって外にひらく。口縁部は平坦である。孔は3孔	口縁部－ナデ，受部外面－ハケ目調整のあとヘラミガキ↔，同内面－放射状のヘラミガキ，脚部外面－ヘラミガキ，同内面－ハケ目調整のあとすり消し	良好	良好	にぶい橙色	底辺部欠損，他は完形
12	土師器 器台	－	－	孔は4孔か？	脚部外面－ヘラミガキ朱彩，同内面－ヘラケズリ	砂礫 スコリア	良好	にぶい橙色	脚上部のみ完存

SI058

1	土師器 杯	(12.8)	－	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂礫 スコリア	軟弱	外面－橙色 内面－黒褐色	1/3
2	土師器 杯	(12.0)	－	素縁・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒(少) スコリア	良好	にぶい橙色	1/6
3	土師器 高杯	－	－	脚の胴部は棒状，やや外側にひらく	胴部－ヘラミガキ，裾部外面－ヘラミガキ，同内面－ハケ目調整	スコリア 砂粒	良好	浅黄橙色	脚の胴部のみ完存

SI059

1	土師器 甕	(21.4)	－	頸部は垂直に立ちあがり，口縁部はつよく外にひらく。端部は平坦	口縁部－ヨコナデ，胴部－ヘラ調整	砂粒 スコリア	普通	にぶい橙色	小片
2	土師器 甕	(12.4)	－	口縁部側に沈線がめぐる	口縁部－ハケ目調整のあとヨコナデ	砂礫	良好	浅黄橙色	口縁部1/2
3	土師器 杯	(12.3)	(3.2)	外稜・内傾口縁	底部内面－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	スコリア	良好	内面－黒色 外面－にぶい橙色	1/6
4	土師器 杯	14.3	4.5	素縁・内傾口縁	底部内面－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	良	橙色	3/4
5	土師器 杯	(11.0)	－	外稜・垂直口縁	底部内面－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	普通	橙色	1/6
6	須恵器 甑(?)	－	－	不明	ミズヒキ成形，肩部に波状櫛描文	砂粒	軟弱	灰白色	肩部の小片

SI060

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器 甕	(31.0)	−	頸部は垂直に立ち上がり口縁部はつよく外反する。端部は平坦	口縁部−ヨコナデ，胴部外面−ヘラケズリ，同内面−ヘラナデ	砂粒 スコリア	普通	浅黄橙色	口縁と底部のみ 1/4
2	土師器 甕	19.3	−	頸部は垂直に立ち上がる	口縁部−ヨコナデ，頸部内側に接合の痕がみられる	砂礫(多)	普通	にぶい橙色	1/2
3	土師器 壺	底部径 7.0	−	最大径 32.7cmをはかり，横に幅広い胴部を呈する	胴部内面−ヘラナデ	砂礫	良	橙色	胴部から底部 1/2
4	土師器 甕	底部径 8.0	−	胴部下半から底部にかけて安定した形を呈する	胴部外面−ヘラケズリ，胴部内面−ヘラナデ	スコリア	普通	にぶい橙色	胴部から底部完存
5	土師器 高杯	(18.6)	−	杯部はまっすぐに外にひらき，端部は平坦。底部に近い部分で外稜を形成する	口縁部−ヨコナデ，杯部内・外面−ヘラミガキ	粘質	良好	橙色	杯部のみ 1/3
6	土師器 高杯	底辺径 (14.0)		裾部はまっすぐにひらき，端部はやや外反する。	脚部外面−ヘラミガキ↓，底辺部−ヨコナデ，裾部内・外面−ヘラミガキ，脚部内面−ヘラケズリ	粘質	良好	橙色	脚部小片
7	土師器 高杯	−	−	脚部は棒状を呈し，内側の凹みは浅い	脚部外面−ヘラミガキ↕，脚部内面−ナデ，朱彩を施す	スコリア	良好	橙色	脚部(胴)のみ完存
8	土師器 高杯	−	−	脚部は棒状を呈し，ややふくらむ	脚部(胴)外面−ヘラミガキ↕，朱彩	粘質	良好	橙色	脚部(胴)のみ完存
9	土師器 高杯	−	−	脚部は棒状で下部はややふくらむ	脚部(胴)外面−ヘラミガキ，同内面−ヘラケズリ↔	スコリア	良好	にぶい橙色	脚部(胴)のみ完存
10	土師器 高杯	−	−	脚部は棒状でふくらむ	脚部(胴)外面−ヘラミガキ，同内面−ナデ	粘質	良好	橙色	脚部(胴)のみ完存
11	土師器 高杯	−	−	脚部は下方にひらく	脚部外面−ヘラミガキ↕，同内面上部−ナデ，下部−ハケ目調整	砂粒(少)	良好	橙色	杯との接合面で離脱，脚部(胴)のみ完存
12	土師器 甕	25.5	24.9	頸部の屈曲はほとんどなく胴部は外側にやや彎曲してすぼまる	口縁部−ヨコナデ，口縁部内面−朱彩，胴部外面−ヘラケズリ↓，同内面−ヘラミガキ〃	粘質	良好	にぶい橙色	1/2
13	土師器 甕	(27.6)	−	頸部の屈曲はほとんどなく胴部は外側にやや彎曲してすぼまる	口縁部−ヨコナデ，胴部外面−ヘラケズリ↕，同内面−ヘラミガキ〃	砂粒(少) スコリア	良好	橙色	口縁部から胴部 1/3
14	土師器 杯	13.1	4.8	外稜・垂直口縁	口縁部−ヨコナデ，内面−ヘラミガキ	良	良	明赤褐色	3/4
15	土師器 杯	(12.7)	(4.2)	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部−ヨコナデのあとヘラミガキ，底部外面−ヘラケズリ	粘質	良好	にぶい橙色	1/2
16	土師器 杯	(14.0)	(4.6)	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部−ヨコナデのあとヘラミガキ，底部外面−ヘラケズリ	砂粒	良好	灰褐色	1/4
17	土師器 杯	(12.6)	−	外稜・垂直口縁	口縁部−ヨコナデ，底部外面−ヘラケズリ，底部内面−放射状のヘラミガキ	粘質	良	にぶい橙色	1/4
18	土師器 杯	13.3	4.6	外稜・内傾口縁	口縁部−ヨコナデ，底部外面−ヘラケズリ，底部内面−ヘラミガキ	良	良好	赤褐色	3/4
19	土師器 杯	(13.2)	−	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部−ヨコナデ，底部外面−ヘラケズリ	粘質	良好	黒褐色	1/3
20	土師器 杯	14.8	4.5	素縁・外傾口縁	口縁部−ヨコナデ，底部外面−ヘラケズリ，底部内面−放射状のヘラミガキ	粘質	良好	にぶい橙色	1/2
21	土師器 杯	12.4	4.6	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部−ヨコナデ，底部外面−ヘラケズリ	良好	良好	にぶい褐色	4/5
22	土師器 杯	12.0	4.8	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部−ヨコナデ，底部外面−ヘラケズリ	スコリア	良好	黒色	完形，器面に光沢がある
23	土師器 杯	(11.0)	5.8	器壁が厚く，底部は安定し口縁部は短く内傾する	口縁部−ヨコナデ，内面−ヘラミガキ，体部外面−ヘラケズリ，底部外面−ヘラケズリを行っているが木の葉の圧痕が残っている	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	完形
24	土師器 (深鉢形)	(10.0)	16.8	コップ状を呈し，口縁はいびつであると考えられる	内側には輪積みの痕が顕著にのこる。ユビオサエの痕もみられる。底部内面はユビナデ。外面はハケ目調整	砂粒(多)	普通	橙色	完形
25	須恵器 杯(身)	(12.9)	4.8	外稜は鋭く，器壁はうすい。口縁部が内傾して立ち上がる	ミズヒキ成形，底部の 2/3 −回転ヘラケズリ調整	砂礫	良好	灰白色	1/2 底部外面に灰かぶりによる自然釉がみられる

SI061

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器 甕	(25.6)	−	口縁部は大きくひらき，内側に沈線がめぐり外側は段をつくる	回転ナデ調整	砂礫(少)	やや軟弱	灰色	2/3，カマドから出土しており，2次的に火をうけている。
2	須恵器 甕	−	−	頸部は「く」の字状に屈曲する	頸部－回転ナデ調整，胴部外面－叩き調整(平行叩き痕)	砂礫	普通	灰色	頸部から胴部1/4
3	須恵器 甕	−	−	ほぼまっすぐに底部にいたる	胴部上部外面－叩き調整(平行叩き痕) 同下部－ヘラケズリ→，内面－ナデ	砂礫	硬	灰色	胴部1/4
4	須恵器 杯	(14.3)	(4.0)	底部はひろく体・口縁部はまっすぐにひらく	ミズヒキ成形，底部外面－ヘラケズリ	砂礫	普通	灰黄色	1/6
5	須恵器 杯	14.1	−	体・口縁部がやや長い。底部からまっすぐにひらく	ミズヒキ成形，体部下端外面－回転ヘラケズリ	砂粒(少)	普通	灰白色	1/2 底部欠損

SI062

1	土師器 甕	0.8	−	頸部は内傾して立ち上がり口縁部はつよく外反する。最大径はかなり上位にあり底部にかけてかなりすぼまると考えられる	口縁部－ヨコナデ，胴部外面下部－ヘラミガキ，胴部内面－ヘラナデ，内側に輪積みの痕を残す	砂礫(少)	良好	にぶい橙色	3/4
2	土師器 甕	−	−	1よりもやや底部にかけてふくらむ形を呈すると考えられる	胴部外面下半－ヘラミガキ	砂礫(多)	良	にぶい橙色	胴部1/4，外面は黒色
3・4	土師器 甕	15.0	−	頸部はゆるやかに屈曲し，口縁部はつよく外反する。内側が凹面をなし，端部に沈線がめぐる	口縁部－ヨコナデ，胴部内面－ヘラナデ，胴部外面下部－ヘラミガキ	砂礫(多)	良好	橙色 内面－赤灰色	2/3，底部欠損
5	土師器 杯	(12.2)	(5.1)	外稜・垂直口縁，器高はやや深い	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	良好	外面－黒色 内面－浅黄橙色	1/6
6	土師器 杯	(13.0)	−	素縁・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良好	にぶい橙色	1/4
7	土師器 手捏ね土器	(8.0)	2.6	小皿形を呈する	ユビオサエ，ユビナデ調整	粘質	普通	浅黄橙色	1/3
8	土師器 手捏ね土器 杯	9.6	6.4	器壁は厚く，口縁部はかなりいびつである	内面－ヘラナデ，底部外面に木の葉圧痕を残す	砂礫 スコリア	良	にぶい橙色	1/4
9	須恵器 蓋	17.4	3.5	口縁部は内側にかえりがつき，天上部には扁平な擬宝珠状のつみを貼す	ミズヒキ成形，天井部2/3－回転ヘラケズリ，つまみをつけて回転ナデ調整	砂礫(多)	普通	灰黄色	完形
10	須恵器 蓋	16.6	−	内側にかえりがつく	ミズヒキ成形，天井部2/3－回転ヘラケズリ調整	砂礫	普通	灰白色	1/2
11	須恵器 杯	(15.0)	(4.0)	底部はひろく，体部はほぼまっすぐに外にひらく	ミズヒキ成形	砂礫(多)	普通	灰白色	1/3，底部欠損

SI063

1	土師器 甕	−	−	口縁部内外側は凹面をなす	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－あらいヘラミガキ	砂礫(多)	良好	橙色	小片
2	土師器 甕	(14.0)	−	口縁端部内側は凹面をなし外側に段をつくる。頸部はつよく屈曲する	口縁部－ヨコナデ，胴部内面－ヘラナデ	砂礫(多)	良好	橙色	口縁から胴部1/5
3	須恵器 甕	(33.0)	−	口縁部はつよく外にひらき内側は凹面，外側で段をつくる	回転ナデ調整，胴部外面－叩き調整(平行叩き痕)	砂粒(少)	普通	灰白色	口縁部1/2
4	須恵器 甕	−	−	底部は安定し，胴部はまっすぐにひらいて立ちあがる	胴部外面－叩き調整，同下端外面－ヘラケズリ↔	砂礫	軟弱	灰色	胴部から底部1/4
5	須恵器 杯	底部径 (6.8)	−		ミズヒキ成形，体部下端－回転ヘラケズリ	砂礫(多)	普通	灰白色	底部1/4
6	須恵器 皿	(15.4)	4.0	口縁部内側に沈線がめぐり端部はまるい	ミズヒキ成形，底部外面－回転ヘラケズリのあと高台を付け，回転ナデ調整	砂礫	普通	灰白色	1/2

SI064

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	内黒土師器 杯	13.8	3.9	底部はひろく，体・口縁部はやや外側に彎曲する	ミズヒキ成形，体・底部下端外面－ヘラケズリ，内面ヘラミガキ	砂粒	良	にぶい橙色	ほぼ完形，体部外面に墨書「仁万」
2	内黒土師器 杯	12.8	4.1	底部はひろく，体・口縁部はやや外側に彎曲する	ミズヒキ成形，体・底部下端外面－ヘラケズリ，内面ヘラミガキ	砂粒 スコリア	良	浅黄橙色	3/4，体部外面に墨書「仁万」
3	内黒土師器 杯	14.3	3.9	底部はひろく，体・口縁部はやや外側に彎曲する	ミズヒキ成形，体・底部下端外面－ヘラケズリ，内面ヘラミガキ	砂粒	やや軟弱	にぶい橙色	3/4，体部外面に墨書「仁万」
4	内黒土師器 皿	13.6	3.0	高台は高く，体部・口縁部がまっすぐにひらく	ミズヒキ成形，高台をつけて回転ナデ調整，内面－ヘラミガキ	砂粒(少)	良	にぶい橙色	1/2，体部外面に墨書「仁万」
5	内黒土師器 皿	14.2	2.8	体・口縁部がまっすぐひらく	ミズヒキ成形，底部－糸切り後ヘラケズリ，内面－ヘラミガキ	砂粒	普通	橙色	ほぼ完形，体部外面に墨書「仁万」
6	内黒土師器 皿	－	－	体・口縁部がまっすぐひらく	ミズヒキ成形，底部－糸切り後，回転ヘラケズリ，内面－ヘラミガキ，ロクロ方向↺	砂粒	良	浅黄橙色	底部から体部にかけて残体部外面に墨書「仁万」
7	内黒土師器 杯	(15.4)	－	体部・口縁部はやや外側に彎曲してひらく	ミズヒキ成形，体部下端外面－ヘラケズリ，内面－ヘラミガキ	砂粒(少)	良	浅黄橙色	口縁部1/6，体部外面に墨書「仁万」
8	内黒土師器 杯	(12.4)	(4.7)	体・口縁部はやや外側に彎曲してひらく	ミズヒキ成形，底部外面－ヘラケズリ，内面－ヘラミガキ	砂粒	良	にぶい黄橙色	1/2
9	内黒土師器 杯	(12.2)	(3.9)	体・口縁部はやや外側に彎曲してひらく	ミズヒキ成形，体部下端，底部外面－ヘラケズリ，内面－ヘラミガキ	砂粒 スコリア	良	浅黄橙色	1/3
10	土師器 杯	13.7	－	半球形を呈し，口縁端部に沈線がめぐる	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	良	橙色	口縁部完存
11	土師器 杯	底部径 5.8	－	体部はやや外側に彎曲する	ミズヒキ成形，体部下端，底部外面－ヘラケズリ，内面－ヘラミガキ	砂礫 スコリア	軟弱	橙色	1/3
12	須恵器 杯	底部径 (6.2)	－	体部はやや外側に彎曲する	ミズヒキ成形，体部下端，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	普通	灰白色	底部から体部1/4
13	灰釉陶器 長頸瓶	12.6	－	口縁端部の断面が三角形をなす	ミズヒキ成形，頸部で接合	砂礫(多)	堅緻	素地－灰白色	頸部から口縁部完存
14	須恵器 甕	底部径 (16.0)	－	底部が安定し，胴部はまっすぐに外にひらく	胴部外面－叩き調整(平行叩き痕) 胴部下端外面－ヘラケズリ	砂粒	普通	灰白色	底部から胴部1/3

SI065

1	土師器 甕	20.6	－	頸部は垂直に立ちあがり，口縁はつよく外にひらく	口縁部－ヨコナデ	砂粒 スコリア	良好	橙色	口縁から胴部1/2

SI066

1	土師器 甕	(20.8)	－	頸部は垂直に立ちあがり，口縁部は短く外にひらく。内側に凹面をなし外側で段をつくる	口縁部－ヨコナデ，胴部内面－ヘラナデ	砂粒(多)	良	浅黄橙色	口縁から胴部1/2
2	土師器 甕	底部径 (6.6)	－	底部はせまく，胴部はまっすぐに外にひらいて立ちあがる	胴部外面－ハケ目調整のあとヘラケズリ↕，同内面－ナデ	砂礫(多)	普通	浅黄橙色	底部から胴部1/3
3	須恵器 杯	13.9	4.6	体・口縁部はほぼまっすぐにひらく	ミズヒキ成形，体部下端外面－ヘラケズリ	砂礫	普通	灰褐色	完形
4	須恵器 杯	(13.0)	(3.9)	体・口縁部はほぼまっすぐにひらく	ミズヒキ成形，体部下端外面－ヘラケズリ	砂礫(多)	普通	灰色	1/2
5	須恵器 杯	12.7	4.1	体・口縁部はほぼまっすぐにひらく	ミズヒキ成形，体部下端外面－ヘラケズリ	砂礫	普通	灰黄色	3/4

SI067

1	土師器 甕	23.5	32.4	頸部は垂直に立ちあがり，口縁部は短く屈曲するため内側は凹面をなし，外側には沈線がめぐる	口縁部－ヨコナデ，胴部下部内面－ナデ，胴部外部下半－ヘラミガキ	砂礫	良好	にぶい橙色 底部付近－黒色	完形
2	土師器 甕	23.6	31.5	頸部は垂直に立ちあがり，口縁部は短く屈曲するため内側は凹面をなし，外側には沈線がめぐる	口縁部－ヨコナデ，胴部下部内面－ナデ，胴部外部下半－ヘラミガキ	砂礫(少)	良好	にぶい橙色	完形

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
3	土師器 甕	20.7	34.0	1，2ほど口縁部はひらかず，口縁部の屈曲も小さい	口縁部－ヨコナデ，胴部外面下半－ヘラミガキ	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	完形
4	土師器 甕	22.9	33.5	頸部はゆるやかに「く」の字状に屈曲し，口縁部内側は凹面をなす	口縁部－ヨコナデ，胴部外面下部－ヘラミガキ	砂礫(多)	良	にぶい橙色 外面－黒褐色	完形
5	土師器 甕	23.4	34.3	頸部は垂直に立ち上がり，口縁部はつよく外反する。外側に沈線がめぐる	口縁部－ヨコナデ，胴部外面下半－ヘラミガキ，胴部内側に輪積みの痕が伺える	砂礫	良好	橙色	完形
6	土師器 甕	(19.6)	－	頸部は垂直に立ち上がり，口縁部はつよく外反する。端部は平坦	口縁部－ヨコナデ	スコリア	良	にぶい橙色	口縁部 1/6
7	土師器 甕	底部径 7.8	－	器壁はやや厚い	胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラナデ	砂粒 スコリア	普通	にぶい橙色	底部のみ完存
8	土師器 甕	12.6	10.7	頸部はゆるやかに屈曲し，口縁部はつよく外反する。胴部は球形に近い	口縁部－ヨコナデ	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	完形
9	土師器 甕	(16.4)	23.2	頸部はゆるやかに屈曲し，胴部は杏仁形を呈する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラナデ	粘質	良	にぶい橙色	4/5
10	土師器 甕	13.0	－	頸部はやや内傾に立ち上がり，口縁部は短く，あまり外反しない	口縁部－ヨコナデの後内面はヘラミガキ，胴部外面－ヘラミガキ	粘質	良好	にぶい橙色	口縁部のみ完形
11	土師器 甕	11.1	14.0	頸部は垂直に立ち上がり，口縁部はあまりひらかない。肩部が鋭くはり，胴部は長く底部が安定した形を呈する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面・底部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	砂粒(少)	良	にぶい橙色	完形
12	土師器 甕	12.4	16.4	頸部は垂直に立ち上がり，口縁部はつよく外反する。胴部は外側にゆるやかに彎曲してやや長胴の形を呈する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，底部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	砂粒 スコリア	良好	橙色	完形
13	土師器 甕	16.9	17.8	頸部の屈曲はほとんどなく，口縁部はつよく外反する。全体に幅広の形を呈する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	砂礫(多)	普通	にぶい黄橙色	完形
14	土師器 甕（円窓土器）	15.2	22.6	頸部はやや内傾に立ち上がり，口縁部はつよく外反する。胴部はほぼ球形に近く，上部にタテ8.2，ヨコ10.3cmの孔を穿つ	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	粘質	良好	明赤褐色	完形
15	土師器 甑	29.0	－	頸部の屈曲はなく，口縁部は短く外反する。端部は平坦である	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↘，頸部内面－ヘラミガキ－，胴部内面－ヘラミガキ	砂粒(少)	良好	にぶい橙色	1/3，粘土のつぎ目で離脱
16	土師器 甑	29.8	(29.7)	頸部の屈曲はほとんどなく，口縁部はやや長めで外にひらく。胴部はやや外側に彎曲する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラナデ↕	砂粒(少)	軟弱	明褐灰色	7/8
17	土師器 甑	25.8	－	頸部の屈曲はほとんどなく，口縁部は短く外反する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↔，胴部内面－ヘラミガキ↕	砂礫 スコリア(多)	良好	橙色	口縁部 1/3
18	土師器 甑	(21.0)	(21.2)	頸部の屈曲はなく，口縁部は短く外反する。胴部はほぼまっすぐすぼまる	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラケズリのあとヘラミガキ	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	1/2
19	土師器 甑	22.8 ～ 26.8	26.8 ～ 25.6	頸部の屈曲はほとんどなく，口縁部は外反する。器高に比して口径が広く口縁はかなりゆがんで，上からみると楕円形を呈する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラ調整↕	砂粒	良	にぶい褐色	完形
20	土師器 甑	(25.8)	－	頸部の屈曲はほとんどなく，口縁部はつよく外反する。端部は平坦	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラ調整↕	砂粒 スコリア(少)	良好	橙色	口縁から胴部 1/4
21	土師器 甑	(25.4)	－	頸部の屈曲はなく，口縁部はゆるやかに外反する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラナデ	砂粒	良好	にぶい橙色	口縁部 1/3
22	土師器 杯	14.3	4.4	素縁・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	良好	外面－黒色 内面－ にぶい橙色	完形
23	土師器 杯	(15.0)	－	素縁・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	良好	オリーブ黒色	1/2

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
24	土師器 杯	12.8	5.0	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	良好	外面－黒色 内面－灰白色	7/8
25	土師器 杯	12.3	6.7	やや器高が深い	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－ヘラナデ	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	完形
26	土師器 手捏ね土器	6.0	4.0	杯形を呈する	内面から口縁部－ユビナデ，外面－未調整	スコリア	良好	にぶい橙色	1/2

SI068

1	土師器 甕	19.4	31.9	頸部はやや内傾に立ち上がり，接合のため肉厚である。口縁部はつよく外反し，端部には沈線がめぐる	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ，底部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	砂礫(多)	良好	外面－黒色 内面－にぶい橙色	完形
2	土師器 甕	14.7	16.1	口縁部は短く外反し，胴部・底部ともに幅広い	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	砂礫(多)	良	橙色	完形
3	土師器 甕	21.6	－	1に類する	口縁部－ヨコナデ	砂粒(少)	良好	橙色	口縁部 1/2
4	土師器 甑	23.9	24.7	頸部の屈曲はほとんどない。外側にはヨコナデによる稜線が二段にわたってめぐる。口縁部は短く，つよく外反し，端部は平坦である。胴部はやや外側に彎曲する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ，胴部内面－，底辺部－ヘラケズリ	砂礫 スコリア	良好	にぶい橙色	完形
5	土師器 杯	14.2	4.4	外稜・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	良好	良好	黒色	完形
6	土師器 杯	14.0	4.5	外稜・外傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状のヘラミガキ(暗文)	良好	良好	灰黄色	完形
7	土師器 杯	(13.2)	4.0	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒(少)	普通	外面－灰褐色 内面－橙色	1/2
8	土師器 杯	12.9	4.7	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良好	橙色	完形
9	土師器 杯	(13.0)	4.3	外稜・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	良	外面－黒色 内面－にぶい橙色	
10	土師器 杯	12.9	4.3	外稜・内傾口縁	口縁部－ヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状のヘラミガキ	砂粒	良好	にぶい橙色	3/4
11	土師器 杯	12.4	4.5	外稜・内傾口縁	口縁部－ヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状のヘラミガキ	良好	良好	外面－黒色 内面－にぶい橙色	完形
12	土師器 杯	12.6	4.1	外稜・内傾口縁	口縁部－ヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状のヘラミガキ	砂粒	良好	橙色	完形
13	土師器 杯	13.0	5.0	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	良好	良好	明褐色	完形
14	土師器 杯	(13.8)	4.7	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	普通	にぶい橙色	1/2
15	土師器 杯	13.2	4.0	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	良	良	外面－暗灰色 内面－橙色	2/3
16	土師器 杯	12.8	5.0	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良好	にぶい黄橙色	完形
17	土師器 杯	－	－	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	良好	良好	明褐色	底部のみ完存
18	土師器 杯	14.3	4.1	素縁・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	良好	良好	外表面－黒色 内部－明黄褐色	完形
19	土師器 杯	(15.2)	(3.4)	素縁・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	良好	良好	外面－暗褐色 内面－橙色	1/4

SI070

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器 甕	16.4	27.3	頸部は垂直に立ち上がり，口縁部はつよく外反する。胴部はやや長胴で，下ぶくれである。	口縁部－ヨコナデ，胴部外面上半－ナデ，胴部外面下半－ヘラケズリ	砂礫(多)	良好	にぶい橙色	完形
2	土師器 甑	29.0	28.6	頸部はほとんど屈曲しない。口縁部から底辺部にかけてV字状を呈する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラナデ↕	砂粒(少) スコリア	良	にぶい橙色	2/3
3	土師器 鉢	11.5	(11.5)	体部から口縁部の屈曲はほとんどない	口縁部－ヨコナデ，体部・底部内面－ヘラナデ，体部・底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	軟弱	内面－にぶい赤橙色 外面－暗赤灰色	1/2
4	須恵器 提瓶	10.2	－	口縁端部の断面が三角形を呈する	ミズビキ成形，口縁内部に自然釉がみられ，火ぶくれを生じている	砂粒	堅	灰色	口縁部 1/2

SI071

1	土師器 甕	(19.8)	－	頸部は垂直に立ち上がり，口縁は平坦にひらく。端部には沈線がめぐる	口縁部－ヨコナデ，頸部内面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	砂礫(多)	良	にぶい橙色	口縁から胴部 1/4
2	土師器 甕	(11.8)	13.2	頸部は短く「く」の字状に屈曲し，口縁部も短い	口縁部－ヨコナデ，胴部内面－ヘラナデ	良	良	橙色	3/4 残
3	土師器 甕	16.4	－	頸部が垂直に立ち上がり，口縁部はゆるく外反する	口縁部－ヨコナデ，胴部面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	良	普通	にぶい橙色	口縁から胴部 1/2
4	土師器 杯	14.4	4.9	底部は不安定，外反する。口縁部内側に沈線がめぐる	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒	良好	橙色	完形 口縁部の各所にススが付着
5	須恵器 杯	14.4	4.6	底部はやや不安定，体部から口縁部はまっすぐに外反する	ミズビキ成形，底部外面－回転ヘラケズリ	砂礫(多)	普通	灰白色	完形
6	須恵器 杯	(15.6)	4.7	底部はやや不安定，体部から口縁部はまっすぐに外反する	ミズビキ成形，底部外面－回転ヘラケズリ	砂粒	軟弱	灰白色	1/3

SI072

1	土師器 甕	24.0	(31.0)	口縁部は短く，内側は凹面をなし，断面は三角形を呈する。外側には段をつくる。器壁はうすい	口縁部－ヨコナデ，胴部外面下半－ヘラミガキ，胴部内面－ヘラナデ，底部－木の葉圧痕	砂礫	良好	にぶい橙色	1/2
2	土師器 甕	－	－	底部はひろく安定している	胴部外面－ヘラケズリ→，胴部内面－ヘラナデ	砂礫(多)	良	にぶい橙色	胴部から底部完存
3	須恵器 杯	11.6	3.7	底部はひろく，体部から口縁部にかけてほぼまっすぐに外反する	ミズビキ成形，底部外面－ヘラケズリ	砂礫	堅緻	灰色	ほぼ完形
4	須恵器 杯	15.5	6.3	底部と体部との境に段をつくる。体部から口縁部はほぼまっすぐである	ミズビキ成形，底部外面を回転ヘラケズリ調整したあと高台を貼り付け，回転ナデ調整。ロクロ方向↷	砂礫(多)	良	灰色	ほぼ完形
5	須恵器 甕	35.8	－	胴部はほぼまっすぐで口縁部は短く，つよく外反する。端部の断面は三角形を呈する	口縁部－回転ナデ調整，胴部－叩き調整したあと内面はナデ調整	砂礫	普通	黄灰色	口縁から胴部 1/2

SI073

1	土師器 甕	17.8	26.0	頸部はやや垂直に立ち上がり，口縁部はゆるく外反する。胴部はやや長胴である	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラミガキ↓，胴部内面－ヘラナデ，輪づみの痕が残る	砂礫(多)	良好	橙色	1/2 残
2	土師器 甕	13.9	19.2	口縁部は短く外反する	口縁部－ヨコナデ，胴部・底部外面－ヘラケズリ↙，胴部内面－ヘラナデ←	砂粒 スコリア	良好	橙色	ほぼ完形
3	土師器 鉢	15.4	13.0	最大径は口径にあり，頸部で短く屈曲してつよく外反する	口縁部－ヨコナデ，体部外面－ヘラケズリ↘，体部内面－ヘラナデ←，底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	良好	にぶい橙色	1/2

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
4	土師器 甕	25.0	24.7	底辺部からV字状にひろがり，頸部で外稜をつくり，つよく外反する。口縁端部は平坦である。	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面上部－ヘラナデ，胴部内面下部－ヘラミガキ	砂粒 スコリア	普通	にぶい橙色	ほぼ完形
5	土師器 甕	22.6	17.3	器高が低いほかは4と同類，口縁はゆがんでいる	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↔，胴部内面－ヘラナデ	砂粒(少) スコリア	良	にぶい黄橙色	ほぼ完形
6	土師器 杯	14.2	4.5	素縁・内傾口縁，端部内側でややくびれる	内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂礫	普通	表面－黒褐色 内部－にぶい橙色	ほぼ完形

SI074・075

1	土師器 甕	(20.6)	－	頸部は垂直に立ち上がり，口縁部は短く屈曲するため，内側が凹面をなし，外側で段をつくる。端部は平坦，胴部は球形に近い	口縁部－ハケ目調整のあとヨコナデ，胴部外面－ハケ目調整，胴部内面－ヘラナデのあとヘラミガキ	砂粒 スコリア	軟弱	橙色	1/6 底部欠損
2	土師器 甕	底部径 5.8	－	底部はせまく，胴部は球形を呈する	胴部外面－ヘラ調整	砂粒 スコリア	やや軟	外面－黒色 内面－橙色	胴部から底部にかけて完存
3	土師器 甕	－	－	SI067の大型甕に類すると考えられる	胴部外面下部－ヘラミガキ，胴部内面－ヘラナデ	砂礫(多)	良好	橙色	1/2
4	土師器 甕	底部径 (7.4)	－	底部はややせまく，胴部は外側に大きくひらく	胴部・底部外面－ヘラケズリ，胴部・底部内面－ヘラナデ	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色	小片
5	土師器 甕	(26.3)	(28.6)	頸部の屈曲はほとんどなく口縁部はつよく外反する。胴部は外側に彎曲する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↖	砂礫 スコリア	良好	橙色	3/4
6	土師器 甕	27.1	29.0	頸部の屈曲はほとんどなく，口縁部はつよく外反する。胴部は外側に彎曲する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラミガキ↖，中位に接合の痕が伺える	砂礫 スコリア	良好	にぶい橙色	完形
7	土師器 高杯	底辺径 12.1	－	脚部・胴部はやや短く，和泉系の形を呈する	外面－ヘラミガキ，底辺部から内面－ヨコナデ，内側にしぼり痕が伺える	スコリア	良好	橙色	杯底部から底辺部にかけて完存
8	土師器 高杯	－	－	脚部・胴部はやや短く，和泉系の形を呈する	杯底部内面，胴部外面－ヘラミガキ，内面－ヘラケズリ，内側にしぼり痕	スコリア	良好	浅黄橙色	脚・胴部のみ完存
9	土師器 杯	14.7	4.9	内稜・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，内面に朱彩	砂礫 スコリア	普通	橙色	3/4
10	土師器 杯	14.0	4.5	外稜・外傾口縁	底部内面－ヘラ調整，口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面から口縁部－朱彩	砂礫 スコリア	良好	橙色	完形
11	土師器 杯	(15.2)	4.6	外稜・外傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	スコリア	やや軟	にぶい橙色	1/2
12	土師器 杯	12.8	4.0	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	普通	にぶい橙色	3/4
13	土師器 杯	12.9	4.8	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	良	良	表面－灰褐色 内部－にぶい橙色	完形
14	土師器 杯	13.8	－	素縁(外稜)外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	良	表面－黒褐色 内部－浅黄橙色	1/2
15	土師器 杯	13.5	－	外稜・内傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部内面－放射状のヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	普通	橙色	1/3
16	土師器 鉢	18.9	9.4	最大径は口径にあり，外傾する口縁をもつ杯と共通点をもつ。器壁は厚い	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，体部外面－ヘラケズリ	砂礫 スコリア (少)	良	橙色	完形
17	土師器 鉢	11.1	9.3	口縁部は内傾し，体部は半球形を呈する	口縁部－ヨコナデ，内面－ヘラナデ，体部から底部外面－ヘラケズリ↓	砂礫 スコリア	良好	橙色	完形
18	土師器 杯	(10.0)	－	手捏ね土器に類する	内面から口縁部－ヨコナデ，体部外面－ヘラケズリ↓	砂粒 スコリア	やや軟	橙色	1/6 底部欠損
19	土師器 甕	(31.0)	－	頸部の屈曲はほとんどなく，口縁部は短く屈曲するため内側は凹面，端部には沈線がめぐる	口縁部－ヨコナデ	砂礫(多)	良	浅黄橙色	口縁部小片

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
20	須恵器 甕	底部径 (14.4)	－	底部はひろく，体部は外側にやや彎曲して立ち上がる	体部外面－平行叩き痕，体部下端外面－ヘラケズリ→，体部内面－同心円あて板痕	砂礫	普通	灰白色	底部のみ 1/4
21	須恵器 甕	－	－	底部はひろく，体部は外側にやや彎曲して立ち上がる	体部外面－同心円叩き痕，体部下端外面－ヘラケズリ，粘土の接合痕 ↔，体部内面－同心円あて板痕	砂礫(少)	普通	灰白色	底部に近い小片

SI076

1	土師器 壺	－	－	頸部はほぼ垂直に立ち上がる	調整は不明	砂粒 スコリア	やや軟弱	橙色	頸部のみ
2	土師器 甕	底辺径 (9.0)	－	甕底部との境はやや細く，ほぼまっすぐにひろがる	台部外面－ヘラミガキ，端部－ヨコナデ	砂粒	良	にぶい橙色	台部のみ 1/2

SI077

1	土師器 甕	18.2	－	頸部は鋭く「く」の字状に屈曲し，口縁部はつよく外反する。最大径は胴部中位やや下にある。	口縁部－ヨコナデ，胴部外面上部－ヘラナデ↘，胴部外面下部－ヘラケズリ ↔，胴部内面－ヘラナデ ←，内側には輪づみの痕	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色	口縁から胴部にかけて完存 口縁部外面，胴部外面にススが付着
2	土師器 甕	底部径 8.5	－	最大径は胴部中位やや下にある	胴部－ヘラミガキ，下端にはハケ目がわずかに残る。胴部内面－ヘラナデ ←，輪づみの痕，胴部下面－朱彩	砂粒(少)	良好	にぶい橙色	胴部から底部にかけて完存
3	土師器 甕	底部径 8.0	－	最大径は胴部中位やや下にある	胴部外面－ていねいなヘラミガキ↕，胴部内面－ヘラナデ ←	砂粒 スコリア	良好	橙色	底部から胴部 1/2
4	土師器 甕	(17.0)	－	頸部は垂直に立ち上がり，口縁はゆるく外反する。胴部は球形を呈する。口縁部には	口縁部内外－ハケ目調整，胴部外面－ハケ目調整，胴部内面－ヘラナデ，ヘラケズリ	砂粒 スコリア	良好	橙色	口縁部から胴部 2/3
5	土師器 甕	底部径 8.8		最大径は胴部中位	胴部外面－ヘラミガキ，下端にはわずかにハケ目調整が伺える。胴部内面－ヘラナデ←	砂粒 スコリア	良	橙色	底部から胴部 1/2
6	土師器 器台	底辺径 (9.6)	－	小片のため孔の数は不明	裾部内外－ハケ目調整か	良	良好	にぶい黄橙色	裾部のみ 1/4

SI078

1	土師器 甕	－	－	最大径は胴部中位にある	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ナデ	砂礫 スコリア	良	橙色	胴部 1/2
2	土師器 甕	(19.6)	－	頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁端部はやや平坦	口縁部－ヨコナデ	砂粒 スコリア	良好	明赤褐色	口縁部 1/4
3	土師器 甕	(16.0)	－	頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁端部はやや平坦	口縁部－ヨコナデ，胴部－ヘラケズリ↑	砂礫(少)	良好	にぶい橙色	小片
4	土師器 杯	12.2	5.5	外稜，やや内傾する口縁，口縁部はやや長めである	口縁部・内外面－ヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状ヘラミガキ	砂粒 スコリア	良好	表面－黒色 内部－浅黄橙色	完形

SI081

1	土師器 甕	(25.0)	－	口縁部内側に凹面をつくり，外側で段をつくる	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラミガキ，胴部内面－ヘラナデ	砂礫 スコリア	良好	浅黄橙色	口縁から胴部 1/4
2	土師器 甕	(16.0)	－	頸部外面で外稜をつくり，口縁部はゆるやかに外反する	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↓	スコリア	良	外面－黒色 内面－浅黄橙色	口縁部 1/4
3	土師器	6.3	2.4	椀を小型化した形	手捏ね，ユビナデ	粘質	良	橙色	2/3
4	須恵器 杯	(13.0)	4.2	底部から口縁部へまっすぐひらく	ミズビキ成形，体部下端・底部－ヘラケズリ	砂礫	普通	灰白色	1/2

SI082

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器 高杯	－	－	脚部は棒状を呈する	脚・胴部外面－ヘラミガキ，脚・胴部内面－ヘラナデ	粘質	良好	にぶい橙色	脚の胴部のみ完存
2	土師器 高杯	－	－	脚の胴部は短く，器壁は内厚，裾部との境いで内側に段をつくる	脚の胴部外面－ヘラミガキ，脚の胴部内面－ヘラケズリ	砂粒	良好	橙色	脚の胴部のみ完存
3	土師器 杯	(11.7)	－	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	良好	黒色	口縁部 1/4
4	土師器 杯	(12.2)	3.2	素縁・外傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	やや軟弱	表面－黒色 内部－にぶい橙色	1/2
5	土師器 杯	14.6	4.2	素縁・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂礫 スコリア	普通	橙色	1/2
6	土師器 杯	14.2	3.8	素縁・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	粘質	普通	表面－黒色 内部－浅黄橙色	2/3
7	土師器 杯	(14.6)	4.0	素縁・垂直口縁	口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ，底部内面－放射状のヘラミガキ	砂礫(少)	良	表面－黒色 内部－にぶい黄橙色	2/3

SI083

1	土師器 甕	27.8	26.1	底辺部からV字状にひらき，口縁部がつよく外反する。頸部の屈曲はない	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↕，胴部内面－ヘラミガキ↕	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色	ほぼ完形
2	土師器 高杯	－	－	脚の胴部は裾部へかけてひろがる	脚の胴部外面－ヘラミガキ↕，脚の胴部内面－ナデ	粘質	良好	橙色	脚の胴部のみ完存
3	土師器 高杯	－	－	脚の胴部は棒状を呈する	脚の胴部外面－ヘラミガキ，脚の胴部内面－ヘラケズリ，ヘラナデ	スコリア	良好	橙色	脚の胴部 1/2
4	土師器 杯	13.2	－	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂礫	良好	橙色	1/2
5	土師器 杯	13.4	4.5	素縁・垂直口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア(少)	良	内面－黒色 外面－にぶい橙色	完形
6	土師器 杯	13.2	4.6	外稜・内傾口縁	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	砂礫(少)	普通	にぶい橙色	完形
7	土師器 ミニチュア土器	(3.6)	4.8	甕形	口縁部内面－ハケ目↖，ユビオサエ	粘質	良好	浅黄橙色	1/2

SI085

1	土師器 甕	(11.4)	11.6	頸部はゆるやかに「く」の字状に屈曲し，口縁端部内側に沈線がめぐる	口縁部－ヨコナデ，胴部外面－ヘラケズリ↓，底部外面－ヘラケズリ，胴部内面－ヘラナデ	スコリア	良	橙色	1/2
2	須恵器 杯	14.1	4.4	底部から口縁部がまっすぐに外反する	ミズビキ成形，体部下端・底部外面－ヘラケズリ	砂礫	普通	灰褐色	3/4
3	須恵器 杯	13.6	4.5	底部から口縁部がまっすぐに外反する	ミズビキ成形，体部下端・底部外面－ヘラケズリ	砂礫(多)	普通	暗灰褐色	完形

SK053

	土師器 杯	12.9	4.7	底部がやや安定し，半球形を呈する	底部内面から口縁部－ヨコナデ，底部外面－ヘラケズリ	スコリア	良	橙色	完形

SK154

	土師器 杯	(14.0)	3.9	素縁・内傾口縁	口縁部－ヨコナデ，底部内面－ヘラミガキ，底部外面－ヘラケズリ	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色～黒色	1/2

SD002

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
	陶器 皿	14.4	4.2	口縁は輪花状，内面には花弁状の彫文を施す	ミズビキ成形，高台をつけたあと回転ナデ調整 底部内面に重ね焼の痕（トチン，ピン状のもの）	良	良	素地－明灰褐色 釉色－黄色	1/2，黄瀬戸

SH01

	瓦質土器 火舎	－	－	かなり大型，底部に彫刻した脚を三ケ所につけている	内面－ナデ	砂礫	良	表面－黒色 内部－灰褐色	底部から体部にかけて 1/3

SH02

	土師質土器 壺	(15.4)	21.1	底部は安定し，口縁部はやや垂直，内傾して立ち上がる。端部は平坦	口縁から肩部－ヨコナデ，胴部外面－タテに整形痕がある	砂粒	良	橙色	口縁は1部，他はほぼ完形

SB006

1	土師質土器 擂鉢	(29.2)	－	口縁部は平縁，体部はほぼまっすぐにすぼまる。体部内面に孔と「＋」のヘラガキがある	口縁端部－ヘラ切り，外面－ナデ	砂粒	良	橙色	口縁部 1/4
2	土師質土器 杯	(11.3)	3.8	底部は器壁はうすいが体部は肉厚である	底部内面から体部－ヨコナデ，底部外面－糸切り痕	砂粒	良好	表面－にぶい赤褐色	1/4
3	土師質土器 内耳土器	－	－	盆形を呈すると思われる	内面－ヨコナデ，外面－ていねいな調整はみられず，凹凸がある	砂粒	良	にぶい赤褐色	小片，外面にススが多量に付着している

SX001

1	土師質土器 内耳土器	29.6	8.5	擂鉢形を呈する。器高はやや高い	内耳はつくり出し	砂粒 スコリア(多)	普通	黄橙色	ほぼ完形，外面にスス
2	土師質土器 内耳土器	36.8	－	擂鉢形，内耳はやや扁平である	内耳はつくり出し	砂粒	普通	にぶい褐色	口縁部 1/6
3	土師質土器 内耳土器	(34.6)	6.1	盆形，口縁がかなり大きく外にひろがる	内耳はつくり出し	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色	1/3
4	土師質土器 内耳土器	(39.4)	6.2	盆形，口縁がかなり大きく外にひろがる	内耳はつくり出し	砂粒 スコリア	普通	にぶい橙色	1/4　内耳の右側に櫛描文
5	土師質土器 内耳土器	(36.8)	6.5	盆形，口縁がかなり大きく外にひろがる	内耳は貼り付け	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色	1/4
6	土師質土器 内耳土器	38.5	5.4	盆形，口縁がかなり大きく外にひろがる	内耳は貼り付け	砂礫	良好	淡橙色	2/3
7	土師質土器 鍋	(32.0)	－	器壁はかなりうすく，端部は平坦である。体部はやや外側に彎曲する	調整不明	砂粒	普通	橙色	口縁部 1/4
8	土師質土器 摺鉢	(25.2)	－	口縁端部は平縁，体部はやや内側に彎曲する。おろし目は不定方向に施されている	口縁部－ヨコナデ	砂粒	良	にぶい橙色	小片
9	土師質土器 摺鉢	(26.7)	－	口縁端部は平縁，体部はやや内側に彎曲する。おろし目はタテ方向に施されている	口縁部－ヨコナデ	砂粒 スコリア	良	にぶい橙色	口縁から体部 1/6
10	土師器 皿	7.0	2.3	底部に沈線がめぐる	ヨコナデ調整，底部外面に糸切り	粘質	良好	にぶい橙色	完形，口縁部にススが付着
12	土師器 皿	5.0	1.2	底部に沈線がめぐる	ヨコナデ調整，底部－糸切り	砂粒	良好	にぶい橙色	2/3
13	土師質土器 (鉢)	13.8	5.8	底部はひろく，体部はほぼまっすぐに立ち上がる。器壁は厚い	調整不明	砂粒	普通	橙色	1/3

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
13	瓦質土器 火舎	(5.2)	−	器壁は厚く，口縁部はつよく内側に傾く	調整不明	良	硬	灰色	1/2
14	瓦質土器 火舎	−	−	方形を呈すると思われる	外面に印花文	砂粒(少)	良	外面－暗灰色 内面－灰褐色	小片
15	瓦質土器 火舎	(21.4)	11.7	器壁は厚く，口縁部は内傾する	調整不明	スコリア	良	外面－黒色 内面－灰褐色	1/5
16	瓦質土器 火舎	(38.0)	−	口縁部内側に凸線がめぐる	外面に印花文	砂粒(少)	良	灰色	1/6 底部欠損

陶磁器類

1	陶器 皿	13.6	2.9	口縁部は輪花，内面は花弁風の彫文，底部内面には2圏線がめぐる	ミズビキ成形，底部－糸切り後回転ヘラケズリ，高台をつけて回転ナデ，釉は内面から外面底部付近までかかる。底部内面に窯道具による重ね焼痕	精良	良好	素地－白色(黄味) 釉色－黄色	1/4 黄瀬戸
2	陶器 皿	6.0	2.5	小皿形	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し，重ね焼痕	精良	良好	素地－白色 釉色－黄色	1/4 黄瀬戸
3	陶器 鉢	11.8	7.4	底部に3ケ所，脚をつける	ミズビキ成形，底部－回転ヘラケズリ，脚にはユビオサエの痕	砂礫	良好	素地－白色(黄味) 釉－鉄釉	1/2
4	陶器 鉢	11.0	6.8	底部に3ケ所，脚をつける	ミズビキ成形，底部－回転ヘラケズリ	精良	良好	素地－白色(黄味) 釉－鉄釉	1/3
5	陶器 椀	11.0	6.9	天目形，口縁部のくびれは明確でない	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し	砂礫(少)	良好	素地－白色(黄味) 釉－鉄釉	1/2
6	陶器 椀	12.0	7.6	天目形，口縁部のくびれはあまりなく，端部は外反する	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し	砂礫	良	素地－灰白色 釉－灰釉	2/3
7	陶器 椀	11.0	−	天目形，5と同形	ミズビキ成形	砂礫	良	素地－白色(赤味) 釉－鉄釉	1/2
8	陶器 皿	14.0	2.7	体部は内側に彎曲し，底部内面に2圏線がめぐる	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し	精良	良好	素地－白色 釉－灰釉	1/2 瀬戸
9	陶器 皿	12.2	2.7	体部は外側に彎曲する	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し，輪状に重ね焼痕	砂礫	良	素地－白色 釉－灰釉(厚)	3/4 瀬戸
10	陶器 皿	11.8	2.7	体部は内側にやや彎曲し，底部内面には沈線がめぐる	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し，三ケ所に窯道具による重ね焼痕	砂粒(少)	良好	素地－灰黄色 釉－灰釉	3/4 瀬戸
11	陶器 皿	13.7	2.5	体部は外側に彎曲する	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し，輪状に重ね焼痕	砂礫(少)	良好	素地－白色 釉－灰釉	1/2 瀬戸
12	陶器 皿	12.8	2.5	体部は外側に彎曲する	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し	精良	良好	素地－淡灰色 釉－灰釉	1/5 瀬戸
13	陶器 皿	12.7	2.6	体部は内側に彎曲する。端部は平坦	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し，三ケ所に窯道具による重ね焼痕	精良	良好	素地－白色 釉－灰釉	5/6 瀬戸
14	陶器 皿	−	−	小片のため不明	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し	精良	良好	素地－白色 釉－灰釉	底部のみ完存，瀬戸
15	陶器 皿	9.7	2.0	体部はほぼまっすぐに外反する	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し	精良	良好	素地－白色 釉－灰釉	1/3
16	陶器 皿	14.2	3.1	口縁部が屈曲して内側で段を形成する	ミズビキ成形，高台－貼り付け	精良	良好	素地－淡黄灰色 釉－灰釉系 文様－鉄釉	1/5
17	陶器 皿	12.1	3.0	口縁部が屈曲して内側で段を形成する	ミズビキ成形，高台－貼り付け	精良	良	素地－白色(黄味) 釉－灰釉系 内面底部は乳白色釉 文様－鉄釉	1/2

番号	遺物名	法量 口径	法量 器高	形態の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
18	陶器 皿	11.5	2.6	体部は内側に彎曲する	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し	精良	良好	素地－白色 (黄味) 釉色－白色 文様－鉄釉	1/2
19	陶器 皿	11.8	2.3	体部は内側に彎曲する	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し	精良	良好	素地－白色 (黄味) 釉色－白色 文様－淡緑色	5/6
20	陶器 皿	12.2	2.6	体部は内側に彎曲する	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し	精良	良好	素地－白色 (黄味) 釉色－白色 文様－淡緑色	1/2
21	磁器 皿	12.7	2.3	体部はやや外側に彎曲する	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し，貫入が入る。釉は厚くかかる	砂礫	普通	素地－白色 (黄味) 釉－白釉	1/2
22	磁器 皿	(14.6)	4.0	口縁部は波状を呈する。いわゆる壁皿	ミズビキ成形，高台－貼り付け，貫入が入る。釉は厚い。	砂粒(多)	良好	素地－白色 (赤味) 釉－白釉	1/3　美濃
23	陶器 鉢	－	－	体部は底部から大きくひろがり，口縁部はほぼ垂直に立ち上がる	ミズビキ成形，高台－ケズリ出し	砂礫	良	素地－灰白色 釉色－灰黄褐色	1/4
24	陶器 瓶	底辺径 (11.4)	－		ミズビキ成形，内側に接合痕	精良	良好	灰色 灰釉	台部のみ1/4，瀬戸
25	陶器 甕	－	－	折り返し口縁		砂礫	良好	にぶい褐色	小片，常滑